

# 2010 SYLLABUS



シラバス 授業計画

# シラバス（授業計画）について

この「シラバス（授業計画）」には、本学において開講される授業科目の個々の授業内容について、様々な情報が掲載されています。

科目の選択に際してはシラバスをよく読み、卒業までの履修計画をたてて下さい。大学で学習するための土台をかためるには、1年次の必修科目が特に大切になります。

また、高校までの勉強や受験勉強に比べて、大学での学習は、より一層の自主的かつ能動的な取り組みが必要です。

この「シラバス」を読んで、4年間の学習計画をたて、聖学院大学に入学して良かったと思えるような、充実した学生生活をお過ごし下さい。

わからないことについては、先生方や教務課職員に遠慮なく相談して下さい。

## 2つのシラバス ～Webと冊子～

聖学院大学ではWeb（大学ホームページ<http://www.seigakuin.jp/>で公開）と冊子、2種類の形態でシラバスを配布しています。

Webシラバスは講義の目標及び概容、授業計画（Webシラバスのみ掲載）、評価方法、受講者に対する要望等（Webシラバスのみ掲載）、教科書を掲載しています。ホームページから科目名や教員名で検索でき、閲覧したい講義のシラバスを容易に見つけることができます。冊子のシラバスは、Webシラバスの一部（講義の目標及び概容、評価方法、教科書）を掲載し、補助的な役割で使用します。色々な科目を比較しながら読むのに便利です。

興味のある科目を見つけるには冊子のシラバス、その科目の詳細を知りたい場合はWebのシラバス、といった形で使い分けて下さい。

# シラバス（授業計画）の利用にあたって

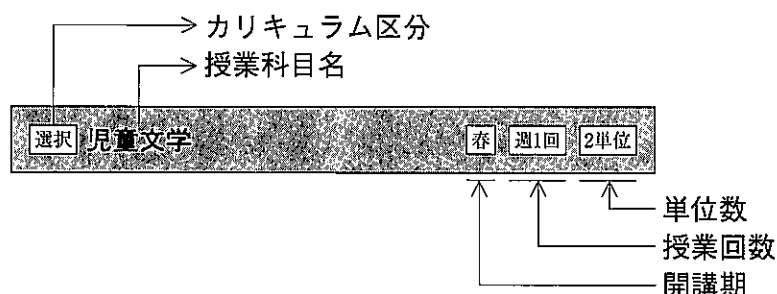
## I 「シラバス（授業計画）」の構成について

1. 基礎科目
2. 教養科目・総合科目
3. 政治経済学部政治経済学科専門科目
4. 政治経済学部コミュニティ政策学科専門科目
5. 人文学部欧米文化学科専門科目
6. 人文学部日本文化学科専門科目
7. 人間福祉学部児童学科専門科目
8. 人間福祉学部人間福祉学科専門科目
9. 教職関連科目
10. 図書館情報学関連科目
11. 社会教育主事関連科目

## II 授業科目の掲載について

1. 2010年度（春学期・秋学期）に開講される授業科目は、すべて掲載しています。学生要覧の履修要項に掲載した科目表と合わせて見るようにできています。
2. 科目によっては、複数の担当者がいます。各担当者によって授業概要について相違がありますので、必ず各自の授業担当者を時間割で確認して参照するようにして下さい。
3. 各入学年度のカリキュラムにより、科目の中には総合科目として取り扱われる場合と専門科目として取り扱われる場合がありますので注意して下さい。詳細は、学生要覧で確認して下さい。

## III 掲載項目について



カリキュラム区分：必修、選択、選必、資格、教職（選必は選択必修の略です）

授業科目名：授業科目の名称を記載しています。

開講期：春 春学期（4月～8月）、秋 秋学期（9月～3月）、通年 通年（4月～3月）  
春集中 春学期での集中講義、秋集中 秋学期での集中講義

授業回数：週あたりの授業回数

単位数：科目の単位数

担当者：科目の担当教員名を記載しています。

講義の目標及び概要：授業の目標や概要等を記載しています。

評価方法：どのような方法により成績評価されるのかを記載しています。

教 科 書：授業で使用するテキストを記載しています。

#### IV 「シラバス（授業計画）」の利用について

各担当教員は、「シラバス」に示された計画にしたがって授業をすすめていきますので、学生諸君は、授業の履修に先だって、「シラバス」をよく読むことにより、授業のねらいや内容を把握できます。また、予習や復習はもちろんのこと、科目の選択履修に際しても、「シラバス」をおおいに活用し、学習の一層の活性化を図ることを期待します。



# 目次

## I 基礎科目

キリスト教概論A	相澤 一	17
キリスト教概論A	菊地 順	17
キリスト教概論A	久保島理恵	17
キリスト教概論A	左近 豊	17
キリスト教概論A	佐野正子	18
キリスト教概論A	藤原淳賀	18
キリスト教概論A	柳田洋夫	18
キリスト教概論A	石田 学	18
キリスト教概論A	山ノ下恭二	19
キリスト教概論B	相澤 一	19
キリスト教概論B	石田 学	19
キリスト教概論B	菊地 順	19
キリスト教概論B	久保島理恵	20
キリスト教概論B	左近 豊	20
キリスト教概論B	佐野正子	20
キリスト教概論B	藤原淳賀	20
キリスト教概論B	柳田洋夫	21
キリスト教概論B	山ノ下恭二	21
基礎教育入門(書き方)		
.....小林茂之/副田恵/中島佐和子/松村良		21
基礎教育入門(書き方)	上嶋康道	21
基礎教育入門(書き方)	新井尚子	22
基礎教育入門(書き方)	吉田 憲一	22
基礎教育入門(留学生用書き方)	中島佐和子	22
基礎教育入門(留学生用書き方)	北村 淳子	22
基礎教育入門(留学生用書き方)	鈴木孝恵	23
基礎教育入門(話し方)		
.....秋山隆/村田昭/寺田道雄/岡部晃彦		23
情報リテラシー	国分道雄	23
基礎教育入門(コンピュータ基礎)A		
.....国分道雄		23
基礎教育入門(コンピュータ基礎)B		
.....国分道雄		24
コンピュータ応用講座A	二神常爾	24
コンピュータ応用講座B	鈴木省吾	24
ITパスポート講座	国分道雄	24
書き方表現応用講座	高桑佳與子	25
書き方表現応用講座	松村 良	25
話し方表現応用講座	川野 一字	25
ECA(Speaking) I		25
.....L. フラムソン/K. ヒル/C. ギブソン/D. ガン		
.....J. パーン/L. アーノルド/C. カール		
ECA(Speaking) II		26
.....M. サベット/C. ギブソン/L. アーノルド		
.....L. フラムソン/D. ガン/K. ヒル/J. パーン		
.....C. カール		
ECA(Cinema) I		26
.....チェンバレン暁子/島田洋子/能町和子/鈴木仁		
.....K. ヒル/L. フラムソン/メイスみよ子		
ECA(Cinema) II		26
.....長崎睦子/チェンバレン暁子/島田洋子/能町和子		
.....鈴木仁		
ECA(Reading) I		26
.....チェンバレン暁子/島田洋子/森容子/鈴木仁		
.....D. ガン/メイスみよ子/印田佐知子		
ECA(Reading) II		27
.....チェンバレン暁子/島田洋子/森容子/鈴木仁		
.....能町和子/メイスみよ子		
ECA(Survival English) Level A		
.....C. カール/C. ギブソン		27

ECA(Survival English) Level B		
.....L. フラムソン/D. ガン		27
ECA(Survival English)	K. ヒル	27
ECA(Test English) A [Level A]		
.....島田洋子/チェンバレン暁子/メイスみよ子		28
ECA(Test English) A [Level B]		
.....島田洋子/鈴木仁/能町和子		28
ECA(Test English) B [Level A]		
.....チェンバレン暁子		28
ECA(Test English) B [Level B]		
.....鈴木仁/能町和子		28
ECA(English Through Songs) A	D. ガン	29
ECA(English Through Songs) B	K. ヒル	29
ECA(English Through Songs) B	D. ガン	29
ECA(Communication) I [Level A]		
.....C. ギブソン		29
ECA(Communication) I [Level B]		
.....D. ガン		30
ECA(Communication) I [Level C]		
.....K. ヒル		30
ECA(Communication) I	J. パーン	30
ECA(Communication) II [Level A]		
.....C. ギブソン		30
ECA(Communication) II [Level B]		
.....K. ヒル		31
ECA(Communication) II [Level C]		
.....J. パーン		31
ECA(Communication) II	J. パーン	31
ECA(Communication) I [Super A]		
.....K. O. アンダスン		31
ECA(Communication) II [Super A]		
.....K. O. アンダスン		32
ECA(Cinema) III	島田洋子	32
ECA(Cinema) III	長崎睦子	32
ECA(Cinema) III	メイスみよ子	32
ECA(Reading Current Topics) I A		
.....チェンバレン暁子		33
ECA(Reading Current Topics) I B		
.....能町和子		33
ECA(Reading Current Topics) I S		
.....メイスみよ子		33
ECA(Reading Current Topics) II A		
.....チェンバレン暁子		33
ECA(Reading Current Topics) II B		
.....島田洋子		34
ECA(Reading Current Topics) II S		
.....メイスみよ子		34
ECA(Presentation English)	D. バーガー	34
ECA(Pleasure Reading) A	印田佐知子	34
ECA(Pleasure Reading) B	印田佐知子	35
ECA(Business) I	チェンバレン暁子	35
ECA(Business) II	チェンバレン暁子	35
英語入門(留学生用) I	尤ブンキ	35
英語入門(留学生用) II	尤ブンキ	36
ドイツ語 I (初級A)	小谷哲夫	36
ドイツ語 I (初級A)	清水威能子	36
ドイツ語 I (初級A)	原 一子	36
ドイツ語 I (初級A)	宮崎泰行	37
ドイツ語 II (初級B)	小谷哲夫	37
ドイツ語 II (初級B)	清水威能子	37
ドイツ語 II (初級B)	宮崎泰行	37
ドイツ語 III (中級A)	小谷哲夫	38
ドイツ語 III (中級A)	清水威能子	38

ドイツ語Ⅲ(中級A).....宮崎泰行	38	健康・体力づくり実習B.....神田良太郎	53
フランス語Ⅰ(初級A)		健康・体力づくり実習B.....樹森大介	53
.....石田明夫/小室廉太/本田貴久	38	健康・体力づくり実習B.....鈴木由美	53
フランス語Ⅰ(初級A)(欧米優先)		健康・体力づくり実習B.....関一誠	53
.....石田明夫/小室廉太/本田貴久	39	生涯スポーツ実習A.....安部久貴	54
フランス語Ⅱ(初級B).....小室廉太/本田貴久	39	生涯スポーツ実習A.....梅津迪子	54
フランス語Ⅱ(初級B)(欧米優先)		生涯スポーツ実習A.....太田涼	54
.....石田明夫/小室廉太/本田貴久	39	生涯スポーツ実習A.....樹森大介	54
フランス語Ⅲ(中級A).....石田明夫/本田貴久	39	生涯スポーツ実習A.....鈴木由美	55
スペイン語Ⅰ(初級A).....越智直子	40	生涯スポーツ実習A.....鈴木由美	55
スペイン語Ⅱ(初級B).....越智直子	40	生涯スポーツ実習A.....関一誠	55
中国語Ⅰ(初級A).....閻子謙	40	生涯スポーツ実習B.....安部久貴	55
中国語Ⅰ(初級A).....福田素子	40	生涯スポーツ実習B.....梅津迪子	56
中国語Ⅰ(初級A).....新田小雨子	41	生涯スポーツ実習B.....太田涼	56
中国語Ⅱ(初級B).....閻子謙	41	生涯スポーツ実習B.....樹森大介	56
中国語Ⅱ(初級B).....福田素子	41	生涯スポーツ実習B.....鈴木由美	56
中国語Ⅱ(初級B).....新田小雨子	41	生涯スポーツ実習B.....関一誠	57
韓国語Ⅰ(初級A).....北原スマ子	42	生涯スポーツ実習B.....鈴木由美	57
韓国語Ⅰ(初級A).....金智賢	42	聖書の世界A.....左近豊	57
韓国語Ⅰ(初級A).....溝口カブスン	42	聖書の世界B.....左近豊	57
韓国語Ⅱ(初級B).....北原スマ子	42	神と人間A.....相澤一	58
韓国語Ⅱ(初級B).....金智賢	43	神と人間B.....相澤一	58
韓国語Ⅱ(初級B).....溝口カブスン	43	イングリッシュ・バイブルA	
日本語1(文法)A.....黒崎佐仁子/清水まさ子	43	.....E. D. オズバーン	58
日本語1(文法)B.....川口さち子/清水まさ子	43	イングリッシュ・バイブルB	
日本語1(総合)A.....内藤みち	44	.....E. D. オズバーン	58
日本語1(総合)B.....内藤みち	44	キリスト教と物語.....藤原淳賀	59
日本語1(調査・発表)A		日本キリスト教史A.....柳田洋夫	59
.....中川千恵子/太田ミュキ	44	日本キリスト教史B.....柳田洋夫	59
日本語1(調査・発表)B		キリスト教と人権.....阿久戸光晴	59
.....中川千恵子/太田ミュキ	44	キリスト教と歴史形成A.....石田学	60
日本語1(文章表現)A.....和泉司/太田ミュキ	45	キリスト教と歴史形成B.....石田学	60
日本語1(文章表現)B.....太田ミュキ/黒崎佐仁子	45	近代社会とピューリタニズムA.....松谷好明	60
日本語2(文法)A.....和泉司/太田ミュキ	45	近代社会とピューリタニズムB.....松谷好明	60
日本語2(文法)B.....太田ミュキ/黒崎佐仁子	45	キリスト教と政治思想A.....川添美央子	61
日本語2(総合)A.....船山久美/黒崎佐仁子	46	キリスト教と政治思想B.....川添美央子	61
日本語2(総合)B.....船山久美/黒崎佐仁子	46	キリスト教と社会科学.....松原望	61
日本語2(調査・発表)A		キリスト教と法.....加藤恵司	61
.....富田美知子/鈴木孝恵	46	キリスト教と国際社会A.....早藤昌浩	62
日本語2(調査・発表)B		キリスト教と日本社会A.....柳田洋夫	62
.....富田美知子/鈴木孝恵	46	キリスト教と日本宗教.....濱田辰雄	62
日本語2(文章表現)A.....内藤みち/木原郁子	47	キリスト教と日本思想.....濱田辰雄	62
日本語2(文章表現)B.....内藤みち/木原郁子	47	キリスト教と倫理的諸問題A.....小倉義明	63
日本語2(音声表現理解)A		キリスト教と倫理的諸問題B.....深井智朗	63
.....船山久美/清水まさ子	47	キリスト教信仰と文化.....藤原淳賀	63
日本語2(音声表現理解)B		キリスト教とアメリカ思想A.....高橋義文	63
.....船山久美/清水まさ子	47	キリスト教とアメリカ思想B.....高橋義文	64
日本語3(総合)A.....木原郁子	48	キリスト教とアメリカ文化A.....森田美千代	64
日本語3(総合)B.....木原郁子	48	キリスト教とアメリカ文化B.....森田美千代	64
日本語3(調査・発表)A.....和泉司	48	キリスト教とアジア文化A.....高萬松	64
日本語3(調査・発表)B.....和泉司	48	キリスト教とアジア文化B.....高萬松	65
日本語で学ぶ(日本の社会).....鈴木孝恵	49	キリスト教と文学A.....黒木章	65
日本語で学ぶ(日本の政治制度).....和泉司	49	キリスト教と文学B.....黒木章	65
日本語で学ぶ(日本の文化).....鈴木孝恵	49	キリスト教と古典.....小倉義明	65
日本語で学ぶ(日本の経済・産業).....清水まさ子	49	聖書の中の環境問題.....村上公久	66
日本語で学ぶ(日本の歴史).....清水まさ子	50	キリスト教と音楽A.....渡辺善忠	66
応用日本語(待遇表現).....木原郁子	50	キリスト教と音楽B.....渡辺善忠	66
健康・体力づくり実習A.....安部久貴	50	キリスト教音楽史A.....渡辺善忠	66
健康・体力づくり実習A.....梅津迪子	50	キリスト教音楽史B.....渡辺善忠	67
健康・体力づくり実習A.....太田涼	51	キリスト教と美術A.....喜田敬	67
健康・体力づくり実習A.....神田良太郎	51	キリスト教と美術B.....喜田敬	67
健康・体力づくり実習A.....樹森大介	51	キリスト教と建築A.....香山壽夫	68
健康・体力づくり実習A.....鈴木由美	51	キリスト教と建築B.....香山壽夫	68
健康・体力づくり実習A.....関一誠	51	キリスト教と児童福祉の実際A.....菅原哲男	68
健康・体力づくり実習B.....安部久貴	52	キリスト教と児童福祉の実際B.....菅原哲男	68
健康・体力づくり実習B.....梅津迪子	52	キリスト教と高齢者福祉の実際A.....児島康夫	68
健康・体力づくり実習B.....太田涼	52	キリスト教と高齢者福祉の実際B.....児島康夫	69

キリスト教カウンセリング論	藤掛 明	69
キリスト教と心のケア	村上 純子	69
日本国憲法	徳永 貴志	69
日本国憲法	松村 芳明	70
日本国憲法(木曜3限)	武藤 健一	70
日本国憲法(木曜4限)	武藤 健一	70
日本国憲法	武藤 健一	70
アメリカ文化演習A	E. D. オズバーン	71
オーストラリア文化演習B	E. D. オズバーン	71
カナダ文化演習	E. D. オズバーン	71

## 2 教養科目・総合科目

政治学	小畑俊太郎	75
政治学	川添美央子	75
政治学	谷口隆一郎	75
政治学	松尾 秀哉	75
政治学	森 達也	76
政治学	森田 浩之	76
政治学	森分大輔	76
経済学	天羽正継	76
経済学	石部公男	77
経済学	大森 遼也	77
経済学	佐藤 滋	77
経済学	鈴木真実哉	77
経済学	正上 常雄	78
経済学	水上 啓吾	78
経済学	由川 稔	78
社会学	阿部英之助	78
社会学	鄭 鎬碩	79
社会学(春)	横山寿世理	79
社会学(秋)	横山寿世理	79
社会学	渡會知子	80
環境学	村上公久	80
法学	石川裕一郎	80
法学	奥貫 妃文	80
法学	加藤 恵司	81
法学	徳永 貴志	81
法学	皆川 誠	81
法学	宮澤 弘	81
法学	渡辺 英人	82
欧米文学	桑田 光平	82
欧米文学	三宅美千代	82
哲学	高橋 章仁	82
哲学	高橋 章仁	83
哲学	小林 剛介	83
哲学	佐藤 啓介	83
西洋史	田中史高	83
西洋史	森 斉文	84
西洋史	山本信太郎	84
西洋史	和田 光司	84
日本史	阿部 浩一	84
日本史	山田 康弘	85
言語学	田川 拓海	85
文学	上宇都ゆりほ	85
文学	中島佐和子	85
日本思想	清水 正之	86
演奏形式とその音楽	藤田 明	86
児童教育学	永井理恵子	86
西洋芸術の源流	喜田 敬	86
西洋芸術の源流	四十九院仁子	87
心理学概論	林潤 一郎	87
生命の科学	近藤 雅雄	87
生理心理学—心と身体の科学—	小川 時洋	87
福祉環境学	山田 義文	88
経済学研究	柴田 武男	88
地球環境論研究	村上 公久	88

まちづくり論研究	平 修久	88
リスク科学論研究	標 宣男	89
欧米文化学特論	有賀 貞	89
日本思想文化研究	清水 正之	89
児童学研究	田澤 薫	89
高齢者保健福祉特論	古谷野 亘	90
障害者福祉特論	増田 公香	90
発達心理学研究	池 弘子	90
人間福祉学研究	古谷野 亘	90

## 3 政治経済学部政治経済学科専門科目

政治学	松尾 秀哉	93
政治学	松尾 秀哉	93
政治学	森分大輔	93
政治学	小畑俊太郎	93
政治学	森 達也	94
政治学	吉田 博司	94
経済学	由川 稔	94
経済学	佐藤 滋	94
経済学	正上 常雄	95
経済学	水上 啓吾	95
経済学	天羽正継	95
法学	加藤 恵司	95
法学	石川裕一郎	96
法学	奥貫 妃文	96
法学	皆川 誠	96
法学	宮澤 弘	96
社会学	阿部英之助	97
社会学(春)	横山寿世理	97
社会学(秋)	横山寿世理	97
社会学	鄭 鎬碩	97
社会学	田中俊之	98
社会学	渡會知子	98
キリスト教社会倫理A	相澤 一	98
キリスト教社会倫理B	相澤 一	98
環境学	村上公久	99
キャリアデザインA	萬年山 啓	99
キャリアデザインB	萬年山 啓	99
Civilization & Environment	村上公久	99
環境保全論	村上公久	100
行政学	佐々木一如	100
公共政策論	大藪 俊志	100
国際政治史	中村 文子	100
国際政治論	秋吉 祐子	101
国際地域開発論	飯島 康夫	101
現代政治理論	森 達也	101
政治過程論	高橋 愛子	101
地域圏研究(ロシア・東欧)	飯島 康夫	102
地域圏研究(アジアA)	秋吉 祐子	102
地域圏研究(アジアB)	小田川 興	102
日本政治史	吉田 博司	102
日本政治思想史	吉田 博司	103
比較政治学	松尾 秀哉	103
平和学	小松崎利明	103
都市化の地理学	飯島 康夫	103
EU法	倉西 雅子	104
環境法	仲田 孝仁	104
行政法	仲田 孝仁	104
法哲学	伊藤 泰	104
憲法(人権)	石川裕一郎	105
憲法(統治)	松村 芳明	105
国際人権・人道法	小松崎利明	105
国際法	山村 恒雄	105
法学特論(ジェンダー法)	武藤 健一	106
法思想史	加藤 恵司	106
民法A(総則・物権)	松谷 秀祐	106
民法B(債権)	松谷 秀祐	106

民法C(親族・相続).....	加藤 恵司	107
Japanese Economy Today.....	大森 達也	107
金融市場論A.....	柴田 武男	107
金融市場論B.....	柴田 武男	107
金融論.....	鈴木 真実哉	108
経済学史.....	鈴木 真実哉	108
経済政策.....	中野 宏	108
公的扶助論.....	榊 伴夫	108
国際金融論.....	柴田 武男	109
財政学.....	佐藤 滋	109
社会経済論.....	正上 常雄	109
社会保障論.....	田中 聡一郎	109
地域経済論.....	瀬名 浩一	110
中小企業論A.....	砂川 和彦	110
中小企業論B.....	砂川 和彦	110
日本経済論.....	大森 達也	110
マクロ経済学.....	石部 公男	111
ミクロ経済学.....	中野 宏	111
労働経済論.....	金子 良事	111
オペレーションズ・マネジメント.....	柴田 武男	111
会計学.....	成川 正晃	112
経営学.....	清澤 達夫	112
経営学.....	酒井 祐太郎	112
経営システム.....	後藤 兼一	112
経営情報.....	後藤 兼一	113
経営倫理.....	後藤 兼一	113
国際ビジネスの現場A.....	柴田 武男	113
国際ビジネスの現場B.....	柴田 武男	113
組織行動論.....	小林 一之	114
簿記.....	澤村 孝夫	114
簿記.....	山田 ひとみ	114
マーケティング論.....	T. アサモア	114
経営史.....	金子 毅	115
マネジメント.....	後藤 兼一	115
アイデンティティの社会学.....	横山 寿世理	115
異文化間コミュニケーション.....	小松崎 利明	115
現代社会論.....	新倉 貴仁	116
ジェンダー論(女性学).....	田中 俊之	116
社会思想.....	佐藤 貴史	116
社会調査法.....	古谷 野亘	116
文化社会学.....	田中 佳	117
世界の諸宗教の歴史と思想.....	相澤 一	117
理論社会学.....	土方 透	117
インターンシップI(事前学習).....	柴田 武男	117
インターンシップII(実習).....	柴田 武男	118
秘書学概論.....	森 久子	118
政治経済学特講(西洋政治思想講読A).....	高橋 愛子	118
政治経済学特講(国際政治論原典講読).....	秋吉 祐子	118
政治経済学特論A(20世紀の法文化).....	石川 裕一郎	119
政治経済学特論A(自然を体験するA).....	秋吉 祐子	119
政治経済学特論A(自然を体験するB).....	秋吉 祐子	119
政治経済学特論A(コミュニケーションメディア制作).....	上田 信一郎	119
政治経済学特論A(日本の裁判を考える).....	石川 裕一郎	120
政治経済学特論A(財政学の探求).....	水上 啓吾	120
政治経済学特論A(生と性の憲法学).....	石川 裕一郎	120
政治経済学特論A(生命の比較政治学).....	松尾 秀哉	120
政治経済学特論A(生命と政治).....	森分 大輔	121

政治経済学特論B(企業経営を考える).....	金子 毅	121
政治経済学特論B(経営学の可能性).....	金子 毅	121
自然地理学概説.....	秋山 秀一	121
人文地理学概説.....	飯島 康夫	122
西洋史概説A.....	山本 信太郎	122
西洋史概説B.....	山本 信太郎	122
地誌学概説A.....	秋山 秀一	122
地誌学概説B.....	秋山 秀一	123
哲学概論.....	大賀 祐樹	123
東洋史概説A.....	赤坂 恒明	123
東洋史概説B.....	赤坂 恒明	123
日本史概説A.....	上安 祥子	124
日本史概説B.....	川崎 司	124
日本文化史.....	渡辺 正人	124
倫理学概論.....	谷口 隆一郎	124
予備演習.....	新井 尚子	125
専門演習(アイデンティティの社会学).....	横山 寿世理	125
専門演習(環境保全論).....	村上 公久	125
専門演習(キリスト教社会倫理).....	相澤 一	125
専門演習(金融市場論).....	柴田 武男	126
専門演習(経営管理).....	後藤 兼一	126
専門演習(国際政治論).....	秋吉 祐子	126
専門演習(政治過程論).....	高橋 愛子	126
専門演習(地域圏研究ロシア).....	飯島 康夫	127
専門演習(日本政治思想史).....	吉田 博司	127
専門演習(比較憲法).....	石川 裕一郎	127
専門演習(比較政治学).....	松尾 秀哉	127
専門演習(法思想史).....	加藤 恵司	128
専門演習(理論社会学).....	土方 透	128
卒業研究(アイデンティティの社会学).....	横山 寿世理	128
卒業研究(アイデンティティの社会学).....	横山 寿世理	128
卒業研究(環境保全論).....	村上 公久	129
卒業研究(キリスト教社会倫理).....	相澤 一	129
卒業研究(金融市場論).....	柴田 武男	129
卒業研究(経営管理).....	後藤 兼一	129
卒業研究(国際政治論).....	秋吉 祐子	130
卒業研究(政治過程論).....	森分 大輔	130
卒業研究(地域圏研究ロシア).....	飯島 康夫	130
卒業研究(日本政治思想史).....	吉田 博司	130
卒業研究(比較憲法).....	石川 裕一郎	131
卒業研究(比較政治学).....	松尾 秀哉	131
卒業研究(法思想史).....	加藤 恵司	131
卒業研究(理論社会学).....	土方 透	131

#### 1 政治経済学部コミュニティ政策学科専門科目

キリスト教社会倫理A.....	佐野 正子	135
キリスト教社会倫理B.....	佐野 正子	135
法学.....	渡辺 英人	135
法学.....	徳永 貴志	135
政治学.....	谷口 隆一郎	136
政治学.....	川添 美央子	136
政治学.....	森田 浩之	136
経済学.....	石部 公男	136
経済学.....	大森 達也	137
経済学.....	鈴木 真実哉	137
経済学.....	由川 稔	137
キャリアデザインA.....	上田 信一郎	137
キャリアデザインB.....	上田 信一郎	138
行政学.....	佐々木 一如	138
まちづくり学.....	平 修久	138
経営学.....	酒井 祐太郎	138
経営学.....	清澤 達夫	139

簿記	澤村孝夫	139	情報倫理	竹井 潔	156
簿記	山田ひとみ	139	情報処理	国分道雄	156
地域経済論	瀬名浩一	139	情報システム論	国分道雄	156
コミュニケーション学	小笠原尚宏	140	コンピュータ応用実習A	鈴木省吾	157
社会学(春)	横山寿世理	140	情報検索演習	坂内 悟	157
社会学(秋)	横山寿世理	140	情報通信ネットワーク	竹井 潔	157
社会学	田中俊之	140	情報リスク論	鈴木省吾	157
社会学	阿部英之助	141	マルチメディア論	石部公男/二神常爾	158
社会学	鄭 鎬 碩	141	情報と職業	渡辺英人	158
社会学	渡會知子	141	インターネット時代の情報資源活用		
環境学	村上公久	141		若松昭子	158
地域社会論	大高研道	142	Internet English(Basic)	J. パーン	158
憲法(人権)	石川裕一郎	142	Project-Based Internet	J. パーン	159
憲法(統治)	松村芳明	142	社会心理学	水 島 友 昭	159
行政法	仲田孝仁	142	理論社会学	土方 透	159
地方自治法	鹿谷雄一	143	社会思想	佐藤貴史	159
国際人権・人道法	小松崎利明	143	倫理学概論	谷口隆一郎	160
国際法	山村恒雄	143	社会調査法	古谷野 亘	160
国際政治論	秋吉祐子	143	コミュニティとフィールドワーク	庄嶋孝広	160
現代政治理論	森 達也	144	統計学	松原 望	160
政治過程論	高橋愛子	144	インターンシップ I (事前学習)		
公共哲学	谷口隆一郎	144		学科就職委員	161
公共政策論	大 藪 俊 志	144	インターンシップ II (実習)	学科就職委員	161
地方自治論	鹿谷雄一	145	インターンシップ(自主活動)	学科就職委員	161
財政学	佐藤 滋	145	コミュニティ政策特論A(商学)	工藤幸一	161
環境政策論	平 修久	145	公務員講座(数的・判断推理)	平 修久	162
社会保障論	田中聡一郎	145	公務員講座(人文・社会)	平 修久	162
リスク対策論	標 宣男	146	公務員講座(文章理解)	大槻 岳	162
近代政治思想	川添美央子	146	公務員講座演習A(数的・判断推理)		
政策評価論	大 藪 俊 志	146		平 修久	162
地域福祉	大塚健司	147	公務員講座演習A(人文・社会)	大 藪 俊 志	163
公的扶助論	榊 伴夫	147	公務員特講(自治体研究A)	猪狩廣美	163
埼玉地域政策研究	大塚健司	147	公務員特講(自治体研究B)	北川嘉昭	163
Civilization & Environment	村上公久	147	公務員講座(専門A)	平 修久	163
ミクロ経済学	中野 宏	148	公務員講座(専門B)	平 修久	164
マクロ経済学	石部公男	148	生涯学習概論A	小池茂子	164
日本経済論	大森達也	148	生涯学習概論B	小池茂子	164
Japanese Economy Today	大森達也	148	社会教育計画A	小池茂子	164
産業経営論A	西川太一郎	149	社会教育計画B	小池茂子	165
産業経営論B	西川太一郎	149	社会教育課題研究A	小池茂子	165
社会経済論	正上常雄	149	社会教育課題研究B	小池茂子	165
管理学	清澤達夫	149	現代社会と社会教育A	小池茂子	165
会計学	成川正晃	150	現代社会と社会教育B	小池茂子	166
中小企業論A	砂川和彦	150	社会教育施設論A	石川 昇	166
中小企業論B	砂川和彦	150	社会教育施設論B	石川 昇	166
民法A(総則・物権)	松谷秀祐	150	日本文化史	渡辺正人	166
民法B(債権)	松谷秀祐	151	日本史概説A	上安祥子	167
民法C(親族・相続)	加藤恵司	151	日本史概説B	川崎 司	167
商法A(総則・手形・商行為法)	佐藤文彦	151	西洋史概説A	山本信太郎	167
税法A(所得税)	稲田圭祐	151	西洋史概説B	山本信太郎	167
税法B(法人税)	山田直夫	152	東洋史概説A	赤坂恒明	168
経済学史	鈴木真実哉	152	東洋史概説B	赤坂恒明	168
金融論	鈴木真実哉	152	自然地理学概説	秋山秀一	168
金融市場論A	柴田武男	152	人文地理学概説	飯島康夫	168
金融市場論B	柴田武男	153	地誌学概説A	秋山秀一	169
コミュニティ・ビジネス論	瀬名浩一	153	地誌学概説B	秋山秀一	169
コミュニティ・ビジネスの現場	瀬名浩一	153	地誌学特講A	平 修久	169
国際ビジネスの現場A	柴田武男	153	地誌学特講B	大高研道	169
国際ビジネスの現場B	柴田武男	154	西洋哲学史特講	谷口隆一郎	170
秘書学概論	森 久子	154	哲学概論	大賀祐樹	170
ビジネス実務B	森 久子	154	地域圏研究(アジアA)	秋吉祐子	170
日本的経営論	清澤達夫	154	地域圏研究(アジアB)	小田川興	170
商業経営論	市原 実	155	地域圏研究(ロシア・東欧)	飯島康夫	171
マネジメント	後藤兼一	155	予備演習A	各クラスアドバイザー	171
社会福祉施設経営論	櫻井邦夫	155	予備演習B	各クラスアドバイザー	171
FP入門講座	江波戸順史	155	予備演習C	上嶋康道	171
法政情報論	渡辺英人	156	専門演習I(法学)	渡辺英人	172

専門演習Ⅱ(法学).....	渡辺英人	172
専門演習Ⅰ(リスク対策論).....	標宣男	172
専門演習Ⅱ(リスク対策論).....	標宣男	172
専門演習Ⅰ(まちづくり学).....	平修久	173
専門演習Ⅱ(まちづくり学).....	平修久	173
専門演習Ⅰ(コミュニティ・ビジネス論)		
.....	瀬名浩一	173
専門演習Ⅱ(コミュニティ・ビジネス論)		
.....	瀬名浩一	173
専門演習Ⅰ(公共哲学).....	谷口隆一郎	174
専門演習Ⅱ(公共哲学).....	谷口隆一郎	174
専門演習Ⅰ(キリスト教社会倫理)		
.....	佐野正子	174
専門演習Ⅱ(キリスト教社会倫理)		
.....	佐野正子	174
専門演習Ⅰ(政治学).....	川添美央子	175
専門演習Ⅱ(政治学).....	川添美央子	175
専門演習Ⅰ(管理学).....	清澤達夫	175
専門演習Ⅱ(管理学).....	清澤達夫	175
専門演習Ⅰ(金融論).....	鈴木真実哉	176
専門演習Ⅱ(金融論).....	鈴木真実哉	176
専門演習Ⅰ(経済学).....	石部公男	176
専門演習Ⅱ(経済学).....	石部公男	176
専門演習Ⅰ(情報倫理).....	竹井潔	177
専門演習Ⅱ(情報倫理).....	竹井潔	177
専門演習Ⅰ(地域福祉).....	大塚健司	177
専門演習Ⅱ(地域福祉).....	大塚健司	177
専門演習Ⅰ(日本経済論).....	大森達也	178
専門演習Ⅱ(日本経済論).....	大森達也	178
専門演習(コミュニティ政策).....	竹井潔	178
卒業研究Ⅰ(法学).....	渡辺英人	178
卒業研究Ⅱ(法学).....	渡辺英人	179
卒業研究Ⅰ(リスク対策論).....	標宣男	179
卒業研究Ⅱ(リスク対策論).....	標宣男	179
卒業研究Ⅰ(まちづくり学).....	平修久	179
卒業研究Ⅱ(まちづくり学).....	平修久	180
卒業研究Ⅰ(コミュニティ・ビジネス論)		
.....	瀬名浩一	180
卒業研究Ⅱ(コミュニティ・ビジネス論)		
.....	瀬名浩一	180
卒業研究Ⅰ(倫理学).....	谷口隆一郎	180
卒業研究Ⅱ(倫理学).....	谷口隆一郎	181
卒業研究Ⅰ(キリスト教社会倫理)		
.....	佐野正子	181
卒業研究Ⅱ(キリスト教社会倫理)		
.....	佐野正子	181
卒業研究Ⅰ(管理学).....	清澤達夫	181
卒業研究Ⅱ(管理学).....	清澤達夫	182
卒業研究Ⅰ(金融論).....	鈴木真実哉	182
卒業研究Ⅱ(金融論).....	鈴木真実哉	182
卒業研究Ⅰ(経済学).....	石部公男	182
卒業研究Ⅱ(経済学).....	石部公男	183
卒業研究Ⅰ(地域社会論).....	大高研道	183
卒業研究Ⅱ(地域社会論).....	大高研道	183
卒業研究Ⅰ(地域福祉).....	大塚健司	183
卒業研究Ⅱ(地域福祉).....	大塚健司	184
卒業研究Ⅰ(日本経済論).....	大森達也	184
卒業研究Ⅱ(日本経済論).....	大森達也	184
卒業研究(コミュニティ政策).....	竹井潔	184
卒業研究(コミュニティ政策).....	川添美央子	185

**5 人文学部欧米文化学科専門科目**

キリスト教文化論A.....	菊地順	189
キリスト教文化論B.....	菊地順	189
基礎ゼミA.....		189
.....	稲田敦子/鹿瀬颯枝/柴田史子/和田光司/氏家理恵 長崎睦子/佐藤啓介	

基礎ゼミB.....		189
.....	稲田敦子/鹿瀬颯枝/菊地順/柴田史子/原一子 東仁美/佐藤啓介	
欧米文化入門A.....	加曾利実	190
欧米文化入門B.....	E. D. オズバーン	190
ヨーロッパ文化概論.....	原一子	190
アメリカ文化概論.....	柴田史子	190
哲学.....	高橋章仁	191
哲学.....	高橋章仁	191
哲学.....	小林剛	191
哲学.....	佐藤啓介	191
西洋思想史.....	原一子	192
現代ヨーロッパ思想.....	佐藤啓介	192
比較文化.....	稲田敦子	192
Intercultural Communication between Japan & the U. S. A. A.....	E. D. オズバーン	192
Intercultural Communication between Japan & the U. S. A. B.....	E. D. オズバーン	193
アメリカ思想.....	柴田史子	193
西洋史.....	和田光司	193
西洋史.....	田中史高	193
西洋史.....	山本信太郎	194
西洋史.....	森 斉文	194
歴史学概論.....	和田光司	194
ヨーロッパ史(近・現代).....	和田光司	194
現代ヨーロッパ事情.....	佐藤啓介	195
アメリカ史.....	柴田史子	195
現代イタリアの社会と文化A.....	小田原琳	195
現代イタリアの社会と文化B.....	小田原琳	195
キリスト教史.....	片柳榮一	196
キリスト教文化交流.....	鈴木順子	196
欧米文学.....	三宅美千代	196
欧米文学.....	桑田光平	196
英米文学概論.....	富田光明	197
ヨーロッパ文学史.....	富田光明	197
フランス文学.....	鹿瀬颯枝	197
英米文学.....	氏家理恵	197
比較文学.....	氏家理恵	198
英米児童文学.....	松本祐子	198
ファンタジー論.....	松本祐子	198
西洋美術史.....	瀧井直子	198
西洋音楽A.....	稲垣俊也	199
西洋音楽B.....	稲垣俊也	199
異文化理解.....	稲田敦子	199
異文化間コミュニケーション.....	小松崎利明	199
ドイツ文化.....	満留伸一郎	200
フランス文化.....	鹿瀬颯枝	200
アメリカ文化.....	増田直子	200
ユダヤ文化.....	佐藤貴史	200
イスラム文化A.....	赤坂恒明	201
イスラム文化B.....	赤坂恒明	201
Pop Culture.....	K. O. アンダスン	201
映像文化.....	氏家理恵	201
欧米児童文化.....	上原里佳	202
欧米家族文化.....	森 涼子	202
観光地理.....	秋山秀一	202
現代英文法.....	東 仁美	202
英語音声学.....	加曾利実	203
英語学概論.....	加曾利実	203
言語学概論.....	D. バーガー	203
Speech & Debate A.....	M. サベット	203
Speech & Debate B.....	M. サベット	204
言語と社会.....	D. バーガー	204
心理言語学.....	川手 恩	204
言語習得理論.....	長崎睦子	204
児童英語教育(理論).....	横田玲子	205

児童英語教育(カリキュラム・デザイン)	東 仁美	205
児童英語教育(教材研究)	A. クラウス	205
児童英語教育(ワークショップA)	A. クラウス	205
児童英語教育(ワークショップB)	阿部フォード恵子	206
児童英語教育(インターンシップI)	東 仁美	206
児童英語教育(インターンシップII)	東 仁美	206
Screen English A	中村香代子	206
Screen English B	中村香代子	207
英語スピーチ発音法	加曾利実	207
教えるための英文法A	西野孝子	207
教えるための英文法B	西野孝子	207
Internet English(Basic)	J. バーン	208
Project-Based Internet	J. バーン	208
Living & Studying Abroad	M. サベット	208
Academic Listening & Speaking	E. D. オズバーン	208
College Reading Skills	メイスみよ子	209
College Writing Skills	K. O. アンダスン	209
TOEFL A	中村香代子	209
TOEFL B	中村香代子	209
TOEIC A	中村香代子	210
TOEIC B	中村香代子	210
フランス語コミュニケーションA(総合)	H. ドリエップ	210
フランス語コミュニケーションB(総合)	H. ドリエップ	210
ドイツ語コミュニケーション	B. ミュラー	211
流通・販売・経営論	山本俊明	211
レポート作成法A	D. バーガー	211
欧米文化特論	有賀 貞	211
英語講読A	高橋義文	212
英語講読B	有賀 貞	212
ドイツ語講読A	原 一子	212
ドイツ語講読B	深井智朗	212
フランス語講読A	和田光司	213
フランス語講読B	鹿瀬颯枝	213
ラテン語A	片柳榮一	213
ラテン語B	片柳榮一	213
専門演習(キリスト教文化)I	菊地 順	214
専門演習(キリスト教文化)II	菊地 順	214
専門演習(現代ヨーロッパ事情)I	佐藤啓介	214
専門演習(現代ヨーロッパ事情)II	佐藤啓介	214
専門演習(ヨーロッパ史)I	和田光司	215
専門演習(ヨーロッパ史)II	和田光司	215
専門演習(ヨーロッパ思想)I	原 一子	215
専門演習(ヨーロッパ思想)II	原 一子	215
専門演習(フランス文学)I	鹿瀬颯枝	216
専門演習(フランス文学)II	鹿瀬颯枝	216
専門演習(英米文学)I	氏家理恵	216
専門演習(英米文学)II	氏家理恵	216
専門演習(Pop Culture)I	K. O. アンダスン	217
専門演習(Pop Culture)II	K. O. アンダスン	217
専門演習(アメリカ文化)I	柴田史子	217
専門演習(アメリカ文化)II	柴田史子	217
専門演習(比較文化)I	稲田敦子	218
専門演習(比較文化)II	稲田敦子	218
専門演習(言語と社会)I	D. バーガー	218
専門演習(言語と社会)II	D. バーガー	218
専門演習(英語学)I	加曾利実	219
専門演習(英語学)II	加曾利実	219

専門演習(外国語教授法)I	長崎睦子	219
専門演習(外国語教授法)II	長崎睦子	219
専門演習(児童英語教育)I	東 仁美	220
専門演習(児童英語教育)II	東 仁美	220
卒業研究(キリスト教文化)I	菊地 順	220
卒業研究(キリスト教文化)II	菊地 順	220
卒業研究(現代ヨーロッパ事情)I	佐藤啓介	221
卒業研究(現代ヨーロッパ事情)II	佐藤啓介	221
卒業研究(ヨーロッパ史)I	和田光司	221
卒業研究(ヨーロッパ史)II	和田光司	221
卒業研究(ヨーロッパ思想)I	原 一子	222
卒業研究(フランス文学)I	鹿瀬颯枝	222
卒業研究(フランス文学)II	鹿瀬颯枝	222
卒業研究(英米文学)I	氏家理恵	222
卒業研究(英米文学)II	氏家理恵	223
卒業研究(Pop Culture)I	K. O. アンダスン	223
卒業研究(Pop Culture)II	K. O. アンダスン	223
卒業研究(アメリカ文化)	柴田史子	223
卒業研究(比較文化)I	稲田敦子	224
卒業研究(比較文化)II	稲田敦子	224
卒業研究(言語と社会)I	D. バーガー	224
卒業研究(言語と社会)II	D. バーガー	224
卒業研究(英語学)I	加曾利実	225
卒業研究(英語学)II	加曾利実	225
卒業研究(外国語教授法)I	長崎睦子	225
卒業研究(児童英語教育)I	東 仁美	225
卒業研究(児童英語教育)II	東 仁美	226

## 6 人文学部日本文化学科専門科目

キリスト教文化論A	柳田洋夫	229
キリスト教文化論B	柳田洋夫	229
ライフデザイン・良く生きるA	清水均/渡辺正人	229
ライフデザイン・良く生きるB	柳田洋夫/渡辺正人	229
日本語表現法①	上野麻美/北村淳子/坂巻理恵子/副田恵/松村良	230
日本語表現法②	坂巻理恵子/副田恵/中島佐和子/松村良	230
日本語学概説	小林茂之	230
日本文学概説	黒木 章	230
日本史概説A	上安祥子	231
日本史概説B	川崎 司	231
日本語教育概論	北村淳子	231
古典読解A	上野麻美	231
古典読解B	上野麻美	232
日本思想入門	村松 晋	232
日本文化入門	寺田詩麻	232
日本文化史	渡辺正人	232
日本思想概説	清水正之	233
相関文化	村松 晋	233
教えるための現代文A	前田 潤	233
教えるための現代文B	前田 潤	233
教えるための古典I	上野麻美/濱田寛	234
教えるための古典II	上野麻美/濱田寛	234
教えるための古典III	上野麻美/濱田寛	234
教えるための古典IV	上野麻美/濱田寛	234
言語学概論	D. バーガー	235
対照言語学	黒崎佐仁子	235
言語文化論	小林茂之	235
心理言語学	川手 恩	235
古典日本語I	上宇都ゆりほ	236
古典日本語II	高桑佳與子	236
日本語表現法(ディベート)I	太田昌宏	236
日本語表現法(ディベート)II	太田昌宏	236



日本語学(文法) A	黒崎佐仁子	237
日本語学(文法) B	黒崎佐仁子	237
日本語学(音声・音韻) A	中川千恵子	237
日本語学(音声・音韻) B	中川千恵子	237
言語生活	内藤みち	238
日本事情(社会)	木原郁子	238
日本事情(文化)	内藤みち	238
日本語教授法講義	川口さち子	238
日本語教授法演習	木原郁子	239
日本語教育実習	川口さち子	239
日本語学特殊講義	田川拓海	239
言語学特殊講義	小林茂之	239
異文化間コミュニケーション	小松崎利明	240
比較文学	氏家理恵	240
比較宗教学	芦名裕子	240
文化人類学	高橋絵里香	240
言語と社会	D. バーガー	241
中国文学	濱田 寛	241
中国思想	大坊真伸	241
文化交流史(アジアと日本) A	濱田 寛	241
文化交流史(アジアと日本) B	小田川興	242
文化交流史(欧米と日本)	黒木 章	242
海外文化交流研修(アジア) B	渡辺 正人	242
韓国文化演習	黒木 章	242
文化とグローバリゼーション	渡辺 正人	243
韓国語コミュニケーション A	溝口カブス	243
韓国語コミュニケーション B	北原スマ子	243
中国語コミュニケーション A	関 子謙	243
中国語コミュニケーション B	福田素子	244
Intercultural Communication between Japan & the U. S. A. A	E. D. オズバーン	244
Intercultural Communication between Japan & the U. S. A. B	E. D. オズバーン	244
Special Lecture Series A	E. D. オズバーン	244
日本文学史(上代・中古)	神野志幸恵	245
日本文学史(中世・近世)	家永香織	245
日本文学史(近現代)	前田 潤	245
日本文学研究と批評(古典①)	高桑佳與子	245
日本文学研究と批評(古典②)	上野麻美	246
日本文学研究と批評(古典③)	上宇都ゆりほ	246
日本文学研究と批評(近現代①)	武田秀美	246
日本文学研究と批評(近現代②)	前田 潤	246
日本文学の中のキリスト教 B	武田秀美	247
児童文学	藤田のぼる	247
日本文学特殊講義①	家永香織	247
日本文学特殊講義②	前田 潤	247
日本の歴史(近現代)	川崎 司	248
日本の思想(儒教)	上安祥子	248
日本の思想(仏教)	高山秀嗣	248
日本の思想(キリスト教)	村松 晋	248
女性学	藤田和美	249
歴史と文化	東島 誠	249
歴史と社会	川崎 司	249
日本史特殊講義	東島 誠	249
日本の演劇(中世・近世)	寺田詩麻	250
日本の美術	佐伯英里子	250
日本の音楽 A	鈴木英一	250
日本の音楽 B	鈴木英一	250
日本の民俗	柏木亨介	251
日本のポップ・カルチャー	清水 均	251
こどもと文化	寺崎恵子	251
映像と文化 A	山中剛史	251
映像と文化 B	山中剛史	252
書道(初級)	小室陽子	252
書道(中級)	小室陽子	252
日本文化特殊講義	清水 均	252
出版と編集	山本俊明	253

伝統工芸 B	渡辺 正人	253
伝統芸能 B	茂山千三郎	253
文芸(創作)	藤田のぼる	253
放送文化	川野 一宇	254
身体表現	森 さゆ里	254
日本文化総論 A	清水正之	254
日本文化総論 B	清水正之	254
専門演習 I (言語①)	小林茂之	255
専門演習 I (言語②)	川口さち子	255
専門演習 I (比較文化①)	渡辺 正人	255
専門演習 I (比較文化③)	濱田 寛	255
専門演習 I (文学②)	上野麻美	256
専門演習 I (文学③)	黒木 章	256
専門演習 I (歴史・思想②)	川崎 司	256
専門演習 I (歴史・思想③)	清水正之	256
専門演習 I (歴史・思想④)	村松 晋	257
専門演習 I (歴史・思想⑤)	柳田洋夫	257
専門演習 I (文化③)	清水 均	257
専門演習 II (言語①)	小林茂之	257
専門演習 II (言語②)	川口さち子	258
専門演習 II (比較文化 アジア①)	渡辺 正人	258
専門演習 II (比較文化 アジア②)	濱田 寛	258
専門演習 II (古典文学②)	上野麻美	258
専門演習 II (近現代文学①)	黒木 章	259
専門演習 II (歴史①)	東島 誠	259
専門演習 II (歴史②)	川崎 司	259
専門演習 II (思想①)	清水正之	259
専門演習 II (思想②)	村松 晋	260
専門演習 II (思想③)	柳田洋夫	260
専門演習 II (近現代文化①)	清水 均	260
専門演習 II (近現代文化②)	熊谷芳郎	260
卒業研究(言語①) I	小林茂之	261
卒業研究(言語①) II	小林茂之	261
卒業研究(言語②) I	川口さち子	261
卒業研究(言語②) II	川口さち子	261
卒業研究(比較文化 アジア①) I	渡辺 正人	262
卒業研究(比較文化 アジア①) II	渡辺 正人	262
卒業研究(比較文化 アジア②) I	濱田 寛	262
卒業研究(比較文化 アジア②) II	濱田 寛	262
卒業研究(古典文学②) I	上野麻美	263
卒業研究(古典文学②) II	渡辺 正人	263
卒業研究(近現代文学①) I	黒木 章	263
卒業研究(近現代文学①) II	黒木 章	263
卒業研究(歴史①) II	東島 誠	264
卒業研究(歴史②) I	川崎 司	264
卒業研究(歴史②) II	川崎 司	264
卒業研究(思想①) I	清水正之	264
卒業研究(思想①) II	清水正之	265
卒業研究(思想②) I	村松 晋	265
卒業研究(思想③) I	柳田洋夫	265
卒業研究(思想③) II	柳田洋夫	265
卒業研究(近現代文化①) I	清水 均	266
卒業研究(近現代文化①) II	清水 均	266
卒業研究(近現代文化②) I	熊谷芳郎	266
卒業研究(近現代文化②) II	熊谷芳郎	266
卒業研究(日本文化) II	川口さち子	267
教職演習 A	濱田 寛	267
教職演習 B	濱田 寛	267

7 人間福祉学部児童学科専門科目

キリスト教人間学 A	左近 豊	271
キリスト教人間学 B	左近 豊	271
児童学概論	田澤 薫	271
教職基礎	加藤実三	271
教職演習 A	石津靖大	272
教職演習 B	石津靖大	272
教職演習 C	石津靖大	272

教職演習D	石津靖大	272
教職演習E	内田武司	273
教職演習F	内田武司	273
教職演習G	内田武司	273
海外実習(SAINTS)	村山順吉	273
フィールドワーク	相川徳孝/松本祐子/村山順吉	274
児童学海外研修	村山順吉	274
児童文化論A	田澤 薫	274
児童文化論B	寺崎恵子	274
絵本文化論	森下みさ子	275
英米児童文学	松本祐子	275
ファンタジー論	松本祐子	275
おもちゃ論	森下みさ子	275
英語コミュニケーション	M. サベット	276
児童英語教材研究	東 仁美	276
児童英語教材研究	横田玲子	276
英語圏児童文学講読	松本祐子	276
教育心理学	金谷京子	277
発達心理学	金谷京子	277
児童臨床心理学	山田麻有美	277
教育相談(カウンセリングを含む)	山田麻有美	277
セラピィ特論	山田麻有美	278
教育原理	寺崎恵子	278
児童教育学	永井理恵子	278
キリスト教教育論A	森田美千代	278
教育社会学	小川 洋	279
日本教育史	石津靖大	279
社会教育論A	小池茂子	279
社会教育論B	小池茂子	279
現代社会と社会教育A	小池茂子	280
現代社会と社会教育B	小池茂子	280
社会福祉	大塚健司	280
社会福祉援助技術演習	笹 渕 悟	280
児童福祉	田澤 薫	281
保育原理A	寺崎恵子	281
保育原理B	寺崎恵子	281
養護原理	笹 渕 悟	281
乳児保育	岸澤藤子	282
養護内容	笹 渕 悟	282
障害児保育	石川由美子	282
障害児教育	石川由美子	282
小児保健I	櫻井美和	283
小児保健II	櫻井美和	283
小児保健実習	榎田里美	283
精神保健	上野直子	283
家族援助論	相川徳孝	284
小児栄養	大月典子	284
地域福祉論	櫻井邦夫	284
子どもカウンセリング論	石川由美子	284
地域子育て支援論	海津敦子	285
児童文学	松本祐子/小室陽子	285
社会	深澤悠紀雄	285
算数	佐藤逸子	285
理科	飯塚征武	286
生活	船田信昭	286
家庭	櫻井純子	286
音楽創造論	村山順吉	286
音楽・器楽A	笠井かほる/渋谷みどり/塚原晴美/島崎美知子 矢持真希子/池上真理子/阪まどか	287
音楽・器楽B	笠井かほる/渋谷みどり/塚原晴美/島崎美知子 矢持真希子/池上真理子/阪まどか	287
音楽・声楽	藤田 明	287
音楽・合奏指導A	田中美佳子	287
音楽・合奏指導B	田中美佳子	288

音楽・合奏指導C	東海千浪	288
音楽・合奏指導D	東海千浪	288
音楽・合奏指導E	村山良介	288
音楽・合奏指導F	村山良介	289
音楽・合奏指導G	山田裕治	289
音楽・合奏指導H	山田裕治	289
音楽・ハンドベルG	本田 晃	289
音楽・ハンドベルH	本田 晃	290
図画工作	喜田敬/山領直人	290
図画工作	山領直人/四十九院仁子	290
図画工作A	喜田 敬	290
図画工作B	喜田 敬	291
体育	鈴木 明	291
体育	高橋 進	291
保育技術演習	相川徳孝	291
音楽A	村山順吉	292
音楽B	藤田明/星野直子	292
教師論	船田信昭	292
教師論	船田信昭	292
総合演習	小池茂子	293
総合演習	中村磐男	293
総合演習	井村礼恵	293
保育内容総論I	野尻裕子	293
保育内容総論II	野尻裕子	294
保育内容の研究・健康	鈴木 明	294
保育内容の研究・人間関係	井村礼恵	294
保育内容の研究・人間関係	丹羽さかの	294
保育内容の研究・環境	井村礼恵	295
保育内容の研究・言葉	石川由美子	295
保育内容の研究・表現A	相川徳孝	295
保育内容の研究・表現B	柴田和豊	295
幼児指導法の研究	青木聡子	296
教育課程論	船田信昭	296
初等国語科教育法	根本正義	296
初等社会科教育法	深澤悠紀雄	296
算数科教育法	小関照純	297
理科教育法	高野 庸	297
生活科教育法	船田信昭	297
音楽科教育法	村山順吉	297
図画工作科教育法	柴田和豊	298
家庭科教育法	櫻井純子	298
体育科教育法	細江文利	298
道德教育の研究	阿久戸光晴	298
特別活動の理論と方法	阿久戸多喜子	299
教育方法論	徳原文陽児	299
生徒指導論(進路指導を含む)	船田信昭	299
基礎実習	相川徳孝	299
保育実習II-2	相川徳孝	300
保育実習	金谷京子/田澤薫	300
保育実習A	相川徳孝	300
保育実習B	石川由美子	300
小学校教育実習	深澤悠紀雄	301
介護等体験及び事前事後指導	山口 圭	301
学校経営と学校図書館	斉藤 規	301
学校図書館メディアの構成	若松昭子	301
学習指導と学校図書館	米谷茂則	302
読書と豊かな人間性	斉藤 規	302
情報メディアの活用	河島茂生	302
専門演習(児童学I)	田澤 薫	302
専門演習(児童学II)	田澤 薫	303
専門演習(児童臨床心理学I)	山田麻有美	303
専門演習(児童臨床心理学II)	山田麻有美	303
専門演習(日本教育史I)	石津靖大	303
専門演習(日本教育史II)	石津靖大	304
専門演習(キリスト教幼児教育I)	阿部洋治	304
専門演習(キリスト教幼児教育II)	阿部洋治	304
専門演習(声楽I)	藤田 明	304

専門演習(声楽Ⅱ).....	藤田 明	305
専門演習(児童教育学Ⅰ).....	永井理恵子	305
専門演習(児童教育学Ⅱ).....	永井理恵子	305
専門演習(造形教育論Ⅰ).....	喜田 敬	305
専門演習(造形教育論Ⅱ).....	喜田 敬	306
専門演習(音楽創造論Ⅰ).....	村山順吉	306
専門演習(音楽創造論Ⅱ).....	村山順吉	306
専門演習(保育実践論Ⅰ).....	相川徳孝	306
専門演習(保育実践論Ⅱ).....	相川徳孝	307
専門演習(児童福祉実践論Ⅰ).....	金谷京子	307
専門演習(児童福祉実践論Ⅱ).....	金谷京子	307
専門演習(障害児心理Ⅰ).....	石川由美子	307
専門演習(障害児心理Ⅱ).....	石川由美子	308
専門演習(教育文化論Ⅰ).....	寺崎恵子	308
専門演習(教育文化論Ⅱ).....	寺崎恵子	308
専門演習(生涯学習Ⅰ).....	小池茂子	308
専門演習(児童文学Ⅰ).....	松本祐子	309
専門演習(児童文学Ⅱ).....	松本祐子	309
専門演習(社会科Ⅰ).....	深澤悠紀雄	309
専門演習(社会科Ⅱ).....	深澤悠紀雄	309
専門演習(算数Ⅰ).....	佐藤逸子	310
専門演習(算数Ⅱ).....	佐藤逸子	310
専門演習(理科Ⅱ).....	中村磐男	310
卒業研究(児童学Ⅰ).....	田澤 薫	310
卒業研究(児童臨床心理学Ⅰ).....	山田麻有美	311
卒業研究(児童臨床心理学Ⅱ).....	山田麻有美	311
卒業研究(日本教育史Ⅰ).....	石津靖大	311
卒業研究(日本教育史Ⅱ).....	石津靖大	311
卒業研究(声楽Ⅰ).....	藤田 明	312
卒業研究(声楽Ⅱ).....	藤田 明	312
卒業研究(児童教育学Ⅱ).....	永井理恵子	312
卒業研究(造形教育論Ⅰ).....	喜田 敬	312
卒業研究(造形教育論Ⅱ).....	喜田 敬	313
卒業研究(音楽創造論Ⅰ).....	村山順吉	313
卒業研究(音楽創造論Ⅱ).....	村山順吉	313
卒業研究(保育実践論Ⅰ).....	相川徳孝	313
卒業研究(保育実践論Ⅱ).....	相川徳孝	314
卒業研究(児童福祉実践論Ⅰ).....	金谷京子	314
卒業研究(児童福祉実践論Ⅱ).....	金谷京子	314
卒業研究(障害児心理Ⅰ).....	石川由美子	314
卒業研究(教育文化論Ⅰ).....	寺崎恵子	315
卒業研究(教育文化論Ⅱ).....	寺崎恵子	315
卒業研究(児童文学Ⅰ).....	松本祐子	315
卒業研究(児童文学Ⅱ).....	松本祐子	315
卒業研究(社会科Ⅰ).....	深澤悠紀雄	316
卒業研究(社会科Ⅱ).....	深澤悠紀雄	316
卒業研究(算数Ⅰ).....	佐藤逸子	316
卒業研究(算数Ⅱ).....	佐藤逸子	316
卒業研究(理科Ⅰ).....	中村磐男	317
卒業研究(理科Ⅱ).....	中村磐男	317

## 8 人間福祉学部福祉学科専門科目

人間福祉総論.....	助川 征雄	321
社会福祉原論.....	牛津信忠	321
キリスト教人間学A.....	左近 豊	321
キリスト教人間学B.....	左近 豊	321
死生学.....	横澤義夫	322
生命倫理学.....	香川知晶	322
心理学.....	小山義徳	322
社会学.....	阿部英之助	322
法学.....	松村芳明	323
医学概論.....	愈今	323
統計学.....	松原 望	323
社会調査法.....	古谷野 亘	323
地域社会論.....	大高研道	324
ボランティア論.....	大島隆代	324
医療英語A.....	森 容子	324

医療英語B.....	森 容子	324
衛生学入門.....	大江敏江	325
環境衛生学.....	中村磐男	325
公衆衛生学.....	中村磐男	325
環境政策論.....	平 修久	325
環境保全論.....	村上公久	326
福祉環境論.....	野口祐子	326
福祉住環境論.....	山田義文	326
生命・栄養科学.....	菊川忠裕	326
健康教育.....	梅津迪子	327
レクリエーション論.....	梅津迪子	327
社会老年学.....	古谷野 亘	327
リハビリテーション論.....	小林法一	327
精神医学.....	高野 覚	328
精神科リハビリテーション学.....	田村綾子	328
スピリチュアルケア論.....	平山正実/窪寺俊之	328
子どもの遊びと発達.....	梅津迪子	328
発達心理学A.....	池 弘子	329
発達心理学B.....	池 弘子	329
教育心理学.....	小山義徳	329
社会心理学.....	水 友昭	329
コミュニティ心理学.....	長谷川恵美子	330
異常心理学.....	古澤聖子	330
心理学研究法.....	小山義徳	330
臨床心理学.....	牟田隆郎	330
カウンセリング論.....	長谷川恵美子	331
精神保健学.....	小林 政子	331
心理学実験実習A.....	長谷川恵美子/小山義徳	331
心理学実験実習B.....	牟田隆郎/長谷川恵美子	331
相談援助の基盤と専門職.....	大野和男	332
社会福祉援助技術論A.....	山口 圭	332
社会福祉援助技術論B.....	鷹野吉章	332
児童福祉論.....	池 弘子	333
高齢者福祉論.....	山口 圭	333
障害者福祉論.....	増田公香	333
地域福祉論.....	牛津信忠	334
精神保健福祉論.....	相川章子/大野和男/行賀志都子	334
ソーシャルワーク論.....	助川 征雄	334
精神保健福祉援助技術各論.....	相川章子	334
介護概論.....	高山法子	335
介護技術.....	高山法子	335
社会福祉運営管理論.....	早坂聡久	335
社会調査の基礎.....	鷹野吉章	335
福祉行政と福祉計画.....	大塚健司	336
保健医療サービス.....	中村磐男	336
就労支援サービス.....	野口勝則	336
社会福祉援助技術演習A.....	野口祐子	336
社会福祉援助技術演習A.....	池弘子/野口祐子/山口圭	337
社会福祉援助技術演習C.....	野口祐子/増田公香/山口圭	337
社会福祉援助技術演習D.....	山口 圭	337
精神保健福祉演習.....	相川章子	337
精神保健福祉援助演習.....	相川章子/牟田隆郎	338
社会福祉学特講.....	山口 圭	338
社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ.....	山口 圭	338
社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ.....	野口祐子/増田公香/山口圭	338
社会福祉援助技術現場実習.....	野口祐子/増田公香/山口圭	339
精神保健福祉援助実習.....	相川章子/松原玲子	339
専門演習(児童福祉論)Ⅰ.....	池 弘子	339
専門演習(児童福祉論)Ⅱ.....	池 弘子	339
専門演習(子ども家庭論)Ⅰ.....	中谷茂一	340
専門演習(子ども家庭論)Ⅱ.....	中谷茂一	340
専門演習(高齢者福祉論)Ⅰ.....	古谷野 亘	340
専門演習(高齢者福祉論)Ⅱ.....	古谷野 亘	340

専門演習(障害者福祉論) I	増田公香	341
専門演習(障害者福祉論) II	増田公香	341
専門演習(福祉環境論) I	野口祐子	341
専門演習(福祉環境論) II	野口祐子	341
専門演習(地域福祉論) II	牛津信忠	342
専門演習(レクリエーション論) I	梅津迪子	342
専門演習(レクリエーション論) II	梅津迪子	342
専門演習(カウンセリング論) I	長谷川恵美子	342
専門演習(カウンセリング論) II	長谷川恵美子	343
専門演習(人間関係論) I	牟田隆郎	343
専門演習(人間関係論) II	牟田隆郎	343
専門演習(精神保健福祉論) I	相川章子	343
専門演習(精神保健福祉論) II	相川章子	344
専門演習(ソーシャルワーク論) I	助川征雄	344
専門演習(ソーシャルワーク論) II	助川征雄	344
専門演習(福祉倫理) I	左近豊	344
専門演習(福祉倫理) II	左近豊	345
卒業研究(児童福祉論) I	池弘子	345
卒業研究(児童福祉論) II	池弘子	345
卒業研究(子ども家庭論) I	中谷茂一	345
卒業研究(子ども家庭論) II	中谷茂一	346
卒業研究(高齢者福祉論) I	古谷野亘	346
卒業研究(高齢者福祉論) II	古谷野亘	346
卒業研究(障害者福祉論) I	増田公香	346
卒業研究(障害者福祉論) II	増田公香	347
卒業研究(衛生学・公衆衛生学) II	中村馨男	347
卒業研究(福祉環境論) I	野口祐子	347
卒業研究(福祉環境論) II	野口祐子	347
卒業研究(地域福祉論) I	牛津信忠	348
卒業研究(地域福祉論) II	牛津信忠	348
卒業研究(レクリエーション論) I	梅津迪子	348
卒業研究(レクリエーション論) II	梅津迪子	348
卒業研究(カウンセリング論) I	長谷川恵美子	349
卒業研究(カウンセリング論) II	長谷川恵美子	349
卒業研究(人間関係論) I	牟田隆郎	349
卒業研究(人間関係論) II	牟田隆郎	349
卒業研究(精神保健福祉論) I	相川章子	350
卒業研究(精神保健福祉論) II	相川章子	350
卒業研究(ソーシャルワーク論) I	助川征雄	350
卒業研究(ソーシャルワーク論) II	助川征雄	350
卒業研究(福祉倫理) I	左近豊	351
卒業演習(児童福祉論)	池弘子	351
卒業演習(子ども家庭論)	中谷茂一	351
卒業演習(高齢者福祉論)	古谷野亘	351
卒業演習(障害者福祉論)	増田公香	352
卒業演習(衛生学・公衆衛生学)	中村馨男	352
卒業演習(福祉環境論)	野口祐子	352
卒業演習(地域福祉論)	牛津信忠	352
卒業演習(レクリエーション論)	梅津迪子	353
卒業演習(カウンセリング論)	長谷川恵美子	353
卒業演習(人間関係論)	牟田隆郎	353
卒業演習(精神保健福祉論)	相川章子	353
卒業演習(ソーシャルワーク論)	助川征雄	354
社会福祉援助実習	森島健	354
介護実習	高山法子	354

## 9 教職関連科目

教育原理	小川洋	357
教育心理学	小山義徳	357
教育経営	小入羽秀敬	357
教育社会学	小川洋	357
日本教育史	石津靖大	358
発達心理学A	池弘子	358
発達心理学B	池弘子	358
教育方法論	新井尚子	358
道德教育の研究	石井昇	359
特別活動の理論と方法	石井昇	359

社会科地理・歴史的分野教育法	石井昇	359
社会科公民的分野教育法	石井昇	359
社会科授業研究 I	石井昇	360
社会科授業研究 II	石井昇	360
公民科教育法	小川洋	360
地理歴史科教育法	小川洋	360
英語科教育法 I	長崎陸子	361
英語科教育法 II	長崎陸子	361
英語科教育法 III	西野孝子	361
英語科教育法 IV	西野孝子	361
国語科教育法 I	熊谷芳郎	362
国語科教育法 II	熊谷芳郎	362
国語科教育法 III	熊谷芳郎	362
国語科教育法 IV	熊谷芳郎	362
福祉科教育法 I	中谷茂一	363
福祉科教育法 II	中谷茂一	363
情報科教育法 I	石部公男	363
情報科教育法 II	石部公男	363
生徒指導論(進路指導を含む)	小川洋	364
教育相談(カウンセリングを含む)	山田麻有美	364
総合演習	石部公男	364
総合演習	稲田敦子	364
総合演習	中村馨男	365
中学校教育実習	小川洋	365
中学校教育実習	長崎陸子	365
中学校教育実習	熊谷芳郎	365
高等学校教育実習	小川洋	366
高等学校教育実習	長崎陸子	366
高等学校教育実習	熊谷芳郎	366
介護等体験及び事前事後指導	山口圭	366

## 10 図書館情報学関連科目

生涯学習概論	小池茂子	369
図書館概論	若松昭子	369
図書館経営論	河島茂生	369
図書館資料論	岡谷大	369
資料組織概説(目録)	榎本裕希子	370
資料組織演習(目録)	榎本裕希子	370
資料組織概説(分類)	河島茂生	370
資料組織演習(分類)	河島茂生	370
情報サービス概説	気谷陽子	371
レファレンスサービス演習	気谷陽子	371
情報検索演習	坂内悟	371
図書館サービス論	岡谷大	371
児童資料論	黒沢克朗	372
児童サービス論	黒沢克朗	372
専門資料論	岡谷大	372
インターネット時代の情報資源活用	若松昭子	372
コミュニケーション論	田村貴紀	373
情報機器論	田村貴紀	373
図書館実習	若松昭子	373
図書館学演習	若松昭子	373
学校経営と学校図書館	斉藤規	374
学校図書館メディアの構成	若松昭子	374
学習指導と学校図書館	米谷茂則	374
読書と豊かな人間性	斉藤規	374
情報メディアの活用	河島茂生	375

## 11 社会教育主要関連科目

生涯学習概論A	小池茂子	379
生涯学習概論B	小池茂子	379
社会教育計画A	小池茂子	379
社会教育計画B	小池茂子	379
社会教育課題研究A	小池茂子	380
社会教育課題研究B	小池茂子	380

現代社会と社会教育A	小池茂子	380
現代社会と社会教育B	小池茂子	380
ジェンダー論(女性学)	田中俊之	381
情報と職業	渡辺英人	381
社会教育論A	小池茂子	381
社会教育論B	小池茂子	381
社会教育施設論A	石川昇	382
社会教育施設論B	石川昇	382
図書館概論	若松昭子	382
図書館経営論	河島茂生	382
教育経営	小入羽秀敬	383
教育心理学	金谷京子	383
教育心理学	小山義徳	383
教育心理学	小山義徳	383

# 1 基礎科目

科目一覧

キリスト教概論A  
 キリスト教概論B  
 基礎教育入門(書き方)  
 基礎教育入門(留学生用書き方)  
 基礎教育入門(話し方)  
 情報リテラシー  
 基礎教育入門(コンピュータ基礎)A  
 基礎教育入門(コンピュータ基礎)B  
 コンピュータ応用講座A  
 コンピュータ応用講座B  
 ITパスポート講座  
 書き方表現応用講座  
 話し方表現応用講座  
 ECA(Speaking) I  
 ECA(Speaking) II  
 ECA(Cinema) I  
 ECA(Cinema) II  
 ECA(Reading) I  
 ECA(Reading) II  
 ECA(Survival English)Level A  
 ECA(Survival English)Level B  
 ECA(Survival English)  
 ECA(Test English)A (Level A)  
 ECA(Test English)A (Level B)  
 ECA(Test English)B (Level A)  
 ECA(Test English)B (Level B)  
 ECA(English Through Songs)A  
 ECA(English Through Songs)B  
 ECA(Communication) I (Level A)  
 ECA(Communication) I (Level B)  
 ECA(Communication) I (Level C)  
 ECA(Communication) I  
 ECA(Communication) II (Level A)  
 ECA(Communication) II (Level B)  
 ECA(Communication) II (Level C)  
 ECA(Communication) II  
 ECA(Communication) I (Super A)  
 ECA(Communication) II (Super A)  
 ECA(Cinema) III  
 ECA(Reading Current Topics) I A  
 ECA(Reading Current Topics) I B  
 ECA(Reading Current Topics) I S  
 ECA(Reading Current Topics) II A  
 ECA(Reading Current Topics) II B  
 ECA(Reading Current Topics) II S  
 ECA(Presentation English)  
 ECA(Pleasure Reading) A  
 ECA(Pleasure Reading) B  
 ECA(Business) I  
 ECA(Business) II  
 英語入門(留学生用) I  
 英語入門(留学生用) II  
 ドイツ語 I (初級A)  
 ドイツ語 II (初級B)  
 ドイツ語 III (中級A)  
 フランス語 I (初級A)  
 フランス語 II (初級B)  
 フランス語 III (中級A)  
 スペイン語 I (初級A)  
 スペイン語 II (初級B)  
 中国語 I (初級A)

中国語 II (初級B)  
 韓国語 I (初級A)  
 韓国語 II (初級B)  
 日本語 1(文法) A  
 日本語 1(文法) B  
 日本語 1(総合) A  
 日本語 1(総合) B  
 日本語 1(調査・発表) A  
 日本語 1(調査・発表) B  
 日本語 1(文章表現) A  
 日本語 1(文章表現) B  
 日本語 2(文法) A  
 日本語 2(文法) B  
 日本語 2(総合) A  
 日本語 2(総合) B  
 日本語 2(調査・発表) A  
 日本語 2(調査・発表) B  
 日本語 2(文章表現) A  
 日本語 2(文章表現) B  
 日本語 2(音声表現理解) A  
 日本語 2(音声表現理解) B  
 日本語 3(総合) A  
 日本語 3(総合) B  
 日本語 3(調査・発表) A  
 日本語 3(調査・発表) B  
 日本語で学ぶ(日本の社会)  
 日本語で学ぶ(日本の政治制度)  
 日本語で学ぶ(日本の文化)  
 日本語で学ぶ(日本の経済・産業)  
 日本語で学ぶ(日本の歴史)  
 応用日本語(待遇表現)  
 健康・体力づくり実習 A  
 健康・体力づくり実習 B  
 生涯スポーツ実習 A  
 生涯スポーツ実習 B  
 聖書の世界 A  
 聖書の世界 B  
 神と人間 A  
 神と人間 B  
 イングリッシュ・バイブル A  
 イングリッシュ・バイブル B  
 キリスト教と物語  
 日本キリスト教史 A  
 日本キリスト教史 B  
 キリスト教と人権  
 キリスト教と歴史形成 A  
 キリスト教と歴史形成 B  
 近代社会とピューリタニズム A  
 近代社会とピューリタニズム B  
 キリスト教と政治思想 A  
 キリスト教と政治思想 B  
 キリスト教と社会科学  
 キリスト教と法  
 キリスト教と国際社会 A  
 キリスト教と日本社会 A  
 キリスト教と日本宗教  
 キリスト教と日本思想  
 キリスト教と倫理的諸問題 A  
 キリスト教と倫理的諸問題 B  
 キリスト教信仰と文化  
 キリスト教とアメリカ思想 A

キリスト教とアメリカ思想 B  
 キリスト教とアメリカ文化 A  
 キリスト教とアメリカ文化 B  
 キリスト教とアジア文化 A  
 キリスト教とアジア文化 B  
 キリスト教と文学 A  
 キリスト教と文学 B  
 キリスト教と古典  
 聖書の中の環境問題  
 キリスト教と音楽 A  
 キリスト教と音楽 B  
 キリスト教音楽史 A  
 キリスト教音楽史 B  
 キリスト教と美術 A  
 キリスト教と美術 B  
 キリスト教と建築 A  
 キリスト教と建築 B  
 キリスト教と児童福祉の実際 A  
 キリスト教と児童福祉の実際 B  
 キリスト教と高齢者福祉の実際 A  
 キリスト教と高齢者福祉の実際 B  
 キリスト教カウンセリング論  
 キリスト教と心のケア  
 日本国憲法  
 アメリカ文化演習 A  
 オーストラリア文化演習 B  
 カナダ文化演習

必修 キリスト教概論A		春	週1回	2単位
担当者：相澤 一				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1)内容 キリスト教は、文学や芸術だけでなく、政治や経済に対しても大きな影響を与えている。それは欧米に限らず現代日本においてもそうであり、現代社会を理解するためにはキリスト教の知識は必要不可欠であると言える。 本講義は、キリスト教信仰の基本内容を学びながら、それが現代に対して持っている意味を、現代の諸問題との関連において考察する。それを通して、この宗教が現代社会に対して持っている意義について考察する。前期は主として旧約聖書を学ぶ予定である。				
(2)カリキュラム上の位置づけ 本講義は、キリスト教学校である聖学院大学において要求される基礎知識の習得を目標とする、いわばスタートラインに位置するものであり、ぜひ真面目に取り組んで欲しい。				
(3)学びの意義と目標 この講義は、学生をキリスト教に改宗させることを目標としてはいない。キリスト教に関する誤解を正し、正しい知識に立って、学生諸君が「キリスト教が語っていることは自分にとってどういう意味があるのか」と自ら問い始めるのが、この講義の目標である。				
<b>評価方法</b> おおよその目安であるが、 毎回の出席（＝平常点・授業態度）（30%）、 全学礼拝および教会礼拝出席レポート（20%）、 期末試験（50%）の総合点で評価する。				
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス				

必修 キリスト教概論A		春	週1回	2単位
担当者：菊地 順				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1)内容 初めてキリスト教に触れる学生を念頭に置きながら、現代世界の成立において重要な役割を果たしてきたキリスト教の基本的な点について、聖書を中心に学びます。 (2)カリキュラム上の位置づけ キリスト教は、大学の建学の理念の根幹をなすだけでなく、欧米文化の基底をなす重要な位置を持っていますので、この授業はすべての学びの基礎となる科目です。 (3)学びの意義と目標 春学期は、初めに現代世界における宗教の意義について考察し、また日本とキリスト教との関係について概観します。その後、旧約聖書に基づいて、キリスト教の背景をなすユダヤ教（イスラエル宗教）の世界について、特にその世界観・人間観、その歴史、及びキリスト教との関連について学びます。				
<b>評価方法</b> 出席状況、課題、試験の全体を評価して成績を出します。割合は、出席30%、課題20%、試験50%です。ただし、欠席が3分の1以上の人、また課題の未提出の人は、試験を受ける資格がありません。				
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス				

必修 キリスト教概論A		春	週1回	2単位
担当者：久保島 理恵				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1)内容 キリスト教信仰は、イエスを救い主として信じ告白することである。そこで授業では、イエス・キリストについての証言である新約聖書を通して、キリスト教の基本的内容への理解を深めることとする。具体的には、「ルカによる福音書」を読みながら、イエス・キリストの教え、働き、そして十字架の死と復活という救済の出来事について学んでいく。				
(2)カリキュラム上の位置づけ 「神を仰ぎ、人に仕う」というスクール・モットーは、キリスト教信仰に貫かれている。従って、本講義は自分の学びの場の土台を知るといった意味をもっている。				
(3)学びの意義と目標 多くの学生にとってキリスト教は初めて触れる世界であろう。そのため驚きや戸惑いがあるかもしれない。しかし、むしろその率直な感想を大切にしてほしい。なぜなら、それはキリスト教という一種の異文化を通して見えてくる自分自身だからである。この講義を通して、キリスト教への理解を深めると同時に、自分自身について、また自分の生き方について考える良い機会になることを望んでいる。				
<b>評価方法</b> 出席点（25%）、授業毎の小レポート（25%）、礼拝レポート（25%）、学期末試験（25%）を合わせて評価する。				
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス				

必修 キリスト教概論A		春	週1回	2単位
担当者：左近 豊				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 キリスト教の基本的な内容を、聖書に即して学ぶ。特に春学期は旧約聖書が語るダイナミックな世界観、人間観、救済観、共同体観などに触れ、聖書からの挑戦を受けて、現代社会を創造的に捉える視点を養う。				
2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目に属する必修科目。キリスト教について初めて学ぶ人を対象とする。				
3. 学びの意義と目標 聖書の世界観、人間観、救済観、共同体観について記述することができる。 聖書、キリスト教的視点から現代社会を創造的に捉え、論じることができる。				
<b>評価方法</b> 期末試験40% 出席・授業参加30% 礼拝出席レポート20% クイズ（5回）10%				
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス				



必修 キリスト教概論A		春	週1回	2単位
担当者：佐野 正子				
<b>講義の目標及び概要</b> キリスト教概論は、聖学院大学の建学の精神であるキリスト教への理解を深めることを目的とする。キリスト教を学ぶことは、皆さんのこれからの大学でのさまざまな学びの基礎となることである。 春学期は、キリスト教の中心であるイエス・キリストの生涯と教えについて聖書を通して学び、そこから私たちに示された生き方について、共に考えていきたい。				
<b>評価方法</b> 受講態度、毎回の小レポート、礼拝レポート、学期末試験を総合的に判定して評価する。				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス				

必修 キリスト教概論A		春	週1回	2単位
担当者：藤原 淳賀				
<b>講義の目標及び概要</b> 本講義は、キリスト教に初めて触れる学生諸君が、キリスト教の基本的かつ本質的内容を理解できるようにすることを目的としている。 春学期は、聖書について、神について、人生について、キリスト教およびプロテスタンティズムについて概観し、旧約聖書に記された重要な出来事を概観する。				
<b>評価方法</b> クイズ(小テスト) 60% 期末試験 40%				
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス 『生き方を変える聖書の言葉60』いのちのこば社フォレストブックス				

必修 キリスト教概論A		春	週1回	2単位
担当者：柳田 洋夫				
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 キリスト教は、民主主義や資本主義を柱とするこの近代世界を成立させた原動力であるとともに、私たちに生きる勇気と指針を与えるものでもある。春学期は、初学者にも理解できるキリスト教入門を心がけつつ、キリスト教信仰の概略と旧約聖書について学ぶ。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 本学における基礎科目に属する必修科目である。 〈学びの意義と目標〉 聖書に親しみ、キリスト教についての基礎知識を習得するとともに、キリスト教によって培われる新しい生き方とは何かについて考察し、それぞれの実践に生かす。				
<b>評価方法</b> 出席・参加度40%、オンラインレポート40%、礼拝レポート20%。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合、また、オンラインレポート未提出の場合は評価の対象としない。				
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス				

必修 キリスト教概論A		春	週1回	2単位
担当者：石田 学				
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 目的 現代世界は、世界構造と価値観の急速な変化のただ中にあります。地球規模の諸問題に直面し、未来の不透明な危機の時代にあつて、わたしたちはどのような生き方をするべきでしょうか。現代ほど、世界を理解する視点と未来を創造する意志、適切な価値基準が求められる時代はありません。わたしたちはこの講座を通して、キリスト教の基礎と聖書について学びます。現代を生きる上で必要な智恵と価値基準を見出す助けとなる授業にしたいと思えます。できるだけ多くの画像、写真などを用いて、理解の助けとしてゆきます。 2. カリキュラム上の位置づけ キリスト教主義大学の根幹となる科目であり、本学の教育全体の基礎となるべきものです。 3. 学びの意義と目標 この講座では、キリスト教主義大学で学ぶことの意義を考え、キリスト教について簡単な紹介をした後、おもに聖書の内容を学びます。講座終了時には、学生諸君が聖書についての基礎知識を持つことを目標とします。				
<b>評価方法</b> 1) 学期末試験 (90%) 2) キリスト教概論共通のレポートと課題 (10%) 3) 出席状況を加味して最終評価を出します。				
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス				

<b>必修</b> キリスト教概論A <span style="float: right;">春 週1回 2単位</span>
担当者：山ノ下 恭二
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 目的 本講義ではキリスト教の基礎であるキリスト教の神、聖書について詳しく解説し、旧約聖書の内容を詳しく解説していく。 キリスト教に触れるのは初めての学生も多いと考えているので、キリスト教の中心的メッセージを明確にしつつ、特に旧約聖書の中心的な用語についても詳しく解説していく。 2. カリキュラム上の位置づけ キリスト教入門的な位置づけであり、キリスト教関連科目の基礎となるべきものである。 3. 学びの意義と目標 キリスト教の神と日本の神との相違を知ること。聖書の内容を把握すること。古い契約、文学、預言の内容を明確に理解すること。
<b>評価方法</b> 授業出席は、授業数の3分の2以上出席。全学礼拝レポート、教会礼拝レポート、読書レポートの提出状況を重視。そして、学期末試験を実施。授業態度をも評価しつつ、総合的評価をする。授業出席30%、試験30%、レポート提出30%、授業態度10%。
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス

<b>必修</b> キリスト教概論B <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：相澤 一
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 内容 キリスト教は、文学や芸術だけでなく、政治や経済に対しても大きな影響を与えている。それは欧米に限らず現代日本においてもそうであり、現代社会を理解するためにはキリスト教の知識は必要不可欠であると言える。 本講義は、キリスト教信仰の基本内容を学びながら、それが現代に対して持っている意味を、現代の諸問題との関連において考察する。それを通して、この宗教が現代社会に対して持っている意義について考察する。後期は主として新約聖書を学ぶ予定である。 (2) カリキュラム上の位置づけ 本講義は、キリスト教学校である聖学院大学において要求される基礎知識の習得を目標とする、いわばスタートラインに位置するものであり、ぜひ真面目に取り組んで欲しい。 (3) 学びの意義と目標 この講義は、学生をキリスト教に改宗させることを目標としてはいない。キリスト教に関する誤解を正し、正しい知識に立って、学生諸君が「キリスト教が語っていることは自分にとってどういう意味があるのか」と自ら問い始めるのが、この講義の目標である。
<b>評価方法</b> おおよその目安であるが、毎回の出席（＝平常点・授業態度）(30%)、全学礼拝および教会礼拝出席レポート(20%)、期末試験(50%)の総合点で評価する。
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス

<b>必修</b> キリスト教概論B <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：石田 学
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 講座の目的 わたしたちの世界は、いろいろな問題が複雑に絡み合い、単純に善悪を決めることのできない世界です。そのような世界の中にあって、わたしたちはできるだけ善い生き方を志し、努める責任があります。この講座では「善を生きる」を主題として、この世界の中でわたしたちがどう生きるべきかを、キリスト教的理解に基づいて、共に考えてゆきます。 2. 講座の進め方 人々が善悪をどのように理解してきたかを概観し、キリスト教の考えを紹介します。そのうえで、今日の世界でわたしたちが直面し、判断を迫られる諸問題について具体的に考えてみましょう。ビデオや映像などを通して具体的に問題提起し、小グループで話し合い、考えを整理してゆきます。取り組みやすいように、ワークシートを用意します。 3. 目標 「善を生きる」ということをキリスト教的視点に基づいて考えることのできる基礎を築きます。
<b>評価方法</b> ワークシートの評価50%。 学期末の小レポート20% 課題レポート10% 出席評価20%
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス

<b>必修</b> キリスト教概論B <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：菊地 順
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 内容 初めてキリスト教に触れる学生を念頭に置きながら、現代世界の成立において重要な役割を果たしてきたキリスト教の基本的な点について、聖書を中心に学びます。 (2) カリキュラム上の位置づけ キリスト教は、大学の建学の理念の根幹をなすだけではなく、欧米文化の基底をなす重要な位置を持っていますので、この授業はすべての学びの基礎となる科目です。 (3) 学びの意義と目標 春学期の学びを踏まえ、主にキリスト教の中心をなすイエス・キリストの生涯と教えについて、新約聖書を用いて、できるだけ詳しく学びます。また授業では、できるだけ映像なども取り入れて、親しみやすい内容にしたいと思います。
<b>評価方法</b> 出席状況、課題、試験の全体を評価して成績を出します。割合は、出席30%、課題20%、試験50%です。ただし、欠席が3分の1以上の人、また課題の未提出の人は、試験を受ける資格がありません。
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス

必修 キリスト教概論B 秋 週1回 2単位
担当者：久保島 理恵
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容 本講義では主に旧約聖書を取り上げる。よく知られているエピソードを取り上げながら、わたしたちが人生の中で直面する諸問題と関連づけて考えていく。また新約聖書とのつながりも明らかにしたい。 (2)カリキュラム上の位置づけ 「神を仰ぎ、人に仕う」というスクール・モットーは、キリスト教信仰に貫かれている。従って、本講義は自分の学びの場の土台を知るといった意味をもっている。 (3)学びの意義と目標 旧約聖書は単なる遠い昔の歴史物語ではない。そこには、現代に生きるわたしたちへの方強いメッセージがある。旧約聖書の学びを通して、キリスト教への理解を深めるとともに、自分の生き方を見つめ、またこの現代社会をとらえる目を養ってほしい。
<b>評価方法</b> 出席点(25%)、授業毎の小レポート(25%)、礼拝レポート(25%)、学期末レポート(25%)を合わせて評価する。
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス

必修 キリスト教概論B 秋 週1回 2単位
担当者：左近 豊
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 キリスト教の基本的な内容を新約聖書、キリスト教の歴史を通して学ぶ。秋学期は、「イエス・キリストとは誰か？」との問いを巡って新約聖書、キリスト教史の中でなされてきた様々な証言に耳を傾ける。そしてこれらのキリスト証言が日本にもたらした影響について学ぶ。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目に属する必修科目。キリスト教について初めて学ぶ人を対象とする。 3. 学びの意義と目標 イエス・キリストについて新約聖書、キリスト教の歴史においてどのような理解がなされてきたかを述べる キリスト教と日本の出会い、その影響について論じることができる
<b>評価方法</b> 期末試験40% 出席・授業参加30% 礼拝出席レポート20% 小クイズ(5回)10%
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス

必修 キリスト教概論B 秋 週1回 2単位
担当者：佐野 正子
<b>講義の目標及び概要</b> キリスト教への理解を深めるために、秋学期の前半で、キリスト教的人間観、世界観、歴史観、キリスト教的コミュニティのあり方などを考察する。そして後半では、キリスト教の歴史と文化について学ぶ。
<b>評価方法</b> 受講態度、毎回の小レポート、礼拝レポート、学期末試験を総合的に判定して評価する。
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス

必修 キリスト教概論B 秋 週1回 2単位
担当者：藤原 淳賀
<b>講義の目標及び概要</b> 本講義は、キリスト教に初めて触れる人が、キリスト教の基本的しかし本質的内容を理解できるようにすることを目的としている。  秋学期には、新約聖書を中心に、イエス・キリストについて、人について、救いについての理解を深める。またキリスト教史とプロテスタンティズムについて概観する。
<b>評価方法</b> クイズ 60% 期末テスト 40%
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス

<b>必修</b> キリスト教概論Ⅱ <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：柳田 洋夫
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 キリスト教は、民主主義や資本主義を柱とするこの近代世界を成立させた原動力であるとともに、私たちに生きる勇気と指針を与えるものでもある。秋学期は、初学者にも理解できるキリスト教入門を心がけつつ、新約聖書と教会の歴史について学ぶ。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 本学における基礎科目に属する必修科目である。 〈学びの意義と目標〉 聖書に親しみ、キリスト教についての基礎知識を習得するとともに、キリスト教によって培われる新しい生き方とは何かについて考察し、それぞれの実践に生かす。
<b>評価方法</b> 出席・参加度40%、オンラインレポート40%、礼拝レポート20%。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合、また、オンラインレポート未提出の場合は評価の対象としない。
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会

<b>必修</b> キリスト教概論Ⅱ <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：山ノ下 恭二
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 目的 本講義ではキリスト教の基礎である新約聖書の内容に詳しく解説する。イエスの生涯、十字架と復活、教会の成立、ヨーロッパ世界への伝道を解説する。 新約聖書の用語を詳しく解説し、キリスト教が伝えようとする贖い、信仰、義、愛、を解説することによって、学生が正しい理解をもってキリスト教の本質を把握することを目的とする。  2. カリキュラム上の位置づけ キリスト教入門的な位置づけであり、キリスト教関連科目の基礎となるべきものである。  3. 学びの意義と目標 新約聖書の内容を学生が把握し、キリスト教についてより深く知るようにむかわせること。
<b>評価方法</b> 授業出席は、授業数の3分の2以上出席。全学礼拝レポート、教会礼拝レポート、読書レポートの提出状況を重視。そして、学期末試験を実施。授業態度をも評価しつつ、総合的評価をする。授業出席30%、試験30%、レポート提出30%、授業態度10%。
<b>教科書</b> 『聖書 口語訳 JC44 ※口語訳以外でも可』日本聖書協会 『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会 『聖学院の精神と歴史』聖学院ゼネラルサービス

<b>必修</b> 基礎英語入門(書き方) <span style="float: right;">春 秋 週1回 1単位</span>
担当者：小林 茂之/副田 恵/中島 佐和子/松村 良
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容◆ 表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎から学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成して表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 1年生の必修科目である。また、大学で必要とされる表現力の基礎を学ぶ科目でもあるので、充実した大学生活を送るためにもぜひ1年生で修得してほしい。 ◆学びの意義と目標◆ 表現したつもり、伝えたつもり、になって、相手に着実にそれが伝わったのかを意識しないままに発信される文章は、時には思わぬ暴威を振るうことになる。相手に理解されるよう着実に説明するために論理的に表現することは、自分の思考を論理的に整理することに繋がるであろう。
<b>評価方法</b> 出席および授業中に出された課題の取り組み姿勢と提出物により、評価する(出席 30%、参加態度 20%、提出物 50%)ただし、AHレポートの提出を絶対条件とする。
<b>教科書</b> 橋本 修他『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』三省堂

<b>必修</b> 基礎英語入門(書き方) <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：上嶋 康道
<b>講義の目標及び概要</b> 講義の目標及び概要 1 内容 さまざまな題材を通して総合的な表現力を身につけます。高校までに比べて、大学では多くの文章を書くこととなります。その準備とともに、卒業後にも役立つ文章力の土台作りを目的にします。ここで学んだことを利用して、秋学期の予備演習Cではさらに総合的なコミュニケーション力を身につける事を目指します。 2 カリキュラム上の位置づけ あらゆる科目で必要となる日本語表現の基本を身につける授業です。 3 学びの意義と目標 具体的には、 (1)友人など気心の知れた友人など身近な人にだけでなく、他者に向けて事実を分かり やすく述べる力 (2)同じく他者に向けて自分の考えを明確に述べる力を付けることを目標とします。
<b>評価方法</b> 出席点2割、平常点6割、レポート2割で評価します。平常点は、毎回の授業で書く文章の質と課題に取り組む姿勢によって決まります。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<p><b>必修</b> 基礎教育入門(書き方) <b>春</b> 週1回 1単位</p>
<p>担当者：新井 尚子</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 この講義では、学生の皆さんに学術的な文章を書くための基礎知識を身につけてもらいます。文章を書く実践を通して、「書く」ことの基本ルールと文章表現の技術を指導します。原則として、毎回「書く」作業を行い、提出してもらいます。それを添削し、アドバイスを加えて返却します。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 必修の基礎教育科目です。大学での全ての学びの基礎になります。</p> <p>3. 学びの意義と目標 大学で学ぶためには様々な能力が必要とされますが、中でも「書く」能力は非常に重要です。レポートや論文を書くことは、大学での学問の根幹となる大事な作業となります。 400字詰原稿用紙5枚から10枚程度の文章が容易に書ける能力を目標とします。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席点40%、提出物40%、授業への参加態度20%で総合的に評価します。定期試験は行いません。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

<p><b>必修</b> 基礎教育入門(書き方) <b>春</b> <b>秋</b> 週1回 1単位</p>
<p>担当者：吉田 憲一</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>講義の目標及び概要</p> <p>1 内容 (1)大学生にふさわしいレポート、論文を書く力を身につける。そのために必要な情報収集、論理構成、文章表現の力を身につける。 (2)英語でレポートを書く力を身につける。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ 大学での勉学の基礎となる英文作成能力を身につけようとする授業である。</p> <p>3 学びの意義と目標 英語でまとまった主張をする基礎を身につける。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席 30% 提出物 40% 最終提出物(英文) 30%</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

<p><b>必修</b> 基礎教育入門(留学生用書き方) <b>秋</b> 週1回 1単位</p>
<p>担当者：中島 佐和子</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>◆内容◆ 自己紹介や大学でのノートのとり方から始め、大学生活で必要とされる表現力の基礎を学んでいく。また、アセンブリーアワーに実施される講演会に出席し、レポートを提出する。政治経済学科クラスの特性を生かした授業展開をしていきたい。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 1年生の必修科目である。</p> <p>◆学びの意義と目標◆ 日本人学生と同じテキストを使用することによって、日本の大学での授業理解と日本文化への理解を深めたい。 自分の考えを論理的に構成して表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席および授業中に出された課題の取り組み姿勢と提出物により、評価する(出席 30%、参加態度 20%、提出物 50%)。また、アセンブリーアワー講演会のレポート提出を課題とする。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>橋本修・安部朋世・福岡健伸『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』三省堂</p>

<p><b>必修</b> 基礎教育入門(留学生用書き方) <b>春</b> 週1回 1単位</p>
<p>担当者：北村 淳子</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>◆内容◆ 表現法の初級にあたるこの講義では、自己紹介や大学でのノートのとり方から始めて、大学生活で必要とされる表現力の基礎から学んでいく。その上で、自分の考えを論理的に構成して表現する力を育て、レポートや論文の書き方の基礎を身に付けることを目標とする。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 1年生の必修科目である。また、大学で必要とされる表現力の基礎を学ぶ科目でもあるので、充実した大学生活を送るためにもぜひ1年生で修得してほしい。</p> <p>◆学びの意義と目標◆ 表現したつもり、伝えたつもり、になって、相手に着実にそれが伝わったのかを意識しないままに発信される文章は、時には思わぬ暴威を振るうことになる。相手に理解されるよう着実に説明するために論理的に表現することは、自分の思考を論理的に整理することに繋がるであろう。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席および授業中に出された課題の取り組み姿勢と提出物により、評価する(出席 30%、参加態度 20%、提出物 50%)ただし、AHレポートの提出を絶対条件とする。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>橋本 修他『大学生のための日本語表現トレーニング スキルアップ編』三省堂</p>

<b>必修</b> 基礎教育入門(留学生用)【書方】 <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：鈴木 孝恵
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 大学での勉学に必要な文章表現の基礎力を養成する。まず大学生活で必要となる話し言葉と書き言葉の違いやノートのとり方などを学び、次に小論文の書き方を段階的に練習し、最後にレポートを作成する。この過程で、文法、表記、語句を増強するための練習や、各自のテーマを絞り込むための議論も行い、レジュメの書き方も学ぶ。また、毎回の小課題として「書く」作業を行うほか、AHの講演についてレポートも課す。 2. カリキュラム上の位置づけ 留学生のための必修科目である。大学で必要とされる書き方の基礎を学ぶため、1年生での修得が望まれる。「基礎教育入門(書き方)」に対応する科目であり、ここで学んでから、秋学期に「予備演習C」を日本人学生とともに受講することになる。 3. 学びの意義と目標 論理的文章を書くための基本的知識と技術を身につける。特に自分なりの問題設定や主張が求められるレポート作成では、大学だけでなく社会に出てからも役立つ文章力の土台作りを行う。
<b>評価方法</b> 提出物50%、出席及び参加態度50%を総合して評価する(変更されることもある)。欠席が3分の1を超える場合は評価対象とならない。また、AH課題の提出を絶対条件とする。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>必修</b> 基礎教育入門(話し方) <span style="float: right;">春 秋 週1回 1単位</span>
担当者：秋山 隆/村田 昭/寺田 道雄/岡部 晃彦
<b>講義の目標及び概要</b> この講義は1年生を対象に「相手に的確に伝わる話し方」を学ぶものです。日本人はお喋りは得意でも公的な場で的確に話すことが苦手だといわれています。しかし、今、世界はグローバル化がすすみ、国内はもとより、国際間においても自分の主張や相手の意見を交換しあう場はますます増大しています。そこで必要となってくるのが「自分の考えを相手に伝える」「相手の発言を聞く」「自分の意見と相手のそれとの違いを明確にし問題解決のため両者で展望を模索する」能力です。ひとことでいえば「パブリックスピーキング能力」、つまり“一定の時間内に、一定の内容を、筋道たてて話せる力”、これを学びます。これはゼミでの発表や就職時の面接、さらに社会人になった時など必ず役に立つものです。講師はNHKアナウンサーです。放送80年の歴史の中で培ったノウハウを駆使し、「発音・発声」から「話の組み立て」などひとりひとり実践トレーニングをとおして学んでもらいます。
<b>評価方法</b> 毎回の授業参加の積極性を見て評価する。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>必修</b> 情報リテラシー <span style="float: right;">春集中 秋集中 2単位</span>
担当者：国分 道雄
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 授業の目的 現代社会において、情報を取り扱うことは必須の技術である。また、大学において、日常的にネットワークを使い、情報を収集し、まとめ、発表する力は授業を受ける上で欠かせない技術である。本科目ではパソコン検定(通称P検)4級以上の合格を目指す。 2. カリキュラムの位置づけ 基礎科目で、必修である。 3. 授業の目的と意義 P検は公的な資格であり、社会に出て機能する資格であるとともに、それを1年次にとることにより、自信を持って大学での学習を進めることができる。 4. その他 受講申込は証紙購入の上、各講座開始日一週間前までに情報システム課に提出のこと。
<b>評価方法</b> パソコン検定試験4級以上に合格することで単位修得(N認定)となる。試験は各集中講座の最終日に実施されるが、学外で受験した場合でも合格証を提出することで単位が認められる。
<b>教科書</b> パソコン検定協会事務局『P検オフィシャル教材『CS-ONE』』パソコン検定協会事務局

<b>必修</b> 基礎教育入門(コンピュータ)【A】 <span style="float: right;">春集中 秋集中 1単位</span>
担当者：国分 道雄
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 授業の目的 ハイテク化が絶え間なく進行している現代社会において、パソコンは急速に普及が進み、学校・企業はじめ社会において不可欠なものとなりつつある。しかしながら、パソコンは非常に便利なツールであるが、決して簡単に使いこなせるというものではない。大学の基礎教育の一環としてこのコンピュータ学習は、コンピュータをゼロから学習し、ワープロと表計算ソフトを使いこなす、更にインターネットを駆使できるようになることを目的としている。 2. カリキュラムの位置づけ 基礎科目で、必修である。 3. この科目の目標 大学生活に必要なレポート作成や発表が出来るだけのソフトの基礎を身につけることができる。
<b>評価方法</b> 提出課題を、総合点と合格課題数の両面から採点し評価する。単位修得のためには、総合点・合格課題数で9課題以上合格かつ60点以上をとり、習熟度テストに合格する必要がある。
<b>教科書</b> 聖学院大学編『Paso Do』

<b>必修</b> 基礎教育入門(コンピュータ基礎)B <b>春集中</b> <b>秋集中</b> <b>1単位</b>
担当者：国分 道雄
<b>講義の目標及び概要</b> 1、授業の目的 ハイテク化が絶え間なく進行している現代社会において、パソコンは急速に普及が進み、学校・企業はじめ社会において不可欠なものとなりつつある。しかしながら、パソコンは非常に便利なツールであるが、決して簡単に使いこなせるというものではない。大学の基礎教育の一環としてこのコンピュータ学習は、コンピュータをゼロから学習し、ワープロと表計算ソフトを使いこなし、更にインターネットを駆使できるようになることを目的としている。 2、カリキュラム上の位置づけ 基礎科目で、必修である。 3、この科目の目標 大学に必要なレポート作成・発表に使用するソフトの基礎が習得できる。
<b>評価方法</b> 提出課題を、総合点と合格課題数の両面から採点し評価する。単位修得のためには、総合点・合格課題数で9課題以上合格かつ60点以上をとり、習熟度テストに合格する必要がある。
<b>教科書</b> 聖学院大学『Paso Do』

<b>選択</b> コンピュータ応用講座A <b>春</b> <b>秋</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：二神 常爾
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容◆ データベースは大量のデータを整理したものであり、データベース・ソフトによりデータの検索やデータ同士の関連付けを行うことができる。授業では、代表的なデータベース・ソフトであるアクセスの基本的な機能について学習する。アクセスは大量のデータを高速に処理し、データの管理を効率的に行うことができる。また、アクセスとエクセルの連携を通して、互いの利点を生かしたデータ処理ができることを学ぶ。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ コンピュータ基礎A、Bを履修した学生を対象に、ノートパソコンを用いて実習を行う。 ◆学びの意義と目標◆ 企業の従業員や取引先の数が増大し、大量のデータを高速に処理する技術が必要になってきた。情報化技術の進展はそれを可能にした。例えば、商品の売れ筋把握や在庫管理などでデータの高速処理が行われている。データの高速処理の技術は、企業だけでなく、様々な組織で必要になっている。アクセスの中の様々な機能を利用することによって、データベースの基本的考え方を習得し、データ処理の基本技術を学ぶことができる。
<b>評価方法</b> 出席点(約35%) + 課題(約30%) + 試験(約35%)
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択</b> コンピュータ応用講座B <b>春</b> <b>秋</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：鈴木 省吾
<b>講義の目標及び概要</b> 1. Webページを構成するマークアップ言語「HTML」をベースに、デザイン性のあるサイトを作るための「stylesheet/css」をあわせて学習する。 2. コンピュータ基礎を終えた学生を対象に、より高度なコンピュータ/インターネットの利用法を学ぶ。 3. コンピュータとインターネットを、情報収集や整理の道具ばかりでなく、情報発信のツールとして利用できることを目標とする。
<b>評価方法</b> 4分の3以上の出席を評価の前提とする。 授業内の課題が50%、持ち帰りの課題が50%で評価を行う。
<b>教科書</b> エビスコム『HTML/XHTML&スタイルシートレッスンブック』 ソシム

<b>選択</b> ITパスポート講座 <b>春</b> <b>秋</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：国分 道雄
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 2009年度から情報処理技術者試験に新設された国家試験「ITパスポート試験」で求められる総合的な知識を幅広く学ぶ。試験の内容は、テクノロジー系(IT技術)・マネジメント系(IT管理)・ストラテジ系(経営全般)の3分野に分かれている。外部講師を招き、講義を行う。 〈位置づけ〉 基礎科目の中の選択科目であり、「コンピュータ基礎A、B」や「情報リテラシー」を修得した学生が、さらに幅広い知識を身につけるための科目である。 〈学びの意義と目標〉 高度情報化された現代社会においては、これからの社会で働く全ての人にInformation Technologyを利用することが求められている。ITを十分に活用するためには、事務系・技術系いずれの職種でも、ITと経営全般に関する総合知識が必要になる。「ITパスポート試験」に合格できる知識を学ぶことで、これからの職業人として必要なITスキルを身につけてもらいたい。
<b>評価方法</b> 期末試験(50%)、課題提出(30%)、出席(20%)
<b>教科書</b> インフォテック・サーブ編『ここから始めるITパスポート』インフォテック・サーブ インフォテック・サーブ編『ITパスポート試験問題集』インフォテック・サーブ



選択 書き方表現応用講座		秋	週1回	1単位
担当者：高桑 佳與子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉漫然と文を書いている、文章は上手くなりません。随想文、手紙文、レポート、エントリーシート…、楽しい文、真面目な文…いろいろな文章に対応できる力をつけます。自分が書きたいことは何かという基本を押さえ、言葉・文体の重要性や論の運び方等工夫を凝らして、力のある文章が書けるようにしていきます。ほとんど毎授業時間ごとに課題を出し、実際に文章を書いてみます。</p> <p>年度によって、後半の授業内容は変化。レポートの書き方実践として、新聞の切り抜き資料を分類整理したり、アンケート用紙を作成しデータを集計した年度、パンフレットの作製をした年度もあります。昨年は、各人が学内を取材し、文章スタイルを考えて作品化しました。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉基礎教育入門（書き方）の学習を生かしながら、更に「書く力」を応用発展させる講座です。</p> <p>〈学びの意義と目標〉今、みなさんが持っている「書く力」をレベル・アップしていくこと、読み手の印象に残る文章を書く力をつけることが目標です。社会に出てからも役立つ文章力、きちんとした「良い形で」相手に伝わる文章を作成する力をつけましょう。</p>				
<b>評価方法</b>				
授業参加・授業時提出物60% 最終課題提出物40%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 書き方表現応用講座		秋	週1回	1単位
担当者：松村 良				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1、内容 授業時間内に与えられた作文課題を書き、それについての講義やアドバイスを受けることで、文章の書き方について実践的に学習する。課題の中には、何を書くかを自分で選択し、話題を絞り、主題を決めなければならないものもある。また、論拠となる文献資料を集めたり、調査を行ったりする場合もある。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ 2年生以上の選択科目であり、文章表現の基礎を学んだ学生が、さらにレポートや論文を書くための技術を身につけるためのものである。</p> <p>3、学びの意義と目標 この授業では、より実践的な「文章表現の技術」を身につけることを目標とする。具体的には、出来るだけ簡潔な表現で自分の考えをまとめ、自分の考えの根拠をはっきりと示し、読み手の立場に立ったわかりやすい説明や、論理的な構成を心掛けることである。</p>				
<b>評価方法</b>				
成績は、作文その他の提出物による評価80%、出席20%で算出する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 話し方表現応用講座		秋	週1回	1単位
担当者：川野 一宇				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1 内容 「少し改まった場で話をする際何が必要なのか」を習得する。課題に対する素材の選び方、その素材の組み立て方、具体例は何か、表現は適切か、制限時間を守れたか（例3分）などを、録音再生を随時使用しながら多角的に吟味し、演習で実践する。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ この講座は、1年生必修の「基礎教育入門（話し方）」で出席、成績ともに良好な2年生以上を対象とするハイレベルの講座である。</p> <p>3 学びの意義と目標 1年生で培った基礎をもとに、「時間内に、整理した形で話が出来、その内容を明確に聞き手に伝えられる応用力」を養うことを目標とする。</p>				
<b>評価方法</b>				
日常の「話し方表現」の積み重ね（30%） 出席日数（20%） 課題スピーチ（50%）				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

必修 ECA (Speaking) I		春	秋	週2回	2単位
担当者：L. フラムソン/K. ヒル/C. ギブソン/D. ガン/J. パーン/L. アーノルド/G. カール					
<b>講義の目標及び概要</b>					
<p>1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目</p> <p>3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。このカリキュラムには、会話において使用頻度の高い、3,000語の語彙が含まれている。文脈で使われる語彙を実際に利用できるようになることが目的である。</p>					
<b>評価方法</b>					
1. 出席状況、授業態度・参加 30% 2. 語彙の宿題・小テスト 20% 3. スピーキングテスト（2回）30% 4. 期末試験 20%					
<b>教科書</b>					
Bob Diem & Roberto Rabbini 『Out Front』 E. E. P (Kyushu) D. Martin 『Talk a Lot I, II』 EFL Press John Pak 『Let's Chat』 EFL Press ECA Teachers 『A Road to Success』 Seigakuin University Press C. Kahl 『English Steps』 SGS					

<b>必修 ECA (Speaking) II</b> <span style="float: right;">春 秋 週2回 2単位</span>
担当者: M. サベット/D. ギブソン/L. アーノルド/L. フラムソン/D. ガン/K. ヒル/D. パーン/C. カール
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 英語学習をするにあたって、「コミュニケーション・アプローチ」を採用する。流暢に話すことと必要な文法を意識することに焦点をあわせる。従って、会話（聞くこと、話すこと）に必要なスキルを強調し、学習する内容に合わせた実践的なテーマを取り入れている。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の英語必修科目 3. 学びの意義と目標 総合的な目標は、様々な場面において実践できるだけの必要な英語力を身につけるレベルである。このカリキュラムには、会話において使用頻度の高い、3,000語の語彙が含まれている。文脈で使われる語彙を実際に利用できるようになることが目的である。
<b>評価方法</b> 1. 出席状況、授業態度・参加 30% 2. 語彙の宿題・小テスト 20% 3. スピーキングテスト (2回) 30% 4. 期末試験 20%
<b>教科書</b> Bob Diem & Roberto Rabbini 『Out Front』 E. E. P (Kyushu) D. Martin 『Talk a Lot I』 EFL Press John Pak 『Let's Chat』 EFL Press ECA Teachers 『A Road to Success』 Seigakuin University Press C. Kahl 『English Steps』 SGS Mark Helgesen 『English Firsthand I』 Longman

<b>必修 ECA (Cinema) I</b> <span style="float: right;">春 秋 週1回 1単位</span>
担当者: チェンバレン 暁子/島田 洋子/能町 和子/鈴木 仁/K. ヒル/L. フラムソン/メイス みよ子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 授業の概要 欧米の映画を用い、英語のコミュニケーション能力を養う。映画に出てくるさまざまな英語表現を学び、文化背景についても話し合う。LL機能を用い発音練習も行う。 2. カリキュラム上の位置づけ 学科により基礎科目群の英語必修科目または選択科目となる。 3. 学びの意義と目標 大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。
<b>評価方法</b> 課題 (含 小テスト、レポート、発表、出席、態度) 50%, 学期末テスト50%
<b>教科書</b> 『School of Rock』 スクリーンプレイ

<b>必修 ECA (Cinema) II</b> <span style="float: right;">春 秋 週1回 1単位</span>
担当者: 長崎 睦子/チェンバレン 暁子/島田 洋子/能町 和子/鈴木 仁
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 授業の概要 欧米の映画を用い、英語のコミュニケーション能力を養う。映画に出てくるさまざまな英語表現を学び、文化背景についても話し合う。LL機能を用い発音練習も行う。 2. カリキュラム上の位置づけ 学科により英語必修科目、または英語選択科目である。 3. 学びの意義と目標 大学生としての基礎英語コミュニケーション能力を養成する。
<b>評価方法</b> 課題 (含 小テスト、レポート、発表、出席、態度) 50%, 学期末テスト50%
<b>教科書</b> 椎原寛基・W. Nixon 『About A Boy』 スクリーンプレイ

<b>必修 ECA (Reading) I</b> <span style="float: right;">春 秋 週1回 1単位</span>
担当者: チェンバレン 暁子/島田 洋子/森 容子/鈴木 仁/D. ガン/メイス みよ子/印田 佐知子
<b>講義の目標及び概要</b> 1: 授業の概要 様々なタイプの読み物を通し、基礎的な英語読解能力を養う。それに必要な文法、語彙力を高め、リーディングスキルも学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見をライティングで表現する。 2: カリキュラムの位置づけ 学科により基礎科目群の英語必修科目または英語選択科目である。 3: 学びの意義と目標 大学生としての基礎英語読解力を養成する。
<b>評価方法</b> 課題 (含む小テスト、レポート、発表、出席、態度) 50%, 学期末テスト50%
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>必修 ECA(Reading) II</b> <span style="float: right;">春 秋 週1回 1単位</span>
担当者: チェンパレン 暁子/島田 洋子/森 容子/鈴木 仁/能町 和子/メイス みよ子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 授業の概要 様々なタイプの読み物を通し、基礎的な英語読解能力を養う。それに必要な文法、語彙力を高め、リーディングスキルも学習する。また、リーディングのテーマに対する自分の意見をライティングで表現する。  2. カリキュラムの位置づけ 学科により基礎科目群の英語必修科目又は英語選択科目となる。  3. 学びの意義と目標 大学生としての基礎英語読解力を養成する。
<b>評価方法</b> 課題(含む小テスト、レポート、発表、出席、態度) 50%, 学期末テスト 50%
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 ECA(Survival English) Level A</b> <span style="float: right;">春 秋 週2回 2単位</span>
担当者: C. カール/C. ギブソン
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 簡単な英語、実践的な英語を理解したり伝えたりしなければならないさまざまなシチュエーションを体験する。また、コミュニケーションをよりなめらかにするために、特定の英語圏の国の文化と習慣について学ぶ。学期の終了時には、旅行先や滞在先の国の文化についての理解を深めていると同時に、メニューの見方や注文の仕方、病気や症状の用語や病院での説明の仕方、道の聞き方、値段の聞き方や買い物の仕方など、さまざまな状況でサバイバルすることができる語学力を得ているだろう。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目 3. 学びの意義と目標 英語圏への短期間の旅行や滞在に必要なスピーキングとリスニングのスキルを高めることを目的とする。
<b>評価方法</b> 1. 出席状況、授業への参加 50% 2. 課題の成績、20% 3. テスト結果 30%
<b>教科書</b> Angela Buckingham and Norman Whitney 『Passport to New Places New Edition 2』 Oxford University Press

<b>選択 ECA(Survival English) Level B</b> <span style="float: right;">春 秋 週2回 2単位</span>
担当者: L. フラムソン/D. ガン
<b>講義の目標及び概要</b> シチュエーションを体験する。また、コミュニケーションをよりなめらかにするために、特定の英語圏の国の文化と習慣について学ぶ。学期の終了時には、旅行先や滞在先の国の文化についての理解を深めていると同時に、メニューの見方や注文の仕方、病気や症状の用語や病院での説明の仕方、道の聞き方、値段の聞き方や買い物の仕方など、さまざまな状況でサバイバルすることができる語学力を得ているだろう。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目 3. 学びの意義と目標 英語圏への短期間の旅行や滞在に必要なスピーキングとリスニングのスキルを高めることを目的とする。
<b>評価方法</b> 1. 出席状況、授業への参加 50% 2. 課題の成績、20% 3. テスト結果 30%
<b>教科書</b> Buckingham and Norman Whitney 『Passport to New Places New Edition 1』 Oxford University Press

<b>選択 ECA(Survival English)</b> <span style="float: right;">秋 週2回 2単位</span>
担当者: K. ヒル
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 簡単な英語、実践的な英語を理解したり伝えたりしなければならないさまざまなシチュエーションを体験する。また、コミュニケーションをよりなめらかにするために、特定の英語圏の国の文化と習慣について学ぶ。学期の終了時には、旅行先や滞在先の国の文化についての理解を深めていると同時に、メニューの見方や注文の仕方、病気や症状の用語や病院での説明の仕方、道の聞き方、値段の聞き方や買い物の仕方など、さまざまな状況でサバイバルすることができる語学力を得ているだろう。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目 3. 学びの意義と目標 英語圏への短期間の旅行や滞在に必要なスピーキングとリスニングのスキルを高めることを目的とする。
<b>評価方法</b> 1. 出席状況、授業への参加 50% 2. 課題の成績、20% 3. テスト結果 30%
<b>教科書</b> Angela Buckingham and Norman Whitney 『Passport to New Places』 Oxford University Press

<p>選択 EOA(Test English) A (Level A) 春 秋 週1回 1単位</p>
<p>担当者：島田 洋子/チェンパレン 暁子/メイス みよ子</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 この授業では文法の総復習を中心に授業を進めて行く。英語は好きだが、文法が苦手な学生は、この授業で英文法をしっかり勉強して欲しい。英語資格テスト受験を目指している学生の基礎を養うための講座であるので、TOEICやTOEFLのテストパターンから例をとった文法練習も行なう。また、インターネットのサイトを使用して、学習したり、リスニングラボの教材も活用する。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 基礎科目群の英語選択科目で、TOEICやTOEFLの授業を効果的に履修できるための準備講座である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 資格英語でもっと良い点数が取れるよう、基礎文法力をしっかり身につける事を目標とする。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>平常点 (50点) (小テスト、宿題、授業参加を含む) 試験 (50点)</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>Michael Swan, Catherine Walter 『オックスフォード実用英文法、パートA：動詞と時制』 旺文社</p>

<p>選択 EOA(Test English) A (Level B) 春 秋 週1回 1単位</p>
<p>担当者：島田 洋子/鈴木 仁/能町 和子</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 この授業は文法の総復習を中心に進めて行く。英語は好きだが文法は苦手な学生は、この授業でしっかり基礎文法をやり直して欲しい。TOEICやTOEFLの問題パターンも授業で取り上げて練習する。また、インターネットの文法サイトを使って、自分のペースで学習したりもする。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 基礎科目群の英語選択科目で、資格英語テストの準備講座である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 資格テストでもっと良い点をとれるよう、基礎力をつけることを目標とする。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>平常点 (50点) (小テスト、宿題、授業参加態度) 試験 (50点)</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>Michael Swan, Catherine Walter 『旺文社実用英文法パートB修飾と副詞』 旺文社</p>

<p>選択 EOA(Test English) B (Level A) 春 秋 週1回 1単位</p>
<p>担当者：チェンパレン 暁子</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 この授業は文法の総復習を中心に進めて行く。英語は好きだが文法は苦手な学生は、この授業でしっかり基礎文法をやり直して欲しい。TOEICやTOEFLの問題パターンも授業で取り上げて練習する。また、インターネットの文法サイトを使って、自分のペースで学習したりもする。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 基礎科目群の英語選択科目で、資格英語テストの準備講座である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 資格テストでもっと良い点をとれるよう、基礎力をつけることを目標とする。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>平常点 (50点) (小テスト、宿題、授業参加態度) 試験 (50点)</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>『旺文社実用英文法パートB修飾と副詞』『旺文社実用英文法パートB修飾と副詞』 旺文社</p>

<p>選択 EOA(Test English) B (Level B) 春 秋 週1回 1単位</p>
<p>担当者：鈴木 仁/能町 和子</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 この授業は文法の総復習を中心に進めて行く。英語は好きだが文法は苦手な学生は、この授業でしっかり基礎文法をやり直して欲しい。TOEICやTOEFLの問題パターンも授業で取り上げて練習する。また、インターネットの文法サイトを使って、自分のペースで学習したりもする。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 基礎科目群の英語選択科目で、資格英語テストの準備講座である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 資格テストでもっと良い点をとれるよう、基礎力をつけることを目標とする。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>平常点 (50点) (小テスト、宿題、授業参加態度) 試験 (50点)</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>Michael Swan, Catherine Walter 『旺文社実用英文法パートB修飾と副詞』 旺文社</p>

選択 ECA(English Through Songs) A 春 秋 週1回 1単位
担当者: D. ガン
<b>講義の目標及び概要</b> English through Songs 履修条件 (ECA (Speaking I、II) 履修済み TOEFL 300点以上)  この科目は、現代ポップスを使用してリスニングとスピーキングのスキルを高めることに焦点を当てる。主な目的は、楽しくリラックスした雰囲気の中で英語の歌を紹介しながら英語上達に必要なスキルを補強していくことである。歌詞やさまざまなジャンルの音楽についてのディスカッションや興味ある音楽の短いプレゼンテーションを多くこなすことによって、スピーキング能力を向上させる。リスニングは歌詞の要点、単語の聞き取り、略式の発音を中心に行う。ミュージシャンの経歴、ポピュラー音楽の歴史、歌詞の訳などの課題が出される。学期末までには、人前で英語を話すことに自信を持ち、現代ポップスとミュージシャンに対する関心が高まり、現代西洋音楽の歴史を理解することができる。
<b>評価方法</b> Grading for this course will be based on: 1. Attendance and participation 2. Presentation 3. Quizzes
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選択 ECA(English Through Songs) B 秋 週1回 1単位
担当者: K. ヒル
<b>講義の目標及び概要</b> 履修条件 (ECA (Speaking I、II) 履修済み TOEFL 300点以上)  1. 内容 現代ポップスを使用してリスニングとスピーキングのスキルを高めることに焦点を当てる。歌詞やさまざまなジャンルの音楽についてのディスカッションを多くこなすことによって、スピーキング能力を向上させる。リスニングは歌詞の要点、単語の聞き取り、略式の発音を中心に行う。  2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目  3. 学びの意義と目標 楽しくリラックスした雰囲気の中で英語の歌を紹介しながら英語上達に必要なスキルを補強していくことである。
<b>評価方法</b> 1. Attendance and participation 20% 2. Assignment 20% 3. Discussion 30% 4. Final Test 30%
<b>教科書</b> English Through Songs 『Kent Hill』 Eigo Press

選択 ECA(English Through Songs) B 春 週1回 1単位
担当者: D. ガン
<b>講義の目標及び概要</b> English through Songs 履修条件 (ECA (Speaking I、II) 履修済み TOEFL 300点以上)  この科目は、現代ポップスを使用してリスニングとスピーキングのスキルを高めることに焦点を当てる。主な目的は、楽しくリラックスした雰囲気の中で英語の歌を紹介しながら英語上達に必要なスキルを補強していくことである。歌詞やさまざまなジャンルの音楽についてのディスカッションや興味ある音楽の短いプレゼンテーションを多くこなすことによって、スピーキング能力を向上させる。リスニングは歌詞の要点、単語の聞き取り、略式の発音を中心に行う。ミュージシャンの経歴、ポピュラー音楽の歴史、歌詞の訳などの課題が出される。学期末までには、人前で英語を話すことに自信を持ち、現代ポップスとミュージシャンに対する関心が高まり、現代西洋音楽の歴史を理解することができる。
<b>評価方法</b> Grading for this course will be based on: 1. Attendance and participation 2. Presentation 3. Quizzes
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選択 ECA(Communication) I (Level A) 春 週2回 2単位
担当者: G. ギブソン
<b>講義の目標及び概要</b> 英語を理解する外国人の子供を日本の幼稚園・保育園・小学校に迎える際に必要なコミュニケーション・スキルを養うことを目的とする。歓迎の挨拶、園内・校内設備の案内など実践に必要なコミュニケーション・アクティビティを行う。英語を理解する保護者のために、家庭配布プリントから必要な情報を英語で伝えるためのコミュニケーション・スキルを養う。日本の幼稚園・保育園・小学校の特徴と聖学院アトランタ国際学校 (SAINTS) の異なる文化的背景を英語で学ぶ。
<b>評価方法</b> 1. 出席状況 30% 2. 授業態度・参加 30% 3. テスト 40%
<b>教科書</b> プリントを配布する

<p>選択 ECA(Communication) I (Level B) 春 週2回 2単位</p>
<p>担当者：D. ガン</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 国際コミュニケーションに必要なスピーキングとリスニングのスキルの上達に焦点を当てる。この科目を受講することにより、幅広い状況でのコミュニケーションに自信を持って加わるために必要な語学力を徐々に身につけられるだろう。上記の目的達成に向けて、個人、ペア、小グループそしてクラス全体でさまざまなタスク中心のコミュニケーション・アクティビティを行う。さらに、学生が自分のメッセージをより効果的に伝えられるようコミュニケーション・ストラテジーを学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目</p> <p>3. 学びの意義と目標 高校3年間と大学1年次に修得した英語のコミュニケーション・スキルを更に上達させることを目的とする。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>1. 出席状況 20% 2. 授業態度・参加 20% 3. スピーキングテスト (2回) 30% 4. 期末試験 30%</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>David Paul 『Communication Strategies 1』 Cengage Learning Graeme and Palmer 『i Zone 1 &amp; 2』 Longman Graham-Marr 『Communication Spotlight, High Beginner』 ABAX</p>

<p>選択 ECA(Communication) I (Level C) 春 週2回 2単位</p>
<p>担当者：K. ヒル</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 国際コミュニケーションに必要なスピーキングとリスニングのスキルの上達に焦点を当てる。この科目を受講することにより、幅広い状況でのコミュニケーションに自信を持って加わるために必要な語学力を徐々に身につけられるだろう。上記の目的達成に向けて、個人、ペア、小グループそしてクラス全体でさまざまなタスク中心のコミュニケーション・アクティビティを行う。さらに、学生が自分のメッセージをより効果的に伝えられるようコミュニケーション・ストラテジーを学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目</p> <p>3. 学びの意義と目標 高校3年間と大学1年次に修得した英語のコミュニケーション・スキルを更に上達させることを目的とする。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>1. 出席状況 20% 2. 授業態度・参加 20% 3. スピーキングテスト (2回) 30% 4. 期末試験 30%</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>David Paul 『Communication Strategies 1』 Cengage Learning Graeme and Palmer 『i Zone 1 &amp; 2』 Longman Graham-Marr 『Communication Spotlight, High Beginner』 ABAX</p>

<p>選択 ECA(Communication) I 秋 週2回 2単位</p>
<p>担当者：J. バーン</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 国際コミュニケーションに必要なスピーキングとリスニングのスキルの上達に焦点を当てる。この科目を受講することにより、幅広い状況でのコミュニケーションに自信を持って加わるために必要な語学力を徐々に身につけられるだろう。上記の目的達成に向けて、個人、ペア、小グループそしてクラス全体でさまざまなタスク中心のコミュニケーション・アクティビティを行う。さらに、学生が自分のメッセージをより効果的に伝えられるようコミュニケーション・ストラテジーを学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目</p> <p>3. 学びの意義と目標 高校3年間と大学1年次に修得した英語のコミュニケーション・スキルを更に上達させることを目的とする。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>1. 出席状況 20% 2. 授業態度・参加 20% 3. スピーキングテスト (2回) 30% 4. 期末試験 30%</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>David Paul 『Communication Strategies 1』 Cengage Learning Graeme and Palmer 『i Zone 1 &amp; 2』 Longman Graham-Marr 『Communication Spotlight, High Beginner』 ABAX</p>

<p>選択 ECA(Communication) II (Level A) 秋 週2回 2単位</p>
<p>担当者：C. ギブソン</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 国際コミュニケーションに必要なスピーキングとリスニングのスキルの上達に焦点を当てる。この科目を受講することにより、幅広い状況でのコミュニケーションに自信を持って加わるために必要な語学力を徐々に身につけられるだろう。上記の目的達成に向けて、個人、ペア、小グループそしてクラス全体でさまざまなタスク中心のコミュニケーション・アクティビティを行う。さらに、学生が自分のメッセージをより効果的に伝えられるようコミュニケーション・ストラテジーを学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目</p> <p>3. 学びの意義と目標 高校3年間と大学1年次に修得した英語のコミュニケーション・スキルを更に上達させることを目的とする。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>1. 出席状況 20% 2. 授業態度・参加 20% 3. スピーキングテスト (2回) 30% 4. 期末試験 30%</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>A. Graham-Marr 『Communication Spotlight Pre-Intermediate』 ABAX</p>

選択 ECA(Communication) II (Level B) 秋 週2回 2単位
担当者：K. ヒル
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 国際コミュニケーションに必要なスピーキングとリスニングのスキルの上達に焦点を当てる。この科目を受講することにより、幅広い状況でのコミュニケーションに自信を持って加わるために必要な語学力を徐々に身につけられるだろう。上記の目的達成に向けて、個人、ペア、小グループそしてクラス全体でさまざまなタスク中心のコミュニケーション・アクティビティを行う。さらに、学生が自分のメッセージをより効果的に伝えられるようコミュニケーション・ストラテジーを学ぶ。  2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目  3. 学びの意義と目標 高校3年間と大学1年次に修得した英語のコミュニケーション・スキルを更に上達させることを目的とする。
<b>評価方法</b> 1. 出席状況 20% 2. 授業態度・参加 20% 3. スピーキングテスト (2回) 30% 4. 期末試験 30%
<b>教科書</b> 授業の中で指示する David Paul 『Communication Strategies 1』 Thomson Learning Graeme and Palmer 『i Zone 1 & 2』 Longman Graham-Marr 『Communication Spotlight, High Beginner』 ABAX

選択 ECA(Communication) II (Level C) 秋 週2回 2単位
担当者：J. バーン
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 国際コミュニケーションに必要なスピーキングとリスニングのスキルの上達に焦点を当てる。この科目を受講することにより、幅広い状況でのコミュニケーションに自信を持って加わるために必要な語学力を徐々に身につけられるだろう。上記の目的達成に向けて、個人、ペア、小グループそしてクラス全体でさまざまなタスク中心のコミュニケーション・アクティビティを行う。さらに、学生が自分のメッセージをより効果的に伝えられるようコミュニケーション・ストラテジーを学ぶ。  2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目  3. 学びの意義と目標 高校3年間と大学1年次に修得した英語のコミュニケーション・スキルを更に上達させることを目的とする。
<b>評価方法</b> 1. 出席状況 20% 2. 授業態度・参加 20% 3. スピーキングテスト (2回) 30% 4. 期末試験 30%
<b>教科書</b> 授業の中で指示する David Paul 『Communication Strategies 1』 Thomson Learning Graeme and Palmer 『i Zone 1 & 2』 Longman Graham-Marr 『Communication Spotlight, High Beginner』 ABAX

選択 ECA(Communication) I 春 週2回 2単位
担当者：J. バーン
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 国際コミュニケーションに必要なスピーキングとリスニングのスキルの上達に焦点を当てる。この科目を受講することにより、幅広い状況でのコミュニケーションに自信を持って加わるために必要な語学力を徐々に身につけられるだろう。上記の目的達成に向けて、個人、ペア、小グループそしてクラス全体でさまざまなタスク中心のコミュニケーション・アクティビティを行う。さらに、学生が自分のメッセージをより効果的に伝えられるようコミュニケーション・ストラテジーを学ぶ。  2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目  3. 学びの意義と目標 高校3年間と大学1年次に修得した英語のコミュニケーション・スキルを更に上達させることを目的とする。
<b>評価方法</b> 1. 出席状況 20% 2. 授業態度・参加 20% 3. スピーキングテスト (2回) 30% 4. 期末試験 30%
<b>教科書</b> 授業の中で指示する David Paul 『Communication Strategies 1』 Thomson Learning Graeme and Palmer 『i Zone 1 & 2』 Longman Graham-Marr 『Communication Spotlight, High Beginner』 ABAX

必修 ECA(Communication) I (Super A) 春 週2回 2単位
担当者：K. O. アンダスン
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 この科目では受講生の考えや意見を効果的に英語で伝える能力を高める学習を行う。語学の授業に置いては出席が重要であるため、この科目では最低80%の出席が必要条件である。外国語能力上達のためには100%の出席でも十分ではないため、自習は積極的にを行うことを望む。 2. カリキュラム上の位置づけ この科目はSLEPプレースメントテストのTOEFL換算スコア400点以上を取得した1年生を対象としている。この基準を満たす1年生はECA(Speaking) Iの代わりにこの授業を履修する。 3. 学びの意義と目標 この科目は高校の英語授業で学んだ英語コミュニケーションスキルをもとに進める。国際コミュニケーションのための英語の話し方、聞き取り、書き方スキルを上達させることを強調する。学生が自信をもって、色々なコミュニケーション状況で参加できるようになることを目指す。
<b>評価方法</b> 出席 10%、宿題 15%、小テスト 15%、口頭試験 30%、期末試験 30%
<b>教科書</b> Alistair Graham-Marr 『Communication Spotlight: Speaking Strategies and Listening Skills』 ABAX ELT



<b>必修 ECA (Communication) II (Super A)</b>	<b>秋 週2回 2単位</b>
担当者：K. O. アンダスン	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 ECA (Communication) I の授業で学んだ英語コミュニケーションスキルをもとに進めるつもりである。国際コミュニケーションのための英語の話しかた、聞き取り、書き方スキルを上達させることを強調する。小グループ、クラス全体で行うタスクベースや問題を解決する学習方法で進める。本来外国語能力上達のためには出席が100%でも十分とはいえず、自習をすることは必要条件である。宿題や聖学院大学のECAホームページを通しての追加練習を必ず行うこと。	
2. カリキュラム上の位置づけ この科目はECA (Communication) I の単位を取得した1年生を対象としている。	
3. 学びの意義と目標 American Council on the Teaching of Foreign Languages (ACTFL) ガイドラインによる口頭英語能力レベルが (中級の中) レベルまで上達することがこの科目の総合的な目標である。このレベルでは学生が自信を持って、色々なコミュニケーション状況で参加できるようになる。口頭テストは合計2回、筆記期末試験は行う。	
<b>評価方法</b> 出席 10%、宿題 15%、小テスト 15%、口頭試験 30%、期末試験 30%	
<b>教科書</b> Alistair Graham-Marr 『Communication Spotlight: Pre-Intermediate Speaking Strategies and Listening Skills』 Tokyo: Abax Ltd., 2006	

<b>選択 ECA (Cinema) III</b>	<b>春 週1回 1単位</b>
担当者：島田 洋子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 ECA (Cinema) III のクラスではECA (Cinema) I やECA (Cinema) II と同じく米、英の映画を使って授業を行います。Cinema III の授業の大きな違いは1学期で複数の映画を授業に取り入れ、歴史的、文化的な側面など今まであまり触れなかった面からも映画を観て考えていきます。	
2. カリキュラム上の位置づけ ECA (Cinema) II の修了者が対象です。	
3. 学びの目的と意義 映画を通して英語表現や発音も学びつつ、読解力の向上、そして異文化理解も目指す授業です。	
<b>評価方法</b> 宿題 20% 課題 30% 学期末試験 30% 授業参加 20%	
<b>教科書</b> Richard Curtis 『Love Actually (penguin readers)』 Pearson Longman Winston Groom 『Forrest Gump (penguin readers)』 Pearson Longman	

<b>必修 ECA (Cinema) III</b>	<b>秋 週1回 1単位</b>
担当者：長崎 睦子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 本授業では数本の映画を通して、英語圏の国々の文化や社会情勢などについて学ぶ。また映画からだけではなく、インターネットを利用して映画のテーマに関するリサーチを行い、自分の意見を組み立てていく。そして、ディスカッションを通してクラスメートとお互いの感想や意見を交換したり、プレゼンテーション、レポートを通して、自分の考えを発表したりする。さらに、映画のシーンを題材にしたリスニング練習やスピーキング練習、ロール・プレイなども行う。	
2. カリキュラム上の位置づけ SuperAの学生を対象にしたECA必修科目である。	
3. 学びの意義と目的 映画を通して、英語圏の国々の文化について学び、英語コミュニケーション能力を養うことを目標とする。	
<b>評価方法</b> 出席 10%、平常点 (授業への取り組み) 10%、Movie Review 10%、プレゼンテーション20%、レポート20%、期末テスト30% (評価内容は変更する可能性がある。変更する場合は、授業内で説明をするので確認すること。)	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 ECA (Cinema) III</b>	<b>春 秋 週1回 1単位</b>
担当者：メイス みよ子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 この授業では数本の映画を通して、英語圏の文化や社会情勢などについて学ぶ。また、映画からだけではなく、インターネットを利用して映画のテーマに関するリサーチを行い、自分の意見を組み立てる。そして、ディスカッションを通してクラスメートとお互いの感想や意見を交換したり、プレゼンテーション、レポートを通して、自分の考えを発表したりする。さらに、映画のシーンを題材にしたリスニング練習や映画についての読解練習も取り入れる。	
2. カリキュラムの位置づけ 選択科目であるが受講条件としてECA (Cinema) II が前提科目となっている。	
3. 学びの意義と目標 映画を通して異文化に対する理解を深める。またリサーチした内容をまとめ、自分の考えをしっかりとまとめ発表できることを目標とする。	
<b>評価方法</b> 平常点50点 (出席状況、宿題、授業の作業、参加態度) 課題点50点 (レポート、発表)	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選択 EOA(Reading Current Topics) I A 春 週1回 1単位
担当者：チェンバレン 暁子
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 講義内容 アメリカ3大ネットワークの一つであるABC放送の看板番組“World News Tonight”の映像音声とスクリプトを用いて、世界のニュースに触れながらReading, Listening, Speaking, Writingの養成を行う。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 実際にアメリカで放映されているニュースが教材であることから、英語の基礎文法を習得している学生の選択が望ましい。</p> <p>3. 学びの意義と目標 世界各国で起こっている様々な出来事に関し見聞を広めつつ、Reading, Listening, Speaking, Writingの養成を行う。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>試験40、小テスト20% 出席30、学習態度10%</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する Shigeru &amp; Kathleen Yamane 『ABC World News』 KINSEIDO</p>

選択 EOA(Reading Current Topics) I B 春 週1回 1単位
担当者：能町 和子
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1、内容 CBSニュースのテキストを用いて、ニュース原稿の一部を日本語に翻訳していく。世界でどんな出来事が起こっているのか、テキストと映像で理解し、関連語彙を覚えていく。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ 1年生英語を修了した段階でステップアップを図る。I なのでステップアップの入門的クラス。アクティビティは初級から中級。</p> <p>3、学びの意義と目標 比較的新しいニュースを英語で読み、あまり知らなかった事柄へは知識を揚げたり理解を深めたりする、また日米の視点の違い等を学ぶこと。ニュースで使われるシンプルな文法や語彙を身につけて行くこと。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席 15% 授業中に行うグループワーク 20% 毎週の課題（英文の暗記） 15% 中間試験 20% 期末試験 30%</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>Huynh 『CBS News Flash on DVD 2—CBSニュースフラッシュ2』 Cuong 他編著、『成美堂』</p>

必修 EOA(Reading Current Topics) I S 春 週1回 1単位
担当者：メイス みよ子
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 この授業は身の回りで起こっている興味深いトピックや、時事、医療、福祉、経済、芸能界など、幅広い分野での記事を読む。そこで使用されている語彙の習得だけでなく、様々な知識の習得、そしてそれらの内容を的確に分析判断できる思考力を養う。読解、語彙習得のためのいろいろなタスクを行なう。また読んだ内容を判断し、自分の意見を表現できるようになるための練習もして行く。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ Super Aクラスを対象とした英語必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 さらに読解力や語彙力を向上させることを目的とする。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>平常点（50点）（授業参加、発表、課題、宿題を含む） 試験（50点）</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>Sandra Heyer 『Even More True Stories』 ロングマン</p>

選択 EOA(Reading Current Topics) II A 秋 週1回 1単位
担当者：チェンバレン 暁子
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 講義内容 アメリカ3大ネットワークの一つであるABC放送の看板番組“World News Tonight”の映像音声とスクリプトを用いて、世界のニュースに触れながらReading, Listening, Speaking, Writingの養成を行う。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ 実際にアメリカで放映されているニュースが教材のため、英語の基礎文法を習得している学生の選択が望ましい。</p> <p>3. 学びの意義と目標 世界各国で起こっている様々な出来事に関し見聞を広めつつ、Reading, Listening, Speaking, Writingの養成を行う。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>試験 40%、小テスト 20% 出席 30%、授業参加度10%</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する Shigeru &amp; Kathleen Yamane 『ABC World News』 KINSEIDO</p>

<p><b>選択 ECA(Reading Current Topics) II B</b> 秋 週1回 1単位</p>
<p>担当者：島田 洋子</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容          授業では実生活に関連したトピックの読み物を通して英文読解に役立つスキルを学びます。英文読解には様々なスキルがあり、それらのスキルを習得することで、読解力のUPを目指します。リーディングを増やすことは読解力だけでなく、語彙力、文法力の向上にもつながるので、全体的な英語力に磨きをかけることも可能です。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ          ECA(Reading Current Topics) I の修了者が対象です。</p> <p>3. 学びの意義と目標          リーディングに対する苦手意識を取り除き、検定試験などでのリーディングスコアの向上を目標とします。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>課題 30% 授業参加 30% 学期末試験 40%</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>Jack C. Richards Samuela Eckstut-Didier 『Strategic READING 1』 Cambridge</p>

<p><b>必修 ECA(Reading Current Topics) II S</b> 秋 週1回 1単位</p>
<p>担当者：メイス みよ子</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>前期に引き続き、興味深いトピックや、時事、医療、福祉、経済、芸能界など、幅広い分野での記事を読む。教科書だけでなく、インターネットのニュース、関連記事をどんどん読んでいく。そこで使用されている語彙の習得だけでなく、様々な知識の習得、そしてそれらの内容を的確に分析判断できる思考力を養う。読解、語彙習得のためのいろいろなタスクを行なう。また読んだ内容を判断し、自分の意見を表現できるようになるための練習もして行く。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ          Super Aクラスを対象したECA(Reading Current Topics) I の継続の科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標          さらに読解力や語彙力を向上させることを目的とする。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>平常点 (50点) (授業参加、発表、課題、宿題を含む) 試験 (50点)</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>Sandra Heyer 『Even More True Stories』 ロングマン</p>

<p><b>選択 ECA(Presentation English)</b> 春 週2回 2単位</p>
<p>担当者：D. バーガー</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容：プレゼンテーションとは、「個人またはグループが特定のテーマを紹介・説明するためにする短い話」と定義されている。学生はこのプレゼンテーションの方式を学び、発表の際には補助教材、特に、パワーポイントを使用することも学ぶ。授業では完成したプロジェクトの発表の仕方を学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：この科目は、ECA (Speaking) や ECA (Communication) に続いて、ECAの最も上級のオーラルトラックの科目である。</p> <p>3. 学びの目標：この科目は、学生主体であり、英語のプレゼンテーションに必要なスキルを向上させることを通して、英語の流暢さも向上させることを目的とする。いろいろなプレゼンテーションの技法を学習する機会を通し、会話やリスニングの能力を上達させる事を目的としている。プレゼンテーション技法に触れることにより、オーラルと聴き取りのスキルを上達させることに焦点を当てる。また、それと同時に人の前で話す自信を得ることも目的としている。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>10% 授業への出席          15% 授業での参加態度          10% 授業外リソース          50% プレゼンテーション演習          15% 期末プレゼンテーション</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>Marion Grussendorf 『English for Presentations』 Oxford</p>

<p><b>選択 ECA(Pleasure Reading) A</b> 春 週1回 1単位</p>
<p>担当者：印田 佐知子</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>〈内容〉          自分の英語力に合った本を、楽しみながら多読（文章を分析しないで大意を把握する読書法）をしていく授業です。学生は、Graded Readersというレベル別に分かれたさまざまなジャンルの本の中から、各自の興味や好みに基づいて本を選び、授業の内外で学期を通してできるだけ多くの本を読み進めていきます。その間、読んだ本の記録をつけてもらい、授業中にクラスメートと本の情報・感想の共有をアクティビティを通じて行なってもらいます。学期末には、読んだ本の中から一冊を選び、英語でポスター発表をしてもらいます。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉          基礎科目群の英語選択科目である。</p> <p>〈学びの意義と目標〉          英語で読む習慣を身につけ、沢山読むことで自然に英語力を伸ばし、自分の好きな本を自分のペースで読み進めることで英語で読むことの楽しさ (pleasure of reading) を知る。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席、アクティビティへの参加、読書日誌、読書量、発表などから総合的に評価します。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する</p>

<b>選択 ECA(Pleasure Reading) B</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：印田 佐知子
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 自分の英語力に合った本を、楽しみながら多読（文章を分析しないで大意を把握する読書法）していく授業です。学生は、Graded Readersというレベル別に分かれたさまざまなジャンルの本の中から、各自の興味や好みに基づいて本を選び、授業の内外で学期を通してできるだけ多くの本を読み進めていきます。その間、読んだ本の記録をつけてもらい、授業中にクラスメートと本の情報・感想の共有をアクティビティを通じて行なってもらいます。学期後半には、受講者全員で推薦図書ブックレット（冊子）を作成します。  〈カリキュラム上の位置づけ〉 基礎科目群の英語選択科目である。  〈学びの意義と目標〉 英語で読む習慣を身につけ、沢山読むことで自然に英語力を伸ばし、自分の好きな本を自分のペースで読み進めることで英語で読むことの楽しさ（pleasure of reading）を知る。
<b>評価方法</b> 出席、アクティビティへの参加、読書日誌、読書、課題や発表などから総合的に評価します。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 ECA(Business) I</b> <span style="float: right;">春 秋 週1回 1単位</span>
担当者：チェンバレン 暁子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 国際社会のグローバル化に伴い、ビジネスにおいても英語はコミュニケーションの手段としてその必要性はますます高まってきている。本授業においては、将来仕事で英語が必要な場合に役立つ、実践的なビジネス英語の基礎やビジネス・マナーを学んでいく。  2. 基本的な英文法とPCの基本操作をマスターしている学生の履修が望ましい。  3. 授業では英語での仕事の探し方、英文履歴書の書き方、ビジネスE-mail、レターの書き方、電話の受け答えやメモの取り方などを学ぶ。また、様々なビジネス・シチュエーションでの会話の練習も行う。学期末には、働いてみたい会社のリサーチをインターネットで行い、パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行い、英語プレゼンテーションの基本を学ぶ。
<b>評価方法</b> 試験 40%、プレゼンテーション&小テスト 20% 出席 30%、授業参加度 10%
<b>教科書</b> 授業の中で指示する Satoru Toyoda『Essentials of Global Business English』 Nanun-do

<b>選択 ECA(Business) II</b> <span style="float: right;">春 秋 週1回 1単位</span>
担当者：チェンバレン 暁子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 国際社会のグローバル化に伴い、ビジネスにおいても英語はコミュニケーションの手段としてその必要性はますます高まってきている。本授業においては、将来仕事で英語が必要な場合に役立つ、実践的なビジネス英語の基礎やビジネス・マナーを学んでいく。  2. 基本的な英文法とPCの基本操作をマスターしている学生の履修が望ましい。  3. 授業では、様々なビジネス・シチュエーションでの会話や、商品の取引に関する英語を中心に学ぶ。学期末には、関心のある商品に関してインターネットでリサーチを行い、パワーポイントを使ってプレゼンテーションを行う。
<b>評価方法</b> 試験 40%、プレゼンテーション&小テスト 20% 出席 30%、授業参加度 10%
<b>教科書</b> 授業の中で指示する Satoru Toyoda『Essentials of Global Business English』 Nanun-do

<b>選択 英語入門(留学生用) I</b> <span style="float: right;">春 週2回 2単位</span>
担当者：尤 ブンキ
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 英語の基本的な技能（読・書・話・聞）を修得することである。話す・聞くについては、発音指導により、発音・ストレス・イントネーションを修得し、簡単な日常的会話も話せるように習得することである。読む・書くについては、文型・文法・単語について日本の中学校レベルの知識を修得することである。  〈カリキュラム上の位置づけ〉 入門的な位置づけである。しかし、基礎となるべきものである。  〈学びの意義と目標〉 ほとんど英語を知らない留学生一人ひとりに対して、英語に興味を持たせて、英語の基本的なコミュニケーションスキルを実践的に身につけること。
<b>評価方法</b> 出席：60% 中間・期末テスト：40% S：100～90点、A：89～80点、B：79～70点、 C：69～60点、D：59点以下、X：欠席による不合格
<b>教科書</b> 森住 衛『New Crown1』株式会社 三省堂 森住 衛『New Crown Teacher's Manual IとIIの音声CD1、CD2』株式会社 三省堂/英語704、804

<b>選択 英語入門(留学生用)Ⅱ</b>	<b>秋 週2回 2単位</b>
担当者：尤 フンキ	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 英語の基本の技能(読・書・話・聞)を修得することである。話す・聞くについては、発音指導により、発音・ストレス・イントネーションを修得し、簡単な日常的会話も話せるように習得することである。読む・書くについては、文型・文法・単語について日本の中学校レベルの知識を修得することである。  〈カリキュラム上の位置づけ〉 入門的な位置づけである。しかし、基礎となるべきものである。  〈学びの意義と目標〉 英語入門Ⅰを修了した留学生一人ひとりに対して、英語の基本のコミュニケーションスキルを実践的に身につけること。	
<b>評価方法</b> 出席：60% 中間・期末テスト：40% S：100～90点、A：89～80点、B：79～70点、 C：69～60点、D：59点以下、X：欠席による不合格	
<b>教科書</b> 森住 衛『New Crown2、3』株式会社 三省堂	

<b>選必 ドイツ語Ⅰ(初級A)</b>	<b>春 秋 週2回 2単位</b>
担当者：小谷 哲夫	
<b>講義の目標及び概要</b> 講義の目標及び概要 1. 内容 本講義はドイツ語の学習未経験者を対象としたクラスです。アルファベットの読み方から始め単語・文章への読み、そして文法を一つずつ丁寧に学習していき、ドイツ語の文章読解へと進めていきます。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎教育科目のなかの第二外国語の科目で、欧米文化学科の学生は「フランス語」とともに、選択必修科目です。 3. 学びの意義と目標 国際化・情報化の時代の今日、英語以外の外国語を学ぶことは大きな意義があり、欧米の文化をより深く理解する上でも、必須条件であると思います。 本講義では、先ず読みの徹底、そして文法と読解へと進みながら、初級ドイツ語を学んでいきます。日常的な表現による易しい文章であれば、自分で辞書を引いて読むことができる水準に達することを目標とします。	
<b>評価方法</b> 出席状況、並びに読み・和訳・練習問題を各自やってもらうことを平常点とし、全体の4割、残り6割は定期試験の成績で評価します。	
<b>教科書</b> 秋田 静男 他『ドイツ語インフォメーション(新訂版)』朝日出版社	

<b>選必 ドイツ語Ⅰ(初級A)</b>	<b>春 秋 週2回 2単位</b>
担当者：清水 威能子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1 内容 ドイツ、オーストリア、スイスなどの公用語であるドイツ語を修得する第一歩として、正確な発音や基礎的な文法事項を学び、その応用として実践的な練習を行います。また映像資料などで、ドイツ語圏の国の文化、歴史、現代の社会事情も紹介します。 2 カリキュラム上の位置づけ 1年次から受講できます。初学者を対象に発音から始め、ドイツ語Ⅱの準備を行います。 3 学びの意義と目標 欧米の文化や社会を深く理解するためには、直接的に知識や情報を得ることができる語学力が必要です。この授業は、そのような語学力の修得という最終目的を視野に入れながら、ドイツ語の発音を正確に身につけ、基礎的な文法を理解した上で、簡単な自己表現ができるようになることを目標とします。 EUの中で重要な役割を果たしているドイツの言語と、ドイツ語圏の国の文化や社会に触れることは、ヨーロッパ全体の文化や社会を理解するための糸口になります。	
<b>評価方法</b> 授業への積極的な姿勢を評価する平常点(4割)、中間試験と期末試験(計6割)により総合的に判断します。	
<b>教科書</b> 秋田静男 他『ドイツ語インフォメーション(新訂版)』朝日出版社	

<b>選必 ドイツ語Ⅰ(初級A)</b>	<b>春 週2回 2単位</b>
担当者：原 一子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 教科書の前半、「つづりと発音」から第6課までを学ぶ。新しく学ぶ外国語であることから、発音練習にも時間をかけ、文法事項を丁寧に解説する。折に触れてビデオ、テープ、他の問題集なども使いながら、効果的に学習を進める。 2. カリキュラム上の位置づけ 「基礎科目群」の「第二外国語科目」で、特に欧米文化学科の学生にとっては、フランス語かドイツ語のいずれかの修得が義務づけられる、選択必修科目である。「ドイツ語Ⅰ」はその初級の入門科目である。 3. 学びの意義と目標 言語は、その文化の思考構造、風習、歴史などを担っている。それゆえ新しい言語を学び始めることは異文化理解の始まりでもある。新しい言語をマスターすることで、欧米の文化を一層良く理解し、コミュニケーション能力を磨くことを目標とする。また忍耐力を要する語学学習は、自己鍛錬の機会ともなる。	
<b>評価方法</b> 試験結果(50%)、出席率(30%)、授業中の課題の習得度(20%)から総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 秋田静男他『ドイツ語インフォメーション(新訂版)』朝日出版社	

選必 ドイツ語Ⅰ(初級A)	秋 週2回 2単位
担当者：宮崎 泰行	
<b>講義の目標及び概要</b> ドイツ語未習者を対象にした授業です。今年度から共通の教科書を使い、文字の説明(名前・読み方)から始め、つづりと音の関係等、丁寧に時間をかけて進んでいきたいと思ひます。言葉の勉強ですので、文字だけではなく、音や映像も交えドイツ語圏の情報も取り入れながら授業を進め行きたいと思ひます。辞書の使い方(記述の約束事・必要な情報の取り出し方・略語の理解の仕方等)も実際に教室で確認しながら進めます。基本的な文法事項の理解や基本的な文の読解のてがかりが得られるようになることを目標にしたいと思ひます。	
<b>評価方法</b> 中間試験と教回にわたる小テスト、それに、授業中の受け答えなどを勘案して評価します。	
<b>教科書</b> 秋田 他『ドイツ語インフォメーション(新訂版)』朝日出版社	

選必 ドイツ語Ⅱ(初級B)	春 週2回 2単位
担当者：小谷 哲夫	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 ドイツ語Ⅰに続き、初級文法を中心として、第7課の前置詞から第12課の現在完了形までを学びます。 2. カリキュラム上の位置づけ ドイツ語Ⅰと同じ。 3. 学びの意義と目標 ドイツ語Ⅰと同じ。また、ドイツ語の文章のスムーズな読みや和訳といった総合的なドイツ語の学習も併せて行い、中級ドイツ語への橋渡しをする。	
<b>評価方法</b> 出席状況や読み、和訳、練習問題をやらせてもらうことを平常点とし、全体評価の4割、残り6割は定期試験の成績で付けます。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 秋田 静男 他『ドイツ語インフォメーション(新訂版)』朝日出版社	

選必 ドイツ語Ⅲ(初級C)	秋 週2回 2単位
担当者：清水 威能子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1 内容 ドイツ語Ⅰの文法事項を復習しながら、さらに基礎的な文法事項を学び、その応用として実践的な練習を行います。また映像資料などで、ドイツ語圏の国の文化、歴史、現代の社会事情も紹介します。 2 カリキュラム上の位置づけ ドイツ語Ⅰを履修した後、受講できます。ドイツ語Ⅲの準備を行います。 3 学びの意義と目標 欧米の文化や社会を深く理解するためには、直接的に知識や情報を得ることが出来る語学力が必要です。この授業は、そのような語学力の修得という最終目的を視野に入れながら、基礎的な会話表現を身につけ、短い文章を読み、書けるようになることを目標とします。 EUの中で重要な役割を果たしているドイツの言語と、ドイツ語圏の国の文化や社会に触れることは、ヨーロッパ全体の文化や社会を理解するための糸口になります。	
<b>評価方法</b> 授業への積極的な姿勢を評価する平常点(4割)、中間試験と期末試験(計6割)により総合的に判断します。	
<b>教科書</b> 秋田静男 他『ドイツ語インフォメーション(新訂版)』朝日出版社	

選必 ドイツ語Ⅱ(初級B)	春 秋 週2回 2単位
担当者：宮崎 泰行	
<b>講義の目標及び概要</b> ドイツ語未習者を対象にした授業です。今年度から共通の教科書を使い、ドイツ語Ⅰで学んだ内容を受け、文法事項の学習を続けていきます。言葉の勉強ですので、文字だけではなく、音や映像も交えドイツ語圏の情報も取り入れながら授業を進め行きたいと思ひます。辞書の使い方(記述の約束事・必要な情報の取り出し方・略語の理解の仕方等)も実際に教室で確認しながら進めることはドイツ語Ⅰと同じですが、さらに使い込みができるよう練習をしましょう。基本的な文法事項の理解や基本的な文の読解さらに磨きをかけましょう。	
<b>評価方法</b> 中間試験と教回にわたる小テスト、それに、授業中の受け答えなどを勘案して評価します。	
<b>教科書</b> 秋田 他『ドイツ語インフォメーション(新訂版)』朝日出版社	

<b>選必</b> ドイツ語Ⅲ(中級A)	<b>秋</b> 週2回 2単位
担当者：小谷 哲夫	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 本講義は一年で学習したドイツ語をブラッシュ・アップするために、簡単な作品を講読します。文章を詳しく丁寧に読むことは語学習得には欠かすことの出来ないものと思います。ミヒヤエル・エンデの作品を読みますが、彼の名は『はてしない物語』や『モモ』など映画化されビデオにもなっているので知っている学生もいると思います。 2. カリキュラム上の位置づけ ドイツ語Ⅰ・Ⅱを学んだ学生が、更にドイツ語の文章に慣れ、文法の知識を深め、辞書を片手に訳読していく、その方法を学んでいきます。 3. 学びの意義と目標 一つのまとまった作品内の文章構造を詳しく分析することは、一年次での学習内容とは大きな隔りがあるかもしれませんが、毎回出席し真摯な態度で取り組みれば、それも必ず克服出来ると思います。本講義をもってしてドイツ語の総合的な理解に結び付くものと確信しています。	
<b>評価方法</b> 出席状況と授業の取り組み姿勢を平常点とし、定期試験の結果を加えて、総合的に評価します。平常点は全体の6割、定期試験は4割とします。	
<b>教科書</b> ミヒヤエル・エンデ『サンタ・クルスへの長い道のり』三修社	

<b>選必</b> ドイツ語Ⅲ(中級A)	<b>春</b> 週2回 2単位
担当者：清水 威能子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1 内容 ドイツ語ⅠとⅡの学習内容を復習し、未習の文法事項を学びます。さらに初級から中級程度のドイツ語の文章の意味を、辞書を引ながら確実に把握できるようになるために、さまざまなテキストを通して読解力を養成します。また映像資料などで、ドイツ語圏の国の文化、歴史、現代の社会事情も紹介します。 2 カリキュラム上の位置づけ ドイツ語Ⅱを履修した後、受講できます。会話や講読の授業の準備を行います。 3 学びの意義と目標 欧米の文化や社会を深く理解するためには、直接的に知識や情報を得ることができる語学力が必要です。この授業は、そのような語学力の修得という最終目的を視野に入れながら、総合的なドイツ語の運用能力の向上を目標とします。 EUの中で重要な役割を果たしているドイツの言語と、ドイツ語圏の国の文化や社会に触れることは、ヨーロッパ全体の文化や社会を理解するための糸口になります。	
<b>評価方法</b> 授業への積極的な姿勢を評価する平常点(4割)、中間試験と期末試験(計6割)により総合的に判断します。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選必</b> ドイツ語Ⅲ(中級A)	<b>春</b> 週2回 2単位
担当者：宮崎 泰行	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 ドイツ語既習者を対象としたドイツ語講読の授業です。 2. カリキュラム上の位置づけ ドイツ語Ⅰ・Ⅱの基礎の上に立ち、ある程度まとまった分量・内容の文をに慣れ、音に出して読み、内容を把握することを積み重ねていきます。 3. 学びの意義と目標 ドイツにおける日常生活のさまざまな場面に関する情報を読みとり、ドイツ語の文の文法を復習し、語法的な側面にも慣れ、文の精読・大意のつかみかたを会得できるようにしたいと思います。また、外国語学習では欠かすことのできない辞書の活用のしかた、ドイツ語での簡単な応答ができるようになることも目標にしたいと思います。目と口と耳を使って学んでいきましょう。	
<b>評価方法</b> 試験の成績および毎時間の授業参加度を加味して評価します。出席を重視します。	
<b>教科書</b> 須澤 通『体験するドイツ語』郁文堂	

<b>選必</b> フランス語Ⅰ(初級A)	<b>春</b> <b>秋</b> 週2回 2単位
担当者：石田 明夫/小室 康太/本田 貴久	
<b>講義の目標及び概要</b>	
《内容》 フランス語をはじめて学習する学生を対象とした授業です。初歩的な会話表現の学習からはじめ、基本的な語彙を習得し、初歩文法の学習を行います。またビデオ(DVD)やCD等を用いて、フランスの様々な文化に接し、多面的にフランスを学ぶ機会にしたいと思っています。  《カリキュラム上の位置づけ》 この科目ではフランス語を学習する上でのごく基本的な事項の習得を目指し、次のステップ『フランス語Ⅱ』の準備をします。また、英語以外の言語に触れることにより、見方が広がり、ヨーロッパに関連する講義を履修する上でもおおいに役立つと思います。  《学びの意義と目標》 国際語としてのフランス語の地位は昔も今も変わりません。フランス語はヨーロッパにおいてのみならず世界的に大きな影響力を今でもっています。フランス語を学ぶことにより、世界の様々な人々との交流、あるいは様々な文化との接触が可能になります。この科目を履修することはその第一歩です。	
<b>評価方法</b> 出席・小テスト等の平常点(50%)と定期試験(50%)を総合して判断します。	
<b>教科書</b> 田辺保子他『やさしいサリュールサリュール! 簡略版』駿河台出版社	

選必修	フランス語Ⅰ(初級A)(欧米・先)	春	週2回	2単位
担当者：石田 明夫/小室 廉太/本田 貴久				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>《内容》 フランス語をはじめて学習する学生を対象とした授業です。初歩的な会話表現の学習からはじめ、基本的な語彙を習得し、初歩的な文法の学習を行います。またビデオ (DVD) やCD等を用いて、フランスの様々な文化に接し、多面的にフランスを学ぶ機会にしたいと思っています。</p> <p>《カリキュラム上の位置づけ》 この科目ではフランス語を学習する上での基本的な事項の習得を目指し、次のステップ『フランス語Ⅱ』の準備をします。また、英語以外の言語に触れることにより、見方が広がり、ヨーロッパに関連する講義を履修する上でもおおいに役立つと思います。</p> <p>《学びの意義と目標》 国際語としてのフランス語の地位は昔も今も変わりません。フランス語はヨーロッパにおいてのみならず世界的に大きな影響力を今でもっています。フランス語を学ぶことにより、世界の様々な人々との交流、あるいは様々な文化との接触が可能になります。この科目を履修することはその第一歩です。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席・小テスト等の平常点 (50%) と定期試験 (50%) を総合して判断します。				
<b>教科書</b>				
大津俊克ほか『はじめてのパリ 一新・改訂版一』朝日出版社				

選必修	フランス語Ⅱ(初級B)	春	秋	週2回	2単位
担当者：小室 廉太/本田 貴久					
<b>講義の目標及び概要</b>					
<p>《内容》 『フランス語Ⅰ』を受講した学生を対象とした授業です。これまでに習得した知識を活用し、さらに新たな表現や文法事項を学習します。『フランス語Ⅰ』に引き続き、ビデオ (DVD) やCD等を用いて、フランスの様々な文化に接し、多面的にフランスを学ぶ機会にしたいと思っています。</p> <p>《カリキュラム上の位置づけ》 この科目ではフランス語を学習する上での基礎的な事項の習得を目指し (仏語検定5級レベル)、次のステップ『フランス語Ⅲ』の準備をします。また、フランス語・フランス文化についての知識が深まるにつれ、見方が広がり、ヨーロッパに関連する講義を履修する上でさらに役立つと思います。</p> <p>《学びの意義と目標》 国際語としてのフランス語の地位は昔も今も変わりません。フランス語はヨーロッパにおいてのみならず世界的に大きな影響力を今でもっています。フランス語を学ぶことにより、世界の様々な人々との交流、あるいは様々な文化との接触が可能になります。この科目を履修することはその第一歩です。</p>					
<b>評価方法</b>					
出席、小テスト等の平常点 (50%) と定期試験 (50%) を総合して判断します。					
<b>教科書</b>					
田辺保子ほか『やさしいサリュ 一サリュ! 簡略版一』駿河台出版社					

選必修	フランス語Ⅲ(初級C)(欧米・先)	秋	週2回	2単位
担当者：石田 明夫/小室 廉太/本田 貴久				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>《内容》 『フランス語Ⅰ』『フランス語Ⅱ』を受講した学生を対象とした授業です。これまでに習得した知識を活用し、さらに新たな表現や文法事項を学習します。『フランス語Ⅰ』に引き続き、ビデオ (DVD) やCD等を用いて、フランスの様々な文化に接し、多面的にフランスを学ぶ機会にしたいと思っています。</p> <p>《カリキュラム上の位置づけ》 この科目ではフランス語を学習する上での基礎的な事項の習得を目指し (仏語検定4級レベル)、次のステップ『フランス語Ⅳ』の準備をします。また、フランス語・フランス文化についての知識が深まるにつれ、広い見方ができるようになり、ヨーロッパに関連する講義を履修する上でさらに役立つと思います。</p> <p>《学びの意義と目標》 国際語としてのフランス語の地位は昔も今も変わりません。フランス語はヨーロッパにおいてのみならず世界的に大きな影響力を今でもっています。フランス語を学ぶことにより、世界の様々な人々との交流、あるいは様々な文化との接触が可能になります。この科目を履修することはその第一歩です。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席点、小テスト等の平常点 (50%) と定期試験 (50%) を総合して判断します。				
<b>教科書</b>				
大津俊克ほか『はじめてのパリ 一新・改訂版一』朝日出版社				

選必修	フランス語Ⅲ(中級A)	春	秋	週2回	2単位
担当者：石田 明夫/本田 貴久					
<b>講義の目標及び概要</b>					
<p>《内容》 『フランス語Ⅰ』『フランス語Ⅱ』を受講した学生を対象とした授業です。これまでに習得した知識を活用し、実践的にフランス語に向き合い、フランス語の理解を目指します。また、今まで以上に映画、ドキュメント、ライブコンサート等のビデオ (DVD) を鑑賞して、楽しみながらフランスおよびフランス文化に接するつもりです。</p> <p>《カリキュラム上の位置づけ》 この科目を通してフランス語の総合的な理解を目指し、フランス語・フランス文化についての知識を深めて、広い視野を獲得できればと思っています。そうすることにより、欧米に関連する講義を履修する上ではもちろん、様々な研究テーマの開発にも役立つと思われます。</p> <p>《学びの意義と目標》 国際語としてのフランス語の地位は昔も今も変わりません。フランス語はヨーロッパにおいてのみならず世界的に大きな影響力を今でもっています。フランス語を学ぶことにより、世界の様々な人々との交流、あるいは様々な文化との接触が可能になります。この科目を履修することはその第一歩です。</p>					
<b>評価方法</b>					
出席、授業時の発表、レポート等の平常点 (60%) と学期末試験 (40%) を総合して判断します。					
<b>教科書</b>					
プリントを配布する					



<b>選必</b> スペイン語Ⅰ(初級A) <span style="float: right;">春 秋 週2回 2単位</span>
担当者：越智 直子
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容 この授業では、簡単な日常会話、初歩文法事項の習得をめざします。文法事項は必要最小限におさえ、授業はゆっくり進めていく予定です。また、ビデオ等の視覚教材を通し、生きたスペイン語に接しながら、スペイン語やスペイン語圏の文化、社会等に触れていきます。 (2)カリキュラム上の位置づけ スペイン語を始めて学ぶ学生(1~4年生)を対象とします。 (3)学びの意義と目標 現在、スペイン語は世界の国々で、4億以上の人々に話されていると言われていています。最近では、日本国内でもスペイン語を耳にする機会が多くなりました。ぜひ、皆さんに、新しい言語に挑戦して、世界を広げていただきたいと思います。
<b>評価方法</b> 出席日数、平常点(25%) 単語テスト、提出物(25%) 中間試験、期末試験(50%)
<b>教科書</b> エウヘニオ・デル・ブラド 斉藤華子 仲道慎治『Unas pinceladas del español 「スペイン語でスケッチ」』第三書房

<b>選必</b> スペイン語Ⅱ(初級B) <span style="float: right;">春 秋 週2回 2単位</span>
担当者：越智 直子
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容 「スペイン語Ⅰ」で学んだ基礎をベースに、さらに新しい表現を身に付け、初級文法の取得を目指します。また、映画などに出てくるいききとした表現を学び、スペイン語を使って自己表現ができるようにしていきます。また、希望があれば、スペイン語検定の練習問題も授業で取りあげる予定です。 (2)カリキュラム上の位置づけ 「スペイン語Ⅰ」を履修した学生を対象とします。 (3)学びの意義と目標 様々な表現や初級文法を取得することにより、スペイン語の歌を訳してみたり、簡単な手紙などをスペイン語で書くという楽しみができることと思います。
<b>評価方法</b> 出席日数、平常点(25%) 単語テスト、提出物(25%) 中間試験、期末試験(50%)
<b>教科書</b> エウヘニオ・デル・ブラド 斉藤華子 仲道慎治『Unas pinceladas del español 「スペイン語でスケッチ」』第三書房

<b>選必</b> 中国語Ⅰ(初級A) <span style="float: right;">春 秋 週2回 2単位</span>
担当者：閻 子謙
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 目的 初級の段階を終え更に一段と上のレベルの中国語を学ぶ学生を対象とする。 2. カリキュラム上の位置づけ 発音の正確さ、ピンインのマスターを確認しつつ、積極的に話し、楽しい中国語を味わう中級に相当する科目である。 3. 学びの意義と目標 改革開放政策に転じて以来、中国は大きな変貌を遂げた。市場経済を導入したことによって、社会の構造が激しく変化し、中国人でさえも、しばらく中国から離れていて帰国すると、まるで異国へ来たかのような印象をもつと言う。地理的に近く、交流の歴史もお互い長いお隣の国である中国と、そこで暮らす人々の生活習慣、価値観にふれ、最新知識を増やし、更に中国語の力を伸ばすことを目標とする。
<b>評価方法</b> 出席状況(10%)、受講態度(30%)、定期試験(60%)により総合的に評価。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必</b> 中国語Ⅰ(初級A) <span style="float: right;">秋 週2回 2単位</span>
担当者：福田 素子
<b>講義の目標及び概要</b> 内容： ピンインという中国語の発音記号とその発音方法を身につけ、さらに基礎語彙・基本のセンテンスを学習する。 カリキュラム上の位置づけ： 本講義は、初めて中国語に触れる学生を対象とする。 学びの意義と目標： これからの長い中国語学習生活の基礎を構築することを目標とする。
<b>評価方法</b> 出席(40%)・試験(40%)・授業態度(20%)により総合的に評価する。
<b>教科書</b> 劉穎/塚本慶一『1年生のコミュニケーション中国語』白水社

選必 中国語Ⅰ(初級A)	春 週2回 2単位
担当者：新田 小雨子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 講義内容 本講義は、VT法 (Verbo-Tonal Method) を用い、日本語母語話者の中国語学習者に対する発音指導を行う。用いる教科書は会話を中心とするもので、日常生活に必要な表現だけでなく、いろいろな場面における話し方も本文に盛り込んでいる。授業中はロールプレイによる会話練習を行う。また、初級段階の基礎的な文型なども少しずつ授業に取り入れる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 中国語入門段階の講義である。初めて中国語にふれる学生を対象とする。</p> <p>3. 学びの意義と目標 言語を学ぶときに、場面に応じた会話練習が非常に重要である。それぞれの場面によって使う言葉が異なってくるため、適切でない話し方をすると、誤解を招くことが多々ある。したがって、本講義では、いろいろな場面における話し方の習得を目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況、平常点、試験によって総合的に評価する。</li> <li>・割合は出席30%、平常点20%、試験50%です。</li> </ul>	
<b>教科書</b>	
董燕/遠藤光暁『理香と王麗 話す中国語1』朝日出版社	

選必 中国語Ⅱ(初級B)	秋 週2回 2単位
担当者：関 子謙	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 目的 本講義は中国語の世界に第一歩を踏み出すことになった学生を対象としている。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 中国語Ⅰで学んだ発音や文法の基本を復習・補足し、初級終了。</p> <p>3. 学びの意義と目標 基本学習の上に立って、特定のシチュエーションを想定し、学生一人ひとりのレベルや要求に応じる形で幅広い表現力を養い、最終的に簡単な日常会話や自己紹介などができることを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
定期試験 (60%)、出席状況 (10%)、受講態度 (30%) により総合的に評価。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

選必 中国語Ⅱ(初級B)	春 週2回 2単位
担当者：福田 素子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>内容及びカリキュラム上の位置づけ： 2009年秋学期の「中国語Ⅰ(初級A)」(福田)の続きを行う。初級Aでは、発音・主語＋動詞＋目的語から成る文・動詞「是・有・在」を使った文型・形容詞述語文・数字(金額・時刻)・完了の「了」・主な前置詞・疑問詞・助動詞・選択疑問文を学習したので、更に多くの文法事項を学び、語彙を増やし、中国語の運用能力を高めていく。</p> <p>学びの意義と目標： 一通りの中国語文法と語彙を身につけ、中国語でのコミュニケーション能力の基礎とする。中国語の各種検定試験のスタートラインに立てる語学力を身につける。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席 (40%)・試験(40%)・授業態度(20%) により総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
塚本慶一・劉穎『2年生のコミュニケーション中国語』白水社	

選必 中国語Ⅱ(初級B)	秋 週2回 2単位
担当者：新田 小雨子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 講義内容 本講義で用いる教科書は会話を中心とするもので、日常生活に必要な表現だけでなく、いろいろな場面における話し方も本文に盛り込んでいる。授業中はロールプレイによる会話練習を行う。また、初級段階の基礎的な文型なども少しずつ授業に取り入れる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 中国語初級段階の講義である。中国語に関する初歩的な知識を有する学生を対象とする。</p> <p>3. 学びの意義と目標 言語を学ぶときに、場面に応じた会話練習が非常に重要である。それぞれの場面によって使う言葉が異なってくるため、適切でない話し方をすると、誤解を招くことが多々ある。したがって、本講義では、いろいろな場面における話し方の習得を目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況、平常点、試験によって総合的に評価する。</li> <li>・割合は出席30%、平常点20%、試験50%です。</li> </ul>	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する 董燕/遠藤光暁『理香と王麗 話す中国語1』朝日出版社	

選必 韓国語Ⅰ(初級A)	秋	週2回	2単位
担当者：北原 スマ子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1、内容 初めて韓国語を学ぶ学生を対象とし、文字、発音、文法の基礎的な知識を修得できるよう指導していく。文字学習では、特に正確な発音の指導に力を入れる。基礎的なあいさつ言葉や簡単な日常会話を覚えて使う練習を繰り返す。映画、音楽などを利用して、聞き取りの練習をするとともに、韓国の社会、歴史、文化に触れる機会とする。			
2、カリキュラム上の位置づけ 韓国語の入門的な位置づけである。基礎となるものである。			
3、学びの意義と目標 ハングルの読み書きができるようになり、決まり文句を覚えて、あいさつや自己紹介、簡単な会話ができるようになること。韓国の文化、社会、歴史などに対する理解と関心を持つようになることが、外の世界へ目を向けるひとつの契機となること。			
<b>評価方法</b> おおむね定期試験50%、授業への参加度と宿題、小テストによる平常点20%、出席30%を基準として総合的に評価する。			
<b>教科書</b> 溝口甲順『アルギシオン韓国語』白帝社			

選必 韓国語Ⅰ(初級A)	春	週2回	2単位
担当者：金 智賢			
<b>講義の目標及び概要</b>			
韓国語による基礎コミュニケーション力を身につけることを目的とする授業である。韓国語をはじめて学ぶ学生を対象とする。文字(ハングル)の理解や発音から始め、特に「聞く」「話す」を中心に、「読む」「書く」も含めた4技能をバランスよく指導し、学習を続けていけるような基本的な語学力を総合的に身につけることを目指す。なお、言語の学習だけではなく文化の話や活動も交え、総合コミュニケーション力の向上に繋げる。			
<b>評価方法</b> 出席点(30%)、平常点(20%)、中間試験(20%)、期末試験(30%) ★特別な事情がない限り、平常点や試験の点数と関係なく欠席が9回以上の場合、評価対象から除外する。			
<b>教科書</b> 金京子・喜多恵美子『パランセ韓国語 初級』朝日出版社			

選必 韓国語Ⅱ(初級A)	春	秋	週2回	2単位
担当者：溝口 カブスン				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1、内容 韓国語の正しい発音を指導し、ハングル文字の読み方、書き方を教える。 文法については「助詞」に重点を置く。 また、韓国の歌を歌う、韓国映画の視聴をするなど、韓国文化に触れる機会を作る。 講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。				
2、カリキュラム上の位置づけ 韓国語について全く知識のない段階からはじめる。入門者を対象とした初級講座				
3、学びの意義と目標 以下の能力を養成し、知識を深める。 1 韓国語で挨拶や初歩的会話をするための「聞き取り能力」「発音能力」 2 「ハングル文字の習得」「助詞に対する知識」 3 韓国文化理解の初歩的知識				
<b>評価方法</b> 出席を重視する(20%)。 授業への参加態度、宿題で平常点(20%)をつける。 学期末試験の点数(60%)とあわせて成績評価をする。				
<b>教科書</b> 溝口甲順『アルギシオン韓国語』白帝社				

選必 韓国語Ⅱ(初級B)	春	週2回	2単位
担当者：北原 スマ子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1、内容 本授業では既習事項を復習しつつ新しい文法や単語、表現を学んでいく。ペアを組んで対話練習をし簡単な単語を使って応用会話をする。文法、単語の学習には練習プリントを活用して理解の定着を図る。「話す、聞く、書く、読む」力をバランスよく養っていくようにする。韓国の歴史、文化、社会への理解を深めるために映画やドラマを利用していく。			
2、カリキュラム上の位置づけ 入門の次の段階で、初級的な位置づけである。			
3、学びの意義と目標 初歩的な文法、句型、単語を覚えて、平易な文章が読めて作文ができるようになること。日常会話ができ、聞き取れることで、簡単なコミュニケーションが可能になる。言葉の背景にある文化、歴史、社会事情への理解と関心を深めるようになることで視野が広がる。			
<b>評価方法</b> おおむね定期試験50%、授業への参加度と小テスト、宿題による平常点20%、出席30%を基準として総合的に評価する。			
<b>教科書</b> 溝口甲順『アルギシオン韓国語』白帝社			

<b>選必修</b> 韓国語Ⅱ(初級B)	<b>秋</b> 週2回 2単位
<b>担当者:</b> 金 智賢	
<b>講義の目標及び概要</b> 韓国語によるコミュニケーション力を身につけることを目的とする授業である。「韓国語Ⅰ」(初級A)を受講していることが望ましい。文字(ハングル)の理解や発音がある程度できることを前提に、特に「聞く」「話す」を中心に、「読む」「書く」も含めた4技能をバランスよく指導し、総合的な語学力を身につけることを目指す。なお、言語の学習だけではなく文化の話や活動も交え、総合コミュニケーション力の向上に繋げる。	
<b>評価方法</b> 出席点(30%)、平常点(20%)、中間試験(20%)、期末試験(30%) ★特別な事情がない限り、平常点や試験の点数と関係なく欠席が9回以上の場合、評価対象から除外する。	
<b>教科書</b> 金京子・喜多恵美子『バランセ韓国語 初級』朝日出版社	

<b>選必修</b> 韓国語Ⅱ(初級B)	<b>秋</b> 週2回 2単位
<b>担当者:</b> 溝口 カブスン	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 正確な発音に基づく反復指導をする。特に語彙を増やすことに重点を置く。 文法については「語尾変化」に力を入れ、韓国文化の紹介も行う。 授業は講義形式ではなく、対話を中心とした全員参加型で行う。 2. カリキュラム上の位置づけ 「韓国語Ⅰ」の既履修者及び同程度の知識を持つ者を対象とする。 入門レベルに続き、初級レベルを完成させる。 3. 学びの意義と目標 以下の能力を養成し、知識を深める。 1 韓国語で簡単な会話をする能力 2 初歩的な文章を読むための「文法知識」 3 韓国文化理解のための基礎知識	
<b>評価方法</b> 出席を最重視する(20%)。 授業への参加態度、宿題で平常点(20%)をつける。 学期末試験の点数(60%)とあわせて成績評価する。	
<b>教科書</b> 溝口甲順『アルギシウン韓国語』白帝社	

<b>選択</b> 日本語Ⅱ(文法)A	<b>春</b> 週2回 2単位
<b>担当者:</b> 黒崎 佐仁子/清水 まさ子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 日本語能力の文法事項に焦点を絞り、その意味用法を学び応用できるようにする。基礎的な日本語文法を復習し、まとめ直すことによって、より上級の文法項目を学習する。具体的には、短い読み物や会話表現などを用いるで、日本語の文法能力の向上を図る。 (1) 授業1、2回で1つの課を学習する。 (2) 文法の用法を理解し、用法練習をする。 (3) 学んだ文法を使用した表現の練習をする。 (4) 各課ごとに文法の確認の小テストを行う。 2. カリキュラム上の位置づけ 日本語を母語としない外国人留学生のための授業。大学の講義を受ける上で不可欠な四技能の基礎となる文法能力の養成を目的とする。 3. 学びの意義と目標 大学で講義を受けるために必要な、基礎的な日本語の文法力の習得と、その定着を学習目標とする。	
<b>評価方法</b> 中間・期末テスト(60%)、小テストおよび宿題(20%)、授業への参加度(10%)、出席率(10%)、の総合評価による。 ※欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。	
<b>教科書</b> 友松悦子・和栗雅子『中級日本語文法要点整理ポイント20』スリーエーネットワーク	

<b>選択</b> 日本語Ⅱ(文法)B	<b>秋</b> 週2回 2単位
<b>担当者:</b> 川口 さち子/清水 まさ子	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉日本語能力の文法事項に焦点を絞り、その意味用法を学び応用できるようにする。基礎的な日本語文法を復習しまとめ直し、より上級の文法項目を学習する。具体的には、短い文章や会話表現を用いることによって、文脈における日本語の文法能力の向上をはかる。 ・月曜日は、基礎的な文法を復習し、応用力をつける。木曜日はより上級の文法項目を学習する。 ・文法の用法を理解し、用法練習をする。 ・学んだ文法を使用した表現の練習をする ・各課ごとに文法の確認の小テストを行う 〈カリキュラム上の位置づけ〉 外国人学生のための授業。大学の講義を受ける上で不可欠な、四技能の基礎である文法能力養成のためのもの 〈学びの意義と目標〉 大学で講義を受けるための基礎的な日本語の文法力の習得と定着を目標とする。	
<b>評価方法</b> 中間・期末テスト60%、小テスト・宿題20%、授業への参加度10%、出席率10%の総合評価による。 欠席が3分の1以上となる場合は評価しない。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 友松悦子・和栗雅子『中級日本語文法要点整理ポイント20』スリーエーネットワーク	

選択 日本語(総合)A		春	週2回	2単位
担当者: 内藤 みち				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 教科書に使用されている基礎語彙及び基礎文法を学ぶ。読解も行われるが、話したり書いたりしながら学習した日本語の定着をはかる。そのため、各課において、語彙・文法の導入や口頭発表や作文等の指導がされる。教科書以外にも、教科書の内容に関連したビデオ及び短い読み物などの副教材を使用する予定である。しっかりと日本語力を身につけていくために、授業外での教科書内容に沿った予習復習課題も課せられる。				
2. カリキュラム上の位置づけ 大学で学ぶために必要な日本語学習の前段階としての日本語科目である。				
3. 学びの意義と目標 基礎的日本語能力の習得と定着を学習目標とする。				
<b>評価方法</b>				
試験40%、クイズ20%、宿題等の提出物10%、平常点10%、出席点20%。(以上のこと、変更されることもある。)欠席が3分の1を超える場合は評価対象とならない。				
<b>教科書</b>				
柿倉侑子他『日本語上級読解』アルク				

選択 日本語(総合)B		秋	週2回	2単位
担当者: 内藤 みち				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 教科書に使用されている基礎語彙及び基礎文法を学ぶ。読解も行われるが、話したり書いたりしながら学習した日本語の定着をはかる。そのため、各課において、語彙・文法の導入や口頭発表や作文等の指導がされる。教科書以外にも、教科書の内容に関連したビデオ及び短い読み物などの副教材を使用する予定である。しっかりと日本語力を身につけていくために、授業外での教科書内容に沿った予習復習課題も課せられる。				
2. カリキュラム上の位置づけ 大学で学ぶために必要な日本語学習の前段階としての日本語科目である。				
3. 学びの意義と目標 基礎的日本語能力の習得と定着を学習目標とする。				
<b>評価方法</b>				
試験40%、クイズ20%、宿題等の提出物10%、平常点10%、出席点20%。(以上のこと、変更されることもある。)欠席が3分の1を超える場合は評価対象とならない。				
<b>教科書</b>				
柿倉侑子他『日本語上級読解』アルク				

選択 日本語(調査・発表)A		春	週1回	1単位
担当者: 中川 千恵子/太田 ミユキ				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 大学の授業中で必要な口頭発表の表現や、具体的に調査や発表をする方法について学ぶ。発音練習を行うとともに、日本語での発表に慣れるため、学期中に複数回口頭発表を行う。当講義(A)では、自分の意見や考えをまとめて発表するだけでなく、他の学生の発表を聞いて、質問したり意見を述べたりすることも併せて学習する。				
2. カリキュラムの位置づけ 外国人留学生のための授業。大学の授業で必要とされる口頭発表の、基礎力養成のための授業である。				
3. 学びの意義と目標 日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除き、発表の際の口頭表現能力の向上を目指す。				
<b>評価方法</b>				
1発表(30%×2回=60%)、2提出物(30%)、3平常点(10%)、の総合評価による。 ※欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 日本語(調査・発表)B		秋	週1回	1単位
担当者: 中川 千恵子/太田 ミユキ				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 大学の授業で必要とされる情報収集及び、口頭発表の基礎を学ぶ。日本語での発表に慣れるため、発音練習を行うとともに、学期中に複数回スピーチや発表を行う。学期末には、あるテーマについて各自調べた内容をまとめて発表する。				
2. カリキュラムの位置づけ 外国人留学生のための授業。大学の授業で必要とされる情報収集及び、口頭発表の基礎力養成のための授業である。				
3. 学びの意義と目標 日本語での口頭コミュニケーションの障害を取り除き、発表の際の口頭表現能力の向上を目指す。また、口頭発表の準備や具体的な方法を学ぶことも目標とする。				
<b>評価方法</b>				
1発表(30%×2回=60%)、2提出物(30%)、3平常点(10%)の総合評価による。 ※欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

<b>選択 日本語1(文章表現) A</b> <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：和泉 司/太田 ミユキ
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容： (1) 留学生が書く際に間違いやすい点を重点的に振り返りながら、文章を正確に書く練習をしていく。 (2) 身近な話題、興味のある話題から「書く」ことに慣れ、文章の構成を意識し、600字程度の意見文を書く練習をする。  2. カリキュラム上の位置づけ： 大学の授業で要求されるレポート作成の前段階であり、その基礎となる位置づけ。  3. 学びの意義と目標： 留学生が抱えていると思われる「書く」ことに対する抵抗感を取り除き、「書く」ことに慣れ、大学でのレポート作成の基礎となる文章表現の定着を目指す。
<b>評価方法</b> 出席10%、課題提出30%、宿題(清書)10%、定期試験50%(中間テスト・期末テスト) 出席が2/3に満たない場合は評価対象とならない
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 日本語1(文章表現) B</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：太田 ミユキ/黒崎 佐仁子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容： (1) レポートの作成につながる構成を意識しながら文章を正確に書く練習をする。 (2) 身近な話題、興味のある話題をテーマに「書く」ことに慣れ、少しずつ身の回りの問題点を意識しながら書く練習をする。  2. カリキュラム上の位置づけ： 大学の授業で要求されるレポート作成の前段階であり、その基礎となる位置づけ。  3. 学びの意義と目標： 留学生のためのレポート作成の基礎となる文章表現の定着を目指しながら、600~800字程度の意見文の作成を目標とする。
<b>評価方法</b> 出席10%、課題提出30%、宿題(清書)10%、定期試験50%(中間テスト・期末テスト) 出席が2/3に満たない場合は評価対象とならない
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 日本語2(文法) A</b> <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：和泉 司/太田 ミユキ
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 学びの意義と目標： 日本人と共に大学の授業を受けるために必要となる文法力を身につけ、実際に使用できるようになることを学習目標とする。  2. カリキュラム上の位置づけ： 大学レベルの日本語を学ぶための基礎となる科目である。  3. 内容： ・教科書を使用しつつも、より正確に文法を定着させるために、短文作成や練習問題等を毎回行う。 ・当日学習する文型は必ず予習し、クイズで確認する。 ・必要に応じて学習した文型が含まれている読解問題や文型を使った作文も宿題として課す。 ・中間試験及び学期末試験を実施する。
<b>評価方法</b> 予習クイズ10%、復習試験(中間テスト・期末テスト)60%、宿題20%、出席点10% ※出席が2/3に満たない場合は評価対象とならない
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 日本語2(文法) B</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：太田 ミユキ/黒崎 佐仁子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 学びの意義と目標： 日本人と共に大学の授業を受けるために必要となる文法力を身につけ、実際に使用できるようになることを学習目標とする。  2. カリキュラム上の位置づけ： 大学レベルの日本語を学ぶための基礎となる科目である。  3. 内容： ・教科書を使用しつつも、より正確に文法を定着させるために、短文作成や練習問題等を毎回行う。 ・当日学習する文型は必ず予習し、クイズで確認する。 ・必要に応じて学習した文型が含まれている読解問題や文型を使った作文も宿題として課す。 ・中間試験及び学期末試験を実施する。
<b>評価方法</b> 予習クイズ10%、復習試験(中間テスト・期末テスト)60%、宿題20%、出席点10% ※出席が2/3に満たない場合は評価対象とならない
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 日本語2(総合)A</b>	<b>春</b>	<b>週2回</b>	<b>2単位</b>
担当者：船山 久美/黒崎 佐仁子			
<b>講義の目標及び概要</b> 日本語を母語としない外国人留学生在が大学生活を送る上で前提となるレベルの日本語を学ぶ。日本語の四技能（読む・書く・聴く・話す）の総合的な伸長を目的とする。 四技能のトレーニングは、テキスト各課のテーマに基づいてなされる。同時に、内容も深く掘り下げ、時事問題について思考する力も養う。 この学期は、読解と口頭発表に比重を置く。 なお、毎回カタカナのディクテーションまたは漢字の小テストを行う。			
<b>評価方法</b> 中間・期末テスト(40%) スピーチ発表(15%) 出席(20%) 小テストと授業貢献度(15%) 宿題(10%)の総合評価による。欠席が2/3以上の者は、期末テストの受験資格を失う。また、欠席3回を超える者は、例え総得点がトップであっても評価Sは与えられない。			
<b>教科書</b> 宮原 彬『留学生のための時代を読み解く上級日本語』スリーエーネットワーク			

<b>選択 日本語2(総合)B</b>	<b>秋</b>	<b>週2回</b>	<b>2単位</b>
担当者：船山 久美/黒崎 佐仁子			
<b>講義の目標及び概要</b> 外国人留学生在が大学生活を送る上で前提となるレベルの日本語を学ぶ。日本語の四技能（読む・書く・聴く・話す）の総合的な伸長を目的とする。 四技能のトレーニングは、テキスト各課のテーマに基づいてなされる。同時に、内容も深く掘り下げ、時事問題について思考する力も養う。 この学期は、読解と視聴覚教材による話し言葉の理解に比重を置く。 なお、毎回カタカナのディクテーションまたは漢字の小テストを行う。			
<b>評価方法</b> 中間・期末テスト(45%) 出席(20%) 小テストと授業貢献度(15%) 宿題(20%)の総合評価による。欠席が2/3以上の者は、期末テストの受験資格を失う。また、欠席3回を超える者は、例え総得点がトップであっても評価Sは与えられない。			
<b>教科書</b> 宮原 彬『留学生のための時代を読み解く上級日本語』スリーエーネットワーク			

<b>選択 日本語2(調査・発表)A</b>	<b>春</b>	<b>週1回</b>	<b>1単位</b>
担当者：富田 美知子/鈴木 孝恵			
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉留学生在が大学において口頭発表・討論を行う力を養成する授業。資料を集めてまとめる方法、アンケートによってデータを集める方法を学び、それをレポートにまとめられるようにする。各自または、グループで決めたテーマについて調査・発表を行い、最後にレポートにまとめて提出する。  〈カリキュラム上の位置づけ〉調査・発表のための基本的な表現と調査方法を学ぶ。  〈学びの意義と目標〉調査・発表のための基本的なことを学び、自分の専門においても応用ができるようにすること。			
<b>評価方法</b> 口頭発表40%・提出物20%・平常点（クラスワークへの参加度など）20%・最終レポート20% 発表・授業への参加度・提出物・最終レポートで評価する。欠席が全体の3分の1をこえるものは、評価しない。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

<b>選択 日本語2(調査・発表)B</b>	<b>秋</b>	<b>週1回</b>	<b>1単位</b>
担当者：富田 美知子/鈴木 孝恵			
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉留学生在が大学において口頭発表・討論を行う力を養成する授業。資料を集めてまとめる方法、アンケートによってデータを集める方法を学び、それをレポートにまとめられるようにする。各自または、グループで決めたテーマについて調査・発表を行い、最後にレポートにまとめて提出する。  〈カリキュラム上の位置づけ〉調査・発表のための基本的な表現と調査方法を学ぶ。春学期より、詳しい調査を行う。  〈学びの意義と目標〉調査・発表のための基本的なことを学び、自分の専門においても応用ができるようにすること。			
<b>評価方法</b> 口頭発表40%・提出物20%・平常点（クラスワークへの参加度など）20%・最終レポート20% 発表・授業への参加度・提出物・最終レポートで評価する。欠席が全体の3分の1をこえるものは、評価しない。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

選択 日本語2(文章表現) A	春 週1回 1単位
担当者：内藤 みち/木原 郁子	
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 内容 大学の授業で必要とされる基本的な文章表現を学ぶ。読解と文型の短文作成練習によって、書き言葉の構造と運用を身につけ、さらにテーマに即した作文練習をすることで、自分の考えを的確に述べるができるように学習していく。 (2) カリキュラム上の位置づけ 留学生のための日本語授業。 (3) 学びの目標 大学の授業で提出する文章やレポートが、正しい日本語と大学生の文章として適切な表現でできるようになることを目標にする。	
<b>評価方法</b> 期末テスト (50%)、提出物 (クラス内・宿題) (30%)、授業への参加度 (10%)、出席率 (10%)、の総合評価による。 ※欠席が全授業数の3分の1以上の者の単位は認められない。	
<b>教科書</b> 『大学・大学院 留学生の日本語(2) 作文編』アルク	

選択 日本語2(文章表現) B	秋 週1回 1単位
担当者：内藤 みち/木原 郁子	
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 内容 大学の授業で必要とされる文章表現を学ぶとともに、レポートの書き方を学び、自分でレポートを作成する。日本語2(文章表現) Aに引き続き、読解と文型の短文作成練習を通して書き言葉の構造と運用を身につけ、さらにテーマに即した作文練習をすることで、自分の考えを的確に述べるができるように学習していく。さらにこの授業では、レポートの書き方を学び、自分の調べたことや考えをレポートの形にまとめる練習を行う。 (2) カリキュラム上の位置づけ 留学生のための日本語授業。 (3) 学びの目標 大学の授業で提出する文章やレポートが、正しい日本語と大学生の文章として適切な表現でできるようになることを目標にする。	
<b>評価方法</b> 期末試験・レポート (60%)、提出物 (クラス内・宿題) (30%)、授業への参加度 (10%)、出席率 (10%)、の総合評価による。 ※欠席が全授業数の3分の1以上の者の単位は認められない。	
<b>教科書</b> 『留学生の日本語(2) 作文編』アルク	

選択 日本語2(音声表現理解) A	春 週1回 1単位
担当者：船山 久美/清水 まさ子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 大学の講義を聞いて理解した内容をノートにまとめたり、テレビやインターネットの動画などから日本社会に関する情報を得て意味を構築し、発信できるような日本語のコミュニケーション能力を養成することを目標とする。授業では以下のことを行う。 (1) 聴解のストラテジーを学ぶ。(2) 聞き取った情報の大意を過不足なく文章にまとめる。(3) 上級の語彙の拡大し、文型を定着させるために聞き取りクイズを行う。(4) 理解した情報をもとに自分の意見を発表したり、ディスカッションする。 2. カリキュラム上の位置づけ 外国人留学生に必要とされる聴解能力を中心とした日本語の運用力を養成するための授業である。(音声表現理解) Aでは聴解ストラテジーの習得に重点を置く。 3. 学びの目標 留学生が大学での研究・学習生活に支障のない日本語の聴解能力を身につけ、コミュニケーションを通じて日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。	
<b>評価方法</b> 出席 (30%)、授業内タスクと宿題 (30%)、試験 (30%)、授業への参加度 (10%) の総合評価による。 ※欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。 ※出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 日本語2(音声表現理解) B	秋 週1回 1単位
担当者：船山 久美/清水 まさ子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 大学の講義を聞いて理解した内容をノートにまとめたり、テレビやインターネットの動画などから日本社会に関する情報を得て意味を構築し、発信できるような日本語のコミュニケーション能力を養成することを目標とする。授業では以下のことを行う。 (1) 聴解のストラテジーを学ぶ。(2) 聞き取った情報の大意を過不足なく文章にまとめる。(3) 上級の語彙の拡大し、文型を定着させるために聞き取りクイズを行う。(4) 理解した情報をもとに自分の意見を発表したり、ディスカッションする。 2. カリキュラム上の位置づけ 外国人留学生に必要とされる聴解能力を中心とした日本語の運用力を養成するための授業である。(音声表現理解) Bでは内容理解を中心に行う。 3. 学びの目標 留学生が大学での研究・学習生活に支障のない日本語の聴解能力を身につけ、コミュニケーションを通じて日本社会に参加できるようになることがこの授業の目的である。	
<b>評価方法</b> 出席 (30%)、授業内タスクと宿題 (30%)、試験 (30%)、授業への参加度 (10%) の総合評価による。 ※欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。 出席が3分の2以上あっても成績不良により不合格になる場合もある。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	



選択 日本語3(総合)A		春	週2回	2単位
担当者：木原 郁子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 新聞、雑誌、小説、テレビニュース、ラジオニュース、対談記事などの生教材を用いて、「書きことば」と「話しことば」の違いや、ジャンルによって、表現・語彙・文型が異なることを学ぶ。新聞とテレビニュースの違いや小説と映画の違いなどを取り上げ、「書きことば」と「話しことば」の変換ができるようにする。また、音声情報から必要な情報を聞き取り、要約できる聴解力を目指す。				
2. カリキュラムの位置づけ 外国人留学生のための授業。				
3. 学びの目標 大学で日本人と共に学ぶに必要な日本語力の向上を学習目標とする。特に「書きことば」「話しことば」に着目し、四技能（読解力・聴解力・文章表現力・口頭表現力）の総合的な向上を目標とする。				
<b>評価方法</b>				
中間・期末テスト（60%）、小テスト・宿題（20%）、授業への参加度（10%）、出席率（10%）、の総合評価による。 ※欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 日本語3(総合)B		秋	週2回	2単位
担当者：木原 郁子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 新聞、雑誌、小説、テレビニュース、ラジオニュース、対談記事などの生教材を用いて、「書きことば」と「話しことば」の違いや、ジャンルによって、表現・語彙・文型が異なることを学ぶ。新聞とテレビニュースの違いや小説と映画の違いなどを取り上げ、「書きことば」と「話しことば」の変換ができるようにする。また、音声情報から必要な情報を聞き取り、要約できる聴解力を目指す。				
2. カリキュラムの位置づけ 外国人留学生のための授業。				
3. 学びの目標 大学で日本人と共に学ぶに必要な日本語力の向上を学習目標とする。特に「書きことば」「話しことば」に着目し、四技能（読解力・聴解力・文章表現力・口頭表現力）の総合的な向上を目標とする。				
<b>評価方法</b>				
中間・期末テスト（60%）、小テスト・宿題（20%）、授業への参加度（10%）、出席率（10%）、の総合評価による。 ※欠席が3分の1以上となる場合、単位は与えられない。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 日本語3(調査・発表)A		春	週1回	1単位
担当者：和泉 司				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 大学専門課程の授業やゼミで日本語で発表するための力を養う。履修した学生が自分で資料を集め、調査し、レジュメやレポートを日本語で書いてまとめられるようにする。また、発表の手順や方法、質疑応答や討論の練習も行う。各自がテーマを自分で決めて調べることも大切である。				
2. カリキュラム上の位置づけ 留学生が大学専門課程で必要とされる資料調査と発表（プレゼンテーション）・討論の方法を身につける。				
3. 学びの意義と目標 学生各自の専門テーマや関心に適したテーマを選び、そのテーマについての資料やデータを集めてまとめ、発表する練習を行うことと、他の学生の発表を聞き、意見交換をすることは、大学だけでなく社会に出てからも重要な経験となるので、しっかり身につけることが大切である。				
<b>評価方法</b>				
口頭発表30%、出席20%、授業参加度20%、最終レポート30%を総合して評価する（変更する場合もある）。欠席が3分の1を超えた場合は評価対象とならない。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 日本語3(調査・発表)B		秋	週1回	1単位
担当者：和泉 司				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 大学専門課程の授業やゼミで日本語で発表するための力を養う。履修した学生が自分で資料を集め、調査し、レジュメやレポートを日本語で書いてまとめられるようにする。また、発表の手順や方法、質疑応答や討論の練習も行う。各自がテーマを自分で決めて調べることも大切である。				
2. カリキュラム上の位置づけ 留学生が大学専門課程で必要とされる資料調査と発表（プレゼンテーション）・討論の方法を身につける。				
3. 学びの意義と目標 学生各自の専門テーマや関心に適したテーマを選び、そのテーマについての資料やデータを集めてまとめ、発表する練習を行うことと、他の学生の発表を聞き、意見交換をすることは、大学だけでなく社会に出てからも重要な経験となるので、しっかり身につけることが大切である。				
<b>評価方法</b>				
口頭発表30%、出席20%、授業参加度20%、最終レポート30%を総合して評価する（変更する場合もある）。欠席が3分の1を超えた場合は評価対象とならない。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 日本語で学ぶ(日本の社会)		春	週1回	1単位
担当者: 鈴木 孝恵				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 「日本の社会」というテーマを扱いながら、知識だけでなく、日本語の語彙力を強化し、専門分野に必要な文型・表現を学ぶ。教科書や新聞の読解、ビデオなどの視聴、ブックレポートなどの活動を行う。毎回漢字・語彙の小テストをするほか、学習したところまでの試験を3回に分けて実施する。最終課題は、与えられたテーマの中から関心を持ったトピックについて調査し発表するが、要点をきちんとまとめたレジュメを作成する必要がある。なお、教科書は秋学期の「日本語で学ぶ(日本の文化)」と共用になる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 留学生のための日本語授業。学科での勉強を進める上で、専門的ではなく常識として知っておきたい日本社会についての基本を学ぶ。日本語2レベル履修後でない受講が難しい。</p> <p>3. 学びの意義と目標 日本の社会に関する理解を深めながら、日本語力を高め、学科で主体的に学ぶ力を身につける。</p>				
<b>評価方法</b>				
平常点(小テスト、課題提出、授業参加度など)40%、試験(3回)30%、最終発表(レジュメ作成を含む)30%を総合して判定する(変更されることもある)。欠席しないこと。欠席が3分の1を超える場合は評価対象とならない。				
<b>教科書</b>				
アジアにおける日本研究ゼミナール『留学生のための日本事情入門』文理閣				

選択 日本語で学ぶ(日本の政治制度)		秋	週1回	1単位
担当者: 和泉 司				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 目的 日本の政治制度・現代社会の諸問題の基本的な事柄を身につける。明治時代から現代までの政治史を、憲法や選挙制度、国会の仕組みを中心に学び、グローバル社会となった現在の問題について考える。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 留学生のための授業。日本の政治・社会についての基本的な事項を、日本語で学ぶことが重要なので、専門的な内容ではない。</p> <p>3. 学びの意義と目標 留学生が大学専門科目を履修するために必要なものの一つは、身につけた知識をきちんと日本語で表現できる力である。このクラスは、「日本語で学ぶ」ことが一番の目標である。</p>				
<b>評価方法</b>				
中間・期末テスト各30%・提出物20%・授業貢献10%・出席率10% ※ただし、欠席が全授業の三分の一を越えた場合、成績はつかない。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 日本語で学ぶ(日本の文化)		秋	週1回	1単位
担当者: 鈴木 孝恵				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 「日本の文化」というテーマを扱いながら、知識だけでなく、日本語の語彙力を強化し、専門分野に必要な文型・表現を学ぶ。教科書や新聞の読解、ビデオなどの視聴を多く行う。毎回漢字・語彙の小テストをするほか、学習したところまでの試験2回と、小発表を一人1回ずつ実施する。さらに最終課題として、与えられたテーマの中から関心を持ったトピックについて調査し発表するが、要点をきちんとまとめたレジュメを作成する必要がある。なお、教科書は春学期の「日本語で学ぶ(日本の社会)」と共用になる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 留学生のための日本語授業。日本の大学での勉強を進める上で、専門的ではなく常識として知っておきたい日本の文化についての基本を学ぶ。日本語2レベル履修後でない受講が難しい。</p> <p>3. 学びの意義と目標 日本の文化に関する理解を深めながら、日本語力を高め、学科で主体的に学ぶ力を身につける。</p>				
<b>評価方法</b>				
平常点(小テスト、課題提出、授業参加度)40%、試験(2回)と小発表(1回)30%、最終発表(レジュメ作成を含む)30%を総合して判定する(変更されることもある)。欠席しないこと。欠席が3分の1を超える場合は評価対象とならない。				
<b>教科書</b>				
アジアにおける日本研究ゼミナール『留学生のための日本事情入門』				

選択 日本語で学ぶ(日本の経済・産業)		秋	週1回	1単位
担当者: 清水 まさ子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(内容) 「日本の経済・産業」というテーマを扱いながら、知識だけでなく、日本語の語彙力や文法力を強化する。また授業では読解や口頭発表なども行い、総合的な日本語能力を育てていく。日本の経済・日本の産業についての歴史・知識・情報を学んでいくが、その過程で、様々な新聞・雑誌の記事やテレビのニュースなども紹介していく。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) この授業は専門的な経済学を学ぶのではなく、大学の専門課程の授業に参加するための基礎を作るための授業である。</p> <p>(学びの意義と目標) 留学生が日本の大学で学ぶ際に必要な日本経済・日本産業についての基礎知識を身につける。またそれに伴い、専門的な日本語能力を育てる。</p>				
<b>評価方法</b>				
試験40%・提出物20%・発表20%・平常点(授業の出席と授業への参加度)20%で評価する。ただし欠席が3分の1以上になる者は評価の対象とならない。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

<b>選択 日本語で学ぶ(日本の歴史)</b>	<b>春 週1回 1単位</b>
担当者：清水 まさ子	
<b>講義の目標及び概要</b> (内容) 「日本の歴史」というテーマを扱いながら、知識だけではなく、日本語の語彙力や文法力を強化する。また授業では読解や口頭発表なども行い、総合的な日本語能力を育てていく。日本の歴史における原始・古代・中世・近世・近代・現代を全体の流れとして捉えるとともに、各時代の特徴、それからその時代を代表する人物などにも触れたい。 (カリキュラム上の位置づけ) 専門科目を学ぶ上で、常識として知っておきたい日本の歴史の基本を学ぶ。 (学びの意義と目標) 留学生が専門科目を学ぶ上で、常識として知っておきたい日本の歴史を理解する。またそれに伴い、専門的な日本語能力を育てる。	
<b>評価方法</b> 試験40%・提出物20%・発表20%・平常点(授業の出席と授業への参加度)20%で評価する。欠席が3分の1以上になる者は評価の対象とならない。	
<b>教科書</b> 東京外国語大学編『留学生のための日本史』山川出版	

<b>選択 応用日本語(待望表現)</b>	<b>春 週1回 1単位</b>
担当者：木原 郁子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 基本的な敬語を復習し、相手との関係(上下・親疎)や遭遇するであろう場面において適切な待遇表現ができるように応用練習をする。具体的には、問い合わせや依頼などについて、口頭でのやりとりとメールの書き方を学ぶ。また、仕事や進学の面接場面での対応や、自己アピールの表現についても学習する。 2. カリキュラムの位置づけ 大学における日本語力を身につけた留学生のための講義で、卒業後社会に出てからの日本語の使用に対応するもの。 3. 学びの意義と目標 日本語での会話をスムーズに運ぶためには、人間関係や場面を考慮して表現を選ばなければならない。本講義では、そのような日本語での潤滑な人間関係を結ぶための表現を学び、様々な場面において実際に応用できるようになることを目標とする。	
<b>評価方法</b> テスト 50% 授業中の発表と課題の提出 30% 平常点(出席率、授業への参加度)20% *欠席が3分の1以上となる場合単位は与えられない。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 健康・体かづくリ実習A</b>	<b>春 週1回 1単位</b>
担当者：安部 久貴	
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 内容 バスケットボールとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パス、シュートといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がバスケットボールをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。 2) カリキュラムの位置づけ 全学科対象(1年生～可)。 3) 学びの意義と目標 バスケットボールの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しむので、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。	
<b>評価方法</b> 出席状況(60%) 授業態度(40%) *授業態度は技術の上手い下手ではなく、授業への積極性、服装、注意事項を守っているかなどで評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選択 健康・体かづくリ実習A</b>	<b>春 週1回 1単位</b>
担当者：梅津 迪子	
<b>講義の目標及び概要</b> 【フィットネス】 (内容) 毎時間、体脂肪測定を行うと共に前日の摂取食品を記録し、自分の身体状態を把握する。 ストレッチ運動、有酸素運動(音楽に合わせて)、バランスボール、器具を使用しての筋力アップ、ウォーキング(学外)等を実践する。測定記録と運動の関係を学び、ライフスタイルの点検を行う。 (カリキュラム上の位置づけ) 身体活動を生活の中に位置づけていく態度と自己の健康管理能力を養う。 (学びの意義と目標) 基礎体力に不安、肥満気味、運動が苦手、スポーツ仲間がない等で動く機会がない人も、実践を通して動く楽しさや爽快感、身体の変化を体感することで運動習慣が身につく。	
<b>評価方法</b> 出席回数重視(欠席は授業数の1/4)60点 授業に臨む態度・意欲(準備・後片付け含む)20点 フィットネスノートの提出20点 総合的に評価する	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 健康・体力づくり実習A		春	週1回	1単位
担当者：太田 涼				
<b>講義の目標及び概要</b>				
【テニス】 スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ（生涯スポーツ）は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しめること、遊べることが重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢（気持ち）と、スポーツで楽しめる、遊べることのできる能力（体力・技術）が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切にし、テニスを通じて、スポーツの効果（健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など）、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。 また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて心身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。				
<b>評価方法</b>				
授業での積極性、協調性、個人技能の向上、ルール理解度等の実習点50点と出席点50点（1回の授業につき欠席-6点、遅刻・早退-2点）の総合評価。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 健康・体力づくり実習A		春	週1回	1単位
担当者：神田 良太郎				
<b>講義の目標及び概要</b>				
【ニュースポーツ】 1. 内容 球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等々誰でも気軽に出来る運動を毎日みっちり行います。 2. カリキュラム上の位置づけ スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れ。 3. 学びの意義と目標 健康を維持していくためには、食生活と運動が重要です。美食の先には生活習慣病の恐れが出てきます。そこで、毎日一定の運動を継続することが必要になってきます。特別な場所や用具、時間がなくても出来る運動は数多くあります。そのことを理解し、実践することで人生がより豊かになります。				
<b>評価方法</b>				
出席点 60点（欠席 -6点、遅刻・早退 -2点） 評価点 40点（授業態度、技能）				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 健康・体力づくり実習A		春	週1回	1単位
担当者：樹森 大介				
<b>講義の目標及び概要</b>				
【サッカー】 (1)内容としては、サッカーをとおして楽しく体を動かすことをねらいとし、その中で個人技術・集団技術の向上を図ることやチームとしての協調性を養うこともねらいとしている。 (2)健康な身体を維持するためには、生活習慣や日頃の運動が大切であることは言うまでもない。サッカーで体を動かす喜びやゲームの楽しさを体験し、自ら健康・体力づくりをできる習慣を養う。 (3)サッカーの特性を講義や実技をとおして理解するとともに、ゲームを実践できるようにするための基礎技術の習得を目指す。				
<b>評価方法</b>				
出席点 60%（欠席1/4まで） 平常点 40%（授業態度、技能、準備・片付け）				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 健康・体力づくり実習A		春	週1回	1単位
担当者：鈴木 由美				
<b>講義の目標及び概要</b>				
【バレーボール】 バレーボールは、ボールと自分との関係（個人的技能）、自分とチームメイトとの関係、自分のチームと相手チームとの関係（集団的技能）から構成される。これらの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～ゲームという流れで学習を進める。  履修者のレディネス（それぞれの体力や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から速攻を使った攻撃練習まで幅広く対応し、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めるとともに、身体を動かすことの楽しさ・爽快感・精神的な開放や、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさも体感できるよう学習を進めていく。また、バレーボールはレクリエーションな場で行われることも多く、生涯スポーツとしてもその活動機会の多い種目なので、ネットの設営、ゲームの運営・管理も学習する。				
<b>評価方法</b>				
出席状況、理論・実技の達成課題の到達度を総合的に評価する。 出席（60%）、授業への意欲・関心度（10%）、実技課題の達成度（10%）、学習ノート・レポート（20%）				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 健康・体づくり実習A		春	週1回	1単位
担当者：関 一誠				
<b>講義の目標及び概要</b>				
【バドミントン】 〈内容〉 体づくりの観点から、基本ストロークや、フライング技術の習得、ラリーの向上を目標とする。基本練習を含めた技術練習とゲーム練習を平行しながら進めていく。 年間スケジュール案は次の通りであるが、各技術の習得からゲーム練習まで、出来る限りコート内にいる時間を多くするために、履修生の人数・技術レベル等によって柔軟に対応していく。				
<b>評価方法</b> 出席点（欠席は1/4まで 50%） 平常点（授業に臨む態度等 20%） 実技テスト、ペーパーテスト（30%） 以上を総合的に判断する				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

選択 健康・体づくり実習B		秋	週1回	1単位
担当者：安部 久貴				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1) 内容 バスケットボールとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パス、シュートといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がバスケットボールをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。				
2) カリキュラムの位置づけ 全学科対象（1年生～可）。				
3) 学びの意義と目標 バスケットボールの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。				
<b>評価方法</b> 出席状況（60%） 授業態度（40%） *授業態度は技術の上手い下手ではなく、授業への積極性、服装、注意事項を守っているかなどで評価する。				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

選択 健康・体づくり実習B		秋	週1回	1単位
担当者：梅津 迪子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
【フィットネス】 〈内容〉 毎時間、体脂肪測定と摂取食品を記録し自分の身体の状況を把握する。ストレッチ運動、有酸素運動（音楽に合わせて）、器具を使用する筋力UP、ウォーキング（郊外）を実践する 〈カリキュラム上の位置づけ〉 身体活動を生活の中に位置づけていく態度と自己の健康管理ができる能力を養う。 〈学びの意義と目標〉 基礎体力に不安、肥満気味、運動が苦手、スポーツ仲間がいらないなどで動く機会がない人も実践を通して、動く楽しさや爽快感を味わい、身体の変化を体感することで運動習慣が身につく。また、摂取食品と運動の関係が日常生活のあり方にも影響していること、自分のライフスタイルを検討、自己の体の管理能力を養う。				
<b>評価方法</b> 出席率重視（欠席は授業数の1/4）60% 授業にのぞむ態度・意欲 20% フィットネスノート提出 20%				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選択 健康・体づくり実習B		秋	週1回	1単位
担当者：太田 涼				
<b>講義の目標及び概要</b>				
【テニス】 ※テニスを受講済の者等が望ましい。スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ（生涯スポーツ）は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しめること、遊べることが重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢（気持ち）と、スポーツで楽しめる、遊べることのできる能力（体力・技術）が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切に、テニスを通じて、スポーツの効果（健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など）、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。 また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて自身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。				
<b>評価方法</b> 授業での積極性、協調性、個人技能の向上、ルール理解度等の実習点50点と出席点50点（1回の授業につき欠席-6点、遅刻・早退-2点）の総合評価。				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

選択 健康・体力づくり実習B 秋 週1回 1単位
担当者：神田 良太郎
<b>講義の目標及び概要</b> 【ニュースポーツ】 1. 内容 球技や競技スポーツの苦手な人、基礎体力をつけたい人、シェイプアップしたい人などを対象にストレッチ運動、各種体力づくり運動、ボール運動等々誰でも気軽に出来る運動を毎日みっちり行います。 2. カリキュラム上の位置づけ スポーツを楽しむにはまず基礎体力。次に球技や競技スポーツに移るのが自然の流れ。 3. 学びの意義と目標 健康を維持していくためには、食生活と運動が重要です。美食の先には生活習慣病の恐れが出てきます。そこで、毎日一定の運動を継続することが必要になってきます。特別な場所や用具、時間がなくても出来る運動は数多くあります。そのことを理解し、実践することで人生がより豊かになります。
<b>評価方法</b> 出席点 60点 (欠席 -6点、遅刻・早退 -2点) 評価点 40点 (授業態度、技能)
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選択 健康・体力づくり実習B 秋 週1回 1単位
担当者：樹森 大介
<b>講義の目標及び概要</b> 【サッカー】 (1)内容としては、サッカーをとおして楽しく体を動かすことをねらいとし、その中で個人技術・集団技術の向上を図ることやチームとしての協調性を養うこともねらいとしている。 (2)健康な身体を維持するためには、生活習慣や日頃の運動が大切であることは言うまでもない。サッカーで体を動かす喜びやゲームの楽しさを体験し、自ら健康・体力づくりをできる習慣を養う。 (3)サッカーの特性を講義や実技をとおして理解するとともに、ゲームを実践できるようにするための基礎技術の習得を目指す。
<b>評価方法</b> 出席点 60% (欠席1/4まで) 平常点 40% (授業態度、技能、準備・片付け)
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選択 健康・体力づくり実習B 秋 週1回 1単位
担当者：鈴木 由美
<b>講義の目標及び概要</b> 【バレーボール】 バレーボールは、ボールと自分との関係（個人的技能）、自分とチームメイトとの関係、自分のチームと相手チームとの関係（集団的技能）から構成される。これらの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～ゲームという流れで学習を進める。  履修者のレディネス（それぞれの体力や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から速攻を使った攻撃練習まで幅広く対応し、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めるとともに、身体を動かすことの楽しさ・爽快感・精神的な開放や、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさも体感できるよう学習を進めていく。また、バレーボールはレクリエーションな場で行われることも多く、生涯スポーツとしてもその活動機会の多い種目なので、ネットの設営、ゲームの運営・管理も学習する。
<b>評価方法</b> 出席状況、理論・実技の達成課題の到達度を総合的に評価する。 出席 (70%)、授業への意欲・関心度 (10%)、実技課題の達成度 (10%)、学習ノート (10%)
<b>教科書</b> プリントを配布する

選択 健康・体力づくり実習B 秋 週1回 1単位
担当者：関 一誠
<b>講義の目標及び概要</b> 【バドミントン】 〈内容〉 体力づくりの観点から、基本ストロークや、フライト技術の習得、ラリーの向上を目標とする。基本練習を含めた技術練習とゲーム練習を平行しながら進めていく。 年間スケジュール案は次の通りであるが、各技術の習得からゲーム練習まで、出来る限りコート内にいる時間を多くするために、履修生の人数・技術レベル等によって柔軟に対応していく。
<b>評価方法</b> 出席点 (欠席は1/4まで 50%) 平常点 (授業に臨む態度等 20%) 実技テスト、ペーパーテスト (30%) 以上を総合的に判断する
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選択 生涯スポーツ実習A	春	週1回	1単位
担当者：安部 久貴			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1) 内容 バスケットボールとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パス、シュートといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がバスケットボールをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。			
2) カリキュラムの位置づけ 全学科対象（1年生～可）。			
3) 学びの意義と目標 バスケットボールの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。			
<b>評価方法</b>			
出席状況（60%） 授業態度（40%） *授業態度は技術の上手い下手ではなく、授業への積極性、服装、注意事項を守っているかなどで評価する。			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選択 生涯スポーツ実習A	春	週1回	1単位
担当者：梅津 迪子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
【トータル・フィットネス】 （内容） 「フィットネスA・B」の授業を併用して履修することをお勧めしたい。体脂肪測定や摂取食品を記録し、前半はストレッチ、有酸素運動（音楽に合わせて）、バランスボール、アングル等を実践する。後半はミニテニス、卓球、ウォーキング、サウンドテーブルテニス等のスポーツ活動を行う。 （カリキュラム上の位置づけ） 基礎的体力の維持と生活の中に運動する習慣を身につける。食品の摂り方・運動方法を学び、自分の健康管理ができる能力を養う。 （学びの意義と目標） 動くことの楽しさや爽快感を味わい、実践することで身体の変化を体感して欲しい。そして、現実の自己の身体状況を把握し、健康的な生活ができる能力を身につける。			
<b>評価方法</b>			
出席率重視（欠席数は1/4）60% 授業にのぞむ態度・意欲 20% フィットネスノート提出 20%			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 生涯スポーツ実習A	春	週1回	1単位
担当者：太田 涼			
<b>講義の目標及び概要</b>			
【テニス】 ※中・上級者、テニス受講者が望ましい。スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ（生涯スポーツ）は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しむこと、遊べることが重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢（気持ち）と、スポーツで楽しむ、遊べることのできる能力（体力・技術）が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切にし、テニスを通じて、スポーツの効果（健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など）、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。 また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて心身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。			
<b>評価方法</b>			
授業での積極性、協調性、個人技能の向上、ルール理解度等の実習点50点と出席点50点（1回の授業につき欠席-6点、遅刻・早退-2点）の総合評価。			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選択 生涯スポーツ実習A	春	週1回	1単位
担当者：樹森 大介			
<b>講義の目標及び概要</b>			
【サッカー】 (1)内容としては、サッカーをとおして楽しく体を動かすことをねらいとし、その中で個人技術・集団技術の向上を図ることやチームとしての協調性を養うこともねらいとしている。 (2)健康な身体を維持するためには、生活習慣や日頃の運動が大切であることは言うまでもない。サッカーで体を動かす喜びやゲームの楽しさを体験し、生涯スポーツとして自ら健康づくりのできる習慣を養う。 (3)サッカーの特性を講義や実技をとおして理解するとともに、ゲームを実践できるようにするための基礎技術の習得を目指す。			
<b>評価方法</b>			
出席点 60%（欠席1/4まで） 平常点 40%（授業態度、技能、準備・片付け）			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選択 生涯スポーツ実習A		春	週1回	1単位
担当者：鈴木 由美				
<b>講義の目標及び概要</b> 【エアロビックダンス】 (1) (内容)：配布資料を基に「健康」について学習しながら、アップビートな音楽に合わせてエアロビックダンスを約45分行います。加えて様々な筋力コンディショニング運動（自重を使ったトレーニング、バランスボール、パワーヨガなど）とストレッチングなどのいつでもどこでもできる身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、音楽に合わせて身体を動かす楽しさや爽快感を体感することにより、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるような複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。 (2) (カリキュラム上の位置づけ)：豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。 (3) (学びの意義と目標)：生活全般（食事・運動・睡眠）にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力が向上すること。				
<b>評価方法</b> 出席状況、理論・実技の達成課題の到達度を総合的に評価する。出席（60%）、授業への意欲・関心度（10%）、実技課題の達成度（10%）、学習ノート・レポート（20%）				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選択 生涯スポーツ実習A		春	週1回	1単位
担当者：鈴木 由美				
<b>講義の目標及び概要</b> 【バレーボール】 バレーボールは、ボールと自分との関係（個人的技能）、自分とチームメイトとの関係、自分のチームと相手チームとの関係（集団的技能）から構成される。これらの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～ゲームという流れで学習を進める。  履修者のレディネス（それぞれの体力や経験の有無）に応じて、基本的なボール操作から速攻を使った攻撃練習まで幅広く対応し、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めるとともに、身体を動かすことの楽しさ・爽快感・精神的な開放や、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさも体感できるよう学習を進めていく。また、バレーボールはレクリエーション的な場で行われることも多く、生涯スポーツとしてもその活動機会の多い種目なので、ネットの設営、ゲームの運営・管理も学習する。				
<b>評価方法</b> 出席状況、理論・実技の達成課題の到達度を総合的に評価する。出席（70%）、授業への意欲・関心度（10%）、実技課題の達成度（10%）、学習ノート（10%）				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選択 生涯スポーツ実習A		春	週1回	1単位
担当者：関 一誠				
<b>講義の目標及び概要</b> 【バドミントン】 (内容) 日本には、バドミントンによく似た遊びに「羽根突き」がある。手や足を使って、あるいは、棒や板を使って、台に羽根を植え込んだものを打ち合う遊戯は世界各地で見られる。バドミントンは、こうした遊びが競技化されたもので、名称は、イギリスのグロスダーシャ州バドミントンハウスに由来する。競技バドミントンのシャトルの動きは、スピーディに変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速が大きくラリーを程よく続けることができる。互いのやりとりのおもしろさは、プレイに熱中せずにはいられないだろう。 本授業では、バドミントンの特性を十分に生かしながら技術や知識を個人の教養として身につけてもらうとともに、健康スポーツとして日常の運動習慣の確立、体力の維持・増進、ストレスからの開放等、生涯スポーツとして位置づけることを目的としている。				
<b>評価方法</b> 出席点（欠席は1/4まで 50%） 平常点（授業に臨む態度等 20%） 実技テスト、ペーパーテスト（30%） 以上を総合的に判断する				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

選択 生涯スポーツ実習B		秋	週1回	1単位
担当者：安部 久貴				
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 内容 バasketボールとは、ドリブルやパスでボールを前に運びながら相手ゴールにシュートして得点を競い合うスポーツである。その中には、ドリブル、パス、シュートといった個人技能だけでなく、グループやチームでどう攻め、守るのかといったグループ、チーム戦術も存在する。そこで、本講義では、受講生がBasketボールをより楽しめるようになるために、個人・集団技能やルールについて説明する。  2) カリキュラムの位置づけ 全学科対象（1年生～可）。  3) 学びの意義と目標 Basketボールの楽しさに触れ、生涯においてスポーツを楽しんで、続けていくことの必要性を認識させる。そのために必要な個人・集団技能の習得を図る。また、自立してゲームを行えるように、ルールについても学ぶ。				
<b>評価方法</b> 出席状況（60%） 授業態度（40%） *授業態度は技術の上手い下手ではなく、授業への積極性、服装、注意事項を守っているかななどで評価する。				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				



選択 生涯スポーツ実習B	秋 週1回 1単位
担当者：梅津 迪子	
<b>講義の目標及び概要</b> <b>【トータルフィットネス】</b> (内容) 「フィットネスA・B」を併用して履修することをお勧めしたい。毎時間、体脂肪測定と摂取食品を記録し自分のライフスタイルを点検する。前半はストレッチ、有酸素運動を音楽に合わせて行い、アングル、バランスボール、器具を使用した筋力UP、後半はミニテニス、卓球、ウォーキング、サウンドテーブルテニス等のスポーツ活動を実践する。 (カリキュラム上の位置づけ) 基礎的体力の維持と生活の中に運動習慣を身につける。また、身体の変化を体感することで摂取食品と運動との関係を学び、健康管理ができる能力を養う。 (学びの意義と目標) 動くことの楽しさや爽快感を味わい、実践することで身体の変化を体感して欲しい。そして、現実の自己の身体状況を把握し、健康的な生活を維持する能力を養う。	
<b>評価方法</b> 出席率重視 (欠席は授業数の1/4) 60% 授業にのぞむ態度・意欲 20% フィットネスノート提出 20%	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 生涯スポーツ実習B	秋 週1回 1単位
担当者：太田 涼	
<b>講義の目標及び概要</b> <b>【テニス】</b> ※中・上級者が望ましい。スポーツの原点は楽しむこと、遊ぶことである。その点において、私達が生涯を通じて行うスポーツ(生涯スポーツ)は、年齢、性、技能の差を問わず、楽しめること、遊べることが重要となる。そのためには、自らが生活の中にスポーツを習慣化していく姿勢(気持ち)と、スポーツで楽しめる、遊べることのできる能力(体力・技術)が必要となる。本講義では、真剣に楽しむ、一生懸命に遊ぶというスポーツ本来の精神を大切にし、テニスを通じて、スポーツの効果(健康の保持・増進、ストレス解消、コミュニケーション促進など)、面白さなどを体験し、生涯においてスポーツを実践していく姿勢・能力を身につけてもらいたい。 また、基礎技術を習得し、ラリーを楽しみ、ゲームを通じて心身のリフレッシュを図る。さらにルールやマナーを尊重し、人とのコミュニケーションや協調性を高め人間性の向上に努める。授業前半はそれぞれの技能を高めるための練習を行い、後半はチームを固定して編成しダブルスゲームを中心に行う予定である。準備や審判なども全員で交代して行う。基本的なことから授業を進めていき、生涯スポーツの実現とActive Living!の一助となるような実習を考えています。	
<b>評価方法</b> 授業での積極性、協調性、個人技能の向上、ルール理解度等の実習点50点と出席点50点(1回の授業につき欠席-6点、遅刻・早退-2点)の総合評価。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選択 生涯スポーツ実習B	秋 週1回 1単位
担当者：樹森 大介	
<b>講義の目標及び概要</b> <b>【サッカー】</b> (1)内容としては、サッカーをとおして楽しく体を動かすことをねらいとし、その中で個人技術・集団技術の向上を図ることやチームとしての協調性を養うこともねらいとしている。 (2)健康な身体を維持するためには、生活習慣や日頃の運動が大切であることは言うまでもない。サッカーで体を動かす喜びやゲームの楽しさを体験し、生涯スポーツとして自ら健康づくりのできる習慣を養う。 (3)サッカーの特性を講義や実技をとおして理解するとともに、ゲームを実践できるようにするための基礎技術の習得を目指す。	
<b>評価方法</b> 出席点 60%(欠席1/4まで) 平常点 40%(授業態度、技能、準備・片付け)	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選択 生涯スポーツ実習B	秋 週1回 1単位
担当者：鈴木 由美	
<b>講義の目標及び概要</b> <b>【エアロビックダンス】</b> (1)〈内容〉：配布資料を基に「健康」について学習しながら、アップビートな音楽に合わせてエアロビックダンスを約45分を行います。加えて様々な筋力コンディショニング運動(自重を使ったトレーニング、バランスボール、パワーヨガなど)とストレッチングなどのいつでもどこでもできる身体作りや調整の方法をわかりやすく学習していきます。エアロビックダンスは、日常にはない動作を沢山盛り込み、音楽に合わせて身体を動かす楽しさや爽快感を体感することにより、ストレス解消など「心への効き目」も実感できます。また、自分の目的や体調に応じて、運動強度・難易度を選択できるような複数の動作を提供するので、運動の得意不得意、男女を問わず自分のペースで楽しむことができます。 (2)〈カリキュラム上の位置づけ〉：豊かな人生をデザインするための知恵となる「身体的教養」を高める。 (3)〈学びの意義と目標〉：生活全般(食事・運動・睡眠)にわたるトータルな視点から自分の身体を知り、健康への自己教育力が向上すること。	
<b>評価方法</b> 出席状況、理論・実技の達成課題の到達度を総合的に評価する。 出席(60%)、授業への意欲・関心度(10%)、実技課題の達成度(10%)、学習ノート・レポート(20%)	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 生涯スポーツ実習B</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：関 一誠
<b>講義の目標及び概要</b> 【バドミントン】 (内容) 日本には、バドミントンによく似た遊びに「羽根突き」がある。手や足を使って、あるいは、棒や板を使って、台に羽根を植え込んだものを打ち合う遊戯は世界各地で見られる。バドミントンは、こうした遊びが競技化されたもので、名称は、イギリスのグロスダーシャ州バドミントンハウスに由来する。競技バドミントンのシャトルの動きは、スピーディに変化に富み、その豪快さ、心地よさは、スマッシュに代表される。その一方で、スカートをはいた形状から終速時の減速が大きくラリーを程よく続けることができる。互いのやりとりのおもしろさは、プレイに熱中せずにはいられないだろう。 本授業では、バドミントンの特性を充分に生かしながら技術や知識を個人の教養として身につけてもらうとともに、健康スポーツとしての運動習慣の確立、体力の維持・増進、ストレスからの開放等、生涯スポーツとして位置づけることを目的としている。
<b>評価方法</b> 出席点 (欠席は1/4まで 50%) 平常点 (授業に臨む態度等 20%) 実技テスト、ペーパーテスト (30%) 以上を総合的に判断する
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 生涯スポーツ実習B</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：鈴木 由美
<b>講義の目標及び概要</b> 【バレーボール】 バレーボールは、ボールと自分との関係 (個人的技能)、自分とチームメイトとの関係、自分のチームと相手チームとの関係 (集団的技能) から構成される。これらの技術・戦術をドリルゲームを用い、さまざまなスモールステップを踏んで段階的・系統的に学習していく。毎回、個人的技能練習～ゲームという流れで学習を進める。  履修者のレディネス (それぞれの体力や経験の有無) に応じて、基本的なボール操作から速攻を使った攻撃練習まで幅広く対応し、ゲームの内容をより攻撃性の高いラリーへ深めるとともに、身体を動かすことの楽しさ・爽快感・精神的な開放や、チームメイトとの協力・コミュニケーションの楽しさも体感できるよう学習を進めていく。また、バレーボールはレクリエーションな場で行われることも多く、生涯スポーツとしてもその活動機会の多い種目なので、ネットの設営、ゲームの運営・管理も学習する。
<b>評価方法</b> 出席状況、理論・実技の達成課題の到達度を総合的に評価する。 出席 (70%)、授業への意欲・関心度 (10%)、実技課題の達成度 (10%)、学習ノート (10%)
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 聖書の世界A</b> <span style="float: right;">春 週1回 2単位</span>
担当者：左近 豊
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 現代世界に多大な影響を与えているキリスト教、ユダヤ教、イスラム教は「聖書」をベースにした宗教です。「聖書」を初めて学ぶ人たちを対象に、特にこれら3宗教が共有している「(旧約) 聖書」を取り上げ、主たる内容を概観し、それぞれの文書にみられる思想的な特徴、歴史的な背景などにも触れながら理解を深めてゆきます。春学期は、旧約聖書の思想的核を形成する「モーセ五書 (トラー) 」と呼ばれる部分に焦点をあてます。 2. カリキュラム上の位置づけ 聖書について初めて学ぶ人を対象とした、入門的なコースです。 3. 学びの意義と目標 「旧約聖書」の3つの区分と、それらに属する諸文書の内容について概略を記述することができる 旧約聖書の「モーセ五書」の思想的意義について記述できる 旧約聖書を成立させた古代イスラエルとそれを取り巻く古代近東世界について、その歴史的背景について説明できる
<b>評価方法</b> 出席・授業参加 30% 礼拝出席レポート 20% 期末試験50%
<b>教科書</b> 『聖書』日本聖書協会

<b>選択 聖書の世界B</b> <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：左近 豊
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 「聖書の世界A」に引き続き、「聖書」を初めて学ぶ人たちを対象に、「(旧約) 聖書」を取り上げます。秋学期は、旧約聖書の「預言者」と「諸書」と呼ばれる部分に焦点をあてます。これらは古代イスラエルにとどまらず、現代社会にも多大な影響を与えている部分です。このコースでは現実に身を沈めつつ、同時にそこに溺れない預言者の視点、聖書に蓄積された喜びと悲しみ、道理と不条理を語る詩人の言葉を学びます。 2. カリキュラム上の位置づけ 聖書を初めて学ぶ人を対象とした入門的なコースです。 3. 学びの意義と目標 「旧約聖書」の3つの区分と、それらに属する諸文書の内容について概略を記述することができる 旧約聖書の「預言者」「諸書」の思想的意義について記述できる 旧約聖書を成立させた古代イスラエルとそれを取り巻く古代近東世界について、その歴史的背景について説明できる
<b>評価方法</b> 出席・授業参加 30% 礼拝出席レポート20% 期末テスト50%
<b>教科書</b> 『聖書』日本聖書協会

選択 神と人間A	春	週1回	2単位
担当者：相澤 一			
<b>講義の目標及び概要</b>			
(1)内容 「人間とは何か?」「人間とは(あるいは、私は)なぜ、なんのために生きているのか?」といった問いは、古代ギリシヤ以来の長い歴史のある問いであり、多くの人たちがそれに答えようとしてきた。本講義は、そんな思想家たちの学説を毎回取り上げる。前期は、古代から中世までの思想家を扱う。 (2)カリキュラム上の位置づけ この講義はキリスト教関連科目の一つであり、全学科に開放されているので、西洋思想史のおいしいところを一通り試食してみたい方はぜひ積極的に履修していただきたい。 (3)学びの意義と目標 上に述べた通り、本講義は「人間とは(あるいは、私は)なぜ、なんのために生きているのか?」という問いに取り組んだ思想史の巨人たちを扱うものである。自分自身がこうした問題にぶつかった時、あるいは誰かが問題にぶつかっている時、この講義のノートがただちに助けとなることは言うまでもない。それが必要になるのは、脅すわけではないが明日かもしれないのだ。			
<b>評価方法</b> 毎回の出席(20%)、全学礼拝および教会礼拝出席レポート(30%)、期末レポート(50%)の総合点で評価する。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

選択 神と人間B	秋	週1回	2単位
担当者：相澤 一			
<b>講義の目標及び概要</b>			
(1)内容 「人間とは何か?」「人間とは(あるいは、私は)なぜ、なんのために生きているのか?」といった問いは、古代ギリシヤ以来の長い歴史のある問いであり、多くの人たちがそれに答えようとしてきた。本講義は、そんな思想家たちの学説を毎回取り上げる。後期は、近代の思想家を扱う。 (2)カリキュラム上の位置づけ この講義はキリスト教関連科目の一つであり、全学科に開放されているので、西洋思想史のおいしいところを一通り試食してみたい方はぜひ積極的に履修していただきたい。 (3)学びの意義と目標 上に述べた通り、本講義は「人間とは(あるいは、私は)なぜ、なんのために生きているのか?」という問いに取り組んだ思想史の巨人たちを扱うものである。自分自身がこうした問題にぶつかった時、あるいは誰かが問題にぶつかっている時、この講義のノートがただちに助けとなることは言うまでもない。それが必要になるのは、脅すわけではないが明日かもしれないのだ。			
<b>評価方法</b> 毎回の出席(20%)、全学礼拝および教会礼拝出席レポート(30%)、期末レポート(50%)の総合点で評価する。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

選択 イングリッシュ・バイブルA	春	週1回	2単位
担当者：E. D. オズバーン			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. Content — This course is a survey of the first major section of the Bible, the Old Testament, in English. An introduction to the Bible in general and the Old Testament in particular will be made, with special attention to their historical significance. Key themes within the Old Testament will then be covered, with emphasis on practical application to the students' personal lives.  2. Role in the Curriculum — The course is an elective within the general curriculum at Seigakuin University and is open to 2nd-, 3rd-, and 4th-year students in all departments.  3. Learning Objectives — The primary objectives are to familiarize students with the major themes of the Old Testament and to enable students to discover biblical passages that will help them in life.			
<b>評価方法</b> Grades will be based upon attendance and participation (10%), reading assignments (40%), quizzes (30%), and a final examination (20%).			
<b>教科書</b> 『NIV Thinline Bible』 Zondervan Publishing Co. [ISBN 978-0-310-93564-3] Richards Larry 『The Bible: The Smart Guide to the Bible』 Thomas Nelson Inc. [ISBN 978-1-418-53638-1]			

選択 イングリッシュ・バイブルB	秋	週1回	2単位
担当者：E. D. オズバーン			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. Content — This course is a survey of the second major section of the Bible, the New Testament, in English. As a continuation of English Bible-A, the course further develops the theme of the centrality of Jesus Christ in human redemptive history and emphasizes the importance of His teachings for practical living.  2. Role in the Curriculum — The course is an elective within the general curriculum at Seigakuin University and is open to 2nd-, 3rd-, and 4th-year students in all departments.  3. Learning Objectives — The primary objectives are to familiarize students with the major themes of the New Testament, particularly the Gospel message, and to enable students to discover biblical passages that will help them in life.			
<b>評価方法</b> Grades will be based upon attendance and participation (10%), reading assignments (40%), quizzes (30%), and a final examination (20%).			
<b>教科書</b> 『NIV Thinline Bible』 Zondervan Publishing Co. [ISBN 978-0-310-93564-3] Richards Larry 『The Bible: The Smart Guide to the Bible』 Thomas Nelson Inc. [ISBN 978-1-418-53638-1]			

<b>選択</b> <b>キリスト教と物語</b>	<b>秋</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：藤原 淳賀	
<b>講義の目標及び概要</b> 本講義で扱う「物語」は、架空の作り話を意味しない。そうではなく、事実に基づいた「解釈された歴史」を意味する。私たちが歴史を一貫したものとして解釈しようとするとき、「物語的」にならざるを得ない。私たちが自分について語ろうとするとき、それは物語となる。 そのような意味において私たちは物語的存在である。 旧新約聖書においても、物語形式が多く用いられている。私たちが実存的に神について考え、語ろうとするとき、私たちは物語的に考え、物語的に語ろうとすることになる。 キリスト教的に考えるということは、私たちの個々の物語を、あるいは（家族、日本といった）私たちの共同体の物語を、壮大なる神の救いの物語、神の民の物語の中で理解するということの意味する。 本講義では、学生諸君が(1)自らの物語をもっていることを理解させ、表現できるようにすること、(2)キリスト教と物語との関係を理解し表現できるようにすること、そして(3)自らの物語を、聖学院大学において壮大なる神の物語と重ね合わせるようにすることを目指している。	
<b>評価方法</b> レポート（自分史）40% 試験 60%	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択</b> <b>日本キリスト教史A</b>	<b>春</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：柳田 洋夫	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉日本のキリスト教の歴史について、特に明治以降のプロテスタントに重点を置きつつ、基礎的な事項を学ぶ。春学期は総体的・通時的な把握を試みる。  〈カリキュラム上の位置づけ〉1年次におけるキリスト教概論をふまえて、日本における思想や文化についてキリスト教的視点から学ぶ基礎・選択科目。  〈学びの目標〉日本におけるキリスト教の大概について当時の社会・思想状況と併せて理解するとともに、宗教や信仰とは何かについて自ら考え実践に生かすことができるようになることを目指す。  〈参考文献〉 鶴沼裕子『史料による日本キリスト教史』（聖学院大学出版会） 海老沢有道『日本キリスト教史』（日本キリスト教団出版局） 土肥昭夫『日本プロテスタント・キリスト教史』（新教出版社）	
<b>評価方法</b> 出席・参加度40%、オンラインレポート40%、礼拝レポート20%。 出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合、また、オンラインレポート未提出の場合は評価の対象としない。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択</b> <b>日本キリスト教史B</b>	<b>秋</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：柳田 洋夫	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉日本のキリスト教の歴史について、特に明治以降のプロテスタントに重点を置きつつ、基礎的な事項を学ぶ。秋学期は代表的キリスト者を取り上げ、その生涯・信仰・思想について学ぶ。  〈カリキュラム上の位置づけ〉1年次におけるキリスト教概論をふまえて、日本における思想や文化についてキリスト教的視点から学ぶ基礎・選択科目。  〈学びの目標〉日本におけるキリスト教の大概をについて当時の社会・思想状況と併せて理解するとともに、宗教や信仰とは何かについて自ら考え実践に生かすことができるようになることを目指す。  〈参考文献〉 鶴沼裕子『近代日本キリスト者の信仰と倫理』（聖学院大学出版会） 『近代日本のキリスト教思想家たち』（日本基督教団出版局）	
<b>評価方法</b> 出席・参加度40%、オンラインレポート40%、礼拝レポート20%。 出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合、また、オンラインレポート未提出の場合は評価の対象としない。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択</b> <b>キリスト教と人権</b>	<b>春</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：阿久戸 光晴	
<b>講義の目標及び概要</b> 人権とは何だろうか？ 人権は世界的な規模で熱い議論の対象となっている。しかし人権というものを、人類はある時までその存在を知らなかった。そのある時とはいつであろうか？ また我々はこれから人権をどう扱ったらよいのか？ 本講義は、これらの人権をめぐる根本問題をともに考えていくものである。本講義が終ったあかつきには、諸君たちがこれからの人生で人権を善用できるようになることを目標としたいと考える。	
<b>評価方法</b> 期末試験 60%、平常点（授業出席・教会礼拝及び全学礼拝レポート）40%	
<b>教科書</b> 『聖書』日本聖書協会 高木八尺・未延三次・宮沢俊義『人権宣言集』岩波文庫	

<b>選択</b> キリスト教と歴史形成A <b>春</b> 週1回 2単位
担当者：石田 学
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 講座の目的 キリスト教は二千年の歴史をとおして、西欧社会と文化の形成に大きな役割を果たしてきました。この講座では、キリスト教がどのような仕方・どのような意味において、歴史形成に関与してきたかを概観し、そのことを通して、現代のわたしたちが生きている世界を理解する一助にできればと思います。 2. 講座の進め方 本講座は、教会のはじまりから西暦1500年までを区切りとして、十二のポイントに焦点を当てる仕方キリスト教がどのように歴史形成と関係してきたかを学びます。できるだけ多くの画像、図版などを用いて理解の助けとします。 3. 講座の目標 本講座終了時に、近代初期までの西欧歴史がキリスト教とどう関係してきたか、その概略を把握することを目指します。
<b>評価方法</b> 学期末試験70% 課題レポート10% 出席評価20%
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択</b> キリスト教と歴史形成B <b>秋</b> 週1回 2単位
担当者：石田 学
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 講座の目的 キリスト教は二千年の歴史をとおして、西欧社会と文化の形成に大きな役割を果たしてきました。この講座では、キリスト教がどのような仕方・どのような意味において、近代から現代までの歴史形成に関与してきたかを概観します。世界をよりよく理解し、未来を築いてゆく手がかりとなることを願っています。 2. 講座の進め方 本講座は、西暦1500年から現代までを十二のポイントに焦点を当てる仕方、キリスト教がどのように歴史形成と関係してきたかを学びます。できるだけ多くの画像、図版などを用いて理解の助けとします。 3. 講座の目標 近代から現代までの歴史形成にキリスト教がどう関与してきたか、その概略を把握できることを目指します。
<b>評価方法</b> 学期末試験70% 課題レポート10% 出席評価20%
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択</b> 近代社会とピューリタニズムA <b>春</b> 週1回 2単位
担当者：松谷 好明
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容 近代社会の形成にとってプロテスタント・キリスト教、特に宗教改革の徹底を目指したピューリタニズムの持つ意義は極めて大きい。本講義においては、こうした基本的認識に立って20世紀の全体主義思想と対峙し、デモクラシーを擁護したイギリスの政治学者、A・D・リンゼイの思想の解明を通して、近代社会とピューリタニズムの関係を考察する。 (2)カリキュラム上の位置づけ ピューリタニズムを理解することは単に歴史の一端を知るということではなく、人間と社会の基礎を探究することであり、すべての学問の土台となると言って過言ではない。 (3)学びの意義と目標 学生諸君が自分自身の生き方と日本および世界の在り方を問い直す上で、本講義が役立てば幸いである。
<b>評価方法</b> 学期末の試験（70%）と受講姿勢（30%）による
<b>教科書</b> 永岡薫・山本俊樹・佐野正子訳『わたしはデモクラシーを信じる』聖学院大学出版会

<b>選択</b> 近代社会とピューリタニズムB <b>秋</b> 週1回 2単位
担当者：松谷 好明
<b>講義の目標及び概要</b> Aに同じ
<b>評価方法</b> Aに同じ
<b>教科書</b> 古賀敬太・藤井哲郎『オックスフォード・チャペル講話』聖学院大学出版会

<b>選択</b> キリスト教と政治思想A <span style="float: right;">春 週1回 2単位</span>
担当者：川添 美央子
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容 本講義ではキリスト教の成立と展開の歴史を追いつつ、宗教と政治の様々な関係のあり方について考察する。キリスト教は長い歴史の中で、ある時は社会に活力を与えたり連帯を促したり、あるいは権力批判という形で政治の健全性を保つことに貢献してきた。しかしまたある時は、自らのなかに権力的要素を取り込んだり、あるいは政治権力と密着しすぎることで、弱者を抑圧する方向に作用したこともあるのである。それぞれの作用のあり方の背後にはどのような思想的バックボーンがあり、聖書のどの箇所がどのように解釈されたのか。キリスト教の成立から宗教改革までの歴史を通して考えてみたい。 (2)カリキュラム上の位置づけ 「キリスト教概論」程度の知識は前提とした発展的学習であるから、2年生以上の受講が望ましい。 (3)学びの意義と目標 本講義を通じて、宗教が関わる様々なニュースを見た時、その背後にある政治と宗教のダイナミズムを読み取ろうとする人間になってもらえればと願う。
<b>評価方法</b> 期末試験6割、平常点（出席率、毎回のリアクションペーパーの内容、積極的な質問）4割で評価する。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択</b> キリスト教と政治思想B <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：川添 美央子
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容 近代以降、キリスト教は多方面からの挑戦を受けてきた。たとえば啓蒙主義や進化論といった近代科学の隆盛や、ナチズムなどの「国家の神話」に飲み込まれそうになるという危険である。これらの挑戦に対し、キリスト教はどのように応答し、それぞれの時代の社会形成に関わってきたのだろうか。またこの闘いはどのような時に成功し、あるいは失敗してきたのか。本講義ではこれらの問題を、西欧近代思想史に即し、中でもアメリカとドイツの歴史的経験に重点を置きつつ考えてみたい。 (2)カリキュラム上の位置づけ キリスト教概論程度の知識は前提とした発展的学習であるため、2年生以上の受講が望ましい。 (3)学びの目標 本講義を通じて、キリスト教に限らず宗教が関わる様々なニュースを見た時に（例えばイスラム圏での出来事も含む）、その背後にある政治と宗教のダイナミズムを読み取ろうとする人間になってもらえればと願う。
<b>評価方法</b> 期末試験6割、平常点（出席率、毎回のリアクションペーパーの内容、積極的な質問）4割で評価する。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択</b> キリスト教と社会科学 <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：松原 望
<b>講義の目標及び概要</b> キリスト教は、その大きな特色として、彼岸（ひがん=死後の世界）はもとより、倫理、経済、政治など 社会（この世）における人間のあり方につき強く勧告する宗教として知られる。人生のいろいろな社会的場面や問題につきキリスト教的（ことにプロテスタンティズム）に考えることは本来何を意味するか、あまりむづかしくなく、そのわかりやすいアウトライン（だけ）を示す。
<b>評価方法</b> 出席点50%、期末テスト50%
<b>教科書</b> プリントを配布する 『聖書』

<b>選必修</b> キリスト教と法 <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：加藤 恵司
<b>講義の目標及び概要</b> キリスト教は、聖書を中心に据えた教えです。もし、聖書以外の文献にも権威を置くならば異端、異宗教と称します。そこで、前半では聖書の中に表わされた法、法生活、法環境について追究します。19世紀にゾームという学者は「教会法は教会の本質とは矛盾する」という名言を残しました。（第11講目に講義）聖書は愛の教えのゆえに法律にはなじまないという主張です。ところが、聖書の生活の中には多くの法的な考え方が多く見られます。「法」は正義が価値ですから愛の教えとベクトル的には同じ方向に向いています。ですから、前半は、愛と正義に立脚して聖書の理解を深めます。 後半はキリスト教史です。キリスト教会は、多くの歴史の変遷を経てきました。特に教会の制度に焦点を当てて考えます。カトリック、プロテスタントの相違、宗教改革によって広がった教派について考えます。教派は、歴史的事情と教会法的な制度と深く関係しているからです。そして、私達の生活の中にもキリスト教、聖書的な発想が多くあることに気がついて欲しいと思います。 このような理解は、西欧文化を理解するために役に立つばかりでなく、自分の生き方を再発見できるはずです。
<b>評価方法</b> 講義の出席を重視し、毎回のノート提出によって評価する。ノート小テストを行い、合計点で評価をする。
<b>教科書</b> 加藤恵司『法・思想・歴史』ジーオー企画出版 『聖書』日本聖書協会

選択 <b>キリスト教と国際社会A</b> <span style="float:right">春集中 2単位</span>
担当者：早藤 昌浩
<b>講義の目標及び概要</b> 我々の暮らす日本を含めた民主主義・市場経済を基本とする現代社会で、キリスト教と日常の社会経済活動の間にはどのような関連を見出せるのだろうか。また、多様な価値観が共存する現代国際社会の中において、聖書はいかなる行動規範を我々に示しているのか。21世紀の国際社会が、人間疎外、環境問題、民族間対立等不透明性を増す中、社会運営の基礎となっている政治体制、法律、経済、社会倫理等を、聖書の視点から検討することが求められているのではないだろうか。この講義では、こうした問題意識から、特に、神に対する人間の呼応責任 (stewardship) と隣人と世界に対する説明責任 (accountability) という視点を中心に据え、国際社会の諸問題を受講者諸君とともに考えてみたい。
<b>評価方法</b> 試験結果70%、授業態度・参加度及び出席率30%。 4回以上欠席したら単位は与えない。
<b>教科書</b> プリントを配布する

選択 <b>キリスト教と日本社会A</b> <span style="float:right">春 週1回 2単位</span>
担当者：柳田 洋夫
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 1年次でのキリスト教概論の内容をふまえ、キリスト教の日本社会に対する影響や貢献について具体的な事項に即して学ぶ。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 主としてプロテスタント・キリスト教的視点からキリスト教と日本社会の関わりについて学ぶ基礎・選択科目。 〈学びの目標〉 キリスト教の日本社会に対する影響や貢献について理解を深めるとともに、この学びを手がかりとして広く宗教と社会との関連についても自ら考えることを目指す。 (参考文献) 大木英夫『ピューリタン』(聖学院大学出版会)
<b>評価方法</b> 出席・参加度40%、オンラインレポート40%、礼拝レポート20%。 出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合、また、オンラインレポート未提出の場合は評価の対象としない。
<b>教科書</b> プリントを配布する

選択 <b>キリスト教と日本宗教</b> <span style="float:right">春 週1回 2単位</span>
担当者：濱田 辰雄
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 内容 キリスト教を基盤として、日本人の宗教観を問い、日本人の進むべき道を探る。 (2) (3) 学びの意義と目標 日本人の宗教観を自覚することと、キリスト教と比較することにより、より広い見識に立って、自らの宗教観を形成する。
<b>評価方法</b> 試験の答案への評価が70% 出席点が15% レポート提出点が15% として評価する。
<b>教科書</b> 武光 誠『日本人にとって「宗教」って何だろう』河出書房新書

選択 <b>キリスト教と日本思想</b> <span style="float:right">秋 週1回 2単位</span>
担当者：濱田 辰雄
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 内容 キリスト教を基盤として、日本思想の本質を問い、日本人の進むべき道を探る。 (2) (3) 学びの意義と目標 日本社会の構造を宗教の立場から考察し、国際社会に貢献できる日本形成を目指す人材を育成する。
<b>評価方法</b> 試験の答案への評価が70% 出席点が15% レポート提出点が15% として評価する。
<b>教科書</b> 長谷川 穂『和の思想』中公新書

<b>選択</b> <b>キリスト教と倫理的諸問題A</b>	<b>春</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：小倉 義明	
<b>講義の目標及び概要</b> 【内容】まず、倫理とは何かを考え、次いで倫理の考え方について典型的に分類・整理してみる。その上で、キリスト教倫理の特質を把握したい。以上の総論をふまえて、現代社会で特に問題となっている倫理的諸問題を取り扱う。それらについて、キリスト教はどう考えるのかを紹介する。 【カリキュラムの位置づけ】「キリスト教概論」により、キリスト教と聖書について一応の基礎知識を得ていることを前提とする。その上で倫理的問題を考察する。特化されたややアドヴァンス的な科目である。 【学びの意義と目標】多元化・多極化していると言われる現代社会は、その価値観・道徳観も多様で、むしろ混乱していると言っていてよいだろう。その混乱を整理して、批判的に選択できるようになることが望まれる。本講座の目標は(1)自分で考える訓練をすること(2)キリスト教的知見を知ること。 ※プリント配布。参考文献はその都度紹介する。	
<b>評価方法</b> 授業出席 30% 教会及び全学礼拝出席レポート 20% 期末テスト 50%	
<b>教科書</b> 聖学院大学キリスト教センター編『神を仰ぎ、人に仕う 21世紀版』聖学院大学出版会	

<b>選択</b> <b>キリスト教と倫理的諸問題B</b>	<b>秋</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：深井 智朗	
<b>講義の目標及び概要</b> 内容 本講義では、近年Public Theologyと呼ばれるようになった方法論を用いて、古代から現代に至るまでのキリスト教における「政治と宗教との関係」という問題を扱う。 カリキュラム上の位置付け 本講義は、聖学院大学の理念の中にあるプロテスタント的な文化価値から生み出された「教会と国家の分離の原則」の成立史と発展史を概観することによって、プロテスタンティズムと近代文化との関係の一部を解明する。そのことを通してプロテスタンティズムと社会史や政治思想史、あるいは歴史学との対話を個々を見ようとしている。 学びの意義と目標 本講義を通して、プロテスタンティズムと近代世界との関係についての主要な議論を概観できる。また諸外国後の文献を読みながら勉強する習慣を身につける。	
<b>評価方法</b> 学期中の3回のレポート (30%) と学期末試験の結果 (40%)、出席点 (30%) を考慮して決定する。	
<b>教科書</b> 深井智朗『十九世紀のドイツ・プロテスタンティズム』教文館 深井智朗『政治神学再考』聖学院大学出版会	

<b>選択</b> <b>キリスト教信仰と文化</b>	<b>春</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：藤原 淳賀	
<b>講義の目標及び概要</b> 本講義のタイトルは「キリスト教と文化」でない。「キリスト教」は既に文化の中にあり、「キリスト教と文化」という問題は、「相対」対「相対」の事柄となる。本講義のタイトルは「キリストと文化」でもない。これは絶対的存在であるキリストと相対的文化との関わりを示すことになる。「キリスト教信仰」という言葉により、私は、既に文化の中にあるキリスト教の本質を表そうとしている。それは絶対的の神の啓示により、相対的文化の中で生まれた絶対と相対の「境界線」にある。本講義ではその「キリスト教信仰」と相対的「文化」との関係を、特に文化を変革していくという視点から教会論を中心にして考察していく。 本講義では、学生諸君がキリスト教信仰と文化との関係を理解し、今日の日本文化を形成している要因を批判的に検討する能力を養うことを目標とする。 毎回、授業レポートを提出してもらい。初めの時期は講義内容のまとめを書いてもらうが、次第に講義に対する君たち自身の考え(提示されたテーマに同意するのか、あるいは反対するのか、そうする根拠は何か)を書いてもらう。それにより、論理的思考及び批判的思考を養う。	
<b>評価方法</b> 期末テスト 50% 授業レポート 50%	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する H・リチャード・ニーバー『キリストと文化』日本基督教団出版局 グレン・H・スタクセン、デービッド・P・ガッシー『イエスの平和(シヤローム)を生きる』いのちのことは社 パウル・ティルヒ『文化の神学』新教出版社、S・ハーフワース『平和を可能にする神の国』新教出版社 ジョン・ヨーダー『イエスの政治』新教出版社 鈴木有郷『ラインホルド・ニーバーとアメリカ』新教出版社	

<b>選択</b> <b>キリスト教とアメリカ思想A</b>	<b>春</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：高橋 義文	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 アメリカにおけるさまざまな思想的営みは、言うまでもなくキリスト教と深い関係の中にある。本講義では、アメリカ史に添ってその経緯を概観し、各時代におけるキリスト教とさまざまな思想との交流関係を明らかにする。「キリスト教国アメリカ」、あるいは「プロテスタント国家アメリカ」と言われるその特徴は何なのかを考える。 2. カリキュラム上の位置づけ 必修科目キリスト教概論を基礎として、キリスト教の多様な展開・影響・応用について考察する、本学建学の精神に関わる学びである。 3. 学びの意義と目標 (1)アメリカとキリスト教の関係について概観する。(2)アメリカにけるさまざまな思想を理解するとともにそのキリスト教思想との関係を概観する。(3)キリスト教とは何かをアメリカの文脈で考察する。(4)アメリカとは何かをキリスト教の文脈で考察する。(5)現代日本におけるその意味を考える。	
<b>評価方法</b> 1. 毎回の小レポート。出席点を兼ねる。30% 2. 全学礼拝・教会出席レポート 20% 3. 期末レポート 50%	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	



<b>選択</b> キリスト教とアメリカ思想B <b>秋</b> 週1回 2単位
担当者：高橋 義文
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 キリスト教とアメリカ思想Aを受けて、本講義では、キリスト教とさまざまな思想との交流関係をとくに20世紀アメリカに集中して考察する。その際、20世紀の代表的神学者・知識人ラインホルド・ニーバーの思想を媒介にし、20世紀アメリカのキリスト教、デモクラシー、人種問題、国際政治をめぐるさまざまな思想について検討する。 2. カリキュラム上の位置づけ 必修科目キリスト教概論を基礎として、キリスト教の多様な展開・影響・応用について考察する、本学建学の精神に関わる学びである。 3. 学びの意義と目標 (1)20世紀アメリカの諸思想を概観する。(2)ラインホルド・ニーバーの思想の概要を把握する。(3)ニーバーの視点と交差するアメリカ思想の特質・問題・意義をとらえる。(4)アメリカとは何かをニーバーの視点から考察する。(5)現代日本におけるその意味を考える。
<b>評価方法</b> 1. 毎回の小レポート。出席点を兼ねる。30% 2. 全学礼拝・教会出席レポート 20% 3. 期末レポート 50%
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択</b> キリスト教とアメリカ文化A <b>春</b> 週1回 2単位
担当者：森田 美千代
<b>講義の目標及び概要</b> 内容 今後数年間にわたって、キリスト教がアメリカ文化に与えた影響を、時代順にみていく予定である。今年度の春学期は、19世紀のアメリカにおいて、キリスト教と文化（生活）との相互関係のドラマがどのように展開されていったかを、ハリエット・ビーチャー・ストウの『アンクル・トムの小屋』を通して学ぶことにする。 カリキュラム上の位置づけ このコースは、全学科の2年生を対象とした基礎科目（キリスト教関連科目）である。もちろん、全学科の3年生や4年生も受講できる。 学びの意義と目標 アメリカにおけるキリスト教と文化の最初の頃(19世紀頃まで)をしっかりと学んでおくことは、その後のアメリカ—20世紀と21世紀—を理解するうえで大きな助けになる。
<b>評価方法</b> 出席 30% 礼拝レポート 30% 期末レポート 40%
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択</b> キリスト教とアメリカ文化B <b>秋</b> 週1回 2単位
担当者：森田 美千代
<b>講義の目標及び概要</b> 内容 今後数年間にわたって、キリスト教がアメリカ文化に与えた影響を、時代順にみていく予定である。今年度の秋学期は、19世紀のアメリカにおいて、キリスト教と文化（生活）との相互関係のドラマがどのように展開されていったかを、ハリエット・ビーチャー・ストウの『アンクル・トムの小屋』を通して学ぶことにする。 カリキュラム上の位置づけ このコースは、全学科の2年生を対象とした基礎科目（キリスト教関連科目）である。もちろん、全学科の3年生や4年生も受講できる。 学びの意義と目標 アメリカにおけるキリスト教と文化の最初の頃(19世紀頃まで)をしっかりと学んでおくことは、その後のアメリカ—20世紀と21世紀のアメリカ—を理解するうえで大きな助けになる。
<b>評価方法</b> 出席 30% 礼拝レポート 30% 期末レポート 40%
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択</b> キリスト教とアジア文化A <b>春</b> 週1回 2単位
担当者：高 嵩松
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 一年を通してアジアのキリスト教について学ぶが、本学はアジア大陸におけるキリスト教文化を中心に学ぶ。歴史的状況を踏まえた上で、キリスト教がアジア諸国にどのような影響を与えたかについて、またキリスト教文化の現状を理解する。 2. カリキュラム上の位置づけ 本講義は全学科2年生を対象とした基礎科目（キリスト教関連科目）である。3年生、4年生も受講できる。 3. 学びの意義と目標 アジア諸国の民族、社会、文化、そして教会の概観を通して、キリスト教の理解を深める。
<b>評価方法</b> 出席と授業態度20%、礼拝レポート20%、読書レポート20%、期末レポート40%。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択</b> キリスト教とアジア文化B <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：高 嵩松
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 一年を通してアジアのキリスト教について学ぶが、本学は韓国におけるキリスト教文化を中心に学ぶ。歴史的状況を踏まえた上で、キリスト教が韓国にどのような影響を与えたかについて、またキリスト教文化の現状を理解する。  2. カリキュラム上の位置づけ 本講義は全学科2年生を対象とした基礎科目（キリスト教関連科目）である。3年生、4年生も受講できる。  3. 学びの意義と目標 韓国の国家、民族、社会、文化、そして教会の概観を通して、キリスト教の理解を深める。
<b>評価方法</b> 出席と授業態度20%、礼拝レポート20%、読書レポート20%、期末レポート40%。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選必</b> キリスト教と文学A <span style="float: right;">春 週1回 2単位</span>
担当者：黒木 章
<b>講義の目標及び概要</b> [内容] 遠藤周作の作品を読む。日本の代表的なキリスト教作家遠藤周作の作品にはどんな魅力があり、どんな問題があるかを検証する。 [カリキュラム上の位置付け] 入学後に学んだキリスト教概論などの基礎的な認識や知識を踏まえて各論的に展開する選択必修の応用科目の一つである。ここでの主体的な取り組みと問題発掘から次の年次に置かれているキリスト教の専門科目と卒業研究等につながることを意図した本学の根幹科目である。 [学びの意義と目標] 遠藤周作の作品が日本だけでなく世界中で注目され、さまざまな物議を生んだのはなぜか。彼の小説作りがうまくいったこと、特に日本から西洋へ向けてのキリスト教徒としての問題提起が時宜を得ていたからともいえる。それは近代日本人の生き方（思考法や態度）と現代世界の宗教的問題を誠実に探求するものであった。受講生の中には作家志望の人もあると思われるので、ここでは遠藤の小説作りの技法を検証しながらグローバルな社会に生きる我々の課題を考えてみる。
<b>評価方法</b> 授業集積状況を10%、普段の授業参加態度を20%、学期の途中で課す2回の小レポート（各1500字程度）を30%、学期末の試験に替わるレポートを40%とみる。
<b>教科書</b> 遠藤周作『海と毒薬』新潮文庫 遠藤周作『沈黙』新潮文庫 遠藤周作『深い河』講談社文庫

<b>選必</b> キリスト教と文学B <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：黒木 章
<b>講義の目標及び概要</b> [内容] 日本近現代を代表する作家夏目漱石と大江健三郎についてそれぞれの代表作『心』と『個人的な体験』をキリスト教の観点から問題にしてみる。 [カリキュラム上の位置付け] 入学後に学んだキリスト教についての基礎的な認識や知識を踏まえて各論的に展開するキリスト教関連科目の一つである。ここでの主体的な取り組みが次の段階に組み込まれているキリスト教に関する専門科目や卒業研究につながることを期待されている本学の根幹科目である。 [学びの意義と目標] 約100年前に書かれた明治期を代表する夏目漱石の代表作『心』は、発表以来日本の半数以上の人々が読み続けてきたのはなぜか。ここで提示された問題が近現代日本人の基本的な問題であり、それは未だに克服されない課題であり続けたからであろう。また現代日本を代表する作家大江健三郎がノーベル文学賞を受賞したのはなぜか。彼が探求し提示し続ける問題が現代の知的世界にある種の希望を与えるからではないのか。二つの作品をキリスト教の観点から問題にすることで意外な発見がある。丁寧な読解によって日本と世界の人々が取組むべき問題を考える。
<b>評価方法</b> 授業出席状況を10%、授業参加態度を20%、学期の途中で課す2回の小レポート（各1500字程度）を30%、学期末の定期試験に替わるレポートを40%とみる。
<b>教科書</b> 夏目漱石『心』新潮文庫 大江健三郎『個人的な体験』新潮文庫

<b>選択</b> キリスト教と古典 <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：小倉 義明
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容 「キリスト教の古典」と言う時の「古典」の意味についてであるが、歴史的に声価の定まった書物くらいに理解して頂く。本講座でとりあげるのは、古典のうちでも、初学者でも比較的読みやすい小さな作品である。小さいけれど意義深い書を数冊読んで、著作者の人物・思想と彼の生きた時代の思潮を概観する。 (2)カリキュラム上の位置づけ キリスト教に関する基礎科目を踏まえて、少しばかり研究・調査の実施をし、その方法を身につけようという中級程度の講座である。 (3)学びの意義と目標 古典を読むことは、流行の話題の書を読むのに比べて地味である。しかし、それは私たちの人格形成と思想形成のために確かな里程標となる。そうとは言っても大部の書を読むのは、一点集中にならざるを得ない。本講座では、興味深い幾人かの小著をとりあげ、実際に読むことの大切さと楽しさを受講者に知ってもらうことを目標とする。
<b>評価方法</b> 授業出席 30% 教会及び全学礼拝出席レポート 20% 期末テスト 50%
<b>教科書</b> ルター『キリスト者の自由・聖書への序言』岩波文庫 ウェーバー『職業としての政治』岩波文庫 ウェーバー『職業としての学問』岩波文庫 リンカーン『リンカーン演説集』岩波文庫 内村鑑三『後世の最大遺物/デンマルク国の話』岩波文庫

選択 聖書の中の環境問題		春	週1回	2単位
担当者：村上 公久				
<b>講義の目標及び概要</b>				
キーワード：聖書、キリスト教、創造、文化、環境保全、農耕、遊牧、砂漠、森林				
<p>1. 内容：最近「環境問題ブーム」に乗って多くの本や講演があり、今では多くの大学で環境問題に関する各種科目を掲げているが、それらは「地球にやさしい」(?)と装いながらも、実は現在の環境問題そのものを引き起こした原因である「人間中心」のヒューマニズムに由来する環境問題意識に基づいたものである。キリスト教の教典『聖書』は環境問題を考える際の知恵の宝庫である。最近になって、地球環境問題と取り組んでいる科学者たちが環境問題の原因を「ヒトと自然との関係の崩れ」に見始めているが、そのほとんど全てが既に『聖書』の中に記されている。森林科学を中心に地球環境問題の研究をライフ・ワークにしているクリスチアンの自然科学者が「聖書」の中に観た環境問題を取り上げ、21世紀を生きる学生たちと共に考えてみたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：キリスト教関連科目。</p> <p>3. 学びの意義と目標：聖書の宗教が内包する環境問題の観方を理解する。</p>				
<b>評価方法</b>				
学期中複数回の試験、出席状況、討論によるクラスへの貢献、レポートを総合的に評価する。				
<b>教科書</b>				
『聖書』				

選択 キリスト教と音楽B		秋	週1回	2単位
担当者：渡辺 善忠				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(1) 聖書の言葉が音楽でどのように表現されているかを多面的な視点で学ぶ</p> <p>(2) 聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰を理解することを目標とする</p> <p>☆聖書の言葉を基としてキリスト教音楽を深く味わうことを目指します。</p> <p>「キリスト教と音楽B」(後期)では、新約聖書に基づいて作曲されたキリスト教合唱曲を中心として、聖書の言葉の解釈・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖書(旧新約聖書両方を用います)</li> <li>・「聖書と音楽」(大野恵正著/新教出版社 2000年)</li> <li>・「よくわかるキリスト教の音楽」(長谷川朝雄他著/キリスト新聞社 2000年)</li> <li>・「大作曲家の信仰と生涯」(P.カヴァノー著・吉田幸弘訳/教文館 2000年)</li> <li>・「教会音楽史と讃美歌学」(横坂康彦著/日本キリスト教団出版局 1993年)</li> </ul> <p>その他の参考文献について必要に応じてその都度お知らせします。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席点と試験で評価致します。出席を重視しますので、三分の以上欠席した場合は不合格となります。評点は、講義内容に関する試験の評価をもとに、出席状況、授業態度、礼拝レポート・教会レポートを勘案して評定致します。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 キリスト教と音楽A		春	週1回	2単位
担当者：渡辺 善忠				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(1) 聖書の言葉が音楽でどのように表現されているかを多面的な視点で学ぶ</p> <p>(2) 聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰を理解することを目標とする</p> <p>☆聖書の言葉を基としてキリスト教音楽を深く味わうことを目指します。</p> <p>「キリスト教と音楽A」(前期)では、旧約聖書に基づいて作曲されたキリスト教合唱曲を中心として、聖書の言葉の解釈・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。なお、「キリスト教と音楽B」(後期)では新約聖書による作品を学びますので、通年で受講される方を歓迎致します。</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖書(旧新約聖書両方を用います)</li> <li>・「聖書と音楽」(大野恵正著/新教出版社 2000年)</li> <li>・「よくわかるキリスト教の音楽」(長谷川朝雄他著/キリスト新聞社 2000年)</li> <li>・「大作曲家の信仰と生涯」(P.カヴァノー著・吉田幸弘訳/教文館 2000年)</li> <li>・「教会音楽史と讃美歌学」(横坂康彦著/日本キリスト教団出版局 1993年)</li> </ul> <p>その他の参考文献について必要に応じてその都度お知らせします。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席点と試験で評価致します。出席を重視しますので、三分の以上欠席した場合は不合格となります。評点は、講義内容に関する試験の評価をもとに、出席状況、授業態度、礼拝レポート・教会レポートを勘案して評定致します。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 キリスト教音楽史A		春	週1回	2単位
担当者：渡辺 善忠				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(1) キリスト教音楽の歴史を、背景の文化も含めて広い視点で学ぶ</p> <p>(2) 聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰を理解することを目標とする</p> <p>☆聖書の言葉を基としてキリスト教音楽を深く味わうことを目指します。</p> <p>「キリスト教音楽史A」では、キリスト教音楽のルーツであるユダヤ教音楽から宗教改革時代までの教会音楽について、聖書解釈と作品の時代背景から論じつつ作品に耳を傾けます。聖書と音楽史との関わりをふまえて音楽を理解することを目的とします。なお、「キリスト教音楽史B」では宗教改革以降の作品を学びますので、通年で受講される方を歓迎致します。</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聖書(旧新約聖書両方を用います)</li> <li>・「キリスト教音楽の歴史」(金澤正剛著/日本キリスト教団出版局 2001年)</li> <li>・「よくわかるキリスト教の音楽」(長谷川朝雄他著/キリスト新聞社 2000年)</li> <li>・「ユダヤ音楽の旅」(水野信男著/ミルトス 2000年)</li> </ul> <p>その他の参考文献については必要に応じてその都度お知らせします。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席点と試験で評価致します。出席を重視しますので、三分の以上欠席した場合は不合格となります。評点は、講義内容に関する試験の評価をもとに、出席状況、授業態度、礼拝レポート・教会レポートを勘案して評定致します。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

<b>選択</b> <b>キリスト教音楽史B</b>	<b>秋</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：渡辺 善忠	
<b>講義の目標及び概要</b> (1)キリスト教音楽の歴史を、背景の文化も含めて広い視点で学ぶ (2)聖書の言葉を受け継いできた教会の信仰を理解することを目指す ☆聖書の言葉を基としてキリスト教音楽を深く味わうことを目指します。 「キリスト教と音楽史B」(後期)では、宗教改革から現代までのキリスト教合唱作品を中心に、教会の歴史・作曲家の信仰・各作品の時代背景の3つの視点から論じつつ、CDによって作品に耳を傾けます。 参考文献 ・聖書(旧新約聖書両方を用います) ・「キリスト教音楽の歴史」(金澤正剛著/日本キリスト教団出版局2001年) ・「よくわかるキリスト教の音楽」(長谷川朝雄他著/キリスト新聞社2000年) ・「大作曲家の信仰と生涯」(P.カヴァノー著・吉田幸弘訳/教文館2000年) その他の参考文献については必要に応じてその都度お知らせします。	
<b>評価方法</b> 出席点と試験で評価致します。出席を重視しますので、三分の一以上欠席した場合は不合格となります。評点は、講義内容に関する試験の評価をもとに、出席状況、授業態度、礼拝レポート・教会レポートを勘案して評定致します。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択</b> <b>キリスト教と美術A</b>	<b>春</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：喜田 敬	
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 内容 本講義の前半では、民族と宗教と美術の連続性を学び、後半では、キリスト教と美術(欧州中世まで)の歴史を学ぶ。 今回は、2003年にローマ、小アジア(トルコ)で収集した資料を加え、新約聖書の世界を旅する。 2) カリキュラム上の位置づけ キリスト教関連科目のひとつであり、教養としてのキリスト教美術に関する知識を広く修得することを目指す。 3) 学びの意義と目標 民族と宗教と美術の連続性に注目し、キリスト教美術の魅力に触れることを目標としている。	
<b>評価方法</b> 出席・試験80%、レポート20%	
<b>教科書</b> プリントを配布する 高階秀爾『西洋美術史』美術出版社 『聖書』	

<b>選択</b> <b>キリスト教と美術B</b>	<b>秋</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：喜田 敬	
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 内容 前半は、「キリスト教と美術A」に引き続き、欧州中世から北方ルネサンスまでのキリスト教造形芸術の図像と歴史を学び、後半は、ガウディの人と作品について学ぶ。 今回は2002年～2003年に英、仏、伊、西で収集した資料を講義に加える。 2) カリキュラム上の位置づけ キリスト教関連科目のひとつであり、教養としてのキリスト教美術に関する知識を広く修得することを目指す。内容的には「キリスト教と美術A」に継続するものである。 3) 学びの意義と目標 中世からルネサンス期にまで至るキリスト教美術の世界に広く親しみ、その魅力に触れることを目標としている。	
<b>評価方法</b> 出席・試験80% レポート20%	
<b>教科書</b> プリントを配布する 高階秀爾『西洋美術史』美術出版社 『聖書』	

<b>選択</b> <b>キリスト教と美術A</b>	<b>春</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：香山 壽夫	
<b>講義の目標及び概要</b> (1)【内容】建築は、全ての人が毎日身近で関っている芸術であり技術である。それは、見て楽しく面白いものであるだけでなく、私達の生活の基本となる共通の秩序をつくり出す大切なものでもある。聖書の中にも、建築の例を用いたたとえ話や詩が沢山でてくるのは、建築がこのように全ての人にとって身近で大切な存在だからである。建築の面白さを、沢山の美しいスライドを見て理解しながら、建築の様々な「かたち」の中に現れてくる人間の「こころ」あるいは「いのち」について考えてみよう。 (2)【カリキュラム上の位置づけ】建築を中心にして、彫刻や絵画も含めた広く美学・美術史の入門あるいは概論となるように用意されている。同時にまた、人の生きるかたちとして建築を理解していくことによって、聖書を自分の生き方と結びつけて考えていくように導く。 (3)【学びの意義と目標】建築についての理解は美術史・文化史の基礎である。その基本的知識を身につけること。そして同時に、建築や美術の歴史において、キリスト教の果たしてきた大きな役割についての理解を持つこと。	
<b>評価方法</b> 中間レポート(2～3回)と最終試験の結果で評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選択</b> <b>キリスト教と建築B</b>	<b>秋</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：香山 壽夫	
<b>講義の目標及び概要</b> (1)【内容】建築とは、全ての人が日常的に関わる芸術であり、技術である。この建築の面白さと大切さを、できるだけ具体的に、広い文化史の流れの中で理解できるように、スライドやビデオを用いて講義を行う。講義は、初期キリスト教の建築から中世ゴシック、そして近世ルネサンスから現代へと大きく時代を追ってすすめていく。受講生は、「キリスト教と建築A」をあらかじめ履修しておくことが望ましいが、たとえそうでなくても、講義の理解に支障はない。 (2)【カリキュラムの位置づけ】建築芸術に対して、キリスト教の信仰は、どのようにはたらいてきたか。キリスト教の信仰に対して、建築芸術はどのようなはたらきを持つか。このことをできるだけ具体的に論じ、建築を通じて、芸術の創造におけるキリスト教の力について考えながら、建築の面白さと大切さを理解し、自らの問題として考えていけるように導く。 (3)【学びの意義と目標】教会建築の歴史上の主要様式を理解し説明できるようになること。聖書の中に数多く用いられている建築の比喩を通して、建築の深い意味が説明できるようになること。	
<b>評価方法</b> 中間レポート（2～3回）と最終試験で評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選択</b> <b>キリスト教と児童福祉の実際A</b>	<b>春</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：菅原 哲男	
<b>講義の目標及び概要</b> キリスト教と児童福祉の関係及び社会的養育を必要とする子どもたちの取り扱いや関わりについての歴史を概観し、社会的変動と子どもたちの持つ課題や問題の変化について概説する。また、児童福祉の理念と絶対受容から真実告知、そして社会的自立に至る養育論を述べる。この養育論の規定を支えるキリスト教的人間論について持論を述べる。近年、児童養護施設は重篤な虐待を被けた子どもたちで占めている。各論では、入所から真実告知と日常的なメッセージを含んだ関わり、退所から自立までをVTRやディスカッションを随時取り入れて考察する。そのことで、若い人たちへの家族と子育てのあり方を述べながら、福祉現場の人材養成に寄与したい。講義の内容は、リアクションペーパーに記された質問や要望などを取り入れて、学生とともにつくるものとする。板書をしない。傾聴姿勢を養う。 推薦図書 芹沢俊介「もう一度親子になりたい」主婦の友社 子どもソーシャルワークの実際 ミネルバ書房 菅原哲男共著	
<b>評価方法</b> 毎回リアクションペーパーを徴収し評価して平均を出す。礼拝レポートを参考に調整する。定期試験は行わない方向。講義への参加度によりレポート提出もあり得る。	
<b>教科書</b> 菅原 哲男『誰がこの子を受け止めるのか』言叢社	

<b>選択</b> <b>キリスト教と児童福祉の実際B</b>	<b>秋</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：菅原 哲男	
<b>講義の目標及び概要</b> キリスト教と児童福祉の実際Aを受けて、社会的養育を必要とする子どもたちの日常生活の中で子どもたちが被けた虐待によるものと思われる言動などについて詳述する。 児童福祉の理念と絶対受容としてのキリスト教的人間論について持論を述べる。 法や制度では、解決不能な虐待を被けた子どもたちが、もう一度「世代間伝達論」という出口のない論理を乗り越える可能性と手立てについて事例を示して解決への道筋を確認する。児童観と社会的養育論を受講生とともに試みる。 各論では、入所＝出生＝絶対受容、真実告知＝セルフイメージの確認と日常的な関わりとメッセージなどについてVTRやディスカッションを随時取り入れて考察する。社会福祉専門職の基本である傾聴の姿勢を養うために板書はしない。 わが国の家族が見失いつつあるその役割や意味を、家族関係や子育てなどを考察し、ひとつのあり方として試みる。 講義の内容は、毎回講義後に徴収するリアクションペーパーに記された質問や要望などを取り入れて、学生とともにつくるものにしていく。 推薦図書 カラマーゾフの兄弟カドストエフスキー	
<b>評価方法</b> リアクションペーパーと礼拝レポート 必要によってレポートの徴収を考える。	
<b>教科書</b> 菅原 哲男『真実告知』明石書店	

<b>選択</b> <b>キリスト教と高齢者福祉の実際A</b>	<b>春</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：児島 康夫	
<b>講義の目標及び概要</b> 1 目的：超高齢化社会になっているわが国で、近年、高齢者介護の問題が注目されている。人間が最期まで人間として尊厳を失わず生活するためには、介護の量ではなく、その質が問われなければならない。それは、技術的な面、精神的な面、さらにスピリチュアルな面にまで及ぶ総合的なものをも含む。そのための一つの切り口として、聖書に傾聴し、キリスト教の精神を生かすことが良い福祉を实践することにつながる。本講義では、その試みを介護福祉の現場実践からの報告を通し、考えていく。 2 カリキュラム上の位置づけ：高齢者福祉にキリスト教が関わり得る可能性を知る入門的な位置づけである。 3 学びの意義と目標：本大学の理念である「神に仕え、人に仕える」ことの具体的な姿を主体的に考え、個々の生き方の展望が開かれるようにする。	
<b>評価方法</b> 毎授業時間に提出する小レポート（優秀者は加点）と学期末テストによる。その配分割合は、概ね小レポート70%、学期末テスト30%。また、学内礼拝出席レポート及び教会礼拝出席レポートも参考とする。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択</b> <b>キリスト教と高齢福祉の実践</b> <b>秋</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：児島 康夫
<b>講義の目標及び概要</b> 1 目的：超高齢化社会になっているわが国で、近年、高齢者介護の問題が注目されている。人間が長期まで人間としての尊厳を失わず生活するためには、介護の量だけではなく、その質が問われなければならない。それは技術的な面、精神的な面、スピリチュアルな面にまで及ぶ総合的なものを含む。そのための一つの切り口として、聖書に傾聴し、キリスト教の精神を生かすことが良い介護を実現することである。本講義では、そうした介護福祉現場における実践例を通し、キリスト教精神による高齢者介護の可能性を見つけていきたい。 2 カリキュラム上の位置づけ：高齢者福祉にキリスト教が関わり、実践し得る可能性を知る入門的な位置づけである。 3 学びの意義と目標：本大学の理念である「神に仕え、人に仕える」道を開くことができるよう実践力な考えを身につける。
<b>評価方法</b> 毎授業に提出する小レポート（優秀者には加点）と期末テストによる。その配分は概ね小レポート70%、期末テスト30%。また学内礼拝出席レポート及び教会礼拝出席レポートも参考にする。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択</b> <b>キリスト教カウンセリング論</b> <b>秋</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：藤掛 明
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 現代のキリスト教界にあつては、心理カウンセリングは好意的に迎えられ一方で、信仰とは無関係に一般理論や技術体系が適用されることもある。本講義では、そうした現状をふまえながら、聖書の示す人間観や世界観に照らし、またキリスト教界の歴史の変遷に照らし、キリスト教信仰と心理カウンセリングの営みがどのように関係し、カウンセリングを用い得るのかについて理解していく。 2. カリキュラム上の位置づけ キリスト教の教理や人間理解を、カウンセリングという新しい観点から眺め直し、その理解を深めることになる。 3. 学びの意義と目標 心理カウンセリングの諸側面からキリスト教信仰を理解するようになること。
<b>評価方法</b> 評価は、試験に代わるレポート（50%）を中心に、授業内で行うミニテストおよび出席（50%）を加味して行う。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 藤掛明『ありのままの自分を生きる』一麦出版社

<b>選択</b> <b>キリスト教と心のケア</b> <b>春</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：村上 純子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義では、「心のケア」とは何か、それとキリスト教はどう関係し、どう取り扱っていくべきなのかを見ていきます。社会的にも「カウンセリング」「心のケア」の重要性が取り上げられることが多いですが、その中には間違った情報や歪曲された考え方も多いのが現状です。この授業はカウンセラーになることを目的としたものではなく、心のケアに関して正しい基礎知識を持つことを目標としています。また、キリスト教的視点から「心のケア」をどう考え、実践していけばいいのかを検証していきます。 2. カリキュラム上の位置づけ 広く一般的な「心のケア」についての学びであり、入門的なものです。 3. 学びの意義と目標 この授業を通して、「心のケア」の基礎知識を得ること、またキリスト教の人間観を理解すること、そして各自が自分に対する理解、また他者に対する理解を深めることを目標としています。
<b>評価方法</b> 評価は授業中に行うミニレポート（25%）、出席・態度（15%）、試験にかかわるレポート（60%）を総合して行ないます。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択</b> <b>日本国憲法</b> <b>春</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：徳永 貴志
<b>講義の目標及び概要</b> この講義では、日本国憲法に規定される個別の条項の解説だけではなく、それらの背景にある思想などの学習を通して、「立憲主義」の考え方ならびに基礎的な法的知識、法的思考を身に付けてもらうことをねらいとしています。 国会が制定する法律は憲法に違反してはならないことになっていますが、それはなぜでしょうか。また、日本国憲法は制定以来半世紀以上改正されていませんが、その事実はどのように評価すればよいのでしょうか。民主主義を採用するわが国において、現在の国民によって民主的に組織される国会や内閣による政治決定よりも半世紀以上に決められた憲法の方が優位するのはなぜでしょうか。この講義では、我々を取り巻く具体的な政治問題も取り上げながら、これらの疑問についてみなさんと一緒に考えていきます。 講義を通じて、皆さんが民主主義社会の一員として「この国のかたち」を自ら考えていくための手がかりを提供できればと考えています。
<b>評価方法</b> 毎回の「小テスト+出席点」（約7割）と「期末テスト」（約3割）を総合して評価を行います。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 日本国憲法</b>	<b>春 秋 週1回 2単位</b>
担当者：松村 芳明	
<b>講義の目標及び概要</b> 日本国憲法の重要論点について理解することを目標とします。 講義は、原則としてテキストに沿って進めつつも、適宜テキスト外の教材をも用いながら行います。法学を専門としない学生でも真面目に取り組めば必ず十分な学習結果が残るものとなるはず です。	
<b>評価方法</b> 平常点5割、試験点5割によって評価する予定です。	
<b>教科書</b> 石埼学・押久保倫夫・笹沼弘志編『リアル憲法学』法律文化社	

<b>選択 日本国憲法(木曜3限)</b>	<b>春 週1回 2単位</b>
担当者：武藤 健一	
<b>講義の目標及び概要</b> 日本国憲法の規定を手がかりにしながら、現代日本社会における人権のあり様を検討していきますが、私の専攻であるジェンダー憲法学から考える日本国憲法論なので、一般的な内容ではなく、学際的に社会学的手法・研究成果も取り上げながら、現実の社会に存在する人権のあり方を探求し、それを理解していくことを目標とする授業となっています。 また、法学専攻でもなく法解釈学の基礎を知らない学生からすれば、一般的な日本国憲法の授業によく見られるような各条文の解釈論を展開していくことは難しいと思われるので、それを中心的に扱うことはまったくありません。 まずは、人権を論じられるようになるための最低限の知識を押さえた上で、ジェンダー憲法学から問題視される中心的な存在である家族単位主義の問題点を理解するという目的の達成のために、法律婚家族のあり方、子どもの人権侵害の象徴的存在である「虐待」(CA)、という2項目に関わる日本国憲法が関わる人権問題を検討していきます(具体的内容は「授業計画」を参照のこと)、そのことによって、家族(単位主義)と人権という人権論において重要な問題点を理解するという本講義の目的を達成することにします。	
<b>評価方法</b> 出席点・平常点を重視します(ただし、出席しているだけでは評価の対象にまったくなりません)。そこでレスポンス=シート(：授業末レポート・テスト)の評価を出席点・平常点とし、配分は、(出席点+平常点)：学期末試験=67%：33%、とします。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 日本国憲法(木曜4限)</b>	<b>春 週1回 2単位</b>
担当者：武藤 健一	
<b>講義の目標及び概要</b> 日本国憲法の規定を手がかりにしながら、現代日本社会における人権のあり様を検討していきますが、私の専攻であるジェンダー憲法学から考える日本国憲法論なので、一般的な内容ではなく、学際的に社会学的手法・研究成果も取り上げながら、現実の社会に存在する人権のあり方を探求し、それを理解していくことを目標とする授業となっています。 また、法学専攻でもなく法解釈学の基礎を知らない学生からすれば、一般的な日本国憲法の授業によく見られるような各条文の解釈論を展開していくことは難しいと思われるので、それを中心的に扱うことはまったくありません。 まずは、人権を論じられるようになるための最低限の知識を押さえた上で、ジェンダー憲法学から問題視されるセクシュアリティ(：性のあり方)と人権というポイントを理解するという目的の達成のために、性同一性障害(GID)と人権、性に関わる人権侵害である性被害と人権の関わり、という2項目を検討していきます(具体的内容は「授業計画」を参照のこと)、そのことによって、セクシュアリティと人権という人権論において、いまだにしっかりと解決されていない重要な問題点を理解するという本講義の目的を達成することにします。	
<b>評価方法</b> 出席点・平常点を重視します(ただし、出席しているだけでは評価の対象にまったくなりません)。そこでレスポンス=シート(：授業末レポート・テスト)の評価を出席点・平常点とし、配分は、(出席点+平常点)：学期末試験=67%：33%、とします。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 日本国憲法</b>	<b>秋 週1回 2単位</b>
担当者：武藤 健一	
<b>講義の目標及び概要</b> 日本国憲法の規定を手がかりにしながら、現代日本社会における人権のあり様を検討していきますが、私の専攻であるジェンダー憲法学から考える日本国憲法論なので、一般的な内容ではなく、学際的に社会学的手法・研究成果も取り上げながら、現実の社会に存在する人権のあり方を探求し、それを理解していくことを目標とする授業となっています。 また、法学専攻でもなく法解釈学の基礎を知らない学生からすれば、一般的な日本国憲法の授業によく見られるような各条文の解釈論を展開していくことは難しいと思われるので、それを中心的に扱うことはまったくありません。 まずは、人権を論じられるようになるための最低限の知識を押さえた上で、ジェンダー憲法学から問題視される中心的な存在である家族単位主義の問題点を理解するという目的の達成のために、夫婦別姓と臓器移植の問題、子どもの人権からみた家族単位の問題点、という3項目を検討し、また、現実社会に存在する不平等を法的に如何に是正するかというポジティブ=アクションについて学び(具体的内容は「授業計画」を参照のこと)、人権論において重要な現代的な諸問題を理解するという本講義の目的を達成することにします。	
<b>評価方法</b> 出席点・平常点を重視します(ただし、出席しているだけでは評価の対象にまったくなりません)。そこでレスポンス=シート(：授業末レポート・テスト)の評価を出席点・平常点とし、配分は、(出席点+平常点)：学期末試験=67%：33%、とします。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 アメリカ文化演習A	春集中 4単位
担当者：E. D. オズバーン	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 カリキュラムは、授業と課外活動を選択して参加しアメリカ文化・歴史を学ぶよう編成されている。  2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目  3. 学びの意義と目標 この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をとおして異文化交流を体験し、英語でその国の文化、歴史を学び、異文化対応力をつけることを目的とする。	
<b>評価方法</b> 1. 出発前準備講座・帰国報告会の出席 25% 2. レポートとアンケートの提出 25% 3. 現地研修校での成績 50%  (研修終了後春学期の単位として認定)	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選択 オーストラリア文化演習B	春集中 4単位
担当者：E. D. オズバーン	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 Deakin University (認定校) ビクトリア州メルボルンを中心に5つのキャンパスを擁するディーキン大学の附置機関Deakin University English Language Instituteの協力によって英語を集中して学ぶカリキュラムを編成している。  2. カリキュラムの位置づけ 基礎科目群の選択科目  3. 学びの意義と目標 この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をとおして異文化交流を体験する英語特別トレーニング研修。	
<b>評価方法</b> 1. 出発前準備講座・帰国報告会の出席 25% 2. レポートとアンケートの提出 25% 3. 現地研修校での成績 50%  (研修終了後春学期の単位として認定)	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選択 カナダ文化演習	秋集中 4単位
担当者：E. D. オズバーン	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 University of Victoria (認定校) ブリティッシュ・コロンビア州の首都であるビクトリア市に広大なキャンパスを擁するビクトリア大学の附置機関University of Victoria English Language Centreの協力によってカナダの社会と文化をテーマにしたカリキュラムを編成している。  2. カリキュラム上の位置づけ 基礎科目群の選択科目  3. 学びの意義と目標 この科目は実際に海外に赴き、授業及び生活をとおして異文化交流を体験し、英語でカナダ文化・歴史について学ぶ。	
<b>評価方法</b> 1. 出発前準備講座・帰国報告会の出席 25% 2. レポートとアンケートの提出 25% 3. 現地研修校での成績 50%  (研修終了後春学期の単位として認定)	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

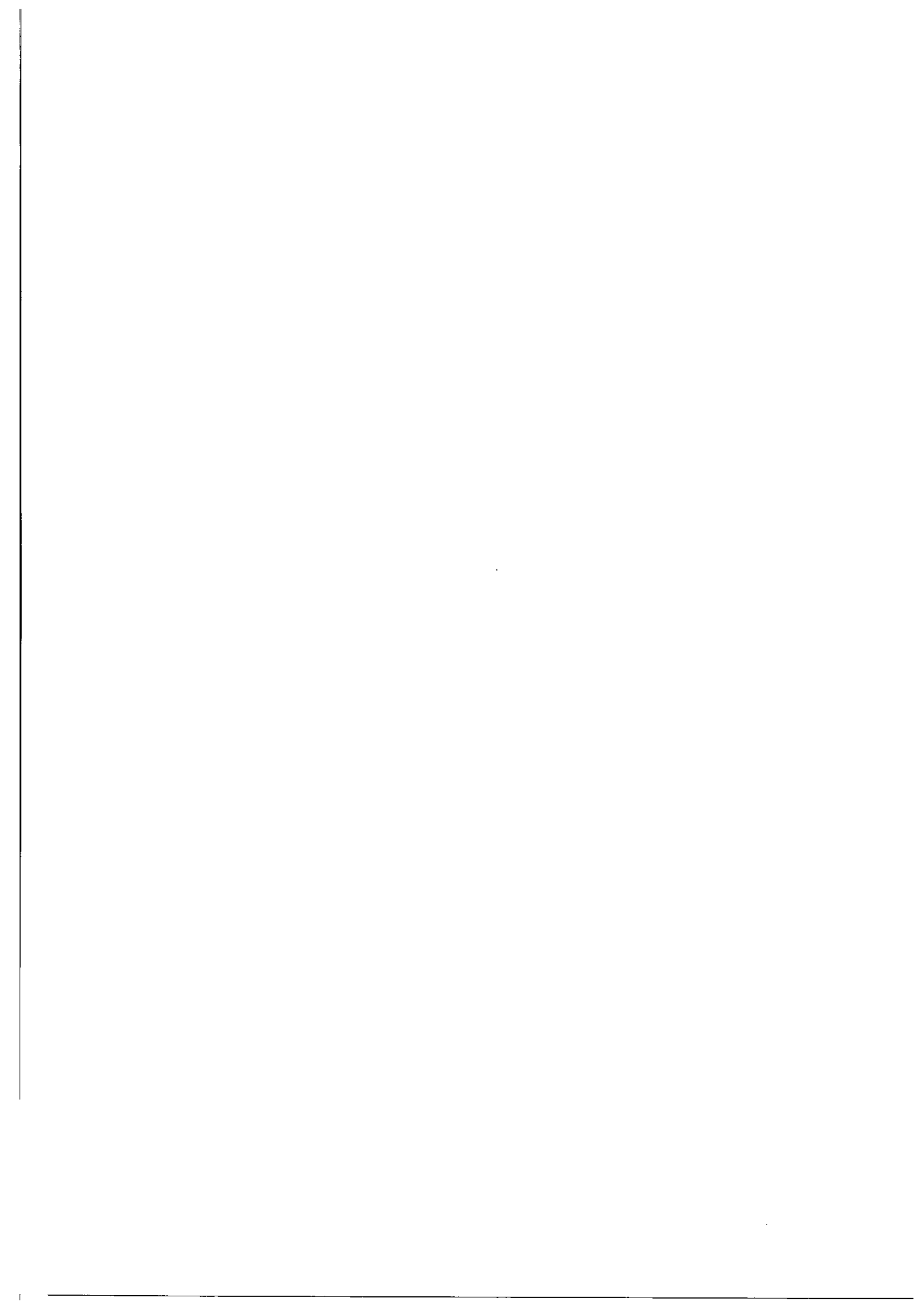


# 2 | 教養科目・総合科目

## 科目一覧

政治学  
経済学  
社会学  
環境学  
法学  
欧米文学  
哲学  
西洋史  
日本史  
言語学  
文学  
日本思想  
演奏形式とその音楽  
児童教育学  
西洋芸術の源流  
心理学概論  
生命の科学  
生理心理学—心と身体の科学—  
福祉環境学  
経済学研究  
地球環境論研究  
まちづくり論研究  
リスク科学論研究  
欧米文化学特論  
日本思想文化研究  
児童学研究  
高齢者保健福祉特論  
障害者福祉特論  
発達心理学研究  
人間福祉学研究

## 総合教養科目 目目



選択 政治学	秋 週2回 4単位
担当者：小畑 俊太郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 政治学の基礎的な理論や概念について学ぶ。具体的には、講義の前半では、国家や権力、市民社会、自由主義やデモクラシーといった主要な概念を検討し、複雑な政治現象を読み解くための分析的視点を培う。そのうえで後半では、現代政治の構造や実態について、日本政治の特質とも関連づけながら解説する予定である。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 政治学の入門的かつ基礎的な講義である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 政治学の基礎的な理論や概念の修得を通じて、最終的には、政治をめぐる自分なりの課題を発見し、どのような態度をとれば良いのか、主体的に判断することの出来る教養を身につけることを目標としている。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席40%、中間試験30%、期末試験30%の割合で評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

選択 政治学	春 週2回 4単位
担当者：川添 美央子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1) 内容 現代日本の政治の仕組み、および政策決定に至るまでの流れなどを概括的に講義する。国民の意思が可能な限り反映され、なおかつ多数者の暴走を抑制できるような国会や内閣や政党の仕組み、官邸と党の関係、選挙やメディアのあり方はどのようなものか、といった観点から考察する。</p> <p>(2) カリキュラム上の位置づけ 今後専門科目を学んでゆくために、最低限必要な基礎的な知識を身に付けてもらうことを目的としている。よって、カリキュラムの中でも最も初歩的かつ基礎的な科目である。</p> <p>(3) 学びの意義と目標 皆さんが新聞やテレビのニュースに接したとき、「何故この決定がなされたのか」「この動きはどのような方向へ向かうものか」を、自分で判断できることを目指す講義をしたいと考えている。</p>	
<b>評価方法</b>	
平常点（毎回の小レポートや質問）4割、定期試験（中間試験と期末試験）6割の比率で評価	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

選択 政治学	春 週2回 4単位
担当者：谷口 隆一郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>【学習の内容・目標・意義】 この科目では、現代政治学の主な領域の重要な知識を網羅的・体系的に学習します。将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくといいいテーマと内容が、この講義には含まれています。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 大学、特にコミュニティ政策学科というところで専門的に学ぶ内容（特に、その政治学的基礎）とはどういうものかを知ることのできる数少ない専門科目の一つです。</p> <p>【授業の進め方】 受講生は、(1)各授業に対応するテキストの箇所（章/節）を予習してきて、(2)講義を聴き、理解し、質問に答え、(3)小テストに回答し、(4)小グループに分かれて課題について議論し、簡単な発表をします。</p>	
<b>評価方法</b>	
小テスト、中間試験、期末試験、授業貢献度（出席率、質問、応答、等）で総合的に評価する。遅刻3回は1回の欠席とみなす。	
<b>教科書</b>	
加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦『現代政治学』有非閣アルマ	

選択 政治学	秋 週2回 4単位
担当者：松尾 秀哉	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1) 内容 ・主にヨーロッパ政治を題材に、政治学の基本的な概念を理解する授業です。</p> <p>2) カリキュラム上の位置づけ ・国際政治学などより専門的な授業の基礎的講座。 ・複雑に変化する現代社会について、自分なりに考える練習の場にしたしたいと思います。</p> <p>3) 学びの意義と目標 ・公務員試験などの「政治学」科目の土台作り ・レポートなどを通じて自分の考えを他者に発信することに慣れる</p> <p>※春学期よりは、少し内容的に深くする予定です。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席点30%、平常点30%、学期末試験 20%、レポート・小テスト20%の割合で総合的に評価します。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

選択 政治学	春	週2回	4単位
担当者：森 達也			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>〈テーマ〉 政治の基礎知識/政治学の基礎</p> <p>政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味する。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段である。本講義ではまず政治学の基本的な考え方を学び、次に現代政治の基礎知識を習得しながら、政治学内部の各テーマを順に考察してゆく。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉</p> <p>政治学の専門的学習の前提となる入門講義である。また、教養として政治学を学ぼうとする者にも適している。</p> <p>〈学びの意義と目標〉</p> <p>政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。身近な問題を政治(学)的に捉え、それに意見を表明し、他者と議論することができるようになること。</p>			
<b>評価方法</b>			
最終試験 40% 授業内課題 30% 出席 30%			
<b>教科書</b>			
加茂利男ほか著『現代政治学 第3版』有斐閣			

選択 政治学	秋	週2回	4単位
担当者：森田 浩之			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>◆内容◆ 私たちと政治の関わり合いについて講義します。ポイントは、(1)私たちの生活に影響を与える政策は、どのような仕組みで決まっているのか？ (2)政党は私たちにどのような考え方を提示しているのか？ つまり、私たち有権者にはどのような選択肢が与えられているのか？ (3)個人の利益と集団の利益が衝突する場合は、どんな状態なのか？ どうしたらそれを解決できるのか？ ということです。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ コミュニティ政策学科の1年生のみなさんには、2年生以降で学ぶ政策学、行政学、法律学など関連科目の基礎になるような政治学の講義をします。一方、他学部の1～4年生が出席されることも心得ています。そのため、みなさんが社会人として、現代社会で生きていくために必要な政治の知識についてご説明します。</p> <p>◆学びの目標◆ 私たちは将来、国の借金を返済しなければなりません。医療費もどんどん高くなります。みなさんにとってはまだ先の話ですが、みなさんの世代は年金を受け取れないかもしれません。これらはすべて私たちの生活に直結する話です。これら政治問題に関して、自分で考える能力を身につけることが学びの目標です。</p>			
<b>評価方法</b>			
期末試験をします。評価は100%試験で決めます。というのも、答案には勉強量も、学ぶ意欲も、授業態度(私語、居眠り)も、出席状況もちょうんと反映されるからです。授業の内容を自分の言葉で分かりやすく説明できれば、高い得点を差上げます。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 政治学	春	週2回	4単位
担当者：森分 大輔			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容</p> <p>本コースでは、政治的論議において用いられる基本的な概念および、用語の検討を行う。時には、概念史的に、時には分析的に、さらには特定の理論家の検討もそこには含まれる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>政治学の入門講座として政治学を学ぶ上での基本的な知識を提供する。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>転換期に生きる我々にとって、これらの概念の再検討は避けては通れない。なぜなら、多くの重要な政治的決定が、これらの用語を用いて説明されるからである。したがってコース参加者にはこれら概念を用いた議論が可能になることが目指される。</p>			
<b>評価方法</b>			
学期末試験(40%)、および平常点(60%)とを総合して評価する。詳細は初回に説明する。			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選択 経済学	秋	週2回	4単位
担当者：天羽 正継			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>〈内容〉</p> <p>経済学の基礎的な理論について講義をおこなう。具体的には、ミクロ経済学やマクロ経済学といった現代経済学の主要理論とともに、過去から現在、そして未来へと続く経済の歴史的な流れを重視する経済理論にも関心を払いたいと考えている。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉</p> <p>経済学の知識は現代におけるあらゆる社会問題を考える上で欠かすことができない。そうした意味で本講義は、経済学を専攻する学生にとっての入門講義というだけでなく、政治経済学部で学ぶすべての学生にとっての入門講義である。もちろん、政治経済学部以外の学部の学生の履修も大歓迎である。</p> <p>〈学びの意義と目標〉</p> <p>本講義を履修後に経済学の学習をさらに進めるため、また、現実の経済問題に対して疑問や関心を持つとともに、それについて自分の頭で考えることのできる、良き社会人として生きるための基礎知識を身につける。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席(30%)と期末試験(70%)により評価する。			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

<b>選択 経済学</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：石部 公男
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 目的 本授業では社会人として将来自分自身の経済生活を円滑かつ快適に送るための基本的知識と態度を身につけ、高等学校の教養の上に、さらに専門的知識を基にして経済現象を理解できる素養を身につけさせることを目的とする。 2. カリキュラム上の位置づけ 上記の目的を達成するため、できるだけ低学年から受講できるよう、1年次に配当した。 またさらに経済学を深く学習・研究するための土台として位置づけてある。 3. 学びの意義と目標 教養としての経済知識の修得とともに、さらに深く経済現象を探究する学徒のために基本的経済理論の知識と、商業および財政・金融の知識をも修得できることを目的とする。
<b>評価方法</b> 1. 平常の授業態度10% 2. 授業の出席状況30% 3. 日常のレポートおよび小テスト10% 4. 期末テスト40% で評価する
<b>教科書</b> 石部、洲上、渡辺、原田、山田『経済学の知識から将来を読む』ヴェリタス書房

<b>選択 経済学</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：大森 達也
<b>講義の目標及び概要</b> 本講義では、「まんがDE入門 経済学」という本を教科書としている。 まんがということで、履修する学生諸君は多くは、科目として取り組みやすいと考えることが予想される。まんがで語られる導入部により、そうした利点があることは否めないが、本書は経済学の理論的な入門書であること。より専門的な講義を受けるための必要とされる経済学の理論の学習するために書かれていることを忘れてはならない。 したがって、本講義においても、経済関連の他の講義全般に対する導入部として位置づけ、経済学的な考え方、経済学の用語、ミクロ、マクロの基本的な経済理論などを学習することを予定している。
<b>評価方法</b> (1) 中間及び期末の筆記試験（それぞれ35%） (2) 1, 200字程度のブックレポート(30%)
<b>教科書</b> 西村 和雄『まんがDE入門経済学』日本評論社

<b>選択 経済学</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：佐藤 滋
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 本講義では、身近な経済・社会問題を素材に、経済学の基本的な考え方を理解することを目的としている。経済学は、個人や企業の経済活動の基本的な仕組みや法則について、様々な道具立て（＝理論）をもとに理解することを可能とする。景気の良し悪し・失業の発生といった経済変動の考え方や、国際経済関係のメカニズムなど、多岐にわたる問題を取り扱う。国際経済と国内経済との関連については、近年のサブプライム・ローンに端を発した世界同時不況を思い描けばすぐわかるように、密接に関連している問題である。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 多くの経済・社会問題は、経済学的なものを見方を前提にすると、より良く理解することができる。われわれの暮らしの豊かさ（貧しさ）について、あるいは、国際経済関係の下での地域のあり方などを理解するための、教養科目である。 〈学びの意義と目標〉 以上のことから、受講者の所属学科・専門分野に関わらず、経済学的な考え方の基礎は、大学での実りある学習に必要なのみならず、成熟した社会人となるために必要な素養である。
<b>評価方法</b> 小テスト（30%）、期末試験（70%）により評価する。また、2/3以上の出席を、単位取得の必須要件とする。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 経済学</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：鈴木 真実哉
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 経済学の特徴的な考え方、理論の構成のし方に力点をおく。なぜ経済学が必要なのか、現実を経済学的にどのように理解できるか、経済社会はどのようにあるべきか、経済的意思決定主体はどのような行動すべきか、などについて解説する。 2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科1年生の必修専門科目であり、他学部の学生にとっては教養科目である。「経済」に無縁ではられない現代人にとって「生活必須」科目でもあろう。 3. 学びの意義と目標 経済学的思考によって、学習以前とは異なる次元から現実をみるができるようになる。また、合理性の経済学的意味が理解できるようになる。  ☆参考文献 福岡正夫 『経済学入門』（日本経済新聞社）
<b>評価方法</b> 試験と出席状況を総合的に判断して成績を決定する。小テスト、レポートを実施することもある。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選択 経済学	春	週2回	4単位
担当者：正上 常雄			
<b>講義の目標及び概要</b> カリキュラム上の位置づけ 政治経済学科の学生は1年次春学期必修科目であり、本科目の単位修得は1年次秋以降に各種の経済学系選択科目を履修するための必須条件である。尚、本科目は教養科目として他学科の学生にも開放されている。 学びの意義と目標 経済学の基礎をきちんと理解し、基本的な知識を身につけることが、本講義の目標である。経済学にはミクロ経済学とマクロ経済学がある。ミクロ経済学は個人や企業といった経済主体が市場でそれぞれどのような行動をとるかを学習するものである。経済的合理人仮説を中心に、市場におけるモノやサービスの価格を需要や供給という要素から説明するのがミクロ経済学の主な特徴である。マクロ経済学は一国の経済全体として集計された消費、投資という概念を扱い、それらから構成される国民所得が主な分析の対象になる。国内総生産、利子率、物価水準などの大きさはどのようにして決まるか、というような具体的な問題をテーマとする。			
<b>評価方法</b> 講義回数3分の2以上の出席を必須として、中間試験と期末試験の成績、更に平常点で評価する。評価の割合は中間試験40%、期末試験50%、平常点10%とする。出席点を与えることはない。			
<b>教科書</b> 佐和隆光『佐和教授 はじめての経済講義』日本経済新聞出版社			

選択 経済学	春	週2回	4単位
担当者：水上 啓吾			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 この講義では、基礎的な経済学の考え方、知識を身につけることを目的とする。市場経済における価格の決定や資源の配分といった問題をあつかうミクロ経済学、国民経済における景気変動や失業といった問題をあつかうマクロ経済学を中心に講義を行なう。加えて、国際的な経済問題や経済活動がもたらす環境問題、そうした問題に関して政府が果たす役割など、幅広く問題を取り上げる。 2. カリキュラム上の位置づけ 経済現象をあつかう他の講義を理解するうえで必要な知識を身につけ、経済・経済学に対する関心を養う基礎的な科目である。 3. 学びの意義と目標 目まぐるしく日々変化する経済現象は、私たちの生活と深くかかわっている。経済学に関する知識・考え方を学び、このような現象を理解する手がかりを身につけること。			
<b>評価方法</b> レポート(50%)と期末試験(50%)により評価する。ただし、2/3以上の出席を単位取得の必須要件とする。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

選択 経済学	春	秋	週2回	4単位
担当者：由川 稔				
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 経済学は抽象化や理論化という科学的な方法に拠っています。現実の日常生活や社会問題の中で、しばしば「常識」に埋没して見えなくなりがちな経済現象の「本質」を暴き、そこから新しい経済や人間のあり方などを構想するためです。私たちが、一人一人の生活や、それを取り巻く社会を、少しでも望ましい状態にするために日々重ねる努力——。そのような努力の中で、主に経済問題に関わる知的な営みの蓄積が、経済学だとも言えます。 2. カリキュラム上の位置づけ 全学部生対象の教養科目としての位置づけを踏まえ、「経済」と「経済学」の総合的なイントロダクションにします。資格や公務員等、各種試験対策的な内容は、他に譲ります。 3. 学びの目標 身近な経済現象の背後に何があるかを探究すること、あるいはそのようにする癖をつけることが、当面の目標です。				
<b>評価方法</b> 出席率〔出席点〕および受講態度等〔平常点〕(30%)、レポート等提出物(20%)、定期テスト(50%)で配分予定。「レポート等」には、授業時や予復習に使用した「各自のノートの写し」を含める場合があります。				
<b>教科書</b> 石川秀樹『新・経済学入門塾(1) マクロ編』中央経済社 石川秀樹『新・経済学入門塾(2) ミクロ編』中央経済社				

選択 社会学	秋	週2回	4単位
担当者：阿部 英之助			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 講義内容 この講義では、「社会学」という視点を通して私達が生活している世界やそこでの疑問や問題について考えていきます。普段、私達が何気なく行っている事に対して少し視点や発想を変えて「見る」ことで、「当たり前」であったことが「当たり前でない」ものとし映るかもしれません。私達は家庭・近隣・学校・会社・市町村・国など様々な組織に属し、多様な場面で生活をしています。そこでは、無意識のうちに刻み込まれている事がたくさんあります。そのような「日常性」を問いながら、私達が生活している生活世界について具体的な事例を通して、社会を考えていきたいと思えます。 2. カリキュラム上の位置づけ 「社会学」の入門として、具体的な事例から社会を見る視点と方法を学びます。 3. 学びの意義と目標 新聞・雑誌や調査データなどから、現代社会の姿を学ぶことで、社会を見る様々な視点が身につくことを本講義での目標としたいと思います。			
<b>評価方法</b> 評価は、出席(30点)・授業内小レポート(20点)・学期末試験(50点)の合計100点によって総合的な評価をします。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 友枝敏雄・山田真茂留『Do! ソシオロジー』有斐閣アルマ 那須謙『クロニカル社会学』有斐閣アルマ			

選択 <b>社会学</b>	春 週2回 4単位
担当：鄭 鎬碩	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 社会学の最大の魅力は、あらゆる社会現象を、新鮮で驚きに満ちたもの、「あたりまえではないもの」として見せてくれる点にある。本講義では、ある現象がそのようである理由、その仕組みにおける人と人との「かかわりあい」や「力」についての問いを重ねながら、物事を批判的に捉える思考の方法を学んでいく。新聞記事、映像などから、コーヒー、電車時刻表、犯罪ニュースのような身近な物事や、性別、職業の選択、貧困などのプライベートな悩み事がなぜ「社会学的問題」になるのかについて考え、これらの社会学的にとらえる基礎概念を理解していくことで、社会学の思考の幅と奥行きに対する感覚を備えることを目指す。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目の選択に先立つ知的探索の機会として、社会学の特徴を学習する講義である。 3. 学びの意義と目標 1) 学問としての社会学の特徴を理解し、社会学の基礎概念を習得する。 2) 現代社会の多様な側面を批判的に考察するための基本的な視座を手に入れる。	
<b>評価方法</b> 出席点33%、講義内で課すレポート33%、期末テスト33%によって算出する。	
<b>教科書</b> 長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志『社会学 (New Liberal Arts Selection)』有斐閣	

選択 <b>社会学</b>	春 週2回 4単位
担当：田中 俊之	
<b>講義の目標及び概要</b> 社会学は常識を疑う学問だとされている。われわれが日々の生活において自明視しているさまざまな出来事を、その成立の仕組みから分析してみせるからである。社会学のこうした性格は、この学問がもつ批判性をよくあわらわしているといえるだろう。本講義の目的は社会学の理論および諸概念を学習することによって、社会を批判的に読み解くまなざしを手に入れることである。 社会的な視座を身につけるためには、単に新しい用語を覚えるだけではなく、具体的な事例の分析から実際に現実のどのような側面が明らかにできるのかを理解しておかなければならない。そのため、テレビドラマや映画あるいは雑誌記事といった身近な資料を使いながら、社会学と現実の接点を常に意識した講義を展開する。	
<b>評価方法</b> 出席点20%、授業時の小テスト40%、学期末テスト40%	
<b>教科書</b> 張江洋直・大谷栄一『ソシオロジカル・スタディーズ』世界思想社	

選択 <b>社会学(春)</b>	春 週2回 4単位
担当：横山 寿世理	
<b>講義の目標及び概要</b> この講義は、入門的な社会学の講義であるが、社会学を概観するだけでなく、社会学的な視点を身につけることを目標とする。社会学的な視点とは、社会において起きている現象を問題として認識する能力であり、多くの人びとが信じている常識を批判的に検討する能力だと考える。社会学が日常を問い直す学問だと言われるのはこのためであり、よい/悪いといった判断からも常識に従うことからほど遠いと言える。 具体的な講義形式としては、教科書・雑誌や新聞の記事、ドキュメンタリー番組を補足資料として用いながら、講義内容を板書でまとめる形で講義を展開するので、教科書を用いて予習復習を行うこともできるはずである。また、講義内容の定着を図るため、3~4回の小論文を講義内で課す。この小論文の作成によって、受講者は、講義テーマをどのように発展させられるのかという講義に関する問いを見つけることと、社会現象を批判的に読み解く力を身につけることが可能になるはずである。 春学期の授業計画としては、前半に理論・学説を中心に社会学の一般理論を理解して、その応用としてさまざまな社会学(連字符社会学)を後半(14回目以降)に概観する予定である。	
<b>評価方法</b> 出席(30%)、講義内で課す小論文(30%)、学期末試験(40%)で評価する。詳細は第1回目の授業で確認して欲しい。	
<b>教科書</b> 宇都宮京子『よくわかる社会学(第2版)』ミネルヴァ書房	

選択 <b>社会学(秋)</b>	秋 週2回 4単位
担当：横山 寿世理	
<b>講義の目標及び概要</b> この社会学は、政治経済学科必修でもあり、それ以外の学部学科の教養科目として配当されている。そのため、入門的な社会学の講義であるが、単に社会学を概観するだけでなく、社会学的な視点を身につけることを目標とする。社会学的な視点とは、社会において起きている現象を問題として認識する能力であり、多くの人びとが信じている常識を批判的に検討する能力だと考える。社会学が日常を問い直す学問だと言われるのはこのためであり、よい/悪いといった判断からも常識に従うことからほど遠いと言える。 具体的な講義形式としては、教科書・雑誌や新聞の記事、ドキュメンタリー番組を補足資料として用いながら、講義内容を板書でまとめる形で講義を展開するので、教科書を用いて予習復習を行うこともできるはずである。また、講義内容の定着を図るため、3~4回の小論文を講義内で課す。この小論文の作成によって、受講者は、講義テーマをどのように発展させられるのかという講義に関する問いを見つけることと、社会現象を批判的に読み解く力を身につけることが可能になるはずである。 秋学期の授業計画としては、できるだけ具体的な社会現象・社会問題を中心的に扱う予定である。	
<b>評価方法</b> 出席(30%)、講義内で課す小論文(30%)、学期末試験(40%)で評価する。詳細は第1回目の授業で確認して欲しい。	
<b>教科書</b> 宇都宮京子『よくわかる社会学(第2版)』ミネルヴァ書房	

選択 社会学	春	週2回	4単位
担当者：渡會 知子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>【内容】 私たちはたいてい、他人のことが、自分のことよりもよく「見える」ものです。例えば、サッカーをしている友人にアドバイスはできて、自分のプレーのどこがまずいのかは言えない。あるいは、他人の長所と短所は簡単に挙げられるのに、自分のこととなると実はよく分からないなど。人は時に、自己分析をするために、他人の目を必要とします。</p> <p>「社会学」とは、私たちの「社会」を、いわば「他人の目」で分析するための学問です。本講義では、社会学の基本的な概念や方法をを紹介することを通して、私たちが通常前提としている（ゆえに「よく見えない」）価値・規範・文化・制度が、どのように成り立っているのか、具体的事例を挙げながら考察していきます。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 専門科目の選択に先立つ入門的講義です。</p> <p>【学びの意義と目標】 複雑な現代社会に対する俯瞰的な「見取り図」を手に入れ、それによって個別の事象を批判的に分析していく基本的能力を身につけることを目指します。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席20%、講義中に課すレポート30%、期末テスト40%、講義中の態度10%とし、総合的に評価します。			
<b>教科書</b>			
那須壽『クロニクル社会学』有斐閣アルマ			

選択 環境学	春	週2回	4単位
担当者：村上 公久			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>キーワード：〔人間-環境〕系、地球環境問題、ガイアGaia、保続可能な（持続可能な）開発</p> <p>1. 内容 君たちが生まれた頃から現在まで、つまり君たちの平均年齢に相当する約20年間の間に私たちの地球の生命圏の環境は、急速に悪化しました。この間日本列島の約6倍の面積の熱帯の森林が失われ、中国の耕地面積に相当する陸地が砂漠化したのです。</p> <p>今日、世界的規模での最大の問題は、環境の急激な悪化による生命圏（生圏）の全的破壊の危険、すなわち地球環境問題です。この科目では「ヒトと環境」が相互に影響し呼応し合うシステム〔人間-環境〕系を理解し、「ヒトと森林の関係」を例にとりて考えます。かつては環境問題の問題意識の中心は産業公害でしたが、現在ではこの問題は国境を突破した生命圏全体の存続を懸けた「地球環境問題」として捉えられており、いわゆる公害問題はその一部として意識されています。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目「環境保全論」履修の準備となる科目です。</p> <p>3. 学びの目標 NGOの果たす大きな役割を含め、私たちと生き物たちのこの世界を全体的な破壊から救うほとんど唯一の戦略「保続的開発」の可能性を探ります。</p>			
<b>評価方法</b>			
学期中複数回の試験、出席状況、討論によるクラスへの貢献、レポートを総合的に評価する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 法学	春	週2回	4単位
担当者：石川 裕一郎			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>日常生活に関わる法律問題やテレビ・新聞等で出くわす法律についての素朴な疑問といった事例から出発して、現代日本の法の実態を丁寧にみてゆきたいと思えます。また、授業内容は、法制度全体を網羅的に取り上げるのではなく、なるべく最近の具体的な事件を様々な角度から掘り下げるといったスタイルにしたいと考えています。</p>			
<b>評価方法</b>			
毎講義の後に書く「リアクションペーパー」(8割)、および期末試験2割で総合的に評価します。場合によっては、試験はレポートに代えます。単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 法学	秋	週2回	4単位
担当者：奥貫 紀文			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1: 内容 「法」と一言で言っても、その内容は膨大であり、初めて法の世界に足を踏み入れる人は、まずその広く深い森の中でさまよい戸惑うのが常だろう。</p> <p>そこで、本講義では、あくまでも講義を受講する学生一人ひとり（=個人）を主軸に据えて、個人が関わり合う社会的諸関係の身近な事例や事件を出発点にして、個人に近接した関係から、徐々に範囲を広げて広汎な関係へと同心円的に法を描いていく。具体的には、まずは個人が生きていく上で不可欠な、消費生活、医療、労働等と法との関係を学び、次に、国家、行政、司法といったより大局的な視点から法システムを学ぶ。さいごは世界全体に視野を移し、グローバリゼーションと法との関係を考える。</p> <p>2: カリキュラム上の位置づけ 法的思考を養う上で必要な基本知識を得ることを目的としており、入門的な位置づけ。</p> <p>3: 学びの意義と目標 本講義の受講によって、社会における法の役割、個人と集団ないし社会と法との間のあるべき関係について、人マネではない自分自身の見解がもてるようになることをめざす。</p>			
<b>評価方法</b>			
毎回の授業への出席・受講態度等を50%、レポート・筆記試験を50%の割合で総合評価する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			



選択 法学	春	週2回	4単位
担当: 加藤 恵司			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>法学は、いわゆる法文の解釈や判例研究、学説などの詳細について覚えこむことだと考えるものがある。初学者が法学を学ぶにあたって重要なことは、法律的な物の見方、考え方、すなわち、legal mindを身につけることにある。そこで、本講義は、法的思考の核心となる法の基礎理論の知識を付与することを目的とする。</p> <p>法的思考は、健全な常識を基礎として、合理的、科学的な観点から法の原理、法の本質を理解することである。現代社会に目を向ける時、市民の常識的な正義や平衡感覚と合致しないために矛盾を感じたり、ひとたび法律が制定されてしまうと強制的に服従させられるようになり、割り切れない気持ちになることがある。その結果、法律はその専門家の所与のものと考えたり、法にある種の不信感を抱くことすらある。このような諦観は、学問をする立場からは禁物である。正義、自由、平等、人権、愛などを基礎にした説得力ある提言、論評、意見こそ法的思考の視座となるのである。</p> <p>さて、本年より裁判員制度が設けられますが、この法的思考を養うために判例を中心とした日常的な事例を解きながら講義をすすめていく予定である。</p>			
<b>評価方法</b>			
試験によって評価する。但し、出席とレポートその他を課した場合には、それも考慮することがある。			
<b>教科書</b>			
『コンパクト六法』岩波書店 『ポケット六法』有斐閣 『デイリー六法』三省堂			

選択 法学	春	秋	週2回	4単位
担当: 徳永 貴志				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>法律とは、社会に生じるさまざまなトラブルに対処するための一種の知恵としてのルールです。トラブルの解決においては、誰もが納得できるように筋が通っていること、論理的であることが要求されるので、法律を扱う法学の解釈については、学生の皆さんが高校までに身につけてきた「常識的な思考」と矛盾するものもたくさんあるかもしれません。ですから、最初は少し堅い内容でとっつきにくいという印象を持つかもしれませんが、講義の中ではなるべく学生の皆さんがテレビのニュースや新聞・インターネットで日常的に見聞きする機会のある具体的な事件や法律問題を素材として取り上げ、映像資料も使いながら、それらについて一緒に考え、基礎的な法的知識・法的思考を身に付けてもらうよう進めていきます。毎回講義の最初にその日に扱うテーマに関する書き込み式のプリントを配布し、キーワードなどを書き込んでもらいながら理解を深めてもらおうと考えています。</p>				
<b>評価方法</b>				
毎回の「小テスト+出席点」(約7割)と「期末テスト」あるいはレポート課題(約3割)を総合して評価を行います。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 法学	春	週2回	4単位
担当: 皆川 誠			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 授業内容</p> <p>私たちが社会で生活していくかぎり、「法律」とかかわりを持たずに生活していくことはありえません。日常生活を送っていくうえで生じる様々な出来事が、「法律」とどのようにかかわっているのか、ということが自分自身の問題として感じられるよう学習を進めます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置付け</p> <p>皆さんが「法律」の存在をはっきりと意識することはこれまでほとんどなかったかもしれません。しかし、今後社会生活を送っていく中で、さまざまな場面で「法律」と向き合わなければいけなくなることでしょう。皆さんが学んでいく専門知識を社会で活かしていくにあたって、「法学」の知識は必ず役に立つはずですよ。</p> <p>3. 学びの目標</p> <p>皆さんが普通の生活の中の出来事を法的な視点から考えることのできる基礎を身につけられるよう学習していきたいと思えます。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席を重視し、毎回の授業で小テストを実施する予定です。また、1本レポートの提出を求め、期末試験も実施します。小テスト40%、レポート20%、期末試験40%の割合で成績評価を行います。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 法学	春	週2回	4単位
担当: 宮澤 弘			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容</p> <p>この授業では法的なものの見方や考え方(法的思考)を学び、それらの意義を理解します。「法的な見方」や「その意義」といってもそれらは様々な理解が可能ですが、本講義では理論的整合性と具体的妥当性という二つの側面をたえず念頭におきながら物事を考えられることと捉え、それを前提に授業を進めていきます。そしてそれは、抽象性のある整合した知識の集積(理論や原理)と具体的な事例(判例や社会の出来事など)とを交互に行き交いながら学んでいくこととなります。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>「法的思考」という考え方を一定程度使いこなせるようになることを目指すものであり、そのためのファースト・ステップという位置づけです。従って入門的な講義です。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>自己の見解を何らかの根拠に基づいて説明をする能力を養うこと目指しています。</p>			
<b>評価方法</b>			
期末試験から60%、授業中に行う確認テストや次回授業までに作成し提出する課題などから30%、出席から10%の割合で評価します。			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選択 法学	春	週2回	4単位
担当者：渡辺 英人			
<b>講義の目標及び概要</b> 「法を守る精神・法令遵守と責任」 「法学」では、みなさんが市民社会に参加するために必要な「ルールと手続き」について学びます。法は人と人が社会の中でいかに上手く生活していくか、という目的のために存在します。いまから法の意味と目的をよく理解し、責任ある個人として、市民社会に参加してください。将来、どのような職業に就いても、この授業で学んだ内容が、必ず役に立ちます。			
<b>評価方法</b> 出席とレポート、二回の試験によって評価します。			
<b>教科書</b> 『ポケット六法 平成22年』有斐閣			

選択 欧米文学	春	秋	週2回	4単位
担当者：桑田 光平				
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 内容 本講義はフランス文学の歴史を中世から現代まで通史的に見てゆくことを第一の目的とする。具体的には、文学作品を成立させている外的な諸条件（政治・経済・宗教・他国との関係など）と、作品というそれ自体で完結した世界とのつながりを時代ごとに学んでいくことになる。半年間で数百年の時間を横断するので、お互い途中でギブアップしないためにも、細かい事象にあまりこだわらず、映画などの力を駆りながら、歴史の大枠を捉えることを目指したい。授業の最初には前回の授業のおさらいを簡単に行うことにする。毎回、授業の内容はプリントにして配布する。 2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の専門基礎科目で必修科目。同時に教養科目にも分類され、他の5学科の学生も選択必修科目として履修可能。 3) 学びの目標 単にフランス文学の歴史を概観するというだけでなく、異国の文化や文学を学ぶとはどういうことなのかを考え、同時に、文学以外の関連分野への関心も広げること。				
<b>評価方法</b> 出席点（授業への出席そのものに与えられる得点）、平常点（各授業の小アンケートに対して与えられる得点+授業態度）、学期末のレポートあるいは試験から総合的に評価する。各点数の配分は、出席点+平常点50%、学期末試験50%である。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選択 欧米文学	春	秋	週2回	4単位
担当者：三宅 美千代				
<b>講義の目標及び概要</b> 英米文学というと、イギリス人、アメリカ人の作家によるものだけを指すものと考えられがちですが、実際にはそうではありません。英米文学の有名な作品のなかには、アイルランド、スコットランド、インド、カリブ海諸島、アフリカ出身の作家によって書かれたものもたくさんあります。英米文学はアウトサイダーとしての立場から社会を見つめる人びとの声に耳を傾けるきっかけを与えてくれます。 本講義では、前期は「アウトサイダーとは誰か」、後期は「書くこと、移動すること」というテーマを設定して、さまざまな英語圏作家の作品を少しずつ読みながら、英米文学を概観していきます。作家たちの移動、異文化観、アウトサイダー意識を読みほどこきながら、それぞれの国の歴史や時代背景なども解説していきます。				
<b>評価方法</b> レポート50%、ワークシート25%、出席25%				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選択 哲学	春	週2回	4単位
担当者：高橋 尊仁			
<b>講義の目標及び概要</b> 《内容》 哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、自ら深く思索することこそが、真摯に生きることにつながるのだ。本講義（春学期）では、近代以降の哲学史の流れを、実際に哲学者が語ったテキストを通じて丹念にたどりながら、その思索をなるべくわかりやすく解説していきたいと思う。 《カリキュラム上の位置づけ》 考えることは、あらゆる学問を根本から下支えするものである。考えることの意義を学び、考える力を磨くことを通じて、各人の専門分野の研究に生かしてほしい。 《学びの意義と目標》 取り上げる思想のどれもが、単なる過ぎ去った思想ではなく、現代にも十分通用しうるものを備えており、そこから学ぶべきところは決して少なくないはずである。この講義を通じて、受講者それぞれが、今の、そして、これからの自分の生きる糧となりうるような思想を見つけ出すことを期待する。			
<b>評価方法</b> 学期末試験（教場レポート）の点数〔70%〕に、出席・授業態度などの平常点（状況に応じて小テストを行うことも考えている）〔30%〕を加味して総合的に判断する。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

<b>選択 哲学</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：高橋 章仁
<b>講義の目標及び概要</b> 《内容》 哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、自ら深く思索することこそが、真摯に生きることにつながるのだ。本講義（秋学期）では、20世紀ドイツの哲学者カール・ヤスパースの『哲学入門』を用いて、その思索をなるべくわかりやすく解説していきたいと思う。  《カリキュラム上の位置づけ》「入門」を銘打った著作ではあるが、内容は決して平易ではない。哲学的な知識をつねに確認しながら、読み進めていくことにしたい。  《学びの意義と目標》 テキストの内容理解を深めることはもちろんであるが、自らが哲学することの意義を体感してほしいと思っている。この講義を通じて、受講者それぞれが、今の、そして、これからの自分の生きる糧となりうるような思想を見つけ出すことを期待する。
<b>評価方法</b> 学期末試験（教場レポート）の点数【70%】に、出席・授業態度などの平常点（状況に応じて小テストを行うことも考えている）【30%】を加味して総合的に判断する。なお、テキストをもってこない人は欠席扱いになるので注意してください。
<b>教科書</b> カール・ヤスパース著/草薙正夫訳『哲学入門』新潮文庫

<b>選択 哲学</b> <span style="float: right;">春 秋 週2回 4単位</span>
担当者：小林 剛
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 〈内容〉 哲学が歴史上最初に起こった古代ギリシアから、初期キリスト教やイスラム・ユダヤ哲学を通して西洋に伝えられた哲学、特にプラトン主義の自然観、学問観を考察する。  (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 この授業は基礎科目であり、必修科目である。  (3) 〈学びの意義と目標〉 今日日本を初め世界各地で学ばれている諸学問の起源である西洋哲学そのものの起源を学ぶ。
<b>評価方法</b> 毎回の授業で行われる小テスト（78点満点）と期末テスト（22点満点）の合計で評価する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 哲学</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：佐藤 啓介
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 内容 本講義は、主に二つの内容を扱います。前半では、哲学（特に西洋哲学）とはどのような学問であるか、またその歴史を解説した後、哲学が伝統的に扱ってきた問題を「真」「善」「美」という領域に分け、入門的な解説をします。後半では、現代の哲学の展開やその意義を理解するため、私たちの身近な生活にも関わるような問題（愛、都市、命など）を、哲学がどう扱っているのかを解説します。 2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の専門科目「哲学・思想」分野の必修科目、他の5学科では教養科目としての選択必修科目です。思想分野をはじめ、多くの科目の基とも基礎となる科目です。 3) 学びの意義と目標 哲学では、個々の知識を覚えることではなく、自分の力で考えることが重要です。ただ、それは一人で自在にできるものではなく、過去の思想家たちの思想が大きな手助けとなります。そうした助けを借りながら、自分が関心を持っている問題に自分なりの考えを深め、それを言葉で表現できるようになることが目標です。
<b>評価方法</b> 学期末レポート（40%）、中間レポート（30%）、出席点（30%）
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 西洋史</b> <span style="float: right;">春 秋 週2回 4単位</span>
担当者：田中 史高
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 この科目では、古代から中世・近世、さらに近代・現代へ、年代順にヨーロッパ各地の重要な人物や事象を論じていきます。毎回、講義内容の概要をプリントで配布します。また、可能な限り毎回視覚教材（ビデオ）を用いる予定。  2. カリキュラム上の位置づけ 西洋史の基本的な認識をつちかい、さらに発展的に考えていくための序論的講義です。  3. 学びの意義と目標 毎回異なるテーマを扱いますが、全26回の内容は、西洋史の基本的な流れがつかめるように配列してあります。
<b>評価方法</b> 授業の出席点（20%）、毎回の授業レポート（20%）、3回の小テスト（60%）を総合して評価します。
<b>教科書</b> 成瀬治 他『山川世界史図録』山川出版社

選択 西洋史	春 秋	週2回	4単位
担当者: 森 齊丈			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1: 内容 本講義は、欧米文化を学ぶ上で基礎となる西洋史の基本的な事象をそれに関連する芸術、文学、文化等の分野にも言及しつつ学習する。また、授業に際して、簡単な授業内レポートを課したり、時間が許せば、ビデオやDVD等の各種AV資料を使用していきたい。 また、授業で扱った事項について、自分で分析し、必要な評価を下せるように、授業毎に考えたことや疑問点を書いてもらう。			
2: カリキュラム上の位置づけ 西洋史は、西洋文化を学ぶ上で必要な基本的知識の宝庫であり、西洋文化がいかにして発展してきたかを知るために必須の分野であるとともに、社会に出たあと、現状を分析し必要な判断をするための基本的知識になるものである。			
3: 学びの意義と目標 西洋史の流れをを細かく分析することは避け、西洋文化を学ぶ上で必要となるであろう西洋史の基礎知識と歴史の流れをつかむことを目標とする。			
<b>評価方法</b>			
テスト(20%×3回)、授業内レポート(20%)、出席(20%)、を用いて総合的に評価する。			
<b>教科書</b>			
成瀬 治 他監修 佐藤 次高 他監修『山川世界史図録』山川出版社			

選択 西洋史	秋	週2回	4単位
担当者: 山本 信太郎			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 本講義では、西洋史の全体的な流れを概観し、大学で学ぶ西洋史学の基礎的な知識を講義する。しかしその中でもなるべく最新の学問的成果を紹介することによって、西洋史学の楽しさを味わい、自分なりに興味を持てる「問題」を発見していくことの手助けとなることを目指す。講義は、古代から現代までの西洋史上の重要な諸問題を、時系列順になるべく1回につき一つのトピックの形で取りあげて論じていくことにしたい。			
2. カリキュラム上の位置づけ 西洋史全体の流れを大づかみに把握することを目的とするため、大学で学ぶ西洋史学の入門としての位置づけとなる。			
3. 学びの意義と目標 西洋史全体の流れを把握するとともに、西洋史学上にどのような個々の問題が存在するのかを理解し、歴史学のものの見方や考え方に親しむことを目標とした。			
<b>評価方法</b>			
筆記試験としては、3回の小テスト(それぞれ20%・合計60%)を行う。また出席点(20%)の他、授業内の簡単な小レポート(20%)を毎回課す。			
<b>教科書</b>			
成瀬治他『山川世界史総合図録』山川出版社			

選択 西洋史	春	秋	週2回	4単位
担当者: 和田 光司				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1、内容 この講義ではヨーロッパ文明の源流であるオリエント文明から現在のヨーロッパ統合に至るまで、西洋文明の歴史を概観する。ただし、これだけの広範囲を限られた時間で網羅的に学ぶのは不可能であるので、人物や事件などトピックを限り、時代の全般的特徴を抑えることに集中する。理解を深めるため、必要に応じて視聴覚教材を用いる。				
2、カリキュラム上の位置づけ 中級の歴史科目であるヨーロッパ史(中近世)、ヨーロッパ史(近現代)、古代地中海文明、ヨーロッパ生活文化史、上級の歴史学概論などの基礎となる。				
3、学びの意義と目標 これから4年間欧米文化を学んでいく一年生のために、その基礎となる歴史的知識を与える。またヨーロッパ文明や歴史学全般に親しんでもらう。				
<b>評価方法</b>				
小テスト(20%×3回=60%)、出席20%、授業内レポート20%				
<b>教科書</b>				
『山川世界史図録』山川出版社				

選択 日本史	春	秋	週2回	4単位
担当者: 阿部 浩一				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1 内容 歴史学は、いずれの専門にとっても欠くことのできない基礎教養となる学問である。この授業では、古代～近現代にわたる日本史を講義する。まず、「日本史」の舞台となる日本列島の歴史の変遷と地域的特質を説明する。続いて、7世紀以降の歴史を、1世紀ごとに1テーマを目安に設定し、時代の概観を捉えた上で、政治・経済・情報・福祉・コミュニティなどに関するテーマを設定し、各自の専門分野とも密接に関連する日本史の教養を身につけてもらう。				
2 カリキュラム上の位置づけ 人文学部以外の学生を対象とする教養科目。留学生にも、歴史を通じて日本社会の特質や文化のあり方を知り、日本への関心をより一層高めてもらうよい機会となるはずである。				
3 学びの意義と目標 専門課程の基礎となる日本史の教養を修得するとともに、日本の歴史を通じて、人間や社会、文化に対する知的関心を自分から積極的に広げていく姿勢を身につける。				
<b>評価方法</b>				
平常点を重視し、出席回数(欠席、遅刻は減点)と、毎授業時の予習・復習の課題の提出状況を点数化して平常点(6割)とし、学期末試験(4割)とあわせて総合的に評価する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

<b>選択 日本史</b>	<b>春 週2回 4単位</b>
担当者：山田 康弘	
<b>講義の目標及び概要</b> 【講義の目標及び概要】 戦国時代から現代にいたる五百年にわたる日本の歴史を、可能なかぎりわかりやすく解説していく。まず、現代の原型というべきものが形成された戦国時代をとりあげ、「本当の戦国時代」とはどのような時代であったのかを概観していく。次いで「年功序列」「終身雇用」「ボトムアップ」といった日本型組織経営システムが生み出されていった江戸時代や、日本が近代化を推し進めていった明治・大正時代、そして「太平洋戦争」の惹起した昭和の時代をとりあげてそれぞれの特徴を検討し、最後に「バブル」とその崩壊に苦悩する現代日本などを考察しながら、日本の歴史を概観していく。 【学びの意義】 「歴史を学ぶ」ということは単に「過去を知る」ということではない。「現代を知る」ということなのである。我々現代人にとって、現代はあまりにも「当たり前」な存在であり、それゆえ、我々が現代の真の姿を見きわめることは容易ではない。そこで、過去を知り、過去と現代とを比較することによって「現代とはどのような時代であるのか？」を知るのである。ここに、歴史を学ぶ意義がある。本講義では、単なる過去を知るのではなく、過去をつづじて我々の生きている現代について考えてみたい。	
<b>評価方法</b> 毎回講義の最後に行なう小テストの成績を重視する。最終評価は、小テストの成績(40%)＋期末試験の成績(40%)＋受講態度(20%)の割合で決める。なお、欠席者と遅刻者は厳しく減点するので注意すること。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 言語学</b>	<b>秋 週2回 4単位</b>
担当者：田川 拓海	
<b>講義の目標及び概要</b> (講義の内容) 言語学は「ことばの科学」である。ことばは人間にとって大変身近な存在だが、それを客観的・科学的に捉えるのは簡単な作業ではない。また、ことばを捉えると言っても、その音・意味・文法・文字などのどの側面に焦点を当てるのか、社会・心理・習得との関係から見るのかといった多様な観点があり、実際、言語学自体も学際的な研究領域である。 この講義では、ことばを科学的に理解するさまざまな試みについて、主に日本語・英語・中国語・韓国語…などの身近な言語の具体的な例を通して解説し、流行りのことばや仲間内のことばなど身近な例の分析にも挑戦する。 (カリキュラム上の位置づけ) この授業は教養科目・総合科目の一つである。 (学びの意義と目標) 日ごろ何気なく使っていることばについて考えることの難しさと面白さを理解・実感してもらうことをねらいとしている。また、講義および授業での議論を通して、身近な物事を客観的・科学的に捉える方法について一緒に考えていきたい。	
<b>評価方法</b> 学期末試験/レポート60%、出席20%、授業の活動への取り組み20%	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 文学</b>	<b>春 週2回 4単位</b>
担当者：上宇都ゆりほ	
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容 われわれはなぜ文学作品を読むのだろうか。そこには作中人物への自己の投影があり、作品を疑似体験することによる問題の解決への希求が指摘される。それは文学作品が現実の模倣でありながら、現実よりも真実を先取りするという構造が存在するからである。 本年度は、文学作品についてミメシス、すなわち模倣という観点から、文学作品について、一般的に客観的と見なされる真実の概念と、主観的と見なされる美の概念の複合的構造について考察し、文学の創造と享受について考えたい。 (2)カリキュラム上の位置づけ 文学研究を専門としない学生のための教養としての科目として位置づける。しかし文学を広く見渡し、時代と思想のあり方を考えるために複合的な視野を導入した講義を進める。 (3)学びの意義と目標 様々な文学作品を通して、現実と虚構、実用と無用という一元的な見方ではなく、複眼的な認識を必要とする作品の意義を理解し、自らの問題に捉え返して表現することの意味について考える。	
<b>評価方法</b> 学期末に試験を課し(60%)、出欠状況(20%)、授業中の態度(20%)などを合わせて総合的に評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 文学</b>	<b>秋 週2回 4単位</b>
担当者：中島 佐和子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容……明治から現代に至る短編小説を主にした近現代日本文学を講読する。作品を鑑賞し、時代背景を探り、小説技法を学ぶ。人は、自分ひとりで存在しているのではなく、必ず周囲の人々との関係性の中にある。文学を読むということは、様々な関係性を体験するという他に他ならない。また文学は時代を映す鏡である。明治から現代に至る道筋を文学でたどる事によって、現在の私たちがどのような位置にいるのかを確認したい。 2. カリキュラム上の位置づけ……政治経済学部と人間福祉学部の学生を対象とした教養科目。文学を通しての人間理解は、どのような専門科目を学ぶ者にも非常に有益である。 3. 学びの意義と目標……第一に、文学の楽しさを知ること。次に、様々な文学作品を読むことは、人間関係が希薄化し、いじめや引きこもりが問題になっている今の時代にあって、他者を思いやり、他者との関わりについて考える絶好の機会となるだろう。自分の今いる場が、唯一絶対のものではないということにも気づくはずである。さらに、明治以降の日本社会について考察し、漢字、語彙、慣用句などの知識を得ることによる日本語能力の増進と、創作技法を分析することによるメディアリテラシー(情報を読み取り発信する能力)の強化を図りたい。(取り上げる作品は随時変更する可能性があります。)	
<b>評価方法</b> 授業態度・授業時の小テスト・提出物(70%)。期末テスト(30%)。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 日本思想	秋	週2回	4単位
担当者：清水 正之			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容 日本の思想を学ぶことは、自らの内にながれている思考形式や、宗教観・道徳意識等をふりかえることでもあります。この講義では、大きく視野をとって、日本の思想のながれを古代から近代まで概観し、そこから私たちが考えるべきことを抜き出していきたいと思います。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 日本の思想についての入門的なものです。</p> <p>3. 学びの意義と目標 日本の思想の歴史は、近代以前は、中国大陸を経由した文化・思想の、近世後期以降は、欧米の文化・思想の受容の歴史でもあります。そうした対外的な動向にも目を配りながら、先人達が何を受容し、何を選択し、そして深化させてきたかと学んでいきます。</p> <p>3. 学びの意義と目標 日本の思想を学ぶことは、自己の内に流れている意識を対象化することでもあります。 以上のような観点から、日本の思想が何を問題として何を解こうとしたのかを考えてみたいと思います。理解を助けるためビデオ等も利用して進めます。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>期末は筆記試験を課します(50%)。 また学期を通じて4回ほどの小レポートを課します。出席状況(30%)、小レポート(20%)、それと期末試験とで総合的に成績評価をします。</p>			
<b>教科書</b>			
清水正之『日本の思想』放送大学教育振興会			

選択 児童教育学	秋	週2回	4単位
担当者：永井 理恵子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>内容：本講義では、児童学を専門としない学生に対して、児童教育の基礎を学ぶ機会を提供する講義である。全30回という限られた時間数のなかで、児童教育の基礎的概念と知識を、偏り無く習得することを目的とする。具体的には、児童教育の場、児童教育の思想、児童教育の歴史、児童教育の専門機関の色々、児童の発育・発達の特徴、教師の役割、親の役割、教育行政の実際、児童を取り巻く文化一般など、児童を取り巻く様々な要素を学習する。学びの目標：あえて言えば、児童学領域で学習する様々な講義のエッセンスに幅広く触れる講義である。児童教育については一億総教育論者とまで言われる現代日本であるが、本講義を受講することにより、児童教育の正しい理解を習得し、将来の良き後進育成者となることを目指す講義である。なお、担当教員の専門分野から、児童のなかでもとりわけ幼児期に焦点が置かれがちなることを了解したうえで、履修を検討してほしい。 カリキュラム上の位置づけ：教養科目として設定されている。興味関心のある学生の履修を希望する。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>出席点を重視。講義を聴くこと自体に重い価値がある。しかし、これに加えて平常点も重視する。出ているだけで講義に参加する姿勢がなければ意味が無い。その他、平常講義において小テストをおこなうので、その結果も参考とする。</p>			
<b>教科書</b>			
上野恭裕編著『現代保育原理』三晃書房			

選択 演劇形式とその音楽	春	秋	週2回	4単位
担当者：藤田 明				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>音楽は、まず作曲者が愛や憧れなどによって揺り動かされた思いを楽譜に描き、それを演奏者が感覚的、理論的に捉えて演奏する。そして聴き手が、その演奏された曲を鑑賞することによって成立する。作曲家や演奏家は専門的知識と表現するためのテクニックを必要とされるが、鑑賞者も音楽について知識を持っていれば、より深く鑑賞することが出来る。この授業では、楽器の特徴と演奏される音楽の種類を学びながらその音楽を鑑賞する。 学年は問わないが、4年生になると就職試験などで出席できる日数が限られてしまうので、3年生までに受講することが望ましい。 今年の1月1日にウィーンで行われたニューイヤーコンサートの最後に指揮者が「音楽は、心や魂の言葉である」と言っていた。本講義で触れる音楽によって感動する心を大きく育てて欲しい。</p>				
<b>評価方法</b>				
授業期間中に数回行う試験とレポート・出席数などから総合的に評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 西洋芸術の源流	春	週2回	4単位
担当者：喜田 敬			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>本講義では、西洋文明形成に大きな影響を与えた古代ギリシア・ローマの美術を中心に、キリスト教文化を含めた古代地中海世界の芸術文化を概観する。 取り上げる作例は彫刻や陶器画だけでなく、建築、モザイク、服飾品を含めた金属製品、石棺等を予定している。様々な表現主題、媒体、材料による美術作品や住空間を含めた、古代ギリシア・ローマの芸術文化一すなわち西洋の芸術の源流についての基礎的な知識を習得していく。 講義では主に視覚資料を用い、毎回具体的な作例を取り上げていく予定である。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 西洋だけでなく、より広範囲な地中海地域の古代の美術についての入門的な位置付けである。</p> <p>3. 学びの意義と目標 古代の文化遺産が現代にも受け継がれていることを理解する。作例の鑑賞を通じて古代の人々の創造行為に親しむ。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>出席状況 40% 期末試験(受講者数により筆記試験にするかレポートにするかを決定) 60%</p>			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

<b>選択 西洋芸術の源流</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：四十九院 仁子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義では、西洋文明形成に大きな影響を与えた古代ギリシア・ローマの美術を中心に、キリスト教文化を含めた古代地中海世界の芸術文化を概観する。取り上げる作例は彫刻や陶器画だけでなく、建築、モザイク、服飾品を含めた金属製品、石棺等を予定している。様々な表現主題、媒体、材料による美術作品や住空間を含めた、古代ギリシア・ローマの芸術文化についての知識を習得していく。講義では主に視覚資料を用い、毎回具体的な作例を取り上げていく予定である。 2. カリキュラム上の位置づけ 地中海周辺地域の古代の美術についての入門的な位置付けである。 3. 学びの意義と目標 古代の文化遺産が現代にも受け継がれていることを理解する。作例の鑑賞を通じて古代の人々造形表現活動に親しむ。
<b>評価方法</b> 出席状況 40% 期末試験（受講者数により筆記試験にするかレポートにするかを決定） 60%
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 心理学概論</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：林 潤一郎
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 心理学とは、人のこころの動き、すなわち人間の感情や意識、行動について科学的に研究する学問であり、物理学や化学同様、実証的な科学として成立してきた。心理学の研究対象は、知覚、記憶、学習、発達、性格、対人関係、異常行動などというように多様な領域に分かれており、この授業では、それぞれの領域での研究成果について学んでいく。 2. カリキュラム上の位置づけ 「心理学概論」という科目名が示すように、心理学全体を概観し、なるべく多くの領域を対象として、それぞれの領域での基本的な考え方を紹介することにある。 3. 学びの意義と目標 心理学の初歩とも言うべき授業であり、この授業を受講することで、受講生には、心理学の基本的な考え方・知識を身につけてもらいたい。また、心理学を通じた自己理解・他者理解の機会にってもらいたいと考えている。なお、心理学を初めて学ぶという人たちにも理解しやすいよう、なるべく身近で具体性に富むエピソード等を紹介しながら授業を進めるつもりである。
<b>評価方法</b> 平常点（授業への参加、作業への取り組み、授業時に出された課題の提出）50%、および期末レポート（もしくはテスト）50%によって評価する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 生命の科学</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：近藤 雅雄
<b>講義の目標及び概要</b> [内容] 地球および生命の誕生から人間の誕生、進化、生涯を通して、地球と宇宙の恵みに感謝し、自然の営みを大切にすることを育て、人類の持続可能な発展をもたらす社会をつくるためにはどうしたらよいかを人間の健康を中心としてわかりやすく展望します。 [カリキュラム上の位置づけ] 健全なこころとからだの働きのメカニズムを学び、地球市民として人類の健康と平和および地球環境の保全に貢献できる教養を身につけます。 [学びの目標] 生命の科学は、生命の誕生、そして生体を構成する多くの細胞、組織、臓器およびそのネットワーク（生命系）の特有な現象および様々な機能を科学的に究明し、人類の発展に貢献するという、自然科学から人間・総合科学（文理融合）とにまたがった広領域の分野です。今、地球環境問題、経済産業や社会保障の問題は、私たち人類の存続基盤にかかわる大きな問題となっています。人類が、いのちを大切に、平和で健康な生活を営む中で、豊かさを味わい、心の安らぎを感じられる新たな社会システムの構築が望まれます。そこで、これからの社会を担う学生として、生命のしくみ、健康・病気の問題、こころの問題、生命倫理を理解し、平和で、健康的な生活を送るための基本的知識を身につけます。
<b>評価方法</b> 学習意欲・受講態度（20%）、小テストおよび試験（80%）によって評価する。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 生理心理学—心と身体の科学—</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：小川 時洋
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義では、最初に様々な精神活動の基盤となっている神経の働きや脳の構造、生理心理学の基本的な概念について解説する。その後、ストレスや感情、いわゆるウツ発見などを通して、心が身体に与える影響や、その応用例について学ぶ。その後、睡眠や食行動、知覚・記憶・学習のような、基本的な行動や心の働きについて学ぶ。 2. カリキュラム上の位置づけ 基礎総合科目であるため、生理心理学の中でも基本的な内容について紹介する。 3. 学びの意義と目標 21世紀は「脳の世紀」とも呼ばれている。こころの働きの多くを担うと考えられている脳をめぐる研究の発展が社会に与える影響は、今後ますます増大すると考えられ、脳や神経のはたらきに関する知識・理解は、現代社会で生きてゆく上で必要不可欠な教養になるであろう。本科目では、その基礎となる知識を身に付けられるようにしたい。
<b>評価方法</b> (1)出席(20%)、(2)各回の講義内容のまとめと学術的な感想(60%)、(3)読書レポート(20%)の合計で評価します。遅刻・早退は2回で1回欠席とみなします。
<b>教科書</b> プリントを配布する

選択 福祉環境学	秋 週2回 4単位
担当者：山田 義文	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1) 内容 皆さんはそれぞれに趣味や生きがいをもち、様々な製品やサービス、情報、建物や交通機関などを利用しながら毎日を通していることと思います。しかし、それらを利用した時に不便に感じた経験も少なくないかと思えます。その悩みは、障がいを持つ人や高齢の人にも全く同じです。福祉環境学の講義では、高齢者や障がいを持つ人に限らず、皆さんも含めた誰にでも便利で快適な環境を実現するための具体的な改善手法に関して考察を重ねてゆきます。</p> <p>2) カリキュラム上の位置づけ 全学部・学科を対象とした教養・総合科目になります。講義では、身近な福祉環境にまつわるトピックや海外の先進的な事例なども提示し、それを基に考察を深めてゆきます。</p> <p>3) 学びの意義と目標 様々な立場の人々が抱くバリアを実体験として捉え、皆さん自身が考える福祉環境像を提言できるよう、体験型の実習も実施します。今後も、常にすべての人々が安全で快適な環境を構築するための大切な意識を持ち続けられるようになることを目標とします。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席点10%、平常点(講義での考察の深さ、プレゼンテーション、身近な環境における自主的な検証) 30%、実習課題に対する取り組み30%、定期試験30%にて評価します。困ったことや質問などが生じた場合は、気軽に相談してください。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

選択 経済学研究	春集中 2単位
担当者：柴田 武男	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(講義目標) 本講義では、修士論文作成のために必要とされる経済に関する理解力の強化を目標とする。特に、現代的問題関心を幅広くするために、主に日本経済新聞の「経済教室」をテキストとして、そこで展開されるトピックスから理論的背景を説明したい。また、トピックスを議論するなかで、論文執筆のために必要とされる論旨の読解力と批判的理解力も涵養したい。</p> <p>(講義概要) 論文作成に何より必要なのは、批判的理解力である。批判的理解力とは、論者の主張をまず正確に理解し、そのうえで論理の矛盾や欠陥を指摘して、内容を的確に評価する知的作業のことである。論文作成に不可欠なものである。徹底した「経済教室」の読み込みと、担当教員を交えた受講者全員との相互の議論で、批判的理解力とは何か、その一端を解き明かしていく。</p> <p>(教科書) 講義担当期間の日本経済新聞掲載の「経済教室」を教材として使用する。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席率50%、レポート50%により総合的に評価する。講義において遠慮無く、積極的な発言を高く評価します。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

選択 地球環境論研究	秋集中 2単位
担当者：村上 公久	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(講義目標) 環境史を概観し産業革命以後の環境問題を省みた上で、特にストックホルム「国連人間環境会議」(1972年)以降の「国連地球サミット」(1992年)、近年の地球環境問題を巡るアジェンダの変遷とその背景を考察する。次に、国際化・地球化における地球環境問題への取り組みのあり方を検討する。急速な国際化の進展に伴い、国民国家の枠組みが解消してゆき、世界の担い手がコミュニティと超国家機構とに分極してゆく中で「水と空気に 国境はない」環境問題の解決の方途を考える。</p> <p>(参考文献) Our Common Future, G. Brundtland (ed. &amp; chair), The World Commission on Environment and Development, Oxford University Press 1987. /Blueprint for a Green Economy, D. Pearce, A. Markandya, E. Barbier EARTHSCAN 1989. /Agenda 21, The United Nations Conference on Environment and Development 1992. /Environmental Economics, A. Markandya (ed.), J. Richardson (ed.) EARTHSCAN 1992. /World Without End, D. Pearce, J. Warford, Oxford University Press 1993.</p>	
<b>評価方法</b>	
ディスカッションへの参画(出席を含む)と寄与・貢献50%、レポート50%により評価。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

選択 まちづくり論研究	春集中 2単位
担当者：平 修久	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(講義目標) 「都市計画」という行政主導で行うことが多い都市整備に対して、「まちづくり」ということばと動きが住民の間に誕生し広がっていった。地方分権、住民と行政との協働といった潮流がまちづくりを後押ししている。量から質の重視、余暇時間の増加、元気な高齢者の増加、スローライフなど、居住地を見直し、居住環境を改善しようとする意識を持った住民が増加し、まちづくりの担い手となっている。本科目では、具体的な事例などを学ぶことにより、まちづくりの意義、効果、あり方、課題などについての理解を深める。</p> <p>(講義概要) 前半は、まちづくりの概要、まちづくりにとって重要な公共性、まちづくりの基本的進め方である住民参加・協働と合意形成のあり方、物理的なまちづくり制度の都市計画制度、地区計画・建築協定についてを学ぶ。後半は、分野別に、まちの問題を整理し、問題解決に向けたまちづくり事例について、受講生の発表をもとに議論する。分野としては、中心市街の衰退、コミュニティの衰退、環境問題などを予定している。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業への参加状況(20%)、課題発表(30%)、レポート(50%)により、総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	



<b>選択</b> <b>リスク科学論研究</b>	<b>秋集中</b> <b>2単位</b>
担当者：標 宣男	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 ‘リスク’とは、現代社会において生ずる科学が引き起こす様々な障害に関係する言葉である。特にこの言葉が現代社会において特別の意味を持つのは、それが障害の重篤さと障害発生の不確実さの両方を包含することにより現代人の持つ‘不安感’を表しているからである。言い換えれば、‘リスク’とは安全（白）でも危険（黒）でもない中ぶらりん（灰色）の状態を表す言葉である。 本講義では、個々に発展してきたにもかかわらず、問題解決の方法として統一的に把握することが試みられている‘リスク論’の理論的枠組とその限界、及び確率論や決定理論等、そこに用いられている科学的手法について講ずることとする。 2. カリキュラム上の位置づけ 本講義は、総合科目群に属しており、大学院との共通科目である。 3. 学びの意義と目標 リスクを様々な点から理解する。	
<b>評価方法</b> 出席とレポートにより総合的に評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択</b> <b>欧米文化学特論</b>	<b>春</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：有賀 貞	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈講義目標〉 本講義はアメリカとヨーロッパ、そして日本の文化を対象とする。各担当者が当該分野別に講義を行うことにより、各文化の基礎をなす思想を理解し、より幅広く関連した知識の習得を目指す。	
<b>評価方法</b> 出席率とレポートにより総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 大木英夫『ピューリタン—近代化の精神構造—』聖学院大学出版会、2006年	

<b>選択</b> <b>日本思想文化研究</b>	<b>秋</b> <b>週2回</b> <b>2単位</b>
担当者：清水 正之	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈副題〉日本人の宗教的心性とキリスト教 〈講義目標1〉 外来の文化と思想を受容することで、形成されてきた日本の思想文化のなかで、とくに宗教的心性あるいは倫理観の変遷とその意味を、キリスト教との比較を念頭におきつつ考察することが、本講義の目的である。本年度は、和辻哲郎の『原始基督教の文化史的意義』をテキストとしておき、和辻のキリシタン理解等へと理解を広げ、和辻のキリスト教理解の背景、そこにおのずかと現れている伝統的宗教的心性を学び、日本の思想史への理解の幅をも広げていくことを目指す。  〈参考文献〉 日本の思想のながれについては和辻哲郎『日本倫理思想史』、清水正之『日本の思想』（放送大学教育振興会）を参考にしてほしい。その他授業で適宜指示。又コピーを配布する。	
<b>評価方法</b> 出席40%、課題報告30%、レポート30%により総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 和辻哲郎『原始基督教の文化史的意義（和辻全集7巻所収）』岩波書店	

<b>選必</b> <b>児童学研究</b>	<b>秋</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：田澤 薫	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 児童学研究では、児童を研究する意味や目的を根本から問い、福祉的な視座に立った児童研究の基礎を学ぶ。また、よりよい保育・教育実践者や援助者になるために、実践記録から学ぶ方法を身につけ、自らも実践を研究の視点をもって捉える力を養う。 そこで本講義では、児童学の視座にたつて子どもを研究する際の基本的な観点について学んだあとで、子どもの育ちを援助する保育や教育の実践記録の分析を通して子どもの姿や保育・教育・援助の実践から子どもを研究する手法を学ぶ。	
<b>評価方法</b> 出席した上での積極的な参加（発言）30%、課題報告30%、レポート40%により総合評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選択 高齢者保健福祉特論</b>	春集中 4単位
担当者：古谷野 亘	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈講義目標〉 高齢者の保健福祉は現在急速に変化しつつある。介護保険の施行は本質的な変化であったが、制度の改変は今後もさらに続くものと予想される。このような中では、現在の制度について知るだけでは不十分であって、その成立の背景や条件を正確に理解して、将来の方向を見通す力が求められる。そこで本講義では、高齢者保健福祉の歴史の変遷を、そのときどきの社会的諸条件と関連づけて取り上げ、現状と変化の方向を明らかにする。そしてその上で、最近の学会誌の論文の講読とあわせて、現在の問題とその解決に向けての方策を考究する。	
<b>評価方法</b> 授業への参加度30%とレポート70%により総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選択 障害者福祉特論</b>	秋集中 4単位
担当者：増田 公香	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈講義概要〉 近年日本においては障害者自立支援法の施行に伴い、自立支援、地域移行、就労支援が強調され障害を持つ人々を取り巻く環境は大きく変化してきている。また国際的には、WHOが新たな障害概念として提示したICFにより、環境因子を視野に入れ障害をより構造的に理解しようとしてきている。このような状況の中、障害者福祉においても、主観的レベルではなくより客観性を強調する研究が求められようとしてきている。一方、近年社会福祉の分野において、従来の研究方法の限界性を認識し、科学性を重視する社会福祉研究方法のテキストが出現してきた。 以上のような動向を踏まえ、本講義では、『障害者福祉の世界』（佐藤久夫・小澤温著、有斐閣、2006年）及び『社会福祉研究法』（岩田正美ほか、有斐閣、2006年）を中心に、障害者福祉における課題について展開していく。 その上で、受講者の関心分野について関連論文等を用い検討していく。	
<b>評価方法</b> 出席率20%、授業内報告40%、レポート40%により総合評価する。	
<b>教科書</b> 佐藤久夫・小澤温著『障害者福祉の世界』有斐閣、2006年 岩田正美ほか『社会福祉研究法』有斐閣、2006年	

<b>選択 発達心理学研究</b>	秋 週2回 4単位
担当者：池 弘子	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈講義目標〉 現代の急速な社会変化のもとで、子どもの発達に影響を及ぼす環境も大きく変化し、育児不安を訴える母親の増加、子ども虐待や子どもの食事の問題等がクローズアップされている。こうした中で、母子家庭や障害児を育てている家庭等、従来から支援が必要であると考えられていた家庭だけでなく、すべての子育て家庭に対する支援が必要であると考えられるようになった。そこで、この講義では、子どもの発達、子育て家庭や子育て支援に関する研究方法について考え、検討するとともに、子どもの発達にかかわる問題や子育て家庭に対する発達心理学的支援のために必要な知識を学習する。そして、これらを通して、子どもの発達や子育て支援に関する問題を研究したり、子育て家庭を支援したりするための基礎を学習する。 それぞれの回の後半には、「子どもを取り巻く環境の変化と子どもの変化」について考える。	
<b>評価方法</b> 授業への参加状況50%と課題報告50%により総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選択 人間福祉学研究</b>	春集中 2単位
担当者：古谷野 亘	
<b>講義の目標及び概要</b> 大学院人間福祉学研究科の教員が輪番で教壇に立ち、最先端の研究の成果を紹介する。講義は、人間福祉学研究科が扱う「福祉学分野」「児童学分野」「臨床死生学・スピリチュアルケア分野」の中から1回ごとに異なるテーマで行われる。	
<b>評価方法</b> 出席点（50%）と期末レポート（50%）。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

## 3

## 政治経済学部政治経済学科

## 専門科目

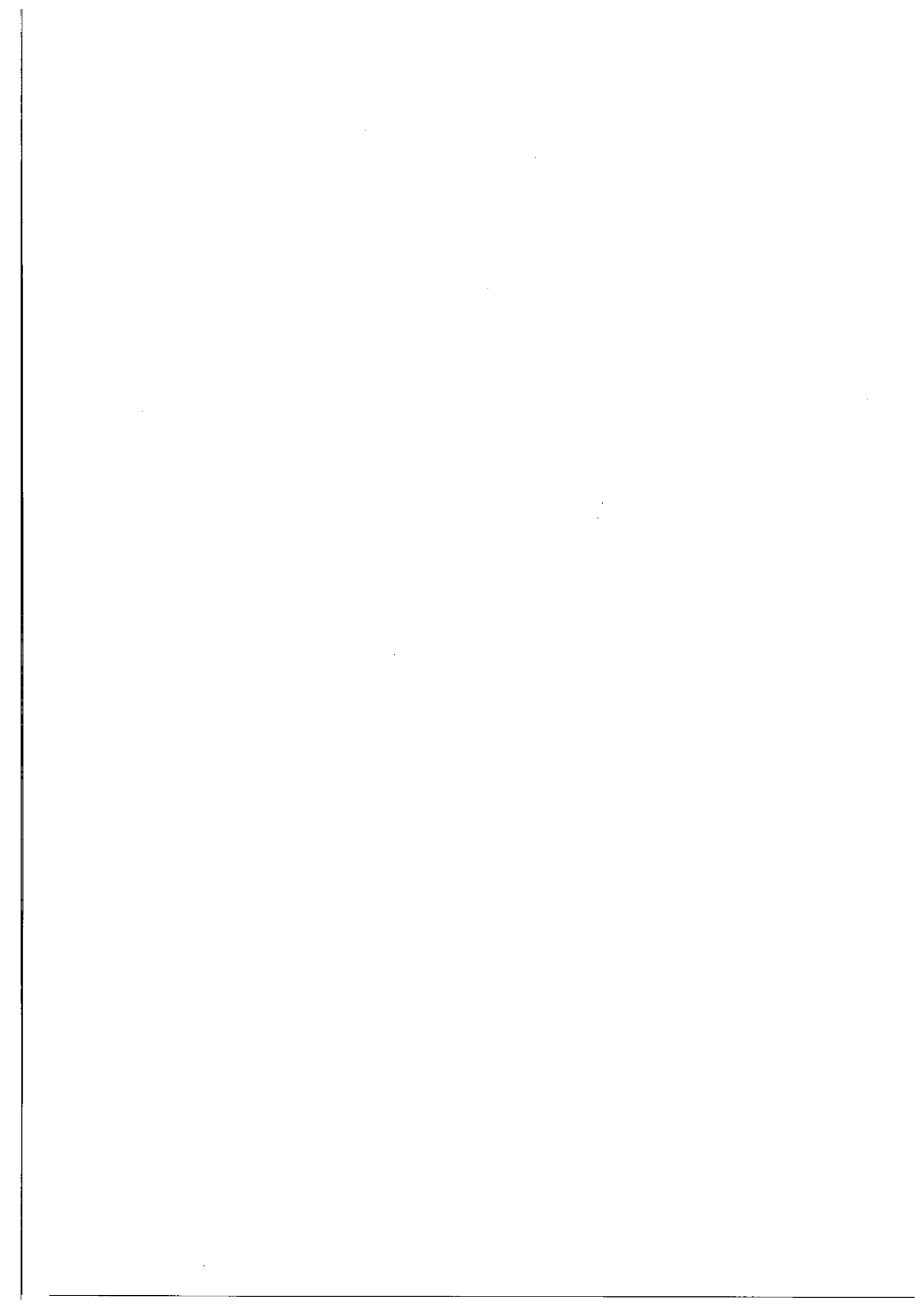
## 科目一覧

政治学  
 経済学  
 法学  
 社会学  
 キリスト教社会倫理 A  
 キリスト教社会倫理 B  
 環境学  
 キャリアデザイン A  
 キャリアデザイン B  
 Civilization & Environment  
 環境保全論  
 行政学  
 公共政策論  
 国際政治史  
 国際政治論  
 国際地域開発論  
 現代政治理論  
 政治過程論  
 地域圏研究(ロシア・東欧)  
 地域圏研究(アジア A)  
 地域圏研究(アジア B)  
 日本政治史  
 日本政治思想史  
 比較政治学  
 平和学  
 都市化の地理学  
 EU 法  
 環境法  
 行政法  
 法哲学  
 憲法(人権)  
 憲法(統治)  
 国際人権・人道法  
 国際法  
 法学特論(ジェンダー法)  
 法思想史  
 民法 A(総則・物権)  
 民法 B(債権)  
 民法 C(親族・相続)  
 Japanese Economy Today  
 金融市場論 A  
 金融市場論 B  
 金融論  
 経済学史  
 経済政策  
 公的扶助論  
 国際金融論  
 財政学  
 社会経済論  
 社会保障論  
 地域経済論  
 中小企業論 A  
 中小企業論 B  
 日本経済論  
 マクロ経済学  
 ミクロ経済学  
 労働経済論  
 オペレーションズ・マネジメント

会計学  
 経営学  
 経営システム  
 経営情報  
 経営倫理  
 国際ビジネスの現場 A  
 国際ビジネスの現場 B  
 組織行動論  
 簿記  
 マーケティング論  
 経営史  
 マネジメント  
 アイデンティティの社会学  
 異文化間コミュニケーション  
 現代社会論  
 ジェンダー論(女性学)  
 社会思想  
 社会調査法  
 文化社会学  
 世界の諸宗教の歴史と思想  
 理論社会学  
 インターンシップ I(事前学習)  
 インターンシップ II(実習)  
 秘書学概論  
 政治経済学特講(西洋政治思想講読 A)  
 政治経済学特講(国際政治論原典講読)  
 政治経済学特論 A(20 世紀の法文化)  
 政治経済学特論 A(自然を体験する A)  
 政治経済学特論 A(自然を体験する B)  
 政治経済学特論 A  
 (コミュニケーションメディア制作)  
 政治経済学特論 A(日本の裁判を考える)  
 政治経済学特論 A(財政学の探求)  
 政治経済学特論 A(生と性の憲法学)  
 政治経済学特論 A(生命の比較政治学)  
 政治経済学特論 A(生命と政治)  
 政治経済学特論 B(企業経営を考える)  
 政治経済学特論 B(経営学の可能性)  
 自然地理学概説  
 人文地理学概説  
 西洋史概説 A  
 西洋史概説 B  
 地誌学概説 A  
 地誌学概説 B  
 哲学概論  
 東洋史概説 A  
 東洋史概説 B  
 日本史概説 A  
 日本史概説 B  
 日本文化史  
 倫理学概論  
 予備演習  
 専門演習(アイデンティティの社会学)  
 専門演習(環境保全論)  
 専門演習(キリスト教社会倫理)  
 専門演習(金融市場論)  
 専門演習(経営管理)  
 専門演習(国際政治論)

専門演習(政治過程論)  
 専門演習(地域圏研究ロシア)  
 専門演習(日本政治思想史)  
 専門演習(比較憲法)  
 専門演習(比較政治学)  
 専門演習(法思想史)  
 専門演習(理論社会学)  
 卒業研究(アイデンティティの社会学)  
 卒業研究(環境保全論)  
 卒業研究(キリスト教社会倫理)  
 卒業研究(金融市場論)  
 卒業研究(経営管理)  
 卒業研究(国際政治論)  
 卒業研究(政治過程論)  
 卒業研究(地域圏研究ロシア)  
 卒業研究(日本政治思想史)  
 卒業研究(比較憲法)  
 卒業研究(比較政治学)  
 卒業研究(法思想史)  
 卒業研究(理論社会学)

政治  
 政治  
 経済  
 経済  
 学  
 学  
 部



<b>必修</b> 政治学 <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：松尾 秀哉
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 内容 主にヨーロッパ政治を題材に、政治学の基本的な概念を理解する授業です。 2) カリキュラム上の位置づけ 国際政治学などより専門的な授業の基礎的講座。 3) 学びの意義と目標 ・公務員試験などの「政治学」科目の土台作り ・現実の「政治」に関心をもつ。 ・レポートなどを通じて自分の考えを他者に発信することに慣れる。
<b>評価方法</b> 出席30%、平常点30%、期末試験20%、レポート、小テスト20%で総合的に評価します。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>必修</b> 政治学 <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：松尾 秀哉
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 内容 ・主にヨーロッパ政治を題材に、政治学の基本的な概念を理解する授業です。 2) カリキュラム上の位置づけ ・国際政治学などより専門的な授業の基礎的講座。 ・複雑に変化する現代社会について、自分なりに考える練習の場になりたいと思います。 3) 学びの意義と目標 ・公務員試験などの「政治学」科目の土台作り ・レポートなどを通じて自分の考えを他者に発信することに慣れる ※春学期よりは、少し内容的に深くする予定です。
<b>評価方法</b> 出席点30%、平常点30%、学期末試験 20%、レポート・小テスト20%の割合で総合的に評価します。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>必修</b> 政治学 <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：森分 大輔
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本コースでは、政治的論議において用いられる基本的な概念および、用語の検討を行う。時には、概念史的に、時には分析的に、さらには特定の理論家の検討もそこには含まれる。 2. カリキュラム上の位置づけ 政治学の入門講座として政治学を学ぶ上での基本的な知識を提供する。 3. 学びの意義と目標 転換期に生きる我々にとって、これらの概念の再検討は避けては通れない。なぜなら、多くの重要な政治的決定が、これらの用語を用いて説明されるからである。したがってコース参加者にはこれら概念を用いた議論が可能になることが目指される。
<b>評価方法</b> 学期末試験(40%)、および平常点(60%)とを総合して評価する。詳細は初回に説明する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>必修</b> 政治学 <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：小畑 俊太郎
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 政治学の基礎的な理論や概念について学ぶ。具体的には、講義の前半では、国家や権力、市民社会、自由主義やデモクラシーといった主要な概念を検討し、複雑な政治現象を読み解くための分析的視点を培う。そのうえで後半では、現代政治の構造や実態について、日本政治の特質とも関連づけながら解説する予定である。 2. カリキュラム上の位置づけ 政治学の入門的かつ基礎的な講義である。 3. 学びの意義と目標 政治学の基礎的な理論や概念の修得を通じて、最終的には、政治をめぐって自分なりの課題を発見し、どのような態度をとれば良いのか、主体的に判断することの出来る教養を身につけることを目標としている。
<b>評価方法</b> 出席40%、中間試験30%、期末試験30%の割合で評価する。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>必修 政治学</b>	春 週2回 4単位
担当者：森 達也	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈テーマ〉 政治の基礎知識/政治学の基礎 政治という言葉は、私たち自身が当事者であるところの多様な問題を認識し、討議し、意思決定する営みを意味する。そして政治学は、私たちが日々の政治問題を理性的に考え、解決し、判断するのに役立つ道具箱であると同時に、政治という営みそれ自体を批判的に理解するための手段である。本講義ではまず政治学の基本的な考え方を学び、次に現代政治の基礎知識を習得しながら、政治学内部の各テーマを順に考察してゆく。  〈カリキュラム上の位置づけ〉 政治学の専門的学習の前提となる入門講義である。また、教養として政治学を学ぼうとする者にも適している。  〈学びの意義と目標〉 政治学がどのような学問領域であるのかを理解すること。身近な問題を政治(学)的に捉え、それに意見を表明し、他者と議論することができるようになること。	
<b>評価方法</b> 最終試験 40% 授業内課題 30% 出席 30%	
<b>教科書</b> 加茂利男ほか著『現代政治学 第3版』有斐閣	

<b>必修 政治学</b>	春 週2回 4単位
担当者：吉田 博司	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 デモクラシーの制度とその精神的背景をまず考察します。by the peopleの制度的支柱(議会制、選挙制度、言論の自由等)を具体的に概観し、次にその背景をなす自由の人間の意味を問います。その場合に鍵概念となる閉じた社会と開かれた社会について理解を深めてもらいます。20世紀の巨大なイデオロギー対立を具体的に説明します。また、民族紛争も考察してみましょう。 現代の民主主義国家は議会制を軸に多様な形態を見せています。デモクラシーへの理解を深めたあとは、日本、イギリス、ドイツ、アメリカ合衆国、フランス等の制度を比較してみたいと思います。 2. カリキュラム上の位置づけ この科目は政治学系の基礎専門科目である。政治学の入門に位置する。 3. 学びの意義と目標 政治は社会生活の根軸的現象である。国際社会を生きる現代の必須的学問対象である。	
<b>評価方法</b> 平常点(最初の講義時に説明します)とテストによる。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>必修 経済学</b>	春 週2回 4単位
担当者：由川 稔	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 経済学は抽象化や理論化という科学的な方法に拠っています。現実の日常生活や社会問題の中で、しばしば「常識」に埋没して見えなくなりがちな経済現象の「本質」を暴き、そこから新しい経済や人間のあり方などを構想するためです。私たちが、一人一人の生活や、それを巻き巻く社会を、少しでも望ましい状態にするために日々重ねる努力——。そのような努力の中で、主に経済問題に関わる知的な営みの蓄積が、経済学だとも言えます。  2. カリキュラム上の位置づけ 全学部生対象の教養科目としての位置づけを踏まえ、「経済」と「経済学」の総合的なイントロダクションにします。資格や公務員等、各種試験対策的な内容は、他に譲ります。  3. 学びの目標 身近な経済現象の背後に何があるかを探究すること、あるいはそのようにする癖をつけることが、当面の目標です。	
<b>評価方法</b> 出席率〔出席点〕および受講態度等〔平常点〕(30%)、レポート等提出物(20%)、定期テスト(50%)で配分予定。「レポート等」には、授業時や予復習に使用した「各自のノートの写し」を含める場合があります。	
<b>教科書</b> 石川秀樹『新・経済学入門塾〈1〉マクロ編』中央経済社 石川秀樹『新・経済学入門塾〈2〉ミクロ編』中央経済社	

<b>必修 経済学</b>	春 週2回 4単位
担当者：佐藤 滋	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 本講義では、身近な経済・社会問題を素材に、経済学の基本的な考え方を理解することを目的としている。経済学は、個人や企業の経済活動の基本的な仕組みや法則について、様々な道具立て(=理論)をもとに理解することを可能とする。景気の良し悪し・失業の発生といった経済変動の考え方や、国際経済関係のメカニズムなど、多岐にわたる問題を取り扱う。国際経済と国内経済との関連については、近年のサブプライム・ローンに端を発した世界同時不況を思い描けばすぐわかるように、密接に関連している問題である。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 多くの経済・社会問題は、経済学的なものを見方を前提にすると、より良く理解することができる。われわれの暮らしの豊かさ(貧しさ)について、あるいは、国際経済関係の下での地域のあり方などを理解するための、教養科目である。 〈学びの意義と目標〉 以上のことから、受講者の所属学科・専門分野に関わらず、経済学的な考え方の基礎は、大学での実りある学習に必要であるのみならず、成熟した社会人となるために必要な素養である。	
<b>評価方法</b> 小テスト(30%)、期末試験(70%)により評価する。また、2/3以上の出席を、単位取得の必須要件とする。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>必修</b> <b>経済学</b>	<b>春</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：正上 常雄	
<b>講義の目標及び概要</b> カリキュラム上の位置づけ 政治経済学科の学生は1年次春学期必修科目であり、本科目の単位修得は1年次秋以降に各種の経済学系選択科目を履修するための必須条件である。尚、本科目は教養科目として他学科の学生にも開放されている。 学びの意義と目標 経済学の基礎をきちんと理解し、基本的な知識を身に付けることが、本講義の目標である。経済学にはミクロ経済学とマクロ経済学がある。ミクロ経済学は個人や企業といった経済主体が市場でそれぞれの行動をとるかを学習するものである。経済的合理人仮説を中心に、市場におけるモノやサービスの価格を需要や供給という要素から説明するのがミクロ経済学の主な特徴である。マクロ経済学は一国の経済全体として集計された消費、投資という概念を扱い、それらから構成される国民所得が主な分析の対象になる。国内総生産、利子率、物価水準などの大きさはどのようにして決まるか、というような具体的な問題をテーマとする。	
<b>評価方法</b> 講義回数3分の2以上の出席を必須として、中間試験と期末試験の成績、更に平常点で評価する。評価の割合は中間試験40%、期末試験50%、平常点10%とする。出席点を与えることはない。	
<b>教科書</b> 佐和隆光『佐和教授 はじめての経済講義』日本経済新聞出版社	

<b>必修</b> <b>経済学</b>	<b>春</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：水上 啓吾	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 この講義では、基礎的な経済学の考え方、知識を身につけることを目的とする。市場経済における価格の決定や資源の配分といった問題をあつかうミクロ経済学、国民経済における景気変動や失業といった問題をあつかうマクロ経済学を中心に講義を行なう。加えて、国際的な経済問題や経済活動がもたらす環境問題、そうした問題に関して政府が果たす役割など、幅広く問題を取り上げる。 2. カリキュラム上の位置づけ 経済現象をあつかう他の講義を理解するうえで必要な知識を身につけ、経済・経済学に対する関心を養う基礎的な科目である。 3. 学びの意義と目標 目まぐるしく日々変化する経済現象は、私たちの生活と深くかかわっている。経済学に関する知識・考え方を学び、このような現象を理解する手がかりを身につけること。	
<b>評価方法</b> レポート（50%）と期末試験（50%）により評価する。ただし、2/3以上の出席を単位取得の必須要件とする。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>必修</b> <b>経済学</b>	<b>秋</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：天羽 正継	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 経済学の基礎的な理論について講義をおこなう。具体的には、ミクロ経済学やマクロ経済学といった現代経済学の主要理論とともに、過去から現在、そして未来へと続く経済の歴史的な流れを重視する経済理論にも関心を払いたいと考えている。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 経済学の知識は現代におけるあらゆる社会問題を考える上で欠かすことができない。そうした意味で本講義は、経済学を専攻する学生にとっての入門講義というだけでなく、政治経済学部で学ぶすべての学生にとっての入門講義である。もちろん、政治経済学部以外の学部の学生の履修も大歓迎である。 〈学びの意義と目標〉 本講義を履修後に経済学の学習をさらに進めるため、また、現実の経済問題に対して疑問や関心を持つとともに、それについて自分の頭で考えることのできる、良き社会人として生きるための基礎知識を身につける。	
<b>評価方法</b> 出席（30%）と期末試験（70%）により評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>必修</b> <b>法学</b>	<b>春</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：加藤 恵司	
<b>講義の目標及び概要</b> 法学は、いわゆる法文の解釈や判例研究、学説などの詳細について覚えこむことだと考えるものがある。初学者が法学を学ぶにあたって重要なことは、法律的な物の見方、考え方、すなわち、legal mindを身につけることにある。そこで、本講義は、法的思考の核心となる法の基礎理論の知識を付与することを目的とする。 法的思考は、健全な常識を基礎として、合理的、科学的な観点から法の原理、法の本質を理解することである。現代社会に目を向ける時、市民の常識的な正義や衡平感覚と合致しないために矛盾を感じたり、ひとたび法律が制定されてしまうと強制的に服従させられるようになり、割り切れない気持ちになることがある。その結果、法律はその専門家の所与のものと考えたり、法にある種の不信感を抱くことすらある。このような諦観は、学問をする立場からは禁物である。正義、自由、平等、人権、愛などを基礎にした説得力ある提言、論評、意見こそ法的思考の視座となるのである。 さて、本年より裁判員制度が設けられますが、この法的思考を養うために判例を中心とした日常的な事例を解きながら講義をすすめていく予定である。	
<b>評価方法</b> 試験によって評価する。但し、出席とレポートその他を課した場合には、それも考慮することがある。	
<b>教科書</b> 『コンパクト六法』岩波書店 『ポケット六法』有斐閣 『デイリー六法』三省堂	

必修 法学	春	週2回	4単位
担当者：石川 裕一郎			
<b>講義の目標及び概要</b>			
日常生活に関わる法律問題やテレビ・新聞等に出くわす法律についての素朴な疑問といった実例から出発して、現代日本の法の実態を丁寧にみてゆきたいと思います。また、授業内容は、法制度全体を網羅的に取り上げるのではなく、なるべく最近の具体的な事件を様々な角度から掘り下げるといったスタイルにしたいと考えています。			
<b>評価方法</b>			
毎講義の後に書く「リアクションペーパー」(8割)、および期末試験2割で総合的に評価します。場合によっては、試験はレポートに代えます。単なる出席(物理的に教室内に存在すること)だけでは何ら評価の対象となりません。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

必修 法学	秋	週2回	4単位
担当者：奥貫 紀文			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1: 内容 「法」と一言で言っても、その内容は膨大であり、初めて法の世界に足を踏み入れる人は、まずその広く深い森の中でさまよい戸惑うのが常だろう。 そこで、本講義では、あくまでも講義を受講する学生一人ひとり(=個人)を軸に据えて、個人が関わり合う社会的諸関係の身近な事例や事件を出発点にして、個人に近接した関係から、徐々に範囲を広げて広汎な関係へと同心円的に法を描いていく。具体的には、まずは個人が生きていく上で不可欠な、消費生活、医療、労働等と法との関係を学び、次に、国家、行政、司法といったより大局的な視点から法システムを学ぶ。さいごは世界全体に視野を移し、グローバリゼーションと法との関係を考える。			
2: カリキュラム上の位置づけ 法的思考を養う上で必要な基本知識を得ることを目的としており、入門的な位置づけ。			
3: 学びの意義と目標 本講義の受講によって、社会における法の役割、個人と集団ないし社会と法との間のあるべき関係について、人マネではない自分自身の見解がもてるようになることをめざす。			
<b>評価方法</b>			
毎回の授業への出席・受講態度等を50%、レポート・筆記試験を50%の割合で総合評価する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

必修 法学	春	週2回	4単位
担当者：皆川 誠			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 授業内容 私たちが社会で生活していくかぎり、「法律」とかかわりを持たずに生活していくことはありえません。日常生活を送っていくうえで生じる様々な出来事が、「法律」とどのようにかかわっているのか、ということが自分自身の問題として感じられるよう学習を進めます。			
2. カリキュラム上の位置づけ 皆さんが「法律」の存在をはっきりと意識することはこれまでにほとんどなかったかもしれません。しかし、今後社会生活を送っていく中で、さまざまな場面で「法律」と向き合わなければいけなくなることでしょう。皆さんが学んでいく専門知識を社会で活かしていくにあたって、「法学」の知識は必ず役に立つはずです。			
3. 学びの目標 皆さんが普通の生活の中の出来事を法的な視点から考えることのできる基礎を身につけられるよう学習していきたいと思えます。			
<b>評価方法</b>			
出席を重視し、毎回の授業で小テストを実施する予定です。また、1本レポートの提出を求め、期末試験も実施します。小テスト40%、レポート20%、期末試験40%の割合で成績評価を行います。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

必修 法学	春	週2回	4単位
担当者：宮澤 弘			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 この授業では法的なものの見方や考え方(法的思考)を学び、それらの意義を理解します。「法的な見方」や「その意義」といってもそれらは様々な理解が可能ですが、本講義では理論的整合性と具体的妥当性という二つの側面をたえず念頭におきながら物事を考えられることと捉え、それを前提に授業を進めていきます。そしてそれは、抽象性のある整合した知識の集積(理論や原理)と具体的な事例(判例や社会の出来事など)とを交互に行き交いながら学んでいくこととなります。			
2. カリキュラム上の位置づけ 「法的思考」という考え方を一定程度使いこなせるようになることを目指すものであり、そのためのファースト・ステップという位置づけです。従って入門的な講義です。			
3. 学びの意義と目標 自己の見解を何らかの根拠に基づいて説明をする能力を養うこと目指しています。			
<b>評価方法</b>			
期末試験から60%、授業中に行う確認テストや次回授業までに作成し提出する課題などから30%、出席から10%の割合で評価します。			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			



必修 社会学	秋 週2回 4単位
担当者：阿部 英之助	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1、講義内容</p> <p>この講義では、「社会学」という視点を通して私達が生活している世界やそこでの疑問や問題について考えていきます。普段、私達が何気なく行っている事に対して少し視点や発想を変えて「見る」ことで、「当たり前」であったことが「当たり前でない」ものとし映るかもしれません。私達は家庭・近隣・学校・会社・市町村・国など様々な組織に属し、多様な場面で生活をしています。そこでは、無意識のうちに刻み込まれている事がたくさんあります。そのような「日常性」を問いつつながら、私達が生活している生活世界について具体的な事例を通して、社会を考えていきたいと思えます。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ</p> <p>「社会学」の入門として、具体的な事例から社会を見る視点と方法を学びます。</p> <p>3、学びの意義と目標</p> <p>新聞・雑誌や調査データなどから、現代社会の姿を学ぶことで、社会を見る様々な視点が身につくことを本講義での目標としたいと思います。</p>	
<b>評価方法</b>	
評価は、出席（30点）・授業内小レポート（20点）・学期末試験（50点）の合計100点によって総合的な評価をします。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する 友枝敏雄・山田真茂留『Do! ソシオロジー』有斐閣アルマ 那須壽『クロニカル社会学』有斐閣アルマ	

必修 社会学(春)	春 週2回 4単位
担当者：横山 寿世理	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>この講義は、入門的な社会学の講義であるが、社会学を概観するだけでなく、社会学的な視点を身につけることを目標とする。社会学的な視点とは、社会において起きている現象を問題として認識する能力であり、多くの人びとが信じている常識を批判的に検討する能力だと考える。社会学が日常を問いつつ学問だと言われるのはこのためであり、よい/悪いといった判断からも常識に従うことからほほど遠いと言える。</p> <p>具体的な講義形式としては、教科書・雑誌や新聞の記事、ドキュメンタリー番組を補足資料として用いながら、講義内容を板書でまとめる形で講義を展開するので、教科書を用いて予習復習を行うこともできるはずである。また、講義内容の定着を図るため、3~4回の小論文を講義内で課す。この小論文の作成によって、受講者は、講義テーマをどのように発展させられるのかという講義に関する問いを見つけることと、社会現象を批判的に読み解く力を身につけることが可能になるはずである。</p> <p>春学期の授業計画としては、前半に理論・学説を中心に社会学の一般理論を理解して、その応用としてさまざまな社会学（連字社会学）を後半（14回目以降）に概観する予定である。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席（30%）、講義内で課す小論文（30%）、学期末試験（40%）で評価する。詳細は第1回目の授業で確認して欲しい。	
<b>教科書</b>	
宇都宮京子『よくわかる社会学（第2版）』ミネルヴァ書房	

必修 社会学(秋)	秋 週2回 4単位
担当者：横山 寿世理	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>この社会学は、政治経済学科必修でもあり、それ以外の学部学科の教養科目として配当されている。そのため、入門的な社会学の講義であるが、単に社会学を概観するだけでなく、社会学的な視点を身につけることを目標とする。社会学的な視点とは、社会において起きている現象を問題として認識する能力であり、多くの人びとが信じている常識を批判的に検討する能力だと考える。社会学が日常を問いつつ学問だと言われるのはこのためであり、よい/悪いといった判断からも常識に従うことからほほど遠いと言える。</p> <p>具体的な講義形式としては、教科書・雑誌や新聞の記事、ドキュメンタリー番組を補足資料として用いながら、講義内容を板書でまとめる形で講義を展開するので、教科書を用いて予習復習を行うこともできるはずである。また、講義内容の定着を図るため、3~4回の小論文を講義内で課す。この小論文の作成によって、受講者は、講義テーマをどのように発展させられるのかという講義に関する問いを見つけることと、社会現象を批判的に読み解く力を身につけることが可能になるはずである。</p> <p>秋学期の授業計画としては、できるだけ具体的な社会現象・社会問題を中心的に扱う予定である。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席（30%）、講義内で課す小論文（30%）、学期末試験（40%）で評価する。詳細は第1回目の授業で確認して欲しい。	
<b>教科書</b>	
宇都宮京子『よくわかる社会学（第2版）』ミネルヴァ書房	

必修 社会学	春 週2回 4単位
担当者：鄭 鏞碩	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>社会学の最大の魅力は、あらゆる社会現象を、新鮮で驚きに満ちたもの、「あたりまえではないもの」として見せてくれる点にある。本講義では、ある現象がそのようである理由、その仕組みにおける人と人との「かかわりあい」や「力」についての問いを重ねながら、物事を批判的に捉える思考の方法を学んでいく。新聞記事、映像などから、コーヒー、電車時刻表、犯罪ニュースのような身近な物事や、性別、職業の選択、貧困などのプライベートな悩み事がなぜ「社会的問題」になるのかについて考え、これらを社会的にとらえる基礎概念を理解していくことで、社会的思考の幅と奥行きに対する感覚を備えることを目指す。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>専門科目の選択に先立つ知的探索の機会として、社会学の特徴を学習する講義である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>1) 学問としての社会学の特徴を理解し、社会学の基礎概念を習得する。</p> <p>2) 現代社会の多様な側面を批判的に考察するための基本的な視座を手に入れる。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席点33%、講義内で課すレポート33%、期末テスト33%によって算出する。	
<b>教科書</b>	
長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志『社会学 (New Liberal Arts Selection)』有斐閣	

<b>必修 社会学</b>	春 週2回 4単位
担当者：田中 俊之	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>社会学は常識を疑う学問だとされている。われわれが日々の生活において自明視しているさまざまな出来事を、その成立の仕組みから分析してみせるからである。社会学のこうした性格は、この学問がもつ批判性をよくあらわしているといえるだろう。本講義の目的は社会学の理論および諸概念を学習することによって、社会を批判的に読み解くまなざしを手に入れることである。</p> <p>社会学的な視座を身につけるためには、単に新しい用語を覚えるだけではなく、具体的な事例の分析から実際に現実のどのような側面が明らかにできるのかを理解しておかなければならない。そのため、テレビドラマや映画あるいは雑誌記事といった身近な資料を使いながら、社会学と現実の接点を常に意識した講義を展開する。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席点20%、授業時の小テスト40%、学期末テスト40%	
<b>教科書</b>	
張江洋直・大谷栄一『ソシオロジカル・スタディーズ』世界思想社	

<b>必修 社会学</b>	春 週2回 4単位
担当者：渡會 知子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>【内容】 私たちはたいてい、他人のことが、自分のことよりもよく「見える」ものです。例えば、サッカーをしている友人にアドバイスはできても、自分のプレーのどこがまずいのかは言えない。あるいは、他人の長所と短所は簡単に挙げられるのに、自分のこととなると実はよく分からないなど。人は時に、自己分析をするために、他人の目を必要とします。</p> <p>「社会学」とは、私たちの「社会」を、いわば「他人の目」で分析するための学問です。本講義では、社会学の基本的な概念や方法を紹介することを通して、私たちが通常前提としている（ゆえに「よく見えない」）価値・規範・文化・制度が、どのように成り立っているのか、具体的な事例を挙げながら考察していきます。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 専門科目の選択に先立つ入門的講義です。</p> <p>【学びの意義と目標】 複雑な現代社会に対する俯瞰的な「見取り図」を手に入れ、それによって個別の事象を批判的に分析していく基本的能力を身につけることを目指します。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席20%、講義中に課すレポート30%、期末テスト40%、講義中の態度10%とし、総合的に評価します。	
<b>教科書</b>	
那須壽『クロニクル社会学』有斐閣アルマ	

<b>必修 キリスト教社会倫理A</b>	秋 週1回 2単位
担当者：相澤 一	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1)内容 本講義は、一見するとキリスト教とは何の関係もなさそうな現代の日本社会に、実はキリスト教が深い影響を与えている、という話を中心に展開する。現代日本で「当たり前」なものの考え方や価値観がキリスト教の深い影響の下に成り立っているという事実を知ることが、政治経済の学びに不可欠であることは言うまでもない。</p> <p>後期は、前期の内容をふまえて、より理論的な内容を学ぶ。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 本講義は政経学科の学生の3年次必修科目であるが、必修科目であるからには学ぶ必然性があるということに他ならないのであり、ぜひ真面目に取り組んでいただきたい。</p> <p>(3)学びの意義と目標 現代日本社会にキリスト教が深い影響を与えている、ということに大きく幾度も傾くようになったなら、すでに他の人とは違う視点で日本社会を眺めることができるようになっているのであり、その視点が実社会で生き残るのに有益であることは言うまでもない。</p> <p>*参考文献 古屋安雄・大木英夫共著『日本の神学』</p>	
<b>評価方法</b>	
毎回の出席および平常点(30%)、全学礼拝および教会礼拝出席レポート(20%)、期末レポート(50%)の総合点で評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>必修 キリスト教社会倫理B</b>	春 週1回 2単位
担当者：相澤 一	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1)内容 本講義は、一見するとキリスト教とは何の関係もなさそうな現代の日本社会に、実はキリスト教が深い影響を与えている、という話を中心に展開する。現代日本で「当たり前」なものの考え方や価値観がキリスト教の深い影響の下に成り立っているという事実を知ることが、政治経済の学びに不可欠であることは言うまでもない。</p> <p>前期は、主として明治から昭和までの日本社会とキリスト教との関係の歴史を学ぶ。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 本講義は政経学科の学生の3年次必修科目であるが、必修科目であるからには学ぶ必然性があるということに他ならないのであり、ぜひ真面目に取り組んでいただきたい。</p> <p>(3)学びの意義と目標 現代日本社会にキリスト教が深い影響を与えている、ということに大きく幾度も傾くようになったなら、すでに他の人とは違う視点で日本社会を眺めることができるようになっているのであり、その視点が実社会で生き残るのに有益であることは言うまでもない。</p> <p>*参考文献 古屋安雄・大木英夫共著『日本の神学』</p>	
<b>評価方法</b>	
毎回の出席および平常点(30%)、全学礼拝および教会礼拝出席レポート(20%)、期末レポート(50%)の総合点で評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>選択 環境学</b>	<b>春 週2回 4単位</b>
担当者：村上 公久	
<b>講義の目標及び概要</b> キーワード：〔人間—環境〕系、地球環境問題、ガイアGaia、保続可能な（持続可能な）開発 1. 内容 君たちが生まれた頃から現在まで、つまり君たちの平均年齢に相当する約20年間の間に私たちの地球の生命圏の環境は、急速に悪化しました。この間日本列島の約6倍の面積の熱帯の森林が失われ、中国の耕地面積に相当する陸地が砂漠化したのです。 今日、世界的規模での最大の問題は、環境の急激な悪化による生命圏（生態圏）の全体的壊滅の危険、すなわち地球環境問題です。この科目では「ヒトと環境」が相互に影響し呼応し合うシステム〔人間—環境〕系を理解し、「ヒトと森林の関係」を例にとりて考えます。かつては環境問題の問題意識の中心は産業公害でしたが、現在ではこの問題は国境を突破した生命圏全体の存続を懸けた「地球環境問題」として捉えられており、いわゆる公害問題はその一部として意識されています。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目「環境保全論」履修の準備となる科目です。 3. 学びの目標 NGOの果たす大きな役割を含め、私たちが生き物たちのこの世界を全体的な壊滅から救うほとんど唯一の戦略「保続的開発」の可能性を探ります。	
<b>評価方法</b> 学期中複数回の試験、出席状況、討論によるクラスへの貢献、レポートを総合的に評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>必修 キャリアデザインA</b>	<b>春 週1回 1単位</b>
担当者：萬年山 啓	
<b>講義の目標及び概要</b> この科目では、学生が、自分の生き方、働き方、学び方を設計できるようになることを目的として、自分自身のキャリアをデザインする際に必要となる考え方と思考方法について学びます。この科目で扱う自己の興味関心や適性に対する理解、日本の社会構造や職業に対する理解、社会が求める能力や技能に対する理解などのテーマは、大学卒業後に社会で活躍するために必要とされている基礎的な事柄です。 この科目で学ぶことは、同時に、学生が自分の将来を見据えて大学生活を有意義に過ごすための起点となり、大学（教育）から職場（社会）へのキャリアチェンジを円滑にするための基点にもなります。この科目は、「キャリア」を経歴や職業だけでなく、個人の家庭生活や社会生活、社会活動なども含む人間の生き方を表現する「ライフキャリア」と捉えて、そうしたキャリアを「デザイン」という未来志向であることを特長とします。 授業では、個人ワークやグループワーク・発表をふんだんに採り入れ、学生が主体的に行動する形態で実施します。個人ワークでは、与えられた課題について集中して取り組む訓練を積み上げることで、論理的に結論を導く方法を学んでいきます。グループワークでは、普段あまり接しない人との交流を通じて、コミュニケーションのとり方を学びます。	
<b>評価方法</b> 評価：出席点と平常点を重視します。毎回の授業に参加すること及び授業で積極的に取り組んだことを成績評価の基礎資料とします。学期末試験は、筆記式・論述式試験とします。配分は、出席点：平常点：学期末試験＝60％：20％：20％です。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>必修 キャリアデザインB</b>	<b>秋 週1回 1単位</b>
担当者：萬年山 啓	
<b>講義の目標及び概要</b> 後期に配賦されるこの科目は、前期で学んだ自己理解・職業理解・ビジネスシーンに必要な基礎的能力などの理解を踏まえながら、内容を一步深めていきます。さらに、大学（教育）から職場（社会）へのキャリアチェンジに向けた準備活動というキャリア教育の観点も加味し、より実践的な内容を学んでいきます。社会で行われていることと大学で学んでいることを関連づけて考えるための方策を示し、社会を視る目を養成します。 この科目では、社会的活動が協働の場であることを理解し、学生がこれまで体験してきた競争の場とは異なる考え方や能力が求められることを意識します。21世紀の「知識基盤社会」において働くとはどういう意義を持ち、どのような人間的資質が求められるか、評価されるのかを理解していくのが主眼です。 この授業でも、個人ワークやグループワークを採り入れます。他人が発する情報をどのように受けとめ、理解するか、さらにそれをどのように伝えていくかを意識しながら、授業を進めます。授業中での行動を通じて、学生の「ジェネリックスキル」を育成していきます。この授業に主体的に参加する学生が、自分の「キャリアデザイン」を自分自身の言葉で語り、構築ができるようになることを目指します。	
<b>評価方法</b> 評価：出席点と平常点を重視します。毎回の授業に参加すること及び授業で積極的に取り組んだことを成績評価の基礎資料とします。学期末試験は、筆記式・論述式試験とします。配分は、出席点：平常点：学期末試験＝60％：20％：20％です。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 Civilization &amp; Environment</b>	<b>秋 週1回 2単位</b>
担当者：村上 公久	
<b>講義の目標及び概要</b> Culture is spiritual abstraction or blueprint of civilization. And civilization is concrete substance of culture. No civilization was established with small population which could survive within consumption of excessive production of ecosystem. People survived within the carrying capacity of nature until civilization built. Civilization has emerged as the population growth support system. In this course, we comprehend civilization as man-institution system. And man-institution system may be carried out under the restraints of man-environment system. It is worth to study on cultivation and agriculture as population growth support instrument and to study city as over population accumulation instrument. Environmental issues of the world today could be well understood in these two instruments study. Expansion limit determination of man-institution system and control of it through study of man-environment system will provide suitable strategy for Sustainable Development.	
<b>評価方法</b> Graded mainly by class contribution through discussion, and then by reading assignments, performance, term papers (critical article response paper), and an end-of semester final closed-book exam. No midterm exam.	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 環境保全論	秋	週2回	4単位
担当者：村上 公久			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 私たちの世界の滅亡を人の死に例えて「核戦争による滅亡を心臓発作による死、環境破壊による滅亡をガンの進行による死」とすれば、今日全面核戦争の脅威は軽減されつつありますが、自然・環境破壊は急速に進行中です。心臓発作の急死の危険はやや遠のきましたが、ガンが進行し体のあちこちに転移して拡大していることがはっきりしてきたのです。			
2. カリキュラム上の位置づけ 教養・総合科目「環境学」の内容を基礎として展開する内容を扱う専門科目。			
3. 学びの意義と目標 現在、国際機構、各国、自治体、地域の環境問題における最大の政策課題は、「経済成長か、環境か」のディレンマをめぐる合意形成とその妥当性の検討です。この科目では、まず環境史を学び、次に産業革命以後の環境問題を省みたと、持続可能な（持続可能な）開発（Sustainable Development）を考えます。			
<b>評価方法</b> 学期中複数回の試験、出席状況、討論によるクラスへの貢献、レポートを総合的に評価する。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選択 行政学	春	週2回	4単位
担当者：佐々木 一如			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 我々の生活にとって行政組織や行政サービスは身近な存在であるにもかかわらず、普段あまり関心を払わないことが多いのではないだろうか。この授業では、国や地方自治体の制度、管理手法、政策について、理論的な枠組みを用いながら学習してゆく。			
2. カリキュラム上の位置づけ 行政や政策に関する基礎を学ぶ授業である。政治や政策、コミュニティについての授業と関連している。			
3. 学びの意義と目標 行政システムに関する基礎的な知識を習得する。中央政府や地方自治体がどのような組織を持ち、そしてその管理を行い、政策を運営しているのかを説明できるようになる。			
<b>評価方法</b> 出席点 40点（出席1回あたり約1.5点） 平常点 20点（詳細は授業で指示します） 試験 40点（中間15点/期末25点） *授業開始時に名簿を読み上げます。その時点で在室していない場合、欠席とします。			
<b>教科書</b> 真淵勝『行政学』有斐閣			

選択 公共政策論	秋	週2回	4単位
担当者：大藪 俊志			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 現代社会が抱える問題は複雑・高度化しています。そのため雇用や福祉、環境など様々な分野で生じる課題に取り組む公共政策の重要性は増えています。その一方で政策の失敗や公共部門の非効率といった問題点も指摘されるようになり、公共政策の実施のあり方や政府の適正な規模について幅広く議論されるようになりました。講義では、公共政策の概念や仕組み、機能について紹介するとともに、今後の課題について検討する予定です。			
2. カリキュラム上の位置づけ 公共政策論は総合的かつ実践的な性格を特徴としています。特に行政学、政治学、政治過程論、政策評価論、環境政策論、地方自治論などと深い関わりがありますが、受講に際して特段の予備知識は必要としません。			
3. 学びの意義と目標 市民生活に深い関わりを持つ公共政策の仕組みについて基礎的な知識を学びます。また、個別の政策の内容や社会の問題を解決する方法について、広い視野から考察する能力を養うことを目標とします。			
<b>評価方法</b> 学期末試験（50%）と授業の出席状況など平常点（50%）を総合的に勘案して評価します。詳細は授業内で指示。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選択 国際政治史	秋	週2回	4単位
担当者：中村 文子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
（内容）国際政治史では、主権国家が誕生したウエストファリア体制のはじまりから第二次世界大戦までの国際政治史を見ることで、21世紀の私たちの時代における地球規模の諸問題の歴史的背景に迫る。			
（学びの目的）現代の国際社会は、戦争、核兵器と軍拡、経済発展と貧困、環境破壊、難民といった地球規模の諸問題に直面している。このような問題を理解するためには、これらを現代の問題としてだけでなく、歴史的問題として認識する必要がある。たとえば、2001年9月11日の同時多発テロには、欧米の価値観に敵対するイスラム原理主義や、パレスティナを抑圧するイスラエルを支持したアメリカを攻撃する意図があった。同時多発テロを理解するためには、2001年以前の国際政治を把握する必要がある。講義では、現代の地球規模の諸問題と関連づけながら、国際政治史を学ぶ。			
<b>評価方法</b> 5回以上欠席した場合、不可とする。授業態度の悪い者は、出席回数を満たし、レポートが単位取得に必要な水準に達していても、授業中に退席させ、単位は与えない。レポートの課題は授業中に通知する。レポート80%、出席20%で評価する。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

<b>選択 国際政治論</b>	春 週2回 4単位
担当者：秋吉 祐子	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉：地球上の人間の存続の本質的要件である「食・農・環境・循環型/持続可能社会・世界平和」の世界観において国際政治の諸局面をテーマとして分析・考察する。授業メニューは、(1)同世界観において共通認識を持つための指定教科書の輪読プレゼンテーション(プレゼン)を行う。(2)自主研究テーマのプレゼンを行う。(3)各種文書(プレゼン時のレジュメ、プレゼンに関する論文、プレゼンのフォローアップ評価等)の作成も行う。(4)上記世界観に基づいたディベートも行う。(5)適時に講義やVTR利用授業を行う。備考：レジュメ、論文等の課題はNet Commons(担当者と履修生間の通信に使用するウェブサイト)を用いる。 〈カリキュラム上の位置づけ〉国際政治の専門科目であり、教職課程関連科目でもある。 〈学びの意義と目標〉1. 上記テーマへの学習により人間社会の在り方を模索する。2. 受講生の主体的な問題発見・解決能力を育成する。3. 実社会でも有効な様々なスキルや能力を育成する。(AO機器を活用した様々な形態の発表・発言のスキルや能力の育成等)	
<b>評価方法</b> 評価項目授業内外課題の全て(プレゼン・レジュメ・司会/質疑・応答・討論・ディベート・レポート等90%および授業態度10%)。但し担当日プレゼン・ディベートに無断欠席の場合は単位取得意思放棄とみなす。	
<b>教科書</b> レスターブラウン 福岡克也監訳『フード・セキュリティ だれが世界を養うのか』ワールドウォッチジャパン	

<b>選択 国際地域開発論</b>	春 週2回 4単位
担当者：飯島 康夫	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 概要 この講義の目的は日本や海外の都市化・地域開発にかかわる諸問題に親しみ、歴史を通して都市化に対する対処の教訓等を学ぶことである。経済活動の国際化と地方分権化が望まれるなか、地方行政や地域産業の関係者が独自に地域振興の戦略的プランをもち、海外との経済・文化交流に直接関わるが増えるかもしれない。本講義はそのような将来の開発プランナーへの道に興味を持って頂くための一助にもなればと願って開講されるものである。 2. カリキュラム上の位置づけ 都市化のあらましを、概説したものであり、欧米、アジア・アフリカの途上国、旧社会主義圏などを、概観する。選択必修の科目であり、経済学、政治学など、ある程度の、基礎的な科目を履修した後の方が理解しやすいと思われる。 3. 学びの意義と目標 将来、自治体、NGO、JICAや青年海外協力隊で国内、海外の開発プロジェクト、あるいは、身近かなまちづくりを考え、実践していく上での必要な知識を積む一助とする。	
<b>評価方法</b> 1 提出物(小論)を書くために、地域を調査し、まとまった考えを提示できるかどうか。(5割) 2 中間試験(3割) 3 出席と貢献度(2割)	
<b>教科書</b> 水岡不二雄編『経済・社会の地理学』有斐閣アルマ	

<b>選択 現代政治理論</b>	秋 週2回 4単位
担当者：森 達也	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈テーマ〉自由の政治学 自由は欧米の政治的伝統の中心を占める理念である。歴史上、数多くの人々がこの「自由」の旗印の下に集い、議論し、政府に異議申し立てを行い、時に武器を手に革命を遂行した。だが、一見、誰の目にも明らかと思えるこの言葉が実際に何を意味しているのかと問えば、その答えは一律ではない。本講義では政治理論および政治思想史の観点から、政治的自由論の多様な伝統とその現在について考える。この作業を通じて、混乱する現代社会における個と共同体のあり方を理解し、進むべき道を見出す一助をしたい。 〈カリキュラム上の位置づけ〉政治学の基礎知識を前提とした専門科目であるが、広く人文・社会科学分野の教養科目として履修することも可能である。 〈学びの意義と目標〉政治学の規範的側面に関する理解を深める。政治思想の歴史から現代社会を見通し、そこにおけるわれわれ自身の生活様式を批判的に吟味する。	
<b>評価方法</b> 最終試験(50%) 授業内課題(20%) 出席(30%)	
<b>教科書</b> 飯島昇蔵ほか編著『現代政治理論』おうふう	

<b>選択 政治過程論</b>	春 週2回 4単位
担当者：高橋 愛子	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉長い歴史を持つ「政治学」という学問の中における「政治過程論」の位置づけ・特徴について考察し、その後、各論をテキストを参考にしながら学んでいく。基本的なテキストとして下記の教科書を使い、必要に応じて資料を配布する。リアルな政治現象への認識を得るため新聞やニュース映像を適宜使用する。受講者は、政治に関わる新聞記事のスクラップに各自のコメントを付したコメント・シートの提出が課せられる。 〈カリキュラム上の位置づけ〉必修の専門基礎科目「政治学」修得済みの学生が、政治過程についてより専門的に学ぶための科目である。 〈学びの目標〉本講義の狙いは以下の三点である。第一に、政治現象の分析や考察において不可欠かつ主要な位置を占める「権力(Power)」概念の多面的な学びを通して、政治プロセスの各局面で「権力」がどのように作用しているかを考察すること、第二に、政策決定過程の全体像についての概観を得ること、そして第三に、政策決定の各プロセスの中に潜むさまざまな問題が私たちに与えてどのような「意味」を持っているかを考えることである。	
<b>評価方法</b> 第一に出席(20%)、第二に新聞スクラップについてのコメント・シートの提出(30%)、第三にテスト(中間・期末)(50%)。以上の総合的評価。	
<b>教科書</b> 伊藤光利・田中愛治・真淵勝『政治過程論』有斐閣	

選択	地域研究(ロシア・EU)	秋	週2回	4単位
担当者：飯島 康夫				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 概要 20世紀初めの反スラヴ主義的動向や20世紀後半の東西冷戦を思い起こせば明らかのように、つい最近まで「ロシア」は、ヨーロッパ各国にとつての、ひいては世界にとつての選択肢の一つであった。親ロシアか否かという問いは、20世紀には大変な重みを持っていたのである。ソ連崩壊以後、しばらくの間ロシアの存在感は希薄になっていたが、昨今では再び大国として力を誇示し始めている。21世紀においても、ロシアを知っていることが無駄になることはまずないであろう。</p> <p>2. 目標 隣国の歴史の概略を知ること。</p> <p>3. 目的 講義の目的は、ロシアに関する基本的な知識を獲得してもらうことにある。取り上げられる分野は、歴史、宗教、政治、思想、文学、芸術など、広範囲にわたる。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席率(20%)と試験(30%)、小論文(50%)による。				
<b>教科書</b>				
軍事史学会編『日露戦争(一)』錦正社				

選択	地域研究(アジアA)	秋	週2回	4単位
担当者：秋吉 祐子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉：地球上の人間の存続の本質的要件である「食・農・環境・循環型/持続可能社会・世界平和」の世界観において中国を中心としてアジアを分析・考察する。授業の主項目は、各履修生の(1)自主研究のプレゼンテーション(略称：プレゼン)、それに基づく質疑・応答、討論、(2)上記世界観に基づくディベート、(3)各種文書作成(レジュメ、論文、フロアー評価レポート等)である。適時に講義、VTR利用授業を行う。各授業のメニューや課題等はNet Commons(担当者と履修生間の通信に使用するウェブサイト)を活用する。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉国際政治学系の専門科目であり、教職課程関連科目でもある。</p> <p>〈学びの意義と目標〉1. 上記テーマへの学習により人間社会の在り方を模索する。2. 履修生の主体的な問題発見・解決能力を育成する。3. 実社会でも有効な様々な能力・スキルを育成する。(AO機器を活用した様々な形態の発表・発言能力と技術の育成等。)</p>				
<b>評価方法</b>				
評価項目授業内外課題の全て(プレゼン・レジュメ・司会・質疑/応答・討論・ディベート・レポート等90%および授業態度10%)。但し担当日プレゼン・ディベートに無断欠席の場合は単位取得意思放棄とみなす。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する 渡部忠世『環境・人口問題と食料生産』農文協				

選択	地域研究(アジアB)	秋	週2回	4単位
担当者：小田川 興				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>【内容】日韓両国の経済関係と文化交流は広がっているが、国民同士の絆を一層深めるには両国間の戦後補償問題や歴史教科書問題など根源的な課題の解決が急がれる。そうした視点から、韓国現代史に色濃く投影される日本の植民地支配の実相を知り、その負の遺産—従軍慰安婦問題や在韓被爆者問題など—を学ぶことを通じて、隣国との関係の原点をつかむ。1945年の日本敗戦=朝鮮解放後、朝鮮戦争の悲劇を経て韓国の軍事独裁時代から民主化実現にいたる歩みを経済の推移も含めて分析する。こうした分析を踏まえながら日韓関係の展開と課題を考える。また、東アジア情勢に影響を与える北朝鮮の歴史と現実、とくに地域安保の脅威である核問題を検証し、日朝関係の軌跡をたどる。さらに冷戦後の南北朝鮮関係の変遷を通して南北和解の条件と展望を探る。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】基礎であると同時に未来への対応を可能にする内容である。</p> <p>【学びの意義と目標】歴史を動かした人物像を知ること、隣国の市民たちとの友好を深める手がかりを考える。重要なのは「東アジア共同体」という大きな視座から、21世紀の日本と朝鮮半島のあり方を探り、そこに自分の未来像を重ねてみることである。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席と発表、レポートで総合的に評価する。				
<b>教科書</b>				
朝鮮史研究会編『朝鮮の歴史 新版』三省堂				

選択	日本政治史	秋	週2回	4単位
担当者：吉田 博司				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 明治、大正、昭和戦前期の政治史をふりかえります。明治維新はなぜ起きたのか。明治憲法はどういう背景で成立したのか。日本の議会政治はどのように発展し、挫折したのか。こうした内容を近代日本の政党政治発展というテーマを根底にすえていきます。人物論もおり込み、生きた政治史理解をめざします。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 政治学系の専門科目ですので、かなり詳細な歴史探求となります。</p> <p>3. 学びの意義と目標 現代政治の理解は歴史的考察をふまえることで深められるでしょう。歴史は現代なのです。</p>				
<b>評価方法</b>				
平常点(毎回のノート評価) 60点 レポート 40点 詳しくは初回の授業で説明する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 日本政治思想史		春	週2回	4単位
担当者：吉田 博司				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 近代日本の政治思想史ですが、思想と時代との関わりを重視しますので、日本近代史と重なる部分があります。また、精神的考察という立場から心理—歴史的な思想史を目指します。具体的には、福澤諭吉の開かれた精神にはじまり、上杉慎吉の閉じた精神(同体思想)、大正デモクラシーの開かれた政治思想(吉野作造)、昭和期における閉じた精神の復活(昭和維新)、近代日本と社会主義思想(山路愛山)、軍国主義下での自由主義の精神(馬場恒吉)、学生の社会運動(新人会)を検討していきます。				
2. カリキュラム上の位置づけ この科目は政治学系の理論的専門科目ですので、かなり深いレベルの歴史探求となります。				
3. 学びの意義と目標 思想史は結局、人間精神の探求です。時代と格闘する人間の根底を見つめましょう。				
<b>評価方法</b>				
平常点(毎回のノート評価) 60点 レポート 40点 詳しくは初回の授業で説明する。				
<b>教科書</b>				
吉田博司『近代日本の政治精神』芦書房				

選択 比較政治学		春	週2回	4単位
担当者：松尾 秀哉				
<b>講義の目標及び概要</b>				
内容) 比較政治学における主要成果を紹介しながら、後半は演習形式を採り、受講者自らが実際に「政治」を「比較」する練習を行う。 カリキュラム上の位置づけ) 「政治学」の受講を前提とする。比較政治学の分野で大学院等の進学を考える学生に相応しいレベルとしたい。 学びの意義と目標) 「比較」するためには「批判」できる精神と能力が必要とされる。この講義を通じて、批判的な物の見方を身につけてほしい。				
<b>評価方法</b>				
出席(30%)、平常点(コメントなど)(30%)、レポート、小テスト(40%)とする。				
<b>教科書</b>				
真柄・井戸『比較政治学』放送大学教材				

選択 平和学		春	週2回	4単位
担当者：小松崎 利明				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容：これまで蓄積されてきた平和研究の学問的成果を基礎に、われわれが生きる社会に生起する問題を通して、「平和」について考える。ただし、この平和ということば/概念自体が多義的・論争的であり、またその平和を実現するための手段や方法も、人によって、文化によって、また時代によってもさまざま異なる。また、平和に関する研究には、あらゆる学問分野が含まれる。したがってこの授業では、「平和とは何か」「平和はどうすれば実現できるのか」といった問いへの「唯一の答え」を「提示する」のではなく、学生ひとりひとりが自らこうした難題と格闘することを目的とする。				
2. カリキュラム上の位置づけ：必修の専門基礎科目「政治学」習得済みの学生が、現代世界における平和の諸問題についてより専門的に学ぶための専門科目のひとつである。				
3. 学びの意義と目標：まずは、社会科学の領域において蓄積されてきた平和研究の学問的成果を学ぶ。それをもとに、自分自身、そして他者との対話を通じて、現代世界における「平和」について多様な視点から考察する技術を習得する。				
<b>評価方法</b>				
1. 出席 10% 2. 平常点(討論とコメントシート) 10% 3. グループ・プレゼンテーション 20% 4. 中間レポート(ミュージアム訪問) 20% 5. 期末試験 40%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 都市化の地理学		秋	週2回	4単位
担当者：飯島 康夫				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 この講義は近代に入ってから顕著となっている都市化と人々の暮らしの関係を考え、身近な近隣住区にフィールドをおいて、住みよい街とはどんなものかを考察するものである。				
2. カリキュラム上の位置づけ 一年時に基礎的な政治経済、社会の学びを前提とした専門科目である。				
3. 意義、目標 一市民として自分の街を住みよくするため、気づき、行動するため、知識と歴史上の経験を学ぶことを旨とする。				
<b>評価方法</b>				
レポートのプレゼンテーション50%、出席貢献度等50%と総合的に評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する 水内不二雄『経済・社会の地理学』有斐閣				



選択 国法	春	週2回	4単位
担当者：倉西 雅子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>〈内容〉 現在に至るまでのEUの形成過程を学ぶとともに、EU法を体系的に学びます。経済分野における統合を出発点としながらも、政治分野をも包摂するようになったEUには、多様な目的と政策領域があります。このため、EU法には、国際法的な要素と国内的な要素が混在しており、極めてユニークな法体系を構成しています。本講義では、EUと加盟国から成る多層的な法空間の全体像を、わかりやすく描き出してゆきます。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 政治経済学部のカリキュラムにあって、EU法の講義は、そのユニークな法体系をEUという制度的枠組みの中で探求するという意味において、法学、国際法、行政法、経済学、政治学などが交差する複合的な分野として位置づけられます。</p> <p>〈学びの意義〉 EU法を学ぶことは、法と国際機構の目的との関係を把握し、法が持つ多面性を理解することに役立ちます。また、国際機構と加盟国との“棲み分け構造”のユニークさにも触れることができます。</p>			
<b>評価方法</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位認定 レポートの提出+三分の二以上の出席</li> <li>・成績評価 レポート50% 出席日数50%</li> </ul>			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 環境法	秋	週2回	4単位
担当者：仲田 孝仁			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>〈内容〉わが国の公害・環境問題の特質について法的な視点から検討・解釈する。それに加え、個別の法律の仕組みについて論ずる。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉本講義は、いうまでもないが「法律学」である。講義を受講する際は、憲法、民法といった基本的な法律科目を履修していることが望ましい。とはいえ、「環境法」を考える上で必要な他の法律分野の知識は最低限フォローする予定である。</p> <p>〈学びの意義と目標〉授業では、講義内容に関連した映像を視聴させ、または、環境にかかわる新聞記事などを配布し諸君に意見を求める予定である。受講者に広く環境問題に関心を持たせ、かつそれらの映像等の内容について、諸君が各自環境問題を法的に分析できるレベルまで導きたいと考えている。最終的には、「環境法」の法的枠組みを理解させ、「法」という道具を用いることで、各人が環境問題への具体的な解決策を導くための手がかりを与えることにある（社会人として必要な教養レベルから、より実践的な問題まで取り扱う。いかなる企業であれ、環境に配慮しない企業は存在しないとんでも過言ではない。また、一市民としても環境への配慮は不可欠である。）。</p>			
<b>評価方法</b>			
成績評価は次のとおりとする。期末試験（80％）に平常点（20％、出席点、レポート、課題の提出を含む。）を加算し、総合的に評価する。			
<b>教科書</b>			
黒川哲志・奥田進一〔編〕『環境法へのアプローチ』成文堂			

選択 行政法	春	週2回	4単位
担当者：仲田 孝仁			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>〈内容〉講義では、各種行政活動に共通する通則的な理論である「行政法総論」と、違法な行政活動に対する事後的な権利・利益の救済制度である「行政救済法」とを学ぶ。公務員として任用された場合は、実際に法律や条例を運用し、また民間企業であれば、行政の規制を受けない業種・業界はないといっても過言ではない。さらに、市民としても、運転免許や営業許可（食品の販売やレストラン）の取得や各種申請・届出（転居届など）、ゴミ収集、年金の給付等行政との関わりは生涯切っても切れないといえる。よって、公務員希望者に限らず、企業に就職し或いは一市民として社会生活を営む上でも「行政法」を学ぶ重要性は極めて高い。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉「行政法」は「法律学」の中においては、応用科目に属する。そのため、憲法、民法といった基幹的な科目の履修が望ましい。ただし、履修者の学習状況を踏まえた上で、法学全般に通ずる基礎的な知識についても触れることとする。講義自体は、基礎的な項目を中心として進めていくが、公務員試験対策も念頭に置く。</p> <p>〈学びの意義と目標〉本講義は、行政法の入門的な知識の修得を目的とするが、それにとどまらず、この講義の履修後には、社会に生起している諸事象に対して、法的に考えることができる力（リーガルマインド）が養われることになる。</p>			
<b>評価方法</b>			
期末試験（80％）に出席点および平常点（20％）を加味して評価する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する 芝池義一『行政法読本』有斐閣			

選択 法哲学	春	週2回	4単位
担当者：伊藤 泰			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>〈内容〉私たちの周りにはさまざまな法があります。けれども、なぜ私たちはそれらの法に従わなければならないのでしょうか。あるいはまた、そもそも法って何なのでしょう。法哲学とは、法に関わるそれらの根本的な疑問を扱うものです。すなわち、法とともに暮らすなかで我々が直面するさまざまな問題を、より根源的な視座から考察してみる。この授業ではそのような考察をみなさんと共に行ってみたいと思います。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉法思想史や政治哲学など関連科目を受講しておくこと、授業がより興味深いものとなるかもしれません。</p> <p>〈学びの意義と目標〉本講義の最大の意義は法的なことがらに関する批判的な視点を養うことにあると言えるでしょう。特定の見解を教えるのではなく、今後の人生においてもものごとを原理的に考えるためのヒントを与えること、それがこの講義の目的です。</p>			
<b>評価方法</b>			
期末試験の成績を重視(8割程度)しますが、授業中の態度なども考慮します。なお、補助的な評価手段としてレポートを採用するかもしれませんが、この点については受講者のみなさんと話し合って決めたいと思います。			
<b>教科書</b>			
平野仁彦・亀本洋・服部高宏『法哲学』有斐閣			



選択 憲法(人権)		秋	週2回	4単位
担当者：石川 裕一郎				
<b>講義の目標及び概要</b>				
講義内容を「人権」（日本国憲法でいえば第3章「国民の権利及び義務」）に絞り、その分、法解釈に重点を置いた、密度の高い講義を行います。「法」解釈といっても、その背景にある政治的・経済的・社会的・文化的要素にもかなり踏み込んだ内容にする予定です。				
<b>評価方法</b>				
毎講義の後に書く「リアクションペーパー」（8割）、および期末試験2割で総合的に評価します。場合によっては、試験はレポートに代えます。単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 憲法(統治)		春	週2回	4単位
担当者：松村 芳明				
<b>講義の目標及び概要</b>				
受講者が多くない場合はゼミ形式をとる。ただし、基礎的な知識の正確な理解は基本であるから、その点については十分に時間を割いて学習する。次に、重要論点について、事例を交えつつ、深く理解することができるように配慮する。なお講義名は「憲法（統治）」であるが、憲法全体への理解に必要な人権領域・憲法総論領域についても必要な限りで扱う予定である。				
<b>評価方法</b>				
平常点（授業への参加態度を含む）によって評価する。				
<b>教科書</b>				
石崎学・押久保倫夫・笹沼弘志編『リアル憲法学』法律文化社				

選択 国際人権・人道法		秋	週2回	4単位
担当者：小松崎 利明				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1、内容：本講義では、世界各地に見られる、基本的人権が保障されない状況、あるいは武力紛争によって人々の生活や生命が脅かされる状況に対して、国際法の一分野である国際人権法や国際人道法がどのように取り組んできたのかを学習し、それらの現代世界における意義と問題点を考える。				
2、カリキュラム上の位置づけ：必修の専門基礎科目「法学」習得済みの学生が、人権および武力紛争に関する国際法についてより専門的に学ぶための専門科目の一つである。				
3、学びの意義と目標：人権とは何か、なぜ人権尊重が重要なのか、人権の保護はどうすれば確保できるのか、さらに、現代世界において武力の行使はどのように規制されるのか、武力紛争下において人間の生命や基本的権利はどのように保護されるのかといった問題を、法的な視点から考察する能力を養う。				
<b>評価方法</b>				
1. 出席 10% 2. 平常点（コメントシート）10% 3. 授業内小テスト 30% 4. 期末試験 50%				
<b>教科書</b>				
芹田健太郎・薬師寺公夫・坂元茂樹『ブリッジブック 国際人権法』信山社				

選択 国際法		秋	週2回	4単位
担当者：山村 恒雄				
<b>講義の目標及び概要</b>				
（内容）私たちが生活している社会には、秩序を維持するためにルール（法）が存在する。国内においては、国家の統治機構が特定の目的をもって法を制定し執行している。憲法や民法、刑法などの国内法がそれである。国際社会にも、秩序を維持するためのルールが存在する。しかしながら、国際社会には国内社会にあるような全体を統治する機構（政府）は存在しない。しかし、国際社会にもそのようなルールが存在する。それが国際法である。 （カリキュラム上の位置付け）今日のように私たちの日常生活が国際化し、また、国際社会を相手に経済活動が活発に行われるようになると、国際交流の専門家や国際的ビジネスマンはもちろん、一般の人々にとっても、国際社会の仕組みや国際法の知識を十分に理解することは重要である。 （学びの意義と目標）この科目では、(1)国際法の基本構造について、(2)国家に関する国際法の規則について、(3)国家の領域に関する基本的な事柄とそれに対する国際法の取り組みについて、などの国際法の基本構造を中心に国際法に対する理解を深めていくことを、目的とする。				
<b>評価方法</b>				
学期末の筆記試験で評価するのを原則とする。なお、学生諸君の意欲が乏しい場合には、授業中にも確認問題をすることもある。その場合には、それも併せて評価する割合は未定である。確認問題を行わないのが原則である。				
<b>教科書</b>				
横田洋三編『国際法入門 [第2版]』有斐閣				

選択 法学特論(ジェンダー法)	秋	週2回	4単位
担当者：武藤 健一			
<b>講義の目標及び概要</b> 最近増えてきているパートや派遣などの非正規雇用が不安定な状況におかれています。これは、昨今いわれている「格差社会」をもたらす原因でもあります。この不安定な状況におかれている非正規労働者で報道されたりしているのは、ほとんど男性です。しかしながら、非正規労働の今までの流れを見ると、その代表的存在である派遣もパートも、元々多かったのは女性の方です。言い換えれば、日本の社会の中で前から格差社会が存在し、その中で生きてきたのは女性であるとも言えるのです。 そこで、この労働の場をジェンダー（：文化的・社会的性差）という側面から検討することで、昨今いわれている非正規労働や格差社会論が落としてきた側面を理解し、法制度がどうなっているかを学んでいくのが、この授業の内容です。パート労働・派遣労働などを取り扱い、労働におけるジェンダー問題を法学というフィルターを通して考えることをこの講義の目的とします。 ただし、法学科目であるにもかかわらず、ジェンダー法学の前提となる社会学の成果を大いに取り入れて授業を進めることになります（特に統計資料を大いに利用します）。			
<b>評価方法</b> 出席点・平常点を重視します（ただし、出席しているだけでは評価の対象にまったくなりません）。そこでレスポンスシート（：授業レポート・テスト）の評価を出席点・平常点とし、配分は、（出席点＋平常点）：学期末試験＝67%：33%、とします。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選択 法思想史	秋	週2回	4単位
担当者：加藤 恵司			
<b>講義の目標及び概要</b> 法思想史は、法とは何か、法の拘束力は必要なのか、正義とは、人権とは、という法理論を内包しながら、政治、経済、社会などに目を向けた幅広い学問である。 わが国の近代化は、近代西欧の影響を決定的に受けており、法制度についても同様である。にもかかわらず、西欧の精神的所産に十分な理解をしているとは言いがたい。そこで、本講義は西欧の法思想に限定する。現代の法思想の原理的なルーツを探索しながら、将来にどのような法制度が必要であるかを考えてみたい。			
<b>評価方法</b> レポートによって評価する。出席および授業態度などを考慮して総合的に評価する。			
<b>教科書</b> 加藤恵司『法・思想・歴史』ジーオー企画出版			

選択 民法A(総則・物権)	春	週2回	4単位
担当者：松谷 秀祐			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容：民法は、私人間の法的関係を定めている法律である。本科目は民法の中で第1編総則（第1条から第174条の2）と第2編物権（第175条から第398条の22）を講義の対象とする。しかし、それら全ての条文について説明し、その内容を覚えてもらうことが講義の目的では決していない。まずは、基本的な枠組みを把握することを目標として現在の取引社会において特に必要不可欠な制度・条文について具体例を用いながら説明する。 2. カリキュラム上の位置づけ：本科目は、必修の専門基礎科目である「法学」を修得済みの学生が、私人間の関係を定めている法律の典型例である民法について、「広く、深く」学ぶための法学系専門科目の一つである。 3. 学びの意義と目標：無人島で自給自足生活をしようとする者以外、民法と関わりを持たなくてもよい者はいない。自分（たち）が民法によって規律されている世界に生きていることを実感し、身の回りに法的な問題が生じたときに何となくでもよいので自身で解決の糸口を見出せる能力を身に付けることを目標とした。			
<b>評価方法</b> 小テスト（第13回講義時を予定）30%、および学期末試験70%			
<b>教科書</b> 平野裕之『基礎コース 民法1 総則・物権法 [第3版]』新世社			

選択 民法B(債権)	秋	週2回	4単位
担当者：松谷 秀祐			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容：民法は、私人間の法的関係を定めている法律である。本科目は民法の中で第3編債権（第399条から第724条）を講義の対象とする。しかし、それら全ての条文について説明し、その内容を覚えてもらうことが講義の目的では決していない。まずは、基本的な枠組みを把握することを目標として現在の取引社会において特に必要不可欠な制度・条文について具体例を用いながら説明する。 2. カリキュラム上の位置づけ：本科目は、必修の専門基礎科目である「法学」を修得済みの学生が、私人間の関係を定めている法律の典型例である民法について、「広く、深く」学ぶための法学系専門科目の一つである。 3. 学びの意義と目標：無人島で自給自足生活をしようとする者以外、民法と関わりを持たなくてもよい者はいない。自分（たち）が民法によって規律されている世界に生きていることを実感し、身の回りに法的な問題が生じたときに何となくでもよいので自身で解決の糸口を見出せる能力を養うことを目標とした。			
<b>評価方法</b> 小テスト（第13回講義時を予定）30%、および学期末試験70%			
<b>教科書</b> 平野裕之『基礎コース 民法2 債権法 [第2版]』新世社			

**選択 民法C(親族・相続)** 春 週2回 4単位

担当者：加藤 恵司

**講義の目標及び概要**  
 本講座は、民法の家族法に関する講義である。人は両親によって生を受け、家族と生活し、家族に看取られつつ亡くなっていく。家族は最も基本的、自然的な社会集団である。  
 わが国の民法典には、旧民法といわれる法典があり、戸主を中心とする家族制度、家督相続制度があった。もう一つは、敗戦後の新憲法に基づいて、夫婦中心の家族制度、遺産相続制度がある。本講座は後者であるが、旧民法をも意識して学習する。  
 近年の家族形態には、核家族、高齢家族、晩婚・非婚化、少子化の傾向が家族観に変化をもたらしている。「法律は家庭に入らう」という法諺があるが、法律と家族関係は無関係でよいのだろうか。たしかに「夫婦は愛し合うべきである」とか、「子どもを大切に育てよ」とか、「親を敬え」というような道徳観だけでは支えきれずに崩壊していく。裁判によって破綻を決定的にする家族が多く見られる。このような意識を抱きながら講義する。  
 民法では、夫婦関係、親子関係を取り扱った「親族編」、相続、遺言などを取り扱った「相続編」をあわせた部分を家族法と称している。法律と現実を見つめ、判例など具体例を挙げながら現代の家族事情を分析してみたい。

**評価方法**  
 試験は行わない。講義で論じられたUp-to-Dataな問題についてのレポートによって採点する方針である。

**教科書**  
 『コンパクト六法』岩波書店  
 『ポケット六法』有斐閣  
 『デイリー六法』三省堂

**選択 Japanese Economy Today** 春 週1回 2単位

担当者：大森 達也

**講義の目標及び概要**  
 Today, Japan has been asked in the world to fulfill her responsibility corresponding her economic strength. However, Japan of the 1990's plunged into the downward economic spiral after the burst of what we call "Bubble Economy," and, in turn, ended up showing some inconsistency in terms of economic system.  
 In which direction will the future Japanese economy progress? Or how will she change in terms of economic system. It is very important for the students who will live in the 21st century to have the answers to these questions.  
 The aim of this class is thus to obtain some prospective view on the Japanese economy through studying the postwar Japanese economy, namely, the characteristics of her development, her economic policies, her institutions, and etc.

**評価方法**  
 (1) Mid-term and final exams (35% each exam)  
 (2) Research Paper — 2,000 words (30%)

**教科書**  
 授業の中で指示する

**選択 金融市場論A** 春 週1回 2単位

担当者：柴田 武男

**講義の目標及び概要**  
 金融市場論Aは、「金融市場の現状と課題」をメインテーマに行う。金融市場とは、その名の通り金銭をやり取りする市場であり、その中心的存在が銀行・証券会社・保険会社・投資信託等の金融機関である。したがって、金融市場を明らかにすることは、それら中心的存在の市場参加者である金融機関の役割を明らかにすることでもある。そのために、まず、本講義では都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、証券会社、保険会社といった金融機関の解説に重点をまず置く。  
 また、金融市場は近年とくにすさまじい勢いで変貌する市場であり、また、その変化が国民経済に深刻な影響を与えている。一例として、不況の深刻化で中小企業への資金供給が問題となっており、その対応策として中小企業等金融円滑化法案が制定されたことである。本講義では、日本経済新聞を教材の一つとして、金融問題を中心に経済記事を詳細に解説する時間を設ける。また、経済ニュースを中心とした番組「クローズアップ現代」「ガイアの夜明け」「カンブリア宮殿」「NHKスペシャル」なども活用して、できるだけ初学者にも理解できるような講義を心がけたい。

**評価方法**  
 評価は、講義中に課すレポート(50%)及び定期試験(50%)の結果と出席状況とを総合して行う。

**教科書**  
 プリントを配布する

**選択 金融市場論B** 秋 週1回 2単位

担当者：柴田 武男

**講義の目標及び概要**  
 金融市場論Bは、「金融市場の理論と現実」をメインテーマに行う。我が国では、出資法と利息制限法という二つの法律を中心に金利規制の体系が構築されている。この金利規制を巡って近年議論が盛んに行われているが、ここでは改正貸金業法をとりあげ、理論と現実の対立関係を具体的に詳述していきたい。  
 2010年6月までに改正貸金業法が施行される予定であり、同法の完全実施に向けて金融庁で議論がいま現在行われていて、その内実はシラバス執筆時点で確定していない。諸君と共に一緒に勉強していきたい。このように金融市場はすさまじい勢いで変貌する市場であり、一年、二年遅れの教科書では現実の金融市場を講義できない。したがって、本講義では、講義当日の日本経済新聞を教材の一つとして、金融問題を中心に経済記事を詳細に解説する時間を設ける。また、NHKスペシャルとして話題となった「マネー資本主義」などのテレビ番組も積極的に取り上げて解説していきたい。  
 本講義を通して、金利決定のメカニズムと金利規制の意味の理解と同時に日経新聞をビジネスツールとして活用する方法まで教授することが目的である。

**評価方法**  
 評価は、講義中に課すレポート(50%)及び定期試験(50%)の結果と出席状況とを総合して行う。

**教科書**  
 プリントを配布する

選択 金融論	春	週2回	4単位
担当者：鈴木 真実哉			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容</p> <p>金融に関する基礎概念の修得に力点を置く。その上で、日本における金融現象を中心に、理論、政策、トピックスについて解説する。とくに、1990年代から現在に至るまでの日本金融史上でも稀である大変革期について、その本質と今後の方向性について解説する。たとえば、金融ビッグ・バン、大蔵省の改組、日本銀行法改正、郵便貯金の民営化、不良債権問題、などである。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>「金融」に無縁で生活できない現代において、すべての学生に学んでもらいたい科目である。社会科学系統の科目にとりて、政治経済学部における両学科学生にとって共通専門科目となっている。現代の人間として知っておくべき知識を提示している。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>現代に生きる人間として知っておくべき「金融」に関する基礎知識を修得できる。難解な金融現象の理解が深まる。</p>			
<b>評価方法</b>			
定期試験の結果と出席状態で総合的に考慮して成績を評価する。			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選択 経済学史	秋	週2回	4単位
担当者：鈴木 真実哉			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容</p> <p>現代の経済学の教科書は、過去の経済学の偉人たちの業績の集大成である。これを分解して、個々の経済学者の生き方と理論について解説する。現代では、あまり触れられないことのない経済学の碩学についてもできるだけとりあげる。時代的には、「経済学」が独立した学問となったとされるアダム・スミスの時代以降である。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>様々な経済理論や政策、制度の背景を理解する科目である。選択専門科目ではあるが、多くの学生に受講してもらいたい。経済思想の歴史を学ぶ科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>現代の経済的発展は多くの過去の偉大な経済学者の努力の上に成り立っている。この科目はこの事実を具体的に理解できるようになっている。その生き方と思想は多大な感銘をもたらすであろう。</p>			
<b>評価方法</b>			
定期試験の結果、出欠状態を総合的に評価して成績をだす。レポートを課すこともある。			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選択 経済政策	秋	週2回	4単位
担当者：中野 宏			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容</p> <p>わが国では90年代から2000年代初頭にかけての大停滞期に、政府の積極的な公共投資や減税政策、日銀のゼロ金利政策、あるいは規制緩和や民営化に象徴される構造改革など、様々な経済政策が行われた。そして現在、100年に1度と言われる世界的な大不況の中で経済政策への期待はかつてないほど高まっている。本講義では、実例をふんだんに交えながら、経済政策の根拠や効果について理論的に明らかにしていく。参考書として、岩田規久男・飯田泰之著「ゼミナール経済政策入門」日本経済新聞社。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>本講義は経済学系の専門科目であり、履修には必修科目「経済学」の修得が義務づけられる。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>将来学生諸君がどのような職業につこうと、社会に出れば経済学を知ることは必須となる。テレビや新聞などマスコミ報道を鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て自分の考えで決定を行えるような知性と分析道具を本講義で身に付けてもらえたらと思う。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席点30%、平常点および課題提出1回と期末テスト70%で評価する。平常点とは授業態度や質問など授業に積極的に参加しようとする意欲に対する評価である。課題提出や期末テストで思わしくなくとも平常点で挽回可能なので頑張ってください。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 公的扶助論	秋	週2回	4単位
担当者：榊 伴夫			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>〈内容〉</p> <p>豊かな社会といわれる中で、公的扶助の前提となる「貧困」「生存権」を学ぶ。病気、事故、障害、雇用不安、リストラなど現代はリスク社会となっている。社会の変遷の中で、リスクを分散する社会保障制度の基礎的理解をしながら、公的扶助（生活保護）の歴史・機能・役割を学ぶ。また、格差社会ともいわれる今日、雇用や社会保障制度のあり方について学ぶ。また、福祉事務所や児童相談所などの行政機関の役割を、具体事例を通じて学ぶ。「自助」「共助」「公助」の意味を理解する。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉</p> <p>憲法の生存権を学び、社会保障制度全般への理解を深める。家族の役割の変化、雇用制度の多様化など関連分野に関心を持つ。</p> <p>〈学びの意義と目標〉</p> <p>「貧困」「生存権」などについて、様々な考えを学ぶ。また、社会保障関連の判例を通じて、論点・課題を明確にし、社会の価値観や自分の考えと比較考量し論理的思考を養う。</p> <p>(参考文献)「高齢社会の法律」佐藤 進編 早稲田大学出版会</p>			
<b>評価方法</b>			
中間時に、プレゼンテーションの実施。表現方法、まとめ方を評価のポイントとする。 期末テストにおいて、レポート(教科書・参考図書持込可) 800字作成。テーマはテスト当日指示する。論点の明確化を、5割の評価とする。			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する 阿部 實『新 公的扶助論』川島書店			

<b>選択 国際金融論</b>	<b>秋 週2回 4単位</b>
担当者：柴田 武男	
<b>講義の目標及び概要</b> ボーダーレスの時代を迎え、実体経済の需要を遥かに越えた大量のマナーが世界を駆ける。ITの進化によって、国際金融手法の高度化、複雑化が促されている。国際金融が世界経済に与える影響の大きさが、2008年の世界金融危機によって実証された。 本講座は、それぞれが立場の違う国際金融の専門家三名が講師を務める、オムニバス方式を採用する。講座は、基礎編、応用編1、応用編2の三部構成となり、三名の講師が各部を担当する。基礎的な知識、理論の解説に始まり、各講師がそれぞれの経験を通じた実務現場を、様々な角度から語ることで、変貌する国際金融の姿を、立体的かつ動的に浮き彫りにしてゆく。 基礎編を日本銀行で金融行政に、応用編1を三菱東京UFJ銀行で外国業務に、そして応用編2を丸紅で国際ビジネスのファイナンスに携わり、国際金融の現場を知り尽くした三人の実務のエキスパートの各講師がそれぞれ担当する。	
<b>評価方法</b> 3名の講師それぞれの最後講義において、レポート課題が提示される。それらに対する提出レポート採点の平均点をもって、最終評価とする。たとえ出席してもレポート提出のない場合、その部分の採点は0点となる。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 財政学</b>	<b>秋 週2回 4単位</b>
担当者：佐藤 滋	
<b>講義の目標及び概要</b> (内容) 私たちは税金や社会保険料といった形で、自らの財産の一部を国や地方自治体に納めている。これらの財源は、道路・公園・保育園・小中学校・介護施設などの建設・整備のほか、警察・教育・保健・福祉サービスなどの供給に用いられている。さらに、富めるものから貧しいものへの所得移転にも使用され、経済的格差の広がりが抑えられている。したがって、財政の仕組みを通じて、私たちの生活は豊かになり、治安が守られているわけである。このように、財政とは、社会の統合を図るために必要不可欠な仕組みであるといえる。本講義では、財政を通じて人々が相互に支えあう仕組みを理解してもらおうとともに、現代日本が抱える財政問題を考えてもらいたい。 (カリキュラム上の位置づけ) 財政学の隣接領域は、経済学・社会学・政治学・行政学・歴史学など多岐に渡っており、幅広い知的好奇心を持つ学生には非常に有益な学問である。また、公務員志望者にとっても重要な科目である。 (学びの意義と目標) 財政の行く末はわれわれの生活にとって重大な意味を持っている。今日の財政問題に対して一定の理解ができるようになれば、本講義の目的は達成されたといえよう。	
<b>評価方法</b> 小テスト (30%)、期末試験 (70%) により評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 社会経済論</b>	<b>秋 週2回 4単位</b>
担当者：正上 常雄	
<b>講義の目標及び概要</b> カリキュラム上の位置づけ 専門選択科目であり、経済学を履修後、1年次秋～2年次に履修するのが望ましい。 目的 経済学という難しい数式やモデル化された学問というイメージが強く、社会の中でそれが何の役に立つかわからないという声が多い。今回、社会経済論として学習するのは、現実の社会の中で、経済的な問題がどのように捉えられているかということである。 現実の経済問題について考察できるようしっかりした知識を身に付けることを目標とする。 毎日の生活に使える生きた経済学を学ぶために、インセンティブなど個人の経済合理的な行動とは何かを中心に書かれたテキストを使用する。経済学的な思考で社会を眺めて欲しい。講義では、テキストを中心に様々な経済的な話題についてもその都度、考えてゆく予定である。経済学を通じて現代社会への理解を深め、世の中の問題に対して自分の頭で考える習慣を作ってほしい。学生の意見も取り入れながら柔軟に授業をしていきたいと思っているので、経済学はちょっと苦手という人もチャレンジして下さい。	
<b>評価方法</b> 大学の規定にある出席日数に足りていることを前提に、中間試験、期末試験、および平常点で評価する。評価の割合は中間試験40%、期末試験50%、平常点10%とする。出席点は考慮しない。	
<b>教科書</b> 山岡道男 浅野忠克『アメリカの高校生が読んでいる 経済の教科書』アスペクト	

<b>選択 社会保障論</b>	<b>春 週2回 4単位</b>
担当者：田中 聡一郎	
<b>講義の目標及び概要</b> 1 内容 私たちが生活するうえで、社会保障制度は欠かせないものである。この講義では、生活の上で直面するさまざまなリスクに対して、社会保障制度がどのように整備され機能しているのか検討する。 2 カリキュラム上の位置づけ この講義を受講するために事前に受講しなければならない科目はないが、経済学の予備知識を持っていることが望ましい。 3 学びの意義と目標 社会保障の基本的な理解を通じて、現在の社会問題についての認識を得られるようにすること。	
<b>評価方法</b> 最終試験80%、平常点 (出席+授業内課題) 20%	
<b>教科書</b> 椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』有斐閣	

選択 地域経済論	秋	週2回	4単位
担当者：瀬名 浩一			
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 国内格差だけでなく国際格差も抱える東アジア共同体構想が注目される。先例のEUでは1990年代、局所から超国家の様々なレベルで地域問題への姿勢の転換が起こった。 初めに日本の首都圏と地方圏で起こっている地域格差の実情について学ぶ。次に「英国病」を克服した英国で、地域の雇用、所得、成長率、失業率などの格差はどのように推移したかを見る。さらに日英両国の地域格差是正のためにとられた政策を比較する。最後にEUで起こった地域連合、権限委譲などを参考に東アジア経済共同体の可能性を探る。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 1年生で学ぶ経済学、社会学の応用編として、2、3年生で学ぶ専門演習、卒業研究、地域圏研究の準備過程 〈学びの意義と目標〉 地域経済統計の読み方、地域経済と一國経済の違い、地域間格差が生まれる理由、格差を長引かせないための政策などを理解する事により、格差から生まれる経済的、社会的問題への取り組み方を学べる。			
<b>評価方法</b> 出席点 26%、小テスト 24%、 期末テスト50%			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選択 中小企業論A	春	週1回	2単位
担当者：砂川 和彦			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 中小企業は、法人企業数で99%以上、雇用者数で約75%を占める日本経済を支える重要な主体である。一方で、ニュース等では話題になることが少ない経済主体でもある。本講義では、中小企業が直面する様々な問題を解説し、日本経済の発展、変化と中小企業の関係について分析する。 2. カリキュラム上の位置づけ 中小企業が直面する諸問題を学ぶ専門科目である。経済学を学ぶ者にとって重要な領域である。 3. 学びの意義と目標 多くの人が仕事をしている中小企業という環境に関して学び、現代の中小企業が直面する問題に関して理解を深めることを目標とする。			
<b>評価方法</b> 出席状況・平常点 (50%)、試験 (50%)			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選択 中小企業論B	秋	週1回	2単位
担当者：砂川 和彦			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 春学期の中小企業論Aの続編である。中小企業論Aは講義形式の授業であるが、本講義ではケーススタディも取り入れた授業を行い、授業での発言を歓迎する。 後半は、中小企業の企業戦略論にスポットを当てて授業をする。中小企業のみならず、企業戦略全般に関心のある学生にも受講して頂きたい。 2. カリキュラム上の位置づけ 中小企業に関してケーススタディを織り交ぜながら学ぶ専門科目である。経済学の重要領域である。 3. 学びの意義と目標 自らが、中小企業（ベンチャー起業）を起業したつもりになって企業戦略を考えられるようになる、という状態に少しでも近づきたい。			
<b>評価方法</b> 出席状況・平常点 (60%)、レポート (40%) 授業は講義形式で行うが、授業への積極的参加を奨励し、参加については加点する（間違っただけを発言しても減点はしない）。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選択 日本経済論	秋	週2回	4単位
担当者：大森 達也			
<b>講義の目標及び概要</b> 1980年代、歴史上類を見ない経済発展を成し遂げてきた戦後日本経済は、その経済力に見合った責任を果たすように国際社会より求められていた。しかし、「失われた10年」と呼ばれるように、1990年代には、まさに過去の成功の故に、制度的に疲弊し、矛盾を露呈するにいたった。21世紀に入り、中国の急速な発展、国際通貨としてのユーロの台頭、さらには、サブプライム問題以降において世界経済は回復基調にあるにもかかわらず、そうした波にも乗り遅れてきている様子が見受けられるのが、日本経済といえよう。 日本経済は、今後どのような方向に進んでいくのだろうか？あるいは、どのように変化するのだろうか？21世紀を生きる学生諸君にとって、日本経済にたいする確かな現状認識と将来的な展望を持つことは、非常に重要であることは言うまでもない。本講義では、戦後の日本経済の成立、その発展の軌跡、経済政策あるいは体制上の特徴などについての講義を通じ、日本経済の現状と将来的な展望を得ることを目的とする。			
<b>評価方法</b> (1) 中間及び期末の筆記試験 (それぞれ35%) (2) 1,200字程度のブックレポート3回 (各10%)			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

<b>選択</b> <b>マクロ経済学</b>	<b>秋</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：石部 公男	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 目的 経済理論のうちマクロ理論を中心に経済理論と経済政策との融合を理論的また経験的に理解させる。 2. カリキュラム上の位置づけ 経済学を履修したものが、さらに学習することを前提としている。その種にカリキュラム上は2年次生以降の履修とする。 3. 学びの意義と目標 やや深くマクロ経済理論を理解し、その後の更なる専門的内容を学習するための基礎とする。同時に自ら経済現象を理解し自分の生活に応用できる知識を修得させることを目的とする。	
<b>評価方法</b> 出席点30% 平常点20% テスト50%	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 中谷巖『マクロ経済学入門 (第2版)』日本経済新聞社 (日経文庫)	

<b>選択</b> <b>ミクロ経済学</b>	<b>春</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：中野 宏	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義ではミクロ経済学の基礎および応用理論を学習する。消費者がモノを買う、企業がモノを作る、市場でモノの価格が決まる、政府が課税や規制を行う、など日常的に行われている様々な経済活動の行動法則や決定原理を明らかにすることで、いかなる経済の状態が社会的に最も望ましいのか、またそれを実現するためにはどうすればよいかを探っていく。少なからず数学を用いるが、必要最小限のものについては折に触れて説明する。 2. カリキュラム上の位置づけ 本講義は経済学系の専門科目であり、履修には必修科目「経済学」の修得が義務づけられる。 3. 学びの意義と目標 将来学生諸君がどのような職業につこうと、社会に出れば経済を知ることは必須となろう。テレビや新聞などマスコミ報道を鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て自分の考えで決定を行えるような知性と分析道具を本講義で身に付けてもらえたらと願う。	
<b>評価方法</b> 出席点30%、平常点および課題提出1回と期末テスト70%で評価する。平常点とは授業態度や質問など授業に積極的に参加しようとする意欲に対する評価である。課題提出や期末テストで思わしくなくとも平常点で挽回可能なので頑張ってください。	
<b>教科書</b> 賀川昭夫・戸田学・浜野忠司『FirstStep ミクロ経済学』有斐閣	

<b>選択</b> <b>労働経済論</b>	<b>秋</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：金子 良孝	
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 内容：本講義では「労働」に関係する基本的な事柄を歴史や現在の状況などを踏まえて教えます。社会では誰もが「労働」をしているのであり、それぞれが「労働」についてのイメージを持っています。しかし、その分、雑誌等には十分に考えを煮詰めていない議論も流布しています。折に触れて、そういう言説にも言及します。 (2) カリキュラム上の位置づけ：現代の経済学は統計を利用をします。この講義では「労働統計」は説明しますが、統計学の説明をしませんので、各自「統計学」等で補ってください。また、生活に関連する科目として「社会保障」があります。 (3) 学びの意義と目標：社会に出て働くことの意義はそれぞれ自分で探さなければなりません。本講義では逆に社会の中における「働く (=労働)」の意味は何かを学び、考えることになります。最終的に自分で考えながら、白書を読めることを目指します。 その他 参考文献は授業内で紹介します。	
<b>評価方法</b> 試験。出席点は含まない。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択</b> <b>オペレーションズ・マネジメント</b>	<b>秋</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：柴田 武男	
<b>講義の目標及び概要</b> 生産現場における生産性改善の手法を、理論面と実践面から講義する。理論においては、業種による手法の相違を学び、実践面は産業グローバル化の中で顕在化する国内外における手法の相違、さらには国境を超えた手法の移転の実践を学ぶ。その目的に適用される科学的手法については、数学的な講義は省き、理論の概念的な説明にとどめる。 講義は、3名の実業界出身の講師による、オムニバス方式を採用。第1回から9回までは、情報産業界に勤務した講師が、その実務経験を踏まえて講義する。第10回から17回までは、化学産業に勤務した講師が、その実務経験を踏まえて講義する。第18回から26回までは、食品産業に勤務した講師が、その実務経験を踏まえて講義する。	
<b>評価方法</b> 3名の講師それぞれの最後講義において、レポート課題が提示される。それらに対する提出レポート採点の平均点をもって、最終評価とする。たとえ出席してもレポート提出のない場合、その部分の採点は0点となる。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 会計学	秋 週2回 4単位
担当者：成川 正晃	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>会計情報は、受託責任を明らかにしたり、意思決定に役立つ情報を提供したり、様々な利害関係者の利害を調整するのに用いられます。このような会計情報の作成原理や、利用方法を学ぶのが会計学です。講義では、なるべく具体的な例を用い、絶えず現実の経済事象を意識できるように工夫して進めていきます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>この科目は、専門科目の一つとして経済事象を理解するための基礎的考え方を把握するための授業です。また、会計学は組織経営の実学としての側面を有しています。したがって、他の教科で学んだ理論等の応用形態を実際に垣間見る科目であるともいえます。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>会計学では、会計情報の作成原理を理解するとともに、その利用方法を学習していきます。したがって、会計学の一端を学習することで、企業人としての基礎を身に付けたことになります。具体的には、企業の各種財務資料の作成から、分析方法まで学習していきます。このことにより、「企業を見る目を養う」というのが会計学を学ぶ目標となります。</p>	
<b>評価方法</b>	
評価点 (100%) = 課題・出席点 (50%) + 定期試験 (= レポート試験) 点数 (50%)	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

選択 経営学	春 週2回 4単位
担当者：清澤 達夫	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 目的</p> <p>本講義の目的は、「経営学」に関する基本的な知識を習得してもらい、「経営学」に興味を持ってもらうことにあります。と言うのも、皆さんはいずれ社会に出て行く(就職というかたちで)わけですが、そこで直面するのが“経営”ということです。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>「経営学」に関わる領域を網羅的かつ、初めて学ぶ学生の皆さんが理解できるよう入門レベルを意識して行なっていきたいと思えます。なお、「経営学」一分野である「管理」については、別の専門科目が開講されておりますので、本講では触れないつもりですので、関心のある方は、そちらも履修していただければ全体を理解できると思えます。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>経営は、なにも企業の専売特許ではなく非営利組織(学校や公務員、NPOなど)や家庭など組織が存在するかぎり避けて通れない機能だからです。ただ今日のような組織社会において企業は、経営の面で多くの知見が蓄えられてきていますので、企業が中心の対象となると思えます。</p>	
<b>評価方法</b>	
講義出席：30%、学期末定期試験：35%、ケース・レポート提出：35%とします。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

選択 経営学	秋 週2回 4単位
担当者：酒井 祐太郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1 目的：当科目は、企業の経営・管理の体系的知識を基本的レベルから学ぶことを目的とします。現代は企業の時代と呼ぶことができるほど、我々の生活は企業活動なしには成立しません。我々は消費者や労働者という意味でも企業に深くかかわっています。その意味で、企業という組織を多面的に考察することは、社会の構成員としても必須の事と言えよう。</p> <p>実際の講義では、まず我々と企業がとが基本的にどのようなかわりを持つか、企業が社会の中でどのような役割を持って存在しているか、また企業が社会の様々な要因変化にどのように対応してゆくべきかを考える。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ：入門レベルの授業を考えています。経営学のより専門的な内容の導入としての科目として捉えて頂きたい。</p> <p>3 学びの意義と目標：企業という存在を多面的に考えることにより、我々と社会の関係、企業が社会の中でいかに重要な存在か、またみなさんが将来就職する際にも、役立つ知識、情報をこの授業を通して学習して頂きたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>(1) 中間試験+期末試験…70% ノート、資料等の持込不可</p> <p>(2) 課題等…10%</p> <p>(3) 出席+授業への参加…20%</p>	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

選択 経営システム	春 週1回 2単位
担当者：後藤 兼一	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>講義の目標：今、オフィス業務の改革改善が求められている。日本の工場の生産性と創造性は世界でトップクラスである。しかし、日本のオフィスにおける生産性と創造性は世界的に見たら二流～三流と言われている。本講義では、何故そうなのか、から始まりオフィス業務の改革改善の進め方を講義と実習により進める。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：経営管理的な見方とシステム管理的な見方を融合させた科目である。</p> <p>講義の概要：前半は教室でテキスト『オフィス業務改革』を用い、日本のオフィス業務の問題と課題を話す。後半はコンピュータ室でオフィス業務プロセス分析のコンピュータ・ツールである『KMP (KAISHA Modeler Pro)』を使って簡単な実習を行う。</p>	
<b>評価方法</b>	
本科目は実習の比重が高い。また講義では多くの事例を話す。評価は出席状況20%とレポート40%試験結果40%を総合して決める。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する 後藤兼一『オフィス業務革命』聖学院大学出版会	



<b>選択 経営情報</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：後藤 兼一
<b>講義の目標及び概要</b> 講義の目標：企業は多くの情報に囲まれている。企業にとって情報とは何か、経営に必要な情報にはどのようなものがあるか、どのように集め、どのように加工し、どのように使えばよいかなどを実務的に学ぶ。将来企業に入って役に立つと思われる。  カリキュラム上の位置づけ：経営管理的な見方と情報管理的な見方を融合させた科目である。  講義の概要：週1回を講義主体で、もう1回を演習主体とする予定。講義ではテキスト又はプリントを使い、情報とは何か、加工の方法、情報の使い方を話す。実習では実際に、企業における代表的な経営情報をコンピュータに入力し、加工し、情報の使い方を検討する。なお、実習では“そば屋つつる亭”の事例を取り上げる。
<b>評価方法</b> 本科目は実習の比重が高い。また講義では多くの事例を話す。評価は出席状況20%とレポート40%試験結果40%を総合して決める。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 経営倫理</b> <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：後藤 兼一
<b>講義の目標及び概要</b> 講義の目標：経営の社会的役割は何なのか、経営を行うに当たって何を一番大切にしなければならないか。経営のあるべき姿はどのようなものなのか。又経営で許されることは何なのか。許されないことは何なのか、を検討する。本講義では、経営管理を行う際の倫理観などについて、その基本的な考え方を学ぶ。  カリキュラム上の位置づけ：経営管理的な見方と倫理的な見方を融合させた科目である。  講義の概要：経営管理を行う際の倫理観にはどのようなものがあるか、倫理観がなくなると、どのような問題が起きるのか、又問題が起きないようにするためにはどうすればよいかを、事例をまじえてわかりやすく話す。
<b>評価方法</b> 講義ではプリントに書かれている事例のほかにも多くの事例を話す。従って出席も重視する。評価は出席状況30%と試験結果70%を総合して決める。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 国際ビジネスの現場A</b> <span style="float: right;">春 週1回 2単位</span>
担当者：柴田 武男
<b>講義の目標及び概要</b> 国際ビジネスの現場で活躍した複数のビジネスマンOBが講師を務める、オムニバス方式の講座である。各講師が現役時代に携わった事業（産業）を、講義ごとのサブテーマとする。卒業後に実業社会を目指す学生たちに、生々しいビジネス現場の状況を語り、ビジネスへの心構え、そして社会人の先輩としてのメッセージを送る。 日本経済の先行きには不透明感が漂う中、グローバル大競争に備えたビジネス界の体制作りが急がれている。本講座では、これからの日本経済を支えると期待されるビジネス分野に照準を合わせ、それらが変わりゆく市場環境に挑む姿を通して、今後日本経済が進む方向性を理解する。
<b>評価方法</b> 総論を除く各講師の2回目の講義の最後に、講義にかかわるレポート課題が出される。それらに対する提出レポート採点の、平均点をもって最終評価とする。たとえ出席してもレポート提出のない場合、その部分の採点は0点となる。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 国際ビジネスの現場B</b> <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：柴田 武男
<b>講義の目標及び概要</b> 戦後の復興目覚しく、世界第2位の経済大国となった日本。その原動力として、国際ビジネスの現場で汗を流した元ビジネスマンたちが、自らの体験を語り、さらには、将来実業界での就職を希望する学生たちに対して、ビジネスへの基本的な心構えや、社会人の先輩としてのメッセージを送る。 講座は13コマより成る、オムニバス方式を採る。各講師は、それぞれ違った産業界の出身者で、対象となる産業は、いずれも戦後日本の経済成長を大きく支えたものに的を絞る。 春学期開講の「国際ビジネスの現場A」で学んだ今後の日本経済の進む方向性への理解をさらに深めるために、その前提条件となる戦後確立された日本経済の基礎構造とその特徴を学ぶ。
<b>評価方法</b> 総論を除く各講師の2回目の講義の最後に、講義にかかわるレポート課題が出される。それらに対する提出レポート採点の平均点をもって、最終評価とする。たとえ出席してもレポート提出のない場合、その部分の採点は0点となる。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 組織行動論</b>	春 週2回 4単位
担当者：小林 一之	
<b>講義の目標及び概要</b> 【内容】学校や企業の中、或いは友人達との付き合いなど社会生活では人は集団として行動する事が多々あります。集団の意思決定や行動の仕方は一人の人間のそれとは幾分違ったものになります。集団の中の人には集団に影響され、一人の時とは違った対応をする事があります。人は互いに影響しあい集団独特の行動パターンを取ることが知られています。組織行動論では組織の中の個人がどう影響を受け、どんな行動をとるのか、また組織が持つ特徴などを探ります。またこの分析をベースとして組織をどう効率的に運営させるか、活性化させるかなどを学びます。具体的には人の行動を決める“動機づけ”、“集団の意思決定の特徴”、“組織の活性化を促すリーダーシップ”、“組織論”などについて事例を踏まえわかり易く伝えます。 【カリキュラム上の位置づけ】様々な組織の特徴、その効率的な運用の方法を学ぶため、或いは経営管理のための入門的な位置づけである。応用心理学や他の関連する経営管理手法なども紹介する。 【学びの意義と目標】これらの成果は日常生活の中での集団活動にも活用する事が出来ます。また企業の中では重要な経営管理の道具として多く使われていますし、特に大企業ではマネージャーになるための必須の修得項目の一つになっています。本講ではその基本的考え方を理解すること。	
<b>評価方法</b> 出席点：30% 理解力テスト：70%	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 簿記</b>	春 週2回 4単位
担当者：澤村 孝夫	
<b>講義の目標及び概要</b> 企業は手元にある資金を利用して商品売買などの事業を展開し利益を獲得するための活動を行っています。こうした活動を正しく理解するためには、一定の方法で計算・記録・整理するための〈道具〉が必要になります。それが〈簿記〉です。また、簿記は、一定期間の取引活動の状況を取引先、出資者、銀行等の利害関係者に報告する役割も担っています。 本講義では、簿記による記帳方法の原理及び記帳プロセスを体系的に学習し、基礎的な経理知識の習得を目指しています。また、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級を受験することができます。	
<b>評価方法</b> テスト 50% レポート 20% 出席 30% を勘案して評価します	
<b>教科書</b> 渡辺正直『最新式段階式 日商簿記検定問題集』実教出版	

<b>選択 簿記</b>	秋 週2回 4単位
担当者：山田 ひとみ	
<b>講義の目標及び概要</b> 1、内容 会計に関する知識はビジネスマンにとって必須といわれています。企業が公表する会計情報は複式簿記にもとづいて作成されており、複式簿記の原理は世界共通です。講義では毎回複式簿記について例題を用いて説明した後、練習問題を解答してもらいます。簿記の学習で重要なのは予習よりも復習です。復習のチェックを兼ねて、適宜ミニテストを行います。 2、カリキュラム上の位置づけ 専門科目の一つとして、今後会計学関連科目を学ぶための入門的な講義です。また、経営学関連科目を学ぶ上でも必要な基礎知識が身に付きます。 3、学びの意義と目標 勘定の仕組みを理解して取引を仕訳し、決算の手続きを経て貸借対照表と損益計算書の作成に至るまでの、簿記一巡の手続きを理解することを目標とする（日商簿記3級程度）。	
<b>評価方法</b> ミニテスト 20%、定期試験 30%、出席 50%	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選択 マーケティング論</b>	秋 週2回 4単位
担当者：T. アサモア	
<b>講義の目標及び概要</b> マーケティングは経済に関係ある学生や実務家たちの関心事にとどまらない。我々を取り巻く環境の進展は、企業の行動や消費者の生活に絶え間なく影響している。マーケティングで取り扱われている問題は、企業だけでなく、消費者の行動に密接に関連している。さらに、マーケティングは物的商品の関係する企業だけでなく、新たにサービス企業を対象としても研究されるようになってきている。 本授業においては、マーケティングの基礎理論も、マーケティング環境を説明するために当然考慮する。企業のマーケティングに力点が置かれるが、消費者行動にも言及する。 引用する例の大部分は、日本企業に関するものであるが、様々な国における企業のケースにも触れてみたい。 最初の講義へマーケティング論の運営方法及び評価方法について説明する。	
<b>評価方法</b> 総まとめテストを実施する。成績は、試験の結果及び、出席に基づいて総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選択 経営史</b>	春 週2回 4単位
担当者：金子 毅	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(内容) 経営史は世界恐慌のさなかの米国で始められた学問である。確かに財産を失った人々の自殺が相次ぐなど経済面では暗黒の時代であったが、一方、この間に経営の基礎を固め業績を伸ばした企業もまた存在する。同様のことは平成不況にあって社会的格差がふくらみつつある現況からも理解されよう。このことは不況が経営の方向を見定める重要な歴史の裂け目であり、ビジネスチャンスとしてどう活かすかを人間に迫る選択の機会でもある点を物語る。そこには人間の生き抜く知恵が埋め込まれ、それを見出せるか、否かのカギはこれを学ぶ者の姿勢いかんにかかっているといえるだろう。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) 基礎知識が必要なため「政治学」「経済学」(必修専門基礎科目)を履修済みの学生を対象とする。講義は、基礎理論・労使関係・日本的経営の3点から展開されるが、これらは「政治経済学特論B」の二科目とも連動し、机上の理論よりも実践力を養う問題解決を目的とする科目として位置付けられる。</p> <p>(学びの目標) 学史を中心とした講義形式を基本とするが、一方通行的な授業に終始せず、常に受講生との「対話」を重視すると共に、配布プリントを「音読」させ、自分で「読み」「聞く」ことの反復を通して、経営に対する鋭敏な時代感覚を養わせたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>基本的にはレポートを予定しておりますが、受講者数に応じてはテストに替える場合もあります。なお成績評価の配分は(1)出席(30%)、(2)授業への参加姿勢(10%)、(3)課題レポート、またはテスト(60%)となります。</p>	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>選択 マネジメント</b>	春 週2回 4単位
担当者：後藤 兼一	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>講義の目標：会社の経営管理に関心のある人及び将来親の会社を継ぐかも知れないと思っている人を対象とする。</p> <p>本講義ではより良い経営管理をするためには何をどのように改革改善すれば良いかということについてカレー屋やそば屋、及び大手企業の例をもとに実践的に学ぶ。本年度のねらいは改革改善の基本である経営『コンサルティングの切り口』を理解することである。将来実際に企業に入って役に立つと思われる。カリキュラム上の位置づけ：経営管理を学ぶ上で基礎となる科目の1つである。本科目が開講されていない年度には経営管理を履修すること。</p> <p>講義の概要：テキストを使い、経営管理の現場をどのように分析・把握したらよいか、経営管理の問題点・課題などをどのように整理したらよいか、そして経営管理の改革案・改善案をどのようにして立てればよいか、さらにどのように実施していけばよいかなどについて、実例をもとにわかりやすく勉強する。講義の特徴は、経営管理で使われている、用語を比較する形で行なわれるところにある。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>講義ではプリントに書かれている事例のほかにも多くの事例を話す。従って出席も重視する。評価は出席状況30%と試験結果70%を総合して決める。</p>	
<b>教科書</b>	
<p>プリントを配布する 後藤兼一『コンサルティングの切り口』日本能率協会コンサルティング</p>	

<b>選択 アイデンティティの社会学</b>	秋 週2回 4単位
担当者：横山 寿世理	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>「自分とは何か」、「私とは誰か」。この講義では、この問いに人びとはどのように答えてきたのかについて、社会学的に考える。たとえば、人びとは成人するに従って、政治的意見を形成することや経済的に自立することを求められる。このような要求自体が、自己アイデンティティの形成に影響を与えている。なぜなら、自己アイデンティティはその時代の社会や人間関係を反映していると考えられるからである。</p> <p>そこで、この講義では、人びとがどんな自分になることを要求されてきたのか、その要求がどのように変化してきたのかを、さまざまなアイデンティティ論を通じて模索する。その上で、自分という人間の形成(変容)やアイデンティティの構造がどのように説明されてきたのかを理解することによって、社会や社会の変動を知ることになる。</p> <p>受講者は、この講義を通じて、自らのアイデンティティや現代社会において求められるアイデンティティが、どのアイデンティティ論に立脚しているのかを考えることになるだろう。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>中間試験30%、期末レポート40%、出席(授業への貢献度)30%で評価する。</p>	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>選択 異文化間のコミュニケーション</b>	秋 週2回 4単位
担当者：小松崎 利明	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(1. 内容) 世界中の人々との出会いは、異なる文化との接触でもある。そして文化的背景が異なる他者との接触は、ときに、その文化に対する無知から誤解や偏見や紛争を生み、「国際問題」になることさえある。本講義では、人々の多様なコミュニケーションの背景にある様々な文化について学び、その文化的背景の相違が生み出す摩擦・紛争について考え、そしてより良いコミュニケーションのあり方を探ることを目的とする。</p> <p>(2. カリキュラム上の位置づけ) 学科の専門科目であり、選択科目として2年次から4年次まで履修することができる。なお、教職資格を取得する際には、2年次からの選択科目である。</p> <p>(3. 学びの目標) ヨーロッパ、アジアそして日本の文化について学習することにより、学生一人ひとりが様々な文化的背景をもつ人々との出会いにおいて、より深い他者理解・他者との交流ができるようになることを目指す。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>1. 出席 10% 2. 平常点(ディスカッションへの参加とコメントシートの提出) 30% 3. 学習確認テスト 30% 4. 期末レポート 30%</p>	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>選択 現代社会論</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：新倉 貴仁 <b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義ではグローバル化とナショナリズムの関係について考えていく。 現代社会を特徴づけるグローバル化は、国家を超えていく現象と考えられるが、同時に国家に向かうナショナリズムが再燃している。この両者の関係はいかなるものか、考えていきたい。さらに、両者の関係の考察を通じて、私たちが生きる社会を社会的に思考することをめざす。なお、理解を深めるため、適宜、映像教材を用いる。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門基礎科目で得た方法論や知識を、具体的・現代的な現象の分析へと展開していくものである。 3. 学びの意義と目標 グローバル化、ナショナリズムという二つの社会現象についての基本的な用語と理論を理解すること。現代の国際社会および国内社会のさまざまな現象を理解する基本的な視座を手に入れること。
<b>評価方法</b> 中間試験30%、レポート30%、出席40%によって算出する。
<b>教科書</b> ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体』書籍工房早山

<b>選択 ジェンダー論(女性学)</b> <span style="float: right;">春 週1回 2単位</span>
担当者：田中 俊之 <b>講義の目標及び概要</b> ジェンダー研究は女らしさ/男らしさが生物学的な宿命ではなく、社会・文化的に形成されたものであることを明らかにした。女性学とは女性が被っている社会的な矛盾である「女性問題」を、ジェンダーの視点から問う学問である。 講義では現代の日本社会を中心に、女性と女らしさをめぐって発生している諸問題について考察する。各種の調査データや映像資料などを参照しながら、いかにして女らしさがつくられていくのかを検討していく。単に学術的な議論に終始するのではなく、仕事や恋愛といった身近なテーマを取り上げることで、受講者ひとりひとりが自分に引きつけて「女であること」、そして合わせて「男であること」の問題性を考えられるようにしたい。
<b>評価方法</b> 出席点20%、授業時の小レポート40%、学期末テスト40%
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 社会思想</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：佐藤 貴史 <b>講義の目標及び概要</b> <b>■内容</b> 敗戦、高度成長期、金権政治、バブル崩壊——どれも戦後の日本社会を特徴づけるキーワードである。われわれの社会の背後にはどんな思想があり、われわれを突き動かしていたのか。本講義ではとくに戦後日本の社会思想を取り上げるが、同時に戦後日本の社会思想は西洋の思想から大きな影響を受けている。それゆえ、戦後日本と西洋の社会思想の二つを学びながら〈現在〉という時代を考えてみたい。 <b>■カリキュラムにおける位置づけ</b> 西洋政治思想史などの思想・理論系の講義と関連づけて履修することを推奨する。 <b>■学びの意義と目標</b> 「思想」や「歴史」は小難しく感じるかもしれないが、「考える力」の訓練そして「教養」として大きな意味を持っており、複雑な社会にも対応できるような知を養いたい。
<b>評価方法</b> 出席 (30%)、小テスト (複数回、40%)、期末レポート (30%) で評価する。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 社会調査法</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：古谷野 亘 <b>講義の目標及び概要</b> 調査は、人間の意識や行動、社会現象に内在する法則性を発見するために用いられる社会科学の研究手法である。この講義の前半では、社会調査を行うにあたって必要な技術の説明と同時に、社会科学調査法としての調査の意義と限界について論じる。後半では、履修者の関心に応じて調査票作成・データ分析の演習を行う。
<b>評価方法</b> 筆記試験 (50%) とレポート (50%) に授業への参加度を加味して総合的に評価する。レポートはオンライン・レポート提出システムにより送信しなければならない。
<b>教科書</b> 古谷野亘・長田久雄『実証研究の手引き：調査と実験の進め方・まとめ方』ワールドプランニング

選択 文化社会学	秋 週2回 4単位
担当者: 田中 佳	
<b>講義の目標及び概要</b> 本講義は、現代社会に見られる文化的事象を歴史の位相の中で問い直すことを試みるものである。近年の文化史や社会史の研究成果に依りながら今日の諸現象との比較を行ない、その歴史の変遷について考察する作業は、現代の社会現象について歴史的関心を抱き、既存のシステムを批判的に再検討するきっかけを提供することになるだろう。 本年は美術館を主要なテーマとする。講義では、美術館というシステムの成立から歴史の変遷、そして今日の実態と諸問題について学ぶ。最終的にはそれらの知識と各人の問題意識を総動員して、現状を改良する方策について構想をまとめることで、上記の目的に迫りたい。 受講者には一定の読書課題やグループによる調査課題が与えられる。講義は講師による解説のほか、受講者によるプレゼンテーションや討議を取り入れる。図像資料を多用するため、美術作品をはじめとする視覚表象に関心のある向きも歓迎する。	
<b>評価方法</b> 平常点 (授業への参加度など)20% 美術館レポート20% グループ発表30% 期末レポート (教場)30%	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選択 世界の諸宗教の歴史と思想	春 週1回 2単位
担当者: 相澤 一	
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容 本講義は、世界の主要な宗教の歴史と思想を、主として社会や歴史、そしてその構成員たちの常識やものの考え方に対して与えている影響という視点から、共通点よりも違いを強調しつつ説明する。「人類みな兄弟」「話せば必ず分かりあえる」という女子高生のセンチメンタリズムの持ち主は、本講義を聞いてショックを受けること請け合いである。 (2)カリキュラム上の位置づけ この講義は社会学系の科目の一つであるが、日本に限らずイスラム文化圏やキリスト教文化圏に暮らす人々の常識やものの考え方について勉強してみたい方は、ぜひこの講義を履修していただきたい。 (3)学びの意義と目標 本講義を履修した学生は、自分の持っている価値観や、当たり前と思っていることが、他の人たちにとっては全然当たり前ではないこと、そしてその違いの根底には宗教があることを思い知らされ、改めて宗教の力——ゆきまに目が開かれるであろう。そして、それなしでは真の国際人たりえないことは言うまでもない。	
<b>評価方法</b> 出席と授業態度および期末レポートとの総合評価。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選択 理論社会学	春 週2回 4単位
担当者: 土方 透	
<b>講義の目標及び概要</b> 本講義では、現代の社会学理論が到達した学問的境位を、人間の知の展開として位置づけることを目的とする。 講義では、まず人類の思想の歴史的展開を概観する。そのことにより、はじめて最新の理論と呼ばれるものの「新しさ」が明らかになる。すなわち、思想史上の連続的側面と非連続的側面から、現代の理論というものが理解可能となるわけである。そうした作業を経たうえで、現代社会において、所与のものとして市民権を得た諸思想ならびに諸価値の限界を指摘しつつ、いま考えられる可能な選択肢を提示したい。 なお、講義に際しては、毎回レジュメを配布するほか、具体的な時事問題にも触れながら、各トピックスを扱っていく。	
<b>評価方法</b> 出席、テスト	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選択 インターンシップI (事前学習)	春 週1回 2単位
担当者: 柴田 武男	
<b>講義の目標及び概要</b> 本講義は、民間企業、自治体、特定非営利活動法人(NPO)などでインターンとして働くことを希望する学生を対象とする。すなわち、インターンシップII(実習)受講のために必要な講義である。 インターンシップとは、在学中に、自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うことである。その目的は、早期退職というミスマッチを防ぐこと、就業感や就職意識を磨くこと、企業などが求める人材を知ることなどである。 本講義は、実習をスムーズに行うため、就業に必要なマナーを身につけ、合わせて就業に必要な基本的スキルを修得することを目標としている。	
<b>評価方法</b> 講義の性格上、事前学習は「模擬企画プロジェクト」でグループ研究をし、プレゼンテーションを行うので出席を重視する(50%)。授業のテーマごとに書くレポート(50%)の二つで評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<p><b>選択 インターンシップⅡ(実習)</b> 秋集中 2単位</p> <p>担当者：柴田 武男</p> <p><b>講義の目標及び概要</b>                  本講義は民間企業、自治体、特定非営利活動法人（NPO）などでの実習科目である。この実習にできる者はインターンシップⅠ（事前学習）を受講し、単位認定を受けた学生のみが履修できる。                  実習期間は原則として夏休み期間中の10日間で、実習先は以下の4つから選ぶことができる。学生が希望する実習先を全員に紹介ことは困難なので自分が見つけた実習先で実習することも可能である。この場合、事後のことを考え、必ず大学が関わり先方と覚書等の交換を行う。</p> <p>○埼玉県インターンシップ ○上尾市・桶川市・伊奈町インターンシップ                  ○埼玉県経営者協会ハイパーキャンパス ○キャリアサポートセンター紹介                  ○自分で見つけた実習先</p>
<p><b>評価方法</b>                  実習期間中には毎日実習ノートを書いて、指導者に提出しコメントを記載の上押印をもらう。実習終了後に提出したレポート（50%）と実習ノート（50%）で評価する。</p>
<p><b>教科書</b>                  授業の中で指示する</p>

<p><b>選択 秘書概論</b> 春 週2回 4単位</p> <p>担当者：森 久子</p> <p><b>講義の目標及び概要</b>                  1. 内容                  秘書になるための基礎知識を学びます。秘書の基礎知識は、社会人に必要な知識と多くが重なっています。従って、社会人としての基礎知識を習得することにもなります。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ                  「社会人入門」という位置づけです。授業で学ぶ理論のケース・スタディとして、秘書検定問題も取り上げて、正誤の理由を理解します。秘書検定2級を目指す学生は、同時に秘書検定講座を受講することをお勧めします。</p> <p>3. 学びの意義と目標                  秘書として、そして社会人としての基礎力を身につけることと、その結果として秘書検定2級に合格することを目標とします。</p>
<p><b>評価方法</b>                  学期末試験：40%、レポート提出：30%、講義出席：30%</p>
<p><b>教科書</b>                  有賀秀春『秘書概論』学事出版</p>

<p><b>選択 政治経済学特講(西洋政治思想史Ⅰ)</b> 春 週1回 2単位</p> <p>担当者：高橋 愛子</p> <p><b>講義の目標及び概要</b>                  〈内容〉本講座では、西洋の政治思想に関する高度の専門性をもつ文献を講読する。受講者がそれぞれ分担の上、レジュメに基づくプレゼン及び議論を行ってゆく。卒論執筆指導を伴う。                  〈カリキュラム上の位置づけ〉3年次必修の「専門演習」「卒業研究」を修得済みである4年次生が、さらに自らの研究テーマを掘り下げて学ぼうとする際に高度の専門性を身につけるための場として提供される。                  〈学びの意義と目標〉西洋政治思想の諸概念について掘り下げた理解を得、一層掘り下げた議論ができるようになること。特に、大学院進学希望者にとって不可欠となる文献の読解力および論文執筆に必要とされる基礎的な能力を養成することを狙いとする。</p> <p>受講の条件：3年次に「専門演習」「卒業研究」を修得済みであること（講義担当者の「専門演習」「卒業研究」履修者には限らないが、講義担当者以外の演習履修者の場合には事前にコンタクトをとること）。</p>
<p><b>評価方法</b>                  出席（20%）、議論とプレゼンにおける参加意欲（30%）、学期末提出の小論文（50%）により評価する。</p>
<p><b>教科書</b>                  授業の中で指示する</p>

<p><b>選択 政治経済学特講(国際政治論原典特講)</b> 秋 週1回 2単位</p> <p>担当者：秋吉 祐子</p> <p><b>講義の目標及び概要</b>                  〈内容〉国際政治論および地域圏研究（アジアA）を受講し、また専門演習、卒業研を受講した学生の中で、さらに上級の学習への意欲をもつ学生を対象とした内容の授業とする。（受講生の要望に基づき具体的な原典や文献、学習方法等を設定する。）                  〈カリキュラム上の位置づけ〉学習能力と学習意欲の高い学生の実力をさらに高めるための「政治経済学特講」に位置づけられる科目である。                  〈学びの意義と目標〉1. 語学文献（主に英語原典、中国語原典も可）の読解力を高める。2. 論文作成能力を高める。3. 大学院入学希望者の試験準備の学習ともなる。</p>
<p><b>評価方法</b>                  論文等書式発表能力60%、言語による発表能力40%。</p>
<p><b>教科書</b>                  授業の中で指示する</p>

選択 政治経済学特論A (20世紀の法文化) 春 週1回 2単位
<p>担当者：石川 裕一郎</p> <p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>「機銃掃射をも圧倒するかのようにはる自動車は、サモトラケのニケよりも美しい」(F.T.マリネッティ)  「速度とは、語の最も完全な意味において、稼いだ時間に他ならない」(P. ヴィリリオ)</p> <p>「戦争の世紀」「ナショナリズムの世紀」「社会主義の世紀」「大衆の世紀」... 20世紀を形容する呼称は様々ありますが、本講義では20世紀を「速度の世紀」と位置づけ、担当教員の他の法学系科目のような法解釈などは行わず、文学・映像・演劇・音楽等のサブカルチャー分析を通じ、それらと法・政治・経済システムの相互作用について受講者と共に考えてゆきます。</p> <p>なお、本講義は少人数のゼミ形式をとることから定員制とし、希望者多数の場合は、希望者の過去の単位修得状況等を参考に選抜を行います。履修希望者は、必ず事前に担当教員に連絡を取るようになしてください。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>授業へのコミットメントおよび随時提出を求めるペーパーの記述状況(8割)、ならびに期末レポート(2割)で総合的に判断します。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する</p>

選択 政治経済学特論A (自然を体験するA) 春 週1回 2単位
<p>担当者：秋吉 祐子</p> <p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>〈内容〉人間は実体験・体感により意識・認識を確実にすることができる。人工的環境の中で生活してきた若者が真に人間の生き方を模索することができる空間は自然・農業体験学習と認識される。実際には里山での野菜作りを行う。各授業後に作業レポート提出が必須。</p> <p>各授業のメニューや課題等はNet Commons (担当者と履修生間の通信に使用するウェブサイト)。適時に循環型野菜栽培・農法の事例見学を近隣にて行う。</p> <p>〈カリキュラム上の特徴〉政経学科が提供する多様なカリキュラム「政治経済学特論」の中に位置づけられる。</p> <p>〈学びの意義と目標〉1. 人間が生きてするために最も必要な食料の栽培方法を学ぶこと。2. 自然・農業と人間との関わりを実感する。3. 将来の食の在り方を考える。4. 農業体験を踏まえて将来の職業選択の参考にする。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>体験学習への態度により評価する。(作業50%+レポート50%)</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>赤峰 勝人『循環農法』なづなワールド</p>

選択 政治経済学特論A (自然を体験するB) 秋 週1回 2単位
<p>担当者：秋吉 祐子</p> <p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>〈内容〉人間は実体験・体感により認識を確実にすることができる。人工的環境の中で生活してきた若者が真に人間の生き方を模索することができる空間は自然・農業体験学習と認識される。実際には里山での野菜作りを行う。各授業後は作業レポートの提出が必須。</p> <p>各授業のメニューや課題等は、Net Commons (担当者と履修生間の通信に使用するウェブサイト) にも通知する。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉政経学科が提供する多様なカリキュラムの一教科。</p> <p>〈学びの意義と目標〉1. 人間が生きてするために最も必要な食料の栽培方法を学ぶことができる。2. 自然・農業と人間との関わりを実感できる。3. 将来の食の在り方を考えることができる。4. 農業体験により将来の職業の選択を広げることができる。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>体験学習への態度(作業50%+レポート50%)により評価する。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>赤峰 勝人『循環農法』なづなワールド</p>

選択 政治経済学特論A (コミュニケーションメディア制作) 秋 週1回 2単位
<p>担当者：上田 信一郎</p> <p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容-コミュニケーションメディアの制作。  政治経済学部新聞「政経塾」の制作講座を継承し、ブログを中心とするWebメディア作成を通して、情報発信型のコミュニケーション力をつけることを目標とした演習講座。(1)テーマの企画、情報収集 (2)取材インタビュー・撮影 (3)原稿制作 (4)PR・リンク対策 (5)情報更新 などを行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ  単なる知識ではなく、身についたコミュニケーション力を養う。</p> <p>3. 学びの意義と目標  企画する力、企画会議を経てのディスカッション力、取材インタビューを通しての話す力・聞く力、原稿作成での書く力、プレゼンテーション力など、コミュニケーション全体に関わる力を身につけることを目標とする。自分の名前が紹介された原稿は、就職活動での「学生時代に頑張ったこと」のプレゼン資料になる効果もある。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>内容評価-テーマの企画、情報収集、取材インタビュー・撮影、原稿制作、PRなどを通しての演習力50%。プロジェクト推進力-メディア制作を通じてのリーダーシップ30%。出席率20%。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

<b>選択 政治経済学特論A(日本の裁判を考える)</b> <span style="margin-left: 20px;">春</span> <span style="margin-left: 20px;">週1回</span> <span style="margin-left: 20px;">2単位</span>
担当者：石川 裕一郎
<b>講義の目標及び概要</b> 法学の基礎知識があることを前提に、裁判に関する様々な著作、あるいは判例を丁寧に読解・解釈してゆきます。法解釈の難しさと面白さを存分に味わってください。また、裁判傍聴等のイベント実施も考えています。  取り上げる事件・判例は、担当教員の専門との関係上、憲法裁判が多くなります。しかし、「憲法裁判」といっても、元々は種々雑多な民事事件、刑事事件、行政事件です。丁寧に読んでゆけば、堅苦しい日本語で書かれている判決文に記されている事実、当事者の主張、裁判官の判断を通して、生き生きとした人間世界の営みが垣間見える…はずです。  なお、本講義は少人数のゼミ形式をとることから定員制とし、希望者多数の場合は、希望者の過去の単位修得状況等を参考に選抜を行います。履修希望者は、必ず事前に担当教員に連絡を取るようになしてください。
<b>評価方法</b> 授業へのコミットメントおよび随時提出を求めるペーパーの記述状況(8割)、ならびに期末レポート(2割)で総合的に判断します。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 政治経済学特論A(財政学の探求)</b> <span style="margin-left: 20px;">秋</span> <span style="margin-left: 20px;">週1回</span> <span style="margin-left: 20px;">2単位</span>
担当者：水上 啓吾
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 「財政学」に関する文献を輪読することを通じて、「財政学」で論じられてきた問題を再検討し、現代における日本や世界各国の財政問題を相対化する。その過程で「財政学」に関連のある経済、社会、政治問題を取り上げる。形式は演習科目に近く、受講者の学習意欲が求められる。 2. カリキュラム上の位置付け 専門科目「財政学」の発展科目であると同時に、政治学的な関心にも応える内容である。財政学に関する基礎知識を必要とするため、「財政学」、「専門演習(財政学)」、「卒業研究(財政学)」などを履修済みであることが望ましい。もちろん上記科目を履修していない学生も歓迎するが、講義へ積極的に参加する意欲を求める。 3. 学びの意義と目標 歴史と国際比較という二つの観点から、現代国家と政治・経済・社会の関わり方についての洞察を深めたい。
<b>評価方法</b> 講義への参加について、積極性(50%)と理解度(50%)の2つの観点から評価する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 政治経済学特論A(生と性の憲法学)</b> <span style="margin-left: 20px;">秋</span> <span style="margin-left: 20px;">週1回</span> <span style="margin-left: 20px;">2単位</span>
担当者：石川 裕一郎
<b>講義の目標及び概要</b> 2006年度以来「時代を考える」という共通テーマの下で開講してきた少人数ゼミ形式のクラスの一つとして開講されます。今年のテーマは、「生命と性(sexuality)」、具体的には自己決定権を中心とした生命倫理と憲法学の交錯した事件、性的マイノリティの権利に対する社会のスタンスが問われた事件を取り上げ、憲法学の視点から考察します。先端的かつ難解なテーマであるだけに、受講者には知識の習得はもちろん、常に先鋭な問題意識が求められ、かつ他の受講者と積極的に討論することが求められます。  なお、本講義は少人数のゼミ形式をとることから定員制とし、希望者多数の場合は、希望者の過去の単位修得状況等を参考に選抜を行います。履修希望者は、必ず事前に担当教員に連絡を取るようになしてください。
<b>評価方法</b> 授業へのコミットメントおよび随時提出を求めるペーパーの記述状況(8割)、ならびに期末レポート(2割)で総合的に判断します。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 政治経済学特論A(生命の比較政治学)</b> <span style="margin-left: 20px;">秋</span> <span style="margin-left: 20px;">週1回</span> <span style="margin-left: 20px;">2単位</span>
担当者：松尾 秀哉
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉少人数ゼミ形式のクラスのクラスの一つとして開講される。テーマは、近年話題となった安楽死法案など「生命」に直接かかわる政策の決定過程を取り上げ、日本を中心に各国の比較を行う。授業は、受講者の要望に配慮するが、文献購読とディスカッションを基本とする。文献に関しては、出席者の要望を聞きながら決定する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉必修の専門基礎科目「政治学」「経済学」を習得済みの学生が、自らの見解を掘り下げ議論する力を養成する専門科目として位置づけられる。 〈学びの意義と目標〉アカデミックな専門的知識のみならず、時事問題を議論することで、「時代認識」を鍛えることをねらいとする。受講者にはディスカッション並びに、基礎的文献の講読という二つの課題に対して積極意欲に取り組む姿勢が求められる。
<b>評価方法</b> (1)出席(30%)、(2)授業へのコミットメントおよび最終回のプレゼンテーション(30%)、(3)学期末レポート(40%)によって総合的に評価する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する



<p><b>選択 政治経済学特論A (生命と政治)</b> 秋 週1回 2単位</p>
<p>担当者：森分 大輔</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>〈内容〉2006年度以来「時代を考える」という共通テーマの下で開講してきた少人数ゼミ形式のクラスの一つとして開講される。テーマは、生命と政治について様々な視点から考察する。授業は、受講者の要望に配慮するが、基本的には、週に一回の資料を基にした総合的なディスカッションスタイルを採用する。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉必修の専門基礎科目「政治学」「経済学」を習得済みの学生が、各教科における基礎的知識を土台にしつつ、リアルタイムな諸問題を考察し自らの見解を掘り下げ議論する力を養成する高度な専門科目として位置づけられる。</p> <p>〈学びの意義と目標〉アカデミックな専門的知識のみならず、それらを現実の問題に適用する能力の獲得を目的とする少人数のゼミ形式授業であることから、時事問題を議論することで、「時代認識」を鍛えることをねらいとする。受講者にはディスカッション並びに、基礎的文献の講読という二つの課題に対して積極的に取り組む姿勢が求められる。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>(1)出席 (30%)、(2)授業へのコミットメントおよび最終回のプレゼンテーション (30%)、(3)学期末レポート (40%) によって総合的に評価する。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する</p>

<p><b>選択 政治経済学特論B (企業経営を考える)</b> 秋 週2回 4単位</p>
<p>担当者：金子 毅</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>〈内容〉経営とは「人、物（金を含む）、情報の効率的な活用のための技法とそれが行われる場（市場）の管理」と定義されるが、近年のリストラや派遣切りという過酷な現実が、創造的な知を生み出す人間という経営の本質的立脚点への忘却状況を露わにした。そこで講義では経営における人間の復権をテーマに、経営管理と労務管理という二点から、企業経営の国際間比較を行い、人間を中心とする企業経営が日本においては成立しにくい要因を浮き彫りにしたい。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉基礎知識を必要とするために「政治学」「経済学」（必修専門基礎科目）を履修済みの学生を対象とする。本講義は「経営史」及び、「政治経済学特論B」（企業経営の可能性）との二科目とも連動し、机上の理論よりも実践力を養う問題解決を目的とする科目として位置付けられる。</p> <p>〈学びの目標〉受講生には、配布資料の「音読」を通し、「読み」「聞く」ことの反復が正しい解釈を生み、それがあって「企業で働く、仕事をする」自己の立ち位置が理解されるという点を再考させたい。このような学習過程から今後の不透明な21世紀アジアを含む世界情勢を透視し、かつ生き抜く上での学知を獲得させることを目標とする。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>基本的にはレポートにする予定ですが、受講者数に応じてテストに替える場合もあります。なお成績評価の配分は(1)出席 (30%)、(2)授業への参加姿勢 (10%)、(3)課題レポート、またはテスト (60%) となります。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

<p><b>選択 政治経済学特論B (経営学の可能性)</b> 春 週2回 4単位</p>
<p>担当者：金子 毅</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>〈内容〉平成不況の折、「人」を冠したビジネス書の氾濫が目につくが、現況からは、人間を中心とした経営がなされているとはいえない。講義では文化論と企業家の精神的支柱となるべき倫理論との二点から、労働に投影される人間の生きる意味を模索する。そこには経営学を育んだ時代的閉塞感の打開を意図した人々の生き抜きの知恵が埋め込まれているはずである。ならば、不況という現在こそ、この人間の学として秘められた可能性を発揮する好機と捉えられよう。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉基礎知識を必要とするために「政治学」「経済学」（必修専門基礎科目）を履修済みの学生を対象とする。本講義は、「経営史」及び、「政治経済学特論B」（企業経営を考える）との二科目とも連動し、常に身近なコミュニティの現況を念頭におきながら、教員自身の調査成果を踏まえた事例分析を展開することで、机上の理論よりも実践力を養う問題解決を目的とする科目として位置付けられる。</p> <p>〈学びの目標〉講義形式が基本だが、一方通行的な授業に終始せず、常に受講生との「対話」を重視すると共に、授業時間などを活用し、大学最寄り駅の繁華街を中心に調査を行ない、経営と生活との連携を実感し、自身のキャリアデザインに役立ててもらいたい。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>基本的にはレポートを予定しておりますが、受講者数に応じてはテストに替える場合もあります。なお成績評価の配分は(1)出席 (30%)、(2)授業への参加姿勢 (10%)、(3)課題レポート、またはテスト (60%) となります。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

<p><b>選択 自然地理学概説</b> 春 週1回 2単位</p>
<p>担当者：秋山 秀一</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>自然地理学では、地球表面に生起している自然現象の空間的な規則性を把握し、それと人々の暮らしとの関係について学ぶ。国内、海外問わず、われわれの暮らしているこの地球上には、実に魅力ある様々な自然が分布している。半年の授業の中でそれらをすべて見ていくことは到底不可能なこと。ここでは、もっとも基本となるものについて、作業を交えながら授業を進めていく。理解度を高めるためにも、教室内の授業だけで済ませてしまうのではなく、身近なところにある実際のフィールドにも足を運んでもらおうと考えている。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>日頃の授業への貢献度 (30%)、出席状況 (30%)、小レポート、それにまとめとしてのレポートや試験 (40%) 等から総合的に評価する。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>秋山秀一『スイス道紀行』芦書房</p>

<b>選択 人文地理学概説</b>	<b>春 週1回 2単位</b>
担当者：飯島 康夫	
<b>講義の目標及び概要</b> 人文地理学の基本的な考え方を紹介し幅広い分析の視角を提供する。一般に地理学は総合的な科目といわれる。ある地域のことを理解するためにはその地域の自然地形、気候・風土とそれらから派生する生活様式、また政治や経済の制度、歴史や文化という知識を総動員させなければその実態が理解できない。 この講義は地理学に関する隣接科学の諸分野（経済や政治、歴史など）をバランスよく配分することに配慮したが、特に世界経済の進展のなかで諸地域がいかなる空間の形成を伴って発展するのかという問題に関心を置いた。本講義は人文地理学の発展過程とそれに伴って生じた諸問題を紹介したうえで制度や歴史、文化的背景の違いのなかで生じる諸都市・地域の発展形態の違いに焦点をあてる。本講義の参加者が諸都市・地域の現象面に埋没することなくその背後にひそむ、より本質的な空間形成の仕組みと地域ごとの差異について理解するよう工夫した。	
<b>評価方法</b> 授業への貢献度、レポートや試験により総合的に評価する。レポート70%、出席率20%、その他10%	
<b>教科書</b> ピーター・ディッケンほか『立地と空間 上』古今書院	

<b>選択 西洋史概説A</b>	<b>春 週1回 2単位</b>
担当者：山本 信太郎	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義では、西洋史の中でも西洋古代・中世史を対象として、その中にあらわれる様々なトピックを時系列にとりあげ、個々の問題の概要だけでなく、ある程度専門的な議論を射程におさめた内容を講義する。ただし、トピックは時系列的な順序に従っているが、必ずしも網羅的ではない。そのため、西洋史の全体的な流れ、あるいは、個々のトピックの位置づけを学ぶためには自分なりの学習が必須である。参考となる西洋史全体の概説書としては以下を挙げておく。近藤和彦編『西洋世界の歴史』山川出版社、1999年 2. カリキュラム上の位置づけ 西洋古代・中世史上の重要な問題をトピックとしてあつかうので入門としての側面を持つが、内容が専門的な議論におよぶこともあるため、入門よりやや踏み込んだ個別研究の側面をも持つ。 3. 学びの意義と目標 西洋中世・古代史上の諸問題をある程度掘り下げて理解するとともに、複眼的な歴史学的視野を養うことを目標としたい。	
<b>評価方法</b> 学期末の試験（80%）と出席点（20%）で評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選択 西洋史概説B</b>	<b>秋 週1回 2単位</b>
担当者：山本 信太郎	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義では、西洋近代史の中から主に16世紀から18世紀のイギリス史、すなわちイギリス近世史をとりあげ、最新の研究成果に目を配りつつ、多様な諸問題を論じる。ただし、近世のイギリスをとりあげつつも、ヨーロッパ全体の動向にも目を向けるようにしたい。なお本講義は時系列的な順序に従うが、必ずしも網羅的ではない。イギリス史の全体的な流れや西洋史全体の中での位置づけを学ぶためには自分なりの学習が必須である。参考となるイギリス史の概説書としては以下を挙げておく。 指昭博『図説イギリスの歴史』河出書房新社、2002年 2. カリキュラム上の位置づけ 近世ヨーロッパ史の動向に目配りしつつも、具体的な内容はイギリス史が中心となるため、西洋史入門より踏み込んだ、やや専門的な位置づけとなる。 3. 学びの意義と目標 イギリス近世史上の諸問題をある程度掘り下げて理解するとともに、複眼的な歴史学的視野を養うことを目標としたい。	
<b>評価方法</b> 学期末の試験（80%）と出席点（20%）で評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選択 地誌学概説A</b>	<b>春 週1回 2単位</b>
担当者：秋山 秀一	
<b>講義の目標及び概要</b> 地誌とは、身近な地域から世界各地まで、地球上の様々な地域における自然・社会・文化などの特性を研究・記述すること。「まずフィールドに出る。そして、歩いてみる。その上で、その土地の自然・人々の暮らしなどを自分の目で見て、そこから何かをつかみとる」 このことを、地誌学を学ぶものは決して忘れてはならない。この授業を通して、ある土地に出かけ、その土地の自然環境や、その土地の人々の暮らしについて考え、記述するそういった力を身につけてもらいたいと思う。 私は、小中学生のころから、外国の風景写真をながめたり、街や自然の中を歩き回ったり、列車に乗って旅するのが好きであった。そして、ずっと好きなことをやってきて、現在もその延長線上にある。地誌を学ぶことは楽しい。まずはその楽しさを知ってもらいたい。その上で、身近な国内の地域から、世界の国々について考えていきたい。	
<b>評価方法</b> 日頃の授業への貢献度（30%）、出席状況（30%）、小レポート、それにまとめとしてのレポートや試験（40%）等から総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 秋山秀一『フィールドワークのススメ アジア観光文化の旅』学文社	

選択 地誌学概説B	秋	週1回	2単位
担当者：秋山 秀一			
<b>講義の目標及び概要</b> 地誌とは、身近な地域から世界各地まで、地球上の様々な地域における自然・社会・文化などの特性を研究・記述すること。 「まずフィールドに出る。そして、歩いてみる。その上で、その土地の自然・人々の暮らしなどを自分の目で見て、そこから何かをつかみとる」 このことを、地誌学を学ぶものはけっして忘れてはならない。この授業を通して、ある土地に出かけ、その土地の自然環境や、その土地の人々の暮らしについて考え、記述するそういった力を身につけてもらいたいと思う。 私は、小中学生のころから、外国の風景写真をながめたり、街や自然の中を歩き回ったり、列車に乗って旅をするのが好きであった。そして、ずっと好きなことをやってきて、現在もその延長線上にある。地誌を学ぶことは楽しい。まずはその楽しさを知ってもらいたい。その上で、身近な国内の地域から、世界の国々について考えていきたい。			
<b>評価方法</b> 日頃の授業への貢献度（30%）、出席状況（30%）、小レポート、それにまとめとしてのレポートや試験（40%）等から総合的に評価する。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 秋山秀一『秋山秀一の世界旅』八千代出版			

選択 哲学概論	春	週1回	2単位
担当者：大賀 祐樹			
<b>講義の目標及び概要</b> 1、内容 本講義では哲学史を順を追って解説していくというよりも、毎回ある一つのテーマを設定し、様々な哲学者達がその問題についていかに試行錯誤し、継承されたり批判されたりしながらどのように私たちにまで受け継がれているかということについて解説する。そして、抽象的な議論に終始するのではなく、「労働」「自由」「人権」といった現実社会に関わる話題に重点を置く。 2、カリキュラム上の位置づけ この講義科目は、中学校社会科教諭および高等学校地理・歴史教諭免許取得単位認定の科目である。すなわち、この講義は、教諭となることを目指す者のための講義である 3、学びの意義と目標 哲学において大切なことは答えを出すことではなく、問いを立てることである。様々な哲学者達がどのような試行錯誤をして問いを立てたのかという道筋を追うことによって、日常社会の生活においても浮上する問題に対して自分なりの問いを立てる力を養うことを目標とする。			
<b>評価方法</b> 出席（20%）、学期末試験（80%）によって評価する。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 大賀祐樹『リチャード・ローティ 1931-2007 リベラル・アイロニストの思想』藤原書店			

選択 東洋史概説A	春	週1回	2単位
担当者：赤坂 恒明			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 近代以前のアジア各地域の歴史を取り上げる。特に東アジアについては、国際秩序としての「冊封体制」について具体的に詳論する。また、東洋史をも含む歴史全般に興味を持つ受講者に、自主的にさらに関心を深めていくことができるように、歴史研究の基礎ならびに方法論についても簡単に紹介する。 2. カリキュラム上の位置づけ 東洋史に関する入門的な位置づけであり、基礎的な講義である。日本史を学ぼうとする学生にも適している。 3. 学びの意義と目標 アジアの多様性を理解すると同時に、歴史事象を正確に把握できるようにする。そして、主観的・独断的な判断をすることなく、それらの歴史的意味を解釈する歴史的思考法を持つことができるようになること。			
<b>評価方法</b> 出席点10%、平常点20%、試験（小テストを含む）70%によって算出する。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選択 東洋史概説B	秋	週1回	2単位
担当者：赤坂 恒明			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 東アジアの一地域としての日本が他の諸地域といかなる関係にあったか、という問題を中心に、主に近現代の歴史のなかから関連するいくつかの事例をとりあげ、個別に論じる。「日本史」の立場からはしばしば看過される問題を積極的に取り上げ、近代的な国民歴史学によって体系化された「一国史」の枠組についても批判的に分析する。 2. カリキュラム上の位置づけ 入門的な位置づけの基礎的な講義。日本史を学ぼうとする学生にも適している。 3. 学びの意義と目標 「日本史」の枠にとらわれることなく、日本列島の歴史を、より広い視野から見ることができるようになる。近現代の東アジアにおいて日本が関わった具体的な歴史事象を正確に把握するのみならず、体系化された歴史の枠組がいかに我々の同時代的な状況と密接な関係にあるかについても、理解できるようになる。			
<b>評価方法</b> 継続的な出席と積極的な参加が望まれる。講義の性格上、漢字を読むことができない留学生には履修が困難である。世界地図帳と世界歴史地図帳（高校生用の時に用いたものでよい）は必ず持参すること。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

<b>選択 日本史概説A</b>	<b>春 週1回 2単位</b>
担当者：上安 祥子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>◆内容◆ 概説Aでは、古代から江戸時代までをあつかう。“日本”の歴史として語りうるのは、いつの時点からか、という問いを入口として、高等学校までの学習経験では、踏み入る機会がなかったであろうトピックスを重点的に取り上げ、時代や社会の変化をたどっていくこととしたい。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 日本文化学科の専門科目（選択必修科目）。政治経済学部で職課程、教科に関する科目（2008年度生以降、中学校教諭一種免許状[社会]・高等学校教諭一種免許状[地理歴史]）。</p> <p>◆学びの意義と目標◆ 歴史学とは、社会が変化してきた過程を跡づける学問である。その“跡づける”作業とは、社会の変化をもたらした必然性を解き明かすことであり、事象の単なる表層的因果関係を追うこともなく、ましてや、個々の事象を暗記することでもない。学生諸君には、「覚える」ものとしてではなく、「思考する」ものとして、歴史に向き合う姿勢を身につけてもらいたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
<p>■カード40%＋学期末試験60%…カード提出は毎時間。講義内容に対する理解力だけでなく、表現力や視点の独自性を重視し、優秀者には加点。</p> <p>■出席回数が授業回数3分の2に達しない場合、単位取得資格を失い、学期末試験は受験できない。</p>	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>選択 日本史概説B</b>	<b>春 週1回 2単位</b>
担当者：川崎 司	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 時の流れとともに、心象を反映する「ことば」が次々と生み出されてきた。私たちは今、その言葉の海にたゆたいながら、新たなコンパスを探しているところだ。先人の遺した、心に響く言葉を手がかりに、時代を超越した普遍的なるものを求めて、今こそ「歴史」の海原に泳ぎ出よう。自分探しの旅に立とう。新旧のこころに残る名言を、13回の授業の中で、映像の力を借りながらじっくり味わっていく。</p> <p>2・カリキュラム上の位置づけ これまで学んできた近現代史の基礎知識の確認と歴史的思考の涵養のための入り口。</p> <p>3・学びの意義と目標 喜怒哀楽を共にし、歴史から学ぶ喜びを共有したい。視野が広がり感性がますます磨かれ、人生に輝きが増せばこれ以上の幸せはない。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席状況、期末テスト、レポートをほぼ同程度に見る。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>選択 日本文化史</b>	<b>秋 週2回 4単位</b>
担当者：渡辺 正人	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1、内容 本講義では日本の文化史を通史的に見てゆく。しかし、文化史とは言っても単なる芸術史ではなく、歴史や思想とともに社会のさまざまな動きとしてみゆきたい。</p> <p>特に日本の文化は、大陸や半島からの影響をほとんどの時代において強く受けながら形成されてきている。そのことと日本国内の内的な発展と、どのように関連しながら文化は動いてゆくのだろうか、ということを中心にしたい。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ 通史でもあり、入門的な位置づけである。しかし、基礎となるべきものである。</p> <p>3、学びの意義と目標 日本の文化の流れを知り、文化史の用語を理解することができるようになること。対外的交流の意義を知り、どのような対外的な地域の影響をうけて日本文化が成立してきたかの概略を説明できるようにすること。</p>	
<b>評価方法</b>	
中間試験40%、レポート（オンライン）40%、出席20%によって算出する。	
<b>教科書</b>	
家永三郎『日本文化史』岩波新書	

<b>選択 倫理学概論</b>	<b>春 週1回 2単位</b>
担当者：谷口 隆一郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>倫理学を知っておくとどんなときに役立つのだろうか？生きていけばだれでも一度や二度は人生上の大小の壁にぶち当たるはずだ。そんなとき倫理学が役に立つ。どんなふうにする？つまりこうだ。どうにもこうにもならなくなった状況、そのような壁の前にたえずむしかないような状況から脱出するには、自分の考え方を換え、状況を違う角度から捉えなおすことが必要だ。倫理学の考え方を身につければ、それができるようになる。そのためには、まず自分をしっかり見つめることができなければいけない。自己を見つめるということは、自己の内面に引きこもることではない。自分の心の扉を開くということだ。わたしたちがお互いなんとかうまくやっているといるのは、行動を規制するルールや倫理道徳が存在するからだ。しかし現代社会には法や常識で割り切れない倫理道徳上の難題（アポリア）が多く存在する。それらのアポリアからいくつかを選んで、それらについてじっくり考えてみる。そのことを通して、君が目前のアポリアに直面し、他者が納得いくように、君の決断と行為について君なりに説明できる力——これを「生き抜くための力」と呼ぼう——を伸ばそう、これがこの講義の最大にして最終目標だ。</p>	
<b>評価方法</b>	
レポート1つ（3000字以上）の提出（40%）と筆記試験（40%）、および平常点（出席状況、授業態度、20%）で評価する。授業参加度・貢献度を重視する。なお、遅刻3回は欠席1回とみなす。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する ジェームズ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学』晃洋書房	

<b>必修 予備演習</b>	<b>秋 週1回 1単位</b>
担当者：新井 尚子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 春学期の「基礎教育入門（書き方）」で学んだことを踏まえ、情報収集力、コミュニケーション能力、発表能力等を高め、専門的な学習につながるよう指導します。具体的には、現代社会の理解に役立つキーワードや重要事項を取り上げ、「読む」「調べる」「書く」「発表する」等の能力の育成を意識した演習を行います。また、社会人として必要な漢字の学習も継続して行います。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 必修の専門科目です。</p> <p>3. 学びの意義と目標 大学で専門的な学習を行うために必要な基礎知識及び能力を身につけることを目標とします。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席点40%、提出物40%、講義への参加態度20%で総合的に評価します。定期試験は行いません。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>選必修 専門演習(アイデンティティの社会学)</b>	<b>春 週2回 2単位</b>
担当者：横山 寿世理	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>この演習では、自分についての意識（アイデンティティ）に關する社会的意識について社会学的に考察することを目的とする。アイデンティティもしくは自我という概念を理解することと、これらの概念が社会や人びとのどのような考え方（観念）から形成されるのか、これらの概念がどのような時代背景をもちうるのかについて理解することは異なる。専門演習および卒業研究を修得することで、これらの相違を理解して、アイデンティティが社会や社会意識を理解するための一つの指標となり得ることに気付いて欲しい。</p> <p>そこで、特に、春学期の専門演習では、アイデンティティもしくは自我という概念がどのようなものを理解するための準備を行う予定である。より具体的には、専門書を読み解くための準備、討論を行うための準備として、社会学や哲学に関連する評論文の読解から始める。アイデンティティという概念自体が、デカルトによって確立された「近代的自我」を基盤としているからである。</p> <p>この専門演習での目標は、まず春学期前半で専門書講読の基礎を固めて、後半には各ゼミ生がそれぞれレジュメ（報告概要）を準備して報告することにある。</p>	
<b>評価方法</b>	
演習で与えられた課題への取り組みと、演習内での態度（課題の報告、他の学生による報告への貢献、演習の運営態度）によって評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>選必修 専門演習(環境保全論)</b>	<b>春 週2回 2単位</b>
担当者：村上 公久	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 環境史概観 この演習ではまず、システム“人間—環境”系の考察を中心に環境史を概観して、環境問題をめぐる理念の変遷を資料により学び、古代から近代まで（地中海文明から近代合理主義まで）の環境論の変遷を辿る。</p> <p>次に、人口の急増と共に急速に生命の環境が劣化した産業革命以降今日までの環境問題を考え、その解決に貢献した先駆者達の歩みを振り返り、特に事例研究のテーマに「北米の森林史における森林保護思想と実践」を選び、自然保護と環境保全という立場の違いの検討を手がかりに21世紀の人類の課題 Sustainable Development 保続的（持続的）開発（地球サミットUNCEDの決議『アジェンダ21』）の可能性を探る。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目「環境保全論」で学んだ内容を事例研究を中心に展開する演習科目。</p> <p>3. 学びの意義と目標 環境問題の事例研究を通じて、解決への実際的な方途について学ぶ。</p>	
<b>評価方法</b>	
学期中複数回の試験、出席状況、討論によるクラスへの貢献、レポートを総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>選必修 専門演習(キリスト教社会倫理)</b>	<b>春 週2回 2単位</b>
担当者：相澤 一	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>この演習は、「キリスト教社会倫理」となっているが、キリスト教に限らず、社会や文化の根底に宗教があり、そこに暮らす人々のものの考え方や価値観を根底で支えている——神学者パウル・ティリッヒの「文化は宗教の形式であり、宗教は文化の実体である」という言葉を引用するまでもなく、これは知識の間では常識であると言っても過言ではない。</p> <p>しかし、現代日本社会では宗教に対する偏見のせい、宗教は事件を起こしてニュースにならない限りは表には出て来ず、あたかも秘密結社か趣味の団体の如き様相を呈している。しかし日本人のものの考え方や意識は、あたかも意識に対して無意識が影響を与えているように、宗教によって深く動かされているのである。</p> <p>この演習は、日本社会に対して宗教が——もちろんキリスト教も例外ではない——与えている影響を、まずは代表的な著作を読むことを通して考察していく。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席状況、授業態度、発表の内容や授業参加の積極性などで総合的に判断する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

選必 専門演習(金融市場論)	春 週2回 2単位
担当者：柴田 武男	
<b>講義の目標及び概要</b> 専門演習(金融市場論)では、できるだけゼミ生の問題意識に沿って講義を行いたい。 まず、問題意識を明確化するために幅広く、現在の金融問題を新聞・雑誌などから浮かび上がらせ、自らの関心がどの問題に向かうかを確定していく作業を行う。具体的には、新聞・経済雑誌から関心のある記事コピーを用意して、その内容について教員・ゼミ生で議論していく。さらにそこから生ずる問題を担当者がレポートしていくという形式で行う。具体的に取り上げる経済雑誌として、『週刊エコノミスト』『週刊東洋経済』『週刊ダイヤモンド』がある。ちなみに、最近では、「郵政民営化の是非」「中日貿易の変遷」「中小企業と高齢化社会」「インターネット取引の手法」「電子マネーの現状と課題」などが中心的なテーマとして取り上げられた。また専門演習は卒業研究レポートに結びつくものであるからテーマに対する問題意識の涵養を目標とする。はじめに、教員がゼミの進め方を解説し、その後はそれに沿ってゼミ生が関心のあるトピックをレポートしていく。 ゼミ生は、各自問題意識に沿った題材を、新聞記事・雑誌記事・専門書等からコピーして持参し、それをもとにゼミ生全員で議論していく形式である。	
<b>評価方法</b> 評価は、出席点(単にゼミの時間に存在したと言うことではなく、議論に参加したという意味で50%)とまとめのレポート(50%)。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選必 専門演習(経営管理)	春 週2回 2単位
担当者：後藤 兼一	
<b>講義の目標及び概要</b> 講義の目標：マネージメント又は経営管理で学習した内容をさらに発展させることが本演習の目的です。マネージメント及び経営管理に関心のある人、将来親の会社を継ぐかも知れないと思っている人を対象とする。講義では自分の目で見、自分の頭で考え、自分の体で行動するという態度を大切にします。そして、マネージメント及び経営管理の必要性を実感することを演習の目標とします。  講義の概要：経営管理の現場をどのように分析・把握したらよいか、経営管理の問題・課題などをどのように整理したらよいか、そして経営管理の改革案・改善案をどのようにして立てればよいか、さらにどのように実施して行けばよいかなどについて、事例をもとにわかりやすく勉強する。演習の特徴は、経営管理で使われている、用語を比較する形で行われるところにある。	
<b>評価方法</b> 専門ゼミでは演習を進めると同時に、学生同士及び教員との親睦をはかることも大切にしている。学期末定期試験はない。従って評価は出席状況40%とレポート60%を総合して決める。	
<b>教科書</b> プリントを配布する 松下 幸之助『道をひらく』PHP研究所	

選必 専門演習(国際政治論)	春 週2回 2単位
担当者：秋吉 祐子	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉地球上の人間の存続の本質的要件である「食・農・環境・循環型/持続可能社会・世界平和」の世界観において日本を基点とした国際政治の諸局面を分析・考察する。授業メインメニューは、各受講生の〈プレゼンテーション〉(プレゼン：共通認識を持つための指定教科書の輪読と自主研究の2回)、それらに基づく質疑・応答、討論、上記世界観に基づくディベート、レポート類作成(論文、フロッパー評価レポート等)である。適時に講義・VTR利用授業を行う。体験学習の意義に鑑み、農業体験合宿：米作り・田植えを授業メニューに入れる。体験学習に大学行事参加もあり得る。各授業のメニューや課題等はウェブサイトNet Commonsを用いる。 〈カリキュラム上の位置づけ〉国際政治学系の専門演習である。 〈学びの意義と目標〉1. 上記テーマへの学習により人間社会の在り方を模索する。2. 受講生の主体的な問題発見・解決能力を育成する。3. 実社会でも有効な様々な能力・スキルを育成する。(AO機器を活用した様々な形態の発表・発言能力と技術の育成を含む。)	
<b>評価方法</b> 評価項目 プレゼン・レジュメ・司会・質疑/応答・討論・ディベート・レポート等50%、体験学習40%および授業態度10% 但し担当プレゼン・ディベートに無断欠席の場合は単位取得意思放棄とみなす。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する スーザン・ジョージ 小南祐一郎他訳『なぜ世界の半分が飢えるのか』朝日新聞出版社	

選必 専門演習(政治過程論)	春 週2回 2単位
担当者：高橋 愛子	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉今日の政治社会が直面しているさまざまな問題を理解するためには二つのアプローチが必要とされる。すなわち、政治過程の具体的なダイナミズムについて実証的な認識をもつこと、および、現実政治を理解する際に必要とされる理念的思想的な次元における自分なりの認識のための座標軸をもつことである。 以上の基本的な考え方に立ち、本年は「ナショナリズムとリベラリズム」という視角から今日の政治社会が直面する諸問題を考え、共通のテキストを輪読しながら学んでゆく。1学期間を通して学んだことを「学期末レポート」として提出することが求められる。 〈カリキュラム上の位置づけ〉3年次春学期に位置づけられた必修の演習科目の一つである。 〈学びの意義と目標〉基本的なテキストの読解力を得ること(要点を把握し、レジュメを作成し、プレゼンする)、政治的な課題についての議論の作法を学ぶこと、また、政治に関する独自のテーマを見出すこと。	
<b>評価方法</b> 第1に「出席」(20%)、第2に授業への「コミットメント」(発言頻度：毎回1回以上の発言を求める)(30%)、第3に学期終了時に提出する「学期末レポート」(50%)。以上3点を総合して評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選必 専門演習(地域研究ロシア)</b>	<b>春</b>	<b>週2回</b>	<b>2単位</b>
担当者：飯島 康夫			
<b>講義の目標及び概要</b> 巨大な隣国ロシア、そしてロシアやウクライナなどを育んだ悠久のユーラシアの大地と文化について考察する機会とする。詳細は、学生との相談による			
<b>評価方法</b> ゼミ論文(30%)と発表(20%)、出席(50%)による			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 司馬遼太郎『ロシアについて』文芸春秋 亀山郁夫『「カラマーゾフの兄弟」続編を空想する』光文社			

<b>選必 専門演習(日本政治思想史)</b>	<b>春</b>	<b>週2回</b>	<b>2単位</b>
担当者：吉田 博司			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 近代日本の政治家及び思想家の研究を紹介しますが、後半は学生諸君にテーマを設定させ、報告・討論となります。 2. カリキュラム上の位置 専門演習は、すぐれて受講者の主体性を要求する科目です。 3. 学びの意義と目標 自分で調べ、報告するという活動をとおしてタフな人間性を確立してほしい。			
<b>評価方法</b> レポート報告と討論評価			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

<b>選必 専門演習(比較憲法)</b>	<b>春</b>	<b>週2回</b>	<b>2単位</b>
担当者：石川 裕一郎			
<b>講義の目標及び概要</b> 憲法に関連する話題の中から受講者各自がテーマを設定し、調査・発表・討論を重ねつつ、最終的に4,000字程度のレポートにまとめることを目標とします。テーマは、法律に関するものならば基本的に受講者各自の自由ですが、受講者には以下のことが厳しく求められます。 *本をたくさん読む。若者に限らず、とにかく現代日本人は本を読まなさ過ぎ。そのため、知識量が圧倒的に少ない状態で議論をし、なんとなく自分の意見(らしきもの)を決めているのが現状です。人間には、活字情報を活用することによって異質な他者を知る・追体験する能力が備わっています。この演習ではその能力を十分に磨いてもらいます。 *現場を多く見る。若者に限らず、とにかく現代日本人は現場を知らなさ過ぎ。そのため、現実を知らない状態で議論をし、なんとなく自分の意見(らしきもの)を決めているのが現状です。人間には、直接その目と耳で触れることによって異質な他者を理解する・共感する能力が備わっています。この演習ではその能力を十分に磨いてもらいます。			
<b>評価方法</b> レポート報告・作成に加え、毎回の授業における討論への参加状況等を中心とした授業への貢献度を総合的に勘案して評価します。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

<b>選必 専門演習(比較政治学)</b>	<b>春</b>	<b>週2回</b>	<b>2単位</b>
担当者：松尾 秀哉			
<b>講義の目標及び概要</b> 内容)我々は物事を考えるとき、おおよそ頭の中で「比較」をしている。比較政治学とは、単に各国を比べるのではなく、比較的分析枠組みを作る学問でもある。本ゼミでは、受講者の関心のある事例を「比較政治学」的に考える訓練をする。受講者による基本書の報告、議論、教員によるフォローで進む。カリキュラム上の位置づけ)卒業研究(比較政治学)にて卒業論文を書こうとする学生の導入科目。 学びの目標と意義)文献を読みこなす忍耐力、議論を通じていかに物事を分析的に考える力を身につけることが最大の目標。			
<b>評価方法</b> 出席と討論への参加(50%)、割り当てられた報告(50%)にて評価する。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

<b>選必 専門演習(法思想史)</b>	春 週2回 2単位
担当者：加藤 恵司	
<b>講義の目標及び概要</b> 「法思想史」の講義を基礎として、その内容を更に深める。本年度の主たるテーマとして、法制度の源流に焦点をあて、そこから流れ出す法思想を学んでみたい。 津田市正『法の理念と法律の理想』及び加藤恵司『法・思想・歴史』（ジーオー企画出版、2008年）をテキストにして、法思想史の発展ないし革命に寄与した法制、人物、学説を検証する。特に、講義で充分に出来なかった箇所重点をおいてすすめていく。思想は、政治、経済、社会、文化、歴史などさまざまな角度から形成され、また、把握されなければならない。法思想史は、法制度に目を据えて考察しようとするが、法的規範を設けざるを得なかった理由とか、時代的制約なども整理していく。	
<b>評価方法</b> 研究報告を基礎とし、出席を重視する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 加藤恵司『法・思想・歴史』ジーオー企画出版 津田市正『法の理念と法律の理想』津田学院	

<b>選必 専門演習(理論社会学)</b>	春 週2回 2単位
担当者：土方 透	
<b>講義の目標及び概要</b> 本ゼミナールは、社会現象および社会そのものの相対的把握をめざす、諸アプローチを多角的・多面的に研究する。 1 社会の解明に際して用いられる諸意味体系（主体、時間、宗教、世界、歴史等） 2 社会的コミュニケーションを可能とする諸メディア（正義、貨幣、愛、信仰、真理等） 3 思想ないし方法論そのものの検討 (M. フーコー、P. ブルデュー、N. ルーマン、ボランニエ、ガダマー、J. ハーバーマース、あるいはポスト構造主義、ポスト・モダンと呼ばれる思想家等) 上記三視点を念頭に、ゼミ員との討議のなかで、テーマを絞っていく。	
<b>評価方法</b> 日々の準備、毎回の参加内容。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選必 卒業研究(アイデンティティの社会学)</b>	春 週2回 2単位
担当者：横山 寿世理	
<b>講義の目標及び概要</b> この「卒業研究」は、政治経済学科で唯一春学期に開講される履修ゼミとなる。原則として、履修生は9月卒業を目指す106P生以上に限られるので注意して欲しい。この場合、必ずしも専門演習（アイデンティティの社会学）を修得している必要はない。 上記の事情から、この卒業研究のテーマはアイデンティティの社会学に限定はしない予定であるが、社会学一般を扱っていく。 卒業研究運営方針としては、社会学の専門書を受講者間で分担して、報告し合う形式をとる。初回の演習において、専門演習で報告・プレゼンテーションの方法などを確認するなどして、基礎的なところから復習して勸めていきたい。テーマ自体に積極的な関心もなくても、社会学は日常生活を研究対象としており、また、報告・プレゼンテーション、質疑応答のテクニックは実社会でも役に立つはずであるので、受講者なりの意味づけをこの卒業研究において行って欲しい。	
<b>評価方法</b> 演習で与えられた課題への取り組みと、演習内での態度（課題の報告、他の学生による報告への貢献、演習の運営態度）によって評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選必 卒業研究(アイデンティティの社会学)</b>	秋 週2回 2単位
担当者：横山 寿世理	
<b>講義の目標及び概要</b> 春学期「専門演習」において掲げた目的「この演習では、自分についての意識（アイデンティティ）に関する社会的意識について社会学的に考察することを目的とする」を、秋学期「卒業研究」においても踏襲する。 アイデンティティもしくは自我という概念を理解することと、これらの概念が社会や人びとのどのような考え方（観念）から形成されるのか、これらの概念がどのような時代背景をもちうるのかについて理解することとは異なる。専門演習および卒業研究を修得することで、これらの相違を理解して、アイデンティティが社会や社会意識を理解するための一つの指標となり得ることに気付いて欲しい。 特に秋学期「卒業研究」では、与えられた専門書を読み、報告レジュメにまとめて、演習（ゼミ）で報告することを目指す。もちろん演習での報告に対しては、他のゼミ生が質問・意見を出し合い、討論を行う。 最終的には、各受講者が大学4年間で何を学び、何に興味を持ったのか（持てるのか）を明らかにできればよい。その上で、次年度に卒業論文を執筆するかどうか、卒業論文のテーマを決定するところまでが、この卒業研究で目指すべき目標である。	
<b>評価方法</b> 演習で与えられた課題への取り組みと、演習内での態度（課題の報告、他の学生による報告への貢献、演習の運営態度）によって評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	



選必 卒業研究(環境保全論)		秋	週2回	2単位
担当者：村上 公久				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容            始めに全員で地球環境問題を扱った英文の報告書（以下の授業計画の6つの英文報告書）を学び、その中から各自がテーマを選んで、レポートをまとめる。            次に複数のグループに分かれてグループ毎に地球環境問題に関わる課題を設定し、解決への提言をまとめる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ            専門科目「環境保全論」で学んだ内容を基に、グループ演習によって環境問題の解決への方途を提言する演習科目。</p> <p>3. 学びの意義と目標            専門科目「環境保全論」、「専門演習（環境保全論）」で得た知見を、グループで提言にまとめ発表する能力の獲得。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席状況、各自のレポートとその発表、討論を通じてのグループへの貢献度、ゼミ全体への貢献度、学期を通じて学んだまとめとしてのパワー・ポイントによる発表、を総合的に評価する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 卒業研究(キリスト教社会倫理)		秋	週2回	2単位
担当者：相澤 一				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>「専門演習（キリスト教社会倫理）」で、各自が興味を持った研究課題に取り組み、さらに研究を進める。            内容は、担当者と学生との話し合いによって流動的に決定する。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席状況、授業態度、発表の内容や授業参加の積極性などで総合的に判断する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(金融市場論)		秋	週2回	2単位
担当者：柴田 武男				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>「卒業研究（金融市場論）」では、金融市場に関する論文作成の指導を行う。まず、関連する論文の読解から初めて、専門論文を読みとる方法を学んで、次に、基本的なテーマの選定、論文の書き方を指導する。原則として、担当教員の金融市場論講義・専門演習を受けた上で選択して欲しい。金融市場というテーマ自体が幅広く、大きいので、銀行とか証券だけがテーマだと選択を狭くするつもりはない。幅広く受講生の関心のあるテーマで自発的に取り組んで欲しい。</p> <p>ただし、日頃新聞の経済記事を読み、金融問題についてある程度の知識を有していないと、論文作成は困難であることは留意して欲しい。多重債務者問題・貸金業規制法改正問題・株式の新興市場など金融市場を巡る様々な問題に日頃関心を持っている受講者であれば、大歓迎である。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席点（50%）およびレポート（50%）で評価する。卒業研究レポートの提出は、は単位認定の前提であることを留意すること。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(経営管理)		秋	週2回	2単位
担当者：後藤 兼一				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>演習の目標：経営管理に関する一連の講義及び実習、さらに専門演習で学習した内容をもとに自分で決めた課題に付いて実際に調査し研究することによって経営管理の考え方を自分なりに集大成することが本演習の目的です。最初に研究したい課題（テーマ）を明らかにし、次に何故その研究がしたいのか動機を明らかにし、最後に実際に調査し研究してみることによって、研究することの意味や価値を実感することを演習の目標とします。</p> <p>演習の概要：演習で行う内容は大方次の通りです。まず何を研究したいのか（課題）、何故そのことを研究したいのか（動機）を明らかにします。次に、何を調べたのか（文献調査と現地調査）、何がどうなっているのか（実態と実体）、何がどのような仕組みになっているのか（構造と機能）、さらに何を細分化したのか（分析と解析）、そして何が分かったのか（本質と結論）を整理します。以上を詰めることによって、研究することの意味や価値を実感することを演習の目標とします。演習の特徴は、経営管理で使われている、用語を比較する形で行なわれるところにある。</p>				
<b>評価方法</b>				
卒論ゼミでは演習を進めると同時に、学生同士及び教員との親睦をはかることをも大切にしている。学期末定期試験はない。従って評価は出席状況40%とレポート60%を総合して決める。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

<b>選必 卒業研究(国際政治論)</b>	<b>秋 週2回 2単位</b>
担当者：秋吉 祐子	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉地球上の人間の存続の本質的要件である「食・農・環境・循環型/持続可能社会・世界平和」の世界観において日本を基点として国際政治の諸局面を分析・考察する。授業の主項目は、各受講生のプレゼンテーション(プレゼン)、それに基づく質疑・応答、討論を行う。同世界観に基づいたディベートを行う。レポート類作成(論文、フロアー評価レポート等)を行う。適時に講義・VTR利用授業を行う。体験学習の意義に鑑み、農業体験：米作り・稲刈りを授業メニューに入れる。体験学習メニューに大学行事参加もあり得る。各授業のメニューや課題等はウェブサイトNet Commonsにても通知・相互通信する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉本科目は政治学部の選択必修専門演習の上級科目。 〈学びの意義と目標〉1. 上記テーマへの学習により人間社会の在り方を模索する。2. 受講生の主体的な問題発見・解決能力を育成する。3. 実社会でも有効な様々な能力・スキルを育成する。(AO機器を活用した様々な形態の発表・発言能力と技術の育成等。)	
<b>評価方法</b> 評価項目 プレゼン・レジュメ・司会・質疑・応答・討論・ディベート・レポート等50%、体験学習40%および授業態度10%。但し当日プレゼン・ディベートに無断欠席の場合は単位取得意思放棄とみなす。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する ジョージ フリードマン 櫻井祐子訳『100年の予測』早川書房	

<b>選必 卒業研究(政治過程論)</b>	<b>秋 週2回 2単位</b>
担当者：森分 大輔	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉春学期開講の「専門演習(政治過程論)」の延長線上に位置づけられており、本演習履修者は「専門演習」を必修とする(但し特別の理由・事情のある場合、相談に応じる)。春学期における学習を前提として、新たなテキストの講読と議論を行う。基本的に、学期の前半は共通のテキストを読み、後半は順次、各自が自らの関心に即して選んだテーマについての個別発表とし、各自の進捗状況を報告、議論する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉3年次秋学期に位置づけられた必修の演習科目の一つである。 〈学びの意義と目標〉基本的なテキストの読解力を得ること(読む、書く、話すという社会科学の必要な基本スキルの習得)、政治学的な関心を深めること、独自の研究テーマへの理解を深めることの三点である。	
<b>評価方法</b> 出席(30%)、授業貢献(20%)、ファイナルレポート(50%)の3点を総合して評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選必 卒業研究(地域研究回シヤ)</b>	<b>秋 週2回 2単位</b>
担当者：飯島 康夫	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 概要 476年、西ローマ帝国が滅んだ後、ローマ教会は800年頃から、東の教会から離れ始める。この結果、1054年、東と西の教会は分裂。さて、東ローマ帝国は1453年まで存続。ローマ・カトリック教会を柱とする西欧とギリシア正教会を擁するロシアという対立図式が出来上がる。ルネサンス以降、西欧は目覚しく発展し、やがてロシアは西欧に習い、近代化を進めようとするが、その一方で、もう一つのキリスト教をいただく国としての自負、西欧に劣るはずがないという自信も保ち続ける。西欧より後れているという意識と西欧に優るとする意識——これら矛盾した二つの意識がロシア思想史の全体を貫いている。これらを紹介すること。 2. 目標 ドストエフスキーを通じて隣国ロシアの宗教・文化・思想に深く解れて理解すること。 3. 期待する理解度 原典ドストエフスキーを日本語で輪読し、ロシアの文化・宗教・習慣について、卒業研究論文の基礎となる論文を提出、加筆、修正の後、一定の推準の理解に深めること。	
<b>評価方法</b> 出席率(50%)と卒業研究論文の完成度(50%)による。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟上、中、下巻』新潮文庫	

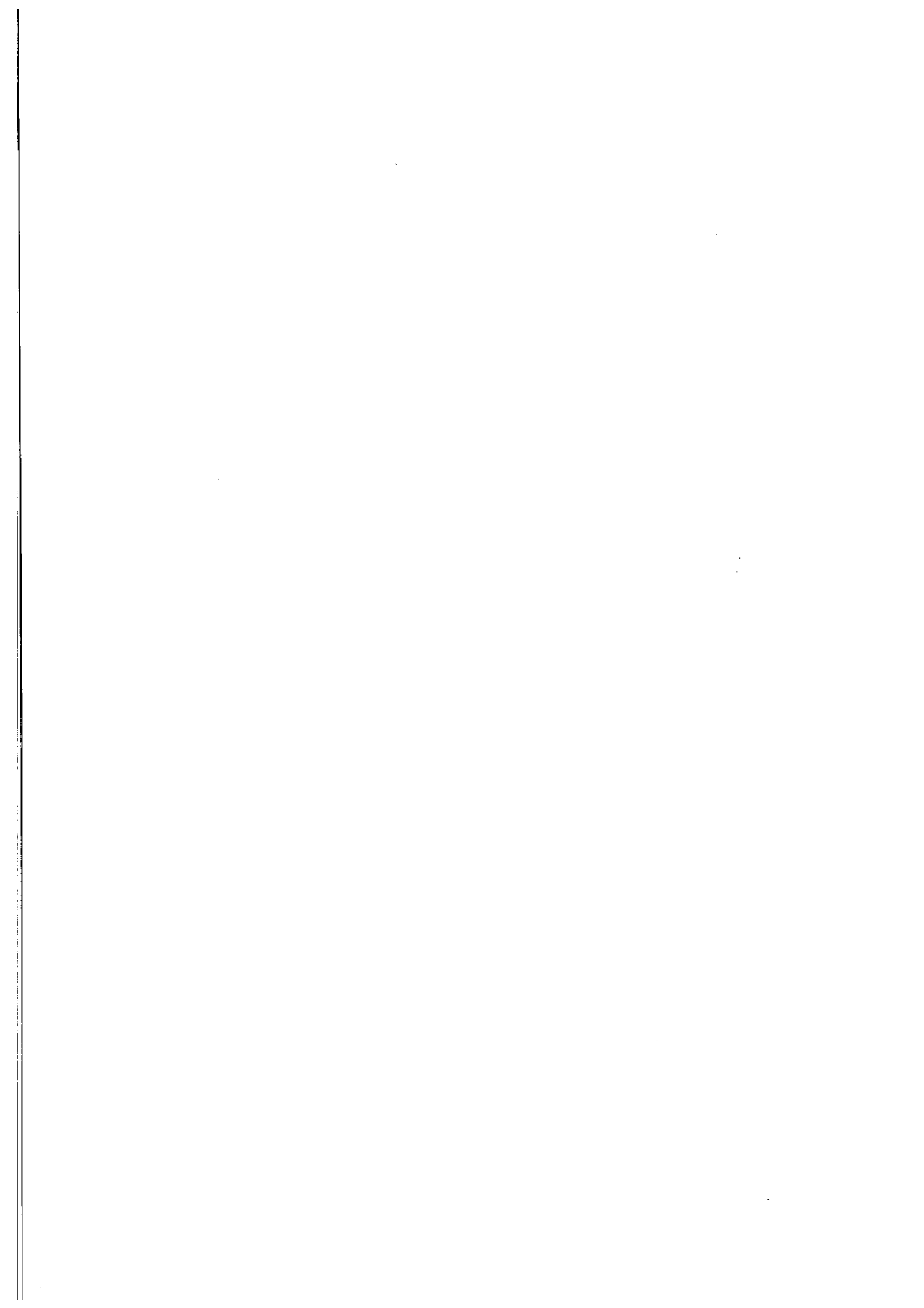
<b>選必 卒業研究(日本政治思想史)</b>	<b>秋 週2回 2単位</b>
担当者：吉田 博司	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 近代日本の政治家及び思想家の研究指導をします。学生のテーマ設定、報告、討論の時間です。 2. カリキュラム上の位置 卒業研究は学生の主体的な勉強の深化を目指す専門科目です。 3. 学びの意義と目標 歴史に興味をもち、人間への深い洞察を養って下さい。	
<b>評価方法</b> 論文報告と討論評価による。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選必 卒業研究(比較法)</b> <span style="float: right;">秋 週2回 2単位</span>
担当者：石川 裕一郎
<b>講義の目標及び概要</b> 春期の専門演習を踏まえ、受講者それぞれが各自のテーマを設定し、調査・研究・発表・討論を重ねつつ、さらに完成度の高い論文に仕上げることが目標とします。
<b>評価方法</b> 論文報告・作成に加え、毎回の授業における討論への参加状況等を中心とした授業への貢献度を総合的に勘案して評価します。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業研究(比較政治学)</b> <span style="float: right;">秋 週2回 2単位</span>
担当者：松尾 秀哉
<b>講義の目標及び概要</b> 内容) 比較政治学とは「二つの事例を比較する学問」ではなく、ひとつの事例を明確な「分析枠組」を用いて新しい知見を引き出す学問でもある。本演習では、受講者の事例研究報告と参加者の議論、指導で構成する。 カリキュラム上の位置づけ) 専門演習の履修を前提に、卒論執筆を指導する。 学びの意義と目標) この半期で卒論の全体的な構想（先行研究の整理）を終え、スムーズな資料収集に進めるよう指導する。
<b>評価方法</b> 出席と必要な回数の報告（50％）を必須とする。最終的に上記目標に照らしたペーパーを提出することが前提となる。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業研究(法思想史)</b> <span style="float: right;">秋 週2回 2単位</span>
担当者：加藤 恵司
<b>講義の目標及び概要</b> 各自与えられたテーマに従って、卒業論文作成に向けて訓練し、指導する。
<b>評価方法</b> 専門演習履習と同じ。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 加藤恵司『法・思想・歴史』ジーオー企画出版

<b>選必 卒業研究(理論社会学)</b> <span style="float: right;">秋 週2回 2単位</span>
担当者：土方 透
<b>講義の目標及び概要</b> 専門演習（理論社会学）の成果をふまえ、卒論の完成へ向けて指導を行う。
<b>評価方法</b> 日々の準備、毎回の参加内容。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する



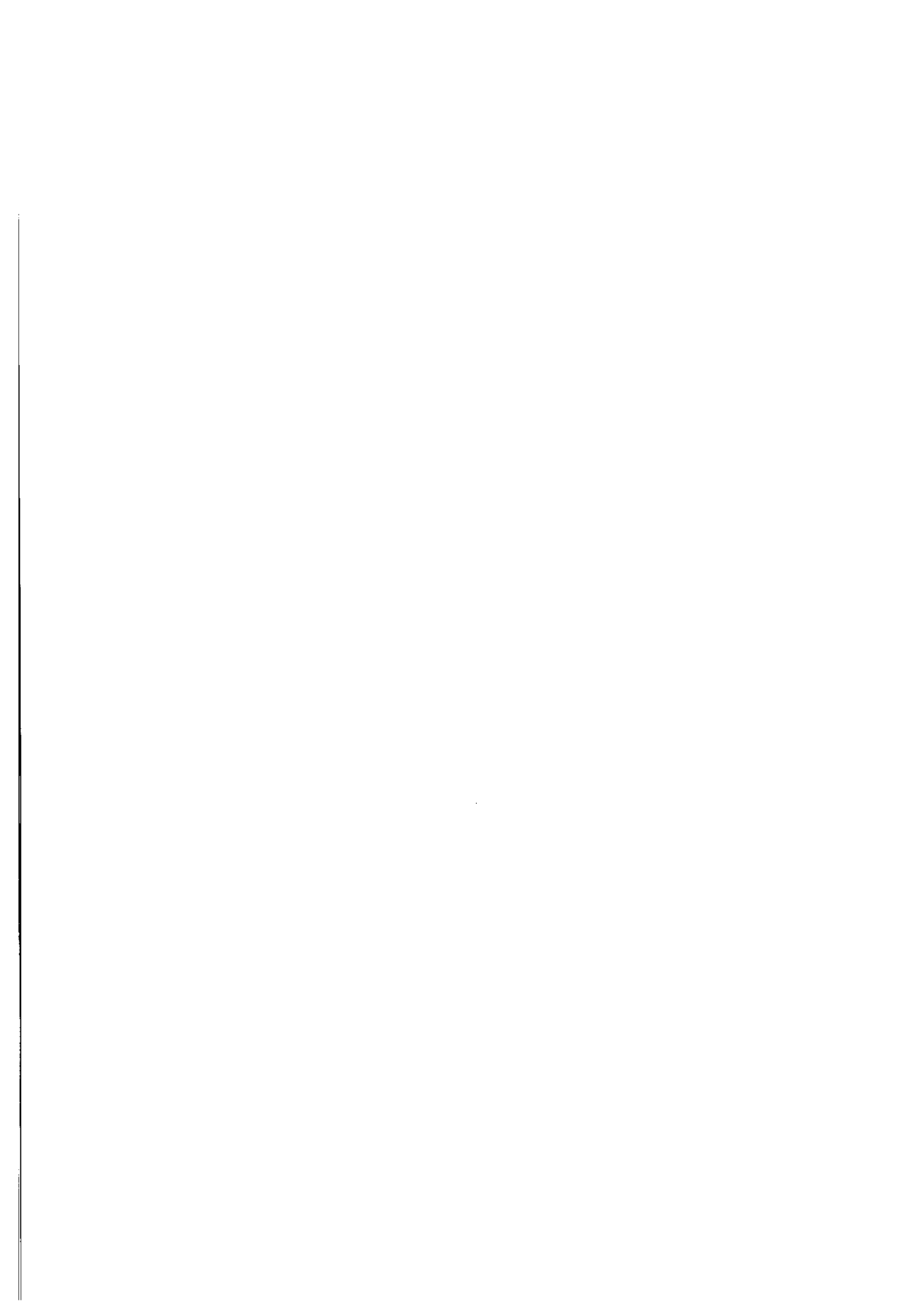
## 専門科目

## 科目一覧

キリスト教社会倫理A  
 キリスト教社会倫理B  
 法学  
 政治学  
 経済学  
 キャリアデザインA  
 キャリアデザインB  
 行政学  
 まちづくり学  
 経営学  
 簿記  
 地域経済論  
 コミュニケーション学  
 社会学  
 環境学  
 地域社会論  
 憲法(人権)  
 憲法(統治)  
 行政法  
 地方自治法  
 国際人権・人道法  
 国際法  
 国際政治論  
 現代政治理論  
 政治過程論  
 公共哲学  
 公共政策論  
 地方自治論  
 財政学  
 環境政策論  
 社会保障論  
 リスク対策論  
 近代政治思想  
 政策評価論  
 地域福祉  
 公的扶助論  
 埼玉地域政策研究  
 Civilization & Environment  
 ミクロ経済学  
 マクロ経済学  
 日本経済論  
 Japanese Economy Today  
 産業経営論A  
 産業経営論B  
 社会経済論  
 管理学  
 会計学  
 中小企業論A  
 中小企業論B  
 民法A(総則・物権)  
 民法B(債権)  
 民法C(親族・相続)  
 商法A(総則・手形・商行為法)  
 税法A(所得税)  
 税法B(法人税)  
 経済学史  
 金融論  
 金融市場論A  
 金融市場論B  
 コミュニティ・ビジネス論  
 コミュニティ・ビジネスの現場  
 国際ビジネスの現場A  
 国際ビジネスの現場B  
 秘書学概論  
 ビジネス実務B

日本的経営論  
 商業経営論  
 マネジメント  
 社会福祉施設経営論  
 FP入門講座  
 法政情報論  
 情報倫理  
 情報処理  
 情報システム論  
 コンピュータ応用実習A  
 情報検索演習  
 情報通信ネットワーク  
 情報リスク論  
 マルチメディア論  
 情報と職業  
 インターネット時代の情報資源活用  
 Internet English(Basic)  
 Project-Based Internet  
 社会心理学  
 理論社会学  
 社会思想  
 倫理学概論  
 社会調査法  
 コミュニティとフィールドワーク  
 統計学  
 インターンシップI(事前学習)  
 インターンシップII(実習)  
 インターンシップ(自主活動)  
 コミュニティ政策特論A(商学)  
 公務員講座(数的・判断推理)  
 公務員講座(人文・社会)  
 公務員講座(文章理解)  
 公務員講座演習A(数的・判断推理)  
 公務員講座演習A(人文・社会)  
 公務員特講(自治体研究A)  
 公務員特講(自治体研究B)  
 公務員講座(専門A)  
 公務員講座(専門B)  
 生涯学習概論A  
 生涯学習概論B  
 社会教育計画A  
 社会教育計画B  
 社会教育課題研究A  
 社会教育課題研究B  
 現代社会と社会教育A  
 現代社会と社会教育B  
 社会教育施設論A  
 社会教育施設論B  
 日本文化史  
 日本史概説A  
 日本史概説B  
 西洋史概説A  
 西洋史概説B  
 東洋史概説A  
 東洋史概説B  
 自然地理学概説  
 人文地理学概説  
 地誌学概説A  
 地誌学概説B  
 地誌学特講A  
 地誌学特講B  
 西洋哲学史特講  
 哲学概論  
 地域圏研究(アジアA)  
 地域圏研究(アジアB)

地域圏研究(ロシア・東欧)  
 予備演習A  
 予備演習B  
 予備演習C  
 専門演習I(法学)  
 専門演習II(法学)  
 専門演習I(リスク対策論)  
 専門演習II(リスク対策論)  
 専門演習I(まちづくり学)  
 専門演習II(まちづくり学)  
 専門演習I(コミュニティ・ビジネス論)  
 専門演習II(コミュニティ・ビジネス論)  
 専門演習I(公共哲学)  
 専門演習II(公共哲学)  
 専門演習I(キリスト教社会倫理)  
 専門演習II(キリスト教社会倫理)  
 専門演習I(政治学)  
 専門演習II(政治学)  
 専門演習I(管理学)  
 専門演習II(管理学)  
 専門演習I(金融論)  
 専門演習II(金融論)  
 専門演習I(経済学)  
 専門演習II(経済学)  
 専門演習I(情報倫理)  
 専門演習II(情報倫理)  
 専門演習I(地域福祉)  
 専門演習II(地域福祉)  
 専門演習I(日本経済論)  
 専門演習II(日本経済論)  
 専門演習(コミュニティ政策)  
 卒業研究I(法学)  
 卒業研究II(法学)  
 卒業研究I(リスク対策論)  
 卒業研究II(リスク対策論)  
 卒業研究I(まちづくり学)  
 卒業研究II(まちづくり学)  
 卒業研究I(コミュニティ・ビジネス論)  
 卒業研究II(コミュニティ・ビジネス論)  
 卒業研究I(倫理学)  
 卒業研究II(倫理学)  
 卒業研究I(キリスト教社会倫理)  
 卒業研究II(キリスト教社会倫理)  
 卒業研究I(管理学)  
 卒業研究II(管理学)  
 卒業研究I(金融論)  
 卒業研究II(金融論)  
 卒業研究I(経済学)  
 卒業研究II(経済学)  
 卒業研究I(地域社会論)  
 卒業研究II(地域社会論)  
 卒業研究I(地域福祉)  
 卒業研究II(地域福祉)  
 卒業研究I(日本経済論)  
 卒業研究II(日本経済論)  
 卒業研究(コミュニティ政策)



<b>必修</b> <b>キリスト教社会倫理A</b>	<b>春</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：佐野 正子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
内容：キリスト教社会倫理では、私たちが現代社会においていかに生きるべきかという倫理的問題を、キリスト教の視点から総合的に学ぶ。	
カリキュラム上の位置づけ：三年生必修科目	
学びの意義と目標：キリスト教は近代社会の形成に大きな役割を果たしてきたが、現代におけるコミュニティのあり方を考える上でも、キリスト教は様々な示唆を与えている。この講義を通して、主体的に生きる生き方や社会のあり方を探求していくことを学びの目標としたい。	
<b>評価方法</b>	
毎回の授業時の小レポート 60% 礼拝レポート 20% 学期末レポート 20%	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>必修</b> <b>キリスト教社会倫理B</b>	<b>秋</b> <b>週1回</b> <b>2単位</b>
担当者：佐野 正子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
内容：この講義では、「キリスト教社会倫理A」（総論）を踏まえて、各論として、具体的にキリスト教社会倫理の諸問題と取り組んだキリスト者を数名取り上げる。	
カリキュラム上の位置づけ：三年生必修科目	
学びの意義と目標：この講義で取り上げる人物たちの生き方と思想を学ぶことによって、倫理的な問題を多く抱えた現代社会の中で、より良いコミュニティを形成していくためにはどう生きるべきであるかを深く考え、自分の生き方を振り返ることを学びの目標とする。	
<b>評価方法</b>	
毎回の授業時の小レポート 60% 礼拝レポート 20% 学期末レポート 20%	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>必修</b> <b>法学</b>	<b>春</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：渡辺 英人	
<b>講義の目標及び概要</b>	
「法を守る精神・法令遵守と責任」 「法学」では、みなさんが市民社会に参加するために必要な「ルールと手続き」について学びます。法は人と人が社会の中でいかに上手く生活していくか、という目的のために存在します。いまから法の意味と目的をよく理解し、責任ある個人として、市民社会に参加してください。将来、どのような職業に就いても、この授業で学んだ内容が、必ず役に立ちます。	
<b>評価方法</b>	
出席とレポート、二回の試験によって評価します。	
<b>教科書</b>	
『ポケット六法 平成22年』有斐閣	

<b>必修</b> <b>法学</b>	<b>春</b> <b>秋</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：徳永 貴志	
<b>講義の目標及び概要</b>	
法律とは、社会に生じるさまざまなトラブルに対処するための一種の知恵としてのルールです。トラブルの解決においては、誰もが納得できるように筋が通っていること、論理的であることが要求されるので、法律を扱う法律学の解釈については、学生の皆さんが高校までに身につけてきた「常識的な思考」と矛盾するものもたくさんあるかもしれません。ですから、最初は少し堅い内容でとっつきにくいという印象を持つかもしれませんが、講義の中ではなるべく学生の皆さんがテレビのニュースや新聞・インターネットで日常的に見聞きする機会のある具体的な事件や法律問題を素材として取り上げ、映像資料も使いながら、それらについて一緒に考え、基礎的な法的知識・法的思考を身に付けてもらうよう進めていきます。毎回講義の最初にその日に扱うテーマに関する書き込み式のプリントを配布し、キーワードなどを書き込んでもらいながら理解を深めてもらおうと考えています。	
<b>評価方法</b>	
毎回の「小テスト+出席点」（約7割）と「期末テスト」あるいはレポート課題（約3割）を総合して評価を行います。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

必修 政治学	春 週2回 4単位
担当者：谷口 隆一郎	
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>【学習の内容・目標・意義】 この科目では、現代政治学の主な領域の重要な知識を網羅的・体系的に学習します。将来、公共性の高い仕事（公務員職等）に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくといテーマと内容が、この講義には含まれています。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】 大学、特にコミュニティ政策学科というところで専門的に学ぶ内容（特に、その政治学的基礎）とはどういうものかを知ることでできる数少ない専門科目の一つです。</p> <p>【授業の進め方】 受講生は、(1)各授業に対応するテキストの箇所（章/節）を予習してきて、(2)講義を聴き、理解し、質問に答え、(3)小テストに回答し、(4)小グループに分かれて課題について議論し、簡単な発表をします。</p>	
<p><b>評価方法</b></p> <p>小テスト、中間試験、期末試験、授業貢献度（出席率、質問、応答、等）で総合的に評価する。遅刻3回は1回の欠席とみなす。</p>	
<p><b>教科書</b></p> <p>加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦『現代政治学』有非閣アルマ</p>	

必修 政治学	春 週2回 4単位
担当者：川添 美央子	
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>(1)内容 現代日本の政治の仕組み、および政策決定に至るまでの流れなどを概括的に講義する。国民の意思が可能な限り反映され、なおかつ多数者の暴走を抑制できるような国会や内閣や政党の仕組み、官邸と党の関係、選挙やメディアのあり方はどのようなものか、といった観点から考察する。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 今後専門科目を学んでゆくために、最低限必要な基礎的な知識を身に付けてもらうことを目的としている。よって、カリキュラムの中でも最も初歩的かつ基礎的な科目である。</p> <p>(3)学びの意義と目標 皆さんが新聞やテレビのニュースに接したとき、「何故この決定がなされたのか」「この動きはどのような方向へ向かうものか」を、自分で判断できることを目指す講義をしたいと考えている。</p>	
<p><b>評価方法</b></p> <p>平常点（毎回の小レポートや質問）4割、定期試験（中間試験と期末試験）6割の比率で評価</p>	
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>	

必修 政治学	秋 週2回 4単位
担当者：森田 浩之	
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>◆内容◆ 私たちと政治の関わり合いについて講義します。ポイントは、(1)私たちの生活に影響を与える政策は、どのような仕組みで決まっているのか？ (2)政党は私たちにどのような考え方を提示しているのか？ つまり、私たち有権者にはどのような選択肢が与えられているのか？ (3)個人の利益と集団の利益が衝突する場合は、どんな状態なのか？ どうしたらそれを解決できるのか？ ということです。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ コミュニティ政策学科の1年生のみなさんには、2年生以降で学ぶ政策学、行政学、法学など関連科目の基礎になるような政治学の講義をします。一方、他学部での1～4年生が出席されることも心得ています。そのため、みなさんが社会人として、現代社会で生きていくために必要な政治の知識についてご説明します。</p> <p>◆学びの目標◆ 私たちは将来、国の借金を返済しなければなりません。医療費もどんどん高くなります。みなさんにとってはまだ先の話ですが、みなさんの世代は年金を受け取れないかもしれません。これらはすべて私たちの生活に直結する話です。これら政治問題に関して、自分で考える能力を身につけることが学びの目標です。</p>	
<p><b>評価方法</b></p> <p>期末試験をします。評価は100%試験で決めます。というのも、答案には勉強量も、学ぶ意欲も、授業態度（私語、居眠り）も、出席状況もちゃんと反映されるからです。授業の内容を自分の言葉で分かりやすく説明できれば、高い得点を差上げます。</p>	
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>	

必修 経済学	春 週2回 4単位
担当者：石部 公男	
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 目的 本授業では社会人として将来自分自身の経済生活を円滑かつ快適に送るための基本的知識と態度を身につけ、高等学校の教養の上に、さらに専門的知識を基にして経済現象を理解できる素養を身につけさせることを目的とする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 上記の目的を達成するため、できるだけ低学年から受講できるよう、1年次に配当した。 またさらに経済学を深く学習・研究するための土台として位置づけてある。</p> <p>3. 学びの意義と目標 教養としての経済知識の修得とともに、さらに深く経済現象を探究する学徒のために基本的経済理論の知識と、商業および財政・金融の知識をも修得できることを目的とする。</p>	
<p><b>評価方法</b></p> <p>1. 平常の授業態度10% 2. 授業の出席状況30% 3. 日常のレポートおよび小テスト10% 4. 期末テスト40% で評価する</p>	
<p><b>教科書</b></p> <p>石部、淵上、渡辺、原田、山田『経済学の知識から将来を読む』ヴェリタス書房</p>	



必修 経済学		春	週2回	4単位
担当者：大森 達也				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>本講義では、「まんがDE入門 経済学」という本を教科書として          いる。          まんがということで、履修する学生諸君は多くは、科目として          取り組みやすいと考えることが予想される。まんがで語られる導          入部により、そうした利点があることは否めないが、本書は経済          学の理論的な入門書であること。より専門的な講義を受けるため          の必要とされる経済学の理論の学習するために書かれていること          を忘れてはならない。          したがって、本講義においても、経済関連の他の講義全般に対          する導入部として位置づけ、経済学的な考え方、経済学の用語、          ミクロ、マクロの基本的な経済理論などを学習することを予定し          ている。</p>				
<b>評価方法</b>				
(1) 中間及び期末の筆記試験 (それぞれ35%) (2) 1,200字程度のブックレポート (30%)				
<b>教科書</b>				
西村 和雄『まんがDE入門経済学』日本評論社				

必修 経済学		春	週2回	4単位
担当者：鈴木 真実哉				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容          経済学の特徴的な考え方、理論の構成のし方に力点をおく。なぜ          経済学が必要なのか、現実を経済学的にどのように理解できるか、          経済社会はどのようにあるべきか、経済的意思決定主体はどのよ          う行動すべきか、などについて解説する。          2. カリキュラム上の位置づけ          コミュニティ政策学科1年生の必修専門科目であり、他学部の          学生にとっては教養科目である。「経済」に無縁ではられない          現代人にとって「生活必須」科目でもあろう。          3. 学びの意義と目標          経済学的思考によって、学習以前とは異なる次元から現実をみ          ることができるようになる。また、合理性の経済学的意味が理解          できるようになる。</p>				
☆参考文献 福岡正夫『経済学入門』(日本経済新聞社)				
<b>評価方法</b>				
試験と出席状況を総合的に判断して成績を決定する。 小テスト、レポートを実施することもある。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

必修 経済学		秋	週2回	4単位
担当者：由川 稔				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容          経済学は抽象化や理論化という科学的な方法に拠っています。          現実の日常生活や社会問題の中で、しばしば「常識」に埋没して          見えなくなりがちな経済現象の「本質」を暴き、そこから新しい          経済や人間のあり方などを構想するためです。私たちが、一人一          人の生活や、それを取り巻く社会を、少しでも望ましい状態にす          るために日々重ねる努力——。そのような努力の中で、主に経済          問題に関わる知的な営みの蓄積が、経済学だとも言えます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ          全学部生対象の教養科目としての位置づけを踏まえ、「経済」と          「経済学」の総合的なイントロダクションにします。資格や公務          員等、各種試験対策的な内容は、他に譲ります。</p> <p>3. 学びの目標          身近な経済現象の背後に何があるかを探究すること、あるいは          そのようにする癖をつけることが、当面の目標です。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席率〔出席点〕および受講態度等〔平常点〕(30%)、レポート 等提出物(20%)、定期テスト(50%)で配分予定。「レポート等」 には、授業時や予復習に使用した「各自のノートの写し」を含め る場合があります。				
<b>教科書</b>				
石川秀樹『新・経済学入門塾 (1) マクロ編』中央経済社 石川秀樹『新・経済学入門塾 (2) ミクロ編』中央経済社				

必修 キャリアデザインA		春	週1回	1単位
担当者：上田 信一郎				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(1) 〈内容〉          キャリアデザインは、広くは人生設計全体に関わるが、具体的          には将来の職業について、将来なりたいもの、やりたい仕事、自          分の適性、職業の現状を考え整理し、目標を企画・設計していく          こと。そして、現在学ぶもの、身につけるもの、体験行動すべき          テーマを発見・具体化し、目標の設定と行動に移すキッカケとな          るものだ。また職業紹介に関するビデオを上映し職業理解を進め          る。          (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉          キャリアデザインAは自分を知ることを中心に、仕事を知ること          と並行して講義を進める。自分を知ることとは、やりたいこと、          なりたいもの、適性、価値観などの自己分析を進めることだ。並          行して進める仕事を知ることでは、仕事図鑑のビデオで仕事の現          状を知る。          (3) 〈学びの意義と目標〉          自分自身のなりたいもの、やりたいことを少しでも明確にし、          自分のできごととのすり合わせの中で、進路を明確にし、目標          設定できるようになること。</p>				
<b>評価方法</b>				
学生証による出席管理システム。20分以上で遅刻。遅刻3回で1回 欠席扱い(こちらに変更)。配点(1)演習レポート及び期末レポー ト(自己分析力、テーマに関し考える力。書く力)50%(2)出席率 30%(3)授業態度20%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

<b>必修</b> <b>キャリアデザインB</b>	<b>秋</b> <b>週1回</b> <b>1単位</b>
担当者：上田 信一郎	
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 内容 キャリアデザインAでは比較的「自分を知る」ことを重点に進路目標をたてることを柱にしたが、キャリアデザインBでは「職業を知る」ことを重点に、自分とのマッチングの可能性を探る。また、職業を通して社会的な役割をになう意味、職業をもち生きていく力を身につける意味を考える。職業を紹介するビデオをほぼ毎回上映する。 (2) カリキュラム上の位置づけ 職業について、業種・職種の種類、特性などを知り、職業への関心を高め、自分自身の関心のある仕事発見につなげる。関心のある仕事の発見のためにをリサーチし、仕事のやりがいなどについて、自分が主体的に職業を選択する視点で学ぶ。 (3) 学びの意義と目標 講義及び演習でのリサーチを通じて、職業についての業種・職種の内容、職業につくための要件・方法、労働条件、職業につくための競争条件などを知り、仕事に対するモチベーションを高め、進路を明確にすること。また、リサーチ発表を通してプレゼンテーション力を身につけること。	
<b>評価方法</b> 学生証による電子出席。遅刻3回で1回欠席扱い。配点(1)職業リサーチ発表40%(2)演習及び期末レポート(テーマに関する書く力)10%(3)出席率30%(4)授業態度20%	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択</b> <b>行政学</b>	<b>春</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：佐々木 一如	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 我々の生活にとって行政組織や行政サービスは身近な存在であるにもかかわらず、普段あまり関心を払わないことが多いのではないだろうか。この授業では、国や地方自治体の制度、管理手法、政策について、理論的な枠組みを用いながら学習してゆく。 2. カリキュラム上の位置づけ 行政や政策に関する基礎を学ぶ授業である。政治や政策、コミュニティについての授業と関連している。 3. 学びの意義と目標 行政システムに関する基礎的な知識を習得する。中央政府や地方自治体がどのような組織を持ち、そしてその管理を行い、政策を運営しているのかを説明できるようになる。	
<b>評価方法</b> 出席点 40点(出席1回あたり約1.5点) 平常点 20点(詳細は授業で指示します) 試験 40点(中間15点/期末25点) *授業開始時に名簿を読み上げます。その時点で在室していない場合、欠席とします。	
<b>教科書</b> 真淵勝『行政学』有斐閣	

<b>選択</b> <b>まちづくり学</b>	<b>秋</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：平 修久	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 自分たちのまちは自分たちで良くしようという、生活環境の改善や地域振興という動きが全国で広がっている。このようなまちづくりは、人と人とのつながりを深めるばかりでなく、関わっている人たちの人間的成長をもたらす。また、まちは総合的なものであり、まちづくりを学ぶことは視野を広げ、人生をより豊かなものにすることにつながる。 本科目では、背景、定義、タイプなどのまちづくりの概要、まちづくりの進め方と主な手法、分野別課題と事例、まちづくりの意義や目指すものなどを学ぶ。 2. カリキュラム上の位置づけ まちづくりは、コミュニティ政策学科のメインテーマであることから、本科目は、同学科の共通専門科目として最も重要な科目の一つである。社会学、地域社会論、行政学などと合わせて学ぶと理解が深まる。 3. 学びの意義と目標 身近なまちの問題や課題、まちづくりの意義、内容、手法を理解し、説明できるようになることが学びの目標である。	
<b>評価方法</b> 授業に関するまとめや意見(20%)、課題(30%)、期末レポート(40%)、出席点(10%)を総合して評価する(予定)。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選択</b> <b>経営学</b>	<b>秋</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：酒井 祐太郎	
<b>講義の目標及び概要</b> 1 目的：当科目は、企業の経営・管理の体系的知識を基本的レベルから学ぶことを目的とします。現代は企業の時代と呼ぶことができるほど、我々の生活は企業活動なしには成立しません。我々は消費者や労働者という意味でも企業に深くかかわっています。その意味で、企業という組織を多面的に考察することは、社会の構成員としても必須の事と言えよう。 実際の講義では、まず我々と企業が基本的などのようなかわりを持つか、企業が社会の中でどのような役割を持って存在しているか、また企業が社会の様々な要因変化にどのように対応してゆくべきかを考える。 2 カリキュラム上の位置づけ：入門レベルの授業を考えています。経営学のより専門的な内容の導入としての科目として捉えて頂きたい。 3 学びの意義と目標：企業という存在を多面的に考えることにより、我々と社会の関係、企業が社会の中でいかに重要な存在か、またみなさんが将来就職する際にも、役立つ知識、情報をこの授業を通して学習して頂きたい。	
<b>評価方法</b> (1) 中間試験+期末試験…70% ノート、資料等の持込不可 (2) 課題等…10% (3) 出席+授業への参加…20%	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 経営学	春	週2回	4単位
担当者：清澤 達夫			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1、目的 本講義の目的は、「経営学」に関する基本的な知識を習得してもらい、「経営学」に興味を持ってもらうことにあります。と言うのも、皆さんはいずれ社会に出て行く（就職というかたちで）わけですが、そこで直面するのが“経営”ということです。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ 「経営学」に関わる領域を網羅的かつ、初めて学ぶ学生の皆さんが理解できるよう入門レベルを意識して行なっていきたいと思います。なお、「経営学」一分野である「管理」については、別の専門科目が開講されておりますので、本講では触れないつもりですので、関心のある方は、そちらも履修していただければ全体を理解できると思います。</p> <p>3、学びの意義と目標 経営は、なにも企業の専売特許ではなく非営利組織（学校や公務員、NPOなど）や家庭など組織が存在するかぎり避けて通れない機能だからです。ただ今日のような組織社会において企業は、経営の面で多くの知見が蓄えられてきていますので、企業が中心の対象となると思います。</p>			
<b>評価方法</b>			
講義出席：30%、学期末定期試験：35%、ケース・レポート提出：35%とします。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 簿記	春	週2回	4単位
担当者：澤村 孝夫			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>企業は手元にある資金を利用して商品売買業などの事業を展開し利益を獲得するための活動を行っています。こうした活動を正しく理解するためには、一定の方法で計算・記録・整理するための〈道具〉が必要になります。それが〈簿記〉です。また、簿記は、一定期間の取引活動の状況を取引先、出資者、銀行等の利害関係者に報告する役割も担っています。</p> <p>本講義では、簿記による記帳方法の原理及び記帳プロセスを体系的に学習し、基礎的な経理知識の習得を目指しています。また、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級を受験することができます。</p>			
<b>評価方法</b>			
テスト 50% レポート 20% 出席 30% を勘案して評価します			
<b>教科書</b>			
渡辺正直『最新式段階式 日商簿記検定問題集』実教出版			

選択 簿記	秋	週2回	4単位
担当者：山田 ひとみ			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1、内容 会計に関する知識はビジネスマンにとって必須といわれています。企業が公表する会計情報は複式簿記にもとづいて作成されており、複式簿記の原理は世界共通です。講義では毎回複式簿記について例題を用いて説明した後、練習問題を解答してもらいます。簿記の学習で重要なのは予習よりも復習です。復習のチェックを兼ねて、適宜ミニテストを行います。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ 専門科目の一つとして、今後会計学関連科目を学ぶための入門的な講義です。また、経営学関連科目を学ぶ上でも必要な基礎知識が身に付きます。</p> <p>3、学びの意義と目標 勘定の仕組みを理解して取引を仕訳し、決算の手続きを経て貸借対照表と損益計算書の作成に至るまでの、簿記一巡の手続きを理解することを目標とする（日商簿記3級程度）。</p>			
<b>評価方法</b>			
ミニテスト 20%、定期試験 30%、出席 50%			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選択 地域経済論	秋	週2回	4単位
担当者：瀬名 浩一			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>〈内容〉 国内格差だけでなく国際格差も抱える東アジア共同体構想が注目される。先例のEUでは1990年代、局所から超国家の様々なレベルで地域問題への姿勢の転換が起こった。</p> <p>初めに日本の首都圏と地方圏で起こっている地域格差の実情について学ぶ。次に「英国病」を克服した英国で、地域の雇用、所得、成長率、失業率などの格差はどのように推移したかを見る。さらに日英両国の地域格差是正のためにとられた政策を比較する。最後にEUで起こった地域連合、権限委譲などを参考に東アジア経済共同体の可能性を探る。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 1年生で学ぶ経済学、社会学の応用編として、2、3年生で学ぶ専門演習、卒業研究、地域圏研究の準備過程</p> <p>〈学びの意義と目標〉 地域経済統計の読み方、地域経済と一国経済の違い、地域間格差が生まれる理由、格差を長引かせないための政策などを理解する事により、格差から生まれる経済的、社会的問題への取り組み方を学べる。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席点 26%、小テスト 24%、期末テスト 50%			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

政治経済学部  
コミュニケーション政策学科

<b>選択 コミュニケーション学</b>	<b>秋 週2回 4単位</b>
担当者：小笠原 尚宏	
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容 私たちは自分自身や他者と、あるいは～と、多様な関わりの中で生きている。感情、意思、情報などを交換するコミュニケーションなしに、私たちの生活は成立しない。この講義では、「コミュニケーション」という視点を通して私たちの日常生活を捉え直し、多様な関係性とそのあり方について考える視座の形成を目的とする。具体的には、(1)基礎的知識の習得、(2)事例検討による実践的・実際的な問題解決のための視点と方法を学ぶ。 (2)カリキュラム上の位置づけ 関連領域の学習に際して必要となる「コミュニケーション」を理解するための基礎的内容となる。また、たとえば地域社会論、家族関係論、組織論等の入門としても位置づけられる。 (3)学びの意義と目標 個人化、私事化の進行が指摘される現代社会にあって、あらためて絆をつなぐコミュニケーションの役割が注目されている。紐帯や関係性の喪失といった問題を理解し、さらには解決するために必要な知識の習得を目標とした。	
<b>評価方法</b> ・期末試験またはレポート課題70%、小レポート課題（講義時間内に課す）30%。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選択 社会学(秋)</b>	<b>秋 週2回 4単位</b>
担当者：横山 寿世理	
<b>講義の目標及び概要</b> この社会学は、政治経済学科必修でもあり、それ以外の学部学科の教養科目として配当されている。そのため、入門的な社会学の講義であるが、単に社会学を概観するだけでなく、社会学的な視点を身につけることを目標とする。社会学的な視点とは、社会において起きている現象を問題として認識する能力であり、多くの人びとが信じている常識を批判的に検討する能力だと考える。社会学が日常を問い直す学問だと言われるのはこのためであり、よい/悪いといった判断からも常識に従うことからもほど遠いと言える。 具体的な講義形式としては、教科書・雑誌や新聞の記事、ドキュメンタリー番組を補足資料として用いながら、講義内容を板書でまとめる形で講義を展開するので、教科書を用いて予習復習を行うこともできるはずである。また、講義内容の定着を図るため、3～4回の小論文を講義内で課す。この小論文の作成によって、受講者は、講義テーマをどのように発展させられるのかという講義に関する問いを見つけることと、社会現象を批判的に読み解く力を身につけることが可能になるはずである。 秋学期の授業計画としては、できるだけ具体的な社会現象・社会問題を中心に扱う予定である。	
<b>評価方法</b> 出席（30%）、講義内で課す小論文（30%）、学期末試験（40%）で評価する。詳細は第1回目の授業で確認して欲しい。	
<b>教科書</b> 宇都宮京子『よくわかる社会学（第2版）』ミネルヴァ書房	

<b>選択 社会学(春)</b>	<b>春 週2回 4単位</b>
担当者：横山 寿世理	
<b>講義の目標及び概要</b> この講義は、入門的な社会学の講義であるが、社会学を概観するだけでなく、社会学的な視点を身につけることを目標とする。社会学的な視点とは、社会において起きている現象を問題として認識する能力であり、多くの人びとが信じている常識を批判的に検討する能力だと考える。社会学が日常を問い直す学問だと言われるのはこのためであり、よい/悪いといった判断からも常識に従うことからもほど遠いと言える。 具体的な講義形式としては、教科書・雑誌や新聞の記事、ドキュメンタリー番組を補足資料として用いながら、講義内容を板書でまとめる形で講義を展開するので、教科書を用いて予習復習を行うこともできるはずである。また、講義内容の定着を図るため、3～4回の小論文を講義内で課す。この小論文の作成によって、受講者は、講義テーマをどのように発展させられるのかという講義に関する問いを見つけることと、社会現象を批判的に読み解く力を身につけることが可能になるはずである。 春学期の授業計画としては、前半に理論・学説を中心に社会学の一般理論を理解して、その応用としてさまざまな社会学（連字社会学）を後半（14回目以降）に概観する予定である。	
<b>評価方法</b> 出席（30%）、講義内で課す小論文（30%）、学期末試験（40%）で評価する。詳細は第1回目の授業で確認して欲しい。	
<b>教科書</b> 宇都宮京子『よくわかる社会学（第2版）』ミネルヴァ書房	

<b>選択 社会学</b>	<b>春 週2回 4単位</b>
担当者：田中 俊之	
<b>講義の目標及び概要</b> 社会学は常識を疑う学問だとされている。われわれが日々の生活において自明視しているさまざまな出来事を、その成立の仕組みから分析してみせるからである。社会学のこうした性格は、この学問がもつ批判性をよくあらわしているといえるだろう。本講義の目的は社会学の理論および諸概念を学習することによって、社会を批判的に読み解くまなざしを手に入れることである。 社会学的な視座を身につけるためには、単に新しい用語を覚えるだけではなく、具体的な事例の分析から実際に現実のどのような側面が明らかにできるのかを理解しておかなければならない。そのため、テレビドラマや映画あるいは雑誌記事といった身近な資料を使いながら、社会学と現実の接点を常に意識した講義を展開する。	
<b>評価方法</b> 出席点20%、授業時の小テスト40%、学期末テスト40%	
<b>教科書</b> 張江洋直・大谷栄一『ソシオロジカル・スタディーズ』世界思想社	

選択 社会学	秋	週2回	4単位
担当者：阿部 英之助			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 講義内容 この講義では、「社会学」という視点を通して私達が生活している世界やそこでの疑問や問題について考えていきます。普段、私達が何気なく行っている事に対して少し視点や発想を変えて「見る」ことで、「当たり前」であったことが「当たり前でない」ものとして映るかもしれません。私達は家庭・近隣・学校・会社・市町村・国など様々な組織に属し、多様な場面で生活をしています。そこでは、無意識のうちに刻み込まれている事がたくさんあります。そのような「日常性」を問いながら、私達が生活している生活世界について具体的な事例を通して、社会を考えていきたいと思えます。			
2. カリキュラム上の位置づけ 「社会学」の入門として、具体的な事例から社会を見る視点と方法を学びます。			
3. 学びの意義と目標 新聞・雑誌や調査データなどから、現代社会の姿を学ぶことで、社会を見る様々な視点が身につくことを本講義での目標としたいと思います。			
<b>評価方法</b>			
評価は、出席(30点)・授業内小レポート(20点)・学期末試験(50点)の合計100点によって総合的な評価をします。			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する 友枝敏雄・山田真茂留『Do! ソシオロジー』有斐閣アルマ 那須壽『クロニカル社会学』有斐閣アルマ			

選択 社会学	春	週2回	4単位
担当者：鄭 鎬碩			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 社会学の最大の魅力は、あらゆる社会現象を、新鮮で驚きに満ちたもの、「あたりまえではないもの」として見せてくれる点にある。本講義では、ある現象がそのようである理由、その仕組みにおける人と人との「かかわりあい」や「力」についての問いを重ねながら、物事を批判的に捉える思考の方法を学んでいく。新聞記事、映像などから、コーヒー、電車時刻表、犯罪ニュースのような身近な物事や、性別、職業の選択、貧困などのプライベートな悩み事がなぜ「社会学的問題」になるのかについて考え、これらを社会的にとらえる基礎概念を理解していくことで、社会学の思考の幅と奥行きに対する感覚を備えることを目指す。			
2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目の選択に先立つ知的探索の機会として、社会学の特徴を学習する講義である。			
3. 学びの意義と目標 1) 学問としての社会学の特徴を理解し、社会学の基礎概念を習得する。 2) 現代社会の多様な側面を批判的に考察するための基本的な視座を手に入れる。			
<b>評価方法</b>			
出席点33%、講義内で課すレポート33%、期末テスト33%によって算出する。			
<b>教科書</b>			
長谷川公一、浜日出夫、藤村正之、町村敬志『社会学 (New Liberal Arts Selection)』有斐閣			

選択 社会学	春	週2回	4単位
担当者：渡會 知子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
【内容】 私たちはたいがい、他人のこのの方が、自分のことよりもよく「見える」ものです。例えば、サッカーをしている友人にアドバイスはできても、自分のプレーのどこがまずいのかは言えない。あるいは、他人の長所と短所は簡単に挙げられるのに、自分のこととなると実はよく分からないなど。人は時に、自己分析をするために、他人の目を必要とします。 「社会学」とは、私たちの「社会」を、いわば「他人の目」で分析するための学問です。本講義では、社会学の基本的な概念や方法を紹介することを通して、私たちが通常前提としている(ゆえに「よく見えない」)価値・規範・文化・制度が、どのように成り立っているのか、具体的事例を挙げながら考察していきます。			
【カリキュラム上の位置づけ】 専門科目の選択に先立つ入門的講義です。			
【学びの意義と目標】 複雑な現代社会に対する俯瞰的な「見取り図」を手に入れ、それによって個別の事象を批判的に分析していく基本的な能力を身につけることを目指します。			
<b>評価方法</b>			
出席20%、講義中に課すレポート30%、期末テスト40%、講義中の態度10%とし、総合的に評価します。			
<b>教科書</b>			
那須壽『クロニカル社会学』有斐閣アルマ			

選択 環境学	春	週2回	4単位
担当者：村上 公久			
<b>講義の目標及び概要</b>			
キーワード：(人間一環境)系、地球環境問題、ガイアGaia、持続可能な(持続可能な)開発			
1. 内容 君たちが生まれた頃から現在まで、つまり君たちの平均年齢に相当する約20年間の間に私たちの地球の生命圏の環境は、急速に悪化しました。この間日本列島の約6倍の面積の熱帯の森林が失われ、中国の耕地面積に相当する陸地が砂漠化したのです。 今日、世界的規模での最大の問題は、環境の急激な悪化による生命圏(生態圏)の全滅の危険、すなわち地球環境問題です。この科目では「ヒトと環境」が相互に影響し合うシステム(人間一環境)系を理解し、「ヒトと森林の関係」を例にとりて考えます。かつては環境問題の問題意識の中心は産業公害でしたが、現在ではこの問題は国境を突破した生命圏全体の存続を懸けた「地球環境問題」として捉えられており、いわゆる公害問題はその一部として意識されています。			
2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目「環境保全論」履修の準備となる科目です。			
3. 学びの目標 NGOの果たす大きな役割を含め、私たちが生き物たちのこの世界を全体的な壊滅から救うほとんど唯一の戦略「持続的開発」の可能性を探ります。			
<b>評価方法</b>			
学期中複数回の試験、出席状況、討論によるクラスへの貢献、レポートを総合的に評価する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

政治経済学部  
コミュニケーション政策学科

<b>選択 地域社会論</b>	秋 週2回 4単位
担当者：大高 研道	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 生活の個別化に伴って地縁的な共同関係（むら社会）の解体が進む現代社会では、地域内の人間関係が希薄化し、地域社会の衰退・崩壊が叫ばれている。その一方で、災害時や高齢化社会への対応、さらには子どもへの犯罪にかかわる防犯対策等を考える際のキーワードとして「地域社会/コミュニティ」の重要性が叫ばれるのも現代の特徴のひとつである。本講義では、まずグローバル化する現代社会において噴出している労働問題・生活問題の現実を時事問題等を取り上げながら明らかにし、その上で、「現代的協同」（人とつながる形）という側面から、地域社会の変貌と未来について考えてみたい。 2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の共通専門科目である。 3. 学びの意義と目標 本講義では、「不安社会」や「リスク社会」と呼ばれる現代において失われつつある他者との関係性や人間性を回復させる契としてあらためて注目されている「地域（コミュニティ）」の現代的意味を検討することが最大の目的となる。	
<b>評価方法</b>	
・試験100%。 ・出席点について：毎回の出席が大前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>選択 憲法(統治)</b>	春 週2回 4単位
担当者：松村 芳明	
<b>講義の目標及び概要</b>	
受講者が多くない場合はゼミ形式をとる。ただし、基礎的な知識の正確な理解は基本であるから、その点については十分に時間を割いて学習する。次に、重要論点について、事例を交えつつ、深く理解することができるように配慮する。なお講義名は「憲法（統治）」であるが、憲法全体への理解に必要な人権領域・憲法総論領域についても必要な限りで扱う予定である。	
<b>評価方法</b>	
平常点（授業への参加態度を含む）によって評価する。	
<b>教科書</b>	
石埼学・押久保倫夫・笹沼弘志編『リアル憲法学』法律文化社	

<b>選択 憲法(人権)</b>	秋 週2回 4単位
担当者：石川 裕一郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
講義内容を「人権」（日本国憲法でいえば第3章「国民の権利及び義務」）に絞り、その分、法解釈に重点を置いた、密度の高い講義を行います。「法」解釈といっても、その背景にある政治的・経済的・社会的・文化的要素にもかなり踏み込んだ内容にする予定です。	
<b>評価方法</b>	
毎講義の後に書く「リアクションペーパー」（8割）、および期末試験2割で総合的に評価します。場合によっては、試験はレポートに代えます。単なる出席（物理的に教室内に存在すること）だけでは何ら評価の対象となりません。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>選択 行政法</b>	春 週2回 4単位
担当者：仲田 孝仁	
<b>講義の目標及び概要</b>	
（内容）講義では、各種行政活動に共通する通則的な理論である「行政法総論」と、違法な行政活動に対する事後的な権利・利益の救済制度である「行政救済法」とを学ぶ。公務員として任用された場合は、実際に法律や条例を運用し、また民間企業であれば、行政の規制を受けない業種・業界はないといっても過言ではない。さらに、市民としても、運転免許や営業許可（食品の販売やレストラン）の取得や各種申請・届出（転居届など）、ゴミ収集、年金の給付等行政との関わりは生涯切っても切れないといえる。よって、公務員希望者に限らず、企業に就職し或いは一市民として社会生活を営む上でも「行政法」を学ぶ重要性は極めて高い。 （カリキュラム上の位置づけ）「行政法」は「法律学」の中においては、応用科目に属する。そのため、憲法、民法といった基幹的な科目の履修が望ましい。ただし、履修者の学習状況を踏まえた上で、法学全般に通ずる基礎的な知識についても触れることとする。講義自体は、基礎的な項目を中心として進めていくが、公務員試験対策も念頭に置く。 （学びの意義と目標）本講義は、行政法の入門的な知識の修得を目的とするが、それにとどまらず、この講義の履修後には、社会に生起している諸事象に対して、法的に考えることができる力（リーガルマインド）が養われることになる。	
<b>評価方法</b>	
期末試験（80％）に出席点および平常点（20％）を加味して評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する 芝池義一『行政法読本』有斐閣	

選択 地方自治法	春 週2回 4単位
担当者：鹿谷 雄一	
<b>講義の目標及び概要</b> <b>【概要】</b> 憲法第8章で保障された地方自治の基本的枠組みは、地方自治法で規定されている。本講義は、地方自治法等の解説をとおして、地方公共団体（都道府県・市町村等）の組織や活動、財務などの基本的なしくみについて理解することを目標とする。 <b>【意義】</b> 2000年の地方分権一括法により地方自治法は改正され、国・地方の関係が大きく転換した。その後も「第二期分権改革」の進展や財政健全化法の制定など地方自治を取り巻く環境が変化している。条例や判例、具体的な事例などを取り上げつつ、地方自治の主人公として、変化する地方自治についての理解を深めることにある。 <b>【位置付け】</b> 関連法として地方財政法、地方税法、地方公務員法などがある。住民サービスの提供に関する法律なども多くある。地方公共団体はこれらに基づいて活動をおこなっている。憲法・行政法など法律系の科目のほか、地方自治論、行政学、地方財政などの政策・行政学関連の科目を広く学ぶことで理解を深めることができる。 <b>【参考書】</b> 宇賀克也『地方自治法概説』（有斐閣）。今井照『図解よくわかる地方自治のしくみ』（学陽書房）。	
<b>評価方法</b> レポート（40%）および期末試験（40%）に、出席・平常点（20%）を加え、評価する。 *レポートは中間試験に代わるもの。 *レポートの提出と期末試験の受験は必須。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 国際人権・人権法	秋 週2回 4単位
担当者：小松崎 利明	
<b>講義の目標及び概要</b> 1、内容：本講義では、世界各地に見られる、基本的な人権が保障されない状況、あるいは武力紛争によって人々の生活や生命が脅かされる状況に対して、国際法の一分野である国際人権法や国際人道法がどのように取り組んできたのかを学習し、それらの現代世界における意義と問題点を考える。 2、カリキュラム上の位置づけ：必修の専門基礎科目「法学」習得済みの学生が、人権および武力紛争に関する国際法についてより専門的に学ぶための専門科目の一つである。 3、学びの意義と目標：人権とは何か、なぜ人権尊重が重要なのか、人権の保護はどうすれば確保できるのか、さらに、現代世界において武力の行使はどのように規制されるのか、武力紛争下において人間の生命や基本的権利はどのように保護されるのかといった問題を、法的な視点から考察する能力を養う。	
<b>評価方法</b> 1. 出席 10% 2. 平常点（コメントシート）10% 3. 授業内小テスト 30% 4. 期末試験 50%	
<b>教科書</b> 芹田健太郎・薬師寺公夫・坂元茂樹『ブリッジブック 国際人権法』信山社	

選択 国際法	秋 週2回 4単位
担当者：山村 恒雄	
<b>講義の目標及び概要</b> <b>（内容）</b> 私たちが生活している社会には、秩序を維持するためにルール（法）が存在する。国内においては、国家の統治機構が特定の目的をもって法を制定し執行している。憲法や民法、刑法などの国内法がそれである。国際社会にも、秩序を維持するためのルールが存在する。しかしながら、国際社会には国内社会にあるような全体を統治する機構（政府）は存在しない。しかし、国際社会にもそのようなルールが存在する。それが国際法である。 <b>（カリキュラム上の位置付け）</b> 今日のように私たちの日常生活が国際化し、また、国際社会を相手に経済活動が活発に行われるようになると、国際交流の専門家や国際的ビジネスマンはもちろん、一般の人々にとっても、国際社会の仕組みや国際法の知識を十分に理解することは重要である。 <b>（学びの意義と目標）</b> この科目では、(1)国際法の基本構造について、(2)国家に関する国際法の規則について、(3)国家の領域に関する基本的な事柄とそれに対する国際法の取り組みについて、などの国際法の基本構造を中心に国際法に対する理解を深めていくことを、目的とする。	
<b>評価方法</b> 学期末の筆記試験で評価するのを原則とする。なお、学生諸君の意欲が乏しい場合には、授業中にも確認問題をすることも有る。その場合には、それも併せて評価する割合は未定である。確認問題を行わないのが原則である。	
<b>教科書</b> 横田洋三編『国際法入門 [第2版]』有斐閣	

選択 国際政治論	春 週2回 4単位
担当者：秋吉 祐子	
<b>講義の目標及び概要</b> <b>（内容）</b> 地球上の人間の存続の本質的要件である「食・農・環境・循環型/持続可能社会・世界平和」の世界観において国際政治の諸局面をテーマとして分析・考察する。授業メニューは、(1)同世界観において共通認識を持つための指定教科書の輪読プレゼンテーション（プレゼン）を行う。(2)自主研究テーマのプレゼンを行う。(3)各種文書（プレゼン時のレジュメ、プレゼンに関する論文、プレゼンのフォローアップ評価等）の作成も行う。(4)上記世界観に基づいたディベートも行う。(5)適時に講義やVTR利用授業を行う。 <b>備考：</b> レジュメ、論文等の課題はNet Commons（担当者と履修生間の通信に使用するウェブサイト）を用いる。 <b>（カリキュラム上の位置づけ）</b> 国際政治の専門科目であり、教職課程関連科目でもある。 <b>（学びの意義と目標）</b> 1. 上記テーマへの学習により人間社会の在り方を模索する。2. 受講生の主体的な問題発見・解決能力を育成する。3. 実社会でも有効な様々なスキルや能力を育成する。(A0機器を活用した様々な形態の発表・発言のスキルや能力の育成等)	
<b>評価方法</b> 評価項目 授業内外課題の全て（プレゼン・レジュメ・司会/質疑・応答・討論・ディベート・レポート等90%および授業態度10%）。但し担当日プレゼン・ディベートに無断欠席の場合は単位取得意思放棄とみなす。	
<b>教科書</b> レスターブラウン 福岡克也監訳『フード・セキュリティ だれが世界を養うのか』ワールドウォッチジャパン	

政治経済学部  
コミュニケーション政策学科



選択 現代政治理論	秋	週2回	4単位
担当者：森 達也			
<b>講義の目標及び概要</b> (テーマ) 自由の政治学 自由は欧米の政治的伝統の中心を占める理念である。歴史上、数多くの人々がこの「自由」の旗印の下に集い、議論し、政府に異議申し立てを行い、時に武器を手に革命を遂行した。だが、一見、誰の目にも明らかと思えるこの言葉が実際に何を意味しているのかと問えば、その答えは一様ではない。本講義では政治理論および政治思想史の観点から、政治的自由論の多様な伝統とその現在について考える。この作業を通じて、混沌する現代社会における個と共同体のあり方を理解し、進むべき道を見出す一助としたい。			
(カリキュラム上の位置づけ) 政治学の基礎知識を前提とした専門科目であるが、広く人文・社会科学分野の教養科目として履修することも可能である。			
(学びの意義と目標) 政治学の規範的側面に関する理解を深める。政治思想の歴史から現代社会を見通し、そこにおけるわれわれ自身の生活様式を批判的に吟味する。			
<b>評価方法</b> 最終試験 (50%) 授業内課題 (20%) 出席 (30%)			
<b>教科書</b> 飯島昇蔵ほか編著『現代政治理論』おうふう			

選択 政治過程論	春	週2回	4単位
担当者：高橋 愛子			
<b>講義の目標及び概要</b> (内容) 長い歴史を持つ「政治学」という学問の中における「政治過程論」の位置づけ・特徴について考察し、その後、各論をテキストを参考にしながら学んでいく。基本的なテキストとして下記の教科書を使い、必要に応じて資料を配布する。リアルな政治現象への認識を得るため新聞やニュース映像を適宜使用する。受講者は、政治に関わる新聞記事のスクラップに各自のコメントを付したコメント・シートの提出が課せられる。			
(カリキュラム上の位置づけ) 必修の専門基礎科目「政治学」修得済みの学生が、政治過程についてより専門的に学ぶための科目である。			
(学びの目標) 本講義の狙いは以下の三点である。第一に、政治現象の分析や考察において不可欠かつ主要な位置を占める「権力(Power)」概念の多面的な学びを通して、政治プロセスの各局面で「権力」がどのように作用しているかを考察すること、第二に、政策決定過程の全体像についての概観を得ること、そして第三に、政策決定の各プロセスの中に潜むさまざまな問題が私たちに与えてどのような「意味」を持っているかを考えることである。			
<b>評価方法</b> 第一に出席 (20%)、第二に新聞スクラップについてのコメント・シートの提出 (30%)、第三にテスト (中間・期末) (50%)。以上の総合的評価。			
<b>教科書</b> 伊藤光利・田中愛治・真淵勝『政治過程論』有斐閣			

選択 公共哲学	秋	週2回	4単位
担当者：谷口 隆一郎			
<b>講義の目標及び概要</b> <b>【学習の内容・目標・意義】</b> この科目では、私(谷口隆一郎)の「公共倫理」および「横超」という概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、公共倫理、民主的市民精神、公共にける宗教、多元多文化と寛容、市場の公共性、等の諸問題と諸課題について、テキストを批判的に理解し、これらの問題について自らの見解を持つことにあります。将来、公共性の高い仕事(公務員職等)に就きたいと考えている学生にとっては、知っておくというテーマと内容が、この講義には含まれています。			
<b>【カリキュラム上の位置づけ】</b> 大学、特にコミュニティ政策学科というところで専門的に学ぶ内容(特に、その哲学的基礎)とはどういうものかを知ることのできる数少ない専門科目の一つです。			
<b>【授業の進め方】</b> 受講生は、(1)各授業に対応するテキストの箇所(章/節)を予習してきて、(2)講義を聴き、(3)授業中に、その箇所では何がどう論じられているのか、口頭で答え、(3)小グループに分かれてテーマについて議論し、簡単な発表をします。			
<b>評価方法</b> 小論文2本(各4000字以上)、レジメ、授業貢献度(出席率、授業中に質問に答える、グループワーク参加等での発表や質問、等)で総合的に評価する。遅刻3回は1回の欠席とみなす。			
<b>教科書</b> 桂木隆夫『公共哲学とはなんだろうー民主主義と市場の新しい見方』勁草書房			

選択 公共政策論	秋	週2回	4単位
担当者：大藪 俊志			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 現代社会が抱える問題は複雑・高度化しています。そのため雇用や福祉、環境など様々な分野で生じる課題に取り組む公共政策の重要性は増えています。その一方で政策の失敗や公共部門の非効率といった問題点も指摘されるようになり、公共政策の実施のあり方や政府の適正な規模について幅広く議論されるようになりました。講義では、公共政策の概念や仕組み、機能について紹介するとともに、今後の課題について検討する予定です。			
2. カリキュラム上の位置づけ 公共政策論は総合的かつ実践的な性格を特徴としています。特に行政学、政治学、政治過程論、政策評価論、環境政策論、地方自治論などと深い関わりがありますが、受講に際して特段の予備知識は必要としません。			
3. 学びの意義と目標 市民生活に深い関わりを持つ公共政策の仕組みについて基礎的な知識を学びます。また、個別の政策の内容や社会の問題を解決する方法について、広い視野から考察する能力を養うことを目標とします。			
<b>評価方法</b> 学期末試験(50%)と授業の出席状況など平常点(50%)を総合的に勘案して評価します。詳細は授業内で指示。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			



選択 地方自治論	秋 週2回 4単位
担当者：鹿谷 雄一	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>【概要】市町村や都道府県は、国から独立して地域社会を治め、教育、都市計画、社会福祉など私たちの生活に必要なサービスを提供している。本講義は、地方自治のあり方について、近年の地方制度改革とその動向を踏まえつつ、前半では理論やしくみを、後半では歴史や比較、自治体の経営改革を中心に解説・考察する。</p> <p>【意義】地方分権の進展や市町村合併、さらには政権交代などにより地方自治を取り巻く環境は変わりつつある。「ガバメントからガバナンスへ」の言葉が謳われ、住民との関係の見直しもなされている。講義を通して、自治体の活動に関心を払い、地域社会に参加・貢献し、地方自治の主人公は自分たち住民であるとの意識をもつことにある。</p> <p>【位置付け】地方自治は、憲法で保障され、地方自治法で具体的に制度化されている。「揺りかごから墓場まで」の言葉に代表されるように対象は広い。政治学や行政学、地方財政、政策論など関連科目も多い。</p> <p>【参考書】佐藤竺監修『市民のための地方自治入門』（実務教育）。山本啓編『ローカル・ガバメントとローカル・ガバナンス』（法大出版）。村松岐夫編著『テキストブック地方自治』（東洋経済新報）。今井照『図解よくわかる地方自治のしくみ』（学陽書房）。</p>	
<b>評価方法</b>	
レポート（40%）および期末試験（40%）に、出席・平常点（20%）を加え、評価する。 *レポートは中間試験に代わるもの。 *レポートの提出と期末試験の受験は必須。	
<b>教科書</b>	
土岐・平石・斎藤・石見『現代日本の地方自治』北樹出版	

選択 財政学	秋 週2回 4単位
担当者：佐藤 滋	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>（内容）私たちは税金や社会保険料といった形で、自らの財産の一部を国や地方自治体に納めている。これらの財源は、道路・公園・保育園・小中学校・介護施設などの建設・整備のほか、警察・教育・保健・福祉サービスなどの供給に用いられている。さらに、富めるものから貧しいものへの所得移転にも使用され、経済的格差の広がりが抑えられている。したがって、財政の仕組みを通じて、私たちの生活は豊かになり、治安が守られているわけである。このように、財政とは、社会の統合を図るために必要不可欠な仕組みであるといえる。本講義では、財政を通じて人々が相互に支えあう仕組みを理解してもらうとともに、現代日本が抱える財政問題を考えてもらいたい。</p> <p>（カリキュラム上の位置づけ）財政学の隣接領域は、経済学・社会学・政治学・行政学・歴史学など多岐に渡っており、幅広い知的好奇心を持つ学生には非常に有益な学問である。また、公務員志望者にとっても重要な科目である。</p> <p>（学びの意義と目標）財政の行く末はわれわれの生活にとって重大な意味を持っている。今日の財政問題に対して一定の理解ができるようになれば、本講義の目的は達成されたといえよう。</p>	
<b>評価方法</b>	
小テスト（30%）、期末試験（70%）により評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

選択 環境政策論	春 週2回 4単位
担当者：平 修久	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 本科目では、20世紀の公害問題、自然環境破壊に対する反省を踏まえ、21世紀の主要課題の一つである環境問題に我々はどのように取り組むべきなのかを学ぶ。まず、環境政策を考える基礎として、環境問題の特徴や環境に関する倫理的側面などを概観する。次に、廃棄物、水環境、大気質といった比較的身近な生活環境、そして自然環境を取り上げ、それらの環境問題の内容と対応方を学ぶ。最後に、都市の総合的な環境政策を学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 本科目は、コミュニティ政策学科の専門科目であり、将来、公務員を目指す学生にとって重要な科目の一つである。公共政策論、地域社会論、まちづくり学などと合わせて学ぶと理解が深まる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 環境は地域社会にとって非常に重要な要素であり、環境を保全し、次世代に継承していくことは我々にとっての責務である。社会人として、環境問題と対応策に関する知識を身につけることを学びの目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業の感想・意見（5%）、授業中の小テスト（20%）、課題（30%）、期末テスト（35%）、出席点（10%）で総合的に評価する（予定）。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

選択 社会保障論	春 週2回 4単位
担当者：田中 聡一郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1 内容 私たちが生活するうえで、社会保障制度は欠かせないものである。この講義では、生活の上で直面するさまざまなリスクに対して、社会保障制度がどのように整備され機能しているのか検討する。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ この講義を受講するために事前に受講しなければならない科目はないが、経済学の予備知識を持っていることが望ましい。</p> <p>3 学びの意義と目標 社会保障の基本的な理解を通じて、現在の社会問題についての認識を得られるようにすること。</p>	
<b>評価方法</b>	
最終試験80%、平常点（出席＋授業内課題）20%	
<b>教科書</b>	
植野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』有斐閣	

政治経済学部  
コミュニティ政策学科

<b>選択</b> リスク対応論	<b>秋</b> 週2回 4単位
担当者：標 宣男	
<b>講義の目標及び概要</b> 現代の生活環境をとりまく様々な危険性には、科学技術によってもたらされた人工的なものが多く存在する。これら人工環境の持つ危険性は、通常めったに顕在化することなく、個人の日常生活を著しく阻害することはない。しかしながら、現代はこのような環境からの圧迫に常にさらされており、現代人の生活のストレスともなっている。本講はこのような潜在的危険性をリスクととらえ、その対策を構ずるものである。もとより、リスクはこのような環境問題にのみ存在するわけではない。経済的事柄に対しても従来から適用されてきた概念である。そこで、本講ではリスクの一般的概念を述べることからはじめ、様々な分野におけるリスクの実際を明らかにするとともに、リスク評価、リスクコミュニケーション等からなるリスク管理の方法について延べ、リスクの許容とはどういうものかを考える。	
<b>評価方法</b> 期末試験およびレポートにより成績を評価する	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択</b> 近代政治思想	<b>秋</b> 週2回 4単位
担当者：川添 美央子	
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容 古代と中世の政治思想を概観した後、16世紀から20世紀までの政治思想の成立と展開を追う。まず、私達が生きる近代国家のうちどの様な理念がこめられ、またそれがどのような歴史に支えられて成り立ってきたかを考察する。とはいえずらに近代国家を礼賛するのではなく、最初に古代と中世を学ぶことを通じて、近代が置き忘れてきたものについても合わせて目を向けたい。 (2)カリキュラム上の位置づけ 近代国家を成り立たせている基本的な考え方を学ぶという意味では基礎的な科目である。しかし抽象的な概念が多いため、実際には難しく感じられるかもしれない。必修の「政治学」よりは難しい。 (3)学びの目標 一見繁栄しているように見えながら病んでいる社会もあれば、目立たなくとも健全な社会もあるだろう。本当に善い社会とは何か。それは現実に存在しうるか。実現するにはどうすればよいか。本講義を通じ、このような問をたずさえずつ、現実の社会を複眼的に見ようとする態度の育成を目指したい。	
<b>評価方法</b> 平常点(毎回の小レポート、積極的な質問など)4割、定期試験(中間試験と期末試験)6割の比率で評価。(ただし人数が少なくゼミ形式とした場合は平常点5割、レポート5割の比率で評価する。)	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択</b> 政策評価論	<b>春</b> 週2回 4単位
担当者：大藪 俊志	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 政策評価とは、一般に公共政策の効果を分析・評価する制度ないし改革手法を指します。その目的は、評価に関する情報を政策の企画や改善に反映させ、市民に対する説明責任を果たし、効率的で質の高い行政を実現することにあります。日本における政策評価は、まず先進的な地方自治体において試みられ、その後国が導入するという経緯を辿りました。講義では、政策評価に関わる考え方や歴史的な経緯、評価手法を紹介するとともに、中央・地方政府における実務上の取り組みについて検討を行う予定です。 2. カリキュラム上の位置づけ 政策評価論は、特に行政学、公共政策論、政治過程論、地方自治論などと深い関連がありますが、受講に当たり特段の予備知識は必要ありません。 3. 学びの意義と目標 政策評価の概念や理論的な背景について基本的な知識を学びます。また、国や地方自治体における政策評価制度の現状と課題、今後の可能性などについて知見を得ることを目標とします。	
<b>評価方法</b> 学期末試験(50%)と授業の出席状況など平常点(50%)を総合的に勘案して評価します。詳細は授業内で指示。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 地域福祉</b>	<b>春 週2回 4単位</b>
担当者：大塚 健司	
<b>講義の目標及び概要</b>	
講義の目標及び概要 1、目的 少子・高齢社会の進展に伴い、福祉をとりまく状況も急激に変化して来ております。 この講義では、このような状況や、最近の介護保険、社会福祉基礎構造改革、障害者自立支援法など、福祉の体系や、社会保障制度の変遷について考え、さらに、社会福祉法で位置づけられた「地域福祉の推進」について考えます。 また、「地域」と「福祉」がどう係わり合い、地域社会を形成しているのか、「福祉のまちづくり」について考えます。 2、カリキュラム上の位置づけ 行政系統の専門科目である。福祉諸制度と地域社会がどう関わっているのか基礎的なことを学ぶ。 3 学びの意義と目標 福祉諸制度と地域社会の関わりの中で、一住民として考え、地域福祉の基礎的なことを学ぶとともに「福祉によるまちづくり」を考える。	
<b>評価方法</b>	
新聞記事等感想レポート20%、学期末レポート60%、出席20%によって評価を行う	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>選択 公的扶助論</b>	<b>秋 週2回 4単位</b>
担当者：楠 伴夫	
<b>講義の目標及び概要</b>	
(内容) 豊かな社会といわれる中で、公的扶助の前提となる「貧困」「生存権」を学ぶ。病気、事故、障害、雇用不安、リストラなど現代はリスク社会となっている。社会の変遷の中で、リスクを分散する社会保障制度の基礎的理解をしながら、公的扶助（生活保護）の歴史・機能・役割を学ぶ。また、格差社会ともいわれる今日、雇用や社会保障制度のあり方について学ぶ。また、福祉事務所や児童相談所などの行政機関の役割を、具体事例を通じて学ぶ。「自助」「共助」「公助」の意味を理解する。 (カリキュラム上の位置づけ) 憲法の生存権を学び、社会保障制度全般への理解を深める。家族の役割の変化、雇用制度の多様化など関連分野に関心を持つ。 (学びの意義と目標) 「貧困」「生存権」などについて、様々な考えを学ぶ。また、社会保障関連の判例を通じて、論点・課題を明確にし、社会の価値観や自分の考えと比較考量し論理的思考を養う。 (参考文献)「高齢社会の法律」佐藤 進編 早稲田大学出版会	
<b>評価方法</b>	
中間時に、プレゼンテーションの実施。表現方法、まとめ方を評価のポイントとする。 期末テストにおいて、レポート(教科書・参考図書持込可) 800字作成。テーマはテスト当日指示する。論点の明確化を、5割の評価とする。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する 阿部 實『新 公的扶助論』川島書店	

<b>選択 埼玉地域政策研究</b>	<b>秋集中 2単位</b>
担当者：大塚 健司	
<b>講義の目標及び概要</b>	
(講義目標) 本講座では、国の制度や施策と地方分権時代と言われながらも、地方自治体としての埼玉県が、その狭間で、各分野においてどのように政策決定してきたか、また、ますます厳しさを増す財政状況のなかでどう政策展開を図るべきなのか、具体的なケース事例等を通して、実践的な視点から埼玉県を研究対象にし、問題解決の糸口を探ることを狙いとしている。  参考文献 編集・発行 埼玉県総務部統計 『埼玉県のすがた2010』	
<b>評価方法</b>	
毎回の講義内容等について、原則、次回レポート提出。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>選択 Civilization &amp; Environment</b>	<b>秋 週1回 2単位</b>
担当者：村上 公久	
<b>講義の目標及び概要</b>	
Culture is spiritual abstraction or blueprint of civilization. And civilization is concrete substance of culture. No civilization was established with small population which could survive within consumption of excessive production of ecosystem. People survived within the carrying capacity of nature until civilization built. Civilization has emerged as the population growth support system. In this course, we comprehend civilization as man-institution system. And man-institution system may be carried out under the restraints of man-environment system. It is worth to study on cultivation and agriculture as population growth support instrument and to study city as over population accumulation instrument. Environmental issues of the world today could be well understood in these two instruments study. Expansion limit determination of man-institution system and control of it through study of man-environment system will provide suitable strategy for Sustainable Development.	
<b>評価方法</b>	
Graded mainly by class contribution through discussion, and then by reading assignments, performance, term papers (critical article response paper), and an end-of semester final closed-book exam. No midterm exam.	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

政治経済学部  
コミュニケーション政策学科

選択 ミクロ経済学	春	週2回	4単位
担当者：中野 宏			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容 本講義ではミクロ経済学の基礎および応用理論を学習する。消費者がモノを買う、企業がモノを作る、市場でモノの価格が決まる、政府が課税や規制を行う、など日常的に行われている様々な経済活動の行動法則や決定原理を明らかにすることで、いかなる経済の状態が社会的に最も望ましいのか、またそれを実現するためにはどうすればよいかを探っていく。少なからず数学を用いるが、必要最小限のものについては折に触れて説明する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 本講義は経済学系の専門科目であり、履修には必修科目「経済学」の修得が義務づけられる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 将来学生諸君がどのような職業につこうと、社会に出れば経済を知ることは必須となる。テレビや新聞などマスコミ報道を鵜呑みにするのではなく、自分の目で見て自分の考えで決定を行えるような知性と分析道具を本講義で身に付けてもらえたらと願う。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席点30%、平常点および課題提出1回と期末テスト70%で評価する。平常点は授業態度や質問など授業に積極的に参加しようとする意欲に対する評価である。課題提出や期末テストで思わしくなくとも平常点で挽回可能なので頑張ってください。			
<b>教科書</b>			
賀川昭夫・戸田学・浜野忠司『FirstStep ミクロ経済学』有斐閣			

選択 日本経済論	秋	週2回	4単位
担当者：大森 達也			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1980年代、歴史上類を見ない経済発展を成し遂げてきた戦後日本経済は、その経済力に見合った責任を果たすように国際社会より求められていた。しかし、「失われた10年」と呼ばれるように、1990年代には、まさに過去の成功の故に、制度的に疲弊し、矛盾を露呈するにいたった。21世紀に入り、中国の急速な発展、国際通貨としてのユーロの台頭、さらには、サブプライム問題以降において世界経済は回復基調にあるにもかかわらず、そうした波にも乗り遅れてきている様子が見受けられるのが、日本経済といえよう。</p> <p>日本経済は、今後どのような方向に進んでいくのだろうか？あるいは、どのように変化するのだろうか？21世紀を生きる学生諸君にとって、日本経済にたいする的確な現状認識と将来的な展望を持つことは、非常に重要であることは言うまでもない。本講義では、戦後の日本経済の成立、その発展の軌跡、経済政策あるいは体制上の特徴などについての講義を通じ、日本経済の現状と将来的な展望を得ることを目的とする。</p>			
<b>評価方法</b>			
(1) 中間及び期末の筆記試験 (それぞれ35%) (2) 1,200字程度のブックレポート3回 (各10%)			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選択 マクロ経済学	秋	週2回	4単位
担当者：石部 公男			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 目的 経済理論のうちマクロ理論を中心に経済理論と経済政策との融合を理論的また経験的に理解させる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 経済学を履修したものが、さらに学習することを前提としている。その種にカリキュラム上は2年次生以降の履修とする。</p> <p>3. 学びの意義と目標 やや深くマクロ経済理論を理解し、その後の更なる専門的内容を学習するための基礎とする。同時に自ら経済現象を理解し自分の生活に応用できる知識を修得させることを目的とする。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席点30% 平常点20% テスト50%			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する 中谷巖『マクロ経済学入門 (第2版)』日本経済新聞社 (日経文庫)			

選択 Japanese Economy Today	春	週1回	2単位
担当者：大森 達也			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>Today, Japan has been asked in the world to fulfill her responsibility corresponding her economic strength. However, Japan of the 1990's plunged into the downward economic spiral after the burst of what we call "Bubble Economy," and, in turn, ended up showing some inconsistency in terms of economic system.</p> <p>In which direction will the future Japanese economy progress? Or how will she change in terms of economic system. It is very important for the students who will live in the 21st century to have the answers to these questions.</p> <p>The aim of this class is thus to obtain some prospective view on the Japanese economy through studying the postwar Japanese economy, namely, the characteristics of her development, her economic policies, her institutions, and etc.</p>			
<b>評価方法</b>			
(1) Mid-term and final exams (35% each exam) (2) Research Paper — 2,000 words (30%)			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選択 産業経営論A	春	週1回	2単位
担当者：西川 太一郎			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1、内容 電機、自動車、エレクトロニクス、情報、ロボット、コンテンツ産業など、わが国の経済を支えている産業について、経済産業副大臣及び大臣政務官などを務めた経験を基に、最近の産業動向とそれが抱える課題及び政府の産業政策を解説する。また、経営の経済学（ビジネスエコノミクス）についても、経営の全般的な事項について体系的に優しく基礎から解説する。なお、産業政策形成のプロセス、仕組み、様々な努力の作用、実施システムなどを経営学の視点も交え講義するつもりである。			
2、カリキュラム上の位置づけ 日本の産業に対する興味・関心を養うとともに、経済、経営に対する基礎的な理解を身につけるための導入科目である。			
3、学びの意義と目標 日本の産業についての理解を深めると共に、ビジネスに役立つ経済学、経営学を習得することにより、将来の進路に役立てる。産業、経済に関する基礎的な用語を理解する。			
<b>評価方法</b>			
出席状況40%、授業態度60%によって算出する。 なお、上記の配分割合において、評価しがたい時はレポート提出を求める。その際の配分割合は、出席状況40%、授業態度30%、レポート30%によって算出する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 産業経営論B	秋	週1回	2単位
担当者：西川 太一郎			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1、内容 電機、自動車、エレクトロニクス、情報、ロボット、コンテンツ産業など、わが国の経済を支えている産業について、経済産業副大臣及び大臣政務官などを務めた経験を基に、最近の産業動向とそれが抱える課題及び政府の産業政策を解説する。また、経営の経済学（ビジネスエコノミクス）についても、経営の全般的な事項について体系的に優しく基礎から解説する。なお、産業政策形成のプロセス、仕組み、様々な努力の作用、実施システムなどを経営学の視点も交え講義するつもりである。			
2、カリキュラム上の位置づけ 日本の産業に対する興味・関心を養うとともに、経済、経営に対する基礎的な理解を身につけるための導入科目である。			
3、学びの意義と目標 日本の産業についての理解を深めると共に、ビジネスに役立つ経済学、経営学を習得することにより、将来の進路に役立てる。産業、経済に関する基礎的な用語を理解する。			
<b>評価方法</b>			
出席状況40%、授業態度60%によって算出する。 なお、上記の配分割合において評価しがたいときは、レポート提出を求める。その際の配分割合は、出席状況40%、授業態度30%、レポート30%によって算出する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 社会経済論	秋	週2回	4単位
担当者：正上 常雄			
<b>講義の目標及び概要</b>			
カリキュラム上の位置づけ 専門選択科目であり、経済学を履修後、1年次秋～2年次に履修するのが望ましい。			
目的 経済学という難しい数式やモデル化された学問というイメージが強く、社会の中でそれが何の役に立つのか分からないという声が多い。今回、社会経済論として学習するのは、現実の社会の中で、経済的な問題がどのように捉えられているかということである。			
現実の経済問題について考察できるようなしっかりした知識を身に付けることを目標とする。			
毎日の生活に使える生きた経済学を学ぶために、インセンティブなど個人の経済合理的な行動とは何かを中心に書かれたテキストを使用する。経済学的な思考で社会を眺めて欲しい。講義では、テキストを中心に様々な経済的な話題についてもその都度、考えてゆく予定である。経済学を通じて現代社会への理解を深め、世の中の問題に対して自分の頭で考える習慣を作ってほしい。学生の意見も取り入れながら柔軟に授業をしていきたいと思っているので、経済学はちょっと苦手という人もチャレンジして下さい。			
<b>評価方法</b>			
大学の規定にある出席日数に足りていることを前提に、中間試験、期末試験、および平常点で評価する。評価の割合は中間試験40%、期末試験50%、平常点10%とする。出席点は考慮しない。			
<b>教科書</b>			
山岡道男 浅野忠克『アメリカの高校生が読んでいる 経済の教科書』アスペクト			

選択 管理学	秋	週2回	4単位
担当者：清澤 達夫			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1、目的 管理とは、2人以上の人間が協働して目的を達成するために組織を作って活動する場合、より能力が発揮できるように行なう機能のことです。よって本講義では、いずれ社会に出て様々な場面で活躍される皆さんが直面するであろう「管理」に関わる領域を考えようとするものです。			
2、カリキュラム上の位置づけ 戦略的な内容やマーケティングは、「経営学」の方で触れますので、そちらも履修していただければ、より管理学の全貌が理解していただけたらと思っております。			
3、学びの意義と目標 考える視点は、どうしたら組織の仲間が意欲を持って協働して仕事をしていけるかの人間への洞察であります。その上で、有効な管理行動の原理・原則を学びながら、現場における日常管理について講義・演習・ケース研究を通じて身につけていきたいと思っております。			
<b>評価方法</b>			
配点は、講義出席：30%、学期末定期試験（レポート）35%、ケース・レポート：35%とします。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

<b>選択 会計学</b>	<b>秋 週2回 4単位</b>
担当者：成川 正晃	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 会計情報は、受託責任を明らかにしたり、意思決定に役立つ情報を提供したり、様々な利害関係者の利害を調整するのに用いられます。このような会計情報の作成原理や、利用方法を学ぶのが会計学です。講義では、なるべく具体的な例を用い、絶えず現実の経済事象を意識できるように工夫して進めていきます。	
2. カリキュラム上の位置づけ この科目は、専門科目の一つとして経済事象を理解するための基礎的考え方を把握するための授業です。また、会計学は組織経営の実学としての側面を有しています。したがって、他の教科で学んだ理論等の応用形態を実際に垣間見る科目であるともいえます。	
3. 学びの意義と目標 会計学では、会計情報の作成原理を理解するとともに、その利用方法を学習していきます。したがって、会計学の一端を学習することで、企業人としての基礎を身に付けたこととなります。具体的には、企業の各種財務資料の作成から、分析方法まで学習していきます。このことにより、「企業を見る目を養う」というのが会計学を学ぶ目標となります。	
<b>評価方法</b> 評価点 (100%) = 課題・出席点 (50%) + 定期試験 (= レポート試験) 点数 (50%)	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 中小企業論B</b>	<b>秋 週1回 2単位</b>
担当者：砂川 和彦	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 春学期の中小企業論Aの続編である。中小企業論Aは講義形式の授業であるが、本講義ではケーススタディも取り入れた授業を行い、授業での発言を歓迎する。 後半は、中小企業の企業戦略論にスポットを当てて授業をする。中小企業のみならず、企業戦略全般に関心のある学生にも受講して頂きたい。	
2. カリキュラム上の位置づけ 中小企業に関してケーススタディを織り交ぜながら学ぶ専門科目である。経済学の重要領域である。	
3. 学びの意義と目標 自らが、中小企業（ベンチャー起業）を起業したつもりになって企業戦略を考えられるようになる、という状態に少しでも近づきたい。	
<b>評価方法</b> 出席状況・平常点 (60%)、レポート (40%) 授業は講義形式で行うが、授業への積極的参加を奨励し、参加については加点する（間違ったことを発言しても減点はしない）。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 中小企業論A</b>	<b>春 週1回 2単位</b>
担当者：砂川 和彦	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 中小企業は、法人企業数で99%以上、雇用者数で約75%を占める日本経済を支える重要な主体である。一方で、ニュース等では話題になることが少ない経済主体でもある。本講義では、中小企業が直面する様々な問題を解説し、日本経済の発展、変化と中小企業の関係について分析する。	
2. カリキュラム上の位置づけ 中小企業が直面する諸問題を学ぶ専門科目である。経済学を学ぶ者にとって重要な領域である。	
3. 学びの意義と目標 多くの人が仕事をしている中小企業という環境に関して学び、現代の中小企業が直面する問題に関して理解を深めることを目標とする。	
<b>評価方法</b> 出席状況・平常点 (50%)、試験 (50%)	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 民法A (総則・物権)</b>	<b>春 週2回 4単位</b>
担当者：松谷 秀祐	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容：民法は、私人間の法的関係を定めている法律である。本科目は民法の中で第1編総則（第1条から第174条の2）と第2編物権（第175条から第398条の22）を講義の対象とする。しかし、それら全ての条文について説明し、その内容を覚えてもらうことが講義の目的では決していない。まずは、基本的な枠組みを把握することを目標として現在の取引社会において特に必要不可欠な制度・条文について具体例を用いながら説明する。	
2. カリキュラム上の位置づけ：本科目は、必修の専門基礎科目である「法学」を修得済みの学生が、私人間の関係を定めている法律の典型例である民法について、「広く、深く」学ぶための法学系専門科目の一つである。	
3. 学びの意義と目標：無人島で自給自足生活をしようとする者以外、民法と関わりを持たなくてもよい者はいない。自分（たち）が民法によって規律されている世界に生きていることを実感し、身の回りに法的な問題が生じたときに何となくでもよいので自身で解決の糸口を見出せる能力を身に付けることを目標としたい。	
<b>評価方法</b> 小テスト（第13回講義時を予定）30%、および学期末試験70%	
<b>教科書</b> 平野裕之『基礎コース 民法1 総則・物権法 [第3版]』新世社	

選択 民法B (債権)		秋	週2回	4単位
担当者：松谷 秀祐				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容：民法は、私人間の法的関係を定めている法律である。本科目は民法の中で第3編債権（第399条から第724条）を講義の対象とする。しかし、それら全ての条文について説明し、その内容を覚えてもらうことが講義の目的では決していない。まずは、基本的な枠組みを把握することを目標として現在の取引社会において特に必要不可欠な制度・条文について具体例を用いながら説明する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：本科目は、必修の専門基礎科目である「法学」を修得済みの学生が、私人間の関係を定めている法律の典型例である民法について、「広く、深く」学ぶための法学系専門科目の一つである。</p> <p>3. 学びの意義と目標：無人島で自給自足生活をしようとする者以外、民法と関わりを持たなくてもよい者はいない。自分（たち）が民法によって規律されている世界に生きていることを実感し、身の回りに法的な問題が生じたときに何となくでもよいので自分で解決の糸口を見出せる能力を養うことを目標としたい。</p>				
<b>評価方法</b>				
小テスト（第13回講義時を予定）30%、および学期末試験70%				
<b>教科書</b>				
平野裕之『基礎コース 民法2 債権法 [第2版]』新世社				

選択 民法C (親族・相続)		春	週2回	4単位
担当者：加藤 恵司				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>本講座は、民法の家族法に関する講義である。人は両親によって生を受け、家族と生活し、家族に看取られつつ亡くなっていく。家族は最も基本的、自然的な社会集団である。</p> <p>わが国の民法典には、旧民法といわれる法典があり、戸主を中心とする家族制度、家督相続制度があった。もう一つは、敗戦後の新憲法に基づいて、夫婦中心の家族制度、遺産相続制度がある。本講座は後者であるが、旧民法をも意識して学習する。</p> <p>近年の家族形態には、核家族、高齢家族、晩婚・非婚化、少子化の傾向が家族観に変化をもたらしている。「法律は家庭に入らず」という法諺があるが、法律と家族関係は無関係でよいのだろうか。たしかに「夫婦は愛し合うべきである」とか、「子どもを大切に育てよ」とか、「親を敬え」というような道徳観だけでは支えきれずに崩壊していく。裁判によって破綻を決定的にする家族が多く見られる。このような意識を抱きながら講義する。</p> <p>民法では、夫婦関係、親子関係を取り扱った「親族編」、相続、遺言などを取り扱った「相続編」を合わせた部分を家族法と称している。法律と現実を見つめ、判例など具体例を挙げながら現代の家族事情を分析してみたい。</p>				
<b>評価方法</b>				
試験は行わない。講義で論じられたUp-to-Dataな問題についてのレポートによって採点する方針である。				
<b>教科書</b>				
『コンパクト六法』岩波書店 『ポケット六法』有斐閣 『デイリー六法』三省堂				

選択 商法A (総則・手形・商行為法)		春	週2回	4単位
担当者：佐藤 文彦				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉 本講義では、商法上の諸制度とともに、手形法が規定する企業間取引の支払手段・信用手段としての手形制度を、一般法である民法上の諸制度と対比させ立体的かつ体系的に学んでもらう。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 企業の対外的活動を法的観点から理解することは政治・経済を学ぶ者にとっても有益である。企業一般の活動を規律する法としての商法総則・商行為法、これに関連する手形法を総じて商法Aとし、専門科目群コミュニティ経営系統の選択科目として開講する。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 将来起業しようとする者や企業に就職しようとする者にとって必要な、企業実務、とりわけその対外的活動に携わる者としての法実践的な素養を身につけることを目標とする。</p>				
<b>評価方法</b>				
学期末試験の結果をもって評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する 落合誠一ほか『商法1総則・商行為 第3版補訂版』有斐閣 大塚龍児ほか『商法3手形・小切手 第3版』有斐閣 奥田昌道ほか『岩波判例基本六法 平成22年版』岩波書店				

選択 税法A (所得税)		春	週2回	4単位
担当者：稲田 圭祐				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>本講義は所得税についての理解を深めることを目的とします。</p> <p>「なぜ税金を支払わなければならないのか」「租税の意義とは何か」といった基礎理論から、「どのくらい稼げばいくら税金を納めなければならないのか」という税額の計算まで、所得税に関して広く取り扱います。簡単な所得税の計算ができるようになることが本講義の最終目標です。</p> <p>将来、事業を起こそうと思っていたり税理士を目指している人はもちろん、そうではない方も、最も身近な税金である所得税について知ることは、大変重要なことです。節税方法を知らなかった為に支払う税金が多くなったら損をした気分になりませんか。そうならないためにも、本講義によって所得税に関する基本的な知識を身につけて欲しいと思っています。</p> <p>皆さんと共に税金について考えていきましょう。</p>				
<b>評価方法</b>				
出欠確認を兼ねた簡単な小テスト及び定期試験により総合的に評価します。				
<b>教科書</b>				
小田満『やさしい所得税（平成21年度版）』大蔵財務協会				

<b>選択 税法B (法人税)</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：山田 直夫
<b>講義の目標及び概要</b>
1. 内容 法人税は企業の所得にかかる税金である。本講義では、この法人税を規定する法人税法の基礎的な内容をできるだけ平易に解説する。法人税額の計算方法を中心に講義するが、法人税制の国際比較、現行法人税制の課題、改革の方向などについてもできるだけ触れていく予定である。
2. カリキュラム上の位置づけ 入門的な位置づけである。なお会社法、簿記、会計学、財政学などが本講義の内容と関連がある。ただし本講義ではそれらの知識を前提としない。
3. 学びの意義と目標 法人税法の全体像を理解すること。 法人税が企業活動や我々の生活に与える影響を理解すること。
<b>評価方法</b> レポート (30%)、期末試験 (30%)、出席 (40%)
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 経済学史</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：鈴木 真実哉
<b>講義の目標及び概要</b>
1. 内容 現代の経済学の教科書は、過去の経済学の偉人たちの業績の集大成である。これを分解して、個々の経済学者の生き方と理論について解説する。現代では、あまり触れられないことのない経済学の碩学についてもできるだけとりあげる。時代的には、「経済学」が独立した学問となったとされるアダム・スミスの時代以降である。
2. カリキュラム上の位置づけ 様々な経済理論や政策、制度の背景を理解する科目である。選択専門科目ではあるが、多くの学生に受講してもらいたい。経済思想の歴史を学ぶ科目である。
3. 学びの意義と目標 現代の経済的発展は多くの過去の偉大な経済学者の努力の上に成り立っている。この科目はこの事実を具体的に理解できるようになっている。その生き方と思想は多大な感銘をもたらすであろう。
<b>評価方法</b> 定期試験の結果、出欠状態を総合的に評価して成績をだす。レポートを課すこともある。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 金融論</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：鈴木 真実哉
<b>講義の目標及び概要</b>
1. 内容 金融に関する基礎概念の修得に力点を置く。その上で、日本における金融現象を中心に、理論、政策、トピックスについて解説する。とくに、1990年代から現在に至るまでの日本金融史上でも稀である大変革期について、その本質と今後の方向性について解説する。たとえば、金融ビッグ・バン、大蔵省の改組、日本銀行法改正、郵便貯金の民営化、不良債権問題、などである。
2. カリキュラム上の位置づけ 「金融」に無縁で生活できない現代において、すべての学生に学んでもらいたい科目である。社会科学系統の科目にとり、政治経済学部における両学科学生にとって共通専門科目となっている。現代の人間として知っておくべき知識を提示している。
3. 学びの意義と目標 現代に生きる人間として知っておくべき「金融」に関する基礎知識を修得できる。難解な金融現象の理解が深まる。
<b>評価方法</b> 定期試験の結果と出席状態で総合的に考慮して成績を評価する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 金融市場論A</b> <span style="float: right;">春 週1回 2単位</span>
担当者：柴田 武男
<b>講義の目標及び概要</b>
金融市場論Aは、「金融市場の現状と課題」をメインテーマに行う。金融市場とは、その名の通り金銭をやり取りする市場であり、その中心的存在が銀行・証券会社・保険会社・投資信託等の金融機関である。したがって、金融市場を明らかにすることは、それら中心的な市場参加者である金融機関の役割を明らかにすることでもある。そのために、まず、本講義では都市銀行、地方銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、証券会社、保険会社といった金融機関の解説に重点をまず置く。
また、金融市場は近年とくにすさまじい勢いで変貌する市場であり、また、その変化が国民経済に深刻な影響を与えている。一例として、不況の深刻化で中小企業への資金供給が問題となっており、その対応策として中小企業等金融円滑化法案が制定されたことである。本講義では、日本経済新聞を教材の一つとして、金融問題を中心に経済記事を詳細に解説する時間を設ける。また、経済ニュースを中心とした番組「クローズアップ現代」「ガイアの夜明け」「カンブリア宮殿」「NHKスペシャル」なども活用して、できるだけ初学者にも理解できるような講義を心がけたい。
<b>評価方法</b> 評価は、講義中に課すレポート (50%) 及び定期試験 (50%) 結果と出席状況とを総合して行う。
<b>教科書</b> プリントを配布する



<b>選択 金融市場論B</b> <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：柴田 武男
<b>講義の目標及び概要</b> 金融市場論Bは、「金融市場の理論と現実」をメインテーマに行う。我が国では、出資法と利息制限法という二つの法律を中心に金利規制の体系が構築されている。この金利規制を巡って近年議論が盛んに行われているが、ここでは改正貸金業法をとりあげ、理論と現実の対立関係を具体的に詳述していきたい。 2010年6月までに改正貸金業法が施行される予定であり、同法の完全実施に向けて金融庁で議論がいま現在行われていて、その内実はシラバス執筆時点で確定していない。諸君と共に一緒に勉強していきたい。このように金融市場はすさまじい勢いで変貌する市場であり、一年、二年遅れの教科書では現実の金融市場を講義できない。したがって、本講義では、講義当日の日本経済新聞を教材の一つとして、金融問題を中心に経済記事を詳細に解説する時間を設ける。また、NHKスペシャルとして話題となった「マネー資本主義」などのテレビ番組も積極的に取り上げて解説していきたい。 本講義を通して、金利決定のメカニズムと金利規制の意味の理解と同時に日経新聞をビジネスツールとして活用する方法まで教授することが目的である。
<b>評価方法</b> 評価は、講義中に課すレポート（50%）及び定期試験（50%）結果と出席状況とを総合して行う。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 コミュニティ・ビジネス論</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：瀬名 浩一
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 行政に依存しがちな住民・法人の意識を変革し、ビジネスを通じて地域の価値を創造することが求められる。地域から始まるコミュニティ・ビジネスは、活動範囲をさらに広げ、社会問題を解決するソーシャル・ビジネスとしての展開も期待される。 まちづくり、産業振興、高齢者介護、子育て支援、環境保全などの分野である。それに伴い我々の働き方も変わってきた。今までのように公共団体、企業などに終身雇用されるのではなく、起業することにより経営者として独立することが目標になってきた。チャンスを生かすためには、起業論、NPO経済論、社会経済論などを学ぶ必要がある。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 経営系の専門（選択）科目。3、4年生の受講を推奨。1、2年生で「FP入門講座」「簿記」「経営学」を学んでおくことを勧める。 〈学びの意義と目標〉 「まちづくり」「地域福祉」を例にとり、起業のための組織作り、資金調達、地域への根付き方などを実践的に学べる。
<b>評価方法</b> 出席点26%、小テスト24%、期末テスト 50%
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 コミュニティ・ビジネスの現場</b> <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：瀬名 浩一
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 日本経済が成熟し、少子高齢化、財政逼迫化が進む中、中央集権的な地域政策は行きづまり、これに代わって地域の自立を促すコミュニティ政策が求められている。そこでは、地域の個性や魅力を再発見し、行政に依存しがちな地域住民や企業の意識を変革し、ビジネスを通じて地域の問題を解決することが不可欠である。 新科目「コミュニティ・ビジネスの現場」では、まちづくり、福祉、交通、環境などコミュニティ・ビジネスの現場を支える経営者、利害関係者から「何をしているのか?」「誰を助けるのか?」など地域経営の実情を聞き、将来「社会起業家」として独り立ちするために必要な起業家精神・組織づくり・資金調達などを学ぶ。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 経営系の専門科目。3、4年生の受講を推薦。 〈学びの意義と目標〉 異なる分野の社会起業家たちから直に起業家精神を聞ける。
<b>評価方法</b> 各回の講義の最後に講義にかかわるレポート課題が出される。それらに対する提出レポート採点の平均点をもって、最終評価とする。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 国際ビジネスの現場A</b> <span style="float: right;">春 週1回 2単位</span>
担当者：柴田 武男
<b>講義の目標及び概要</b> 国際ビジネスの現場で活躍した複数のビジネスマンOBが講師を務める、オムニバス方式の講座である。各講師が現役時代に携わった事業（産業）を、講義ごとのサブテーマとする。卒業後に実業社会を目指す学生たちに、生々しいビジネス現場の状況を語り、ビジネスへの心構え、そして社会人の先駆者としてのメッセージを送る。 日本経済の先行きには不透明感が漂う中、グローバル大競争に備えたビジネス界の体制作りが急がれている。本講座では、これからの日本経済を支えと期待されるビジネス分野に照準を合わせ、それらが変わりゆく市場環境に挑む姿を通して、今後日本経済が進む方向性を理解する。
<b>評価方法</b> 総論を除く各講師の2回目の講義の最後に、講義にかかわるレポート課題が出される。それらに対する提出レポート採点の、平均点をもって最終評価とする。たとえ出席してもレポート提出のない場合、その部分の採点は0点となる。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 国際ビジネスの現場B</b> <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：柴田 武男
<b>講義の目標及び概要</b> 戦後の復興目覚しく、世界第2位の経済大国となった日本。その原動力として、国際ビジネスの現場で汗を流した元ビジネスマンたちが、自らの体験を語り、さらには、将来実業界での就職を希望する学生たちに対して、ビジネスへの基本的な心構えや、社会人の先輩としてのメッセージを送る。 講座は13コマより成る、オムニバス方式を採る。各講師は、それぞれ違った産業界の出身者で、対象となる産業は、いずれも戦後日本の経済成長を大きく支えたものに的を絞る。 春学期開講の「国際ビジネスの現場A」で学んだ今後の日本経済の進む方向性への理解をさらに深めるために、その前提条件となる戦後確立された日本経済の基礎構造とその特徴を学ぶ。
<b>評価方法</b> 総論を除く各講師の2回目の講義の最後に、講義にかかわるレポート課題が出される。それらに対する提出レポート採点の平均点をもって、最終評価とする。たとえ出席してもレポート提出のない場合、その部分の採点は0点となる。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 ビジネス実務B</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：森 久子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容： Bでは、ビジネス文書を中心として、社会で働く上で必要とされる業務知識と技能、及び一般知識を学びます。秘書検定試験2級の問題も事例として扱いますので、受験対策に役立ちます。 2. カリキュラム上の位置づけ 「社会人入門」という位置づけです。 3. 学びの意義と目標 学生と社会人の違いを認識し、社会人として求められる基礎力のうち、特に書く力をつけます。学んだ結果として、秘書検定2級に合格することも目標とします。
<b>評価方法</b> 期末試験：40%、レポート提出：30%、講義出席：30%
<b>教科書</b> 監修：小泉佳子『新バイリンガルオフィス実務』社団法人 日本秘書協会

<b>選択 秘書学概論</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：森 久子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 秘書になるための基礎知識を学びます。秘書の基礎知識は、社会人に必要な知識と多くが重なっています。従って、社会人としての基礎知識を習得することにもなります。 2. カリキュラム上の位置づけ 「社会人入門」という位置づけです。授業で学ぶ理論のケース・スタディとして、秘書検定問題も取り上げて、正誤の理由を理解します。秘書検定2級を目指す学生は、同時に秘書検定講座を受講することをお勧めします。 3. 学びの意義と目標 秘書として、そして社会人としての基礎力を身につけることと、その結果として秘書検定2級に合格することを目標とします。
<b>評価方法</b> 学期末試験：40%、レポート提出：30%、講義出席：30%
<b>教科書</b> 有賀秀春『秘書概論』学事出版

<b>選択 日本的経営論</b> <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：清澤 達夫
<b>講義の目標及び概要</b> 日本のカイシャは、従来の伝統的な経営理論で理解したい箇所があり、特殊性理論として扱われてきました。では、本当に日本のシステムは普遍性がないのでしょうか？そこで、日本のカイシャの特徴がはつきり出てくる人事制度、生産システム、意思決定を中心に欧米のシステムと比較しながら考えていってみたいと、思います。 そうすることで、就職に対する素朴な疑問や悩みに応えていくのではないかと、考えております。特に、留学生の学生で卒業後にわが国のカイシャに就職を希望している学生は、どうして採用がうまくいかないのか、何が求められるのか、理解できると思います。
<b>評価方法</b> 評価は、出席が50%、期末定期試験が50%です。
<b>教科書</b> プリントを配布する

選択 商業経営論		春	週1回	2単位
担当者：市原 実				
<b>講義の目標及び概要</b>				
講義の目標及び概要				
1. 目的 世の中の 商業活動の実態と経営の方法について実務面にも配慮し 将来役立つことを想定して進めます。				
2. カリキュラム上の位置づけ まず 商業を業界全体で捉え 次に 分野別に詳しく研究しその後 経営内容にふれることにします。				
3. 学びの意義と目標 商業の経営を実務的に理解できることを目指します。				
<b>評価方法</b>				
次の点で判断します。				
○ 出席の状況・40%				
○ 数回のミニレポート・20%				
○ 課題（私の考える商売）のレポート・40%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 マネジメント		春	週2回	4単位
担当者：後藤 兼一				
<b>講義の目標及び概要</b>				
講義の目標：会社の経営管理に関心のある人及び将来親の会社を継ぐかも知れないと思っている人を対象とする。				
本講義ではより良い経営管理をするためには何をどのように改革改善すれば良いかということについてカレー屋やそば屋、及び大手企業の例をもとに実践的に学ぶ。本年度のねらいは改革改善の基本である経営『コンサルティングの切り口』を理解することである。将来実際に企業に入って役に立つと思われる。				
カリキュラム上の位置づけ：経営管理を学ぶ上で基礎となる科目の1つである。本科目が開講されていない年度には経営管理を履修すること。				
講義の概要：テキストを使い、経営管理の現場をどのように分析・把握したらよいか、経営管理の問題点・課題などをどのように整理したらよいか、そして経営管理の改革案・改善案をどのようにして立てればよいか、さらにどのように実施していけばよいかなどについて、実例をもとにわかりやすく勉強する。講義の特徴は、経営管理で使われている、用語を比較する形で行なわれるところにある。				
<b>評価方法</b>				
講義ではプリントに書かれている事例のほかにも多くの事例を話す。従って出席も重視する。評価は出席状況30%と試験結果70%を総合して決める。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する 後藤兼一『コンサルティングの切り口』日本能率協会コンサルティング				

選択 社会福祉施設経営論		春	週2回	4単位
担当者：櫻井 邦夫				
<b>講義の目標及び概要</b>				
近年、社会福祉施設の経営環境は、従来の「措置」から「契約」へと転換されて、施設機能そのもののあり方が問い直され——施設利用の契約化、サービスの質の重視、地域福祉の拠点としての施設の地域化、地域との連携強化等々大きく変化した。				
各種施設の多様な経営実態をふまえ、施設の現状と問題点を明らかにしつつ、施設経営のあるべき姿等について学習を進め、福祉サービス従事者等に求められる基礎的な知識と理論を修得することを目的とします。				
<b>評価方法</b>				
試験レポートで主に評価するが、ミニレポート（原則4回）や出席状況等を加味します。				
<b>教科書</b>				
瓜菓一美著『講義ノート 実践施設福祉経営学』文化書房博文社				

選択 FP入門講座		秋	週1回	2単位
担当者：江波戸 順史				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 FP（ファイナンシャルプランナー）は、人それぞれの生き方にあった保険対策、投資対策、税金対策など、プランを包括的に立案しその実行を手助けする専門家である。				
本講義では、基本レベルで、FPがどのようにプランを立案しその実行を手助けするのかを学ぶ。なお、講義の前半で内容理解、後半で演習問題を行い、FPに関する知識を高めるように努める。				
2. カリキュラム上の位置づけ 入門的な位置づけである。3級FP技能検定の入門レベル。				
3. 学びの意義と目標 人はさまざまな生き方をするが、それに応じたプランを作成する技能を身につけより良い人生を送ること。				
<b>評価方法</b>				
出席日数（40%）及び定期試験（60%）により総合的に評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

<b>選択 法政情報論</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：渡辺 英人
<b>講義の目標及び概要</b> 「法政情報論」高等学校普通教科「情報」教員免許取得を目的とする学生の必修科目である。現代社会におけるさまざまな「活動」にとり「情報」はもつとも重要な要素であると考えられている。この授業では「法学」「政治学」分野におけるさまざまな「情報」問題について解説し、理解してもらおう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。
<b>評価方法</b> 1. 授業への参加と理解度 (50%) 2. 発表およびレポート提出 (50%)
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 情報倫理</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：竹井 深
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容◆ 「社会における情報」をキーワードに、その「社会性」や「責任」といった問題に関しても対応できる人材を養成することを目的とする。講義においては、広い意味での「情報」を扱い、現代社会と情報、情報倫理などを解説する。とくに情報倫理については「時代とともに変化する『情報』」の観点から、学生自身が情報倫理の変容をどう受け取るべきか、ディスカッション形式で提案させるよう、授業を展開する。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 1～4年対象。コミュニティ情報系の選択必須科目であり、情報教職を履修している人や専門演習「情報倫理」を希望する人は必ず履修してほしい。 ◆学びの意義と目標◆ 情報倫理は、情報社会の新しい分野である。これからの情報社会を生きていくためには情報倫理は必要条件である。そこで、授業を通して、情報倫理とは何か、その必要性を一緒に考えてみたい。
<b>評価方法</b> 出席・授業態度 (40%)、期末試験 (60%)
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 情報処理</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：国分 道雄
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 本講義は情報化社会にあつて情報を科学的に理解するため、情報処理の基礎理論およびコンピュータの構造を学ぶためのものである。 コンピュータにおける情報の表し方・情報処理の特徴等の仕組みや働きを学び、内部の概念モデルを把握する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 コミュニケーション系統の専門科目であり、情報教職の必修科目である。 〈学びの意義と目標〉 アプリケーションシステムを利用する場合にも、表面的な操作を覚えるのではなく、内部での動作を科学的に理解することが重要である。自分の操作に統制感を持ち、問題解決のために主体的に利用できる態度と能力を身につける。
<b>評価方法</b> 実習が多いため、出席を重視する。 毎時間の提出課題の内容 (50%) と、学期末の筆記試験 (50%) により評価する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 情報システム論</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：国分 道雄
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 本講義は情報化社会にあつて各種問題を学生が解決するため、その解決方法としてコンピュータを使用して効率的に問題を処理できる能力を養うためのものである。 社会で現実存在する代表的な情報システムの特徴を理解し、設計・開発・運用・保守の技術についても修得する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 コミュニケーション系統の専門科目であり、情報教職の必修科目である。 〈学びの意義と目標〉 自ら情報システムを構築・管理できるようになるための技術・知識の基礎として、主に実習を通してプログラミングを習得することを目的とする。 講義の最後には各自がオリジナルのプログラムを作成する。
<b>評価方法</b> 実習が多いため、出席を重視する。 毎時間の提出課題の内容 (50%) と、学期末の筆記試験 (50%) により評価する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選択 コンピュータ応用実習A		春	週1回	2単位
担当者：鈴木 省吾				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(1)Microsoft Excelの高度な操作法を学ぶ。基礎的な内容の復習からはじめ、Excelの機能を最大限に生かす使い方を習得する。</p> <p>(2)Excelの基本的な操作を既に学んだ学生が、より有効かつ幅広くExcelを使うために必要となる操作法を学ぶ。単なる表計算を超え、統計処理や文書作成が行えるようにする。</p> <p>(3)社会での実用に耐えうるExcelの操作能力を身につける。</p>				
<b>評価方法</b>				
毎回の授業内の課題で評価する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 情報検索演習		春	秋	週1回	1単位
担当者：坂内 悟					
<b>講義の目標及び概要</b>					
<p>1. 内容 一次資料と二次資料をはじめとする情報検索の基礎知識を身に付け、データベースの情報検索における役割を理解する。また、データベースの基礎、歴史、作成プロセスなどを概観し、検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 本科目は、図書館情報学課程の必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 情報検索サービスを理解する。 インターネット上のサービスについて自由に操作できるスキルを習得する。 図書館司書として仕事をするための各種の情報サービスについて理解する。</p>					
<b>評価方法</b>					
試験85点 出席点と平常点を合わせて15点					
<b>教科書</b>					
緑川信之『新訂 情報検索演習』東京書籍					

選択 情報通信ネットワーク		春	週2回	4単位
担当者：竹井 深				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>◆内容◆ 現代社会は情報通信ネットワークによるデータ通信に基礎をおく高度情報通信社会となっている。講義ではこのことを踏まえ、情報通信ネットワークの基本的仕組みの理解とともに具体的なネットワークの構築及び設計ができるようにするためその技術と知識について学ぶ。ネットワークの伝送技術及びLAN、インターネットの仕組みや携帯電話、衛星通信などの問題についても取り扱う。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 2年～4年対象。コミュニティ情報系の選択必須科目であり、情報教職を履修している人は必ず履修してほしい。</p> <p>◆学びの意義◆ 情報社会では、生活においてもビジネス社会においてもネットワークは不可欠なものとなっている。情報伝達の手段としてのネットワークの基本的な構造や特徴を理解することは、これから情報社会に生きる者にとって必須の基礎知識となる。これらを学ぶことによりネットワーク社会におけるコミュニケーションのあり方について考えてもらいたい。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席・授業態度 (40%)、期末試験 (60%)				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 情報リスク論		秋	週1回	2単位
担当者：鈴木 省吾				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(1)インターネット社会における情報伝達に関わる脅威とその実情や対策を学ぶ。その上出席者各自がトピックを取り上げどのような対策が有効か提案を行う。</p> <p>(2)情報社会に参画する態度を育てる上で、重要なトピックの一つとなる情報リスクについて学ぶ。</p> <p>(3)個人の倫理観のみならず、法規制や技術的対策により情報社会が支えられていることを、自ら調べることを通して理解する。</p>				
<b>評価方法</b>				
10回以上の出席が評価の前提となる 評価は発表 (40%)、小テスト (30%)、レポート (30%) を対象とする。				
<b>教科書</b>				
佐々木良一、会田和弘『情報セキュリティ入門—情報倫理を学ぶ人のために』共立出版				

政治経済学部  
コミュニティ政策学科

選択 マルチメディア論	秋	週2回	4単位
担当者：石部 公男/二神 常爾			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>◆内容◆ 文字、音声、画像などのデータが一緒になったものをマルチメディアと呼ぶが、遠隔医療や教育の現場などでマルチメディアの技術が利用されている。前半の講義では、デジタル化など、マルチメディアに関わる基本技術を解説する。また、後半のコンピュータ実習では、講義で学んだ技術がホームページ作成時に利用されていることを体得する。一通り基礎技術を学んだ後に、自分の選んだテーマについてホームページを作成し、発表を行う。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 2～4年生対象。コミュニティ情報系の選択必修科目であり、情報教職を履修している人は必ず履修してほしい。</p> <p>◆学びの意義と目標◆ マルチメディアの技術に関するキーワードはデジタル化である。テレビのアナログ放送は2011年までにデジタル放送に移行予定になっている。音楽もデジタル化し、インターネットからダウンロードできる。本もデジタル化され始めた。デジタル化の技術を理解し、マルチメディアの基礎技術について理解を深めることは、我々にとって必要不可欠である。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席点（約35%）＋実習の課題（約25%）＋試験（約40%）			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 情報と職業	秋	週2回	4単位
担当者：渡辺 英人			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>「情報と職業」高等学校普通教科「情報」教員免許取得を目的とする学生の必修科目である。現代社会におけるさまざまな「活動」にとり「情報」はもっとも重要な要素であると考えられている。この授業では公的機関と情報、民間企業、個人事業における情報など、さまざまな職業と情報について解説し、理解してもらおう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。</p>			
<b>評価方法</b>			
1. 授業への参加と理解度（50%） 2. 発表およびレポート提出（50%）			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選択 インターネット時代の情報活用	秋	週1回	2単位
担当者：若松 昭子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容 本講義では、各分野で活躍する第一線の研究者を招き、情報メディアを多方面から考察する。まず、本講義の礎として、現代社会において必要な情報観を考える。次に、情報メディアの歴史を概観し、現代社会における情報メディアを歴史過程のなかに位置づける。その後、現代の情報メディアの課題を様々な観点から取り上げる。情報検索や電子図書館、インターネット上のコミュニケーション特性、情報倫理など、広範なトピックを扱う。【本講義は、電気通信普及財団による助成を得て開設される特別講義である】</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 図書館情報学課程の資格科目・コミュニティ政策学科専門科目</p> <p>3. 学びの意義と目標 情報の役割が増し、データ量が飛躍的に増大している現在、情報を見極め、選択し、的確に扱う能力を身につけることは、現代社会でよりよく生きることにつながる。本講義では、情報社会の理解を深め、高度な情報活用能力を身につけることを目標とする。</p>			
<b>評価方法</b>			
それぞれの講師から出された評価を合わせ総合的に評価する。各回の評価方法や評価配分はそれぞれの講師に一任するが、いずれの授業でも、出席状況と授業態度およびレポートが評価の基本となる。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 Internet English(Basic)	春	週2回	2単位
担当者：J. バーン			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>本講義では、インターネット上で様々な方法を利用し英語力を身に付けるのが狙いです。この講義で学習した知識は履修後にも役立つでしょう。リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング・語彙力・文法といった全てにおいてオンライン上で学習します。 自宅でも利用できるフリーウェブサイトを使用しながらも学習して行きます。</p> <p>内容として、おしゃべりロボット・日常の俗語・パソコンゲーム・学生ニュース・観光英語・ポッドキャスト・ヴォッドキャスト等も利用します。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席状況26% 授業態度14% プレゼンテーション40% 期末試験の成績20%			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する Rost, M. 『Longman English Interactive Level 1』 Longman			

選択 Project-Based Internet		秋	週2回	2単位
担当者：J. パーン				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>本講義では、オンライン上での英会話・英語でのウェブサイト作成・オンラインガイドに従って有名な映画の分析・お気に入りウェブサイトの情報共有を学習します。</p> <p>スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング4つのスキルを使い、生きた英語に触れながら学習し英会話の自身を付ける狙いもあります。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席状況26% 授業態度14% プレゼンテーション40% 期末試験の成績20%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する Rost, M. 『Longman English Interactive Level 1』 Longman				

選択 社会心理学		春	週2回	4単位
担当者：水島 友昭				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1、内容 社会の中にリスクや不安は様々な形で存在する。例えば、事故・災害のリスク、環境リスク、将来のリスク等がある。本講義では実際に社会で起きている事象を取り上げ、リスクや不安が社会、および人間にどのように位置付けられ、対応されているかに対して議論を行う。また評価するためには、多変量解析法の手法を取り上げ、評価方法の基本、利用方法、利用の際の問題点とその限界を事例を用いて講義を行う。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ 社会心理学の基礎的な領域を取扱う。また、本講義では数学を使うが、数学は本質ではない。数学の知識は特に必要としない。</p> <p>3、学びの意義と目標 本講義では社会に存在する事象に対する考え方、その対応方法を心理学的に理解すること目標にしている。また、講義で用いた手法は他の領域でも利用が可能である。他の領域でも利用できるように様々な方向から見た場合の利用方法について理解することを目標にする。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席(75点)、レポート(25点)で評価を行う。レポートはオンライン上で提出。特に試験はしない。出席は2/3以上、かつレポート提出は必須。欠席に関しては講義ごとに行う。また、レポートは2000字以上を基本とする。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 理論社会学		春	週2回	4単位
担当者：土方 透				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>本講義では、現代の社会学理論が到達した学問的境位を、人間の知の展開として位置づけることを目的とする。</p> <p>講義では、まず人類の思想の歴史的展開を概観する。そのことにより、はじめて最新の理論と呼ばれるものの「新しさ」が明らかになる。すなわち、思想史上の連続的側面と非連続的側面から、現代の理論というものが理解可能となるわけである。そうした作業を経たうえで、現代社会において、所与のものとして市民権を得た諸思想ならびに諸価値の限界を指摘しつつ、いま考えられる可能な選択肢を提示したい。</p> <p>なお、講義に際しては、毎回レジメを配布するほか、具体的な時事問題にも触れながら、各トピックスを扱っていく。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席、テスト				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 社会思想		秋	週2回	4単位
担当者：佐藤 貴史				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>■内容 敗戦、高度成長期、金権政治、バブル崩壊——どれも戦後の日本社会を特徴づけるキーワードである。われわれの社会の背後にはどんな思想があり、われわれを突き動かしていたのか。本講義ではとくに戦後日本の社会思想を取り上げるが、同時に戦後日本の社会思想は西洋の思想から大きな影響を受けている。それゆえ、戦後日本と西洋の社会思想の二つを学びながら(現在)という時代を考えてみたい。</p> <p>■カリキュラムにおける位置づけ 西洋政治思想史などの思想・理論系の講義と関連づけて履修することを推奨する。</p> <p>■学びの意義と目標 「思想」や「歴史」は小難しく感じるかもしれないが、「考える力」の訓練そして「教養」として大きな意味を持っており、複雑な社会にも対応できるような知を養いたい。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席(30%)、小テスト(複数回、40%)、期末レポート(30%)で評価する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

<b>選択 倫理学概論</b>	<b>春 週1回 2単位</b>
担当者：谷口 隆一郎	
<b>講義の目標及び概要</b> 倫理学を知っておくとどんなときに役立つのだろうか？生きていればだれでも一度や二度は人生上の大小の壁にぶち当たるはずだ。そんなとき倫理学が役に立つ。どんなふうにする？つまりこうだ。どうにもこうにもならなくなった状況、そのような壁の前にたたずむしかないような状況から脱出するには、自分の考え方を換え、状況を違う角度から捉えなおすことが必要だ。倫理学の考え方を身に着ければ、それができるようになる。そのためには、まず自分をしっかり見つめることができなければいけない。自己を見つめるということは、自己の内面に引きこもることではない。自分の心の扉を開くということだ。わたしたちがお互いなんとかうまくやっていけるのは、行動を規制するルールや倫理道徳が存在するからだ。しかし現代社会には法や常識で割り切れない倫理道徳上の難題（アポリア）が多く存在する。それらのアポリアからいくつかを選んで、それらについてじっくり考えてみる。そのことを通して、君が目の前のアポリアに直面し、他者が納得いくように、君の決断と行為について君なりに説明できる力——これを「生き抜くための力」と呼ぼう——を伸ばそう、これがこの講義の最大にして最終目標だ。	
<b>評価方法</b> レポート1つ（3000字以上）の提出（40%）と筆記試験（40%）、および平常点（出席状況、授業態度、20%）で評価する。授業参加度・貢献度を重視する。なお、遅刻3回は欠席1回とみなす。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する ジェームズ・レイチェルズ『現実をみつめる道徳哲学』晃洋書房	

<b>選択 社会調査法</b>	<b>秋 週2回 4単位</b>
担当者：古谷野 亘	
<b>講義の目標及び概要</b> 調査は、人間の意識や行動、社会現象に内在する法則性を発見するために用いられる社会科学の研究手法である。この講義の前半では、社会調査を行うにあたって必要な技術の説明と同時に、社会科学的研究法としての調査の意義と限界について論じる。後半では、履修者の関心に応じて調査票作成・データ分析の演習を行う。	
<b>評価方法</b> 筆記試験（50%）とレポート（50%）に授業への参加度を加味して総合的に評価する。レポートはオンライン・レポート提出システムにより送信しなければならない。	
<b>教科書</b> 古谷野亘・長田久雄『実証研究の手引き：調査と実験の進め方・まとめ方』ワールドプランニング	

<b>選択 コミュニティとフィールドワーク</b>	<b>春集中 2単位</b>
担当者：庄嶋 孝広	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 フィールドワークは、社会調査の一つの方法です。現地社会（コミュニティ）に入り、人々と関係を築きながら、生活を観察したり、話を聞いたり、行事に参加したりして、調査地や調査対象について理解を深めていきます。本講義では、コミュニティ現場でのフィールドワーク演習を行います。  2. カリキュラム上の位置づけ フィールドワークの考え方と方法の基本を学びます。卒業論文等で応用してください。  3. 学びの意義と目標 フィールドワークは、まずもって他者に寄り添い、相手を理解しようとする方法です。よりよい職業生活、市民生活を送るうえでも、大いに役立つ作法です。  参考文献 佐藤郁哉『フィールドワーク 書を持って街へ出よう』（新曜社）	
<b>評価方法</b> (1) 講義への参加態度（50%） (2) 現地調査後のレポート、発表（50%） 出席が2/3以上あることが必須条件ですが、出席条件を満たしても、講義への参加態度に著しく問題がある場合は、不合格もあり得ます。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 統計学</b>	<b>春 週2回 4単位</b>
担当者：松原 望	
<b>講義の目標及び概要</b> 統計学はむずかしくありません。私たちの日常生活を通して学ぶことでよりおもしろい知的世界が広がります。今の「社会」を生き抜くために必要な統計学の基礎的知識と見方を学んでいきましょう。就職に役立つワード・エクセルの操作も扱います。初心者にはだれでも歓迎しますし、数学的知識も不要です。	
<b>評価方法</b> 出席点50%、期末テスト50%	
<b>教科書</b> 松原望『わかりやすい統計学』丸善 松原望『統計学100のキーワード』弘文堂	



選択 インターンシップⅠ(事前学習) 春 週1回 2単位
担当者：学科就職委員
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 インターンシップとは、在学中に、自らの専攻や将来のキャリアに関連した就業体験を行うことである。その目的は、就業感や就職意識を磨くこと、企業などが求める人材を知ること、早期退職というミスマッチを防ぐことなどである。これらに関する講義のほか、「模擬企画プロジェクト」のグループワークや、社会人としてふさわしい立ち振る舞いができるようビジネスマナーの演習も行う。 2. カリキュラム上の位置づけ 夏休みなどに、民間企業、自治体、特定非営利活動法人（NPO）などでインターンとして働くことを希望する学生を対象とする。すなわち、インターンシップⅡ（実習）受講のために必要な講義である。 3. 学びの意義と目標 働くことの意味や目的を考えながら、組織の中での役割や行動によるコミュニケーションの取り方について学びつつ職業観を身につけること。合わせて、アセスメントという手法により、自分の特性も把握すること。
<b>評価方法</b> 講義の性格上、出席を重視する。配点は、出席点50%、レポート点50%とする。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選択 インターンシップⅡ(実習) 秋集中 2単位
担当者：学科就職委員
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本科目は、民間企業、自治体、特定非営利活動法人（NPO）などで、インターンとして実務経験を積む実習科目である。実習内容は、実習先に個別に設定して頂き、実習期間は、原則として夏休み中の10日間である。実習先は、インターンシップⅠ（事前学習）の受講中から夏休みにかけて、大学が紹介する。実習先に限りがあるため、希望者全員が参加できるとは限らない。場合によっては、学生自ら実習先を見つけても良い。 2. カリキュラム上の位置づけ インターンシップⅠ（事前学習）を受講して、単位認定を受けた学生だけが履修できる。 3. 学びの意義と目標 社会人のあり方やマナー、仕事のやり方などを身につけるとともに、就業観を高めること。
<b>評価方法</b> 実習に関するレポートを基に評価する。実習先の評価が得られた場合は、それも加味して評価する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選択 インターンシップ(自主活動) 秋集中 2単位
担当者：学科就職委員
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本科目は、民間企業、自治体、特定非営利活動法人（NPO）などで、インターンとして実務経験を積む実習科目である。実習期間は、原則として夏休み中の10日間である。実習先は、基本的に、学生自ら見つけるが、大学がインターンシップⅠ（事前学習）の受講生に紹介した実習先のうち、希望者がいないものを選ぶこともできる。 2. カリキュラム上の位置づけ インターンシップⅠ（事前学習）の単位認定を受けていない学生が、実習を受ける場合に履修できる。 3. 学びの意義と目標 社会人のあり方やマナー、仕事のやり方などを身につけるとともに、就業観を高めること。
<b>評価方法</b> 実習に関するレポートを基に評価する。実習先の評価が得られた場合は、それも加味して評価する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選択 コミュニティ政策特論A(商学) 春集中 2単位
担当者：工藤 幸一
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 商学は、普通俗に言う「商業」あるいは「商あるいは商活動」に関する学問だと考えられてきた。しかし、アメリカにおいて登場したマネジメント論、マーケティング論の進展、また、わが国においても「流通論」が登場し、商学の研究も、個々の商いが総合化されて生ずる「流通」を研究対象とすることになることから流通科学の視点から講義を展開する。 2. カリキュラム上の位置づけ 流通は、消費者ニーズの高級化・個性化、さらに情報ネットワークの基盤整備などにより、その機能も高度化・複雑化し社会的役割も大きく変化している。こうした流通を研究対象とする商学は、マーケティング論を研究の基礎科目とし、経営学や会計学の研究の関連科目として欠くことができない。 3. 学びの意義と目標 本講では、流通についての基礎的・基本的事柄について現代的理解をすることを目指す。
<b>評価方法</b> 最終試験の点数（80％）に出席状況等（20％）を加味して成績評価する。ただし、受講者が少数の場合には、レポート提出により成績評価する場合もある。この場合はレポートの点数（80％）に出席状況等（20％）を加味して評価する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

政治経済学部  
コミュニティ政策学科

<b>選択 公務員講座(数的・判断推理)</b>	<b>秋</b>	<b>週2回</b>	<b>4単位</b>
担当者：平 修久			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の可否が判定されている。教養試験を一般知識分野と一般知能分野とに分け、過去の出題傾向・実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することができるよう、演習を取り入れながら進めていく。本講義では一般知能分野の核となる判断推理・数的推理・資料解釈を取り上げる。			
2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。			
3. 学びの目標 公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。			
<b>評価方法</b> 期末試験100%。実際の公務員試験の合格ラインを基準に評価する。			
<b>教科書</b> 資格研究会編『大卒程度 警察官・消防官・スーパー過去問ゼミ(数的推理) 改訂版』実務教育出版 資格研究会編『大卒程度 警察官・消防官・スーパー過去問ゼミ(判断推理) 改訂版』実務教育出版 資格研究会編『大卒程度 警察官・消防官・スーパー過去問ゼミ(文章理解・資料解釈) 改訂版』実務教育出版			

<b>選択 公務員講座(人文・社会)</b>	<b>春</b>	<b>週2回</b>	<b>4単位</b>
担当者：平 修久			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の可否が判定されている。教養試験を一般知識分野と一般知能分野とに分け、過去の出題傾向・実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することができるよう、演習を取り入れながら進めていく。本講義では一般知識分野の社会科学と人文科学を対象にして、特に過去において繰り返し出題されてきた頻出分野を重点的に取扱う。			
2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。			
3. 学びの目標 公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。			
<b>評価方法</b> 期末試験100%。実際の公務員試験の合格ラインを基準に評価する。			
<b>教科書</b> 資格試験研究会編『警察官消防官 スーパー過去問ゼミ社会科学』実務教育出版社 資格試験研究会編『警察官消防官 スーパー過去問ゼミ人文科学』実務教育出版社			

<b>選択 公務員講座(文章理解)</b>	<b>秋</b>	<b>週2回</b>	<b>4単位</b>
担当者：大槻 岳			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 本講義は大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験の合格を目的としている。これらの採用試験は職種により試験出題科目は異なるが、教養試験は全職種採用試験に共通し、警察官・消防官の採用試験は全国どこでも教養試験のみで第一次の可否が判定されている。教養試験を一般知識分野と一般知能分野とに分け、過去の出題傾向・実際の試験問題を分析した上で、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することができるよう、演習を取り入れながら進めていく。本講義では一般知能分野の核となる文章理解を取り上げるとともに、二次試験で課される教養論文の対策にも触れていく。			
2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。			
3. 学びの目標 公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。			
<b>評価方法</b> 平常点(授業内で行う論作文演習を含む)20%、期末試験80%(18回以上出席した者のみ期末試験が受けられる)。実際の公務員試験の合格ラインを基準に評価する。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

<b>選択 公務員講座演習A(数的・判断推理)</b>	<b>秋</b>	<b>週1回</b>	<b>1単位</b>
担当者：平 修久			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 本講義は、大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験に合格することを目的とし、教養試験で出題される一般知識分野(数的・判断推理)を対象に、演習中心の授業形態をとる。過去の採用試験で実際に出題された問題について、受講者による自習を基本としつつ、出題傾向の把握と頻出テーマの解説等を適宜行うこととする。			
2. カリキュラム上の位置づけ 公務員試験対策プログラムの一環であり、公務員講座(数的・判断推理)と並行して履修する学生、過去に同公務員講座を受講した学生、公務員マスター講座(キャリアサポートセンター実施)の受講者のみが本講座を履修することができる。			
3. 学びの意義と目標 教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目標とする。			
<b>評価方法</b> 平常点(出席状況+講義内で適宜実施する小テスト)による。特に出席状況を重視する。			
<b>教科書</b> 資格研究会編『大卒程度 警察官・消防官・スーパー過去問ゼミ(数的推理) 改訂版』実務教育出版 資格研究会編『大卒程度 警察官・消防官・スーパー過去問ゼミ(判断推理) 改訂版』実務教育出版 資格研究会編『大卒程度 警察官・消防官・スーパー過去問ゼミ(文章理解・資料解釈) 改訂版』実務教育出版			

選択 公務員講座演習A(人文・社会) 春 週1回 1単位
担当者：大藪 俊志
<b>講義の目標及び概要</b>
<p>1. 内容 本講義は、大卒程度の警察官、消防官、一般行政職などの採用試験に合格することを目的とし、教養試験で出題される一般知識分野(人文・社会)を対象に演習中心の授業形態をとる。過去の採用試験で実際に出題された問題について、受講者による自習を基本としつつ、出題傾向の把握と頻出テーマの解説等を適宜行うこととする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 公務員試験対策プログラムの一環であり、公務員講座(人文・社会)と並行して履修する学生、過去に公務員講座を受講したことのある学生、公務員試験マスター講座II(キャリアサポートセンター実施)の受講者のみが本講座を履修することができる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 教養試験のアウトラインを把握するとともに公務員試験の1次試験に合格する実力を養成することを目標とする。</p>
<b>評価方法</b>
平常点(出席状況+講義内で適宜実施する小テスト)による。特に出席状況を重視する。
<b>教科書</b>
資格試験研究会編『大卒程度 警察官・消防官 スーパー過去問ゼミ 社会科学 改訂版』実務教育出版 資格試験研究会編『大卒程度 警察官・消防官 スーパー過去問ゼミ 人文科学 改訂版』実務教育出版

選択 公務員特講(自治体研究A) 春 週1回 2単位
担当者：猪狩 廣美
<b>講義の目標及び概要</b>
<p>1. 内容 最近の地方自治体を取り巻く状況を前提としつつ、 (1)公務員の仕事の特性 (2)自治体の業務の実際 (3)進路としての公務員 等について、実例を題材とする一方、バズセッション等を織り交ぜて理解を深める。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 公務員試験対策プログラムの一環として開講する講座である。なお、現実社会においては、例え民間企業へ進んだとしても、自治体との関わりは広範であり、その実情を理解することは重要であると考え。進路を選択する力を身につける意味から、公務員志望でない学生にも受講を期待する。</p> <p>3. 学びの意義と目標 自治体が社会の中でどのような役割を担い、どのような事業を展開しているのか、理解を深めるとともに、その業務を担う地方公務員の取り組みを学ぶことを通して、自らの進路を考える一助としたい。</p>
<b>評価方法</b>
出席状況 26% 一言メモ提出 39%(毎回の感想メモです) レポート 35%(詳細は授業で指示します)
<b>教科書</b>
授業の中で指示する

選択 公務員特講(自治体研究B) 秋 週1回 2単位
担当者：北川 嘉昭
<b>講義の目標及び概要</b>
<p>(1)内容 本講義は、福祉や教育などの基幹的施策に加え、タバコのポイ捨て条例、「ゆるキャラ」による地域活性化、レジ袋規制など、全国の特徴ある施策について、その背景、期待される効果、課題等を考えることを通じて、今後の公共政策のあり方、自治体及び職員の役割について具体的にイメージする力を養うことを目的としている。</p> <p>(2)位置づけ 本講義は、自治体や公的セクターを就職の選択肢の一つと考えている学生が、公共政策に関する具体的なイメージをもち、就職へのモチベーションを高めるための導入科目として位置づける。</p> <p>(3)目標 地域社会の抱える課題、地方自治体の施策についての関心を高め、その解決に参画していこうとする意識を醸成する。</p>
<b>評価方法</b>
出席(50%) + レポート(50%)にて評価する。
<b>教科書</b>
プリントを配布する

選択 公務員講座(専門A) 春 週2回 4単位
担当者：平 修久
<b>講義の目標及び概要</b>
<p>1. 内容 この講義は市役所など地方公務員上級試験の合格を目的としている。公務員試験は、教養試験と専門試験から構成され、本講義は専門試験を対象としている。 専門試験の科目としては、政治学、行政学、社会政策、社会学、国際関係、憲法、行政法、民法、刑法、労働法、経済原論、財政学、経済史、経済政策と極めて幅広い。過去の出題傾向・実際試験問題を踏まえて、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取入れながら授業を進める。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。公務員の専門試験科目に関連の深い講義及び秋学期の公務員講座(専門B)も合わせて受講することを強くすすめる。</p> <p>3. 学びの目標 公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。</p>
<b>評価方法</b>
授業開始時に説明する。
<b>教科書</b>
授業の中で指示する

選択 公務員講座(専門B)

秋 週2回 4単位

担当者：平 修久

講義の目標及び概要

1. 内容  
この講義は市役所など地方公務員上級試験の合格を目的としている。公務員試験は、教養試験と専門試験から構成され、本講義は専門試験を対象としている。  
専門試験の科目としては、政治学、行政学、社会政策、社会学、国際関係、憲法、行政法、民法、刑法、労働法、経済原論、財政学、経済史、経済政策と極めて幅広い。公務員講座(専門A)に引き続き、過去の出題傾向・実際試験問題を踏まえて、試験合格に必要な水準に無理なく無駄なく達することのできるよう、演習を取入れながら授業を進める。
2. カリキュラム上の位置づけ  
コミュニティ政策学科の「警察官・消防官・一般行政職公務員試験対策プログラム」の最も重要な科目の一つである。公務員の専門試験科目に関連の深い講義も合わせて受講することを強くすすめる。
3. 学びの目標  
公務員としての基礎知識を身につけ、公務員試験の1次試験を合格する力をつけることが、本講義の目標である。

評価方法

授業開始時に説明する。

教科書

授業の中で指示する

選択 生涯学習概論B

秋 週1回 2単位

担当者：小池 茂子

講義の目標及び概要

1. 内容  
本講義では第1に、我が国の戦前・戦後の社会教育の理念について学ぶ。第2に、生涯学習の理念が教育政策に反映されていく過程を1960年以降の教育答申等の内容を通して捉える。第3に、戦後間もなく社会教育施設として全国に設置された代表的社会教育施設である公民館の成り立ちと機能について取り上げ、さらに生涯学習時代、多様化・高度化する人々の学習ニーズ、及び現代的な地域課題に対応すべく21世紀に求められる公民館の機能と課題について展望する。
2. カリキュラム上の位置づけ  
社会教育主事資格取得の選択必修科目として位置づけられている。(勿論、資格取得を目指さない学生の受講も歓迎する。)
3. 学びの意義と目標  
戦前・戦後の教育政策の流れの中で、社会教育政策がどのような教育政策を展開してきたのかを理解する。また、生涯学習の時代の中で公民館に求められる現代的な教育機能課題について理解を深める。

評価方法

出席(20%)と試験(80%)を一応の目安としつつ、総合的に評価する。

教科書

授業の中で指示する

選択 生涯学習概論A

春 週1回 2単位

担当者：小池 茂子

講義の目標及び概要

1. 内容  
2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。  
また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を 目指そうとしているのか、講義を通じて共に考えていきたいと考えている。
2. カリキュラム上の位置づけ  
社会教育主事・図書館司書の資格取得必修科目と位置づけられている。(資格取得を考えていない学生の受講も歓迎する。)
3. 学びの意義と目標  
生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革とそこに於ける課題など、広くテーマを設定し、社会教育主事の専門性につながる事項の理解を目指す。

評価方法

出席(20%)と試験(80%)を一応の目安としつつ、総合的に評価する。

教科書

授業の中で指示する

選択 社会教育計画A

春 週1回 2単位

担当者：小池 茂子

講義の目標及び概要

1. 内容  
本講義では、社会教育、生涯学習の振興・支援のあり方を行政計画の中で誰が・どのように展開するのか教育基本法・社会教育法に当たりながらその基礎を論じる。  
また、社会教育、生涯学習の支援のあり方も、行政中心の旧来のものから指定管理者制度の導入など、民間の活力を導入したものにシフトしつつある。このような時代の変化の中で、社会教育を支援に携わるものとして必要とされる知識を提供する。
2. カリキュラム上の位置づけ  
社会教育主事の資格取得のための必修科目。(勿論、資格取得を目指さない学生の受講も歓迎する。)
3. 学びの意義と目標  
社会教育主事として、社会教育や生涯学習支援に関する知識の習得と、時代の変化の中で生じてきている問題の解決に向け、自ら問題解決への糸口を受講生一人ひとりが自分なりに考えられるようになることを目指す。

評価方法

出席(20%)と試験(80%)を一応の目安としつつ、総合的に評価する。

教科書

プリントを配布する  
鈴木真理・清国祐二『社会教育計画の基礎』学文社

選択 社会教育計画B	秋 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 社会教育計画Bでは、社会教育計画Aを基礎に社会教育計画策定の具体的事項について取り上げる。主たる内容は、1. 社会教育調査、2. 社会教育における学習プログラムの立案、3. 社会教育における評価の問題について取り上げる。2. については各受講生の住むまちの地域特性の調査と調査を踏まえた学習プログラムの作成と発表を行う。 2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための必修科目。(資格取得を目指さない学生の受講も勿論歓迎する。) 3. 学びの意義と目標 社会教育行政の現場で、社会教育計画を立案・実施する専門職にもとめられる、行政計画としての社会教育計画の手法と、及びその下にある教育行政の現場で求められる具体的な知識・技能の修得を目指す。	
<b>評価方法</b> 出席 (20%) と試験 (80%) を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 鈴木眞理・清国祐二『社会教育計画の基礎』学文社	

選択 社会教育計画研究A	春 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義では、1970年代以降の生涯発達の理論に基づき、人間の生涯にわたる発達について取り上げる。また、これに基づいて、これまで教育学とされてきた子どもの学習を支援する教育原理に対して1970年代から提唱され始めてきた成人教育学 (andragogy) 理論について論じることとする。 2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための選択必修科目。(資格取得を目指さない学生の受講も勿論歓迎する。) 3. 学びの意義と目標 講義の中で成人期の発達、そこに於ける危機と教育課題、成人の学習の特性を学んだ上で、成人の発達課題解決を目指す学習プログラムを受講生諸君が実際に作成し、発表し合い、それに検討を加え合う、これらのことを通じて、生涯学習の現場で働く専門職として必要とされる教育的配慮の視点を獲得することを目指す。	
<b>評価方法</b> ・実際に学習プログラムを作成し、発表・検討を行う過程で、ユニークな発想や積極的な発言等、授業に参加する姿勢を評価の指標として重視する。 ・出席 (20%)、発表 (40%)、試験 (40%) を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 麻生誠・堀薫夫『生涯発達と生涯学習』(財)放送大学教育振興会	

選択 社会教育課題研究B	秋 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 今日の日本を取り巻いている「少子社会」「社会の高齢化」「学校・家庭・地域の連携」といった所謂、現代社会の変化を背景として出現してきた教育の課題について取り上げ、これらの変化に対応すべくどのような教育の必要性が唱えられているのか、また実際どのような教育実践が展開されているのかトピックスごとに見ていく。 2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための選択必修科目。(資格取得を目指していない学生の受講も勿論歓迎する。) 3. 学びの意義と目標 シラバスに掲げたトピックスについて各自が広く学び、現代社会に存在する課題について社会教育は何ができるのかを自分の問題として考え、問題解決へ向けた考察を行うことを目指す。	
<b>評価方法</b> 出席 (20%) と試験 (80%) を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 山本恒夫 他『生涯学習論』文憲堂	

選択 現代社会と社会教育A	春 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義では、高齢者を対象とする教育について取り上げる。子どもの学習を支援する教育原理に対して、1970年代から提唱され始めてきた成人教育学なにかんづく高齢者の教育学 (gerogogy) 理論について論じることとする。尚、本講義で扱う高齢者の範囲は、病的及び加齢によって著しい知的な退行現象を呈している高齢者を除く高齢者とする。 2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための必修科目。(資格取得を目指さない学生の受講ももちろん歓迎する。) 3. 学びの意義と目標 成人の生涯発達の支援から高齢の特性を理解しそれを踏まえた高齢者を対象とする学習支援の方策について理解する。専門職として(或いは一個人として)、高齢者教育の現代的意義と高齢者に接する際の配慮の視点を受講生が理解することを本講義の目標とする。	
<b>評価方法</b> 出席 (20%) と試験 (80%) を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 麻生誠・堀薫夫『生涯発達と生涯学習』(財)放送大学教育振興会	

選択 現代社会と社会教育B	秋	週1回	2単位
担当者：小池 茂子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 第1に、今日問題になっている青少年の自立と社会性の育成をどのようにするかを巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育や社会教育政策の中での奨励をめぐる議論について取り上げる。第2に、人間がよりよく生きていくためには、生にまつわる否定的側面の課題（死・病、対象喪失などをめぐる課題）を直視し考えることの必要を説く「生と死の準備教育」がある。「生と死の準備教育」提唱者たちの理念、教育目的、教育内容を紹介し、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について考えていきたい。			
2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための必修科目。（資格取得を目的としない学生の受講も歓迎する。）			
3. 学びの意義と目標 青年期を生きる人間の生をよきものとするため、どのような教育が必要なのかを受講生が自らの課題として考察することを目標とする。			
<b>評価方法</b>			
出席（20％）と、授業中に課す小レポート（20％）及び学期末の課題レポート（60％）によって評価を行なう（試験は実施しない）。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 社会教育施設論B	秋	週1回	2単位
担当者：石川 昇			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 生涯教育、社会教育、社会教育施設についての基本的概念を把握した上で、社会教育施設をめぐるさまざまな問題について具体的な事例を用いながら、幅広く検討し、その課題を認識する。			
2. カリキュラム上の位置づけ 講義は事例を検討しながら、常に生涯教育、社会教育とは何かを意識し、フィードバックしながら進める。本科目は生涯学習概論、社会教育論などの基礎的科目を補強し、社会教育課題研究、社会教育演習などの応用的、発展的内容の科目に多くのヒントを与える。			
3. 学びの目標 社会教育施設をめぐるさまざまな問題を認識し、生涯教育、社会教育について幅広い視野、多様な視線を獲得する。			
<b>評価方法</b>			
講義は文献等で代替できない部分が多く、講義の出席を重視する。試験は講義の中から出題する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 社会教育施設論A	春	週1回	2単位
担当者：石川 昇			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 生涯教育、社会教育、社会教育施設についての基本的概念を把握した上で、社会教育施設ごとに、設置目的、歴史、現状、課題等について、事例をもとに理解を図る。その際、施設は幅広くとらえ、多くの施設について具体的に検討する。			
2. カリキュラム上の位置づけ 講義は豊富な事例を検討しながら、生涯学習、社会教育とは何かを意識し、フィードバックする。本科目は生涯学習概論、社会教育論などの基礎的科目を補強し、社会教育課題研究、社会教育演習などの応用的、発展的内容の科目に多くのヒントを与える。			
3. 学びの意義と目標 社会教育施設についての基本的な知識の獲得とともに、社会教育施設を活用する実践的な知識の獲得をめざす。			
<b>評価方法</b>			
講義は文献で代替できない部分が多く、講義の出席を重視し、試験は講義のなかから出題する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 日本文化史	秋	週2回	4単位
担当者：渡辺 正人			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 本講義では日本の文化史を通史的に見てゆく。しかし、文化史とは言っても単なる芸術史ではなく、歴史や思想とともに社会のさまざまな動きとしてみてゆきたい。 特に日本の文化は、大陸や半島からの影響をほとんどの時代において強く受けながら形成されてきている。そのことと日本国内の内的な発展と、どのように連関しながら文化は動いてゆくのだろうか、ということをはっきりと明らかにしたい。			
2. カリキュラム上の位置づけ 通史でもあり、入門的な位置づけである。しかし、基礎となるべきものである。			
3. 学びの意義と目標 日本の文化の流れを知り、文化史の用語を理解することができるようになること。対外的交流の意義を知り、どのような対外的な地域の影響をうけて日本文化が成立してきたかの概略を説明できるようになること。			
<b>評価方法</b>			
中間試験40％、レポート（オンライン）40％、出席20％によって算出する。			
<b>教科書</b>			
家永三郎『日本文化史』岩波新書			

選択 日本史概説A		春	週1回	2単位
担当者：上安 祥子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
◆内容◆ 概説Aでは、古代から江戸時代までをあつかう。“日本”の歴史として語りうるのは、いつの時点からか、という問いを入口として、高等学校までの学習経験では、踏み入る機会がなかったであろうトピックスを重点的に取り上げ、時代や社会の変化をたどっていくこととしたい。				
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 日本文化学科の専門科目（選択必修科目）。政治経済学部の特徴課程、教科に関する科目（2008年度生以降、中学校教諭一種免許状[社会]・高等学校教諭一種免許状[地理歴史]）。				
◆学びの意義と目標◆ 歴史学とは、社会が変化してきた過程を跡づける学問である。その“跡づける”作業とは、社会の変化をもたらした必然性を解き明かすことであり、事象の単なる表層的因果関係を追うことでもなく、ましてや、個々の事象を暗記することでもない。学生諸君には、「覚える」ものとしてではなく、「思考する」ものとして、歴史に向き合う姿勢を身につけてもらいたい。				
<b>評価方法</b>				
■カード40%＋学期末試験60%…カード提出は毎時間。講義内容に対する理解力だけではなく、表現力や視点の独自性を重視し、優秀者には加点。 ■出席回数が授業回数の3分の2に達しない場合、単位取得資格を失い、学期末試験は受験できない。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 日本史概説B		春	週1回	2単位
担当者：川崎 司				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 時の流れとともに、心象を反映する「ことば」が次々と生み出されてきた。私たちは今、その言葉の海にたゆたいながら、新たなコンパスを探しているところだ。先人の遺した、心に響く言葉を手がかりに、時代を超越した普遍的なるものを求めて、今こそ「歴史」の海原に泳ぎ出よう。自分探しの旅に立とう。新旧のころに残る名言を、13回の授業の中で、映像の力を借りながらじっくり味わっていく。				
2・カリキュラム上の位置づけ これまで学んできた近現代史の基礎知識の確認と歴史的思考の涵養のための入り口。				
3・学びの意義と目標 喜怒哀楽を共にし、歴史から学ぶ喜びを共有したい。視野が広がり感性がますます磨かれ、人生に輝きが増せばこれ以上の幸せはない。				
<b>評価方法</b>				
出席状況、期末テスト、レポートをほぼ同程度に見る。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 西洋史概説A		春	週1回	2単位
担当者：山本 信太郎				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 本講義では、西洋史の中でも西洋古代・中世史を対象として、その中にあらわれる様々なトピックを時系列にとりあげ、個々の問題の概要だけでなく、ある程度専門的な議論を射程におさめた内容を講義する。ただし、トピックは時系列的な順序に従っているが、必ずしも網羅的ではない。そのため、西洋史の全体的な流れ、あるいは、個々のトピックの位置づけを学ぶためには自分なりの学習が必須である。参考となる西洋史全体の概説書としては以下を挙げておく。 近藤和彦編『西洋世界の歴史』山川出版社、1999年				
2. カリキュラム上の位置づけ 西洋古代・中世史上の重要な問題をトピックとしてあつかうので入門としての側面を持つが、内容が専門的な議論におよぶこともあるため、入門よりやや踏み込んだ個別研究の側面をも持つ。				
3. 学びの意義と目標 西洋中世・古代史上の諸問題をある程度掘り下げて理解するとともに、複眼的な歴史学的視野を養うことを目標としたい。				
<b>評価方法</b>				
学期末の試験（80%）と出席点（20%）で評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 西洋史概説B		秋	週1回	2単位
担当者：山本 信太郎				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 本講義では、西洋近代史の中から主に16世紀から18世紀のイギリス史、すなわちイギリス近世史をとりあげ、最新の研究成果に目を配りつつ、多様な諸問題を論じる。ただし、近世のイギリスをとりあげつつも、ヨーロッパ全体の動向にも目を向けるようにしたい。なお本講義は時系列的な順序に従うが、必ずしも網羅的ではない。イギリス史の全体的な流れや西洋史全体の中での位置づけを学ぶためには自分なりの学習が必須である。参考となるイギリス史の概説書としては以下を挙げておく。 指昭博『図説イギリスの歴史』河出書房新社、2002年				
2. カリキュラム上の位置づけ 近世ヨーロッパ史の動向に目配りしつつも、具体的な内容はイギリス史が中心となるため、西洋史入門より踏み込んだ、やや専門的な位置づけとなる。				
3. 学びの意義と目標 イギリス近世史上の諸問題をある程度掘り下げて理解するとともに、複眼的な歴史学的視野を養うことを目標としたい。				
<b>評価方法</b>				
学期末の試験（80%）と出席点（20%）で評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

政治経済学部  
コミュニケーション政策学科

選択 東洋史概説A	春 週1回 2単位
担当者：赤坂 恒明	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 近代以前のアジア各地域の歴史を取り上げる。特に東アジアについては、国際秩序としての「冊封体制」について具体的に詳論する。また、東洋史をも含む歴史全般に興味を持つ受講者に、自主的にさらに関心を深めていくことができるように、歴史研究の基礎ならびに方法論についても簡単に紹介する。 2. カリキュラム上の位置づけ 東洋史に関する入門的な位置づけであり、基礎的な講義である。日本史を学ぼうとする学生にも適している。 3. 学びの意義と目標 アジアの多様性を理解すると同時に、歴史事象を正確に把握できるようにする。そして、主観的・独断的な判断をすることなく、それらの歴史的意味を解釈する歴史的思考法を持つことができるようになること。	
<b>評価方法</b> 出席点10%、平常点20%、試験（小テストを含む）70%によって算出する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 東洋史概説B	秋 週1回 2単位
担当者：赤坂 恒明	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 東アジアの一地域としての日本が他の諸地域といかなる関係にあったか、という問題を中心に、主に近現代の歴史のなかから関連するいくつかの事例をとりあげ、個別に論じる。「日本史」の立場からはしばしば看過される問題を積極的に取り上げ、近代的な国民歴史学によって体系化された「一國史」の枠組についても批判的に分析する。 2. カリキュラム上の位置づけ 入門的な位置づけの基礎的な講義。日本史を学ぼうとする学生にも適している。 3. 学びの意義と目標 「日本史」の枠にとらわれることなく、日本列島の歴史を、より広い視野から見ることができるようになる。近現代の東アジアにおいて日本に関わった具体的な歴史事象を正確に把握するのみならず、体系化された歴史の枠組がいかに我々の同時代的な状況と密接な関係にあるかについても、理解できるようになる。	
<b>評価方法</b> 継続的な出席と積極的な参加が望まれる。講義の性格上、漢字を読むことができない留学生には履修が困難である。世界地図帳と世界歴史地図帳（高校生の時に用いたものでよい）は必ず持参すること。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 自然地理学概説	春 週1回 2単位
担当者：秋山 秀一	
<b>講義の目標及び概要</b> 自然地理学では、地球表面に生起している自然現象の空間的な規則性を把握し、それと人々の暮らしとの関係について学ぶ。 国内、海外問わず、われわれの暮らしているこの地球上には、実に魅力ある様々な自然が分布している。半年の授業の中でそれらをすべて見ていくことは到底不可能なこと。ここでは、もっとも基本となるものについて、作業を交えながら授業を進めていく。 理解度を高めるためにも、教室内の授業だけで済ませてしまうのではなく、身近なところにある実際のフィールドにも足を運んでもらおうと考えている。	
<b>評価方法</b> 日頃の授業への貢献度（30%）、出席状況（30%）、小レポート、それにまとめたレポートや試験（40%）等から総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 秋山秀一『スイス道紀行』芦書房	

選択 人文地理学概説	春 週1回 2単位
担当者：飯島 康夫	
<b>講義の目標及び概要</b> 人文地理学の基本的な考え方を紹介し幅広い分析の視角を提供する。一般に地理学は総合的な科目といわれる。ある地域のことを理解するためにはその地域の自然地形、気候・風土とそれらから派生する生活様式、また政治や経済の制度、歴史や文化という知識を総動員させなければその実態が理解できない。 この講義は地理学に関する隣接科学の諸分野（経済や政治、歴史など）をバランスよく配分することに配慮したが、特に世界経済の進展のなかで諸地域がいかなる空間の形成を伴って発展するのかという問題に関心を置いた。本講義は人文地理学の発展過程とそれに伴って生じた諸問題を紹介したうえで制度や歴史、文化的背景の違いのなかで生じる諸都市・地域の発展形態の違いに焦点をあてる。本講義の参加者が諸都市・地域の現象面に埋没することなくその背後にひそむ、より本質的な空間形成の仕組みと地域ごとの差異について理解するよう工夫した。	
<b>評価方法</b> 授業への貢献度、レポートや試験により総合的に評価する。レポート70%、出席率20%、その他10%	
<b>教科書</b> ピーター・ディッケンほか『立地と空間 上』古今書院	



<b>選択 地誌学概説A</b>	<b>春 週1回 2単位</b>
担当者：秋山 秀一	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>地誌とは、身近な地域から世界各地まで、地球上の様々な地域における自然・社会・文化などの特性を研究・記述すること。 「まずフィールドに出る。そして、歩いてみる。その上で、その土地の自然・人々の暮らしなどを自分の目で見て、そこから何かをつかみとる」</p> <p>このことを、地誌学を学ぶものはけっして忘れてはならない。この授業を通して、ある土地に出かけ、その土地の自然環境や、その土地の人々の暮らしについて考え、記述するそういった力を身につけてもらいたいと思う。</p> <p>私は、小中学生のころから、外国の風景写真をながめたり、街や自然の中を歩き回ったり、列車に乗って旅をするのが好きであった。そして、ずっと好きなことをやってきて、現在もその延長線上にある。地誌を学ぶことは楽しい。まずはその楽しさを知ってもらいたい。その上で、身近な国内の地域から、世界の国々について考えていきたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
日頃の授業への貢献度（30%）、出席状況（30%）、小レポート、それにまとめとしてのレポートや試験（40%）等から総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
秋山秀一『フィールドワークのススメ アジア観光文化の旅』学文社	

<b>選択 地誌学概説B</b>	<b>秋 週1回 2単位</b>
担当者：秋山 秀一	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>地誌とは、身近な地域から世界各地まで、地球上の様々な地域における自然・社会・文化などの特性を研究・記述すること。 「まずフィールドに出る。そして、歩いてみる。その上で、その土地の自然・人々の暮らしなどを自分の目で見て、そこから何かをつかみとる」</p> <p>このことを、地誌学を学ぶものはけっして忘れてはならない。この授業を通して、ある土地に出かけ、その土地の自然環境や、その土地の人々の暮らしについて考え、記述するそういった力を身につけてもらいたいと思う。</p> <p>私は、小中学生のころから、外国の風景写真をながめたり、街や自然の中を歩き回ったり、列車に乗って旅をするのが好きであった。そして、ずっと好きなことをやってきて、現在もその延長線上にある。地誌を学ぶことは楽しい。まずはその楽しさを知ってもらいたい。その上で、身近な国内の地域から、世界の国々について考えていきたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
日頃の授業への貢献度（30%）、出席状況（30%）、小レポート、それにまとめとしてのレポートや試験（40%）等から総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する 秋山秀一『秋山秀一の世界旅』八千代出版	

<b>選択 地誌学特講A</b>	<b>秋 週1回 2単位</b>
担当者：平 修久	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1 内容 地誌学は、ある特定した地域内における地理的事象を自然・人文両方の見地から研究する学問である。本講義では、都市の形成過程、見方、発展・衰退要因という概論を踏まえた後、東京を対象にして、空間的な発展・変遷の歴史の観点から学ぶ。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ 自然地理学概説、人文地理学概説をベースにした教職関連科目の一つである。また、まちづくり学の一部の講義内容とも関連している。</p> <p>3 学びの目的 地理学的重要な対象の一つである都市について、発展と変遷という歴史的事象とその背景などの理解を深めることが、本講義の学びの目的である。</p>	
<b>評価方法</b>	
配点は、出席点20%、課題・小テスト30%、期末テスト（もしくはレポート）50%の予定。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>選択 地誌学特講B</b>	<b>秋 週1回 2単位</b>
担当者：大高 研道	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1 内容 本講義では、アイルランド・イギリスを取り上げて、その歴史・社会・文化・自然について学ぶ。世界をリードしてきたイギリスの歴史や風土について学ぶことは、それ自体として興味のあるテーマではあるが、本講義ではアイルランドの視点に立った「アイルランド・イギリス研究」に取り組みたい。とくに、「北アイルランド紛争はなぜおきたのか？」という主題への究明を通して、両国間の歴史や文化への影響についてともに考えたい。</p> <p>2 カリキュラム上の位置づけ 教職科目（中学校「社会」、高等学校「地理歴史」）の選択科目であり、特定の地域の地誌について理解を深める「特講」のひとつに位置づけられている。</p> <p>3 学びの意義と目標 一般的な歴史や地理について学ぶだけでなく、まずはその地域に住む人々の暮らしや文化に親しみ身近な存在として感じること、そして異文化交流の可能性を主体的に考えることが主目的となる。また、教職科目であるため、自発的に関心のある国・地域について調べ、伝える（教える）能力の向上も重要な学びの目的である。</p>	
<b>評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・試験（50%）、課題報告およびレポート（50%）。</li> <li>・出席点について：毎回の出席が大前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が加算されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。</li> </ul>	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

選択 西洋哲学史特講	春	週1回	2単位
担当者：谷口 隆一郎			
<b>講義の目標及び概要</b> <b>【学習の目標と意義】</b> (1)内容：この講義では、プラグマティズムの代表的な哲学者の思想を通して、現代西洋哲学における主要な哲学の思考(形而上学・認識論・存在論・宗教・正義論)の可能性と限界を批判的に再検討することを主たるねらいとする。 (2)意義と目標：受講生が、プラグマティズムが提唱する“役に立つ”考え方や見方をとはどういうものかを理解することで、実際に自分の思考を予想される成果と結びつけて行動に移す(試す)、という思考行為を学ぶこと、そこにこの科目の学習の意義がある。この思考様式は、ビジネス等における戦略の立て方・交渉術の基本となるものであり、卒業後の君の人生における重大な決定の時などに“役に立つ”考え方のヒントを与えてくれるだろう。			
<b>【カリキュラム上の位置づけ】</b> この講義は、中学校社会科教諭および高等学校地理・歴史教諭免許取得単位認定の科目であるが、上記(2)に関心がある者ならだれにとっても、有益であろう。			
<b>評価方法</b> 平常点(出席率)・授業貢献度(質問・応答)(20%)、小論文あるいはレポート1つ(40%)、および学期末試験(40%)で、総合的に評価する。			
<b>教科書</b> プリントを配布する 魚津郁夫(著)『プラグマティズムの思想』ちくま学芸文庫			

選択 哲学概論	春	週1回	2単位
担当者：大賀 祐樹			
<b>講義の目標及び概要</b> 1、内容 本講義では哲学史を順を追って解説していくというよりも、毎回ある一つのテーマを設定し、様々な哲学者達とその問題についていかに試行錯誤し、継承されたり批判されたりしながらどのように私たちにまで受け継がれているかということについて解説する。そして、抽象的な議論に終始するのではなく、「労働」「自由」「人権」といった現実社会に関わる話題に重点を置く。 2、カリキュラム上の位置づけ この講義科目は、中学校社会科教諭および高等学校地理・歴史教諭免許取得単位認定の科目である。すなわち、この講義は、教諭となることを目指す者のための講義である 3、学びの意義と目標 哲学において大切なことは答えを出すことではなく、問いを立てることである。様々な哲学者達がどのような試行錯誤をして問いを立てたのかという道筋を追うことによって、日常社会の生活においても浮上する問題に対して自分なりの問いを立てる力を養うことを目標とする。			
<b>評価方法</b> 出席(20%)、学期末試験(80%)によって評価する。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 大賀祐樹『リチャード・ローティ 1931-2007 リベラル・アイロニストの思想』藤原書店			

選択 地域研究(アジアA)	秋	週2回	4単位
担当者：秋吉 祐子			
<b>講義の目標及び概要</b> <b>【内容】</b> ：地球上の人間の存続の本質的要件である「食・農・環境・循環型/持続可能社会・世界平和」の世界観において中国を中心としてアジアを分析・考察する。授業の主項目は、各履修生の(1)自主研究のプレゼンテーション(略称：プレゼン)、それに基づく質疑・応答、討論、(2)上記世界観に基づくディベート、(3)各種文書作成(レジュメ、論文、フォーア評価レポート等)である。適時に講義、VTR利用授業を行う。各授業のメニューや課題等はNet Commons(担当者と履修生間の通信に使用するウェブサイト)を活用する。 <b>【カリキュラム上の位置づけ】</b> 国際政治学系の専門科目であり、教職課程関連科目でもある。 <b>【学びの意義と目標】</b> 1. 上記テーマへの学習により人間社会の在り方を模索する。2. 履修生の主体的な問題発見・解決能力を育成する。3. 実社会でも有効な様々な能力・スキルを育成する。(AO機器を活用した様々な形態の発表・発言能力と技術の育成等。)			
<b>評価方法</b> 評価項目授業内外課題の全て(プレゼン・レジュメ・司会・質疑/応答・討論・ディベート・レポート等90%および授業態度10%)。但し担当日プレゼン・ディベートに無断欠席の場合は単位取得意思放棄とみなす。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 渡部忠世『環境・人口問題と食料生産』農文協			

選択 地域研究(アジアB)	秋	週2回	4単位
担当者：小田川 興			
<b>講義の目標及び概要</b> <b>【内容】</b> 日韓両国の経済関係と文化交流は広がっているが、国民同士の絆を一層深めるには両国間の戦後補償問題や歴史教科書問題など根源的な課題の解決が急がれる。そうした視点から、韓国現代史に色濃く投影される日本の植民地支配の実相を知り、その負の遺産—従軍慰安婦問題や在韓被爆者問題など—を学ぶことを通じて、隣国との関係の原点をつかむ。1945年の日本敗戦=朝鮮解放後、朝鮮戦争の悲劇を経て韓国の軍事独裁時代から民主化実現にいたる歩みを経済の推移も含めて分析する。こうした分析を踏まえながら日韓関係の展開と課題を考える。また、東アジア情勢に影響を与える北朝鮮の歴史と現実、とくに地域安保の脅威である核問題を検証し、日朝関係の軌跡をたどる。さらに冷戦後の南北朝鮮関係の変遷を通して南北和解の条件と展望を探る。 <b>【カリキュラム上の位置づけ】</b> 基礎であると同時に未来への対応を可能にする内容である。 <b>【学びの意義と目標】</b> 歴史を動かした人物像を知ること、隣国の市民たちとの友好を深める手がかりを考える。重要なのは「東アジア共同体」という大きな視座から、21世紀の日本と朝鮮半島のあり方を探り、そこに自分の未来像を重ねてみることである。			
<b>評価方法</b> 出席と発表、レポートで総合的に評価する。			
<b>教科書</b> 朝鮮史研究会編『朝鮮の歴史 新版』三省堂			

選択 地域研究(ロシア・東欧) 秋 週2回 4単位	
担当者：飯島 康夫	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 概要 20世紀初めの反スラヴ主義的動向や20世紀後半の東西冷戦を思い起こせば明らかなように、つい最近まで「ロシア」は、ヨーロッパ各国にとっての、ひいては世界にとっての選択肢の一つであった。親ロシアか否かという問いは、20世紀には大変な重みを持っていたのである。ソ連崩壊以後、しばらくの間ロシアの存在感は希薄になっていたが、昨今では再び大国として力を誇示し始めている。21世紀においても、ロシアを知っていることが無駄になることはまずないであろう。	
2. 目標 隣国の歴史の概略を知ること。	
3. 目的 講義の目的は、ロシアに関する基本的な知識を獲得してもらうことにある。取り上げられる分野は、歴史、宗教、政治、思想、文学、芸術など、広範囲にわたる。	
<b>評価方法</b> 出席率(20%)と試験(30%)、小論文(50%)による。	
<b>教科書</b> 軍事史学会編『日露戦争(一)』錦正社	

必修 予備演習A 春 週1回 1単位	
担当者：各クラスアドバイザー	
<b>講義の目標及び概要</b>	
大学で学びを始めるために必要な基礎能力を身につけてもらうことを目的とする。具体的には、2年生以降の専門科目や専門演習に備えるために、読解力やコミュニケーション能力、発表能力、レポートを書く能力を高める訓練をする。 また上記の訓練と平行して、『ニュース検定公式テキスト』を用いつつ、時事問題に関する基礎知識を身に付けてもらう。「ニュース検定」の受検は強制ではないが、できれば挑戦して資格を取得しておくことが望ましい。 なお、以下の授業計画は概要であり、個別の進行計画については、各担当教員によって異なることがありうる。	
<b>評価方法</b> 出席と平常点を重視する。	
<b>教科書</b> 『2010年度版 ニュース検定公式テキスト 3・4級』毎日新聞社	

必修 予備演習B 秋 週1回 1単位	
担当者：各クラスアドバイザー	
<b>講義の目標及び概要</b>	
大学で学びを始めるために必要な基礎能力を身につけてもらうことを目的とする。具体的には、2年生以降の専門科目や専門演習に備えるために、読解力やコミュニケーション能力、発表能力、レポートを書く能力を高める訓練をする。 また上記の訓練と平行して、『ニュース検定公式テキスト』を用いつつ、時事問題に関する基礎知識を身に付けてもらう。「ニュース検定」の受検は強制ではないが、できれば挑戦して資格を取得しておくことが望ましい。 なお、以下の授業計画は概要であり、個別の進行計画については、各担当教員によって異なることがありうる。	
<b>評価方法</b> 出席と平常点を重視する。	
<b>教科書</b> 『2010年度版 ニュース検定公式テキスト 3・4級』毎日新聞社	

必修 予備演習C 秋 週1回 1単位	
担当者：上嶋 康道	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1 内容 「書く」「話す」「聴く」の総合的なコミュニケーション力向上を目標として、学生によるプレゼンテーションの後、質疑応答と講義担当者によるフィードバックを行います。 プレゼンテーションの実施方法や内容については、前年までの学生が作成したスライドをオリエンテーションで紹介します。加えて、コンピュータの使い方(プレゼンテーションソフトの使い方を身につける事になります)も含め、具体的手順について詳しい解説もしますから心配は不要です。	
2 カリキュラム上の位置づけ 予備演習を補完する目的の講座です。したがって、「大学で学びを始めるために必要な基礎能力を身につけること」をめざす点は予備演習と同じです。	
3 学びの意義と目標 言語(日本語)を用いた表現技術と自己の関心から問題を発見するという体験を得ることです。	
<b>評価方法</b> 出席点2割、平常点6割、レポート2割で評価します。 平常点にはプレゼンテーションそのものの評価に加えて、毎回の質疑応答での参加をとくに重視します。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選必 専門演習Ⅰ(法学)</b>	<b>春 週1回 1単位</b>
担当者：渡辺 英人	
<b>講義の目標及び概要</b> 「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければいけない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらおう。2010年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。	
<b>評価方法</b> 1. 授業への参加と理解度 (50%) 2. 発表およびレポート提出 (50%)	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選必 専門演習Ⅱ(法学)</b>	<b>秋 週1回 1単位</b>
担当者：渡辺 英人	
<b>講義の目標及び概要</b> 「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければいけない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらおう。2010年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。	
<b>評価方法</b> 1. 授業への参加と理解度 (50%) 2. 発表およびレポート提出 (50%)	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選必 専門演習Ⅰ(リスク対抗論)</b>	<b>春 週1回 1単位</b>
担当者：標 宣男	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 リスクに対し興味を持ってもらうために、現在注目を集めている話題に関する文献を読む。まず、「専門演習Ⅰ」においては、リスクなる言葉のもつ意味を知的にも感覚的にも身につけることを目的とし、内容の理解と発表のしかたを学習する。 2. カリキュラム上の位置づけ 本演習は、コミュニティ政策学科の専門科目における、選択必修科目である。 3. 学びの意義と目標 自分で問題を考え、答えを探ることを学ぶ。	
<b>評価方法</b> 出席及び提出レポートの内容により評価する。	
<b>教科書</b> 橋元直樹『食品不安 安全と安心の境界』NHK出版	

<b>選必 専門演習Ⅱ(リスク対抗論)</b>	<b>秋 週1回 1単位</b>
担当者：標 宣男	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 「専門演習Ⅰ」と同様、リスクに対し興味を持ってもらうために、現在注目を集めている話題に関する文献を読み、リスクなる言葉のもつ意味を知的にも感覚的にも身につけることを目的とし、内容の理解と発表のしかたを学習する。 2. カリキュラム上の位置づけ 本演習は、コミュニティ政策学科の専門科目における、選択必修科目である。 3. 学びの意義と目標 自分で問題を考え、答えを探ることを学ぶ。	
<b>評価方法</b> 出席及び提出レポートの内容により評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選必 専門演習Ⅰ(まちづくり学)</b> <span style="margin-left: 50px;">春</span> <span style="margin-left: 20px;">週1回</span> <span style="margin-left: 20px;">1単位</span>
担当者：平 修久
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 自分たちのまちは自分たちで良くしようという動きが全国的に広がっている。何気なく毎日過ごしている身近なまちをもう一度見直し、埋もれている価値を再発見し、それをまちづくりに活かす動きも各地で見られる。あるいは、まちの問題を自ら市民が取り組む動きも起きている。 そこで、本演習では、具体的なまちの課題を取り上げ、実際のまちづくり活動を行う。授業の性格上、グループ作業があるとともに、学外で行うこともある。 2. カリキュラム上の位置づけ 共通専門科目のまちづくり学の内容を深く学ぶための演習科目である。 3. 学びの意義と目標 身近な大学周辺のまちを題材に、まちの見方、問題などへの対応方法を学ぶとともに、実際のまちづくりを体験することにより、考える力と行動する力を身につけること。
<b>評価方法</b> 出席(30%)及び授業への参加度合い(発表、グループ作業など、40%)、期末レポート(30%)により評価する。
<b>教科書</b> プリントを配布する 田村明『まちづくりの実践』岩波新書

<b>選必 専門演習Ⅱ(まちづくり学)</b> <span style="margin-left: 50px;">秋</span> <span style="margin-left: 20px;">週1回</span> <span style="margin-left: 20px;">1単位</span>
担当者：平 修久
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 自分たちのまちは自分たちで良くしようという動きが全国的に広がっている。身近なまちを見直し、まちの価値を再発見し、それをまちづくりに活かす動きも各地で見られる。あるいは、まちの問題を市民が取り組む動きも起きている。 そこで、本演習では、まちが直面している問題・課題を学ぶとともに、まちづくりを進めるための現地調査の手法を修得することを目指す。授業の性格上、グループ作業を行うとともに、学外で行うこともある。 2. カリキュラム上の位置づけ 共通専門科目のまちづくり学の内容を深く学ぶための演習科目である。 3. 学びの意義と目標 身近な大学周辺のまちを題材に、まちの見方、問題などへの対応方法を学ぶことにより、考える力を身につけること。
<b>評価方法</b> 出席(30%)及び授業への参加度合い(発表、グループ作業など、40%)、レポート(30%)により評価する。
<b>教科書</b> 田村 明『まちづくりと景観』岩波新書

<b>選必 専門演習Ⅰ(コミュニティ・ビジネス)</b> <span style="margin-left: 50px;">春</span> <span style="margin-left: 20px;">週1回</span> <span style="margin-left: 20px;">1単位</span>
担当者：瀬名 浩一
<b>講義の目標及び概要</b> 『実測！ニッポンの地域力』を輪読するとともに、各自、自分の住んでいる地域の地域力を発見し、最低2500字の小論文にまとめる。
<b>評価方法</b> 発表 50% 小論文 50%
<b>教科書</b> 漢谷浩介『実測！ニッポンの地域力』日本経済新聞出版社

<b>選必 専門演習Ⅱ(コミュニティ・ビジネス)</b> <span style="margin-left: 50px;">秋</span> <span style="margin-left: 20px;">週1回</span> <span style="margin-left: 20px;">1単位</span>
担当者：瀬名 浩一
<b>講義の目標及び概要</b> 『PPPではじめる地域再生』を輪読することにより、各自、自分の住んでいる地域を中心にPPP(公民連携)のテーマを探し、5000字以上の小論文にまとめる。 これまで行政に独占されてきた社会資本整備や公共サービスの提供について、行政のみならず企業・NPO・住民なども参画し連携しながら対応していくPPP(Public Private Partnerships)の活用が重要となっている。これは一部で弊害も指摘されている公共分野そのものの見直し・再構築であるとともに、民間部門におけるビジネスチャンスの拡大をもたらす。さらに行政に依存しがちな住民・法人の意識変革の契機となりうる。
<b>評価方法</b> 発表50%、小論文50%
<b>教科書</b> 日本政策投資銀行地域企画チーム『PPPではじめる地域再生』ぎょうせい

選必 専門演習Ⅰ(公共哲学)	春	週1回	1単位
担当者：谷口 隆一郎			
<b>講義の目標及び概要</b>			
【この演習の狙いと目的】は、(1)ロバート・N・ベラーの『善い社会—道徳的エコロジーの制度論』の精読を通じて、公共・民主的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにあります。このテキストは、世界の大学の公共哲学の授業でテキストとして使われている良質な内容のものです。(2)論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛えます。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができます。			
【演習の進め方】(1)1年かけて、テキストの各章を精読・精解する。(2)テキストの指定の箇所(章/節)をレジメにまとめ報告・議論する。(3)卒業論文のテーマにつながるトピックを決める。			
学問をしたり合宿に海や高原へ行ったり、と楽しくゼミをやりたいと考えています。			
<b>評価方法</b>			
小論文1本(4000字以上)、レジメ、授業貢献度、出席率で総合的に評価する。遅刻3回は1回の欠席とみなす。合宿を何度か実施する。			
<b>教科書</b>			
ロバート・N・ベラー『善い社会—道徳的エコロジーの制度論』みすず書房			

選必 専門演習Ⅱ(公共哲学)	秋	週1回	1単位
担当者：谷口 隆一郎			
<b>講義の目標及び概要</b>			
【この演習の狙いと目的】は、(1)ロバート・N・ベラーの『善い社会—道徳的エコロジーの制度論』の精読を通じて、公共・民主的市民精神・公共倫理の諸問題と諸課題についての理解を深めることにあります。このテキストは、世界の大学の公共哲学の授業でテキストとして使われている良質な内容のものです。(2)論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛えます。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができます。			
【演習の進め方】(1)1年かけて、テキストの各章を精読・精解する。(2)テキストの指定の箇所(章/節)をレジメにまとめ報告・議論する。(3)卒業論文のテーマにつながるトピックを決める。			
学問をしたり合宿に海や高原へ行ったり、と楽しくゼミをやりたいと考えています。			
<b>評価方法</b>			
小論文1本(4000字以上)、レジメ、授業貢献度、出席率で総合的に評価する。遅刻3回は1回の欠席とみなす。合宿を何度か実施する。			
<b>教科書</b>			
ロバート・N・ベラー『善い社会—道徳的エコロジーの制度論』みすず書房			

選必 専門演習Ⅰ(キリスト教社会倫理)	春	週1回	1単位
担当者：佐野 正子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
コミュニティにおけるさまざまな倫理的問題を取り上げて、よりよいコミュニティを形成するためには、どこに問題があり、どのようにすべきかという考察を行なっていく。具体的には、生命倫理(クローン人間、脳死、安楽死、自殺、エイズ、死刑制度)や、家族倫理(ドメスティックバイオレンス、児童虐待)や、社会倫理(いじめ、部落差別、外国人労働者、野宿労働者、環境問題)などを取り上げる。			
<b>評価方法</b>			
各発表内容や授業への取り組みの熱心度、学期末レポートを総合的に判定し評価する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選必 専門演習Ⅱ(キリスト教社会倫理)	秋	週1回	1単位
担当者：佐野 正子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
「専門演習Ⅰ」に引き続いて、コミュニティにおけるさまざまな倫理的問題を取り上げる。			
<b>評価方法</b>			
各発表内容や授業への取り組みの熱心度、学期末レポートを総合的に判定し評価する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選必修 専門演習Ⅰ (政治学)	春 週1回 1単位
担当者：川添 美央子	
<b>講義の目標及び概要</b> 履修者の興味や関心を把握した上で、戦後日本の政治史、あるいは現代日本の政治に関連するテキストを選び、輪読する。過去にとりあげたテキストには以下のようなものがある。 ジョン・ダワー 『敗北を抱きしめて』 岩波書店 山口二郎 『戦後政治の崩壊』 岩波文庫 杉田敦 『デモクラシーの論じ方』 ちくま新書 など。	
<b>評価方法</b> 平常点（出席状況、質問や討論の積極性、発表の完成度等）と、学期末提出のレポートを1：1の比率で評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選必修 専門演習Ⅱ (政治学)	秋 週1回 1単位
担当者：川添 美央子	
<b>講義の目標及び概要</b> 履修者の興味や関心を把握した上で、戦後日本の政治史、あるいは現代日本の政治に関連するテキストを選び、輪読する。過去にとりあげたテキストには以下のようなものがある。 ジョン・ダワー 『敗北を抱きしめて』 岩波書店 山口二郎 『戦後政治の崩壊』 岩波文庫 杉田敦 『デモクラシーの論じ方』 ちくま新書 など。	
<b>評価方法</b> 平常点（出席状況、質問や討論の積極性、発表の完成度等）と、学期末提出のレポートを1：1の比率で評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選必修 専門演習Ⅰ (管理学)	春 週1回 1単位
担当者：清澤 達夫	
<b>講義の目標及び概要</b> 1、目的 本演習の目的は、管理に関する領域を対象に皆さんとグループワークを通じて共に考えていくことにあります。 2、カリキュラム上の位置づけ 領域とは、営利（つまり企業）である場合もあるし、非営利（病院やNPO）の場合もあると思います。 3、学びの意義と目標 最初は、経営管理について基本知識を持っていないとの前提で、管理学の共通認識を育てるために指定文献を輪読しながら経営管理およびマーケティングに関わる基礎知識を養っていきます。後半は、P.F. ドラッカーの著書・論文を読んでいきたいと思えます。皆さんの進捗具合と相談しながら問題発見・解決の能力を習得するために合宿（日程は、皆さんの予定を考慮して決めましょう）やチャレンジショップへのかかわりを計画したいと思えます。出来れば、後期の専門演習Ⅱ（管理学）につなげていくために問題分析・表現能力も勉強したいと考えています。	
<b>評価方法</b> 配点は、演習出席：40%、演習での発表：40%、演習での討議参加度：20%とします。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選必修 専門演習Ⅱ (管理学)	秋 週1回 1単位
担当者：清澤 達夫	
<b>講義の目標及び概要</b> 1、目的 本演習の目的は、専門演習Ⅰの延長でより「管理学」について深めることです。同時に、自ら関心のある管理に関する領域でテーマを設定し、何人かでチームを組んで研究・調査して論文にまとめることにあります（もちろん、個人研究でも構いません）。 2、カリキュラム上の位置づけ このことは、専門演習Ⅱは卒業研究へ自ら関心のある課題を絞って、研究調査の下調べを行なうことを兼ねております。 3、学びの意義と目標 その過程において、皆さんは論理的にまとめ上げていく能力を養ってもらいたいです。	
<b>評価方法</b> 配点は、提出された論文（60%）と演習での参加発表（中間発表も含む）・討議への参加（40%）をもって、総合的に評価します。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選必 専門演習Ⅰ(金融論)	春 週1回 1単位
担当者：鈴木 真実哉	
<b>講義の目標及び概要</b> 「金融論」に関するテキストを選定し、発表担当者の報告とゼミ員全員による討論という形式をとる。テキストの性格にもよるが、なるべく毎回1～2のテーマに絞って議論をすすめる予定である。テキストの選定は、こちらがいくつかの候補を挙げ、ゼミのメンバーが決定した際に、その中から話し合いによって行う。	
<b>評価方法</b> 春学期に「金融論」を受講していることを条件とする。担当報告の内容と質疑応答への対応によって評価する。小レポートを課すこともある。出席は重要な評価要素となる。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選必 専門演習Ⅱ(金融論)	秋 週1回 1単位
担当者：鈴木 真実哉	
<b>講義の目標及び概要</b> 専門演習Ⅰ(金融論)をうけて、テーマの設定のし方、資料の検索を調べ、調べたものをまとめる、発表する等の能力を向上させることに目標をおく。 毎回、必ず発表の機会がある。その発表についての質疑応答も発表のうちである。	
<b>評価方法</b> 発表そのものと、質疑応答の内容、および提出された資料等を総合的に判断して評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選必 専門演習Ⅰ(経済学)	春 週1回 1単位
担当者：石部 公男	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 目的 経済学の演習であるので、各自が自主的に深く経済学について学びゼミ生との討論を通し、知識および自分の考えや意見を磨き応用力のある経済学的力を修得することを目的とする。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習であるので、1年次の経済学はもちろん、マクロ経済学など他の経済理論に関連する科目を履修していることを条件とする。 3. 学びの意義と目標 専門的知識を生きた形で応用できるように自らが調査研究および発表を通して身に着けることを目標とする。	
<b>評価方法</b> 出席率と毎回の発表および討論内容等で評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 石部、淵上、山田、原田、渡辺『経済学』ヴェリタス書房	

選必 専門演習Ⅱ(経済学)	秋 週1回 1単位
担当者：石部 公男	
<b>講義の目標及び概要</b> 専門演習Ⅰ(経済学)に同じ	
<b>評価方法</b> 専門演習Ⅰ(経済学)に同じ	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	



選必 専門演習Ⅰ (情報倫理)		春	週1回	1単位
担当者：竹井 潔				
<b>講義の目標及び概要</b>				
◆内容◆ 工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれだした。「情報倫理」は今後あらゆる「情報」を扱う上で必要となる。そこで、「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分を確認し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい。				
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 「情報倫理」を平行履修することが望ましい。また、コミュニティ情報系の科目の履修をすることが望まれる。				
◆学びの意義◆ 情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく				
<b>評価方法</b>				
出席・授業態度 (50%)、レポート・発表 (50%)				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習Ⅱ (情報倫理)		秋	週1回	1単位
担当者：竹井 潔				
<b>講義の目標及び概要</b>				
◆内容◆ 工業社会から情報社会へと変遷してきた中で、「情報倫理」ということが近年いわれだした。「情報倫理」は今後あらゆる「情報」を扱う上で必要となる。そこで、「情報倫理」がなぜ必要となってきたのか、情報とは何か、現代社会と情報のかかわりの中で、情報の価値を問いかけていきたい。私たちは、次第に情報ネットワーク社会を前提とした情報社会の中で生活をしてきているが、情報社会をとりまく光と闇の部分を確認し、情報化によって便益を受けている面と、問題が生じてきた情報社会の課題を検討していきたい。				
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 「情報倫理」を平行履修することが望ましい。また、コミュニティ情報系の科目の履修をすることが望まれる。				
◆学びの意義◆ 情報社会における諸課題、情報倫理の必要性について理解し、課題を形成していく				
<b>評価方法</b>				
出席・授業態度40%、レポート・発表60%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習Ⅰ (地域福祉)		春	週1回	1単位
担当者：大塚 健司				
<b>講義の目標及び概要</b>				
講義の目標及び概要 1、目的 介護保険の創設、社会福祉基礎構造改革（措置から契約へ）等、福祉の大きな流れの中で、社会福祉法に地域福祉の推進が位置づけられました。 この授業では、社会福祉法での「地域福祉」の位置づけや、地域住民が、障害の有無、老若男女を問わず、自然に交わり、支えあう「福祉のまちづくり」について考える。				
2、カリキュラム上の位置づけ 演習科目である。福祉諸制度や、地域社会のことを自分で調べ発表し、論議し、地域福祉（市町村地域福祉計画）のあるべき姿を考える。				
3、学びの意義と目標 「環境福祉」をテーマに、実際に障害者と畑でジャガイモなどを作り、地域社会の課題（農業、土地利用、環境、福祉等）を考えるとともに、地域福祉の実践のあり方を考える。住民、行政、当事者の立場に分かれて論議し、広い視野で考えられるようにする。				
<b>評価方法</b>				
課題に対するレポート提出（指定期限厳守）40%、学期末レポート40%、出席20%により評価する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 専門演習Ⅱ (地域福祉)		秋	週1回	1単位
担当者：大塚 健司				
<b>講義の目標及び概要</b>				
講義の目標及び概要 1、目的 介護保険の創設、社会福祉基礎構造改革（措置から契約へ）等、福祉の大きな流れの中で、社会福祉法に地域福祉の推進が位置づけられました。 この授業では、社会福祉法での「地域福祉」の位置づけや、地域住民が、障害の有無、老若男女を問わず、自然に交わり、支えあう「福祉のまちづくり」について、その考え方や、具体的な方策について論議し、実践する。				
2、カリキュラム上の位置づけ 演習科目である。市町村地域福祉計画を念頭に、地域の実情を調べ、専門演習Ⅰに引き続いて考える。				
3、学びの意義と目標 「環境福祉」をテーマに地域社会の課題を考え、地域福祉の実践のあり方を探る。また、自分が住んでいる市町村の「市町村地域福祉計画」などを調べ、レポートとしてまとめ、発表し、福祉制度や地域社会がどう関わりあっているか自分のものにする。				
<b>評価方法</b>				
課題に対するレポート提出（期限厳守）40%、学期末レポート40%、出席20%により評価する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

<b>選必 専門演習Ⅰ(日本経済論)</b> <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：大森 達也
<b>講義の目標及び概要</b> 本演習では、欧米経済先進国との制度的な比較から、1990年代に入るまで順調な経済成長を持続してきた日本経済の特徴を理解し、90年代の「失われた10年」を経て、21世紀を迎えた今日においてもいまだ問題を抱える日本経済についてを考えることをねらいとする。 日本経済の抱える問題への意識を高めるため、日本的雇用制度、銀行系列や階層的な下請け制度など、これまでの制度についての基礎知識を深めることから始める。また、各学生は、それぞれの問題意識に基づき文献を読み、発表を行ない、そのあと全体で発表された問題について目指すべき方向についての考え方をディスカッションする。
<b>評価方法</b> (1) 2,000字程度のレポート提出 (50%) (2) 各講義での発表、ディスカッションへの参加 (40%)
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 専門演習Ⅱ(日本経済論)</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：大森 達也
<b>講義の目標及び概要</b> 本演習では、専門演習Ⅰで学んだ日本経済の抱える問題に関する基礎知識をもとに、各自、レポート課題を設定した上で、それぞれの課題に関する文献を読み、発表、そして発表に対するクラスディスカッションを行ないつつ、4000字のレポート(レジメを含む)をまとめることを目的としている。
<b>評価方法</b> (1) 4,000字程度のレポート提出 (50%) (2) 各演習時間での発表、ディスカッションへの参加 (40%)
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 専門演習(コミュニティ政策)</b> <span style="float: right;">春 週2回 2単位</span>
担当者：竹井 潔
<b>講義の目標及び概要</b> 情報社会におけるコミュニティの諸課題について検討していく。特にITによる地域活性化等、地域情報化によるコミュニティ形成の課題などを取り上げる。そのために、前半においては、文献等の輪読、課題解決のプロセスにより、問題意識の形成を行う。また、後半は、各自、テーマの設定を行い、テーマについての調査、発表を繰り返して行う。
<b>評価方法</b> 出席40%、レポート・発表60%
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業研究Ⅰ(法学)</b> <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：渡辺 英人
<b>講義の目標及び概要</b> 「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければいけない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらおう。2010年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。このゼミを通して、大学三年生に相応しい卒業研究を指導する。これを基に四年生になったら「卒業論文」を執筆して欲しい。
<b>評価方法</b> 1. 授業への参加と理解度 (50%) 2. 発表およびレポート提出 (50%)
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業研究Ⅱ(法学)</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：渡辺 英人
<b>講義の目標及び概要</b> 「法」を学ぶことは社会の中で生きるための最も重要な基礎知識である。この授業では大学生として必ず知っていなければならない「社会のルール」その根本概念について解説し、理解してもらおう。2010年度のテーマは「生活の中から見た法と行政」。消費者保護に関する法や行政を学ぶ。新聞やテレビ等のニュース報道で、従来では考えられなかった事件や事故を耳にする。なぜ、このような問題が発生するのか、いっしょに検討してみよう。生活者の視点で社会を確認してみよう。このゼミを通して、大学三年生に相応しい卒業研究を指導する。これを基に四年生になったら「卒業論文」を執筆して欲しい。
<b>評価方法</b> 1. 授業への参加と理解度 (50%) 2. 発表およびレポート提出 (50%)
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業研究Ⅰ(リスク対策論)</b> <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：標 宣男
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 新聞紙上に現れた様々なリスク事象、例えば科学技術システムの事故、医療事故あるいは健康リスクをもたらすハザードなどについて調査し、その原因及び防止対策を検討する。その際、そのリスク事象を組織事故としてとらえることを試みる。 2. カリキュラム上の位置づけ 本演習は、コミュニティー政策学科の専門科目における、選択必修科目である。 3. 学びの意義と目標 自分で問題を考え、答えを探ることを学ぶ。
<b>評価方法</b> レポートの内容およびレポートを聞いている時には質問の有無により総合的に評価する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業研究Ⅱ(リスク対策論)</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：標 宣男
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 卒業研究Ⅰと基本的には同じ内容。 ただし調査の対象を新聞以外の雑誌、インターネット情報に広げる。 2. カリキュラム上の位置づけ 本演習は、コミュニティー政策学科の専門科目における、選択必修科目である。 3. 学びの意義と目標 自分で問題を考え、答えを探ることを学ぶ。
<b>評価方法</b> レポートの内容およびレポートを聞いている時には質問の有無により総合的に評価する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業研究Ⅰ(まちづくり学)</b> <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：平 修久
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 専門演習Ⅱに引き続き、キャンパスの改善計画を検討する。具体的内容を取上げ、詳細な計画を作成する。これらの作業を通して、計画作成の流れを学ぶ。 2. カリキュラム上の位置づけ 共通専門科目のまちづくり学の内容を深く学ぶための演習科目である。 3. 学びの意義と目標 専門演習で修得した知識、作業経験を活かし、さらに、まちづくりに関する知識を深める。まちに対する観察力を深め、計画づくりを行うことにより、考える力を身につけること。
<b>評価方法</b> 出席 (30%) 及び授業への参加度合い (発表、グループ作業など、40%)、レポート (30%) により評価する。
<b>教科書</b> 三浦展『脱ファスト風土宣言』洋泉社

選必 卒業研究Ⅱ(まちづくり学) 秋 週1回 1単位
担当者：平 修久
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 一人ひとりの受講生の興味のあるまちづくり、ないし、まちの問題について各自研究を行う。テーマとしては、(1)都市開発関連、(2)都市問題、(3)地域コミュニティの活性化・維持、(4)安全なまちづくり、(5)福祉のまちづくり、(6)まちの環境保全・再生・創造、(7)まちのイベント、(8)都市行政などを想定している。 2. カリキュラム上の位置づけ 共通専門科目のまちづくり学の内容を深く学ぶための演習科目である。また、まちづくりに関する総まとめの授業である。 3. 学びの意義と目標 自ら課題を設定し、調査し、レポートを作成できるようにすること。
<b>評価方法</b> 出席(20%)、授業への参加度合い(発表や討議など30%)、レポート(50%)により評価する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選必 卒業研究Ⅰ(市民資金・ビジネス論) 春 週1回 1単位
担当者：瀬名 浩一
<b>講義の目標及び概要</b> 「市民資金が地域を築く」を輪読するとともに、各自自分の住んでいる地域を中心として市民資金を利用した事例を探し、7500字以上のレポートにまとめる。 社会的意義が大きいプロジェクトに共感・共鳴し、これに参加・協力したいと考え、自らの責任と負担で、市民が主体的に資金を提供する。このような資金提供を通じた新しい公共への参加形態が現れ始めている。寄付、貸付、債券購入、出資という形態で提供される「志ある資金」は、「市民ファイナンス」と呼ばれる。「市民ファイナンス」のリターンは、プロジェクトの実行を通じた「社会的価値」「公益」の実現である。こうした「社会的リターン」に加えて、もちろん金銭的な利子・配当などの「経済的リターン」があってもいい。ただし「社会的リターン」を得ることで「経済的リターン」は相対的に小さくても許容する。こうした「市民ファイナンス」が提供されることで、社会的意義が大きい一方で収益性の低い事業における資金調達に円滑化・安定化することになる。 市民ファイナンスの意義はこれにとどまらず、主体的な意思で資金を提供した市民は当該事業に対する当事者意識・参加意識を持つことになる。そうするとさらに意見・提案、知恵・役務の提供など資金面を超えた参加を拡大・進化することに繋がる。
<b>評価方法</b> 発表50%、小論文50%
<b>教科書</b> 日本政策投資銀行地域企画チーム『市民資金が地域を築く』ぎょうせい

選必 卒業研究Ⅱ(市民資金・ビジネス論) 秋 週1回 1単位
担当者：瀬名 浩一
<b>講義の目標及び概要</b> 「コミュニティ・ビジネスの現場」を履修し、まちづくり、福祉、環境、などコミュニティ・ビジネスの現場を支える経営者、利害関係者の講演から、コミュニティ・ビジネスの現場では「誰を助けるのか?」、「何をしているのか?」など地域経営の実情を知る。また、将来「社会起業家」として立ち立つために必要な起業家精神・組織づくり・資金調達などについて知れた内容について文章化する。次に、それらの作業から得た情報をもとに、自分の住んでいる地域を中心にコミュニティ・ビジネスの起業可能性について1万字以上のレポートに纏める。
<b>評価方法</b> 発表、文章化50%、期末レポート50%
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選必 卒業研究Ⅰ(倫理学) 春 週1回 1単位
担当者：谷口 隆一郎
<b>講義の目標及び概要</b> 【この演習の狙いと目的】は、谷口隆一郎の「公共倫理」および「横超」という概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、公共倫理・民主的市民精神・公共教育・公共にける宗教の諸問題と諸課題について、ゼミ生が各自のテーマで研究を掘り下げることにあります。論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛えます。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができます。  【演習の進め方】ゼミ生は、(1)1年かけて、各自収集した文献を読み解いていく。(2)卒業研究論文の章や節をレジメにまとめ報告・議論する。(3)卒業研究演習の論文を書く。これを卒業論文としてまとめることを目指す。  学問をしたり合宿に海や高原へ行ったり、と楽しくゼミをやっていきたく考えています。
<b>評価方法</b> 論文(もしくは論文の粗稿)1本(10,000字相当)、レジメ、授業貢献度(出席率を含む)で総合的に評価する。遅刻3回は1回の欠席とみなす。合宿を何度か実施する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選必 卒業研究Ⅱ (倫理学)	秋 週1回 1単位
担当者：谷口 隆一郎	
<b>講義の目標及び概要</b> 【この演習の狙いと目的】は、谷口隆一郎の「公共倫理」および「横超」という概念を手がかりに、プラグマティズム的思考に即しつつ、公共倫理・民主的市民精神・公共教育・公共にける宗教の諸問題と諸課題について、ゼミ生が各自のテーマで研究を掘り下げることにあります。論理的に思考することにより、徹底的に日本語能力と思考力を鍛えます。思考力さえ鍛えておけば、それをどんな知識の運用にも役立たせることができます。	
<b>演習の進め方</b> ゼミ生は、(1)1年かけて、各自収集した文献を読み解いていく。(2)卒業研究論文の章や節をレジメにまとめ報告・議論する。(3)卒業研究演習の論文を書く。これを卒業論文としてまとめる。	
学問をしたり合宿に海や高原へ行ったり、と楽しくゼミをやりたいと考えています。	
<b>評価方法</b> 小論文1本(10,000字以上)、レジメ、授業貢献度、出席率で総合的に評価する。遅刻3回は1回の欠席とみなす。合宿を何度か実施する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選必 卒業研究Ⅰ (キリスト教社会倫理)	春 週1回 1単位
担当者：佐野 正子	
<b>講義の目標及び概要</b> 専門演習に引き続いて、コミュニティにおける倫理的諸問題を取り上げる。	
<b>評価方法</b> 発表の内容と、授業への取り組みの熱心度、学期末レポートを総合的に判定し、評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選必 卒業研究Ⅱ (キリスト教社会倫理)	秋 週1回 1単位
担当者：佐野 正子	
<b>講義の目標及び概要</b> 卒業研究Ⅰに引き続いて、コミュニティにおける倫理的諸問題を取り上げる。	
<b>評価方法</b> 発表内容や、授業への取り組みの熱心度、学期末レポートを総合的に判定し、評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選必 卒業研究Ⅰ (管理学)	春 週1回 1単位
担当者：清澤 達夫	
<b>講義の目標及び概要</b> 1、目的 卒業研究Ⅰの目的は、前年度「専門演習」で養ってきた専門分野へのより一層の研究調査である。その結果が、卒業研究レポートとしてまとめられ、大学在学中のメモリアルにさせていただくことを願っております。 2、カリキュラム上の位置づけ 上記レポートにまとめるための基礎準備と経営管理に関する輪談を行なっていきます。 3、学びの意義と目標 この過程において自ら計画したものを調査し、論理的にまとめる能力を身につけていきます。	
<b>評価方法</b> 配点は、ゼミの出席(60%)とゼミでの参加・討議(40%)をもって、総合的に評価します。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選必 卒業研究Ⅱ (情報学)</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：清澤 達夫
<b>講義の目標及び概要</b> 1、目的 卒業研究Ⅱの目的は、自ら関心のある営利・非営利組織の管理に関わるテーマを研究・調査して論文にまとめて最後のゼミで各自発表できる能力を身につけていくことである。 2、カリキュラム上の位置づけ 上記レポートにまとめるための基礎準備と経営管理に関する輪読を行なっていきます。 3、学びの意義と目標 この過程を通じて、自ら計画したものを調査し、論理的にまとめる能力を身につけていきます。
<b>評価方法</b> 配点は、提出された論文（60%）とゼミでの参加・討議（40%）をもって、総合的に評価します。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業研究Ⅰ (金融論)</b> <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：鈴木 真実哉
<b>講義の目標及び概要</b> 専門演習Ⅰ・Ⅱにおいて学んだことを基礎として、さらに応用的・発展的な学習を進めてゆく。最終的には卒業論文の作成につながるようにする。
<b>評価方法</b> 演習での発表・レポート・出席等を総合的に考慮して評価する。無断欠席は単位の放棄とみなすことがある。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業研究Ⅱ (金融論)</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：鈴木 真実哉
<b>講義の目標及び概要</b> 専門演習Ⅰ・Ⅱにおいて学んだことを基礎として、さらに応用的・発展的な学習を進めてゆく。最終的には卒業論文の作成につながるようにする。
<b>評価方法</b> 演習での発表・レポート・出席等を総合的に考慮して評価する。無断欠席は単位の放棄とみなすことがある。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業研究Ⅰ (経済学)</b> <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：石部 公男
<b>講義の目標及び概要</b> 1、目的 経済学に関連する内容について、各自が研究対象とするテーマを選び、毎回の授業でそれを発表する形式をとります。これにより卒業論文の科目ではないが、これに近い学習成果を期待するので、論文作成に準ずる能力の養成を目的としている。 2、カリキュラム上の位置づけ この科目はいわゆる講義科目ではありません。経済学または経済事象に関係のある事柄について、講義科目としての経済学や関連領域の各科目を学習し、さらに経済学の演習を履修したものが、原則として履修できる科目です。したがって3年次生の履修を前提としている。また更なる研究を目指すものが卒業論文を書く基礎として位置づけている。 3、学びの意義と目標 研究対象について、概ね1万字以上の文章を書かせ、科学的客観的に物事を判断できる能力と文章作成能力の養成を目的とする。
<b>評価方法</b> 日常の研究発表内容と態度および出席率50% 卒業研究としての論文内容50%の合計で評価。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選必 卒業研究Ⅱ (経済学)		秋	週1回	1単位
担当者：石部 公男				
<b>講義の目標及び概要</b>				
卒業研究Ⅰに継続し同様の内容。				
1. 目的 経済学に関連する内容について、各自が研究対象とするテーマを選び、毎回の授業でそれを発表する形式をとります。これにより卒業論文の科目ではないが、これに近い学習成果を期待するので、論文作成に準ずる能力の養成を目的としている。				
2. カリキュラム上の位置づけ この科目はいわゆる講義科目ではありません。経済学または経済事象に関係のある事柄について、講義科目としての経済学や関連領域の各科目を学習し、さらに経済学の演習を履修したものが、原則として履修できる科目です。したがって3年次生の履修を前提としている。また更なる研究を目指すものが卒業論文を書く基礎として位置づけている。				
3. 学びの意義と目標 研究対象について、概ね1万字以上の文章を書かせ、科学的客観的に物事を判断できる能力と文章作成能力の養成を目的とする。				
<b>評価方法</b>				
日常の研究発表内容と態度および出席率50% 卒業研究としての論文内容50%の合計で評価。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究Ⅰ (地域社会論)		秋	週1回	1単位
担当者：大高 研道				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 現代的課題克服の主体研究が中心テーマとなる。本演習では、「専門演習」での学びを通して醸成された知見にもとづいて選択されたテキストにもとづいて、各自が関心のある課題について、自由に報告・議論する。その上で、卒業レポートのテーマを確定し、調査方法論および論文執筆の基本的技法について学ぶ。				
2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の必修科目である。専門知識の応用を学ぶと同時に、卒業研究レポートの作成に向けた理論検討および調査を実施する。				
3. 学びの意義と目標 最終的には、地域を基盤に活動を展開する新しい協同の形として注目されるNPOや市民社会組織の可能性について、各自が関心のある領域において一定程度のヴィジョンが提起できるようになることを目指す。				
<b>評価方法</b>				
・ゼミへの参加状況（報告内容、討論時の積極性：50%）およびレポート（50%）。 ・毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点に加算されることはない。ただし、欠席は大幅な減点の対象となる。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究Ⅱ (地域社会論)		秋	週1回	1単位
担当者：大高 研道				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 卒業研究Ⅰにおいて設定したテーマをさらに深め、関連する領域において活動を展開する市民社会組織（NPO、社会的企業、協同組合、ボランティア団体等）についての調査を実施し、その成果を卒業研究レポートとしてまとめる。				
2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の必修科目である。先行研究の批判的・創造的な検討を試みる卒業研究レポートは、大学における学びのひとつの集大成として位置づけられている。				
3. 学びの意義と目標 最終的には、各自が関心のある社会的経済領域において一定程度のヴィジョンが提起できるようになることを目指す。				
<b>評価方法</b>				
・ゼミへの参加状況（報告内容、討論時の積極性：50%）およびレポート（50%）。 ・毎回の出席が前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点に加算されることはない。ただし、欠席は大幅な減点の対象となる。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究Ⅰ (地域福祉)		春	週1回	1単位
担当者：大塚 健司				
<b>講義の目標及び概要</b>				
講義の目標及び概要				
1. 目的 介護保険の創設、社会福祉基礎構造改革（措置から契約へ）等福祉の大きな流れの中で、社会福祉法に地域福祉の推進が位置づけられました。 この授業では、専門演習（地域福祉）で学んだ地域福祉の考え方や各自がテーマに沿って自分で調べた市町村の地域福祉推進計画等を基礎に、さらに、計画の進捗状況やモデル的な地域福祉の取り組みについて調べ、論議をしていきます。その中から課題や問題点を見つけ、研究を深めて、論文にまとめあげるようにしていきます。				
2. カリキュラム上の位置づけ 演習科目である。専門演習Ⅰ、Ⅱ（地域福祉）に引き続いた科目である。				
3. 学びの意義と目標 課題や問題点の発見、論点整理、まとめを身につける。				
<b>評価方法</b>				
レポート提出内容、発表、論議参加状況80%、出席20%により評価				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 卒業研究Ⅱ (地域福祉)	秋	週1回	1単位
担当者：大塚 健司			
<b>講義の目標及び概要</b> 講義の目標及び概要 1、目的 介護保険の創設、社会福祉基礎構造改革（措置から契約）等福祉の大きな流れの中で、社会福祉法に地域福祉が位置づけられました。この授業では、専門演習（地域福祉）で学んだ地域福祉の考え方や各自がテーマに沿って自分で調べた市町村の地域福祉推進計画等を基礎に、さらに、計画の進捗状況やモデル的な地域福祉の取り組みについて調べ、論議し、「卒業研究Ⅰ（地域福祉）」に引き続き、討論し、論文作成能力の向上を目指す。 2カリキュラム上の位置づけ 演習科目である。「卒業研究Ⅰ」に引き続き、調査、研究する。 3、学びの意義と目標 課題問題点の発見、論点整理、まとめを身につける。			
<b>評価方法</b> 討論への参加、論文の発表、提出された論文の内容80%、出席20%により評価			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選必 卒業研究Ⅰ (日本経済論)	春	週1回	1単位
担当者：大森 達也			
<b>講義の目標及び概要</b> ここでは、専門演習で各自学習してきたテーマに沿って、研究レポートを作成することを目的としている。			
<b>評価方法</b> (1) 12,000字程度のレポート提出 (50%) (2) 研究レポートの目次発表 (20%) (3) 月1回程度の発表、ディスカッションへの参加 (30%)			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

選必 卒業研究Ⅱ (日本経済論)	秋	週1回	1単位
担当者：大森 達也			
<b>講義の目標及び概要</b> ここでは、専門演習で各自学習してきたテーマに沿って、研究レポートを作成することを目的としている。			
<b>評価方法</b> (1) 12,000字程度のレポート提出 (50%) (2) 研究レポートの目次発表 (20%) (3) 月1回程度の発表、ディスカッションへの参加 (30%)			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

選必 卒業研究 (コミュニティ政治)	春	週2回	2単位
担当者：竹井 潔			
<b>講義の目標及び概要</b> 情報社会におけるコミュニティの諸課題について検討していく。特にITによる地域活性化等、地域情報化によるコミュニティ形成の課題などを取り上げる。そのために、前半においては、文献等の輪読、課題解決のプロセスにより、問題意識の形成を行う。また、後半は、各自、テーマの設定を行い、テーマについての調査、発表を繰り返して行う。			
<b>評価方法</b> 出席40%、レポート・発表60%			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			



選必 卒業研究(コミュニティ政策) 秋 週2回 2単位

担当者：川添 美央子

**講義の目標及び概要**

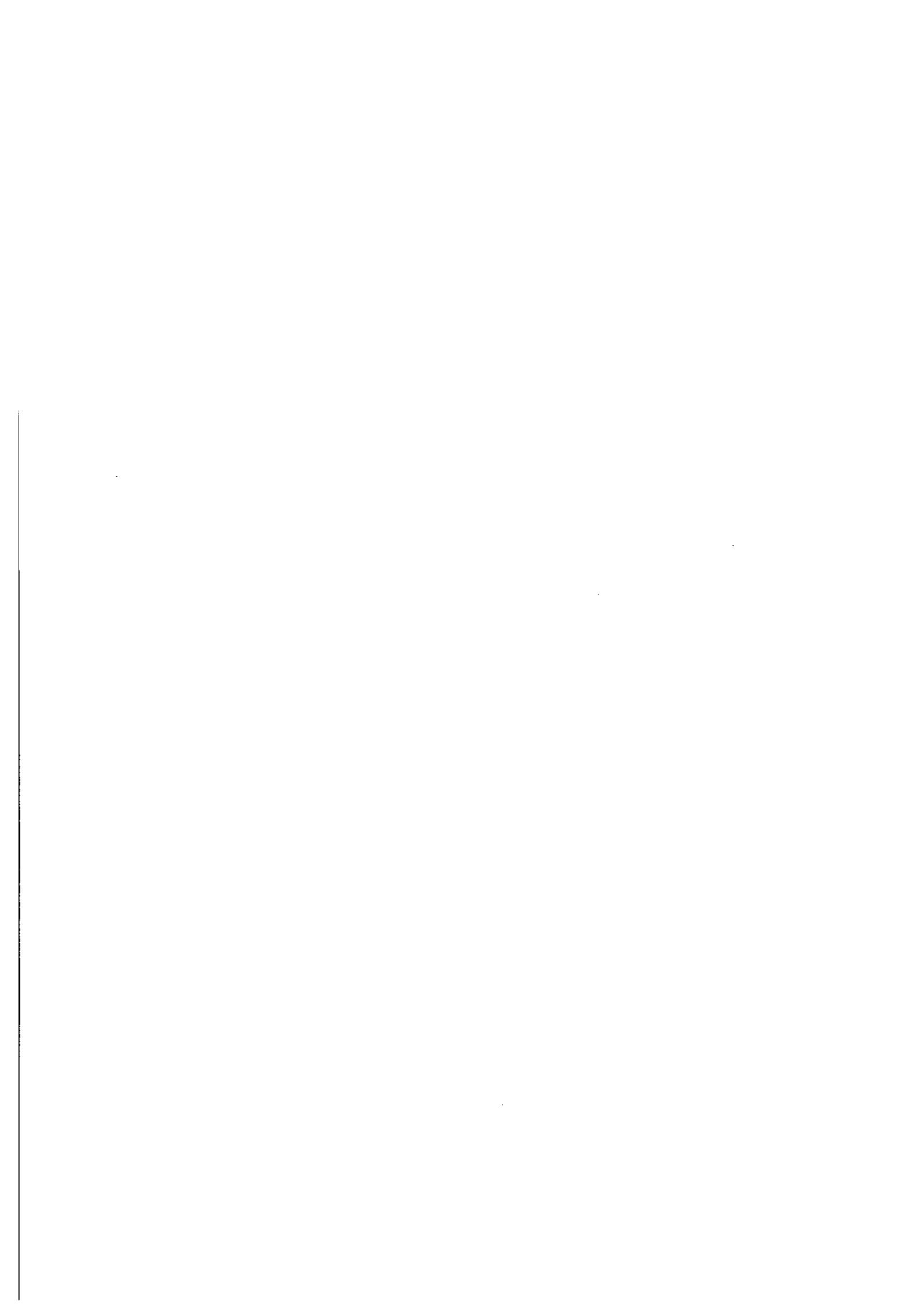
各自の関心に従って、現代日本の政治に関する問題を選び、調査のうえ発表し、最終的にはレポートを書いてもらう。

**評価方法**

平常点（出席状況、質問や討論の積極性、発表の完成度等）と、学期末提出のレポートを1：1の比率で評価する

**教科書**

授業の中で指示する



# 5 | 人文学部 欧米文化学科

## 専門科目

### 科目一覧

キリスト教文化論A	英語学概論	専門演習(フランス文学)Ⅱ
キリスト教文化論B	言語学概論	専門演習(英米文学)Ⅰ
基礎ゼミA	Speech & Debate A	専門演習(英米文学)Ⅱ
基礎ゼミB	Speech & Debate B	専門演習(Pop Culture)Ⅰ
欧米文化入門A	言語と社会	専門演習(Pop Culture)Ⅱ
欧米文化入門B	心理言語学	専門演習(アメリカ文化)Ⅰ
ヨーロッパ文化概論	言語習得理論	専門演習(アメリカ文化)Ⅱ
アメリカ文化概論	児童英語教育(理論)	専門演習(比較文化)Ⅰ
哲学	児童英語教育(カリキュラム・デザイン)	専門演習(比較文化)Ⅱ
西洋思想史	児童英語教育(教材研究)	専門演習(言語と社会)Ⅰ
現代ヨーロッパ思想	児童英語教育(ワークショップA)	専門演習(言語と社会)Ⅱ
比較文化	児童英語教育(ワークショップB)	専門演習(英語学)Ⅰ
Intercultural Communication between Japan & the U.S.A. A	児童英語教育(インターンシップⅠ)	専門演習(英語学)Ⅱ
Intercultural Communication between Japan & the U.S.A. B	児童英語教育(インターンシップⅡ)	専門演習(外国語教授法)Ⅰ
アメリカ思想	Screen English A	専門演習(外国語教授法)Ⅱ
西洋史	Screen English B	専門演習(児童英語教育)Ⅰ
歴史学概論	英語スピーチ発音法	専門演習(児童英語教育)Ⅱ
ヨーロッパ史(近・現代)	教えるための英文法A	卒業研究(キリスト教文化)Ⅰ
現代ヨーロッパ事情	教えるための英文法B	卒業研究(キリスト教文化)Ⅱ
アメリカ史	Internet English(Basic)	卒業研究(現代ヨーロッパ事情)Ⅰ
現代イタリアの社会と文化A	Project-Based Internet	卒業研究(現代ヨーロッパ事情)Ⅱ
現代イタリアの社会と文化B	Living & Studying Abroad	卒業研究(ヨーロッパ史)Ⅰ
キリスト教史	Academic Listening & Speaking	卒業研究(ヨーロッパ史)Ⅱ
キリスト教文化交流	College Reading Skills	卒業研究(ヨーロッパ思想)Ⅰ
欧米文学	College Writing Skills	卒業研究(フランス文学)Ⅰ
英米文学概論	TOEFL A	卒業研究(フランス文学)Ⅱ
ヨーロッパ文学史	TOEFL B	卒業研究(英米文学)Ⅰ
フランス文学	TOEIC A	卒業研究(英米文学)Ⅱ
英米文学	TOEIC B	卒業研究(Pop Culture)Ⅰ
比較文学	フランス語コミュニケーションA(総合)	卒業研究(Pop Culture)Ⅱ
英米児童文学	フランス語コミュニケーションB(総合)	卒業研究(アメリカ文化)
ファンタジー論	ドイツ語コミュニケーション	卒業研究(比較文化)Ⅰ
西洋美術史	流通・販売・経営論	卒業研究(比較文化)Ⅱ
西洋音楽A	レポート作成法A	卒業研究(言語と社会)Ⅰ
西洋音楽B	欧米文化学特論	卒業研究(言語と社会)Ⅱ
異文化理解	英語講読A	卒業研究(英語学)Ⅰ
異文化間コミュニケーション	英語講読B	卒業研究(英語学)Ⅱ
ドイツ文化	ドイツ語講読A	卒業研究(外国語教授法)Ⅰ
フランス文化	ドイツ語講読B	卒業研究(児童英語教育)Ⅰ
アメリカ文化	フランス語講読A	卒業研究(児童英語教育)Ⅱ
ユダヤ文化	フランス語講読B	
イスラム文化A	ラテン語A	
イスラム文化B	ラテン語B	
Pop Culture	専門演習(キリスト教文化)Ⅰ	
映像文化	専門演習(キリスト教文化)Ⅱ	
欧米児童文化	専門演習(現代ヨーロッパ事情)Ⅰ	
欧米家族文化	専門演習(現代ヨーロッパ事情)Ⅱ	
観光地理	専門演習(ヨーロッパ史)Ⅰ	
現代英文法	専門演習(ヨーロッパ史)Ⅱ	
英語音声学	専門演習(ヨーロッパ思想)Ⅰ	
	専門演習(ヨーロッパ思想)Ⅱ	
	専門演習(フランス文学)Ⅰ	



必修 キリスト教文化論A		秋	週1回	2単位
担当者：菊地 順				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1)内容 キリスト教の2000年の歴史は、同時にキリスト教文化の形成の歩みでもあります。それは時代や地域において異なりますが、キリスト教が歴史の中に存在する限り、その歩みは文化形成を伴うものです。この授業の目的は、そうしたキリスト教文化についての学びをとおして、実際に生きられたキリスト教の考え方・生き方を学ぶことにあります。				
(2)カリキュラム上の位置づけ キリスト教文化は欧米文化の基礎にあるものですので、この授業は欧米文化を学ぶ上での土台としての位置を持ちます				
(3)学びの目標 今年度は、アメリカに注目し、そこに見られるキリスト教文化について学びます。アメリカは「キリスト教国」とは言い切れませんが、しかし、アメリカの建国の理念とその歩みには色濃くキリスト教の影響が現われています。その影響に基づくアメリカのキリスト教文化を、特にアフリカ系アメリカ人の歩みに焦点を当てながら学びます。また、そのことを通して、キリスト教の考え方・生き方を学びます。				
<b>評価方法</b> 評価は、出席状況、課題、試験を総合的に判断して行ないます。割合は、出席30%、課題20%、試験50%です。ただし、欠席が3分の1以上の人、また課題を出さない人は試験を受ける資格はありません。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

必修 キリスト教文化論B		春	週1回	2単位
担当者：菊地 順				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1)内容 キリスト教の2000年の歴史は、同時にキリスト教文化の形成の歩みでもあります。それは時代や地域において異なりますが、キリスト教が歴史の中に存在する限り、その歩みは文化形成を伴うものです。この授業の目的は、そうしたキリスト教文化についての学びをとおして、実際に生きられたキリスト教の考え方・生き方を学ぶことにあります。				
(2)カリキュラム上の位置づけ キリスト教文化は欧米文化の基礎にあるものですので、この授業は欧米文化を学ぶ上での土台としての位置を持ちます。				
(3)学びの意義と目標 文化形成の基盤をなす世界観とキリスト教の関係に主眼を置き、その世界観について学びます。今年度は、特に世界観の重要な一つの柱となる個の形成とその尊厳について、それぞれの時代の代表的人物の考えを学びながら、各時代の文化的特質を概観していきます。				
<b>評価方法</b> 評価は、出席状況、課題、試験を総合的に判断して行ないます。割合は、出席30%、課題20%、試験50%です。ただし、欠席が3分の1以上の人、また課題を出さない人は試験を受ける資格はありません。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

必修 基礎ゼミA		春	週1回	1単位
担当者：福田 敦子/鹿瀬 颯枝/柴田 史子/和田 光司/氏家 理恵/長崎 睦子/佐藤 啓介				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1) 授業の概要 本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目である。基礎ゼミAでは、特に、読む力と考える力の習得のため、テキストの読解方法や、読解に必要な予備知識の習得、批判的な思考の方法などを学ぶ。				
2) カリキュラム上の位置づけ この科目は本学科の1年生を対象とした必修科目である。また、基礎ゼミBへとつながる科目である。				
3) 学びの意義と目標 本科目をとおして、学びに必要な読解力と思考力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになる。				
<b>評価方法</b> 各授業にて行われる小テスト6回の合計(20%)、期末テスト(20%)、平常点(60%、出席状況、授業への参加態度、授業の提出課題など)				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

必修 基礎ゼミB		秋	週1回	1単位
担当者：福田 敦子/鹿瀬 颯枝/菊地 順/柴田 史子/原 一子/東 仁美/佐藤 啓介				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1) 授業の概要 本科目は、大学での学びに必要な基礎力を身につけ、2年生以降の専門科目や演習科目に備えるための演習科目である。基礎ゼミBでは、特に、調べる力と書く力の習得のため、図書館の使い方や、情報の調べ方、レポートの作成法などを学ぶ。				
2) カリキュラム上の位置づけ この科目は本学科の1年生を対象とした必修科目である。また、基礎ゼミAからつながる科目である。				
3) 学びの意義と目標 本科目をとおして、学びに必要な調査力や書く力と同時に、日常的に文章を読む習慣そのものが身につくようになる。				
<b>評価方法</b> 各授業にて行われる小テスト6回の合計(20%)、期末課題(40%)、平常点(40%、出席状況、授業への参加態度、授業の提出課題など)				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

必修 欧米文化入門A		春	週1回	2単位
担当者：加曾利 実				
<b>講義の目標及び概要</b>				
◆内容◆ 再履修者用の欧米文化入門の授業です。欧米文化入門Aでは、「英語基礎学力」の確充を目指します。英語学習の基礎事項を網羅します。また、テキスト『欧米文化の基礎知識』から出題される習熟度テストも6回行われます。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 2年次以上の欧米文化学科の学生で、再履修者が対象となります。 ◆学びの意義と目標◆ 英語の基礎と同時に欧米文化の基礎も同時に学習できるように配慮します。				
<b>評価方法</b>				
1. 習熟度テストの成績 (60%) 2. 期末テストの成績 (40%) 出席については、学生要覧を参照のこと。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

必修 欧米文化入門B		秋	週1回	2単位
担当者：E. D. オズバーン				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 109A以上の学生で「欧米文化入門B」を未履修の者を対象とする再履修クラスである。隔週で『欧米文化の基礎知識』から試験を行ない、試験のない週には、欧米文化学科の学生としてぜひとも知っておきたい基本的事項について講義する。また是非とも読んでおきたい欧米文化の基礎文献を共に読み、レジュメやレポートの作成法、発表のしかたなどを訓練する。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の学生全員が1年次に受講しなければならない必修科目であり、「専門科目群」の「基礎学」に位置する。欧米文化学科の学生にとって必須の、最も基礎的な入門科目である。 3. 学びの意義と目標 欧米文化学科の学生として上級年次に進み学んでいくための基本的教養と学習術を身につけることを目標とする。				
<b>評価方法</b>				
試験結果 (40%)、出席 (40%)、授業中の課題の習得度 (20%) などから総合的に評価する。				
<b>教科書</b>				
聖学院大学欧米文化学科編『欧米文化の基礎知識』非売品				

選必 ヨーロッパ文化概論		春	週2回	4単位
担当者：原 一子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 ヨーロッパ文化は、ヘレニズム、ヘブライズム、ケルト・ゲルマン、ローマ帝国などの諸要素から成り立っている。そこでこれら要素についてまず理解を深め、更にヨーロッパ文化に大きな刺激を与えたイスラム教についても学ぶ。講義後半では、修道院、巡礼、都市生活、また『アーサー王物語』を初めとする伝説、民話、祭り、教会建築、ヨーロッパ人のメンタリティなどについても取り上げ、生きたヨーロッパ文化を学ぶことができるように講義を進める。 2. カリキュラム上の位置づけ 「専門科目群」の「基礎学」に位置し、欧米文化学科の2年次以上の学生を対象とする選択必修科目である。「アメリカ文化概論」「ヨーロッパ文化概論」のいずれかの修得が卒業要件である。 3. 学びの意義と目標 ヨーロッパ文化の諸要素について詳しく学ぶことによって、全体としてヨーロッパとは何かを理解することが本講義の目標である。				
<b>評価方法</b>				
学期末試験を筆記試験にするかレポートにするかは受講者数によって開講時に決める。試験またはレポートの成績 (50%)、出席率 (30%)、授業中の課題の習得度 (20%) などから総合的に評価する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 アメリカ文化概論		秋	週2回	4単位
担当者：柴田 史子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
◆内容 アメリカの政治、経済、宗教、文化、社会問題などの多岐にわたる分野をカバーする。映像や写真等でアメリカ文化に触れると同時に、文化地区の作成などの作業も行なう。 ◆カリキュラム上の位置づけ アメリカに関する学びを統合する科目として設置された科目であるため、2年次～3年次にかけて受講することが望ましい。 ◆学びの意義と目標 アメリカ社会、アメリカ文化を空間軸で捉えることを目指しており、大学院レベルのアメリカ研究にとっての入門としての意味を持つ科目である。				
<b>評価方法</b>				
ブックレポート (30%) と期末テスト (70%) で評価する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

必修 哲学		春	週2回	4単位
担当者：高橋 章仁				
<b>講義の目標及び概要</b>				
《内容》 哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、自ら深く思索することこそが、真摯に生きることにつながるのだ。本講義（春学期）では、近代以降の哲学史の流れを、実際に哲学者が語ったテキストを通じて丹念にたどりながら、その思索をなるべくわかりやすく解説していきたいと思う。				
《カリキュラム上の位置づけ》 考えることは、あらゆる学問を根本から下支えするものである。考えることの意義を学び、考える力を磨くことを通じて、各人の専門分野の研究に生かしてほしい。				
《学びの意義と目標》 取り上げる思想のどれもが、単なる過ぎ去った思想ではなく、現代にも十分通用しうるものを備えており、そこから学ぶべきところは決して少なくないはずである。この講義を通じて、受講者それぞれが、今の、そして、これからの自分の生きる糧となりうるような思想を見つけ出すことを期待する。				
<b>評価方法</b>				
学期末試験（教場レポート）の点数〔70%〕に、出席・授業態度などの平常点（状況に応じて小テストを行うことも考えている）〔30%〕を加味して総合的に判断する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

必修 哲学		秋	週2回	4単位
担当者：高橋 章仁				
<b>講義の目標及び概要</b>				
《内容》 哲学は、考えることの大切さを教えてくれる学問である。しかし、受身の姿勢で接していても哲学は何も教えてくれない。自分の頭で考え、自ら深く思索することこそが、真摯に生きることにつながるのだ。本講義（秋学期）では、20世紀ドイツの哲学者カール・ヤスパースの『哲学入門』を用いて、その思索をなるべくわかりやすく解説していきたいと思う。				
《カリキュラム上の位置づけ》 「入門」を銘打った著作ではあるが、内容は決して平易ではない。哲学的な知識をつねに確認しながら、読み進めていくことにしたい。				
《学びの意義と目標》 テキストの内容理解を深めることはもちろんであるが、自らが哲学することの意義を体感してほしいと思っている。この講義を通じて、受講者それぞれが、今の、そして、これからの自分の生きる糧となりうるような思想を見つけ出すことを期待する。				
<b>評価方法</b>				
学期末試験（教場レポート）の点数〔70%〕に、出席・授業態度などの平常点（状況に応じて小テストを行うことも考えている）〔30%〕を加味して総合的に判断する。なお、テキストをもってこない人は欠席扱いになるので注意してください。				
<b>教科書</b>				
カール・ヤスパース著/草薙正夫訳『哲学入門』新潮文庫				

必修 哲学		春	秋	週2回	4単位
担当者：小林 剛					
<b>講義の目標及び概要</b>					
(1) 〈内容〉 哲学が歴史上最初に起こった古代ギリシアから、初期キリスト教やイスラム・ユダヤ哲学を通して西洋に伝えられた哲学、特にプラトン主義の自然観、学問観を考察する。					
(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 この授業は基礎科目であり、必修科目である。					
(3) 〈学びの意義と目標〉 今日日本を初め世界各地で学ばれている諸学問の起源である西洋哲学そのものの起源を学ぶ。					
<b>評価方法</b>					
毎回の授業で行われる小テスト（78点満点）と期末テスト（22点満点）の合計で評価する。					
<b>教科書</b>					
授業の中で指示する					

必修 哲学		秋	週2回	4単位
担当者：佐藤 啓介				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1) 内容 本講義は、主に二つの内容を扱います。前半では、哲学（特に西洋哲学）とはどのような学問であるか、またその歴史を解説した後、哲学が伝統的に扱ってきた問題を「真」「善」「美」という領域に分け、入門的な解説をします。後半では、現代の哲学の展開やその意義を理解するため、私たちの身近な生活にも関わるような問題（愛、都市、命など）を、哲学がどう扱っているのかを解説します。				
2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の専門科目「哲学・思想」分野の必修科目、他の5学科では教養科目としての選択必修科目です。思想分野をはじめ、多くの科目の基とも基礎となる科目です。				
3) 学びの意義と目標 哲学では、個々の知識を覚えることではなく、自分の力で考えることが重要です。ただ、それは一人ですべてできるものではなく、過去の思想家たちの思想が大きな手助けとなります。そうした助けを借りながら、自分が関心を持っている問題に自分なりの考えを深め、それを言葉で表現できるようになることが目標です。				
<b>評価方法</b>				
学期末レポート（40%）、中間レポート（30%）、出席点（30%）				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

<b>選択 西洋思想史</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：原 一子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義では古代から現代に至るヨーロッパの重要な考え方を、時代背景を踏まえながら平易に解説する。折に触れて原典資料により思想家たちの生の声にも触れながら、それぞれの時代の思想が現代の私たち自身の生き方とどんな関わりを持つものかも考えてゆく。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の専門科目「哲学・思想」に属する科目である。 3. 学びの意義と目標 ヨーロッパ文化を学ぶ者にとっては、その根底にある思想の歴史を学ぶことはぜひとも必要なことである。各時代に何が問題となり、また何が次の時代への課題として引き継がれたか、思想がその時代の政治、経済、宗教、芸術などいかに関わっているかを理解することが本講義の目標である。そしてそれを常に現在の自分に引き付けて考えることは、自己の生き方を問う上でも有効である。
<b>評価方法</b> 学期末試験を筆記試験にするかレポートにするかは受講者数によって決める。試験またはレポートの成績 (50%)、授業中の発表・課題の習得度 (20%)、出席率 (30%) などから総合的に評価する。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 現代ヨーロッパ思想</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：佐藤 啓介
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 内容 ヨーロッパの現代、特に1960年代以降、それ以前の思想に対する批判とともにさまざまな新しい考え方が登場し、文化や社会に大きな影響を与えてきました。特に、「ヨーロッパの他者・理性的他者」をどう考えていくかが重要な課題になりました。本講義では「他者」をキーワードに、狭い意味での哲学には限定されない60年代以降の現代ヨーロッパの思想（社会論、文化論、芸術論、倫理、メディア論、宗教論、歴史論、都市論など）を、独・仏・伊を中心に、映像なども用いつつテーマ別に検討していきます。 2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の「思想」分野専門科目の選択科目です。教養科目「哲学」を履修済みであると、内容の理解が深まります。 3) 学びの目標と意義 さまざまな思想家の考え方を紹介していきますが、それを知識として覚えるのではなく、それらを自分がものを考える上での一つの座標として利用し、最終的には、現代という時代の諸問題について自分なりに考えられるようになることが目標です。
<b>評価方法</b> 中間レポート (30%)、学期末レポート (40%)、平常点 (30%) なお、平常点には、受講態度、数回のリアクションペーパー、グループワーキングへの参加態度を含む
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 比較文化</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：稲田 敦子
<b>講義の目標及び概要</b> <b>【授業の概要】</b> 比較文化の「比較」とは、単にものごとを比べるものではない。自己以外の他者や、自文化を取り巻く異文化を認識することによって、自己および自文化を客観的にとらえなおすことになる。この講義では、テーマ別の具体的な事例研究をとおして、文化をめぐる広く、また深い問題を検討し、問題意識の醸成をはかる。 <b>【カリキュラム上の位置づけ】</b> 欧米文化学科の専門科目であり、2年次以上の選択科目である。 <b>【学びの意義と目標】</b> 異文化との出会いは、新しい認識の出発となる。この講義では、目に見える文化の領域だけではなく、その奥にある深層心理の部分にも光をあてて、身近な数項目の事例研究をとおして、多様な文化のあり方とその文化への視野を広げていく方法を検討することを目標とする。
<b>評価方法</b> (1) 新聞記事による事例研究 (30%)、(2) 授業への参加度 (30%)、(3) テーマ別レポート (40%) により評価する。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選択 Intercultural Communication between Japan &amp; the U.S.A. / A</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：E. D. オズバーン
<b>講義の目標及び概要</b> 1. Content — This course introduces the fundamental principles of intercultural communication through the integration of concepts from the fields of social psychology, cultural anthropology, and communication theory. Particular emphasis is placed upon comparative culture, with the focus being upon Japan and America and the role that culture plays in the communication process between individuals from these two dynamic, yet very different, countries. 2. Role in the Curriculum — The course is designed specifically for exchange students in the Japan Studies Program (JSP), but it is also available as an elective to regular students whose English level is adequate. 3. Learning Objectives — The primary objectives are to familiarize students with the cultural influences on communication between Japanese and Americans and to apply the principles learned to the students' lives.
<b>評価方法</b> Grades will be based upon attendance (15%), reading assignments (20%), a term paper (35%), and two examinations (15% each = 30%).
<b>教科書</b> Jandt, Fred E. 『An Introduction to Intercultural Communication (6th edition)』 SAGE Publications, Inc.



<b>選択</b> <b>Intercultural Communication between Japan &amp; the U.S./A. B</b> <b>秋</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
<b>担当者:</b> E. D. オズバーン
<b>講義の目標及び概要</b> 1. Content — This course reviews the concepts of intercultural communication covered during the first semester, specifically those that apply directly to Japan and America. The cultural differences between these two countries are highlighted and the implications for intercultural communication delineated, with particular emphasis placed upon the development of intercultural competence.  2. Role in the Curriculum — The course is designed specifically for exchange students in the Japan Studies Program (JSP), but it is also available as an elective to regular students whose English level is adequate.  3. Learning Objective — The fundamental objectives are to further deepen students' awareness and understanding of the profound influence that culture has upon communication between Japanese and Americans and to learn and apply the specific theories of communication that are most apropos.
<b>評価方法</b> Grades will be based upon attendance (15%), reading assignments (20%), a term paper (35%), and two examinations (15% each = 30%).
<b>教科書</b> Jandt, Fred E. 『An Introduction to Intercultural Communication (6th edition)』 SAGE Publications, Inc.

<b>選択</b> <b>アメリカ思想</b> <b>春</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
<b>担当者:</b> 柴田 史子
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容 アメリカ社会形成の土台となった思想、アメリカ文化を支えている思想、アメリカをアメリカたらしめている「生きられた思想」をとりあげ、それぞれの思想のエッセンスとなる資料に当たりながら学んでいく。また、それらの思想を表現する北米の小さな博物館を紹介していく。 ◆カリキュラム上の位置づけ アメリカ関係の科目の中では専門性の高い科目である。2年次に降履修することが望ましい。 ◆学びの目標 Social Activismという側面からアメリカの思想を捉えようとしている。現代アメリカの社会運動を理解するために知っておくべき、普通のアメリカ人の精神性を扱う科目である。
<b>評価方法</b> 出席点 (20%)、レポート (40%)、期末試験 (40%) で評価する
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>必修</b> <b>西洋史</b> <b>春</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
<b>担当者:</b> 和田 光司
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 この講義ではヨーロッパ文明の源流であるオリエント文明から現在のヨーロッパ統合に至るまで、西洋文明の歴史を概観する。ただし、これだけの広範囲を限られた時間で網羅的に学ぶのは不可能であるので、人物や事件などトピックを限り、時代の全般的特徴を抑えることに集中する。理解を深めるため、必要に応じて視聴覚教材を用いる。 2. カリキュラム上の位置づけ 中級の歴史科目であるヨーロッパ史 (中近世)、ヨーロッパ史 (近現代)、古代地中海文明、ヨーロッパ生活文化史、上級の歴史学概論などの基礎となる。 3. 学びの意義と目標 これから4年間欧米文化を学んでいく一年生のために、その基礎となる歴史的知識を与える。またヨーロッパ文明や歴史学全般に親しんでもらう。
<b>評価方法</b> 小テスト (20%×3回=60%)、出席20%、授業内レポート20%
<b>教科書</b> 『山川世界史図録』 山川出版社

<b>必修</b> <b>西洋史</b> <b>春</b> <b>秋</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
<b>担当者:</b> 田中 史高
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 この科目では、古代から中世・近世、さらに近代・現代へ、年代順にヨーロッパ各地の重要な人物や事象を論じていきます。毎回、講義内容の概要をプリントで配布します。また、可能な限り毎回視覚教材 (ビデオ) を用いる予定。  2. カリキュラム上の位置づけ 西洋史の基本的な認識をつちかい、さらに発展的に考えていくための序論的講義です。  3. 学びの意義と目標 毎回異なるテーマを扱いますが、全26回の内容は、西洋史の基本的な流れがつかめるように配列してあります。
<b>評価方法</b> 授業の出席点 (20%)、毎回の授業レポート (20%)、3回の小テスト (60%) を総合して評価します。
<b>教科書</b> 成瀬治 他『山川世界史図録』 山川出版社

欧米文化学部

<b>必修 西洋史</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：山本 信太郎
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義では、西洋史の全体的な流れを概観し、大学で学ぶ西洋史学の基礎的な知識を講義する。しかしその中でもなるべく最新の学問的成果を紹介することによって、西洋史学の楽しさを味わい、自分なりに興味を持てる「問題」を発見していくことの手助けとなることを目指す。講義は、古代から現代までの西洋史上の重要な諸問題を、時系列順になるべく1回につき一つのトピックの形で取りあげて論じていくことにしたい。 2. カリキュラム上の位置づけ 西洋史全体の流れを大づかみに把握することを目的とするため、大学で学ぶ西洋史学の入門としての位置づけとなる。 3. 学びの意義と目標 西洋史全体の流れを把握するとともに、西洋史学上にどのような個々の問題が存在するのかを理解し、歴史学のもの見方や考え方に親しむことを目標とした。
<b>評価方法</b> 筆記試験としては、3回の小テスト（それぞれ20%・合計60%）を行う。また出席点（20%）の他、授業内の簡単な小レポート（20%）を毎回課す。
<b>教科書</b> 成瀬治他『山川世界史総合図録』山川出版社

<b>必修 西洋史</b> <span style="float: right;">春 秋 週2回 4単位</span>
担当者：森 齊丈
<b>講義の目標及び概要</b> 1：内容 本講義は、欧米文化を学ぶ上で基礎となる西洋史の基本的な事象をそれに関連する芸術、文学、文化等の分野にも言及しつつ学習する。また、授業に際して、簡単な授業内レポートを課したり、時間が許せば、ビデオやDVD等の各種AV資料を使用していきたい。 また、授業で扱った事項について、自分で分析し、必要な評価を下せるように、授業毎に考えたことや疑問点を書いてもらう。 2：カリキュラム上の位置づけ 西洋史は、西洋文化を学ぶ上で必要な基本的知識の宝庫であり、西洋文化がいかにして発展してきたかを知るために必須の分野であるとともに、社会に出たあと、現状を分析し必要な判断をするための基本的知識になるものである。 3：学びの意義と目標 西洋史の流れをを細かく分析することは避け、西洋文化を学ぶ上で必要となるであろう西洋史の基礎知識と歴史の流れをつかむことを目標とする。
<b>評価方法</b> テスト（20%×3回）、授業内レポート（20%）、出席（20%）、を用いて総合的に評価する。
<b>教科書</b> 成瀬 治 他監修 佐藤 次高 他監修『山川世界史図録』山川出版社

<b>選択 歴史学概論</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：和田 光司
<b>講義の目標及び概要</b> （内容）この授業は歴史学の入門ではなく、既に一通りの通史の知識がある者が一段上の歴史的な考え方を学ぶことを目的とする。書店に行けば、いつも多くの歴史の本を目にする。また、歴史に関心があり、歴史の議論をする人は多い。戦争や教科書問題について語る学生も多い。しかし、それらの本や言葉のすべてが、真に信頼に足るものであろうか。「学問」としての歴史学とは、いったいどのようなものであろうか。この授業の目的は、「歴史」や「歴史学」について考えることである。注意してほしいことは、この授業では、ヨーロッパの具体的な歴史の流れ（「通史」と言う）について学ぶことはしない。この授業で扱うのは、人間にとって歴史とは何か、人間は歴史をどのように考えてきたか、学問としての「歴史学」はどのように生まれたのか、歴史は科学か、歴史における真実とは何か、どのようにしたら、その真実に到達できるのか、歴史学は今どうなっているのか、どのような主題が関心が持たれているのか、といった問題である。 （カリキュラム上の位置づけ）基礎知識の「西洋史」、通史の「ヨーロッパ史」に続く上級科目である。 （目標）歴史を本格的に学びたいという学生のために、方法的知識を与える。
<b>評価方法</b> レポート（60%）、授業中小レポート（40%）
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 ヨーロッパ史（近・現代）</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：和田 光司
<b>講義の目標及び概要</b> （内容）この授業はもうひとつの「ヨーロッパ史（中・近世）」とセットで、ヨーロッパ史の大まかな流れを追いながら、各時代の基本的な事件、社会的特徴を解説する。ヨーロッパ中世と近世（5世紀から18世紀まで）は、もうひとつの「ヨーロッパ史（中・近世）」で私が講義する予定である。それに続く近代と現代（19、20世紀）を扱うのが、この「ヨーロッパ史（近・現代）」である。学生はどの授業からでも選択が可能であり、一つだけを選択することも可能である。 基礎知識の習得のため、3回の小テストを行う。理解の助けのため視聴覚教材も用いる。 教科書は授業毎に参照するので、必ず購入すること。 （カリキュラム上の位置）入門の「西洋史」に続く、基礎的授業である。「歴史学概論」はこれをより発展させた上級科目である。 （学びの意義と目標）ヨーロッパの文化を学ぶ際の基礎となる、ヨーロッパ史の大まかな流れ、各時代の基本的な事件や社会的特徴を把握する。
<b>評価方法</b> 小テストの合計（90%）、出席（10%）
<b>教科書</b> 『山川世界史総合図録』山川出版社

選択 現代ヨーロッパ史		春	週2回	4単位
担当者：佐藤 啓介				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1) 内容 戦後、東西に分かれて分断されてきたヨーロッパは、冷戦後、アメリカの一極集中に対抗するかたちで、「多様性における統合」をモットーに拡大・統一を進めつつあります。それによって、ヨーロッパがどう変わりつつあるのか、また、そこからどんな問題が新たに起こっているのか。そうした点を、民族・政治・経済・宗教・歴史・文化・芸術などから多面的に検討します。				
2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の「歴史」分野専門科目の選択科目です。				
3) 学びの意義と目標 私たちの多くがヨーロッパとして思い描いているのは、実際には「冷戦以前の西ヨーロッパ」をさらに理想化したイメージです。そうではなく、グローバル化したヨーロッパの現代を、良い部分も悪い部分も含めて正しく理解することが目標です。それによって、国際人として求められる世界を多角的に見る目を養い、また同時に、同様の状況に置かれつつある日本の諸問題についても考える視野を広げることを目指します。				
<b>評価方法</b> 中間試験 (30%)、期末レポートもしくは期末試験 (30%)、出席点 (20%)、平常点 (20%) なお、平常点には、受講態度、数回の小課題の提出状況と内容を含む				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選択 アメリカ史		春	週2回	4単位
担当者：柴田 史子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
◆内容 様々なマイノリティ (少数者) 集団の視点から歴史を考える多文化主義の歴史教育が唱えられるようになり、そうした考え方にもとづく教科書も多数出版されるようになった。この授業では、アメリカ合衆国で主流にあり、今日の合衆国を形作ってきたWASP (White Anglo-Saxon Protestant) の視点から捉えたアメリカ史を縦軸に、マイノリティの体験を横軸として捉えながら学んでいく。				
◆カリキュラム上の位置づけ 1~2年生での受講が望ましい。この科目は、「アメリカ文化」「英米文学」「アメリカ思想」といった科目にとっての基礎科目としての役割を担っているためである。				
◆学びの意義と目標 アメリカ合衆国は、世界にとっても、またわが国にとっても重要な国であり、国家、社会、国民の特質を理解する上でも、その歴史の全体像を知ることが肝要である。				
<b>評価方法</b> 中間テスト (30%) と期末テスト (70%)				
<b>教科書</b> 有賀 貞『ヒストリカル・ガイド アメリカ』山川出版社				

選択 現代イタリアの社会と文化A		春	週1回	2単位
担当者：小田原 琳				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 イタリアはヨーロッパのなかでもたいへん個性豊かな国といっていでしょう。みなさんも、食べ物がおいしい、風景が美しい、人々がほがらかといった印象をもっていらっしゃるのではないのでしょうか。しかし表面に見えている明るさの向こうに、深い奥行きがあるからこそ、イタリア社会は強い個性をもっているのです。授業では、文化や社会、芸術などさまざまな角度から、その奥行きに触れていただきたいと思います。				
2. カリキュラム上の位置づけ 「欧米文化学科の「歴史」分野専門科目としての選択科目です。				
3. 学びの意義と目標 現代社会ではありふれたように見えることがらにも、それぞれの社会固有の背景があります。授業で扱われるさまざまなトピックをのぞき窓としてイタリア社会の歴史的背景を探る作業を体験し、自分が生きる社会に対してもその知的探検を生かしていただきたいと思います。				
<b>評価方法</b> 学期末レポート (60%)、出席点 (20%)、平常点 (20%) 平常点には、受講態度、各回提出していただくレスポンスシートの内容を含みます。				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

選択 現代イタリアの社会と文化B		秋	週1回	2単位
担当者：小田原 琳				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 イタリアはヨーロッパのなかでもたいへん個性豊かな国といっていでしょう。みなさんも、食べ物がおいしい、風景が美しい、人々がほがらかといった印象をもっていらっしゃるのではないのでしょうか。しかし表面に見えている明るさの向こうに、深い奥行きがあるからこそ、イタリア社会は強い個性をもっているのです。文化や社会、芸術などさまざまな角度から、その奥行きに触れていただきたいと思います。「現代イタリアの社会と文化A」とはことなる授業内容です。				
2. カリキュラム上の位置づけ 「欧米文化学科の「歴史」分野専門科目としての選択科目です。				
3. 学びの意義と目標 現代社会ではありふれたように見えることがらにも、それぞれの社会固有の背景があります。授業で扱われるさまざまなトピックをのぞき窓としてイタリア社会の歴史的背景を探る作業を体験し、自分が生きる社会に対してもその知的探検を生かしていただきたいと思います。				
<b>評価方法</b> 学期末レポート (60%)、出席点 (20%)、平常点 (20%) 平常点には、受講態度、各回提出していただくレスポンスシートの内容を含みます。				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

欧米文化学科

選択 キリスト教史 <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：片柳 榮一
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>キリスト教にとって、歴史は独特の意味をもつ。M.エリアーデが『永遠回帰の神話』で述べているように、古代人は歴史に深い怖れをもっていた。歴史は意味のない混沌であり、歴史を越えた原初を模倣することにより、辛うじて耐えることのできたものである。古代で例外をなしたのはイスラエルの預言者たちであった。彼らは歴史の混沌のうちに統一を見出そうとした。この精神をキリスト者たちも受け継いでいる。彼らは歴史の中で、歴史を越えたものに接し、そこから新しい始まりをなそうとしてきた。そこから一回的な歴史の歩みが自覚的になされたのである。</p> <p>それぞれの時代が担う歴史の越えがたく重い、しかも文化的に価値ある限定（たとえばヘレニズムの文化世界、中世の封建社会）の中でその刻印を決定的に受けながら、キリスト者たちはそれを越えた異なる光に照らされて、そうした限定を少しずつ変えていったのである。そのような歩みとしてキリスト教の歴史を捉え直してみたい。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>授業中に何回かレポートを書いてもらった上、最終試験をし、出席点も加味して評価する。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する</p>

選択 キリスト教文化交流 <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：鈴木 順子
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1、内容 日本の近代以降の文化を概観してみると、現在のキリスト教信者人口の少なさの割には、日本の文化にキリスト教が与えた影響が非常に大きいことに気づかされる。</p> <p>今回は、1) 女性教育、2) 音楽教育、3) 社会的実践（貧困者救済ほか）、4) 文学・哲学 の4分野にわたって、明治期以降のキリスト教がいかなる影響を日本文化・社会の具体的担い手に与えたか、そして彼らの活動をどのように背後から支えたかを明らかにしたい。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ 専門科目ではあるが、キリスト教や日本文化に関する一般的な教養が身につくことを目指す授業という位置づけである。</p> <p>3、学びの意義と目標 キリスト教と接触することで、具体的にどのようにその出会いを体験した日本人の内面が変化したか、そして文化的、社会的にどのような活動をするようになったのかを、明治期以降の日本の文化史の中で把握することを目標とする。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席30%、ミニレポート30%、期末レポート試験40%によって算出する。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する</p>

必修 欧米文学 <span style="float: right;">春 秋 週2回 4単位</span>
担当者：三宅 美千代
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>英米文学という、イギリス人、アメリカ人の作家によるものだけを指すものと考えられがちですが、実際にはそうではありません。英米文学の有名な作品のなかには、アイルランド、スコットランド、インド、カリブ海諸島、アフリカ出身の作家によって書かれたものもたくさんあります。英米文学はアウトサイダーとしての立場から社会を見つめる人びとの声に耳を傾けるきっかけを与えてくれます。</p> <p>本講義では、前期は「アウトサイダーとは誰か」、後期は「書くこと、移動すること」というテーマを設定して、さまざまな英語圏作家の作品を少しずつ読みながら、英米文学を概観していきます。作家たちの移動、異文化観、アウトサイダー意識を読みほどこきながら、それぞれの国の歴史や時代背景なども解説していきます。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>レポート50%、ワークシート25%、出席25%</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

必修 欧米文学 <span style="float: right;">春 秋 週2回 4単位</span>
担当者：桑田 光平
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1) 内容 本講義はフランス文学の歴史を中世から現代まで通史的に見てゆくことを第一の目的とする。具体的には、文学作品を成立させている外的な諸条件（政治・経済・宗教・他国との関係など）と、作品というそれ自体で完結した世界とのつながりを時代ごとに学んでいくことになる。半年間で数百年の時間を横断するので、お互い途中でギブアップしないためにも、細かい事象にあまりこだわらず、映画などの力を駆りながら、歴史の大枠を捉えることを目指したい。授業の最初には前回の授業のおさらいを簡単に行うことにする。毎回、授業の内容はプリントにして配布する。</p> <p>2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の専門基礎科目で必修科目。同時に教養科目にも分類され、他の5学科の学生も選択必修科目として履修可能。</p> <p>3) 学びの目標 単にフランス文学の歴史を概観するというだけでなく、異国の文化や文学を学ぶとはどういうことなのかを考え、同時に、文学以外の関連分野への関心も広げること。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席点（授業への出席そのものに与えられる得点）、平常点（各授業の小アンケートに対して与えられる得点+授業態度）、学期末のレポートあるいは試験から総合的に評価する。各点数の配分は、出席点+平常点50%、学期末試験50%である。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

選択 英米文学概論	春	週2回	4単位
担当者：富田 光明			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1、内容 英米文学概論とは、英米文学全体にわたって、大要を述べたものであり、非常に広範囲に及ぶものである。常に文学とは何であるのかを意識して学ぶことである。 本講義は受講者諸君が今後英米文学作品に触れる折に、必要とされる知識及び英米人の価値観・人生観などを学び、文学をより身近かなものにするためのものである。			
2、カリキュラム上の位置づけ 英米文学のジャンルは、詩・小説・ドラマ・エッセイといった多岐にわたるが、英米文学の真髄はやはり、文学の華である‘英詩’の中に彼らの文学のエスプリが垣間見られるといっても過言ではない。それゆえ英詩については必要ときにはプリントなどで補充をし、より深い理解を学生が得るように指導する。			
3、学びの意義と目標 この講義は概論ではあるが、文学史な性質を含むのであるので、時代的・文化的背景をも考慮しながら、常に文学とは何かというテーマを意識し、授業に参加してもらいたい。基本的にはテキストを使用するが、主要作品については必要ときにはプリントなどで補充をし、より深い理解を学生が得るように指導する。			
<b>評価方法</b> 授業参加意欲（発表など）が40%、レポートが40%、出席が20%によって算出する。			
<b>教科書</b> 須藤信雄・繁尾久『教養としての英米文学』南雲堂			

選択 ヨーロッパ文学史	秋	週2回	4単位
担当者：富田 光明			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1、内容 ヨーロッパ文学史は古代ギリシャ・ローマの時代からの文学を源流として、そこから今日まで生み出されたヨーロッパ文学の歴史である。本来は多数の国の文学を扱わなくてはならないのであるが、この授業では、近現代の日本に文化・文学の点に多大な影響を与えたと思われる、日本人には身近な英米文学（もちろんフランス文学・ロシア文学などからも多大な影響があるが）を対象とした文学史を講義する。			
2、カリキュラム上の位置づけ 最初に欧米文化・文学の礎であるギリシャ・ローマ神話とキリスト教について概略を述べてから、その後に英米文学史に入る。			
3、学びの意義と目標 文学史は文学の流れを扱うものであるが、それと同時に時代の社会情勢を考慮しなければならない。さらに学生はその文学を形成する英米文学の概念を理解しなくてはならないことは当然のことである。その意味でもこの授業と密接な関係にある「英米文学概論」を学び、学生は理解を深めてもらいたい。			
<b>評価方法</b> 授業参加意欲（発表など）が40%、レポートが40%、出席が20%によって算出する。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 福田 昇八『イギリス・アメリカ文学史』南雲堂			

選択 フランス文学	春	週2回	4単位
担当者：鹿瀬 颯枝			
<b>講義の目標及び概要</b>			
◆内容◆フランス文学は、「人間が人間のために人間を探求する」という点に特徴があるといわれているように、この講義では、フランス文学作品に登場する様々な人間像を、さらに、作者の時代背景をふまえつつ、その人間の全体像を探求してゆきたいと思う。人間は、パスカルのいうように、「無限の偉大さと無限の卑小さの中間にある存在」であるならば、長所も短所も、美徳も悪徳も、善行も悪行も、人間の内と外にあるものすべてを真正面から凝視し、それを作品のなかから読みとろうとすることが、フランス文学を学ぶ第一歩ではなかろうか。こうして、フランス文学に接することで、我々の人間社会を垣間見ることができれば、すでに、大きな収穫といえよう。 本講義は、17世紀、枢機卿リシュリューの進言によって1635年に創立された「アカデミー・フランセーズ」（フランス最高の文化機関として現在に至る）から始める。各論Ⅰでは、17世紀—古典主義とは何か？ 各論Ⅱでは、18世紀—啓蒙主義とは何か？ 各論Ⅲでは、19世紀—ロマン主義とは何か？ 各論Ⅳでは、20世紀—現代とは何か？ を中心テーマに、時代背景を紹介した後、作品研究に入る。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ ◆学びの目標◆			
<b>評価方法</b> 出席状況、小レポート、期末レポートの総合評価。			
<b>教科書</b> 鈴木力衛&渡辺一夫『増補フランス文学案内』岩波文庫別冊			

選択 英米文学	春	週2回	4単位
担当者：氏家 理恵			
<b>講義の目標及び概要</b>			
(内容) イギリスで近代小説が誕生した18世紀初頭から3世紀経った現在、私たちはさまざまな作品を読むことができる。本講義では、なるべく多くの形式・種類の作品を取り上げ、小説の発達とその歴史的・文化的背景を探っていく。また、文学や作品そのものがイギリスやアメリカの風土・歴史・社会・生活と深く結びついていることも確認したい。なお、講義の補助として写真や映像も使用する予定である。 (カリキュラム上の位置づけ) 2年生以上対象の専門科目である。ある程度の文学の基礎知識を持っている学生、「英米文学概論」あるいは「欧米文学」を受講済みの学生の履修を推奨する。 (学びの意義と目標) 小説の誕生からその発展を歴史的にたどることによって、小説の多様性を知り、作品に対する多角的なアプローチを身につけられる構成になっている。「文学」と聞くと堅苦しいイメージを抱いてしまう人、物語を「読む」とはどういうことかよく分からないと感じている人に、英米の小説の面白さや作品を読む楽しさを知ってもらいたい。			
<b>評価方法</b> 1. 平常点（ミニッツノート・確認テスト） 40% 2. 課題 10% 3. 読書レポート（2作品） 30% 4. 期末レポート 20%			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

人文  
文学  
化学  
学部

<b>選択 比較文学</b>	<b>秋 週2回 4単位</b>
担当者：氏家 理恵	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 本講義では、英語と日本語で書かれた韻文（詩・短歌・俳句など）を分析し比較することによって、それぞれの独自性とお互いの類似性を考察していく。歴史・リズム・形式・題材・イメージ・修辞法などさまざまな比較要素について概観するとともに、なるべく多くの作品を実際に鑑賞していく。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 この科目は欧米文化学科の専門科目であると同時に日本文学化学科の専門科目でもある。2年次生以上が対象であり、日本と欧米の文学的・文化的基礎知識がある程度あることが受講の前提条件となる。 〈学びの目標〉 自分の好きな詩や歌の歌詞などが、日本古来の韻文の伝統を継承しつつ西洋詩の影響を受けながら発展してきたことを再確認し、またグローバルな視点から日本の短歌や俳句をとらえ直すことによって、世界文学における日本の位置づけを知る。比較という視点を通して、韻文についてばかりでなく日欧の歴史・文学・文化についての知識を高める。	
<b>評価方法</b> 1. 平常点（ミニツノート・確認テスト）40% 2. 課題 20% 3. 中間レポート 20% 4. 期末レポート 20% なお、レポートはオンライン提出とする。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 英米児童文学</b>	<b>春 週2回 4単位</b>
担当者：松本 祐子	
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 〈内容〉この授業では、必ずしも読者を子どもと想定していたわけではない昔話からイギリス児童文学の始まりに至るまでの流れ、以後の児童文学に決定的な影響を与えた古典的作品の意味、ファンタジーとリアリズムの果たす役割、さらには現代の児童文学の抱える諸問題について触れながら、英米児童文学の歴史と概要を学んでいく。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉児童学科の学生は1年次から、それ以外の学科の学生は2年次から履修できる科目。英米児童文学についての基本的知識を身につけるための授業で、初心者～中級者向け。 (3) 〈学びの意義と目標〉長い歴史を持つ英米児童文学は数々のベストセラーを産み出し、また、近年も多くの映像作品の原作となるなど、豊かな物語の宝庫である。一般には名前だけしか知られていないような名作の本当の姿を知ること、人間性についてのより深い知識と教養を身につけることが目標である。	
<b>評価方法</b> 授業への出席・平常点20%、レポート40%、期末試験40%で評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 ファンタジー論</b>	<b>秋 週2回 4単位</b>
担当者：松本 祐子	
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 〈内容〉この授業では、まず、神話・伝説・昔話の中にファンタジーの源流を探り、次に、魔法の生き物、ファンタジーの空間、ファンタジーの時間、異形のものたち（ヴァンパイア、人造人間、不老不死）、魔法使いと魔女など、様々な項目ごとにファンタジー作品の分析を試みる。また、おとぎ話、児童文学を下敷きにしたディズニー映画をその原作と比較しつつ、ディズニー映画の人気の理由とその功罪について考える。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉児童学科の学生は1年次から、それ以外の学科の学生は2年次から履修できる授業だが、ファンタジー・物語についての基礎知識のある学生のための授業である。 (3) 〈学びの意義と目標〉「夢とおとぎの国への逃避」といったような一般的なファンタジーのイメージに疑問を投げかけ、むしろ、現実を生きる力を身につけるためのファンタジーの在り方について考えたい。	
<b>評価方法</b> それぞれのテーマごとに3本のレポートを提出してもらう。授業内の小レポート10%、レポート(1)25%、(2)25%、(3)40%で評価する。ただし、授業を三分の一以上欠席した者、レポート(1)(2)(3)のうち1本でも提出しなかった者には単位は与えない。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 西洋美術史</b>	<b>春 週2回 4単位</b>
担当者：瀧井 直子	
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 講義の内容 本講義では、古代ギリシアから20世紀までの西洋美術を時代にそって見ていきます。対象とする地域はヨーロッパと北アメリカ、また取り上げる視覚イメージは絵画だけでなく、彫刻、建築、装飾美術など多岐にわたります。講義は具体的な作品に焦点をあてながら進め、イメージの作り手と受け手、作品の形態、作品が作られた時代の社会や文化背景などの諸問題について考察します。 (2) カリキュラム上の位置づけ 1年生から対象としています。2年生から履修可能となる文化系の演習の準備ともなりうる科目です。本講義は資格用の科目ではありません。 (3) 学びの意義と目標 西洋美術の歴史を学ぶことを通して、今後各自の専門的関心を深めるための基礎を養うことができます。西洋の多様な視覚表現に親しむと同時に、視覚イメージの背後に宿っているメッセージを読み解く力を身につけましょう。なお、教科書以外に高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』（美術出版社）も参考にしてください。	
<b>評価方法</b> 出席（出席状況と授業態度、講義中に課す小レポートの内容）40%、中間試験30%、期末試験30%	
<b>教科書</b> 泉谷淑夫『美との対話—鑑賞への誘い—』日本文教出版株式会社	

選択 西洋音楽A	春	週1回	2単位
担当者：稲垣 俊也			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容</p> <p>私たち人間は本質的に「かかわる」存在です。それ故、人がなすことができるもっとも深い体験とは、他者との関係を築くことと云えましょう。古今東西、音楽はこの「かかわり」をより深く、広く実現するために用いられてきました。本講座では各時代の作曲家と音楽様式を学ぶと同時に、その様式を生み出すに至った文化的背景、歴史的背景を紐解いてゆきます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>入門的な位置づけとします。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>「音楽様式」とは、彼の時代に音楽を留め置くものではなく、「今」にその音楽を生かす術（すべ）と云えましょう。歴史の淘汰を生き抜き「新しい今」を創り出す音楽の生命力を味わっていただきます。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席点 25% 平常点 25% 試験 50%			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選択 西洋音楽B	秋	週1回	2単位
担当者：稲垣 俊也			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容</p> <p>私たち人間は本質的に「かかわる」存在です。それ故、人がなすことができる最も深い体験とは、他者との関係を築くことと云えましょう。古今東西、音楽はこの「かかわり」をより深く、広く実現するために用いられてきました。本講座では各時代の作曲家と音楽様式を学ぶと同時に、その様式を生み出すに至った文化的背景、歴史的背景を紐解いてゆきます。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>入門的な位置づけとします。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>「音楽様式」とは、彼の時代に音楽を留め置くものではなく、「今」にその音楽を生かす術（すべ）と云えましょう。歴史の淘汰を生き抜き「新しい今」を創り出す音楽の生命力を味わっていただきます。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席点 25% 平常点 25% 試験 50%			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選択 異文化理解	秋	週2回	4単位
担当者：稲田 敦子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1) 【授業の概要】</p> <p>私たちにとってはあたりまえであり、とくに何の疑問もいかなかったことがらが、他の文化圏の人びとにおいては、非常な驚きであるということがある。</p> <p>このクラスでは、比較文化の手法を用いながら、文化の枠組みと人間の行動・深層心理との関係性を具体的事例をとりあげながら比較検討していくこととする。</p> <p>2) 【カリキュラム上の位置づけ】</p> <p>学科の基礎科目であり、選択科目として1年次から4年次まで履修することができる。なお、教職資格を取得する際には、1年次からの必修科目である。</p> <p>3) 【学びの意義と目標】</p> <p>国際化がますます進んでいる現在、異文化と触れる機会が多くなってきている。異なる文化との相互理解は、お互いから深く学びあい、共存しようとする人間の生き方にとって大切なことである。本講義はこうした認識が得られることを目標とする。</p>			
<b>評価方法</b>			
(1)新聞記事による事例研究(25%) (2)基礎知識チェック(25%) (3)テーマ別レポート(25%) (4)授業への参加度(25%) ずつとし、総合計100点として評価する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 異文化間コミュニケーション	秋	週2回	4単位
担当者：小松崎 利明			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>(1. 内容) 世界中の人々との出会いは、異なる文化との接触でもある。そして文化的背景が異なる他者との接触は、ときに、その文化に対する無知から誤解や偏見や紛争を生み、「国際問題」になることさえある。本講義では、人々の多様なコミュニケーションの背景にある様々な文化について学び、その文化的背景の相違が生み出す摩擦・紛争について考え、そしてより良いコミュニケーションのあり方を探ることを目的とする。</p> <p>(2. カリキュラム上の位置づけ) 学科の専門科目であり、選択科目として2年次から4年次まで履修することができる。なお、教職資格を取得する際には、2年次からの選択科目である。</p> <p>(3. 学びの目標) ヨーロッパ、アジアそして日本の文化について学習することにより、学生一人ひとりが様々な文化的背景をもつ人々との出会いにおいて、より深い他者理解・他者との交流ができるようになることを目指す。</p>			
<b>評価方法</b>			
1. 出席 10% 2. 平常点(ディスカッションへの参加とコメントシートの提出) 30% 3. 学習確認テスト 30% 4. 期末レポート 30%			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選択 <b>ドイツ文化</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
<p>担当者：満留 伸一郎</p> <p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>ドイツ文化とは、現在のドイツ連邦共和国に限定されるものではありません。これをドイツ語圏文化ととらえると、オーストリアも、そしてスイスの一部も含まれます。さらに歴史的には、現リトアニアを含むかつての東プロイセン、オーストリア=ハプスブルク帝国に属していた東ヨーロッパの多くの国・地域などもここに含まれます。</p> <p>じつは著名なドイツ人の多くは、このような地域で生まれ、あるいは活動した人びとでした。このようなドイツ文化のひろがりや多様性を、図版、音楽、映画など、具体的な素材も多用しながら、解説していきます。現在のドイツの日常にもできるだけ触れますが、それについては、インターネットのおかげで容易に得られるようになった動画などの素材がおおいに役立つでしょう。</p> <p>他文化理解とは、イメージの固定と解体という往復運動のくりかえしですが、そのきっかけを参加者に与えることができれば、講義の目的は果たされたこととなります。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席と学期末試験により判断。割合としては出席30%、試験70%。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する</p>

選択 <b>フランス文化</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
<p>担当者：鹿瀬 颯枝</p> <p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 本講義は、文化大国としてのフランスをヨーロッパの中で、あるいは世界の中でどのように位置づけるかを検討しつつ、美術、建築、思想、文学、演劇、音楽、言語などを通して今日のフランス人の生活・衣食住まで広く紹介します。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科2年生以上が対象の専門科目です。</p> <p>3. 学びの意義と目標 フランス文化の「新しさの追求と伝統の再検討」という特質を新しさを追求し続けるファッションと伝統を守り続ける料理やワインのように対照的に捉えていきます。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席点（毎回の授業ミニ・レポート提出）30%、中間レポート30%、期末レポート40%</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する 清水徹&amp;根本長兵衛『フランス』新潮社</p>

選択 <b>アメリカ文化</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
<p>担当者：増田 直子</p> <p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 2008年の大統領選挙では「アフリカ系」アメリカ人大統領が誕生したが、多様な人種・民族からなるアメリカ合衆国はその多様性ゆえに活力を持つと同時に問題を抱えている。人種的・文化的多様性からアメリカはどのような問題に直面し、それらに対してどのように対処し、一つの国家にまとめようとしているのか。本講義では現代アメリカ社会を理解するために、第二次世界大戦後から21世紀初頭に至るまでのアメリカ社会の流れを概観し、人種・民族をめぐる政治的・社会的・文化的問題を学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 現代アメリカ社会を理解するための基本的な知識を学ぶためのものである。</p> <p>3. 学びの意義と目標 アメリカの現代史の流れを知ること、現在のアメリカ社会の置かれている状況を理解すること。多様性をアメリカ社会がどのように受けとめており、多様化する日本社会との比較の視点を持つこと。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>ビデオ・レポート（2回） 20%×2 期末試験 50% 出席その他 10%</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

選択 <b>ユダヤ文化</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
<p>担当者：佐藤 貴史</p> <p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>■内容 通常の歴史や哲学の教科書ではあまり語られることはないが、ユダヤ人はさまざまな政治状況に巻き込まれながら、それぞれの地域で自らの文化を形成していった。本講義ではユダヤ教及びユダヤ人哲学者の思想を通して、彼らがいかにして独自の文化を形成し、迫害の中を生きていったかを学問的に考察してみたい。</p> <p>■カリキュラムにおける位置づけ ヨーロッパ史や他の諸文化を扱った講義と関連づけて履修することで、ユダヤ文化の独自性を複眼的に理解できるだろう。</p> <p>■学びの意義と目標 われわれがユダヤ人の文化や歴史から学べる一つの重要な意義とは、〈マイノリティの視点〉である。欧米文化や世界史は〈マイノリティの視点〉から見たとき、どのように現れるだろうか。本講義ではユダヤ文化を通して、自分たちの文化とはまったく異なる文化に触れ、自分たちの場を相対化する思考、そして柔軟な考え方を養いたい。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席（30%）、小テスト（複数回、40%）、期末レポート（30%）で評価する。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>



選択	イスラム文化A	春	週1回	2単位
担当者：赤坂 恒明				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 まず、イスラム教に関する基礎を、キリスト教・ユダヤ教と比較しつつ明らかにする。また、イスラム教徒の生活の規範となっている「イスラム法」についても具体的な事例を紹介する。次に、古代ギリシア・インド・中国・エジプトなどの諸文化の要素を摂取・融合して形成・発展したイスラム文化の諸相を取り上げ、イスラム文化が近代以前のヨーロッパ文化に与えた影響の世界史的意義について論じたい。なお、本講義では、「忘れられたキリスト教」とも呼ばれる東方キリスト教諸派についても概観する機会を設けたい。なぜなら、例えばネストリウス派キリスト教徒がイスラム文化の成立に重要な役割を果たしたことから明らかなように、東方キリスト教諸派はイスラムと密接な関係を持っているからである。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 概説であり、入門的な位置づけである。イスラム教に関する基礎知識を身につけ、他宗教・異文化に対する関心を養う基礎的な講義である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 世界史上におけるイスラム文化の重要性についての認識を深めることができるようになること。イスラム教に関する最低限の基礎を説明できるようになること。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席点10%、平常点20%、試験（小テストを含む）70%によって算出する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択	イスラム文化B	秋	週1回	2単位
担当者：赤坂 恒明				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 「ヨーロッパにおけるイスラム文化」を主題として、異文化接触に関する諸問題について考察する。まず、イスラム教についての基礎知識を確認した上で、歴史的に見たキリスト教文化とイスラム文化との接触によって生じた相互関係について、中世の地中海地域、ロシア、バルカン半島の三地域に焦点をあてて個別に論じる。次に、現代の西欧におけるイスラム諸問題を概観する。そして、最後に、近現代ヨーロッパにおける対イスラム認識として「オリエンタリズム」を取り上げる。なお、本講義では、時事的な問題をも積極的に取りあげる予定であるので、授業計画は国際状況の変化等により若干変更されることもある。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 他宗教・異文化に対する理解を深める、やや専門的な側面もある講義である。教養を高めるために宗教・民族文化・歴史等を学ぼうとする学生にも適している。</p> <p>3. 学びの意義と目標 ヨーロッパ文化に与えたイスラム文化の重要性と、キリスト教文化とは異なるヨーロッパの地域文化の存在について理解を深め、他宗教・異文化に関する国際的な視野を持つ。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席点10%、平常点20%、試験（小テストを含む）70%によって算出する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択	Pop Culture	春	週2回	4単位
担当者：K. O. アンダスン				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 この授業では子供時代から老年に至るまでの人生の様々な時期について歌われている最も優れたポップ・ソングに注目する。授業で取り上げた全ての歌について検討する。また受講生は自分で1・2曲の現代のポップ・ソングを選び、それについてのオラルレポートをすることが課せられる。</p> <p>2. 現代の英国民衆文化を学ぶ。</p> <p>3. 学びの目標 英語歌詞の意味を多方面から分析する力を養う。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席10%、宿題30%、小テスト30%、期末試験30%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択	映像文化	秋	週2回	4単位
担当者：氏家 理恵				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>（内容） 本講義は、映画作品を社会的・文化的な視点から分析していく授業である。「映像の世紀」と呼ばれた20世紀が過ぎ去った現在、映画もその技術的・理論的發展によって、単なる娯楽として片づけられない地位を映像文化のなかで占めるに至った。総合芸術である映画の「読み方」を知るとともに、映画が培ってきた映像文化の特徴と、その社会的・政治的・経済的功罪を振り返り、さらに映画の限界と可能性を考察していくことが本講義の目的である。</p> <p>（カリキュラム上の位置づけ） 欧米文化学科の2年次生以上対象専門科目である。映画・映像そのものだけでなく、欧米の歴史や社会・文化などの知識を持って映像作品を分析することを前提とする。</p> <p>（学びの目標） 本講義によって映像の持つ「力」を知り、ちまたに満ちあふれている映像を客観的に分析する力を養う。また、映画が理論を併せ持った研究分野として確立していることを踏まえ、受講後も映画鑑賞の際に役立つような、映画を「読む」ための知識を獲得する。</p>				
<b>評価方法</b>				
<p>1. 平常点（ミニッツノート・課題など） 40%</p> <p>2. 映画批評レポート（4回） 40%</p> <p>3. 期末レポート 20%</p> <p>その他、掲示板における発言などを加点する。</p>				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 欧米児童文化	秋	週2回	4単位
担当者：上原 里佳			
<b>講義の目標及び概要</b>			
【比較児童文化という視点から】一文化から産業までの歩み— (1)内容 サブカルチャーとしての児童文化の特質をふまえた上で、〈漫画・アニメーション・キャラクター〉に注目し、日本と欧米で個々の素材がどのように係わりあいながら発展してきたのかを、歴史的に比較・考察する。作品が制作された当時の社会状況や文化的背景を検証し、そこに反映された子ども観や女性観の変遷を読み解いていく。作品観賞や最新のデータ・状況などできるだけ多くの具体例に触れ、なぜその作品（商品）がヒットしたかについて詳しく分析するとともに、ビジネス的側面からも検討していく。 (2)カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の〈生活文化〉領域としての専門科目。選択科目。 (3)学びの意義と目標 子ども時代から馴染んできた作品の再評価に加え、近年の作品で展開される世界観の可能性についても考えていくことで、柔軟な発想力と物事を多角的視野から展望する力を身につける。			
<b>評価方法</b>			
出席点（授業への出席、および授業態度） 35% 各授業後提出の小レポート（講義内容の理解度・興味）、講義への積極的な関わりなど 30% 期末レポートもしくは試験 35%			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 欧米家族文化	秋	週2回	4単位
担当者：森 涼子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容：近年、家族のありかたが大きく変わってきました。日本においても欧米においても、どのような家族を築くかは、自由な個人の決定にゆだねられるようになってきました。このような今日こそ、「家族とは何なのか」、「家族を結び合わせている絆とは何なのか」を、問わざるをえません。この講義では、まず欧米における家族形態の歴史の変遷を明らかにし、それから、現在の欧米家族事情をとりあげます。今、欧米家族で起こっているさまざまな問題に、日本と比較しつつアプローチすることによって、上のべた問いについて考えたいとおもいます。 2. カリキュラム上の位置づけ：学科の基礎科目であり、選択科目として一年次から四年次まで履修することができる。 3. 学びの意義と目標：欧米家族について知ることは、「欧米文化」を理解するうえで欠かすことはできません。「文化」とは、「人と人との関わり合い」の上になりたっており、「家族」とは、そのなかで最も基本的な「人間同士の関わり」の形だからです。各自興味のあるテーマについて発表し討論をする予定です。			
<b>評価方法</b>			
授業中の発表（60%-興味のあるテーマの一つを選び15分位の発表をしてもらいます）とテスト（40%）によって評価します。 出席と平常点を重視します。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 観光地理	秋	週2回	4単位
担当者：秋山 秀一			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 この講義では、観光と旅、地理、歴史等について、授業計画の流れにそって、学んでいく。さらに、私自身の旅の具体的な実践例を基に、様々な旅の形態についても話をすすめていく。 2. カリキュラム上の位置づけ 観光とは、本来、その国の光り輝く所を観るということである。その国の素晴らしいところを自分自身で観ることによって、異文化体験を実践し、国際理解をより深めるところに寄与することができる。その観点から、観光地理について学ぶ。 3. 学びの意義と目標 この講義を通して、観光地理への理解を深め、観光の本来の姿を認識し、旅の実践者として積極的に行動できるようにすることを目標とする。			
<b>評価方法</b>			
日頃の授業への貢献度（30%）、出席状況（30%）、レポート等（40%）から総合的に評価する。			
<b>教科書</b>			
秋山秀一『フィールドワークのススメ アジア観光文化の旅』学文社			

選択 現代英文法	春	週2回	4単位
担当者：東 仁美			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 総合的な英語力を身につけるため、英語基礎力の中心となる文法項目の知識を整理する。表現するという視点から英文法をとらえ、興味を持って英語のしくみを学んでいく。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目の「言語」科目に位置づけられた選択必修科目であるが、教職課程履修者は必修である。 3. 学びの意義と目標 英文法を学ぶことにより、自分の英語力に自信をつける。また、指導者として効果的に英文法を指導する技術を学ぶ。			
<b>評価方法</b>			
授業への出席・参加 25% 小テスト 25% 中間試験 25% 期末試験 25%			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する 岸野 英治『総合コミュニケーション英語文法』大修館書店			

選択 英語音声学	春	週2回	4単位
担当者：加曾利 実			
<b>講義の目標及び概要</b>			
◆内容◆ LL教室を使用する。テキストで英語音声学の基礎知識（発音器官・母音・子音・音の結合・強勢・イントネーション等）を学習すると同時に、DVD教材を用いて英語らしい発音・リズムを身につける練習を行う。主としてアメリカ英語を対象とし、必要に応じてイギリス英語等の、他の種類の英語についても触れる。			
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 音声学は、英語学習の中核を成す基礎科目なので、出来るだけ1-2年次に履修することが望ましい。また、予習・復習を励行すること。			
◆学びの意義と目標◆ 英語音声学の基本理論を学び、実際に「ネイティブ・スピーカーに通じる発音」を練習して、その習得を目指す。つまり、ネイティブ・スピーカーとのコミュニケーションにおいて、相手を正しく理解し、また自らの意思を相手に正しく伝えられるようになる。			
<b>評価方法</b>			
1. 定期試験（中間と期末）の成績（70%） 2. レポートの成績（15%） 3. 発音チェックテストの成績（15%） 欠席の扱いについては、学生要覧を参照のこと。			
<b>教科書</b>			
御園和夫、平坂文男『コミュニケーション主体の英語音声学』和広出版			

選択 英語学概論	秋	週2回	4単位
担当者：加曾利 実			
<b>講義の目標及び概要</b>			
◆内容◆ 英語学に関する様々な分野、即ち音韻論・形態論・統語論・意味論・英語史等について概観する。統語論においては、伝統文法・アメリカ構造主義文法・生成変形文法を中心に講義する。本講義の一大特徴は、イギリスの著名な学者と朗読者による、古英語及び中英語の貴重な音声教材を用いて、その音声を聞き、また実際に発音練習することである。古（いにしえ）の英語音声に関心のある学生に履修して頂きたい。			
◆カリキュラム上の位置づけ◆ ある程度、英語の基礎が出来上がった、2-4年次の学生に履修して頂きたい。			
◆学びの意義と目標◆ 現代というグローバル化の時代にあつて、英語に関する様々な知識が、必須となって来ている。英語を学習し、研究する者ならば、知っておかねばならない知識を網羅する。			
<b>評価方法</b>			
1. 予習・復習の実行度（10%） 2. 授業での積極度（10%） 3. 中間・期末の定期試験（80%） 出席については、学生要覧を参照のこと。			
<b>教科書</b>			
石黒 昭博『現代の英語学』金星堂			

選択 言語学概論	秋	週2回	4単位
担当者：D. バーガー			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 この科目は概論なので、言語に関する学問領域を大きな枠組みで捉えて紹介する。「言語とは何か」という根本的な問題から始まり、人間の言語構造に続き、ことばの様々な姿や働きについて具体例を挙げて説明し、ことばについての関心を深めていく。一般的な人間の言語だけではなく、言語の普遍的な特性と各言語がどのようにその特性を実現するかを理解するために日本語と英語を始め、様々な世界の諸言語の事例を考察する。			
2. カリキュラム上の位置づけ この授業は、欧米・日本文化の両学科の共通「言語」専門科目であり、対象学年は2年生からとなっている。言語について深く考える習慣をつけて、次の段階に進んでもらいたい。			
3. 学びの目標 普段、無意識的に用いる言語の性質を認識すると同時に、この授業を通して言語学の理解を深める。			
<b>評価方法</b>			
10% 授業への出席 10% 授業での参加態度 40% ワークシート 40% 期末試験			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 Speech & Debate A	春	週2回	4単位
担当者：M. サベット			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 英語のスピーキング・スキルに重きを置く。			
2. カリキュラム上の位置づけ 専門科目群の選択科目			
3. 学びの意義と目標： (1) (全般) 聴衆の前でのスピーキング・スキルを上達させる。 (2) (言語) 英語で自分の考えを表現できる能力を上達させる。 (3) (文化) 英語と日本語におけるスピーキングの違いの理解を深める。			
<b>評価方法</b>			
20% 出席 Attendance 60% スピーチの実践 Practice Speeches 20% 最終スピーチ Final Speech			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

欧米文化学部

<b>選択</b> <b>Speech &amp; Debate B</b>	<b>秋</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：M. サベット	
<b>講義の目標及び概要</b> Speech & Debate B will focus on debating skills in English. The goals of the course are: Speech and Debate Bは、英語のディベート・スキルに重きを置く。 このコースの目標： 1. (general) to improve general debating skills; that is, effectively arguing for or against a proposition; 2. (language) to improve your ability to express your opinions in English; 3. (culture) to gain a better understanding of the importance of the exchange of ideas and opinions in a free society. 1. (全般) 効果的な議論および主張への反論をするためのディベート・スキルを上達させる。 2. (言語) 英語で自分の意見を主張できる能力を上達させる。 3. (文化) 自由社会において自分の考えおよび見解を意見交換することが、いかに重要	
<b>評価方法</b> 20% 出席 Attendance 60% ディベートの実践 Practice Debates 20% 最終ディベート Final Debate	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択</b> <b>言語と社会</b>	<b>春</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：D. バーガー	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容：この授業では、比較言語・比較社会の観点から言語と社会の関係について取り上げる。日本語やアメリカ英語を始めとし、又、他言語も、どのように社会の中で使われているかを学ぶ。主な課題は(1)どのように言語が個人的、社会的なアイデンティティを表しているか(方言、二・多言語使用等)、(2)どのように人間関係が言語的に表われているか(丁寧表現、敬意表現等)、(3)社会変化と言語変化はどんな関係があるか(差別語、特に性差別語、非性差別語変革等)である。言語と社会の関係を理論的、実践的に解明する。 2. カリキュラム上の位置づけ：欧米文化学科の「言語」専門科目でもあり、日本文化学科の「比較文化系統」専門科目でもある。社会言語学の分野に位置づけの言語と社会の研究に関する入門的な授業である。 3. 学びの目標：言語と社会の研究の主な課題を概観することを通して、受講生は社会的関係において言語の役割を理解するようになる目標がある。	
<b>評価方法</b> 20% クラスへの出席 20% 授業への参加態度 30% 小テスト 30% 期末試験	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択</b> <b>心理言語学</b>	<b>春</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：川手 恩	
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容◆ 本講義では、言語使用や言語行為、コミュニケーションを言語学と心理学の両方向から考察し解明することを試みる。この目的を達成するため、「音声や語と文字」「文と文章の理解」「語用論と発話行為」「普遍文法」「母語の習得」「言語と脳」「母語喪失と回復過程」「第二言語学習」そして「言い誤りの心理言語学的考察」という九つの心理言語学の研究分野のテーマに焦点をあて授業を展開していく。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 2-4年生での受講を推奨。 ◆学びの意義と目標◆ 本講義では、コミュニケーションを心理言語学的視点より検討し、様々な状況や場面におけるコミュニケーションの成り立ちを理解し、その大切さやすばらしさを見出す。	
<b>評価方法</b> 期末レポート 30%、復習クイズ 30%、プレゼンテーション 10%、クラス参加 10%、宿題 20%	
<b>教科書</b> 石川圭一『ことばと心理：言語認知メカニズムを探る』黒潮出版	

<b>選択</b> <b>言語習得理論</b>	<b>春</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：長崎 睦子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容：本講義は言語習得理論の中でも、第二言語習得(母語以外の言語を身につけること)研究に重点を置く。第二言語習得研究とは1960年代頃から発達してきた新しい研究分野であり、第二言語習得のメカニズムの解明という理論的な研究だけでなく、効果的な学習方法などの実践的な研究も取り扱っている。授業では第二言語を習得するとはどういうことか、またそのプロセスを認知的アプローチ、社会言語学的視点、脳科学の分野などから概観する。さらに、習得と学習者にかかわる要因(年齢・動機付け・適正など)との関係、教室第二言語習得研究、効果的な学習法、バイリンガルの言語習得、早期(小学校)英語教育などについても考察する。 2. カリキュラム上の位置づけ：欧米文化学科専門科目群の選択科目である。2~4年生で受講することをすすめる。 3. 学びの意義と目標：皆さんが日頃学習している第二言語(外国語)の習得について様々な視点から考察することで、これまでの自分自身の外国語学習法についても見直し、効果的な学習方法とは何かについて考えてもらいたい。	
<b>評価方法</b> 出席点(20%)、平常点(授業への貢献度)(20%)、クイズ3回(10%×3=30%)、口頭発表(10%)、学期末レポート(20%) *評価の内容は変更する場合がある。その場合は授業にて説明するので確認すること。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選択 児童英語教育(理論)</b>	<b>秋集中 2単位</b>
担当者：横田 玲子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容          小学校英語活動やそれ以外の児童英語教育についての概要や背景となる理論を学ぶ。また実施に関わる様々な要素や教育環境についても理解を深める。授業は講義のほか、経験的に学んでいくグループワークを実施する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ          児童英語教育科目の中の入門的な講座である。</p> <p>3. 学びの意義と目標          児童英語の概要と共に、英語運用力、および正しい発音についても学ぶ。幼い子供たちを教えるという観点から、「自分の学び」とともに「教える」という視点と責任感が求められる。時間にルーズだったり、適当にことを済ませようとする人には向かない。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席 50% ExitCard 30% プレゼンテーションとポートフォリオ 20% テストはしない代わりに、出席点と授業参加への記録により自己評価を行う。	
<b>教科書</b>	
文部科学省『小学校外国語活動研修ガイドブック』旺文社 文部科学省『英語ノート1』教育出版 文部科学省『英語ノート2』教育出版 文部科学省『小学校指導要領解説 外国語活動編』東洋館出版社	

<b>選択 児童英語教育(カリキュラム・デザイン)</b>	<b>春 週1回 2単位</b>
担当者：東 仁美	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容          新学習指導要領では、5・6年生で年間35時間の外国語活動が必修化されることになった。学校英語教育が大きな転換期を迎えている中で小学校で英語を教える指導者が益々求められている。この授業では、公立小学校での英語活動の基礎知識を身につけ、カリキュラム作りに必要な学習目標、学習内容、指導方法などを研究していく。「英語ノート」の教材研究を通して、実際に単元計画と1時間の指導案を作成することを課題とする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ          欧米文化学科の2年生以上対象の専門科目である。インターシップⅡ履修希望の学生はこの科目を履修することを推奨する。</p> <p>3. 学びの意義と目標          公立小学校での外国語活動必修化への動きに対して、最新の動向を把握しつつ、指導者として今何をすべきかを検証していく。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業への出席、参加 30% レポート 40% 学期末課題 30%	
<b>教科書</b>	
岡秀夫 金森強 編著『小学校英語教育の進め方―「ことばの教育」として―』成美堂 文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』東洋館出版社 文部科学省『英語ノート1』教育出版 文部科学省『英語ノート2』教育出版	

<b>選択 児童英語教育(教材研究)</b>	<b>秋 週1回 2単位</b>
担当者：A. クラウス	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>Students will learn to evaluate textbooks used in private and public schools. They will compare them and learn how to make their own evaluations. They will do class simulations using these textbooks, as well as books used in Sogo classes.</p> <p>We will talk about educational materials that you can buy and how to evaluate them. This will include audio-visual materials, videos, picture books, and realia. We will find out which are most efficient in English activities in elementary school. Each class we will introduce an English song and read and listen to an English picture book that goes along with it.</p> <p>We will also learn about making your own materials, with a theme in mind. Students will make presentations of materials they produce which will be useful in an activity. By presenting to each other in the class, you'll be able to share and understand different ideas about how to make materials.</p>	
<b>評価方法</b>	
出席及びクラスの参加 50% アクティビティーのプレゼンテーション 50%	
<b>教科書</b>	
Aleda Krause 『SuperKids 1』 Longman 東後 『Junior Columbus 21 Book 2』 光村図書	

<b>選択 児童英語教育(ワークショップA)</b>	<b>秋 週2回 4単位</b>
担当者：A. クラウス	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>Teaching English to children is different from teaching English to older learners. Teachers need techniques and methods specifically for children. In this class, you will learn about these methods and the theories behind them. You will also have a chance to polish your classroom language and your teaching skills by preparing activities, songs, and picture books to present to classmates. Halloween and Christmas activities will also be included.</p>	
<b>評価方法</b>	
出席及びクラスの参加 40% アクティビティーのプレゼンテーション 40% Other Assignments 10% Quizzes 10%	
<b>教科書</b>	
松香洋子『諸学生は英語が大好きー72 Activities』松香フォニックス研究所 奈良橋陽子『英語で遊ぶ25のゲームと15のダイアログ集』Longman	

欧米文化学科

<b>選択 児童英語教育(ワークショップB)</b>	<b>春集中</b>	<b>4単位</b>
担当者：阿部フォード恵子		
<b>講義の目標及び概要</b> 内容：コミュニケーションの手段として、「外国語としての英語(EFL)」又は「世界語としての英語(WE)」をどのように児童に指導したらよいか？長年にわたって研究されているこの分野は、下降することなくつねに実践され開発を続けている。英語を母国語としない国々では的確な能力と知識と指導力を備えた教師を求める要望がさらに増大している。これは主体的に英語を使える人間の育成が緊急の課題となっているからである。この講義ではこれらを加味し、児童英語指導の原点からスタートし児童英語教育の基本をさまざまな角度から具体的に捉え、言語教育からみた人間教育のあり方までに言及していく。 カリキュラム上の位置づけ：欧米文化学科専門科目群の言語科目である。また、J-SHINE(小学校英語指導者認定資格)取得のための必修科目である。 学びの意義と目標：児童英語教育における最も重要な項目は理論に裏付けされた実践訓練である。特にどのように英語活動指導をしていくのかを教材教具を使いながら習得していく。この活動には児童英語教育の指導に求められている実践的知識、アイデア、アクティビティ、ゲーム、うた、チャンツ、指導案などが含まれる。		
<b>評価方法</b> 平常点(75%) レポート(25%) 短期集中講義のため、全日全期間出席を義務とする。 欠席時間数により講義放棄と見なす。		
<b>教科書</b> 阿部フォード恵子『AJ's Picture Dictionaryシリーズ』アプリコット 阿部フォード恵子『児童英語教授法』CALA 阿部フォード恵子『教室ふれあい英語表現集』桐原書店		

<b>選択 児童英語教育(インターンシップI)</b>	<b>春集中</b>	<b>秋集中</b>	<b>2単位</b>
担当者：東 仁美			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 児童英語教育の実習をする。公立小学校での英語の授業及び「NPO教育支援協会」の主催する「さいたま市地域ですすめる子ども外国語学習協議会」(Hello Kids)が運営する、さいたま市内の公民館における英語の授業を観察実習する。 2. カリキュラム上の位置づけ 「児童英語教育(理論)」「児童英語教育(ワークショップA・B)」「インターンシップI」を履修する事により、小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)より、小学校英語指導者認定資格が授与される。児童英語科目2科目以上履修済みであることが履修条件である。 3. 学びの意義と目標 児童対象に実際に行われている英語の授業を見学することにより、指導者としての自覚を促す。			
<b>評価方法</b> 評価は、各学生の実習態度・成果に、提出された報告書の内容を加味した上で行う。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

<b>選択 児童英語教育(インターンシップII)</b>	<b>秋集中</b>	<b>2単位</b>
担当者：東 仁美		
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 児童英語教育の実習をする。さいたま市立小学校での英語活動及び放課後居場所事業「おもしろ英語クラブ」での授業を担当する。週1回の授業実習のほかに、指導案作成、教材作り、模擬授業など週2~3回の事前指導がある。 2. カリキュラム上の位置づけ 児童英語教育(インターンシップI)のステップアップ科目である。 3. 学びの意義と目標 児童英語教育科目の集大成として、英語のみで1時間の授業を指導する力をつけていく。		
<b>評価方法</b> 評価は、各学生の実習態度・成果等を指導担当者と検討し、提出された報告書の内容を加味した上で行う。		
<b>教科書</b> プリントを配布する		

<b>選択 ScreenEnglish A</b>	<b>春</b>	<b>週2回</b>	<b>2単位</b>
担当者：中村 香代子			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 この授業では数本の映画を終わりまで鑑賞しながら、実際の会話でよく使われる表現を多く含むシーンを抜粋し、内容を詳しく学んでいきます。映画の理解にはスピードや訛り、スラングなど手強い面もありますが、繰り返し聴いて練習することで、自然な英語に耳を慣らして行きます。またロールプレイを行って、英語のイントネーションやリズムも練習していきます。授業は主に英語で行いますので、気軽に一緒に英語を使ってみましょう。 2. カリキュラム上の位置づけ ECA(Cinema)に続き、さらに多くの映画を使用して、英語力育成を図る専門科目です。 3. 学びの意義と目標 実際に英語社会で使われる様々な口語表現を習得すること。日常会話に役立つ実践的なリスニング能力を向上させること。異なる映画をなるべくたくさん観ることで、様々な社会階層や環境、年代や人間関係などにより生まれる英語のバリエーションを学ぶこと。			
<b>評価方法</b> 出席(20%)、授業参加(20%)、表現テスト(30%)、ロールプレイテスト(30%)を総合的に評価します。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選択 Screen English B	秋	週2回	2単位
担当者：中村 香代子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 この授業では数本の映画を終わるまで鑑賞しながら、実際の会話でよく使われる表現を多く含むシーンを抜粋し、内容を詳しく学んでいきます。映画の理解にはスピードや訛り、スラングなど手強い面もありますが、繰り返し聴いて練習することで、自然な英語に耳を慣らして行きます。またロールプレイを行って、英語のイントネーションやリズムも練習していきます。授業は主に英語で行いますので、気軽に一緒に英語を使ってみましょう。			
2. カリキュラム上の位置づけ ECA (Cinema) に続き、さらに多くの映画を使用して、英語力育成を図る専門科目です。			
3. 学びの意義と目標 実際に英語社会で使われる様々な口語表現を習得すること。日常会話に役立つ実践的なリスニング能力を向上させること。異なる映画をなるべくたくさん観ることで、様々な社会階層や環境、年代や人間関係などにより生まれる英語のバリエーションを学ぶこと。			
<b>評価方法</b> 出席 (20%)、授業参加 (20%)、表現テスト (30%)、ロールプレイテスト (30%) を総合的に評価します。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選択 英語スピーチ発音法	秋	週2回	2単位
担当者：加曾利 実			
<b>講義の目標及び概要</b>			
◆内容◆ LL教室を使用します。英語の表現力と聴解力を身につけるためには、まず基本的な発声法と英語の発音ができていなければなりません。英・米などのネイティブ・スピーカーと自然なコミュニケーションを行えるようになるためには、実用的な英会話教材を用いて、自然な英文を覚えて、スピーキングとリスニングの力をアップさせて行くことが効果的です。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 本授業は、できれば春学期の「英語音声学」を履修した後に、履修した方が、より効果的に学習できます。「英語音声学」との違いは、呼吸法・解剖学的考察・イントネーションなどといった「応用理論の実践」にあります。 ◆学びの意義と目標◆ 生きた英語表現を身につけるための理論と実践を行います。発音練習を行いながら、機能語を中心とする「演説に基づく表現力とリスニングのポイント」を学習します。			
<b>評価方法</b> 1. 予習・復習の実行度 (10%) 2. 発音チェックテストの成績 (30%) 3. 定期試験 (中間と期末) の成績 (60%) 出席については、学生要覧を参照のこと。			
<b>教科書</b> 荒井 良雄 編、尾崎 寔 注釈『英語名演説集』英光社			

選択 教えるための英文法A	春	週1回	1単位
担当者：西野 孝子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 中学・高校で習った文法の復習。文法の指導法の実習。 2. カリキュラム上の位置づけ 教職課程及びインターンシップ履修学生対象。 3. 学びの意義と目標 (1) 基礎的な文法を理解し、その運用能力を伸ばす。 (2) 中学・高校の英語の授業での文法の導入法を身につける。			
<b>評価方法</b> 出席、提出物、積極的な討論参加、小テスト、模擬授業と指導案			
<b>教科書</b> 斉藤美加『みるみるわかる高校英語』三友社			

選択 教えるための英文法B	秋	週1回	1単位
担当者：西野 孝子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 中学・高校で習った文法の復習。文法の指導法の実習。 2. カリキュラム上の位置づけ 教職課程及びインターンシップ履修学生対象。 3. 学びの意義と目標 (1) 基礎的な文法を理解し、その運用能力を伸ばす。 (2) 中学・高校の英語の授業での文法の導入法を身につける。			
<b>評価方法</b> 出席、提出物、積極的な討論参加、小テスト、模擬授業と指導案			
<b>教科書</b> 斉藤美加『みるみるわかる高校英語』三友社			

<b>選択</b> <b>Internet English (Basic)</b>	<b>春</b> <b>週2回</b> <b>2単位</b>
担当者：J. バーン	
<b>講義の目標及び概要</b> 本講義では、インターネット上で様々な方法を利用し英語力を身に付けるのが狙いです。この講義で学習した知識は履修後にも役立つでしょう。リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング・読解力・文法といった全てにおいてオンライン上で学習します。 自宅でも利用できるフリーウェブサイトを使用しながらも学習して行きます。  内容として、おしゃべりロボット・日常の俗語・パソコンゲーム・学生ニュース・観光英語・ポッドキャスト・ヴォッドキャスト等も利用します。	
<b>評価方法</b> 出席状況26% 授業態度14% プレゼンテーション40% 期末試験の成績20%	
<b>教科書</b> プリントを配布する Rost, M. 『Longman English Interactive Level 1』 Longman	

<b>選択</b> <b>Project-Based Internet</b>	<b>秋</b> <b>週2回</b> <b>2単位</b>
担当者：J. バーン	
<b>講義の目標及び概要</b> 本講義では、オンライン上での英会話・英語でのウェブサイト作成・オンラインガイドに従って有名な映画の分析・お気に入りウェブサイトの情報共有を学習します。  スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング4つのスキルを使い、生きた英語に触れながら学習し英会話の自身を付ける狙いもあります。	
<b>評価方法</b> 出席状況26% 授業態度14% プレゼンテーション40% 期末試験の成績20%	
<b>教科書</b> プリントを配布する Rost, M. 『Longman English Interactive Level 1』 Longman	

<b>選択</b> <b>Living &amp; Studying Abroad</b>	<b>春</b> <b>週2回</b> <b>2単位</b>
担当者：M. サベット	
<b>講義の目標及び概要</b> の社会規範の理解、人との適切な対応の仕方、大学環境への順応の仕方、そして良い成績の取り方などを学ぶ。 授業トピック：アメリカの規範と文化理解（家族、宗教、政治、スポーツ、エンターテインメント、食など）；大学生活を理解し慣れ親しむ（キャンパスを知る、図書館やその他の大学の施設を利用する、学問上の目的を設定する、良い勉強の習慣をつける、授業の履修必要条件と評価方法を把握する、交流の仕方を学ぶ、危険を避ける）  Living and Studying Abroad The purpose of this course is to introduce students to the type of social and academic challenges that they may face when they study abroad. Students will learn how to understand the social norms in the U.S., how to interact with people appropriately, how to survive in a university setting, and how to succeed academically.	
<b>評価方法</b> 1. Attendance and participation 40% 2. Homework 30% 3. Quizzes and Final exam 30%	
<b>教科書</b> Lecture Ready 1 『Peg Sarosy and Kathy Sherak』 Oxford University Press	

<b>選択</b> <b>Academic Listening &amp; Speaking</b>	<b>秋</b> <b>週2回</b> <b>2単位</b>
担当者：E. D. オズバーン	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. Content — This course is designed to provide students with opportunities to learn the vocabulary and the Intermediate level English listening and speaking skills that will serve as the foundation for further preparatory work as they get ready to study abroad in a university environment. The course content focuses on themes related to life in society, with particular interest in the comparison of American and Japanese culture.  2. Role in the Curriculum — This is an elective course that is part of the Euro-American Culture Department's "English Training Sequence" (英語強化コース).  3. Learning Objective — The primary objective is help students reach the Intermediate to Intermediate High level of academic English listening and speaking in preparation for tests like the TOEFL and for studying overseas.	
<b>評価方法</b> Grades will be based upon class attendance (10%), participation in discussions (20%), in-class presentations (40%), and two exams (15% each = 30%).	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する Kim Sanabria 『Academic Listening Encounters: Life in Society』 Cambridge University Press	



選択 College Reading Skills	春	週2回	2単位
担当者: メイス みよ子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容: 正規留学を目指す学生のためのリーディング演習コース。アカデミックトピックを取り上げたテキストを使用しながら、留学に必要な読解力、アカデミックボキャブラリー、速読力の向上を目指すと共に、自然科学などの知識の習得も目標とする。TOEFLで出題される長文をよく読解できるよう、様々なスタディスキルの練習、ボキャブラリービルディング、ショートライティングも行う。その他、インターネット、雑誌、新聞の時事英語など多彩なトピックについて読みながら、ディスカッション、まとめなどの作業を行い、留学に必要な英語力を養う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ: 欧米文化専門科目の選択科目である。</p> <p>3. 学びの目標と意義: 欧米の大学では、膨大な量のリーディングが求められる。様々なアカデミックトピックについて、リーディング演習を行い、留学に必要な読解力、語彙力、スタディスキルを身につけることを目標とする。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席・授業の作業 (20%)、小テスト (30%)、宿題 (20%)、期末発表 (30%)			
<b>教科書</b>			
Wharton, Jennifer 『Academic encounters: the Natural World』 Cambridge University Press			

選択 College Writing Skills	秋	週2回	2単位
担当者: K. O. アンダスン			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容 この科目では英語論文を書くために必要な技能を修得する。段落の組み立て方、文章のまとめ方、時間的順位、原因と結果、比較と対象などを論文中にどのように用いまとめ、立証的な論文を作成するかを学ぶ。また他人の文章、考えの盗用の危険性を強調し、MLA Handbook for Writers of Research Paper, Sixth Editionを用い研究方法、出典文献の用い方なども身につける。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 海外で学ぶこと、英語論文を書くことを計画している学生対象。 注) TOEFL換算スコア380点以上の学生対象</p> <p>3. 学びの意義と目標 自身の考えをまとめ調査・研究し論理的な論文の書き方を学び、将来に役立てる。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席 10%、宿題 30%、小テスト 30%、期末試験 30%			
<b>教科書</b>			
Alice Oshima and Ann Hogue 『Writing Academic English, Fourth Edition』 Pearson/Longman 2006			

選択 TOEFL A	春	週2回	2単位
担当者: 中村 香代子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1 内容 TOEFL iBT Testの対策講座です。難易度が高くなったiBT Testで少しでも得点を伸ばすために、Listening・Reading・Speaking・Writingの各分野の特徴をつかみ、中でも分量の多いReading・Listeningセクションに重点を置き、正確に解答するための練習を重ねます。また多岐に亘るアカデミック英語を理解するため、語彙力を伸ばす訓練も試みます。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ 将来留学や海外大学編入を考えている人の為のクラスです。受講者にはTOEFL-ITPの受験が求められます。</p> <p>3、学びの意義と目標 難易度の高いTOEFL iBTに対応できるスピードと内容理解力アップを目指します。また総合的な英語力向上も目指します。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席 (20%)、単語クイズ (20%)、Speaking練習参加度やWriting提出 (30%)、定期試験 (30%) の結果を総合的に評価します。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 TOEFL B	秋	週2回	2単位
担当者: 中村 香代子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1 内容 TOEFL iBT Testの対策講座です。難易度が高くなったiBT Testで少しでも得点を伸ばすために、Listening・Reading・Speaking・Writingの各分野の特徴をつかみ、正確に解答するための練習を重ねます。また多岐に亘るアカデミック英語を理解するため、語彙力を伸ばす訓練も試みます。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ 将来留学や海外大学編入を考えている人の為のクラスです。受講者にはTOEFL-ITPの受験が求められます。</p> <p>3、学びの意義と目標 難易度の高いTOEFL iBTに対応できるスピードと内容理解力アップを目指します。また総合的な英語力向上も目指します。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席 (20%)、単語クイズ (20%)、Speaking練習参加度やWriting提出 (30%)、定期試験 (30%) の結果を総合的に評価します。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

<b>選択 TOEIC A</b>	<b>春 週2回 2単位</b>
担当者：中村 香代子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 TOEICテストはリスニング4パート・リーディング3パートからなり、正確な英語知識と素早い判断力が要求されますが、パターンに習熟し不得意分野を訓練することで、得点アップが可能です。この授業では文法力と語彙力を高めながら、実際のTOEICテストで得点を伸ばすための練習を重ねて行きます。また詳しい説明をしながら文法問題に取り組んだり、テストに出やすい語彙を多く含んだリスニング練習にも挑戦します。  2. カリキュラム上の位置づけ TOEIC Testに挑戦してみたい人のための、専門科目コースです。受講者にはTOEIC-IPの受験が求められます。  3. 学びの意義と目標 TOEICテストの特徴をつかみ、点数向上を目指します。またテスト準備にとどまらず、将来役立つ実践的で総合的なリスニング・リーディング力の習得も目指します。	
<b>評価方法</b> 出席 (20%)、授業態度 (10%)、単語+熟語クイズ (30%)、定期試験 (40%) の結果を総合的に評価します。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 TOEIC B</b>	<b>秋 週2回 2単位</b>
担当者：中村 香代子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 TOEICテストはリスニング4パート・リーディング3パートからなり、正確な英語知識と素早い判断力が要求されますが、パターンに習熟し不得意分野を訓練することで、得点アップが可能です。この授業では文法力と語彙力を高めながら、実際のTOEICテストで得点を伸ばすための練習を重ねて行きます。また詳しい説明をしながら文法問題に取り組んだり、テストに出やすい語彙を多く含んだリスニング練習にも挑戦します。  2. カリキュラム上の位置づけ TOEIC Aを履修してさらに力をつけたい人、また新たにTOEICのクラスに挑戦したい人のためのコースです。受講者にはTOEIC-IPの受験が求められます。  3. 学びの意義と目標 TOEICテストの特徴をつかみ、点数向上を目指します。またテスト準備にとどまらず、将来役立つ実践的で総合的なリスニング・リーディング力の習得も目指します。	
<b>評価方法</b> 出席 (20%)、授業態度 (10%)、単語+熟語クイズ (30%)、定期試験 (40%) の結果を総合的に評価します。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 フランス語コミュニケーションA(総合)</b>	<b>春 週2回 2単位</b>
担当者：H. ドリエップ	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容： Spiraleという教科書に沿って進行し、さまざまな口語練習とゲームによるコミュニケーション上のアプローチを使って、フランス語に慣れていくようにする。授業では文法から入るだけではなく、生きたフランス語を学ぶことで、フランス語がそれほど難しいものではないことを理解してもらう。自己紹介、挨拶、初級フランス語を学ぶことになる。その日の授業の状況によって、フランスの文化の概要や、フランス人の生活習慣についてレクチャーする。 2. カリキュラム上の位置づけ： フランス語 I・II を修得した学生、フランス語圏への留学希望者を受講の対象としている。 3. 学びの意義と目標： 学生が臆することなくいろいろなコミュニケーションの状況をフランス語で表現できるようにし、また、外国語を学ぶ楽しさとメリットを得ることにある。	
<b>評価方法</b> 小テスト60%、積極的な授業参加30%、授業出席10%	
<b>教科書</b> 『Spirale』 Hachette	

<b>選択 フランス語コミュニケーションB(総合)</b>	<b>秋 週2回 2単位</b>
担当者：H. ドリエップ	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容： Le Nouveau Sans Frontièresという教科書に沿って進行し、さまざまな口語練習とゲームによるコミュニケーション上のアプローチを使って、フランス語に慣れていくようにする。授業では文法から入るだけではなく、生きたフランス語を学ぶことで、フランス語がそれほど難しいものではないことを理解してもらう。自己紹介、挨拶、初級フランス語を学ぶことになる。その日の授業の状況によって、フランスの文化の概要や、フランス人の生活習慣についてレクチャーする。 2. カリキュラム上の位置づけ： フランス語 I・II を修得した学生、フランス語圏への留学希望者を受講の対象としている。 3. 学びの意義と目標： 学生が臆することなくいろいろなコミュニケーションの状況をフランス語で表現できるようにし、また、外国語を学ぶ楽しさとメリットを得ることにある。	
<b>評価方法</b> 小テスト60%、積極的な授業参加30%、授業出席10%	
<b>教科書</b> 『Le Nouveau Sans Frontieres』 Cle International	

選択 <b>ドイツ語コミュニケーション</b> 秋 週2回 2単位		
担当者：B. ミュラー		
<b>講義の目標及び概要</b>		
みなさんは「ドイツ」ということばから、どのようなことを連想しますか？冬のクリスマスマーケット、ベンツ、フォルクスワーゲンなどの自動車、バッハ、ベートーベンなどの音楽家、ロマンチック街道や古城街道、グリム童話などすでによく知っている「ことば」や「文化」が、たくさんあると思います。しかしながら、ドイツ語で「こんにちは」は、何と言うのでしょうか？ドイツの大学生は、どんな生活をしているのでしょうか？一度、ドイツへ旅行してみたい人もいますが、実際のドイツ語圏の国々の人々の生活について、どのくらい知っていますか？この授業では、文法や読解といった「ドイツ語」の勉強だけではなく、ドイツ語圏に暮らす人々の生活や文化についても学びます。「ことば」だけでなく、五感を使ってドイツ語圏に暮らす人々の考え方や文化について学びを深める。		
<b>評価方法</b>		
50%は小テスト（学期毎に2回）と期末試験の点数、残りの50%は授業への出席率と授業中の態度。		
<b>教科書</b>		
Szenen 1 integriert 『Shuko Sato』 (SANSHUSHA)		

選択 <b>流通・販売・経営論</b> 秋 週2回 4単位		
担当者：山本 俊明		
<b>講義の目標及び概要</b>		
1. 講義の目的 出版物は、現代において出版流通の大きな変化とメディアとしての危機に直面している。端的にいえば、第一に本というメディアがインターネット、ケータイなどに比べ情報流通のスピードに対応できず、コストの非効率性が際立ってきたことである。第二に本が売れなくなっている。第三に本が読まれなくなっている。本講義では、出版物が欧米、日本、アジアでどのように読者に届けられ、どのように読まれてきたのかを比較検証し、出版物の流通の現在とメディアとしての未来を考えることが目的である。		
2. カリキュラム上の位置づけ 本講義は将来の仕事を考えるキャリア・ガイダンスに位置づけられる。また出版物の制作を学ぶ「出版と編集」「出版編集論」に対して、本講義は出版物を読者に届ける過程を比較検討し、流通の課題を考えることであり、連続した講義である。		
3. 本講義の目標 フィールドワークとして書店の取材と読書アンケート調査を実施するが、フィールドワークの実際を学び調査結果をまとめることが目標である。		
<b>評価方法</b>		
レポート提出4回（それぞれ100点満点で点数化）、授業参加（取材、調査、発表の状況で加点する）、出席回数（80%以上の出席者が評価対象）		
<b>教科書</b>		
プリントを配布する		

選択 <b>レポート作成法A</b> 春集中 1単位		
担当者：D. バーガー		
<b>講義の目標及び概要</b>		
1 内容：入学前準備課題としてレポートを実際に作成しながら、大学生活に不可欠な学問的能力であるレポートの書き方を身につける。レポートを書くとは具体的にどのようなことを意味しているのか。それは「書くことを通じて考える」ことであり、また書籍、文献、資料などを活用することにより、自己の興味・関心を客観的に位置づけ表現することである。履修者は個別指導を受けながら、欧米文化に関するさまざまなテーマを自分で設定し、実際にレポートを完成させる。		
2 カリキュラム上の位置づけ：欧米文化学科の入学前準備課題を担当教員全員が添削指導し単位化する科目である。		
3 学びの意義と目標：大学生活を始めるにあたり必要なスキルであるレポートの書き方の基本を学ぶこと、そして欧米文化に対する漠然とした興味・関心を具体的な学びに結びつけることにより、意欲と目的意識を持って大学生活が始められるよう、準備することが本授業の目標である。		
<b>評価方法</b>		
レポートの内容を各担当者により精査し、点数化する。		
<b>教科書</b>		
プリントを配布する		

選択 <b>欧米文化学特論</b> 春 週1回 2単位		
担当者：有賀 貞		
<b>講義の目標及び概要</b>		
本講義はアメリカとヨーロッパ、そして日本の文化を対象とする。各担当者が当該分野別に講義を行うことにより、各文化の基礎をなす思想を理解し、より幅広く関連した知識の習得を目指す。		
<b>評価方法</b>		
出席率とレポートにより総合的に評価する。		
<b>教科書</b>		
大木英夫『ピューリタン—近代化の精神構造—』聖学院大学出版会、2006年		

選択 英語講読A	春	週1回	2単位
担当者：高橋 義文			
<b>講義の目標及び概要</b> 英語の文献の読解力を養うことを目的とする。英文を正確に読み、その内容を的確に把握することに努め、それぞれの分野の研究に役立つ英語力をつける。			
<b>評価方法</b> 出席率と授業での翻訳および提出された訳文により総合的に評価する。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選択 英語講読B	秋	週1回	2単位
担当者：有賀 貞			
<b>講義の目標及び概要</b> アメリカ人によって書かれた古典的著作、アメリカについて書かれた古典的著作のいくつかを紹介、その片鱗に触れること、英語の文章の意味を正確に読み取る練習とある程度長い文章の意味を適切に要約する練習を行なうことを目的とする。			
<b>評価方法</b> 出席率30%、レポート50%、最終テスト20%を目安として総合評価する。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

選択 ドイツ語講読A	春	週1回	2単位
担当者：原 一子			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 文法の復習を希望する学生が多いので、初めの4、5回は『ABCドイツ語文法読本』により文法をさらった後、ドイツ語の平易な文献を1、2冊講読する。受講者数が少ないので、例年、学力、卒業論文などの研究テーマ、興味・関心などに応じて、学生と相談の上、時間配分や教材を決めている。 2. カリキュラム上の位置づけ 4年次生を対象に開講される、大学・大学院共通の科目である。「ドイツ語Ⅲ」までを修得済みの学生が履修できる。 3. 学びの意義と目標 ドイツ語のより高度な文献を多読することによって語学力を磨くことが本授業の目標である。大学院生と一緒にドイツ語の文法を復習し、文献を多読することで、ドイツ語の総合的学力の向上を図る。大学院進学を志す者にも益すること大である。			
<b>評価方法</b> 出席率（30%）、授業中の課題の習得度（70%）により総合的に評価する。学期末試験を行うか否かは受講者数によって決める。			
<b>教科書</b> 大岩信太郎『ABCドイツ語文法読本』三修社			

選択 ドイツ語講読B	秋	週1回	2単位
担当者：深井 智朗			
<b>講義の目標及び概要</b> ドイツ語文法を終えていることを前提に、ドイツ語の文章を読みこなし、それぞれの研究のためにドイツ語を使うことができるための練習をする。 テキストは担当者が毎回用意する。最初はアンドレア・ラブの『ドイツ人一生』を扱った簡単なテキストを読み、その後は最新の小説、新聞、雑誌記事などから、テキストを選んで読むことにしたい。 ドイツ語に担当である必要はないがよく準備をして参加していただきたい。なおこのクラスは大学院と学部の4年生が共通に履修することができることになっている。			
<b>評価方法</b> 毎回の訳文の発表による。試験はない。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選択 フランス語講読A		春	週1回	2単位
担当者：和田 光司				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(内容) フランス語の平易な原書を講読する。            テキストは参加者で話し合っ決定する。            研究室、図書館にあるものであれば、コピーを配布する。            受講者は各自割り当て分を予め訳しておく。            (カリキュラム上の位置) フランス語をIVまで終えた学生のための上級科目である。            (学びの意義と目標) 本講義の目標はフランス語文法の基礎知識を有している学生に対し、実際のフランス語の原文に接することにより、フランス語読解の実践的能力を向上させることにある。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席率 (30%) 授業内講読の出来 (70%)				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 フランス語講読B		秋	週1回	2単位
担当者：鹿瀬 颯枝				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>本講義は大学・大学院共通科目である。</p> <p>先行きが不安な今日、政治的ペシミズムと心理的ペシミズムが入り混じるなか、若者たちの孤独や絶望感は、19世紀初頭に若者たちが罹っていた《世紀病Mal du siècle》を思い起こさせる。1834年、23歳のAlfred de MussetがLorenzaccioを通して描いた永遠の青年像とともに読み解いてゆきたい。《生きにくさdifficulté d'être》の源をともに考えてゆきたい。</p> <p>さらには、時間の許す限り、2008年度ノーベル文学賞受賞作家J. M. G. Le Clézioの長編大作からLe Chercheur d'Orを抜粋で、あるいは短編集から一編平易なテキストを取り上げたいが、開講時に受講生と相談して決める。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席率50%、テキスト訳文&レポート提出などにより総合的に評価する				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 ラテン語A		春	週1回	2単位
担当者：片柳 榮一				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>ヨーロッパの古典語一般がそうであるが、ラテン語も名詞、動詞などほとんどの単語がそれぞれ語尾変化し、自らが一つの文章中でどのような役割をしているかを、いちいち語尾変化で示す(近代語は語尾変化を減らして、それを文の中の位置で示そうとする)。その変化を覚えるのは、初心者にとっては、いささか苦痛である。その苦痛を少し忍んで、語尾変化を覚えてゆくと、或る日単語がひとりだけで動いて文章の形(主語と動詞)をなしてゆくように思える時がある。ラテン語がいわば微笑みかけてくる時だ。そうなるとラテン語の学びは楽しみとなる。そのような時に至ることを目標にした。</p> <p>ラテン語の特徴は、短い文章のうちに多くの内容を包みうるその簡潔性にあると思う。ヨーロッパ語にはめずらしく冠詞がないところにその簡潔性はよく現われている。冗長な文章を書きがちな我々現代人は、簡潔さの中に多くの内容を盛り込んだラテン語の凝集力から多くのことを学びうらと思う。</p>				
<b>評価方法</b>				
毎回宿題を課して平常点で評価する。				
<b>教科書</b>				
M. アモロス『ラテン語の学び方』南窓社				

選択 ラテン語B		秋	週1回	2単位
担当者：片柳 榮一				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>ラテン語の特徴は、短い文章のうちに多くの内容を包みうるその簡潔性にあると思う。ヨーロッパ語にはめずらしく冠詞がないところにその簡潔性はよく現われている。冗長な文章を書きがちな我々現代人は、簡潔さの中に多くの内容を盛り込んだラテン語の凝集力から多くのことを学びうらと思う。</p>				
<b>評価方法</b>				
毎回宿題を出すので、それにより平常点で評価する。				
<b>教科書</b>				
M. アモロス『ラテン語の学び方』南窓社				

選必修 専門演習(キリスト教文化) I 秋 週1回 1単位
担当者：菊地 順
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>(1)内容 この授業は、1950～60年代のM. L. キングを中心として展開された公民権運動を、アメリカにおけるキリスト教文化の一つの現れとして捉え、その歴史的展開と思想的背景を学びながら、キリスト教の精神やアメリカの歴史・文化、さらに人間の生き方そのものについて理解を深めることを目指している。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ この演習では、一般の講義とは異なり、キングや公民権運動に関する文献を読むことに主眼が置かれ、人物や事件について〈直接的〉に触れることが目指されている。</p> <p>(3)学びの意義と目標 キリスト教の愛や正義について学ぶと共に、20世紀後半のアメリカにおける人種問題やデモクラシーの理解を深め、また人間の生き方の考察を深めることができる。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席状況とレポートを総合して評価します。割合はそれぞれ50%です。なお、出席というのは、授業に積極的に参加することを意味しています。授業のために課された課題などをしてこない場合は、減点になります。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

選必修 専門演習(キリスト教文化) II 春 週1回 1単位
担当者：菊地 順
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>(1)内容 この授業は、1950～60年代のM. L. キングを中心として展開された公民権運動を、アメリカにおけるキリスト教文化の一つの現れとして捉え、その歴史的展開と思想的背景の学びをとおして、キリスト教の精神やアメリカの歴史・文化、さらに人間の生き方そのものについての学びを深めることを目指している。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ この演習では、一般の講義とは異なり、キングや公民権運動に関する文献を読むことに主眼が置かれ、人物や事件について〈直接的〉に触れることが目指されている。</p> <p>(3)学びの意義と目標 演習 I を踏まえ、マーティン・ルーサー・キングを中心として展開された公民権運動の具体的な取り組みと、そこに見られる思想を掘り下げる。またそれがアメリカや世界に与えた影響と、公民権法成立後の混乱について概観する。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>出席状況とレポートを総合して評価します。割合はそれぞれ50%です。なお、出席というのは、授業に積極的に参加することを意味しています。授業のために課された課題などをしてこない場合は、減点になります。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

選必修 専門演習(現代ヨーロッパ文化) I 秋 週1回 1単位
担当者：佐藤 啓介
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1) 内容 現代ヨーロッパの諸問題を学びつつ、その社会（政治、企業の理念など）や文化（製品デザイン、景観など）を形成している考え方や価値観について、日本語・英語のテキスト講読を通して理解を深める演習です。各回担当を決め、要約、翻訳や発表をおこないます。取り上げるテキストは参加者の関心に応じて決めます。専門演習 I では主に、20世紀ヨーロッパの製品と都市のデザイン、およびその背後にある思想を扱います。</p> <p>2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目の選択必修科目であり、2年間のゼミの基礎段階にあたります。</p> <p>3) 学びの意義と目標 ゆっくりでよいので、日本語・英語の文章を自分の言葉で平易に置きかえながら読めるようになることが目標です。また、そこで書かれたことに基づいて、自分なりの考えを他人に分かるように発言し、相手の発言を受けて議論できるようになることも目標です。ゼミ2年間かけて、現代のヨーロッパの社会や文化の一端を理解・分析できるグローバルな職業人になることを目指し、この科目はその土台作りに相当します。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>発表点（40%）、討論への参加度（20%）、学期末レポート（20%）、出席点（20%）</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する</p>

選必修 専門演習(現代ヨーロッパ文化) II 春 週1回 1単位
担当者：佐藤 啓介
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1) 内容 専門演習 I に続き、現代ヨーロッパの社会や文化を形成している考え方や価値観について、英語のテキスト講読を通して理解を深める演習です。演習 I では美的価値が主題だったのに対し、演習 II では倫理的価値を主題とします。各回ごとに担当を決め、翻訳や発表、参加者同士の議論をおこないます。取り上げるテキストは参加者の関心に応じて決めます。また、後半では、特定のテーマを選んで研究を行ない、その成果を発表してもらいます。</p> <p>2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の専門科目としての選択必修科目であり、ゼミの基礎段階にあたります。</p> <p>3) 学びの意義と目標 英語の文章を自分の言葉で平易に置きかえながら読む力を磨き、それに基づいて、自分なりの考えを他人に分かるように発言し、相手の発言を受けて議論できるようになることも目標です。ゼミ2年間かけて、現代のヨーロッパの社会や文化の一端を理解・分析できるグローバルな職業人になることを目指し、この科目はその土台作りに相当します。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>発表点（60%）、討論への参加度（20%）、出席点（20%）</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

選必 専門演習(ヨーロッパ史)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：和田 光司				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(内容) この授業では、「砂糖の世界史」をテキストにし、各学生がその中の中から関心がある部分を選択して発表する。このテキストは現在史学界で注目されている世界システム論の入門書としては最適であり、それにより現代の歴史学の発想方法に触れることができるであろう。また、細かい評価表により学生相互に批評を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。</p> <p>(カリキュラム上の位置) 小グループ学習の入門である。</p> <p>(目標) プレゼンテーション能力開発過程において基礎力を養成する。またヨーロッパ史の世界に親しんでもらう。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席・授業参加への積極性 (50%)、発表内容 (50%)				
<b>教科書</b>				
川北 稔『砂糖の世界史』岩波書店 (ジュニア新書)				

選必 専門演習(ヨーロッパ史)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：和田 光司				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(内容) この授業では、専門演習Ⅰの延長線上にプレゼンテーション能力の一層の向上を図る。第二次世界大戦についてすでに通達した小テーマから各学生関心がある部分を選択して発表する。同じテーマを様々な角度より眺めることにより、歴史的視点の多様性、重層性を学んでいく。また、専門演習Ⅰと同様に、細かい評価表により学生相互に批評を行うことにより、プレゼンテーション能力を養う。</p> <p>(カリキュラム上の位置) 専門演習Ⅰの一層の発展</p> <p>(学びの意義と目標) プレゼンテーション能力の向上。複史的歴史理解力の養成</p>				
<b>評価方法</b>				
出席・授業参加への積極性 (50%)、発表内容 (50%)				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習(ヨーロッパ思想)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：原 一子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容</p> <p>Paul McLean, Great Western Thinkers、Macmillan Languagehouse を講読する。「専門演習Ⅰ」では、ソクラテス、プラトンなど、前半部分の10人の思想家について翻訳しつつ、その生涯や思想、時代背景を学ぶ。併せて、レジュメの作り方、発表や質疑応答の仕方も学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>「専門演習」は欧米文化学科の学生全員の選択必修科目であり、外国語で資料を講読することによって基礎力を培うものである。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>ヨーロッパ文化を学ぶ者にとっては、その根底にある思想を理解することはぜひとも必要なことである。その上で、先哲から生き方や考え方を学び価値観を確立することができれば、それは一生の財産となることであろう。思想や哲学の術語を易しい英語で表現することが学べるので、留学に際しても益すること大である。</p>				
<b>評価方法</b>				
発表内容 (30%)・レポート (20%)・討論への参加度 (20%)・出席率 (30%) などから総合的に判断する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 専門演習(ヨーロッパ思想)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：原 一子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容</p> <p>Paul McLean, Great Western Thinkers、Macmillan Languagehouse を講読する。「専門演習Ⅱ」では、ヘーゲル、ニーチェなど、テキストの後半部分の12人の思想家について翻訳しつつ、その生涯や思想、時代背景などを学ぶ。併せて、レジュメの作り方、発表や質疑応答の仕方も学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>「専門演習」は欧米文化学科の学生全員の選択必修科目であり、外国語で資料を講読することによって基礎力を培うものである。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>ヨーロッパ文化を学ぶ者にとっては、その根底にある思想を理解することはぜひとも必要なことである。その上で、先哲から考え方や生き方を学び価値観を確立することができれば、それは一生の財産となることであろう。思想や哲学の術語を英語で表現することが学べるので、留学の際にも益すること大である。</p>				
<b>評価方法</b>				
発表内容 (30%)・レポート (20%)・討論への参加度 (20%)・出席率 (30%) などから総合的に判断する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 専門演習(フランス文学)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：鹿瀬 颯枝				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>この授業は、講義科目ではなく専門演習ですから、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきたいと思ひます。</p> <p>最初は、ゼミ生全員にフランス語基礎力とフランス文学の基礎知識を確かなものにするため、やさしいフランス語教材を使用しながら、フランス文学への関心を高めてもらひます。第二段階で個々の関心分野、研究したい分野を報告してもらひ、共通文学テキストを決め、精読に入っていきます。この段階から各人の研究発表も順次行ひます。第三段階、仕上げの段階では、次の秋学期に同じく集中で始まる「卒業研究」に向けて、研究テーマについて全員で議論を重ね、参考文献などについてもアドヴァイスをしながら、まとめていく予定です。</p> <p>テキストは、Jacques Prévert “Paroles” で導入、続いて永遠のベストセラー Antoine de Saint-Exupéry “Petit Prince” を精読していきたいと考えています。</p>				
<b>評価方法</b>				
授業への積極的な参加度50%、研究発表+研究レポート50%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 専門演習(フランス文学)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：鹿瀬 颯枝				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>この授業は、講義科目ではなく専門演習ですから、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきたいと思ひます。</p> <p>最初は、ゼミ生全員にフランス語基礎力とフランス文学の基礎知識を確かなものにするため、やさしいフランス語教材を使用しながら、フランス文学への関心を高めてもらひます。第二段階で個々の関心分野、研究したい分野を報告してもらひ、共通文学テキストを決め、精読に入っていきます。この段階から各人の研究発表も順次行ひます。第三段階、仕上げの段階では、次の秋学期に同じく集中で始まる「卒業研究」に向けて、研究テーマについて全員で議論を重ね、参考文献などについてもアドヴァイスをしながら、まとめていく予定です。</p> <p>テキストは、Jacques Prévert “Paroles” で導入、続いて永遠のベストセラー Antoine de Saint-Exupéry “Petit Prince” を精読していきたいと考えています。</p>				
<b>評価方法</b>				
授業への積極的な参加度50%、研究発表+研究レポート50%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 専門演習(英米文学)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：氏家 理恵				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(内容)</p> <p>C. S. ルイスのファンタジー『ナルニア国年代記』の第1作『ライオンと魔女』を読む。前半は訳読、後半は発表とディスカッション形式ですすめる。事前に決めた担当者に分担部分についてのまとめ・解説・情報・コメントなどを発表してもらひ、その後は発表を受けてのディスカッションとなる。この作品の背景にあるイギリスの歴史・社会・文化について知も考察し、さらには、映画作品との比較を通して、文学と映像という芸術分野・メディアの違いも確認する予定である。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>この科目はこれから2年間にわたる(ゼミ)の最初のものである。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>作品の分析方法を学ぶと同時に、作品を題材とした発表の仕方・レジュメの書き方・レポートの書き方などを身につけることも目的とする。文学作品を原書で読む楽しさを知るとともに、物語の「読み方」を学んでほしい。また、ディスカッションを通して自分の意見を積極的に発言することに慣れてほしい。</p>				
<b>評価方法</b>				
<p>1. 平常点 30%</p> <p>2. 課題 20%</p> <p>3. 発表(レジュメ作成含む) 30%</p> <p>4. 期末レポート20%</p> <p>なお、レポートはオンライン提出とする。</p>				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習(英米文学)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：氏家 理恵				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(内容)</p> <p>前半は「専門演習Ⅰ」で作成したレポートの合評会、後半は「専門演習Ⅰ」に引き続き『ライオンと魔女』を読む。後半は事前に決めた担当者による発表と、発表を受けてのディスカッションですすめる。担当者は内容のまとめ・調べてきたこと・分析・コメントをレジュメを作成した上で発表する。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>この科目は2年間続くゼミの一環である。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>「専門演習Ⅰ」では、原文で作品を鑑賞しながらレジュメの作り方や発表の仕方を学んだが、Ⅱではさらに調べ物の仕方、引用の仕方、論理的な文章の書き方を学ぶ。特にレポートについては、専門演習Ⅰで作成したレポートを合評しあうことで、レポートを書くコツ・読むコツを知り、アウトラインの組み立てや説得力のある文章・表現に慣れるようにする。また、文学作品を通してイギリスの歴史・社会・文化についての知識を深めることも目標とする。</p>				
<b>評価方法</b>				
<p>1. 平常点 30%</p> <p>2. 課題 20%</p> <p>3. 発表(レジュメ作成含む) 30%</p> <p>4. 期末レポート20%</p>				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				



選必 専門演習 (Pop Culture) I		秋	週1回	1単位
担当者: K. O. アンダスン				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1、内容 このゼミでは、外国の映画を通してその国の文化を学ぶ。13本の短編映画（日本語字幕付き）を鑑賞する。フランス映画3本、イタリア映画1本、イギリス映画6本、カナダ映画2本、日本映画1本。エ以外について反す時に用いられる語彙を学びいくつかの短い映画評論を読む。映画の登場人物、映画撮影法、ストーリーが繰り広げられている場所や映画のテーマなどについて検証する。映画のストーリーと自分の経験などを重ね合わせ話し合う。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ 現代の外国文化を学ぶ。2011年度春学期には、Casablanca, The Third Man and Roman Holiday を教科書を用いて学ぶ。</p> <p>3、学びの意義と目標 外国映画を通して、他国の文化を学ぶ。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席10%、小テスト30%、宿題30%、期末試験30%				
<b>教科書</b>				
Hiroimi Akimoto/Mayumi Hamada 『Casablanca: Cool and Unforgettable English』 Macmillan Language House Mayumi Hamada, Hiroimi Akimoto 『Roman Holiday』 Macmillan Language House				

選必 専門演習 (Pop Culture) II		春	週1回	1単位
担当者: K. O. アンダスン				
<b>講義の目標及び概要</b>				
このゼミは2009年度秋学期、専門演習 (Pop Culture) I の継続授業である。				
<b>評価方法</b>				
出席10%、小テスト30%、宿題30%、期末試験30%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 専門演習 (アメリカ文化) I		秋	週1回	1単位
担当者: 柴田 史子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>◆内容 公民権運動から多文化主義への流れの中で「アメリカ史」が見直され、マイノリティ集団のアメリカ史にも光が当てられるようになった。そうした新しいアメリカ史を描いた論文を読むことを通して、重層的なアメリカ社会に対する理解を深めることを目指す。</p> <p>全体像をつかむために邦文の資料を補助的に使いながら、1つのテーマに関して複数の資料を読み比べることで、批判的な文獻の読み方、自分なりの考えのまとめ方の訓練を行う。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ 3年次秋学期の卒業研究まで続く必修の演習科目の最初の科目として、2年次秋学期に開講される科目である。この演習では、特に資料の読み方、批判的な捉え方を習得することをめざし、表現力の訓練を行なう専門演習 II、卒業研究の準備をする。</p> <p>◆学びの意義と目標 アメリカ史の一時代に関する「通説」が「新しい歴史」によってどのように覆されるかを学ぶことで、ものごとを批判的に受け止める知的な態度を習得することを目指す。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席 (30%)、ゼミ発表 (30%)、レポート (30%) の提出、討論への貢献など (10%) で評価する。期末テストは実施しない。発表当日に欠席した場合には、単位を認定しないこともある。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 専門演習 (アメリカ文化) II		春	週1回	1単位
担当者: 柴田 史子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>◆内容 公民権運動から多文化主義への流れの中で「アメリカ史」が見直され、マイノリティ集団のアメリカ史にも光が当てられるようになった。そうした新しいアメリカ史を描いた論文を読むことを通して、重層的なアメリカ社会に対する理解を深めることを目指す。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ 3年次秋学期の卒業研究まで続く必修の演習科目の第二の科目として、3年次春学期に開講される科目である。1年半を通して、アメリカ関係の講義科目の内容をさらに深く学ぶと同時に、プレゼンテーションや討論の力をつけることを目指している。</p> <p>◆学びの意義と目標 現代アメリカにおける歴史観をめぐる論争への理解を深め、新しいアメリカ史の構築を考える。</p>				
<b>評価方法</b>				
評価方法 出席 (40%)、ゼミ発表 (30%)、レポート (20%) の提出、討論への貢献など (10%) で評価する。期末テストは実施しない。発表当日に欠席した場合には、単位を認定しないこともある。				
<b>教科書</b>				
1 Eric Foner 『The New American History』 Temple University Press				

選必 専門演習(比較文化)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：稲田 敦子				
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 【授業の概要】 異文化との出会いは、新しい認識の出発となる。 私たちがあたりまえであり、特に何の疑問を抱かなかつたことが、他の文化圏の人々にとっては非常な驚きであることがある。異文化に触れるということは、自分がそれまで、当然であると思っていたことや価値観などを捉え直して行く機会があたえられるということである。この演習では基本的な文献(J. Saywell, "Beneath the Surface")を中心に、主題の内容を検討し、テーマ別の発表も行う。 2) 【カリキュラム上の位置づけ】 欧米文化学学科の演習科目の選択必修科目である。 3) 【学びの意義と目標】 本演習の目標は、比較文化を学ぶ上での基礎的な資料を原文を通して読み解き、理解することを通して、専門性への足がかりとすることである。				
<b>評価方法</b> 1) 資料講読 (25%) 2) テーマ別発表 (25%) 3) ゼミレポート (25%) 4) 参加度 (25%) これらの総合計100点で評価する。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選必 専門演習(比較文化)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：稲田 敦子				
<b>講義の目標及び概要</b> 【授業の概要】 専門演習Ⅰ(比較文化)をふまえて、それぞれに異なった文化を背景とする個別の具体的な事例をとりあげるにより、目に見える表層的なものだけではなく、その奥にある目に見えない深層の部分にも踏み込んで考えながら、視野を広げ、柔軟に考えていく一助になることを期待している。 【カリキュラム上の位置づけ】 欧米文化学学科の演習科目の選択必修科目である。 【学びの意義と目標】 本演習の目標は、比較文化を学ぶ上での基礎的な資料を原文を通して読み解き、理解することを通して、専門性への足がかりとすることである。				
<b>評価方法</b> (1)資料講読 (25%) (2)テーマ別発表 (25%) (3)ゼミレポート (25%) (4)参加度 (25%) により評価します。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選必 専門演習(言語と社会)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：D. バーガー				
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容：この演習では言語と社会に関するいくつかの研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語と社会」と並行するが、専門演習Ⅱ、卒業研究Ⅰ、Ⅱではこの調べを続けるので、各課題をより深く追求する事ができる。専門演習Ⅰでは、言語に関する作り話や思い違いに焦点が当てられる。「言語」と「社会」を人間の普遍的な現象として受け止め、また、特定の「言語」や「社会」を取り上げ、比較する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。受講生は演習の課題を1つ選び、研究の結果を口頭とレポート形式の両方で発表することが求められている。 2. カリキュラム上の位置づけ：専門演習Ⅰは最初の演習で、「言語と社会」という主題は卒業研究Ⅱまで合計4学期にわたって続く。 3. 学びの目標：この演習の目的は言語と社会の相互関係をより理解することである。課題に関する専門的な知識に加えて、この演習は受講生が日本語と英語を比較するのに十分な機会を与えている。演習の言語(日本語または英語)は受講生が決める。従って、英語に強い関心を持っている学生にとってこの演習は興味深いであろう。				
<b>評価方法</b> 20% 授業への出席 30% 授業への参加態度 25% レポート 25% 発表				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選必 専門演習(言語と社会)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：D. バーガー				
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容：この演習では言語と社会に関する具体的な研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語と社会」と並行するが、専門演習Ⅰと同様に、より深く追求することができる。専門演習Ⅱでは、方言、なまり、アクセント、言語使用域・様式という言語変種について研究する。「言語」と「社会」を人間の普遍的な現象として受け止め、また、特定の「言語」や「社会」を取り上げ、比較する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。受講生は演習に関連した課題を1つ選び、研究の結果を口頭とレポート形式の両方で発表することが求められている。 2. カリキュラム上の位置づけ：専門演習Ⅱは専門演習Ⅰの続きで、「言語と社会」という主題は卒業研究Ⅱまで合計4学期にわたって続く。 3. 学びの目標：この演習の目的は言語と社会の相互関係をより理解することである。課題に関する専門的な知識に加えて、この演習は受講生が日本語と英語を比較するのに十分な機会を与えている。				
<b>評価方法</b> 20% 授業への出席 30% 授業への参加態度 25% レポート 25% 発表				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選必 専門演習(英語学)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：加曾利 実	
<b>講義の目標及び概要</b>	
◆内容◆ 言語と人間との関係、及びその本質に係わる諸問題について、英語学を中心に考えていくことが、本演習の目的です。本講義の特色は、授業の最初に履修者の英語力を確認し、基礎力が不十分な場合には、英語基礎力確充特別授業を実施します。十分な場合には、英語学のテキストを輪読します。因みに、過去10年間、特別基礎力確充授業を実施してきました。	
◆カリキュラム上の位置付け◆ 英語を基礎から身につけたいと思っている学生の履修を望みません。	
◆学びの意義と目標◆ 本ゼミでは、言語習得理論・インド・ヨーロッパ語族・チョムスキーの生成変形文法などについての、やさしい英文で書かれた入門書を輪読しながら、様々な問題について議論を深化させていきたいと思っています。	
<b>評価方法</b>	
1. 予習・復習の実行度 (10%) 2. レポートの成績 (20%) 3. 定期試験の成績 (70%) 出席については、学生要覧を参照のこと。	
<b>教科書</b>	
Sheila Chevallier 『First Steps to Linguistics』 三修社	

選必 専門演習(英語学)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：加曾利 実	
<b>講義の目標及び概要</b>	
◆内容◆ 専門演習(英語学)Ⅰを踏まえて、言語と人間との関係、及びその本質に係わる諸問題について考えていきます。テキストを輪読しながら、英語の読解力を養成します。専門演習(英語学)Ⅰで、英語の基礎力を身につけた学生は、専門演習(英語学)Ⅱで英文専門書が読めるようになっていきます。	
◆カリキュラム上の位置付け◆ 主として英語学に関心のある学生を望みます。例年、専門演習(英語学)Ⅱでは、「言語習得理論」の解明がテーマになっています。	
◆学びの意義と目標◆ やさしい英文で書かれた入門書を輪読しながら、様々な問題について、議論を深化させていきたいと思っています。更に、希望者がいれば、英語学との関連から、比較文化論などについても扱います。	
<b>評価方法</b>	
1. 予習・復習の実行度 (10%) 2. レポートの成績 (20%) 3. 定期試験の成績 (70%) 出席については、学生要覧を参照のこと	
<b>教科書</b>	
Sheila Chevallier 『First Steps to Linguistics』 三修社	

選必 専門演習(外国語教授法)Ⅰ	秋 週1回 1単位
担当者：長崎 睦子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 外国語教育、第二言語習得研究の分野は1960年代後半から急速に発展してきたものであるが、現在その研究領域は多岐に渡る。第二言語を取り扱う性格上、複雑ではあるが、非常にダイナミックで勢いのある研究分野である。まずは、演習を通して基本的な文献を読み、外国語を身につけるとはどういうことなのかを考察していく。さらに、第二言語習得理論やこれまでの研究結果などから、各自が効果的な外国語習法、指導方法を考えていく。	
2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。	
3. 学びの意義と目標 外国語教育、第二言語習得研究に関する文献を通して基礎的な知識を得る。さらに活発なディスカッションを通して、この分野の様々な研究領域の中で、自分の興味のある研究課題を見つけていく。プレゼンテーションやレジメの書き方も学ぶ。	
<b>評価方法</b>	
出席点 (30%)、平常点 (授業への貢献度など) (20%)、プレゼンテーション (20%)、プレゼンテーションのレジメ (10%)、レポート (20%) *評価の内容は変更する場合がある。その場合は授業で説明するので確認すること。	
<b>教科書</b>	
白井恭弘『外国語学習に成功する人、しない人—第二言語習得論への招待』岩波書店 白井恭弘『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』岩波新書	

選必 専門演習(外国語教授法)Ⅱ	春 週1回 1単位
担当者：長崎 睦子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 専門演習Ⅰに引き続き基本的な文献を読み、外国語教育、第二言語習得研究に関する知識・知見をさらに広げ深めていく。またこの分野の様々なテーマに関するディスカッションやプレゼンテーション、ブック・レビューを通して、主体的かつ積極的に学問に取り組む。	
2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。	
3. 学びの意義と目標 外国語教育、第二言語習得研究に関する文献を通して基礎的な知識を得る。さらに活発なディスカッションを通して、この分野の様々な研究領域の中で、自分の興味のある研究課題を見つけ、卒業研究へとつなげる。	
<b>評価方法</b>	
出席20%、平常点 (授業への取り組み) 20%、プレゼンテーション30%、Book Review 30% (=発表10%+レポート20%) *評価内容は変更する場合がある。その場合は、授業にて説明するので確認すること。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

欧米文化学科

<b>選必 専門演習(児童英語教育)Ⅰ</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：東 仁美
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 小学校での外国語活動必修化が決まり、早期英語教育に対する関心が高まっている。 専門演習Ⅰでは、入門書を読み合わせしながら、児童英語教育の理論と実践を学んでいく。 英語教育への興味を高めるために、小学校英語に限らず、幼稚園、民間の英語教室、中高の英語科の授業の見学などのフィールドワークの課題を課す。 また、小グループで英語学習のテーマを決め、自らを学習者のサンプルとしてプロジェクトを遂行することを通して、効果的な英語学習法を考察していく。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。 3. 学びの意義と目標 児童英語教育の基礎的な資料を読み、自分の興味分野への知的好奇心を高めていく。また、プレゼンテーションやグループディスカッションの力もつけていく。
<b>評価方法</b> 授業への出席、参加 20% プレゼンテーション 30% レポート 30% 学期末課題 20%
<b>教科書</b> Mary Slattery & Jane Willis 著 外山節子 監訳『子ども英語指導ハンドブック』旺文社

<b>選必 専門演習(児童英語教育)Ⅱ</b> <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：東 仁美
<b>講義の目標及び概要</b> 第二言語習得研究に基づきながら、効果的な英語学習及び英語指導を考えていく。 授業は担当者による発表とタスク活動の紹介の形で進める。発表者はレジメを準備し、事前に決めた分担部分についてのまとめ、解説を行なう。 専門演習Ⅰに引き続き、小学校現場、幼稚園、民間の英語教室及び中高の英語科の授業を見学するフィールドワークも課題として行い、見学した授業の内容を授業の中でフィードバックしていく。 学期中に各自興味のある文献を一冊読み、ブックレビューをまとめる。ブックレビュー集を作成することにより、英語教育の様々な分野の情報交換をし、卒業研究のテーマ決定の題材としていく。
<b>評価方法</b> 授業への出席、参加 20% プレゼンテーション 30% レポート 30% 学期末課題 20%
<b>教科書</b> 村野井 仁『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店

<b>選必 卒業研究(キリスト教文化)Ⅰ</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：菊地 順
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容 専門演習で学んだキングを中心に展開された公民権運動からさらに目を広く転じ、それに関連する人物や思想についての学びを深めることにより、キリスト教や他の宗教について、また人間の生き方についての理解を深めることを目的としています。 (2)カリキュラム上の位置づけ 卒業研究Ⅱを修了するときを書く「卒業研究レポート」の準備期間としての位置を持ちます。また可能ならば(自由ですが)、そのレポートを踏まえて卒業論文を書くことが期待されています。授業も読むことから受講者の発表と話し合いに重心を移します。 (3)学びの意義と目標 卒業研究レポートを書くために、各自、自分のテーマを決めなければなりません。一方ではそれを意識しながら、同時に公民権運動後のキングの活動と思想的展開について学びます。そして、最後に、各自の決めたテーマを発表してもらいます。
<b>評価方法</b> 出席状況とレポートを総合して評価します。割合はそれぞれ50%です。なお、出席というのは、授業に積極的に参加することを意味しています。授業のために課された課題などをしてこない場合は、減点になります。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業研究(キリスト教文化)Ⅱ</b> <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：菊地 順
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容 この授業は、受講者が卒業研究Ⅰで決めた各自のテーマにそって、そのレポートを作成を目指します。受講者は2回の中間発表と最後の完成されたものの発表とが期待されています。 (2)カリキュラム上の位置づけ 可能ならば(自由ですが)、卒業論文を書くことが期待されていますが、この授業は、それへと至る「卒業レポート」の完成が目指されています。 (3)学びの意義と目標 受講者の発表が主となりますので、扱うテーマは多様になる可能性があります。同時にいくつかの共通したテーマを決め、その2本立てで授業を進めていきます。右に記した「授業計画」はあくまでも参考です。
<b>評価方法</b> 出席状況とレポートを総合して評価します。割合はそれぞれ50%です。なお、出席というのは、授業に積極的に参加することを意味しています。授業のために課された課題などをしてこない場合は、減点になります。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選必 卒業研究(現代ヨーロッパ事情)Ⅰ			
秋	週1回	1単位	
担当者：佐藤 啓介			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1) 内容 専門演習で身につけた知識と技術を用いて、実際に自分で関心のあるテーマを選び、卒業研究Ⅱで仕上げを目指し、また卒業論文につながるような研究を進めていきます。同時に、卒業研究Ⅰでは、研究を具体的に進めるのに必要な情報検索技術、研究を他人に発表するのに必要なパワーポイントなどの活用法についても、指導をおこないます。			
2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の専門科目としての選択必修科目であり、2年間にわたるゼミの後半段階にあたります。			
3) 学びの意義と目標 これまで体験することのなかった「まとまった分量の研究」を遂行できる力と技術を習得し、それによって、社会人として求められる調査力・考察力・発表力と、国際人として求められるグローバルな視点を養うことを目指します。			
<b>評価方法</b>			
発表点 (60%)、討論への参加度 (40%)			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選必 卒業研究(現代ヨーロッパ事情)Ⅱ			
春	週1回	1単位	
担当者：佐藤 啓介			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1) 内容 専門演習で身につけた知識と技術を用いて、実際に自分で関心のあるテーマを選び、卒業研究Ⅰで準備してきた研究の完成を目指します。卒業研究Ⅱでは、大きなテーマを一つの文章にまとめる文章技法、人に伝わる表現技法など、文章指導を重視します。			
2) カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科の専門科目としての選択必修科目であり、2年間にわたるゼミの最後の段階にあたります。			
3) 学びの意義と目標 これまで体験することのなかった「まとまった分量の研究」を遂行できる力と技術を習得し、それによって、社会人として求められる調査力・考察力・発表力・文章力と、国際人として求められるグローバルな視点を養うことを目指します。			
<b>評価方法</b>			
発表点 (30%)、研究レポート (50%)、討論への参加度 (20%)			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選必 卒業研究(ヨーロッパ史)Ⅰ			
秋	週1回	1単位	
担当者：和田 光司			
<b>講義の目標及び概要</b>			
(内容) 本講義では、専門演習で養成したプレゼンテーション能力を基礎として、これの実践的発展を志す。従来と同様細かい評価表により学生相互に批評を行う。また実社会での基礎スキルと見なされているパワーポイントの習得に努める。テーマとしては、各学生が欧米文化の中から自らの関心に合うものを自由に選択し、各自の知的関心を高める。 (カリキュラム上の位置) 自由研究の入門 (学びの意義と目標) パワーポイント技術の習得、歴史研究方法の理解			
<b>評価方法</b>			
出席・授業参加への積極性 (50%)、発表内容 (50%)			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選必 卒業研究(ヨーロッパ史)Ⅱ			
春	週1回	1単位	
担当者：和田 光司			
<b>講義の目標及び概要</b>			
(内容) 本講義では、卒業研究Ⅰに続いてプレゼンテーション能力の一層の実践的発展を志す。従来と同様細かい評価表により学生相互に批評を行う。また実社会での基礎スキルと見なされているパワーポイントの習得に努める。テーマとしては、各学生が欧米文化の中から自らの関心に合うものを自由に選択し、各自の知的関心を高める。状況が許せば記念論集を製作する。 (カリキュラム上の位置) 卒業研究Ⅰの発展 (学びの意義と目標) パワーポイント技術の向上、自由研究による知的関心の育成			
<b>評価方法</b>			
出席、授業参加への積極性、発表内容を総合評価する。			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選必 卒業研究(白一ロツバ思想) I <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：原 一子
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 「専門演習」で学んだ思想家24人の生涯や思想を手掛かりに、各自が自分のテーマを見つけ、それを一層掘り下げ、論文に纏められるように訓練する。まずは、1時間に2人ずつの学生が発表を担当し、ゼミ仲間や教員から受けた質問やコメントをもとに、次回の発表に向けてより完成度の高い原稿を準備する。これを繰り返しながら卒業論文を完成させる。併せて、文献検索の仕方、引用・脚注のつけ方などの訓練もする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 「卒業研究」は「専門演習」に引き続き、欧米文化学科の学生全員の選択必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 自分で見つけたテーマについて、思索し、読書し、討論して、卒業論文に纏め上げることは、学力の向上のためには勿論、自己の精神を鍛える上でも極めて爽り多い作業である。この精神的充実は一生涯の宝となるはずである。卒業論文の完成を目標とする。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>発表内容 (30%)・レポート (20%)・討論への参加度 (20%)・出席率 (30%) などから総合的に評価する。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>授業の中で指示する</p>

選必 卒業研究(フランス文学) I <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：鹿瀬 颯枝
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>この授業は、講義科目ではなく専門演習後の総仕上げとなる卒業研究ですから、引き続き、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきたいと思ひます。</p> <p>既に「専門演習(フランス文学)」の終了前に各人の卒業研究テーマが提出されているので、変更のない限り、それに沿って指導していきます。それぞれが関心を持ったテーマについて十分に研究が成されるよう、参考文献などの紹介、レポート添削、中間発表などを充実させていきます。全員が満足のいくような研究レポートを仕上げられるように願っています。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>授業への積極的な参加度50%、研究発表+研究レポート50%</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

選必 卒業研究(フランス文学) II <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：鹿瀬 颯枝
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>この授業は、講義科目ではなく専門演習後の総仕上げとなる卒業研究ですから、引き続き、各人の適性と実力を考慮しながら、進めていきたいと思ひます。</p> <p>既に「専門演習(フランス文学)」の終了前に各人の卒業研究テーマが提出されているので、変更のない限り、それに沿って指導していきます。それぞれが関心を持ったテーマについて十分に研究が成されるよう、参考文献などの紹介、レポート添削、中間発表などを充実させていきます。全員が満足のいくような研究レポートを仕上げられるように願っています。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>授業への積極的参加度50%、研究発表+研究レポート50%</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

選必 卒業研究(英米文学) I <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：氏家 理恵
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>〈内容〉 「専門演習」に引き続き、前半はレポート合評会、後半は発表とディスカッションを行う。発表する際には事前にレジュメを作成し、担当部分のまとめ・調べてきたこと・考察を述べてもらう。なお、各自の卒業研究テーマについても発表する機会を持ち、ディスカッションを通してそれぞれの研究テーマ決定への足掛りとする。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 この科目は2年間続くゼミの一環である。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 「専門演習」I・IIでは、作品を読みながら作品分析に慣れると共にレジュメの作り方や発表の仕方を身につけた。「卒業研究I」では、引き続きレジュメやレポートの書き方、プレゼンテーションの仕方の指導を行う。また、授業最終時までには各自の卒業研究テーマを決定し、簡単な研究計画とレポート・卒業論文への準備をする期間とする。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>1. 平常点 30% 2. 課題 20% 3. 発表(レジュメ作成含む) 30% 4. 期末レポート 20%</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

選必 卒業研究(英米文学) II		春	週1回	1単位
担当者：氏家 理恵				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉            (ゼミ)での学びの集大成として、卒業研究レポートとその論集を作成する。まず、「卒業研究 I」で作成した各自の卒業研究テーマに関するレポートを題材にして、アウトライン作成・引用の仕方・注の書き方・画像の使い方など、全員に共通する注意事項をお互いに添削しながら確認する。また、教本ずつ合評をしていき、それぞれの課題を明らかにする。最後に、書式や表現なども含め、説得力のある論理的なレポート作成のためのポイントの最終確認をしながら、卒業研究レポートを完成させる。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉            2年間にわたる(ゼミ)の最終段階である。</p> <p>〈学びの意義と目標〉            これまで学んできたさまざまな知識とテクニックを駆使し、各自の研究テーマを深化させ、卒業研究レポートの完成を目指す。</p>				
<b>評価方法</b>				
1. 平常点 40%				
2. 課題 20%				
3. 卒業研究レポート 40%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する 小野田博一『論理的な作文・小論文を書く方法』日本実業出版社				

選必 卒業研究(Pop Culture) I		秋	週1回	1単位
担当者：K. O. アンダスン				
<b>講義の目標及び概要</b>				
この卒業研究は2010年度春学期、専門演習(Pop Culture) IIの継続である。				
<b>評価方法</b>				
出席10%、小テスト30%、宿題30%、期末試験30%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 卒業研究(Pop Culture) II		春	週1回	1単位
担当者：K. O. アンダスン				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容            現代英国人の暮らしや文化を様々な角度から考察し検討する。語彙力を養い、議論・討論を行いながら、受講者の興味がそれぞれの研究の助けとなるよう授業を進める。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ            現代英国大衆文化の学びをもとに、受講者自身の探究心を深める。</p> <p>3. 学びの意義と目標            受講者それぞれが興味を持った分野について研究をする。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席 10%、小テスト 30%、宿題 30%、期末試験 30%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 卒業研究(アメリカ文化)		秋	週2回	2単位
担当者：柴田 史子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>◆内容            本演習は、専門演習で習得した原書講読と発表の力をさらに磨くとともに、学生一人一人が、自分のテーマを追求してレポートを書く作業をすることによって、卒論執筆への橋渡しをすることを目的とする。            具体的には、共通テキストの講読を続けながら、各々のレポートの中間報告と質疑応答を行う。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ            3年秋学期の必修科目であり、専門演習(アメリカ文化)の履修者のみに受講が認められている科目である。</p> <p>◆学びの意義と目標            アカデミックな論文の書き方の習得を目指す。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席(30%)、ゼミ発表(10%)、レジュメ(発表の要旨)の提出(5%)、討論への貢献(5%)と、レポート(4000字程度)(50%)などで評価する。期末テストは実施しない。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(比較文化)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：稲田 敦子			
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 【授業の概要】 比較文化の専門演習をふまえて、それぞれに異なった文化による相違の問題を、目に見える表層的なものだけではなく、その背景にある目に見えない深層の部分にも踏み込んで考えながら、視野を広げ、柔軟に考えていく姿勢を育成する。 エドワード・ホールのテキストを中心に、授業計画に示した主題をめぐる文献を読み、テーマ発表を行い、ゼミ・レポート集作成にむけて準備を進めていきたい。 2) 【カリキュラム上の位置づけ】 欧米文化学科の演習科目の選択必修科目である。 3) 【学びの意義と目標】 本卒業研究の目標は、本学科での演習の集大成として、専門演習で学んだ資料および自分の主題テーマをふまえて、異なった文化への深い理解と異文化への橋わたしをする姿勢を養成することである。			
<b>評価方法</b> 1) 資料講読 (25%) 2) テーマ別発表 (25%) 3) ゼミレポート (25%) 4) 参加度 (25%) これらを総合計100点として評価する。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選必 卒業研究(比較文化)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：稲田 敦子			
<b>講義の目標及び概要</b> <b>【授業の概要】</b> 比較文化論を問題関心の領域とし、「専門演習」および「卒業研究Ⅰ」でとりあげた文献を終身にして、論文の主題を決定し、章立ての内容をつめる。 これまでの演習の集大成として、ゼミ論文集を作成するため、各履修者の主題に関する個別指導、中間発表、草稿の執筆を経て、論文を完成する研究態度が身につくようにしたい。 <b>【カリキュラム上の位置づけ】</b> 欧米文化学科の演習科目の選択必修科目である。 <b>【学びの意義と目標】</b> 比較文化の専門演習および卒業研究の集大成として、各自の問題意識の醸成を促進するとともに、論文を作成する基本作業としての資料検索および草稿段階の論理構成を学び、論文を完成させることを目標とする。			
<b>評価方法</b> (1)資料講読 (25%) (2)テーマ別発表 (25%) (3)ゼミレポート (25%) (4)参加度 (25%) を総合評価する。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選必 卒業研究(言語と社会)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：D. バーガー			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容：このゼミでは言語と社会に関する具体的な研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語と社会」と並行するが、専門演習Ⅰ、Ⅱと同様に、より深く追求することができる。卒業研究Ⅰの主要課題は「危機言語と言語復興」である。主に、アイヌ語、琉球語、ハワイ語、アメリカインディアンの諸言語について研究する。「言語」と「社会」を人間の普遍的な現象として受け止め、また、特定の「言語」や「社会」を取り上げ、比較する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。受講生は授業に関連した課題を1つ選び、研究の結果を口頭とレポート形式の両方で発表することが求められている。 2. カリキュラム上の位置づけ：卒業研究Ⅰは専門演習Ⅰ、Ⅱの続きで、「言語と社会」という主題は卒業研究Ⅱまで合計4学期にわたって続く。 3. 学びの目標：このゼミの目的は言語と社会の相互関係をより理解することである。課題に関する専門的な知識に加えて、このゼミは受講生が日本語と英語を比較するのに十分な機会を与えている。			
<b>評価方法</b> 20% 授業への出席 30% 授業への参加態度 25% 発表 25% レポート			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選必 卒業研究(言語と社会)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：D. バーガー			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容：このゼミでは言語と社会に関する具体的な研究課題を調べる。この課題は専門科目の「言語と社会」と並行するが、専門演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究Ⅰと同様に、より深く追求することができる。卒業研究Ⅱの主要課題は「差別語」である。主に、人種・民族差別語、性差別語、包括語(男女包括用語)について研究する。「言語」と「社会」を人間の普遍的な現象として受け止め、また、特定の「言語」や「社会」を取り上げ、比較する。特に英語と日本語がその社会的関係においてどのような役割を果たすかを比較する。受講生は授業に関連した課題を1つ選び、研究の結果を口頭とレポート形式の両方で発表することが求められている。 2. カリキュラム上の位置づけ：卒業研究Ⅱは専門演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究Ⅰの続きで、「言語と社会」という主題は卒業研究Ⅱまで合計4学期にわたって続く。 3. 学びの目標：このゼミの目的は言語と社会の相互関係をより理解することである。課題に関する専門的な知識に加えて、このゼミは受講生が日本語と英語を比較するのに十分な機会を与えている。			
<b>評価方法</b> 20% 授業への出席 30% 授業での参加態度 25% レポート 25% 口頭発表			
<b>教科書</b> プリントを配布する			



選必 卒業研究(英語学)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：加曾利 実				
<b>講義の目標及び概要</b>				
◆内容◆ 卒業研究(英語学)Ⅰでは、やさしい英文で書かれた入門書を輪読しながら、「インド・ヨーロッパ語族」を巡って、様々な問題について議論を深化させていきたいと思っています。進路指導も行います。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 原則として、テキストの輪読形式で授業を進めていきます。卒業研究は、いわば「学業の仕上げ」と言えます。 ◆学びの意義と目標◆ 英語だけでなく、世界の言語についても考えます。特に、日本語が世界でどのような位置にあるのかについて議論します。				
<b>評価方法</b>				
1. 予習・復習の実行度(10%) 2. レポートの成績(20%) 3. 定期試験の成績(70%) 出席については、学生要覧を参照のこと。				
<b>教科書</b>				
Sheila Chevallier 『First Steps to Linguistics』三修社				

選必 卒業研究(英語学)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：加曾利 実				
<b>講義の目標及び概要</b>				
◆内容◆ 卒業研究(英語学)Ⅰに引き続き、テキストを輪読しながら、チョムスキーの生成変形文法とソシュールの構造主義言語学について研究を深化させます。進路指導も行います。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 原則として、テキストの輪読形式で授業を進めていきます。卒業研究は、いわば「学業の仕上げ」と言えます。 ◆学びの意義と目標◆ ソシュール、チョムスキーなどの知識を得ることは、人間と言語の本質を考察する上で欠くことのできない、現代人必須の知識と言えます。青春時代は、二度と来ません。頭の柔らかい間に、学問に励んでください。				
<b>評価方法</b>				
1. 予習・復習の実行度(10%) 2. レポートの成績(20%) 3. 定期試験の成績(70%) 出席については、学生要覧を参照のこと。				
<b>教科書</b>				
Sheila Chevallier 『First Steps to Linguistics』三修社				

選必 卒業研究(外国語教授法)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：長崎 睦子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 専門演習を通して決めた研究テーマに基づき、各自研究を始めていく。文献を多く読み、ブック・レビューとその発表を行いながら、同じゼミ生とのディスカッションを通して研究の方向性を模索し、着実に研究を進めていく。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。 3. 学びの意義と目標 本講義の目的は(1)自分の研究テーマに関する適切な文献を探し読むこと、(2)具体的な研究計画書を作成すること、(3)卒業研究レポートの書き方を学ぶことである。以上のことを通して、研究の流れを理解する。				
<b>評価方法</b>				
出席20%、平常点(授業への取り組み)20%、ブック・レビュー30%(=発表10%+レポート20%)、研究計画書30%(=発表10%+計画書20%) *評価内容は変更する場合がある。その場合は授業にて説明をするので確認すること。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(児童英語教育)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：東 仁美				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 専門演習で勉強してきた英語教育の分野から、自分の関心のある分野を探し出し、その先行研究を始める。学期末課題としてそれらをレポートにまとめ、研究課題を見つけ、文献研究を始める。 2. カリキュラム上の位置づけ 欧米文化学科専門科目群の演習科目である。 3. 学びの意義と目標 演習を通して、各自の卒業研究テーマを決定し、卒業論文の内容を明確にしていく。				
<b>評価方法</b>				
授業への出席、参加 20% プレゼンテーション 30% レポート 30% 学期末課題 20%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

担当者：東 仁美

**講義の目標及び概要**

1. 内容

原書講読をしながら、卒業論文のテーマ選び、研究方法の指導、論文作成にとりかかる。英語教育学の分野の中から、自分が興味を持てるテーマを選び、資料検索、データ集めを個別指導を交えながら行っていく。

2. カリキュラム上の位置づけ

欧米文化学科専門科目群の演習科目である。

3. 学びの意義と目標

専門演習、卒業研究のまとめとして、自分のテーマを深めるとともに卒論執筆に向けての準備をする。

**評価方法**

授業への出席、参加 20%

資料購読、レポート 20%

プレゼンテーション 30%

卒業研究レポート 30%

**教科書**

プリントを配布する

# 6 | 人文学部 日本文化学科

## 専門科目

### 科目一覧

キリスト教文化論A  
 キリスト教文化論B  
 ライフデザイン・良く生きるA  
 ライフデザイン・良く生きるB  
 日本語表現法①  
 日本語表現法②  
 日本語学概説  
 日本文学概説  
 日本史概説A  
 日本史概説B  
 日本語教育概説  
 古典読解A  
 古典読解B  
 日本思想入門  
 日本文化入門  
 日本文化史  
 日本思想概説  
 相関文化  
 教えるための現代文A  
 教えるための現代文B  
 教えるための古典Ⅰ  
 教えるための古典Ⅱ  
 教えるための古典Ⅲ  
 教えるための古典Ⅳ  
 言語学概論  
 対照言語学  
 言語文化論  
 心理言語学  
 古典日本語Ⅰ  
 古典日本語Ⅱ  
 日本語表現法(ディベート)Ⅰ  
 日本語表現法(ディベート)Ⅱ  
 日本語学(文法)A  
 日本語学(文法)B  
 日本語学(音声・音韻)A  
 日本語学(音声・音韻)B  
 言語生活  
 日本事情(社会)  
 日本事情(文化)  
 日本語教授法講義  
 日本語教授法演習  
 日本語教育実習  
 日本語学特殊講義  
 言語学特殊講義  
 異文化間コミュニケーション  
 比較文学  
 比較宗教学  
 文化人類学  
 言語と社会  
 中国文学  
 中国思想  
 文化交流史(アジアと日本)A  
 文化交流史(アジアと日本)B  
 文化交流史(欧米と日本)

海外文化交流研修(アジア)B  
 韓国文化演習  
 文化とグローバリゼーション  
 韓国語コミュニケーションA  
 韓国語コミュニケーションB  
 中国語コミュニケーションA  
 中国語コミュニケーションB  
 Intercultural Communication  
 between Japan & the U.S.A. A  
 Intercultural Communication  
 between Japan & the U.S.A. B  
 Special Lecture Series A  
 日本文学史(上代・中古)  
 日本文学史(中世・近世)  
 日本文学史(近現代)  
 日本文学研究と批評(古典①)  
 日本文学研究と批評(古典②)  
 日本文学研究と批評(古典③)  
 日本文学研究と批評(近現代①)  
 日本文学研究と批評(近現代②)  
 日本文学の中のキリスト教B  
 児童文学  
 日本文学特殊講義①  
 日本文学特殊講義②  
 日本の歴史(近現代)  
 日本の思想(儒教)  
 日本の思想(仏教)  
 日本の思想(キリスト教)  
 女性学  
 歴史と文化  
 歴史と社会  
 日本史特殊講義  
 日本の演劇(中世・近世)  
 日本の美術  
 日本の音楽A  
 日本の音楽B  
 日本の民俗  
 日本のポップ・カルチャー  
 こどもと文化  
 映像と文化A  
 映像と文化B  
 書道(初級)  
 書道(中級)  
 日本文化特殊講義  
 出版と編集  
 伝統工芸B  
 伝統芸能B  
 文芸(創作)  
 放送文化  
 身体表現  
 日本文化総論A  
 日本文化総論B  
 専門演習Ⅰ(言語①)  
 専門演習Ⅰ(言語②)

専門演習Ⅰ(比較文化①)  
 専門演習Ⅰ(比較文化③)  
 専門演習Ⅰ(文学②)  
 専門演習Ⅰ(文学③)  
 専門演習Ⅰ(歴史・思想②)  
 専門演習Ⅰ(歴史・思想③)  
 専門演習Ⅰ(歴史・思想④)  
 専門演習Ⅰ(歴史・思想⑤)  
 専門演習Ⅰ(文化③)  
 専門演習Ⅱ(言語①)  
 専門演習Ⅱ(言語②)  
 専門演習Ⅱ(比較文化 アジア①)  
 専門演習Ⅱ(比較文化 アジア②)  
 専門演習Ⅱ(古典文学②)  
 専門演習Ⅱ(近現代文学①)  
 専門演習Ⅱ(歴史①)  
 専門演習Ⅱ(歴史②)  
 専門演習Ⅱ(思想①)  
 専門演習Ⅱ(思想②)  
 専門演習Ⅱ(思想③)  
 専門演習Ⅱ(近現代文化①)  
 専門演習Ⅱ(近現代文化②)  
 卒業研究(言語①)Ⅰ  
 卒業研究(言語①)Ⅱ  
 卒業研究(言語②)Ⅰ  
 卒業研究(言語②)Ⅱ  
 卒業研究(比較文化 アジア①)Ⅰ  
 卒業研究(比較文化 アジア①)Ⅱ  
 卒業研究(比較文化 アジア②)Ⅰ  
 卒業研究(比較文化 アジア②)Ⅱ  
 卒業研究(古典文学②)Ⅰ  
 卒業研究(古典文学②)Ⅱ  
 卒業研究(近現代文学①)Ⅰ  
 卒業研究(近現代文学①)Ⅱ  
 卒業研究(歴史①)Ⅱ  
 卒業研究(歴史②)Ⅰ  
 卒業研究(歴史②)Ⅱ  
 卒業研究(思想①)Ⅰ  
 卒業研究(思想①)Ⅱ  
 卒業研究(思想②)Ⅰ  
 卒業研究(思想③)Ⅰ  
 卒業研究(思想③)Ⅱ  
 卒業研究(近現代文化①)Ⅰ  
 卒業研究(近現代文化①)Ⅱ  
 卒業研究(近現代文化②)Ⅰ  
 卒業研究(近現代文化②)Ⅱ  
 卒業研究(日本文化)Ⅱ  
 教職演習A  
 教職演習B



必修 キリスト教文化論A		春	週1回	2単位
担当者：柳田 洋夫				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉 「神学こそは、およそ人が学びたいと願うものの中で最も魅力的なものだ」とイギリスの神学者A・E・マクグラスは言う。彼はまた「キリスト教が特に環太平洋地域において、新たな拡大の段階に入っているとき、キリスト教神学を学ぶことは現代の知的文化の中で重要な役割を果たすであろう」とも述べている。キリスト教神学は、欧米文化のみならず日本文化のさらなる深層からの理解にも資するものである。春学期はキリスト教神学思想史を概観する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 三年次の必修科目であり、一年次の「キリスト教概論」で学んだ内容の発展である。 〈学びの意義と目標〉 キリスト教神学思想についての通時的な見通しを獲得するとともに、キリスト教神学における諸テーマを理解するために必要な基礎知識を身につける。 (参考文献) A・E・マクグラス『キリスト教神学入門』(神代真砂実訳、教文館) 古屋安雄他『日本神学史』(ヨルダン社)</p>				
<b>評価方法</b>				
出席・参加度40%、オンラインレポート40%、礼拝レポート20%。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合、また、オンラインレポート未提出の場合は評価の対象としない。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

必修 キリスト教文化論B		秋	週1回	2単位
担当者：柳田 洋夫				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉 「神学こそは、およそ人が学びたいと願うものの中で最も魅力的なものだ」とイギリスの神学者A・E・マクグラスは言う。彼はまた「キリスト教が特に環太平洋地域において、新たな拡大の段階に入っているとき、キリスト教神学を学ぶことは現代の知的文化の中で重要な役割を果たすであろう」とも述べている。キリスト教神学は、欧米文化のみならず日本文化のさらなる深層からの理解にも資するものである。秋学期はキリスト教神学の諸テーマについて学ぶ。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 三年次の必修科目であり、一年次の「キリスト教概論」で学んだ内容の発展である。 〈学びの意義と目標〉 キリスト教神学思想についての基礎的理解を得ることによって、神学や哲学についての文献や議論にある程度対応できるようになるとともに、抽象的な問題にも自ら積極的に挑む姿勢を身につける。 (参考文献) A・E・マクグラス『キリスト教神学入門』(神代真砂実訳、教文館)</p>				
<b>評価方法</b>				
出席・参加度40%、オンラインレポート40%、礼拝レポート20%。出席状況と礼拝レポート提出数が規定に満たない場合、また、オンラインレポート未提出の場合は評価の対象としない。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

必修 ライフデザイン・良く生きるA		春	週1回	2単位
担当者：清水 均/渡辺 正人				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1、内容 本講座は学生個々の「キャンパスデザイン」「キャリアデザイン」の充実を願うと同時に生涯にわたる「ライフデザイン」をイメージしてもらい、それぞれの人生が「良く生きる」といえるような充実したものとなってほしいという願いをこめた講座である。 2、カリキュラム上の位置づけ 学科カリキュラムにおける「専門基礎科目」に位置する必修科目である。即ち、日本文化学科の学生として卒業するためには履修が絶対に欠かせない科目ということである。 3、学びの意義と目標 大学で過ごす数年間が人生にとって非常に大切な時間であることは言うまでもない。特に他者とのコミュニケーション力を養成することは生涯にわたって自己を生かす上で必須の要件となるので、是非とも身につけておいてほしい。そうした目標の達成を目指すことから、授業形態は基本的に「参加型」の形式をとる。</p>				
<b>評価方法</b>				
(1)出席状況：1/4 (2)「私の読書記録」：1/4 (3)授業内容に関する提出物(授業ファイル 他)：1/2				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

必修 ライフデザイン・良く生きるB		秋	週1回	2単位
担当者：柳田 洋夫/渡辺 正人				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>内容：本講座は学生個々の「キャンパスデザイン」「キャリアデザイン」の充実を願うと同時に、生涯にわたる「ライフデザイン」をイメージしてもらい、それぞれの人生が「良く生きる」といえるような充実したものとなってほしいという願いをこめた講座である。「ライフデザインB」ではまずは「キャリア」を意識してそれぞれのキャンパスライフをどのように組み立てるかをデザインする。次に、日本文化学科の学生としてどのような専門研究をするかという方向づけのヒントとなるよう、各学問ジャンルにおける基礎力を養う「基礎学力養成プログラム」を実施する。 カリキュラム上の位置づけ：学科カリキュラムにおける「専門基礎科目」に位置する必修科目である。即ち、日本文化学科の学生として卒業するためには履修が絶対に欠かせない科目ということである。 学びの意義と目標：「キャンパスデザイン」「キャリアデザイン」を具体的に描き、これから先の学生生活の目標をつかむことが学びの目標となる。</p>				
<b>評価方法</b>				
(1)出席状況：1/4 (2)「私の読書記録」：1/4 (3)授業内容に関する提出物：1/4 (4)最終課題：1/4				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

必修 日本語表現法① 春 秋 週1回 1単位

担当者：上野 麻美/北村 淳子/坂巻 理恵子/副田 恵/松村 良

講義の目標及び概要

◆内容◆  
本講義では、言語技能の基礎をより細かく学び、確実に身につけていくことを目指す。敬語の使い方や文体、語彙力など、レポートや論文の基礎となる事項を学ぶ。問題形式のテキストを使用することにより、自分の表現力の進歩を確認していく。

◆カリキュラム上の位置づけ◆  
1年生秋学期の必修科目である。基礎教育入門「書き方」では、大学生生活に必要な表現力の概略を学んだ。ここでは、表現の基礎となる言語事項を確実なものとしていく。一見、学習内容が後戻りするかに見えるのは、概略から詳細へという道筋をたどるからである。

◆学びの意義と目標◆  
ともすれば、言語技能面に無関心な態度で論文やレポートを書いてしまいがちであるが、内容面が優れていても、それを伝える技能、すなわち使用語彙や文法などが十分でなければ、優れた論文やレポートになり得ない。本講義によって、その基礎技能を確実に身に付けていくことになる。

評価方法

出席および授業中に出された課題の取り組み姿勢と提出物により、評価する（出席 30%、参加態度 20%、提出物 50%）。ただし、AHレポートの提出を絶対条件とする。

教科書

授業の中で指示する  
名古屋大学日本語研究会GK7 著『スキルアップ！ 日本語力 大学生のための日本語練習帳』東京書籍

必修 日本語表現法② 春 秋 週1回 1単位

担当者：坂巻 理恵子/副田 恵/中島 佐和子/松村 良

講義の目標及び概要

◆内容◆  
本講義では、論理的な文章の表現方法を中心に学ぶ。その学びの基礎の上に、レポートや論文の書き方の基本を身に付けることを目指す。

◆カリキュラム上の位置づけ◆  
2年生春学期の必修科目である。基礎教育科目「書き方」、日本語表現法(1)で学んだことを基礎として、大学生活で必要とされる、より高度な表現力を身につける。

◆学びの意義と目標◆  
大学生活ではレポートや論文を書く機会が多い。それらを書き上げる力を身につけることは、これからの大学生活に直接大いに役立つだろう。

評価方法

出席および授業中の課題への取り組み姿勢と提出物により、評価する（出席30%、参加態度20%、提出物50%）。

教科書

速水博司『大学生のための文章表現入門』蒼丘書林

選必修 日本語学概説 春 週2回 4単位

担当者：小林 茂之

講義の目標及び概要

現代言語学は、科学の一分野として認識されるようになった。これは、チョムスキーによる生成文法と呼ばれる言語研究が言語学の主流の一つを占めるようになったことによると科学的には理解されている。生成文法は、「こころ」のように直接外部から観察できない対象に対して、科学的な研究が可能であり、有意義な成果を達成してきたと言える。

本講義では、現在アメリカの代表的知識人の一人であるチョムスキーについて紹介し、彼が確立した生成文法が何を問題とし、解明してきたかを概説する。そして、生成文法が研究対象とする母語話者の言語知識とは何であるかを、受講者のほとんどの母語である日本語と、言語の普遍性の観点から日本人にとってもっとも知られている外国語である英語のデータに基づいて、教科書の構成に従いながら解説する。受講者は、講義を通して、具体的な言語現象の分析とともに、生成文法が探究する文法とは何か、言語が構造をもつとはどういうことを意味するのか、人間はどのように言語を獲得するのか、どうして生成文法は科学であると言えるのか、などのような基本的な問題について学ぶことになる。

評価方法

出席・平常点・期末レポート

教科書

井上和子・他『生成言語学入門』大修館書店

選必修 日本文学概説 春 週2回 4単位

担当者：黒木 章

講義の目標及び概要

〔内容〕輪切り日本近代文学。1868年の明治維新以来の日本近代をおおよそ10年ごとに輪切りにしてその年々に発表された小説類を読み、作品の時代背景を重ねながら講読する。

〔カリキュラム上の位置づけ〕日本近代文学入門。よく話題にされ受験勉強などでも出てきたものでありながら、未だ読んでいない代表的な有名作品を駆け足で読んで文学の楽しみを味わう。中高の国語教員免許取得を希望する人には選択必修の科目である。

〔学びの目標と意義〕読む必要を感じても入学前には時間がなくて読めなかった有名な作品は多いと思う。それらの作品をとにかく読んでみよう、作品内部にどんな問題があるか、なぜ話題にされるべき作品なのかなどを理解しながら日本近代文学史の大枠を掴む。

評価方法

普段の授業出席と参加態度を20%、途中で課す小レポートを10%、中間試験を30%、学期末の定期試験（レポートに替えることがあるかも知れない）を40%とみる。

教科書

授業の中で指示する

選必 日本史概説A	春 週1回 2単位
担当者：上安 祥子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
◆内容◆ 概説Aでは、古代から江戸時代までをあつかう。“日本”の歴史として語りうるのは、いつの時点からか、という問いを入口として、高等学校までの学習経験では、踏み入る機会がなかったであろうトピックスを重点的に取り上げ、時代や社会の変化をたどっていくこととしたい。	
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 日本文化学科の専門科目（選択必修科目）。政治経済学部の特徴課程、教科に関する科目（2008年度生以降、中学校教諭一種免許状【社会】・高等学校教諭一種免許状【地理歴史】）。	
◆学びの意義と目標◆ 歴史学とは、社会が変化してきた過程を跡づける学問である。その“跡づける”作業とは、社会の変化をもたらした必然性を解き明かすことであり、事象の単なる表層的因果関係を追うことでもなく、ましてや、個々の事象を暗記することでもない。学生諸君には、「覚える」ものとしてではなく、「思考する」ものとして、歴史に向き合う姿勢を身につけてもらいたい。	
<b>評価方法</b>	
■カード40%＋学期末試験60%…カード提出は毎時間。講義内容に対する理解力だけでなく、表現力や視点の独自性を重視し、優秀者には加点。 ■出席回数が授業回数の3分の2に達しない場合、単位取得資格を失い、学期末試験は受験できない。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

選必 日本史概説B	春 週1回 2単位
担当者：川崎 司	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 時の流れとともに、心象を反映する「ことば」が次々と生み出されてきた。私たちは今、その言葉の海にたゆたいながら、新たなコンパスを探しているところだ。先人の遺した、心に響く言葉を手がかりに、時代を超越した普遍的なるものを求めて、今こそ「歴史」の海原に泳ぎ出よう。自分探しの旅に立とう。新旧のここに残る名言を、13回の授業の中で、映像の力を借りながらじっくり味わっていく。	
2・カリキュラム上の位置づけ これまで学んできた近現代史の基礎知識の確認と歴史的思考の涵養のための入り口。	
3・学びの意義と目標 喜怒哀楽を共にし、歴史から学ぶ喜びを共有したい。視野が広がり感性がますます磨かれ、人生に輝きが増せばこれ以上の幸せはない。	
<b>評価方法</b>	
出席状況、期末テスト、レポートをほぼ同程度に見る。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

選必 日本語教育概論	秋 週2回 4単位
担当者：北村 淳子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
(1)【内容】本講義では、日本語教育の現状及び歴史を理解した上で、英語・国語教育との比較における日本語教育の特色、日本語の音声、文法、文字・表記、語彙、日本語教育と関わりのある社会言語学、心理学を概観する。また、教師としての心構えについても考える。 いくつかのテーマについては、講師が課題を出し、何人かの学生を指名し、レポートを書かせる。指名された学生の一人は、レポートの内容についてクラスに報告する。	
(2)【カリキュラム上の位置づけ】日本語教育関係科目である。教授法講義、教授法演習、教育実習へと進む上で必要となる基礎的な知識を学ぶ。一年次及び二年次の受講が望ましい。日本語教員養成課程修了のための必修科目であるが、教職課程をとる学生にもすすめたい。	
(3)【学びの目標】日本語教育に必要な基礎的知識を得ること。	
<b>評価方法</b>	
(1)レポートの内容、(2)教室内発表及びそのレポートの内容、(3)授業態度・討論への参加度をそれぞれ10%、(4)試験を70%に換算して評価する。総合評価がボーダーラインにある場合は、出席率を考慮する。	
<b>教科書</b>	
高見澤孟 監修『新・はじめての日本語教育1』アスク	

選必 古典読解A	春 週1回 2単位
担当者：上野 麻美	
<b>講義の目標及び概要</b>	
【内容】本講座では、平安文学の代表的な作品を精選して取り上げ、その魅力を紹介する。また、作品を味わうとともに、平安時代の人々の暮らしや考えなど、古典を理解するうえでの基本的な知識も学んでいく。	
【カリキュラム上の位置づけ】専門基礎科目群の選択必修科目のひとつであり、古典文学作品を学ぶための入門講座に位置づけられる。古典文学作品の研究を志す人は、必ず履修すること。	
【学びの目標と意義】本講座の目標は、古典文学への親しみ方を知ることにある。現代に生きる私たちと異なる点に驚き、また変わらない点に共感することを通して、作品を楽しむ方法を習得したい。	
<b>評価方法</b>	
出席50%・試験50%	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

日本文化学科部

選必 古典読解Ⅱ

秋 週1回 2単位

担当者：上野 麻美

講義の目標及び概要

【内容】本講座では、中世文学の代表的な作品を精選して取り上げ、その魅力を紹介する。また、作品を味わうとともに、中世の人々の暮らしや考え方など、古典を理解するうえでの基本的な知識も学んでいく。

【カリキュラム上の位置づけ】専門基礎科目群の選択必修科目のひとつであり、古典文学作品を学ぶための入門講座に位置づけられる。古典文学作品の研究を志す人は、必ず履修すること。

【学びの目標と意義】本講座の目標は、古典文学への親しみ方を知ることにある。現代に生きる私たちと異なる点に驚き、また変わらない点に共感することを通して、作品を楽しむ方法を習得したい。

評価方法

出席50%、試験50%

教科書

プリントを配布する

選必 日本思想入門

秋 週1回 2単位

担当者：村松 晋

講義の目標及び概要

【授業内容】

先人の営んできた思想・思考の歴史には、皆さんが自己と自己をとりまく社会とを批判的に問い質し、借り物でない独自の視点を構築していくために学ぶべきことがら、教多く散りばめられている。本講義では通史的に、その主要なものを提示することで、皆さんの「常識」に創造的なゆきぶりをかけてみたいと思っている。

【カリキュラム上の位置づけ】

文字通り、歴史・思想に関する入門科目である。1・2年次の履修が望ましい。

【学びの意義と目標】

受講者みずから、これまでに教え込まれた「知識」を主体的に検証し、自分なりのものの見方を構築していくきっかけを手に入れること。

評価方法

- ・ 期末試験によって評価する。
- ・ 出席は毎回取る。
- ・ 全授業数の三分の一以上欠席したのものには期末試験の受験資格を与えない。

教科書

プリントを配布する

選必 日本文化入門

秋 週1回 2単位

担当者：寺田 詩麻

講義の目標及び概要

(1) 日本文化学科の基礎科目群の一つ。1・2年での習得を原則とします。

(2) 世界の芸能のなかでもユニークな位置を占める日本の古典芸能、とくに能・狂言・文楽（人形浄瑠璃）・歌舞伎を中心にとりあげます。

・ 演じられているありさま（芸能）を見てそれぞれの違いの区別がつくこと

・ よく上演されるいくつかの作品の内容を、映像資料を見ながら理解することを目標とします。

評価方法

毎回の出席カードへの感想・疑問点の記入、観劇会（12月開催予定）についてのレポート、期末試験、以上3つの総合で評価します。詳細は第1回のガイダンスで説明します。

教科書

プリントを配布する

選必 日本文化史

秋 週2回 4単位

担当者：渡辺 正人

講義の目標及び概要

1、内容

本講義では日本の文化史を通史的に見てゆく。しかし、文化史とは言っても単なる芸術史ではなく、歴史や思想とともに社会のさまざまな動きとしてみてゆきたい。

特に日本の文化は、大陸や半島からの影響をほとんどの時代において強く受けながら形成されてきている。そのことと日本国内の内的な発展と、どのように関連しながら文化は動いてゆくのだろうか、ということを明らかにしたい。

2、カリキュラム上の位置づけ

通史でもあり、入門的な位置づけである。しかし、基礎となるべきものである。

3、学びの意義と目標

日本の文化の流れを知り、文化史の用語を理解することができるようになること。対外的交流の意義を知り、どのような対外的な地域の影響をうけて日本文化が成立してきたかの概略を説明できるようになること。

評価方法

中間試験40%、レポート（オンライン）40%、出席20%によって算出する。

教科書

家永三郎『日本文化史』岩波新書



選必 日本思想概説		春	週2回	4単位
担当者：清水 正之				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 日本の思想は、日本列島の上で生成し展開してきた自己意識の歴史でもあります。「哲学」という思想形式をながくたないで来た日本では、思想は学問や宗教として、あるいは文芸や芸術思想という形で、続いてきました。この講義では、そうした思想表現にも目を配りながら、古代から近代に至る日本の思想の歴史を概観します。日本の思想は、近代以前は、大陸を経由した先進文化・思想の、近世後期以降は、欧米の先進文化・思想の受容によって始まりますが、またその「選択的な」深まりをも示しています。日本の置かれた国際的関係の意味なども、思想の歴史を考えるに、重要なポイントです。				
2. カリキュラム上の位置づけ 思想の通史であり、入門的かつ基礎的なものです。				
3. 学びの意義と目標 日本の思想を学ぶことは、自己の内に流れている意識を対象化することでもあります。 以上のような観点から、日本の思想が何を問題として何を解こうとしたのかを考えてみたいと思います。思想の学習は、思想の原典テキストを読むことが基本ですが、理解を助けるためビデオ等も利用します。				
<b>評価方法</b>				
学期の途中で課す最低4回ほどの小レポート（25%）と出席状況（25%）を重視します。期末には本格的なレポートを課しますが（50%）、両方を加味して、成績評価とします。				
<b>教科書</b>				
清水正之『日本の思想』放送大学教育振興会				

選必 関連文化		秋	週1回	2単位
担当者：村松 晋				
<b>講義の目標及び概要</b>				
〔授業内容〕 「日本文化」とは何だろうか。「日本」にしかない文化」というものは存在するのだろうか。否、そもそも『日本文化』とは何かを問い、それを探り当てようとする試みに、積極的な意義はあるのだろうか。本講義では、私たちの身の回りに息づく諸文化を、世界史的な文脈をも考慮しつつ、多角的かつ重層的な観点から問い質すことにより、上記の問いかけに対する一つの場を提示することを目的としている。				
〔カリキュラム上の位置づけ〕 入門科目・概説科目に準ずる。1・2年次（なるべく1年次）の受講が望ましい。				
〔学びの意義と目標〕 「日本」「日本文化」「日本人」等々を問い質すための、具体的な場を獲得すること。				
<b>評価方法</b>				
・ 期末試験の成績によって評価する。 ・ 出席は毎回取る。 ・ 全授業数の三分の一以上欠席した者には期末試験の受験資格を与えない。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 教えるための現代文A		春	週1回	2単位
担当者：前田 潤				
<b>講義の目標及び概要</b>				
◆教員採用試験の「現代文」読解問題を念頭に置きながら、現代日本語で記されたあらゆるジャンルの文章読解力の向上を目標として講義を行う。領域横断的な文章素材を扱うことを通じて、文学・芸術はもちろん、社会思想・メディア・情報・身体・紛争・共同体といった重要な現代的問題系に関する思考を深めるとともに、「国語」教育に携わろうとする者として必要な、総合的な日本語操作能力の獲得を目指す。中学校・高等学校教科書、各種副読本、大学入学試験問題など、幅広い素材を対象テキストとする。 ◆教職課程履修者のための科目。2年生以上で、「教科教育法Ⅰ」を取得したものか、並行履修しているものが受講できる。 ◆教員採用試験の要求する「現代文」文章読解能力の水準を把握するとともに、「国語」教員として最低限必要な文章表現力の獲得を目標とする。				
<b>評価方法</b>				
平常点（出席と毎時間の小テスト）50%＋最終試験50%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 教えるための現代文B		秋	週1回	2単位
担当者：前田 潤				
<b>講義の目標及び概要</b>				
◆受講者が、やがて教員として教壇に立つことを想定しながら、教材分析能力・問題作成能力・文章解説能力・授業構成能力など、教員として是非とも必要な能力の育成を目標として講義を行う。対象テキストの十分な理解を前提とした上で、それをいかに「教材」として使い、「授業」を作ってゆくのかということを実践的に学んでゆく講座となる。多教者の前で「授業」する能力の育成が目標となるため、教材研究過程の公開、模擬授業の実践など、多様な学びのプロセスを通じて、自己の思考の論理性や表現能力を客観化し、日本語操作能力の向上の足場をしっかりと築いてもらいたい。 ◆教職課程履修者のための科目。2年生以上で、「教科教育法Ⅱ」を取得したものか、並行履修しているものが受講できる。 ◆現代日本語で書かれた文章素材の味読と分析を通じて、小学校から高等学校の教壇に至るまで、徹底した教材研究と授業準備が教員と学生（生徒）の有意義な対話を作り出してゆくものであることを学んでほしい。				
<b>評価方法</b>				
平常点（出席と毎回提出の小課題）50%＋最終試験50% ただし、模擬授業を行ったものは別基準で高く評価する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

日本文学化学科

選択 教えるための古典Ⅰ

春 週1回 2単位

担当者：上野 麻美/濱田 寛

講義の目標及び概要

【内容】

この科目で学ぶ「古典」とは、日本と中国の古典文学である。2人の担当者が7時間ずつ講義を行い、読解力を養う。日本の古典では古典文法の基礎を学ぶ。具体的には動詞を学習し、演習として『宇治拾遺物語』を読解する。中国古典では、基本的な漢文の語法を学習し、その演習として「散文」を扱う。具体的には『論語』から『老子』までの中国の思想の史的展開と具体的な作品に即した鑑賞を行う。文学史に関連して、中国思想について、将来教壇に立つときには知っておきたいより専門的な事項についても解説を行う。

【カリキュラム上の位置づけ】

教職課程履修者のための科目である。2年生以上の「教科教育法Ⅰ」をすでに履修したものか、並行履修を行っている者が受講できる。

【学びの意義と目標】

人に教える為には、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、始めて魅力的な授業も可能になろう。

評価方法

Ⅰ 日本古典文学の読解力：50%  
Ⅱ 漢文学の読解力：50%  
どちらの授業も平常点（出席と毎時間の小テスト）(25%)と中間試験(25%)を総合して評価

教科書

プリントを配布する  
村松明・坂梨隆三『わかりやすい古典文法 改訂版』明治書院

選択 教えるための古典Ⅱ

秋 週1回 2単位

担当者：上野 麻美/濱田 寛

講義の目標及び概要

【内容】

前半の「漢文」では、「韻文」を中心に扱う。具体的には『詩経』から唐詩までの中国の韻文の史的展開と具体的な作品に即した鑑賞を行う。後半の「古文」では、古典文法の基礎を学ぶ。具体的には形容詞・形容動詞・助動詞を学習し、演習として『徒然草』を読解する。

【カリキュラム上の位置づけ】

教職課程履修者のための新設科目である。「教えるための古典Ⅰ」をすでに履修した者が受講できる。

【学びの目標と意義】

人に教える為には、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、始めて魅力的な授業も可能になろう。文法もまた同じことが言えよう。

評価方法

Ⅰ 日本古典文学の読解力：50%  
Ⅱ 漢文学の読解力：50%  
どちらの授業も平常点（出席と毎時間の小テスト）(25%)と中間試験(25%)を総合して評価

教科書

プリントを配布する  
松村明・梨坂隆三『わかりやすい古典文法』明治書院

選択 教えるための古典Ⅲ

春 週1回 2単位

担当者：上野 麻美/濱田 寛

講義の目標及び概要

【内容】

前半の「漢文」は、「史書」を中心に扱う。具体的には『春秋』三伝の比較対照を行いつつ「春秋の義」について学び、また高等学校の教材として定番ともいえる『史記』について、知見を深めたい。後半の「古文」は、古典文法の基礎を学ぶ。具体的には助動詞を学び、演習として『伊勢物語』を読解する。

【カリキュラム上の位置づけ】

教職課程履修者のための新設科目である。「教えるための古典Ⅱ」をすでに履修した者が受講できる。

【学びの目標と意義】

人に教える為には、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、始めて魅力的な授業も可能になろう。

評価方法

Ⅰ 日本古典文学の読解力：50%  
Ⅱ 漢文学の読解力：50%  
どちらの授業も平常点（出席と毎時間の小テスト）(25%)と中間試験(25%)を総合して評価

教科書

プリントを配布する  
村松明・坂梨隆三『わかりやすい古典文法』明治書院

選択 教えるための古典Ⅳ

秋 週1回 2単位

担当者：上野 麻美/濱田 寛

講義の目標及び概要

【内容】

この科目で学ぶ「古典」とは、日本と中国の古典文学である。2人の担当者が7時間ずつ講義を行い、読解力を養う。日本の古典では、古典文法の基礎を学ぶ。具体的には、名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞・敬語を学習し、演習として『枕草子』を読解する。後半の漢文では、中国文学史を軸に、様々な作品を鑑賞する。また、日本漢文学についても理解を深めることになる。

【カリキュラム上の位置づけ】

教職課程履修者のための新設科目である。「教えるための古典Ⅲ」をすでに履修した者が受講できる。

【学びの目標と意義】

人に教える為には、教授法の技術を磨く前に、まず自らの学力を養わなければならない。古典の豊かな世界を楽しむことができるようになって、始めて魅力的な授業も可能になろう。

評価方法

Ⅰ 日本古典文学の読解力：50%  
Ⅱ 漢文学の読解力：50%  
どちらの授業も平常点（出席と毎時間の小テスト）(25%)と中間試験(25%)を総合して評価する

教科書

プリントを配布する  
松村明・坂梨隆三『わかりやすい古典文法 改訂版』明治書院

<b>選択 言語学概論</b>	秋 週2回 4単位
担当者：D. パーガー	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容 この科目は概論なので、言語に関する学問領域を大きな枠組みで捉えて紹介する。「言語とは何か」という根本的な問題から始まり、人間の言語構造に続き、ことばの様々な姿や働きについて具体例を挙げて説明し、ことばについての関心を深めていく。一般的な人間の言語だけではなく、言語の普遍的な特性と各言語がどのようにその特性を実現するかを理解するために日本語と英語を始め、様々な世界の諸言語の事例を考察する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ この授業は、欧米・日本文化の両学科の共通「言語」専門科目であり、対象学年は2年生からとなっている。言語について深く考える習慣をつけて、次の段階に進んでもらいたい。</p> <p>3. 学びの目標 普段、無意識的に用いる言語の性質を認識すると同時に、この授業を通して言語学の理解を深める。</p>	
<b>評価方法</b>	
10% 授業への出席 10% 授業での参加態度 40% ワークシート 40% 期末試験	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>選択 対照言語学</b>	春 週2回 4単位
担当者：黒崎 佐仁子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(講義の内容) この授業では、世界にはどのような言語があるのか、その言語は日本語とはどのように違うのかを学ぶ。また、日本語学習者の誤用から、日本語を外国語として分析していく。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) この授業は人文学部日本文化学科の専門科目群言語系統科目の一つであり、日本語教員養成課程言語学関係分野の科目の一つでもある。</p> <p>(学びの意義と目標) 言語の多様性および日本語の特徴を学び、言語研究や日本語教育で必要とされている基礎的分析力をつけることを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席25% 宿題20% 授業参加度（発表などの授業内活動）25% レポート30% 欠席が3分の1を超えたものは評価しない。	
<b>教科書</b>	
玉村文郎（編）『新しい日本語研究を学ぶ人のために』世界思想社	

<b>選択 言語文化論</b>	春 週2回 4単位
担当者：小林 茂之	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>現代の言語学において、生成文法は、主に文の仕組み、すなわち、統語構造を人間の言語の本質として探究してきた。統語構造は、人間の言語の形式的側面を反映していると考えられている。しかしながら、言語が人間の文化に関わる広さと重要性を考慮するならば、文化全般に関わる問題を射程に含めることができる言語理論が要請される。</p> <p>認知言語学は、このような背景から登場してきた新しい理論である。メタファー、メトノミーは、代表的な言語の認知的働きである。本講義でも、これらを含めて、認知言語学の基本的問題について解説する。その上で、言語文化への適用のケーススタディとして、詩学と聖書の言語表現について、認知言語学的立場から分析する。</p> <p>現代言語学の潮流の中で、生成文法と並んで主流となった認知言語学は、生成文法流の「言語能力」という言語だけに特化されたところの働きを仮定するのではなく、こころの働き全体の中で言語を分析するという立場である。その点、技術的議論が多い統語論が苦手である受講者も、言語学を身近に感じ、楽しむことができるだろう。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席・平常点・期末レポート	
<b>教科書</b>	
大堀寿夫『認知言語学』東京大学出版会	

<b>選択 心理言語学</b>	春 週2回 4単位
担当者：川手 恩	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>◆内容◆ 本講義では、言語使用や言語行為、コミュニケーションを言語学と心理学の両方向から考察し解明することを試みる。この目的を達成するため、「音声や語と文字」「文と文章の理解」「語用論と発話行為」「普遍文法」「母語の習得」「言語と脳」「母語喪失と回復過程」「第二言語学習」そして「言い訳りの心理言語学的考察」という九つの心理言語学の研究分野のテーマに焦点をあて授業を展開していく。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 2-4年生での受講を推奨。</p> <p>◆学びの意義と目標◆ 本講義では、コミュニケーションを心理言語学的視点より検討し、様々な状況や場面におけるコミュニケーションの成り立ちを理解し、その大切さやすばらしさを見出す。</p>	
<b>評価方法</b>	
期末レポート 30%、復習クイズ 30%、プレゼンテーション 10%、クラス参加 10%、宿題 20%	
<b>教科書</b>	
石川圭一『ことばと心理：言語認知メカニズムを探る』黒潮出版	

日本文化学科

選択 古典日本語Ⅰ

春 週2回 2単位

担当者：上宇都 ゆりほ

講義の目標及び概要

【内容】『蜻蛉日記』の講読を通して、古典作品を理解する上で必要な基礎知識（文法・語彙・時代思潮・文化等）を身につける。と同時に作者である道綱母の苦悩を通して、平安時代の女性の生き方や当時の文化的背景などをじっくり研究し、日記文学の魅力を堪能する。

【カリキュラム上の位置づけ】本講義は古典研究（言語・文学・歴史・文化等）を目指す2年生以上の選択科目である。さらに日本文学の学生にとっては、第2外国語の選択必修科目であり、さらに教職を目指すものにとっては「教えるための古典」と並行履修をしてそこで学んだことの習熟をはかる科目でもある。それぞれの履修目的に応じて各自の到達目標を設定し、授業に臨んでほしい。

【学びの意義と目標】目標の第一は、中古語文法の基礎を学び、辞書を片手に古典作品を読解できる力を養うこと。第二に「源氏物語」に先行する作品として、平安時代の貴族階級の女性によって創作された日記文学が日本文学史においてどのように位置付けられ、後世に影響を与えたかについても学んでほしい。

評価方法

授業の終わりに毎回行う小テストや小レポートを平常点として重視し（40%）、復習のための試験（中間試験ならびに期末試験）（60%）を総合して評価する。

教科書

右大将道綱母著・角川書店編『角川ソフィア文庫ビギナーズ・クラシックス日本の古典 蜻蛉日記』角川書店  
松村明・坂梨隆三『わかりやすい古典文法改訂版』明治書院  
『古語辞典』か電子辞書（各自のものでよい）

選択 古典日本語Ⅱ

秋 週2回 2単位

担当者：高桑 佳與子

講義の目標及び概要

【内容】『紫式部日記』の講読を通して、古典文法の習熟を図っていきます。古典文法の基礎からはじめ、動詞・助動詞を中心に解説するとともに、平安朝文学を生み出した、宮廷女房の見た華やかな貴族の生活への理解も深めていきます。

【カリキュラム上の位置づけ】古典研究を目指す2年生以上の選択科目です。さらに日本文学の学生第2外国語の選択必修科目であり、教職を目指す学生にとっては「教えるための古典」と平行して履修し、古典日本語の習熟をはかる科目となります。「古典日本語Ⅰ」を履修済みの学生を対象とした講座です。

【学びの意義と目標】古典作品を辞書を引きながら適切に読解できる文法力を養うこと。また、平安文学の頂点を極めた紫式部の体験した世界を知ることを目指しています。これにより、『源氏物語』を初めとする古典文学へアプローチする力を高めていきます。

評価方法

平常点（授業参加、授業時の提出物40%）と、中間試験・期末試験（各30%）で評価します。

教科書

松村明・坂梨隆三『わかりやすい古典文法』明治書院

選択 日本語表現法(ディベート)Ⅰ

春 週1回 2単位

担当者：太田 昌宏

講義の目標及び概要

【内容】ディベートは一言でいうと「審判を納得させる討論ゲーム」です。このディベートを実践するために必要な技術について学びます。ディベートを実践するには、読む・聞く・書く・話すの基礎的な日本語力の土台と、問題解決的な思考力が必要です。従って、この授業の前半は、日本語による表現力や問題解決的な思考力をつけるための基礎的演習が中心です。グループワークが多いので、人と積極的に関われる人向きの授業です。

【カリキュラム上の位置づけ】2年生から受講できます。日本語の「文章表現」能力に加えて、口頭でも論理的にやり取りする能力（プレゼンテーション能力及び傾聴力）を磨くために設けられた講座です。

【学びの意義と目標】人と人とが協力して何かをするときには、お互いの合意内容について確認をとりながら進める必要があります。そのためには論理的に、つまりわかりやすく簡潔に、意見を交換しあう能力が必須です。その能力を磨く手段の一つがディベートです。

評価方法

授業への参加意欲（人と積極的にコミュニケーションをとろうとすることや出席率）を重視します。平常点（提出課題や出席点など）約30%、学期末テスト約70%によって算出する予定です。

教科書

プリントを配布する

選択 日本語表現法(ディベート)Ⅱ

秋 週1回 2単位

担当者：太田 昌宏

講義の目標及び概要

【内容】ディベートは一言でいうと「審判を納得させる討論ゲーム」です。この授業の前半では、このディベートの考え方やスキルについて、ワークショップ形式（演習中心）で学びます。さらに、授業の後半では、ディベートの考え方やスキルを使って、社会的な問題を分析し、解決策を提案する能力を養います。

【カリキュラム上の位置づけ】2年生から受講できます。日本語の「文章表現」能力に加えて、口頭でも論理的にやり取りする能力（プレゼンテーション能力及び傾聴力）を磨くために設けられた講座です。

【学びの意義と目標】人と人とが協力して何かをするときには、お互いの合意内容について確認をとりながら進める必要があります。そのためには論理的に、つまりわかりやすく簡潔に、意見を交換しあう能力が必須です。その能力を磨く手段の一つがディベートです。

評価方法

平常点（提出課題や出席点など）約30%及びレポート70%で算出する予定です。

教科書

プリントを配布する

選択 日本語学(文法) A		春	週1回	2単位
担当者：黒崎 佐仁子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈講義の内容〉 この授業では、普段意識せずに使用している日本語を見直し、日本語がどのような文法から成り立っているのかを学んでいく。日本語の文法は「命題」と「モダリティ」から成ると言われているが、「文法A」では特に「命題」に重きを置く。また、「文法A」では主に単文を扱う。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 この授業は人文学部日本文化学科の専門科目群言語系統科目の一つであり、日本語教員養成課程日本語学関係分野の科目の一つでもある。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 日本語を客観的に観察し、分析し、説明する力をつけることを目標とする。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席25% 宿題20% 授業参加度（発表などの授業内活動）25% レポート30% 欠席が3分の1を超えたものは評価しない。				
<b>教科書</b>				
庵 功雄『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える』スリーエーネットワーク				

選択 日本語学(文法) B		秋	週1回	2単位
担当者：黒崎 佐仁子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈講義の内容〉 この授業では、普段意識せずに使用している日本語を見直し、日本語がどのような文法から成り立っているのかを学んでいく。日本語の文法は「命題」と「モダリティ」から成ると言われているが、「文法B」では特に「モダリティ」に重きを置く。また、「文法A」では主に単文を扱ったが、「文法B」では複文についても考察していく。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 この授業は人文学部日本文化学科の専門科目群言語系統科目の一つであり、日本語教員養成課程日本語学関係分野の科目の一つでもある。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 日本語を客観的に観察し、分析し、説明する力をつけることを目標とする。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席25% 宿題20% 授業参加度（発表などの授業内活動）25% レポート30% 欠席が3分の1を超えたものは評価しない。				
<b>教科書</b>				
庵 功雄『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える』スリーエーネットワーク				

選択 日本語学(音声・音韻) A		春	週1回	2単位
担当者：中川 千恵子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>日本語教育能力検定試験の出題内容も視野に入れ、日本語教育の観点から、日本語音声学・音韻論の基礎を学び、日本語の発音記号の書き方を身につける。母語別の発音指導法にも触れる。</p> <p>試験は、筆記と聴解の両方を課す。実際に発音したり音声を聞いたりして、音声の微妙な違いや自分の調音部位の状態を発見することなどを重視するので、予習はせず、先入観なしに授業に臨み、その後必ず復習をして、納得のいかなかった点を次の授業でどんどん質問し、ディスカッションすること。</p>				
<b>評価方法</b>				
期末テスト（60%）、出席率（35%）、授業態度・貢献度（5%）の総合評価による。出席率70%を割った者は、期末テストを受けられない。				
<b>教科書</b>				
棚橋明美『日本語教育能力試験に合格するための聴解問題10』アルク				

選択 日本語学(音声・音韻) B		秋	週1回	2単位
担当者：中川 千恵子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>日本語のアクセント・イントネーション・リズムなどの韻律（プロソディー）について学習する。実際の音声を聞いたり発音してみたりすることで、アクセントやイントネーションなどの韻律特徴をとらえ、体系化することを学ぶ。日本語教育能力検定試験の出題内容も視野に入れ、試験問題なども扱う。</p> <p>日本語教育の観点から、日本語音声学・音韻論の中の韻律（プロソディー）についての知識と応用を学ぶ。前期の「日本語学(音声・音韻) A」を受講がのぞましい。</p> <p>日本人にとっては、自分の発音を客観的かつ論理的に考えること、外国人にとっては、日本語の発音を論理的に知ることが目標である。日本人学生と外国人学生が助け合って学習することも目標の一つである。</p>				
<b>評価方法</b>				
評価は筆記試験（60%）、授業中の課題への積極的な取り組み・参加度（30%）出席状況（10%）を総合して判定する。出席率70%を割った者は、期末テストを受けられない。				
<b>教科書</b>				
中川千恵子他『さらに進んだスピーチ・プレゼンのための日本語発音練習帳』ひつじ書房				

担当者：内藤 みち

**講義の目標及び概要**

1. 内容

日本語母語話者の言語意識及び言語行動を通し、日本語及び日本文化の特質を探る。必要に応じ、他言語や他国における言語意識・言語行動などを取り上げ、それらと比較しながら日本語の特徴的表現やコミュニケーションの規則性を見出ししていく。ほぼ毎回、授業内容に沿った小レポートが課題となる。小レポートがない場合は授業内容に関する復習小試験が実施される。(※受講生が60名を越えた場合には、小レポート及び復習試験に代わって、中間試験と期末試験を実施する。) ※以上のこと、変更される場合もある。

2. カリキュラム上の位置づけ

日本語学の基礎となる位置づけである。

3. 学びの意義と目標

日本語の中にある規則性を学び、日常使用している日本語の特質を自らを確認することを学習目標とする。

**評価方法**

レポート・小試験70% (これらに代わる中間試験・学期末試験を実施した場合は、各35%)、平常点10%、出席点20% (以上のこと変わることもある。)

**教科書**

プリントを配布する

担当者：木原 郁子

**講義の目標及び概要**

1. 内容

本講座は、(1)〈教室内発表〉と(2)〈期末レポート〉二つのタスクで構成される。

(1)；講義の参加者は、(1)から(13)までの話題(授業計画参照)の中からいくつかの話題を選び、事前に調べてレポートにまとめる。週ごとの話題についての担当者は、授業内で各自のレポート内容について報告する。その後全員でコメントや質問を行いながら、各話題について討論する。

(2)；講義での話題、或いは授業内で話し合った内容のいずれかの中から一つを選ぶ。

2. カリキュラム上の位置づけ

日本事情を、外国人の目から見た視点から読み解こうとするもので、日本事情を学習・教授するための基本的な内容である。

3. 学びの意義と目標

外国人の目から見た日本の社会生活・人間関係に関するエピソードを分析・討議することを通して、日本事情を学習・教授するとはどういうことなのかを知ることを目標とする。

**評価方法**

評価は、〈教室内発表〉(40%)〈期末レポート〉(30%)、討論への参加度(20%)、出席状況(10%)を総合して判定する。筆記試験は、期末も学期中途も一切行わない。

**教科書**

授業の中で指示する

担当者：内藤 みち

**講義の目標及び概要**

1. 内容

日常、目にしてしている伝統的な事物を外国人の目で見るともりて眺めてみる。例えば「色」「水引」「土俵祭り」「地名」「家紋」などがどのような意味をもっているのか等を学ぶ。授業内容の前半を試験範囲とする中間試験、後半を試験範囲とする学期末試験を実施する。(ただし、中間試験の追試は実施しない。)また、必要に応じてクイズを実施する予定である。(以上のこと、変更される場合もある。)

2. カリキュラム上の位置づけ

日本文化についてのイントロダクションとしての科目である。

3. 学びの意義と目標

身近にある日本の伝統的事物に様々な意味があること1つの授業目標とする。

**評価方法**

試験80%、平常点10%、出席点10%。(以上のこと、変更される場合もある。)欠席が3分の1以上の場合は評価対象とならない。

**教科書**

新谷尚紀『日本の暦と年中行事 和のしきたり』日本文芸社

担当者：川口 さち子

**講義の目標及び概要**

1. 内容 まず、いろいろな外国語教授法を学んだ上で、初級・中上級の指導法、4技能(聞く・話す・読む・書く)の指導法、教材の使い方などを中心に学んでいく。適宜教材作成も行う。本講座は、次の二つのタスクで構成されている。

(1)〈教室内発表〉数名の学生を指名してレポート(教材作成を含む)を書かせる。

担当者は、授業内で発表し、その後質疑応答を行う。

(2)〈期末レポート〉指定したいくつかの課題の中からひとつ選び、「期末レポート」を書き、期末最後の講義時間に提出する。

2. カリキュラム上の位置づけ 日本語教育概論をとった上で履修することがぞましい。

この講義で、教授法の全体的なことを学び、日本語教授法演習へと進む。

3. 学びの目標

第2外国語としての日本語を外国人に教えるとはどういうことかということを知り、実際の現場で応用できるようにする。

**評価方法**

評価は〈教室内発表〉(30%)〈期末レポート〉(50%)、討論への参加度および出席状況(20%)を総合して判定する。筆記試験は行わない。

**教科書**

小林 ミナ『よくわかる 教授法』(アルク)

選択 日本語教授法演習	秋 週2回 2単位
担当者：木原 郁子	
<b>講義の目標及び概要</b> 「外国人に対する日本語」の教え方の基礎を学ぶ。受講資格は、「日本語教授法講義」を履修済みであること。また、この演習の単位を取得しなければ、「日本語教育実習」の履修の資格は得られない。 「外国人に対する日本語の教師」になるための心構えをつくり、必要な基礎知識を身につける。また、いろいろな日本語教科書の特徴を調べる。特に、『みんなの日本語』を用い、日本語文法を「文型」という観点から学ぶ。 アセンブリーアワーに行われる実習報告会（例年10月または11月に実施）、留学生弁論大会（開催される場合は11月頃）への参加とレポート作成は、この授業の一環として必須事項とするのでスケジュールを空けておくこと。また、入試日などの大学休校日を利用して、日本語学校の授業見学を行う予定である。	
<b>評価方法</b> 期末試験（60%）、課題と授業への参加度（20%）、出席率（20%）の総合評価による。期末試験50%以上の得点、出席率70%以上、かつ課題提出率100%を単位取得の条件とする。	
<b>教科書</b> 『みんなの日本語Ⅰ 本冊』スリーエーネットワーク	

選択 日本語教育実習	春 週1回 1単位
担当者：川口 さち子	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉外国人学生に日本語を教えるための実践的な力を養う。 1 教室内作業 1) 教科書の各課の指導項目を把握・分析し、各項目の導入方法およびドリルや会話等の練習方法を学び、教案が立てられるようにする。 2) 指導項目にあった、教材が作成できるようにする。 3) 模擬実習を行い、実際の教壇に立てるようにする。 2 現場実習…夏休み前半の2週間を使い、実際に日本語学校で見学および教壇実習を行い、それぞれ見学ノート・教壇実習の教案およびレポート・日本語学校での実習を終えてのレポートを作成、提出する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉日本語教授法演習を終了し、いよいよ実践への応用となる。 〈学びの目標〉これを履修することにより、現場で実際に教えられる力を身につけてほしい。 ※このほかに、現場実習へ行く前に自主トレーニングを行ってもらう予定である。	
<b>評価方法</b> 〈教案〉（20%）〈教室発表〉（20%）、〈討論への参加度・実習での取り組み〉（10%）、出席状況（10%）〈実習レポート・見学ノートの内容〉（30%）、実習校における担当教師の評価（10%）	
<b>教科書</b> スリーエーネットワーク編『みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ』（スリーエーネットワーク）	

選必修 日本語学特殊講義	春 週2回 4単位
担当者：田川 拓海	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈講義の内容〉 この講義では、日本語について形態論/語構成論の観点から考察する。 前半では品詞と活用について考える。「品詞/活用」とはそもそもどのようなものなのかという点について確認し、学校文法の品詞/活用を言語学および日本語学の観点から検討する。またそれぞれの研究史についての概観や、他の言語の品詞/活用との比較も行う。 後半では語構成について考える。たとえば、「目立ちたがり屋さん」という語はどう分解することができるだろうか。新しいことが生み出される時、どのような語構成の方法が取られているだろうか。具体的な例を取り上げて分析・考察を行う。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 この授業は、言語学・日本語学の基本的な知識を踏まえ、その応用として形態論/語構成論のより深い知識と議論の方法を身につけるための専門科目の一つである。 〈学びの意義と目標〉 具体的な例に触れ、実際に分析したり議論したりすることによって、日本語の形態論/語構成の世界の豊かさ、奥深さを実感し理解を深めることを目的としたい。	
<b>評価方法</b> 学期末試験/レポート60%、出席20%、授業の活動への取り組み20%	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選必修 言語学特殊講義	秋 週2回 4単位
担当者：小林 茂之	
<b>講義の目標及び概要</b> 生成文法に基づいた歴史言語学である通時統語論を概説します。 通時統語論は、共時的な言語学である比較統語論で行われる「原理とパラメータのアプローチ」を通時的な言語研究に適用したものであり、最近では「ミニマリスト理論」を適用した研究も多い。個別言語間の違いを決定するパラメータについて、比較統語論・通時統語論の事例を解説する。また、「再分析」、「文法化」、「言語獲得」などの重要な言語変化のメカニズムについて解説する。 これまでの研究に、ヨーロッパ語を中心とした研究が多いため、英語を中心としたヨーロッパ語の事例を多く取り上げるようになるが、受講者に中国語話者や韓国語話者がいる場合には、それらのアジアの言語についても取り上げる予定である。	
<b>評価方法</b> 出席・平常点・期末レポート	
<b>教科書</b> Ian Roberts 『Diachronic Syntax』 Oxford University Press	

選択 異文化間コミュニケーション 秋 週2回 4単位

担当者：小松崎 利明

講義の目標及び概要

(1. 内容) 世界中の人々との出会いは、異なる文化との接触でもある。そして文化的背景が異なる他者との接触は、ときに、その文化に対する無知から誤解や偏見や紛争を生み、「国際問題」になることさえある。本講義では、人々の多様なコミュニケーションの背景にある様々な文化について学び、その文化的背景の相違が生み出す摩擦・紛争について考え、そしてより良いコミュニケーションのあり方を探ることを目的とする。

(2. カリキュラム上の位置づけ) 学科の専門科目であり、選択科目として2年次から4年次まで履修することができる。なお、教職資格を取得する際には、2年次からの選択科目である。

(3. 学びの目標) ヨーロッパ、アジアそして日本の文化について学習することにより、学生一人ひとりが様々な文化的背景をもつ人々との出会いにおいて、より深い他者理解・他者との交流ができるようになることを目指す。

評価方法

1. 出席 10%
2. 平常点(ディスカッションへの参加とコメントシートの提出) 30%
3. 学習確認テスト 30%
4. 期末レポート 30%

教科書

授業の中で指示する

選択 比較文学 秋 週2回 4単位

担当者：氏家 理恵

講義の目標及び概要

(内容)

本講義では、英語と日本語で書かれた韻文(詩・短歌・俳句など)を分析し比較することによって、それぞれの独自性とお互いの類似性を考察していく。歴史・リズム・形式・題材・イメージ・修辞法などさまざまな比較要素について概観するとともに、なるべく多くの作品を実際に鑑賞していく。

(カリキュラム上の位置づけ)

この科目は欧米文化学科の専門科目であると同時に日本文学学科の専門科目でもある。2年次生以上が対象であり、日本と欧米の文学的・文化的基礎知識がある程度あることが受講の前提条件となる。

(学びの目標)

自分の好きな詩や歌の歌詞などが、日本古来の韻文の伝統を継承しつつ西洋詩の影響を受けながら発展してきたことを再確認し、またグローバルな視点から日本の短歌や俳句をとらえ直すことによって、世界文学における日本の位置づけを知る。比較という視点を通して、韻文についてばかりでなく日欧の歴史・文学・文化についての知識を高める。

評価方法

1. 平常点(ミニツノート・確認テスト) 40%
  2. 課題 20%
  3. 中間レポート 20%
  4. 期末レポート 20%
- なお、レポートはオンライン提出とする。

教科書

プリントを配布する

選択 比較宗教学 秋 週2回 4単位

担当者：芦名 裕子

講義の目標及び概要

1. 内容  
宗教学は1870年頃、マックス・ミュラーによって提唱された新しい学問である。しかし、神学など、経典研究を中心とする学問の歴史はすでに確立していた。

そこで、まず、宗教学の基礎を講義し、世界の宗教を比較宗教学の視点から学んでいく。さらに、アジアの宗教にも焦点を置き、比較考察する。アジアの宗教に関しては、実際に調査した内容も報告する。また、私たち日本人の宗教観を世界の諸宗教と比較しながら、再考察し、身近な信仰についても考えてみよう。イスラム教にも焦点を置く。

パチカンの内部に迫るDVDによる授業(1回)

参考書 芦名定道編『比較宗教学への招待』(晃洋書房)

2. カリキュラム上の位置づけ  
宗教学の基礎を学ぶ。宗教への興味を喚起する。
3. 学びの意義と目標  
宗教学の基礎を学び、諸宗教の経典や内容を修得し、比較考察する。  
日本人の宗教を考え、身近な信仰についてもそのルーツ等を探る。

評価方法

筆記試験100%  
(基礎知識テスト50% レポートテスト50%)  
出席(参考程度)  
講義中の私語や携帯電話でマイナスにすることもある。

教科書

芦名裕子『楽しい宗教学』三恵社

選択 文化人類学 春 週2回 4単位

担当者：高橋 絵里香

講義の目標及び概要

1. 内容  
文化人類学は、地球上の様々な「異文化」についての知識を集めたものではなく、人間社会に関わる様々な現象について観察・理解するための視点である。日本から遠く離れた場所で行われる「奇妙」としか思えない習慣でも、そこには何か人類に共通するような思考の様式やテーマが存在している。そして、グローバル化した現代社会では、地理的な距離は関係なく、私達は同じ問題の別の側面を経験している。本講義では、基本トピックス(経済、宗教等)、現代的問題(ナショナリズム、ジェンダー等)、身近な現象(医療、介護等)を通じて、上記のような物事の見方を獲得していく。

2. カリキュラム上の位置づけ  
日本社会というものを相対化して理解するための基礎となる。
3. 学びの意義と目標  
文化人類学は、他の人間について想像力を働かせる訓練でもある。我々とは異なった考え方をする人々、はるか遠い場所に暮らす人々であっても、日本に暮らす我々と何らかの形で関係付けられるのであり、理解や共感が可能であると気付くための契機としてほしい。

評価方法

学期末の試験(100%)のみで評価。ただし正当な理由がなく4回以上欠席すると、受験資格を失う。

教科書

授業の中で指示する



選択 言語と社会		春	週2回	4単位
担当者：D. パーガー				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容：この授業では、比較言語・比較社会の観点から言語と社会の関係について取り上げる。日本語やアメリカ英語を始めとし、又、他言語も、どのように社会の中で使われているかを学ぶ。主な課題は(1)どのように言語が個人的、社会的なアイデンティティを表しているか(方言、二・多言語使用等)、(2)どのように人間関係が言語的に表われているか(丁寧表現、敬意表現等)、(3)社会変化と言語変化はどんな関係があるか(差別語、特に性差別語、非性差別語変革等)である。言語と社会の関係を理論的、実践的に解明する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：欧米文化学科の「言語」専門科目でもあり、日本文化学科の「比較文化系統」専門科目でもある。社会言語学の分野に位置づけの言語と社会の研究に関する入門的な授業である。</p> <p>3. 学びの目標：言語と社会の研究の主な課題を概観することを通して、受講生は社会的関係において言語の役割を理解するようになる目標がある。</p>				
<b>評価方法</b>				
20% クラスへの出席 20% 授業への参加態度 30% 小テスト 30% 期末試験				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 中国文学		秋	週2回	4単位
担当者：濱田 寛				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(内容) 中国六朝期の志怪小説の講読を中心とし、漢文読解力の涵養、基礎的な工具書の扱い方等にも配慮する。 (カリキュラム上の位置づけ) 中国の古典作品の読解・鑑賞を通して、中国文化の一端に触れるとともに、日本文化を改めて見つめ直す契機としたい。本講義は中高の国語科教員の免許取得を目指す学生には必修となっている。 (学びの意義と目標) 中国文学史上の「志怪小説」の位置づけを理解するとともに、具体的な作品の読解を通して、その作品世界に触れたい。また、上記のカリキュラム上の位置づけを踏まえて、基礎となる「訓読」についてより深い理解を目指す。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席点：30% 小レポート：20% 学期末レポート：50%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 中国思想		春	週2回	4単位
担当者：大坊 真伸				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>【はじめに】 この講義では、中国の古代思想「諸子百家」を中心に勉強していく。 一通りの概説の後、儒学が日本人に与えた影響などにも言及する。</p> <p>【講義内容】 今年度は「諸子百家」を扱う。 日本文化学科対象の講義ということなので、日本文学(中島敦など)との関連も紹介していきたい。</p> <p>【備考】 中国の思想に触れてもらうため日本語訳を読み、その日本語訳から漢文(原文)を読解する帰納的な授業を行う。儒教思想の特徴、正確な漢文訓読を講義の目的とする。</p>				
<b>評価方法</b>				
通常の定期試験(レポート)・出席状況・小テスト・授業態度によって評価する。 小テストは毎時間行う。 家庭学習用のテキストを一冊用意した。しっかり予習してきて欲しい。				
<b>教科書</b>				
森川敏行『完全征服 入試頻出 漢文《語と句形》』桐原書店 全国高等学校国語教育研究連合会『必携 明説漢文ノート 新訂版』尚文出版 須藤 明美『仁の里』かど創房				

選択 文化交流史(アジアと日本)A		春	週2回	4単位
担当者：濱田 寛				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(内容) 遣隋使・遣唐使をめぐる、人と物の交流を探る。 (カリキュラム上の位置づけ) 比較文化分野の科目として、日本と中国の文化交流を探る。日本と中国に残された資料を読解するためのスキルを身につけるとともに、「比較文化」という手法を学ぶ。 (学びの意義と目標) 「文化交流」とはどういうことなのか。過去に学び、現代を見つめたい。</p>				
<b>評価方法</b>				
授業への積極性(60%)・学期末レポート(40%)				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 文化交流史(アジアと日本)B 春 週2回 4単位

担当者: 小田川 興

講義の目標及び概要

【内容】韓国における日本大衆文化の開放を契機に、日韓両国の文化交流は急速に広がりつつあり、日本社会では「韓流文化」への関心が高い。その中核をなす韓国映画・ドラマは、開かれた文化の先進国である日本の作品の影響も受けてきた。いま注目される韓流映像は、植民地時代と冷戦期の負の遺産をバネに変えた韓国のダイナミズムを投影している。とくに冷戦終結後、南北の雪解けとともにタブーを振り払った作品群は国際映画祭でも高い評価を得て、世界に向けて強い発信力を誇っている。

本講義では韓国映画通史に触れた後、植民地時代を背景とする作品、解放から朝鮮戦争、独裁政権期の作品、次いで高度成長から民主化達成を映し出す韓国の注目作を通して、韓国社会の過去と現在を考察する。一方、日本の戦後社会が到達した一定の成熟を反映する作品を理解する。このように両国の映像群を社会的な視点から考察し、そこに表れた日韓文化の相互交流、また共通点や違いを比較・分析する。

【カリキュラム上の位置づけ】基礎であると同時に発展的学習への対応力を培う。

【学びの意義と目標】映像文化の比較を通じて、日韓の市民レベルでの文化創造と共生の可能性をも考える。

評価方法

出席と発表、レポートで総合的に評価する。

教科書

プリントを配布する  
寺脇研『韓国映画ベスト100』朝日新書

選択 文化交流史(欧米と日本) 秋 週2回 4単位

担当者: 黒木 章

講義の目標及び概要

【内容】最初の文部大臣森有礼の思想と行動を通じて日本の近代化の問題を考える。

【カリキュラム上の位置づけ】グローバルな視点で日本文化を考えるという学科の設立理念に沿って、森有礼の場合を具体的に検証しながら人間と社会・歴史と文化の問題を考える。この科目は他学科の学生たちにも解放されている。

【学びの意義と目標】夏目漱石が講演「現代日本の開化」で言ったように、日本の近代化は黒船来航が象徴するに欧米列強との出会いによって始まったといえる。森有礼の幕末の秘密留学の体験は彼の思想形成とその後の生き方に決定的な意味を持ち、そのことが彼の憲法発布当日朝の暗殺にも繋がると思われる。ここでは特に国民教育を巡って露になる明治初期の日本の可能性と挫折の問題を考えて、現代の我々の課題が逆照射できるようにする。

評価方法

授業出席と普通の授業参加態度を50%、学期末に試験の代わりに課すレポートを50%とみる。

教科書

プリントを配布する

選択 海外文化交流研修(アジア)B 秋集中 2単位

担当者: 渡辺 正人

講義の目標及び概要

◆内容◆

9月初めに実施する約10日間の韓国研修旅行を中心に、事前の「日韓交流史および韓国語」集中授業(夏期休暇中に実施)、及び、研修旅行後の研修レポートを通じて総合的に日本と韓国との文化交流の歴史と現在を学ぶものである。

◆カリキュラム上の位置づけ◆

1~4年生対象の〈比較文化系統〉の専門科目。この研修が学生諸君にとって学生時代における、尊く、かけがえのないものとなることを願ってやまない。さらには、そうした体験を得る学生たちを送り出すことが、日本文化学科としての財産ともなるものである。

◆学びの意義と目標◆

研修旅行においては提携校である啓明大学校との交流(交流会等)をメインに、韓国のヒト、モノ、コトに実際に触れ、関わることで直接的な「異文化体験」をすることになる。その体験は、学生個々の体験として、あるいは共に参加する学生たちのお互いの共有体験として、将来にわたって貴重なものとなるであろう。

評価方法

事前集中授業、研修旅行のすべてに出席し、かつ最終レポートを提出すること。事前事後の会合への出席状況も加味する。集中授業:20% 研修旅行及び研修レポート:60% その他ヴェリタス祭での発表など:20%

教科書

授業の中で指示する

選択 韓国文化演習 秋集中 4単位

担当者: 黒木 章

講義の目標及び概要

(1)本学と提携関係にある韓国啓明大学校の夏季セミナー(KLCC・3週間)に参加して、認定される科目である。午前中は韓国語を学び、午後は伝統的な韓国文化を体験する。韓国語のクラスは初級からの学びが可能である。また午後の韓国文化の体験学習は、韓国茶道、伝統演劇・音楽・舞踏・技術・武道、現地訪問など多彩なプログラムが用意されており、通例の留学では経験しがたいほどに豊富な内容になっている。

(2)「海外文化交流研修(アジア)」を経験してから、翌年この科目を履修するも良いし、その逆も有りうる。3週間の寮生活を通して、韓国文化の理解を深め、韓国の学生たちと交流を深めることが出来るのも魅力のひとつであろう。

(3)近くて遠い国といわれた韓国との関係改善は、次代を担う若者たちの相互理解から始まるといえる。啓明大学校での詳細が決定次第、募集にはいるので、掲示に気をつけて欲しい。費用は、昨年は国際センターの補助2万5千円があり、個人負担は26万円ほどであった。授業期間中は通訳兼チューター役の世話係りもついていてくれる。

評価方法

本学における事前準備講座、KLCCの研修の出席状況、事後のレポートにより総合的に評価する。

教科書

プリントを配布する

選択 文化とグローバル化—シヨシ 春 週2回 4単位
担当者：渡辺 正人
<b>講義の目標及び概要</b> 〈本講義の内容〉 日本の文化は、今「クール・ジャパン」と言われて世界各国各地域で受け入れられている。マンガやアニメなどの文化は、いつの間にか日本だけのものではなく、大きな文化を形成しているのである。そこで、まずは日本の文化の実情を探り、それがなぜ受け入れられていくのか、交流し協同してゆく文化の動きを考えることで、日本の文化を考え直してみたい。また、歴史的にも文化の交流と言う問題についても考えてみたい。  〈カリキュラム上の位置づけ〉 比較文化の入門的な意味を持っている。  〈学びの意義と目標〉 自国の文化への眼差しを、自国からだけではなく多角的に見ることができるようになる。
<b>評価方法</b> 2回のテスト各40%、出席10%、授業時のミニレポート10%で評価する。
<b>教科書</b> プリントを配布する

選択 韓国語コミュニケーションⅠ 春 週2回 2単位
担当者：溝口 カブスン
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 正確な発音に基づく反復指導をする。特に、語彙を増やすこと発話力に重点を置く。 文法事項の復習も併行して行う。 また、韓国の現代社会・文化を理解するための映像教材を積極的に活用していく。  2. カリキュラム上の位置づけ 韓国語Ⅰ・Ⅱ履修者を対象にする。 意思疎通が自由に行えるレベルにコミュニケーション能力を高める。  3. 学びの意義と目標 以下の能力を養成し、知識を深める。 1 韓国語で簡単な日常会話をすること 2 そのために必要な言語知識を身に付けること 3 韓国の現代社会・文化に対する理解を深めること
<b>評価方法</b> 出席を最重視する。(30%) 授業への参加態度、宿題・予告テストで平常点(30%)をつける。 学期末発表(40%)
<b>教科書</b> 溝口甲順『入門ドリル 書いて簡単!韓国語』一藝社

選択 韓国語コミュニケーションⅡ 秋 週2回 2単位
担当者：北原 スマ子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 韓国語Ⅰ、Ⅱの履修者を対象とし、会話を中心とする授業で、コミュニケーション力を養うとともに、言語の修得に不可欠な歴史や文化、社会などについての知識を広げる。伝統と現代の課題をテーマに、様々な事項を紹介していく。受講後に韓国旅行や留学がしたくなるような授業をしていきたい。受講者による報告も予定している。テキストを中心に進めるが、不足部分はプリントで補い、文化や歴史などの紹介では映像や出版物を積極的に使用していく。  2. カリキュラム上の位置づけ 韓国語並びに韓国学についての中級的な位置づけである。  3. 学びの意義と目標 韓国語で自分の思い、考えを伝えられる喜びを味わえるようになること。隣国の古代から現代に至る様々な事情に通じ、理解と関心を一層深めることができるようになること。
<b>評価方法</b> おおむねレポート50%、授業への参加度、小テストによる平常点20%、出席30%を基準として総合的に評価する。
<b>教科書</b> 長谷川由起子『コミュニケーション韓国語 会話編1』白帝社

選択 中国語コミュニケーションⅠ 春 週2回 2単位
担当者：関 子謙
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 目的 初級の段階を終え、さらに一段と上のレベルの中国語を学ぶ学生を対象とする。 2. カリキュラム上の位置づけ 発音の正確さ、ピンインのマスターを確認しつつ、積極的に話し、楽しい中国語を味わう中級に相当する科目である。 3. 学びの意義と目標 改革開放政策に転じて以来、中国は大きな変貌を遂げた。市場経済を導入したことによって、社会の構造が激しく変化し、中国人でさえもしばらく中国から離れていて帰国すると、まるで異国へ来たかのような印象を持つと言う。地理的に近く、交流の歴史も長いお隣の国である中国と、そこで暮らす人々の生活習慣、価値観に触れ、最新知識を増やし、更に中国語の力を伸ばすことを目標とする。
<b>評価方法</b> 出席状況(10%)、受講態度(30%)、定期試験(60%)により総合的に評価。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選択 中国語コミュニケーションB 秋 週2回 2単位

担当者：福田 素子

講義の目標及び概要

授業内容：

広告や映画DVDや新聞・雑誌など様々な教材を用い、中国語によるコミュニケーションや中国の文化を学ぶ。はじめ数回を文法復習に当て、その後は会話・読解と聴き取りを交互に行う。

カリキュラムにおける位置づけ：

中国語の初級文法を終了した学生が、更にコミュニケーション能力を高めることを目的とする授業である。

学びの意義と目標：

聞く・話す能力はもちろんのこと、中国語話者のものの考え方、コミュニケーションをとる時に留意する点についても身につけていきたい。

評価方法

出席・授業態度・レポートを等分に重視する。

教科書

プリントを配布する

選択 Intercultural Communication between Japan & the U.S/A-A 春 週2回 4単位

担当者：E. D. オズバーン

講義の目標及び概要

1. Content — This course introduces the fundamental principles of intercultural communication through the integration of concepts from the fields of social psychology, cultural anthropology, and communication theory. Particular emphasis is placed upon comparative culture, with the focus being upon Japan and America and the role that culture plays in the communication process between individuals from these two dynamic, yet very different, countries.

2. Role in the Curriculum — The course is designed specifically for exchange students in the Japan Studies Program (JSP), but it is also available as an elective to regular students whose English level is adequate.

3. Learning Objectives — The primary objectives are to familiarize students with the cultural influences on communication between Japanese and Americans and to apply the principles learned to the students' lives.

評価方法

Grades will be based upon attendance (15%), reading assignments (20%), a term paper (35%), and two examinations (15% each = 30%).

教科書

Jandt, Fred E. 『An Introduction to Intercultural Communication (6th edition)』 SAGE Publications, Inc.

選択 Intercultural Communication between Japan & the U.S/A-B 秋 週2回 4単位

担当者：E. D. オズバーン

講義の目標及び概要

1. Content — This course reviews the concepts of intercultural communication covered during the first semester, specifically those that apply directly to Japan and America. The cultural differences between these two countries are highlighted and the implications for intercultural communication delineated, with particular emphasis placed upon the development of intercultural competence.

2. Role in the Curriculum — The course is designed specifically for exchange students in the Japan Studies Program (JSP), but it is also available as an elective to regular students whose English level is adequate.

3. Learning Objective — The fundamental objectives are to further deepen students' awareness and understanding of the profound influence that culture has upon communication between Japanese and Americans and to learn and apply the specific theories of communication that are most apropos.

評価方法

Grades will be based upon attendance (15%), reading assignments (20%), a term paper (35%), and two examinations (15% each = 30%).

教科書

Jandt, Fred E. 『An Introduction to Intercultural Communication (6th edition)』 SAGE Publications, Inc.

選択 Special Lecture Series A 春 週1回 2単位

担当者：E. D. オズバーン

講義の目標及び概要

1. Content — This is a flexible course, with a variety of topics related to Japan and Japanese culture being taught. The first semester course is primarily a survey of key aspects of Japanese history, anthropology, religion, and culture.

2. Role in the Curriculum — The course is designed specifically for exchange students in the Japan Studies Program (JSP), but it is also available as an elective to regular students whose English level is adequate.

3. Learning Objective — The overall objective is to provide students with a broad understanding of the richness of studies on Japan in order to whet their appetite for further in-depth investigation of subjects of particular interest to the individual.

評価方法

Grades will be based upon attendance & participation (15%), reading assignments (20%), a term paper (35%), and two examinations (15% each = 30%).

教科書

プリントを配布する

選択 日本文学史(上代・中古)		秋	週2回	4単位
担当者：神野志 幸恵				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容</p> <p>日本は、はじめ固有の文字を持たなかった。中国の漢字を受け入れて文字を持つようになったことから始まり、漢字を利用しつつ、自らの文字を生み出し、文学作品を作り出す過程は、当時の政治状況と深くかかわっている。</p> <p>その関係を明らかにすると共に、平安時代までの範囲で、文学史について具体的な作品に触れながら概観する。作品の名前を年代順に並べて文学史として学ぶ結果、名前だけ知っているというようなことにならないよう、作品そのものに接しながら見ていきたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置</p> <p>文学史だけではなく、大きく歴史の流れの中で、個々の作品をとらえることは大事だが、特にその出発点において、作品にいたるまでの経緯も含めてきちんと確認しておくこと。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>文学史という流れの中で、作品をとらえると同時に作品そのものの一端にもふれること。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席、授業態度、学期末の試験またはレポートによって評価する。出席ー20点、ノート、プリントの整理ー10点、授業態度ー10点、レポートー60点、とする。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 日本文学史(中世・近世)		春	週2回	4単位
担当者：家永 香織				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(内容) 中世・近世(時代というなら鎌倉時代から江戸時代まで)の文学作品を取り上げる。それまで貴族階級がほぼ独占していた文化形成の場に、まず武士階級が、そして町人階級が参入していく時期であり、俗っぽさ・人間臭さ・猥雑さ・生活感など王朝文化には見られない特徴が現れると同時に、王朝文化に対する遙かなるあこがれも見出せる時代である。雅やかな王朝文化とは違ったおもしろさを味わってほしい。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉本学では、日本文学史を上代・中古、中世・近世、近現代の三科目に分けて講義している。その中の一つであり、日本文化を学ぶ上での基礎となる講義である。</p> <p>〈学びの意義と目標〉中世・近世の文学作品から著名なもの、重要なものを選んで取り上げる。各々の作品の独自性を明らかにすると同時に、他の作品との関連や、文学史の中でその作品がどのような位置を占めるかといった視点も大切に読解を進める。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席及び受講態度(50%)・学年末テスト(50%)により評価する。たとえ欠席無しても、テストの点数によっては単位を与えないことがある。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 日本文学史(近現代)		秋	週2回	4単位
担当者：前田 潤				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>◆内容</p> <p>明治初期から平成に至るまでの日本文学の歩みを概観する。画期的な意味を持つ文学作品や文学者の動向に触れ、その歴史的位 置を確認すると共に、同時代の文化社会の中でそれらがどのような役割を果たしていたのかに言及する。特に政治や労働運動、活字出版メディアの史的展開と文学言説との関わりについては詳しく見取り図を引いてゆきたい。授業では項目を挙げるだけの解説は避け、記憶に残るような鮮烈な文学者の言動を紹介したいと考えている。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ</p> <p>国語科教員資格取得者にとつての必修科目。もちろん、資格取得を目指さない学生も受講できる。近現代の日本文学や日本文化に関心のある人にふさわしい科目である。</p> <p>◆学びの意義と目標</p> <p>近現代の主要な文学作品成立の史的背景を理解し、「近代」のあらゆる時期において「文学」が果たしてきた役割について思考する。</p>				
<b>評価方法</b>				
平常点(出席、必要に応じて随時実施する小課題・小テスト)50% + 最終試験50%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 日本文学研究と批評(古典Ⅱ)		春	週2回	4単位
担当者：高桑 佳典子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(内容) 歌物語の代表作としてポピュラーな『伊勢物語』を講読していきます。主人公である色好みの貴公子・在原業平の人間像は、作品の大きな魅力になっています。授業では、業平の生きた時代背景や風俗習慣を確認しつつ、丁寧な読みをしていきます。</p> <p>二条の後や伊勢の齋宮との許されない恋や、惟喬親王等との交流の中で詠まれた心打つ和歌の数々。『伊勢物語』は、それら業平の歌にまつわる話、業平以外の人々の歌にまつわる物語も取り込みつつ、全体として業平のみやびの世界が形成されています。古典教材として広く親しまれているこの物語をじっくり味わっていきます。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)『伊勢物語』は平安中期の作品で、同時代の『古今集』との関わりも深く、また『源氏物語』をはじめ後世の文学作品にも影響を及ぼし、絵画等の題材にもなっています。これらとの関係、発展を考える上でも重要な作品です。</p> <p>(学びの意義と目標)在原業平という人物、また歌物語の形成への理解を深め、平安朝の美意識への理解も深めていきます。教職を目指す学生の古典対応力増強も目標です。</p>				
<b>評価方法</b>				
授業参加態度(25%) 授業時提出物(25%) 期末試験(50%)で評価します。				
<b>教科書</b>				
石田穰二『伊勢物語』角川ソフィア文庫				

選択 日本文学研究と批評(古典②) 春 週2回 4単位

担当者：上野 麻美

講義の目標及び概要

中世に生まれた『平家物語』は、その後の日本の文学・美術・音楽・芸能など、多岐にわたる分野に影響を与え、今なお、テレビドラマや演劇を通して、人々に愛され続けている古典作品である。本講座では、平家物語の名場面を中心に、分析と鑑賞を行う。授業では、本文の通釈のみにとどまらず、歴史的記録類との比較、社会史的観点からの分析、民俗学的分析など、各方面からの立体的な考察を試みる。こうした考察を通して、受講生には研究の具体的な方法を学びとってほしい。

評価方法

出席30%、課題30%、試験40%

教科書

プリントを配布する

選択 日本文学研究と批評(古典③) 秋 週2回 4単位

担当者：上宇都 ゆりほ

講義の目標及び概要

【内容】日本を代表する文学作品のひとつである『平家物語』を原文で読んでみよう。性たちのすがたをいきいきと感じることによって、平安時代の貴族の恋愛観や人生の苦悩に迫りたい。また『平家物語』とはどのような作品か、各巻から抽出したエピソードを語る物語の一部を原文で読み解き、本作品の魅力に迫りたい。今年は学生参加のスタイルで授業を進めるので、初回の授業には必ず出席すること。

【カリキュラム上の位置づけ】2年生以上が選択できる文学系統の科目である。春学期に古典日本語を履修した学生は、積極的に古典作品に挑戦し、古典文学研究の方法を身に付けてほしい。(古典日本語を履修していない学生も歓迎する)

【学びの目標と意義】辞書を片手に自力で古典作品を読解できる力を養う。あわせて作品の時代背景を学び、王朝貴族の生き方や価値観等についても考察する。春学期に『徒然草』を学んだ学生は、物語と随筆という二つの作品のあり方、中古・中世の時代思潮の相違や、宮廷女房と隠者という作者のありようの相違が、それぞれの作品の特質とどのように関わるかを考えてほしい。

評価方法

各自が授業において発表し、それにもとづいて討論された内容を検討してまとめたレポートを提出してもらう。この点数を50%とし、それに授業への出席と討議への参加の状態、担当時の発表を平常点(50%)を加えて、総合的に評価する。

教科書

角川書店編『角川ソフィア文庫ビギナーズ・クラシックス 平家物語』角川書店  
古典文法の教科書(各自のものでよい)  
『古語辞典』か電子辞書(各自のものでよい)

選択 日本文学研究と批評(近現代①) 春 週2回 4単位

担当者：武田 秀美

講義の目標及び概要

1 内容  
日本の近・現代の代表的作家による短編名作を探り上げて、作家と作品の研究、読書指導と考え方について、講義を基本としながら、学生による発表も交えて進めます。

2 カリキュラムの位置づけ  
日本の近・現代の文学作品の解釈と鑑賞を通して、作家と作品の基本的な研究方法を学ぶ授業です。  
具体的には、作家、作品、主要テーマ、作品構成、人物造型、文体、表現技法、成立背景、同時代評、先行論文等の総合的研究の方法を学びます。

3 学びの意義と目標  
以下の三つを目標とします。  
(1) 文学作品の基本的な研究方法の習得  
(2) 自分の意見を論証・論述する基本的な方法の習得。  
(3) 卒業論文の執筆にも役立つ基礎的な文学知識の習得。  
\*なお、採り上げる作品は、一部変更される場合もあります。

評価方法

レポート(50%)、発表(30%)、出席状況と授業への参加度(20%)により、総合的に評価します。

教科書

プリントを配布する

選択 日本文学研究と批評(近現代②) 秋 週2回 4単位

担当者：前田 潤

講義の目標及び概要

◆芥川龍之介を中心とする大正・昭和期の「短編小説」を主な考察対象としながら、「文学」にアプローチする多様な視点や方法論(文学理論)に触れると共に、資料の探し方+使い方、立論に至るまでの正しい手続きなど、近現代文学研究の基礎を学ぶ。各テキストの成立過程の検証を通じて、文学作品がどのような文化・社会的条件のもとで、どのような歴史的限界を背負って誕生するのかをつぶさに検討する。

◆文学研究・文化研究の基礎を学ぶ講座である。  
◆この講義では、近現代の文学テキストを精読し、先行する他者の見解を整理した上で、意識的に自己の意見形成をはかる訓練をしてもらいたいと考えている。意見を「作り」、わかりやすく「伝達する」ことを前提として、テキストを丁寧に「読む」講座である。

評価方法

出席+毎回提出の小文(50%)、ならびに最終試験(50%)で評価する。

教科書

プリントを配布する

選択 日本文学の中のキリスト教①		秋	週1回	2単位
担当者：武田 秀美				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1 内容 西洋文学の影響においてキリスト教と深い関わりを持った近代作家芥川龍之介、有島武郎と、クリスチャン作家遠藤周作の小説を採り上げ、文学とキリスト教の関わりについて学びます。				
2 カリキュラム上の位置づけ 日本の近代文学における「文学とキリスト教」のテーマについて理解を深めるための授業です。				
3 学びの意義と目標 以下の二つを目標とします。 (1) 近・現代の文学作品の基本的な研究方法の習得。 (2) 日本の近・現代文学に見られるキリスト教のテーマへの理解。 なお、採り上げる作品は、一部変更する場合があります。				
<b>評価方法</b> (1) レポート (70%)、出席状況と授業への参加度 (30%) により、総合的に評価します。				
<b>教科書</b> 遠藤周作『深い河』講談社 (文庫)				

選択 児童文学		春	週2回	4単位
担当者：藤田 のぼる				
<b>講義の目標及び概要</b>				
●一口に「児童文学」といっても、童話、小説、詩、絵本、ノンフィクションといったジャンルがあり、これを数ヶ月間の講義でこなすのは難題です。が、あえて欲張ってそれをやってみたくと思っています。ですからこの講義はかなり駆け足の進行になります。				
●全体は前半と後半に大きく分かれます。前半は、さまざまな児童文学作品を紹介していくという内容になります。題材、テーマ、方法、思想などの角度から、毎回3作程度の作品を紹介し、短編や長編の一部を実際に読んでみます。これらを通して、児童文学がなにを、どのように描いているのかをみてもらいます。言うまでもなく、児童文学は第一義には子どもの読者に向けて書かれたものですが、今子ども時代と完全に訣別しようとしている時期に児童文学に改めて触れることは、格別の意義があると思います。				
●後半のテーマは、「(児童)文学を読むということは、読者にとってどのような行為なのか」ということについて考えるということです。特に児童文学の場合、それを読むことが子どもにとって無条件に「良いこと」とされ、場合によっては強制されたりもするわけですが、本とは、物語とはどのようなものなのかを、皆さんの子ども時代の体験なども合わせながら考えていきたいと思ひます。				
<b>評価方法</b> 基本的には、学期末に提出のレポートによる。				
<b>教科書</b> 藤田のぼる『児童文学への3つの質問』てらいんく				

選必 日本文学特殊講義①		秋	週2回	4単位
担当者：冢永 香織				
<b>講義の目標及び概要</b>				
〈内容〉和歌を抜きにして、日本文学を語ることはできない。しかし和歌は難しくわかりにくい、とっつきにくい、と思われがちである。そこで本講義では、和歌単体ではなく、散文(物語・日記・説話など普通の文章)に取り込まれた和歌を取り上げ、和歌が散文の中でどのように機能しているか、という観点で、和歌を読み解いていきたい。平安後期～鎌倉時代の物語・日記・説話を読みながら、和歌のおもしろさを味わって欲しい。				
〈カリキュラム上の位置づけ〉文学系統の科目。基礎的知識から更に一步進んだ読解を行うが、決して難解な内容ではない。				
〈学びの意義と目標〉たった一首の和歌があることによって、物語の主人公の性格が明らかになったり、場面が劇的に盛り上がりたりすることもある。また、一首の和歌に基づいて、物語や説話が生まれることもある。物語・日記・説話の中で、和歌がどのような役割を果たしているかを読み解くことを目標とする。				
<b>評価方法</b> 出席・授業態度 (50%)、学年末テスト (50%) で評価する。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選必 日本文学特殊講義②		春	週2回	4単位
担当者：前田 潤				
<b>講義の目標及び概要</b>				
◆自らの生命と関わる重大な危機に遭遇した際に、われわれは手にしているベストセラー小説を読み続けることができるであろうか。関東大震災および阪神淡路大震災の発生が、小説を書くことや読むこと、また、新聞雑誌に連載中の小説や各種刊行物にどのような影響を与えたのかをつぶさに検討する。同時に、多くの文学作品の中絶・変貌・誕生と深く関わる、震災直下のメディア状況や、罹災社会の混乱を考察する。なお、授業では映像資料を活用する。				
◆専門領域への知を深化させてゆく契機となる講座である。				
◆小説の言葉が、現実とどのように関わりながら編成されてゆくのかを知ると共に、震災被害の実態や社会・文化への影響、復興の問題点などについても学んでゆく。				
<b>評価方法</b> 出席+毎回提出の小文 (50%)、最終試験 (50%)。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

日本文学  
化学  
学部

選択 日本の歴史(近現代)

秋 週2回 4単位

担当者：川崎 司

講義の目標及び概要

1. 内容

過去は未来のためにある。知ること学ぶことによって、私たちは過ちのない「歴史」を次の世代へ送り届ける役割を担っている。歴史の傍観者であっては決してならない。自ら主体的に参加していかなければならない。そのためには豊かで柔軟な歴史認識を身につける必要がある。国家を絶対的な基準とするテキストには十分に書かれていない、これまで見過ごされてきた出来事や人物にも光を当てるなど、さまざまな視点や視座から検証を重ね、すでに出来上がってしまった「歴史」を見直したい。

2. カリキュラム上の位置づけ

これまで学んできたテキストの枠を超えて、歴史の見方をより深めていく。

3. 学びの目標

「歴史」を創ってきた無数の人々の記憶の中に、明日をよりよく生きるための新たな手がかりを見いだし、波高いこの世を乗り越えていくエネルギーとしたい。この授業は、志に燃えた、意欲あふれる皆さんのために開かれている。

評価方法

出席状況、期末テスト、レポートをほぼ同程度に見る。

教科書

プリントを配布する

選択 日本の思想(儒教)

秋 週1回 2単位

担当者：上安 祥子

講義の目標及び概要

◆内容◆

日本の思想家たちは、儒教の概念や理論を用いて、何を語ったのか？ 儒教が経済や政治を論じる言説として、積極的に現実の社会と切り結んでいた近世において、〈公共性への志向〉という潮流が立ち現れてくる。何が問題として見出され、それを解決するために、何がどのように表現されたのか。歴史や社会の変容を多層的にとらえることを可能にするために、問題を解決する方途として、実現されたものだけではなく、模索された選択肢をも分析しながら、その潮流をたどっていくこととしたい。

◆カリキュラム上の位置づけ◆

2～4年生を対象とする、〈歴史・思想系統〉の専門科目(選択科目)。

◆学びの意義と目標◆

社会の一員である限り、誰しも〈公共性〉を媒介にした、自己と他者との関係性の中に生きている。本講義は、近世という過去の時代における〈公共性〉観念の形成を明らかにするだけではなく、未来に向けた〈公共性〉の構築という、現代的な課題としてとらえ直し、ひとりひとりがその課題に向き合うきっかけの場となることを目指している。

評価方法

■カード40%＋学期末試験60%…カード提出は毎時間。講義内容に対する理解力だけではなく、表現力や視点の独自性を重視し、優秀者には加点。

■出席回数が授業回数の3分の2に達しない場合、単位取得資格を失い、学期末試験は受験できない。

教科書

プリントを配布する

選択 日本の思想(仏教)

春 週1回 2単位

担当者：高山 秀嗣

講義の目標及び概要

本講義では、日本の歴史における仏教の推移過程についてさまざまな角度から検討を行っていく。日本仏教史の流れを概観することで、仏教を取り巻く周辺状況である日本の思想や文化などについても視野を広げて学びを深めていくことを目的とする。基本的には講義形式であるが、テーマを決めてグループ発表も行っていく予定。

評価方法

出席(3分の2以上出席のこと)・グループ発表・レポート

教科書

末木文美士・監修『仏教』PHP研究所

選択 日本の思想(キリスト教)

秋 週1回 2単位

担当者：村松 晋

講義の目標及び概要

[授業内容]

キリスト教をめぐる繰り広げられた、思想史上の教あるドラマについて、幅広い観点から考察を加えることにより、「キリスト教」ならびに「日本史」へのイメージを刷新し、その実像に迫る手立てを獲得してもらう。そのプロセスとおし、皆さんが「生きることの意味」を主体的に考えられるような授業を心がけていく。

[カリキュラム上の位置づけ]

「関連文化」「日本思想入門」を併せて受講することが望ましい。

[学びの意義と目標]

キリスト教はもちろんのこと、日本の歴史・思想全般を視ていくための新しい視点を獲得し、上記領域への関心を深めていくこと。

評価方法

・期末試験によって評価する。  
・出席は毎回取る。  
・全授業数の三分の一以上欠席したものには期末試験の受験資格を与えない。

教科書

プリントを配布する



選択 女性学		春	週2回	4単位
担当者：藤田 和美				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 女性学とは、既存の知や文化を、ジェンダー（性別）の視点から読み直し、読みかえるものである。近代以降の女性解放運動から現代の女性学研究、更には男性学研究までの学問の成立の歴史的過程をたどりながら、その成果を学び、性・結婚・労働・メディア・教育など、現代の私達を取り巻く諸問題について考える。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 女性学は研究のための研究ではなく、性差別からの解放を訴えた社会運動と、多分野の学問研究の知見が連動して形成された実践的、かつ学際的な学問研究である。歴史学、文化人類学、心理学、文学、芸術批評、経済学、法学、社会学、教育学、自然科学など各研究分野における理論的枠組みや方法論などを参考にして、女性であれ、男性であれ、性別にかかわらず私達一人一人が〈自分らしさ〉を大切にして主体的に考え、行動することができるような性と生のあり方を探っていきたい。授業は講義を中心に進めるが、グループ学習もおこなう。ビデオなどの視聴覚教材も利用する。毎回授業時に感想を提出してもらおう。</p> <p>3. 学びの意義と目標 ジェンダー問題への認識を深め、問題解決能力を養う。</p>				
<b>評価方法</b>				
レポート(50%)と授業時に毎回提出する感想文(50%)で評価する。試験は実施しない。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 歴史と文化		春	週2回	4単位
担当者：東島 誠				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>◆内容◆ 大規模な災害が起こったとき、人々はいかに行動してきたか。この講義では、18世紀中ごろの、ある匿名の一女性の行動を糸口として、そこから現代のNGOやNPOのボランティア活動にも通じるような、社会関係の構築可能性を〈文化〉の中に見出していく。その際、人々の間を〈橋渡し〉するメディエーターの役割に注目したい。前近代社会のメディアが、次の時代のどのような新しい社会性を生み出していくのだろうか。メディアロジーという視点に立って、諸君とともに考えていこう。</p> <p>◆科目の学内的位置づけと目標◆ 2～4年生を対象とする〈歴史・思想系統〉の専門科目。「難しかったが、大学で勉強した気になった」という学生のカードが、この科目の雰囲気をよく表していると思う。</p> <p>◆学びのパブリックな意義◆ この科目で問いかけている内容は、2007年5月19日付『朝日新聞』夕刊「テークオフ」に、『『江湖』に公共性見いだす』として取り上げられた。素材ははるか昔の歴史のなかにあるが、今、そしてこれからを考える授業である。</p>				
<b>評価方法</b>				
中間試験＝前半のまとめ(30)＋学期末レポート(40)＋授業カードによる平常点(30＋優秀者には加点あり)。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 歴史と社会		春	週2回	4単位
担当者：川崎 司				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 喜びと怒りと哀しみと楽しみと、繰り返され積み重ねられていく「歴史」の姿。そこに刻まれた「社会」の諸相。誰もが限られた時の中で躍動し、輝きを放つ。いとおいしい日常の営み。父母や祖父母の世代に起きたことが、さまざまに関連し合っただけで今日の「社会」ができていく。その間に語り継がれてきた「歴史」の映像に五感を傾け、そこに流れている普遍的なるものを探求し、歪んだ自己満足を排し、明日をよりよく生きるための指針としたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ。 1945年の終戦記念の日を起点とし、以後の復興から繁栄の道を駆け上った60余年を、歴史学的・社会的な見地からじっくり見つけてみる。</p> <p>3. 学びの意義と目標 現在の暮らしの原点を探し、その間に何が生まれて何が失われていったのかを、遺された映像記録の中から共に検証していきたい。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席状況、期末テスト、レポートをほぼ同程度に見る。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 日本史特殊講義		春	週2回	4単位
担当者：東島 誠				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>◆内容◆ 古文書・古記録などの「史料」には、いまだ誰も論じていない未発見・未解明の事実が、それこそ無教に埋蔵されている。この講義では、「史料」を読む力を初歩から養成しながら、歴史家が歴史を再構成していくプロセスの醍醐味を、多角的に学び、体験していただくことになろう。</p> <p>◆科目の学内的位置づけと目標◆ 3～4年生を対象とする〈歴史・思想系統〉の専門科目。来るべきカリキュラム改訂をも射程に入れ、2010年度より内容を一新して再スタートする、選択必修科目である。2回に1回の割合で、毛筆のくずし字を、楽しみながら読めるようになるための、「特別演習指導」もあわせて受けることが出来る。</p> <p>◆学びのパブリックな意義◆ 大学教員は、過去の歴史を〈生きた言説〉で語ることもできれば、現代の社会を〈死んだ言説〉で語ることもできる。この授業は前者である。</p>				
<b>評価方法</b>				
中間試験・学期末試験のうち得点率の高い方(50)＋中間試験・学期末試験のうち得点率の低い方(20)＋授業内での提出カード(30＋平常点の優秀者には加点あり)。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 日本の演劇(中世・近世)

春 週2回 4単位

担当者：寺田 詩麻

講義の目標及び概要

(1)専門科目の「文化」科目に属します。  
 (2)演劇はどのような文化においても、人間の生活や思考を表現する方法として重要です。日本の中世・近世に誕生し発展した能・狂言・文楽(人形浄瑠璃)・歌舞伎はそれぞれ、何百年も昔の人たちの生活や思考のありさまをよく伝える演劇として、時代に合わせて上演のしかたを変化させながら、現在もさかんに上演されています。

この授業では能・狂言・文楽・歌舞伎のなりたちと特性について、後半は歌舞伎中心となりますが、教科書と、必要に応じてプリント教材・映像資料を使いながら解説します。

近年、どのジャンルでも20代から40代の役者が同世代の観客を集めようとする意欲的な公演をたくさん行っています。興味を持ったら、見たい公演を自分で調べて実際に劇場で見ることを強くおすすめしますが、この授業がきっかけのひとつになればと考えています。

評価方法

毎回の出席カードへの感想・疑問点などの記入と期末レポートの総合で評価します。レポートの課題は第1回のガイダンスで提示します。3000～4000字以内。

教科書

古井戸秀夫 編『新潮日本文学アルバム 歌舞伎』新潮社

選択 日本の美術

秋 週2回 4単位

担当者：佐伯 英里子

講義の目標及び概要

授業のねらいと概要

日本美術の大きな流れは、他の文化領域と同様、常に外来の刺激を受け(近代以前は主に中国、以降は西欧諸国)その摂取消化を繰り返してきた。しかしそこには常に独自の日本の受容の姿勢、日本的な嗜好の選択が働いていたといえよう。本講義では、そうした外来と和との融合相克のなかで、一貫して変わらず続いてきた日本美術の実態を明らかにすることを目標に、絵画史を中心に概観したい。

カリキュラム上の位置付け

真の国際化が求められる現在、アニメや漫画など、日本のヴィジュアルイメージの発信力は世界的注目を集めている。本講義では、そうした視覚芸術に興味を持つ意欲的な生徒の履修を推奨する。

学びの意義と目標

美術作品を単に感覚的に受け止めることから一歩進んで、表現の背後にある意味を読み解き、より深く鑑賞することにより、現在の問題意識ともリンクさせて考える力を養うことが期待される。

評価方法

期末試験50%、課題レポート30%(自主レポートは加点)出席率20%

教科書

辻惟雄監修『日本美術史ハンドブック』東京美術

選択 日本の音楽A

春 週1回 2単位

担当者：鈴木 英一

講義の目標及び概要

1. 内容 指導要領に和楽器が導入され、メディアに津軽三味線などの若き邦楽ミュージシャンが取り上げられ、現在は小さな邦楽ブームといえる状態にある。これは日本音楽が「見直された」結果であろうか、あるいは若者たちが耳慣れない音楽を新たに「発見」した状況なのだろうか。それとも伝統音楽の変質か。日本音楽の存在価値を見極めてみたい。

2. カリキュラム上の位置づけ 「A」では主に近世以前の音楽を中心に扱い、各ジャンルについて随時補足する。

3. 学びの意義と目標 まず重層的な日本の伝統音楽を紹介する。雅楽・能楽・浄瑠璃・近世三味線)邦楽・洋楽流入……現代音楽まで、各時代の代表的な音楽が、いまなおライブで聞くことができるのが日本文化の特異性である。これらを実際に鑑賞し、そのそれぞれの文化としての特殊性と、音楽としての普遍性を検証することを主な目標とする。さらに講師は邦楽演奏家でもあるので、授業の中で実際に和楽器や歌唱を体験させることも考えており、今まで培ってきた音楽観を問い直して貰いたいと思う。

評価方法

講師が紹介する日本音楽の公演、或いは音盤を鑑賞した上で、授業内容が反映されたレポートを提出して貰う。期末レポート80%、平常点20%で評価する。

教科書

授業の中で指示する

選択 日本の音楽B

秋 週1回 2単位

担当者：鈴木 英一

講義の目標及び概要

1. 内容 指導要領に和楽器が導入され、メディアに津軽三味線の若き邦楽ミュージシャンが取り上げられ、現在は小さな邦楽ブームといえる状態にある。これは日本音楽が「見直された」結果であろうか、あるいは若者たちが耳慣れない音楽を新たに「発見」した状況なのだろうか。それとも伝統音楽の変質か。日本音楽の存在価値を見極めてみたい。

2. カリキュラム上の位置づけ 「B」では近世以降の劇場音楽を中心に扱う。

3. 学びの意義と目標 まず重層的な日本の伝統音楽を紹介する。雅楽・能楽・浄瑠璃・近世(三味線)邦楽・洋楽流入……現代音楽まで、各時代の代表的な音楽が、いまなおライブで聞くことができるのが日本文化の特異性である。これらを実際に鑑賞し、そのそれぞれの文化としての特殊性と、音楽としての普遍性を検証することを主な目標とする。さらに講師は邦楽演奏家でもあるので、授業の中で実際に和楽器や歌唱を体験させることも考えており、今まで培ってきた音楽観を問い直して貰いたいと思う。

評価方法

講師が紹介する日本音楽の公演、或いは音盤を鑑賞した上で、授業内容が反映されたレポートを提出して貰う。期末レポート80%、平常点20%で評価する。

教科書

授業の中で指示する

選択 日本の民俗	秋	週2回	4単位
担当者：柏木 亨介			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1、目的 日本の人びとはどのような場面で喜び、悲しんできたのか。そして、その気持ちをどのようなかたちで表現してきたのか。本講義では、この点について民俗を通して考える。具体的には、都市や農村の社会構造、年中行事（盆・正月、祭り）、人生儀礼（婚姻、出産、葬送儀礼）の現在と過去のあり方を見比べて、日常生活の移り変わりを検討する。			
2、カリキュラム上の位置づけ 入門的位置づけである。民俗学は日本文化を理解する一つの方法、手がかりになる。			
3、学びの意義と目標 私たちの生活を改めて振り返る機会をもち、その知識と思考枠組みを再認識すること。			
〈参考文献〉 福田アジオほか編『図説日本民俗学』（吉川弘文館、2009年）			
<b>評価方法</b> 出席50%、レポート25%、試験25%で算出する。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

選択 日本のポップ・カルチャー	秋	週2回	4単位
担当者：清水 均			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1、内容 「文化」という概念は時に「国民文化」という枠組みを持つことにより狭量なナショナリズムに陥りやすい。一方、ポップ・カルチャーは国境を越えた文化の共有意識を得る可能性を秘め、本質的な意味でのグローバル化を実現しうると考えられる。本講義では、グローバルな視点ということ「境界線を越える」という意味で捉えることによって、我々の生の営みにおける様々な「無境界性」というものに焦点をあてる。			
2、カリキュラム上の位置づけ カリキュラム上では「文化」の領域に設定されているが、「文化」そのものの意味を問うことを目指しているため、どのジャンルに関心を持つ学生も、あるいは他学科の学生にも「文化学」の基礎として受講してもらいたい。			
3、学びの意義と目標 昨今、日本のポップ・カルチャーは「クール・ジャパン」として海外からも注目されているが、その実態を検証することで学生個々の生の現場というものを確認してもらいたい。			
<b>評価方法</b> (1)出席点：50% (2)最終レポート：40% (3)授業で課す課題：10%			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選択 こどもと文化	春	週1回	2単位
担当者：寺崎 恵子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1 内容 「文化」の観点で人間をみたとき、「こども」は私たちにどのように見えてくる人たちだろうか？「こども」はどんなところに・どんなふうにして居る人たちだろうか？ こうした問題意識をもって「こども」を把握してみたい。			
2 カリキュラム上の位置づけ 日本文化学科の学生を対象として開講される科目である。			
3 学びの意義と目標 「こども」を把握することは、「おとな」として生きている私たち自身のことを確認することでもある。当たり前だと思っている自分自身のことを、「こども」を通じて改めて見つめなおしてみると、新たな発見がある。それが、「こども」のことを学ぶおもしろさでもある。そうしたおもしろさを、ぜひ、共に感じ取りたい。			
<b>評価方法</b> 小レポート（5点×12回＝60点）と期末課題（40点）とをあわせて評価する。期末課題の内容については、初回に説明する。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選択 映像と文化A	春	週1回	2単位
担当者：山中 剛史			
<b>講義の目標及び概要</b>			
◆内容◆ 写真や映画にとどまらず、テレビやネットなど、多様な進歩を遂げながら極めて広範囲に使用されている映像。しかし、例えば明治の人々はどうに映像を理解し受容していたのか。視覚文化の歴史的様相を横目に握えつつ、視覚＝イメージと視覚装置の発展が、近代化の中で如何様な位置を占め、文化戦略として表象されてきたのかを概観しながら、現在にいたる映像作品の可能性を改めて読解する。			
◆カリキュラム上の位置づけ◆ 応用系として3～4年生向。文化論や文学、美術などのつながりにおいてより深く視覚的文化について考えたい学生に向いている。			
◆学びの意義と目標◆ 本講義では、写真や映画など19世紀より輸入・発展した各メディアが、種々の文化的コンテキストの中で如何に扱われてきたかを再検証していく。それは、ヴィジュアル文化全盛の今日、映像文化をその原初から改めて逆照射することによって、現代日本文化における映像作品の諸問題を改めて考えさせることになるだろう。			
<b>評価方法</b> 全講義回数数の2/3以上の出席および期末レポートの提出を単位取得の最低限の条件とする。その上で、出席状況、期末レポートに加え、不定期に実施する小レポートから評価する（提出状況＋内容）。出席3・レポート7の割合での評価。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選択 映像と文化B

秋 週1回 2単位

担当者：山中 剛史

講義の目標及び概要

◆内容◆

写真や映画にとどまらず、テレビやネットなど、多様な進歩を遂げながら極めて広範囲に使用されている映像。視覚文化の歴史的様相を横目に据えつつ、視覚＝イメージと視覚装置の発展が如何様に文化戦略として表象されてきたのかを概観しながら、現在にいたる映像作品の可能性を改めて読解していくために、その変遷する映像芸術の歴史的様相を芸術思潮のうちに主題化し、葛藤を繰り返しながら映像的結実へといたった過程を、個々の作品を実見することで跡付け検証する。

◆カリキュラム上の位置づけ◆

応用系として3～4年生向。文化論や文学、美術などのつながりにおいてより深く視覚的文化について考えたい学生に向いています。

◆学びの意義と目標◆

本講義では、写真や映画などの各メディアが、第二次大戦後の文化的コンテキストの中で如何に扱われてきたかを具体的に再検証していく。ヴィジュアル文化全盛の今日、改めて映像作品の孕む諸問題と可能性について見つめ直し、思考する眼を養っていききたい。

評価方法

全講義回数の2/3以上の出席および期末レポートの提出を単位取得の最低限の条件とする。その上で、出席状況、期末レポートに加え、不定期に実施する小レポートから評価する(提出状況+内容)。出席3・レポート7の割合での評価。

教科書

プリントを配布する

選択 書道(初級)

春 秋 週2回 2単位

担当者：小室 陽子

講義の目標及び概要

書は文字を素材にした創造芸術である。先人の残してくれた素晴らしい文化遺産、中国や日本の古典を教材に、正しく美しい文字を書くための場としたい。毛筆を主とし、筆順、書技、理論等、漢字、仮名、硬筆を含め文字そのものについても考えていきたい。

◆カリキュラムの位置づけ◆

書写の指導が必要な小・中学校の教職を志す学生が毛筆で書くことへの抵抗感をなくし、楽しく紙とむきあえるようにし、よりよい生徒指導ができるようにしたい。

◆学びの意義と目標◆

文字を素材にしての実技講座である。文字に対して一点の意義、一線の位置づけ等を意識的に見直すことを通して文字を書くことの意義を考えていきたい。

また、漢詩(七言絶句)を作成することでより文字への興味を持たせていきたい。

評価方法

毎時間の実技課題を提出してもらい、その評価と授業態度(私語、居眠り等)及び用具の準備を加味。但し、出席状況が3分の2に満たない場合、課題の提出がなく評価点数が不足した場合は不合格とする。

教科書

プリントを配布する

選択 書道(中級)

春 週2回 2単位

担当者：小室 陽子

講義の目標及び概要

正しく美しい文字を書くことに加えて、中級では楷書を主として行書・草書・隷書・仮名の各書体をより確実な筆づかいで書けるようにし、意に沿った筆づかいを身につけるようにしたい。

そのために、初級では臨書の中で形臨を主体に行ってきたが、中級では、意臨をも含めた臨書ができるようにすることを目標とする。

さらに、一つの古典を少し長く臨書することによって、より確実な筆づかいを身につけるとともに、書くことに対する集中力を養い、細部まで見られる観察眼を身につけていきたい。

また、漢詩を理解することによって古典的な作品の理解が進むこととなるので、漢詩を作詩し新たな面からの鑑賞眼を養うようにしたい。

評価方法

毎時間の実技課題、各書体毎のまとめを提出、評価。但し、出席状況が3分の2に達しない場合、および、課題の提出がなく評価点数が不足した場合は不合格とする。

教科書

欧陽詢『中国法書選31. 九成宮醜泉銘』二玄社

選必 日本文化特殊講義

春 週2回 4単位

担当者：清水 均

講義の目標及び概要

1、内容  
文字通り、「文化」を研究対象とすることで、私たちが今のどのような世界に生きているのかを検証することを目的とし、更には、そうした現状認識を通じて今後の文化創造、世界創造に私たちがどのように関わっていけるのかということの可能性を模索することを旨とする授業である。

2、カリキュラム上の位置づけ

日本文化学科カリキュラムのいわゆる「五本の柱」の中では「文化系統」に属しており、この系統における応用レベルの講座である。3年生以上が受講可能。

3、学びの意義と目標

現在、世界及び日本は「100年に一度の危機的状況にある」とも言われるが、私たちは既にこれまでの戦後数十年の間にも数々の時代の転換点を経験している。そうした経緯の上に成立している今の世界、更にはこれからの世界を主体的に形成する役割を担う学生諸君には、大学という学びの場で「今を生きる」ための教養と知恵と生きる活力を身に付けてもらいたい。

評価方法

(1)出席点：50%  
(2)最終レポート点：40%  
(3)随時実施する課題：10%

教科書

プリントを配布する

選択 出版と編集	春 週2回 4単位
担当者：山本 俊明	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 講義の目的——わたしたちが読んでいる出版物(書籍と雑誌)を作り出している出版編集者はどのような仕事をしているのか。本講義では、出版編集者が担当している「立て」(企画)、「取り」(原稿取得と編集)、「造る」(製作)の出版過程を実際に体験しながら学ぶ。さらに、現在、出版編集者が直面している「良書で売れる本の企画」「著作権(盗用)」「差別語」「出版物のデジタル化」など、出版と編集に関わる諸問題を学ぶ。 2. カリキュラム上の位置づけ——本講義は将来の就職を考えるキャリアガイダンスの科目に位置づけられている。出版社で働く機会は限られているが、「出版と編集」で学ぶ技術はさまざまな仕事で生かすことができる。また、本づくりを学ぶ本講義は、本の流通と読書について学ぶ秋学期開講の「流通・販売・経営論」に連続している。 3. 本講義の目標——本講義は、受講者が自分(たち)の企画に基づいて、取材し、自分で原稿を書き、自分で編集・校正をし、自分でレイアウト・ブックデザインをし「雑誌」と「本」を製作する。出版過程を自ら学ぶことを通して、メディアに対する批判力を身につけることが目標である。	
<b>評価方法</b> 第一にレポートを4回課す。それぞれ100点満点で点数化し評価する。第二に授業には8割以上の出席を求める。第三に授業で考えたことを記入する「出席票」の3つで総合評価をする。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 伝統工芸B	春集中 2単位
担当者：渡辺 正人	
<b>講義の目標及び概要</b> <b>【内容】</b> 実際に伝統工芸の作品作りを体験し、伝統工芸への深い理解を得ることを目的とする。 春学期、または夏休みに事前に実習計画を提出して実習する。それぞれ2種類の実習科目を選び、実施計画は詳細に記載し、計画通りの実習を行う。その実習内容について、指導者の証明と評価を得、下記の提出によって、単位を得ることができる。実習先は現在未定だが、昨年度は実習内容によって (A) 大学 (B) 工房に分かれ、1：とんぼ玉(江戸伝統ガラス工芸)、2：友禅染、3：藍染、を行った。最終的にはガイダンスで提示する。作品はヴェリタス祭で展示する。  <b>【カリキュラム上の位置づけ】</b> 応用科目であり、体験科目。  <b>【学びの意義と目標】</b> 体験を通し、座学では学び得ない(ものづくりの心)を知り、理解する。	
<b>評価方法</b> (1) 事前計画書の提出、(2) A 実習記録 B 体験レポート C 作品の提出、(3) D 指導責任者の評価書 (4) ヴェリタス祭参加(作品提出・展示説明など)、(1)～(4)を総合評価する	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選択 伝統芸能B	春集中 2単位
担当者：茂山 千三郎	
<b>講義の目標及び概要</b> 日本の伝統芸能の中で、最もシンプルかつ基礎となる芸能「狂言」を通し古典芸能の伝承を知る。  <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史、演技論、発声法、台本の分析、解釈、衣装分析、能舞台の機能と理論の解説。</li> <li>・基礎の演技「構え・歩み」から一曲の狂言の演技実習で衣装の着付けも含め、上演完成を目標とする。</li> </ul>	
<b>評価方法</b> 狂言鑑賞のレポート……20% 狂言実習の評価……60% 公演後のレポート……20%	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 文芸(創作)	秋 週2回 2単位
担当者：藤田 のぼる	
<b>講義の目標及び概要</b> <b>●</b> この授業は「文芸(創作)」という科目で、文学作品創作の実習を行います。授業者の専門が児童文学なので、基本的には児童文学の創作を学ぶこととなります。「創作」が果たして学べるものかどうかという疑問があるかと思いますが、創作のタネはそれぞれの中心に意外に潜んでいるもので、それにどのような手順でどのように形を与えてやるかを学ぶということになるでしょう。 <b>●</b> 具体的には、「読む」と「書く」ことの両方を通して、学んでいきます。最終的にそれぞれの自由な素材で自分の作品をしあげることが目標とします。その場合、大人向けの作品も可とします。授業の進め方については、受講者の数や希望、提出された作品の傾向などによってかなり変更するケースもありますが、一応の予定として掲げておきます。	
<b>評価方法</b> 基本的には最終的な提出作品によるが、授業の中での提出物なども加味して評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 放送文化

春 週2回 4単位

担当者：川野 一字

講義の目標及び概要

1 内容

放送はどのような役割を担い、時代をどのように伝えてきたのか。テレビと通信（IT）との融合はどう進み、これからどう発展してゆくのか。また我々はどのような姿勢で情報を受け取れば良いのか。初期の映像の記録、ラジオ放送の開始、テレビの発達、通信の発展などを振り返り、随時映像などを視聴しながら、その都度小論文にまとめてゆく。

2 カリキュラム上の位置付け

全科に共通する社会情報、コミュニケーション論の基礎の一つである。集めた情報をメディアはどのように発信しているのか、テレビ番組を通して「情報」の読み取り方を考える。

3 学びの意義と目標

情報をどのように判断し、受けとめたら良いのか、批判的な目を養い、自ら情報を発信することを視野に入れて「文化」としての放送を学ぶ。

評価方法

講義毎の「小論文」(30%)  
出席時限数と出席日数(30%)  
(1時限目と2時限目がセットになっているので2時限とも出席したかどうかを判断する)  
課題論文(40%)

教科書

プリントを配布する

選択 身体表現

秋集中 2単位

担当者：森 さゆ里

講義の目標及び概要

1、内容：なぜ現代社会では他者とコミュニケーションを図ることが苦手な若者が多いのか。演劇創造の過程で行うシアターゲームを通して、心身の解放を試みるとともに、言葉と身体表現を学び、人と人との関わりを考えていきます。

2、カリキュラム上での位置づけ：応用科目群の科目。体験を重視します。演劇だけでなく、他者とのコミュニケーションについて興味のある全ての学年の学生に推奨します。

3、学びの意義と目標：言葉を他者へ伝えることや他者から受け取れることを体感しながら、コミュニケーションとは何かを考えることを目的とします。

【補足】

1、受講者数に応じて授業の内容が変更になる場合、また、それにとれない詩や戯曲などの一部をテキストとして使用する場合があります。その際には講義が開始されてから順次配布します。

2、事前講習、観劇会、フォローアップ講習以外の実習授業の際には全てジャージなどの動きやすい服装（ジーンズ、スカートは不可）、上履き、汗ふきタオルが必要です。

評価方法

毎授業の出席と授業に対する意欲(60%)、レポート(20%)、発表(20%)によって総合的に評価します。

教科書

授業の中で指示する

選択 日本文化総論A

春 週1回 2単位

担当者：清水 正之

講義の目標及び概要

「日本の宗教的心性」とキリスト教「カミ・ほとけ・神」という主題で、伝統的な宗教観をとらえるとともに、それとキリスト教（キリシタンおよび近代日本のキリスト教）との関連を考えてみる授業とします。

日本の思想史をふりかえると、もともとあった神道の世界（これも外来のものとも深く関係しているという見かたもありますが）のうえに、仏教、あるいは儒教をとり入れ、さらに西洋伝来のキリスト教を受容してきました。今わたしたちは、宗教的なものが、またあらためて別の形で重要な意味をもった世界と日本の現実に接しています。現代にいきるわたしたちの宗教的なものとの関わりは、近代以前の社会とは大きく異なりますが、同時にこの社会の宗教的な伝統と決して無縁ではありません。生活の一部にくみこかれ、すでに宗教的なものとして必ずしも自覚しているわけではありませんが、そのような伝統的な宗教観を、一度あらためて対象化し、知的に吟味、あるいは学問的に吟味することは、日本文化を知り、自らの問題として考える重要な意義があるでしょう。

評価方法

出席状況、期末レポート、それと3回の小レポートの三つから、総合的に成績評価を行います。

教科書

授業の中で指示する

選択 日本文化総論B

秋 週1回 2単位

担当者：清水 正之

講義の目標及び概要

近代日本のキリスト教の思想を扱います。内村鑑三、新渡戸稲造は、ともに、日本の伝統とキリスト教との関係を考えることで、近代の日本のあるべきありかたを思想的に表現した人物として知られています。その二人の著作を読み進めながら、キリスト教と近代日本の関係を、ともに考えてみる授業です。また、二人の著作をよみながら、そのほかのキリスト教の思想の展開への知識も得られるように進めます。

単なる概説ではなく、著作にふれることで、日本文化とキリスト教の関係について、より深い理解ができるように進めていきます。

評価方法

出席、期末テストのほか、3回ほどの小レポートを課します。成績評価は、出席状況・期末テスト・小レポートの三つを総合的に判断して、行います。

教科書

内村鑑三『後世への最大遺物・デンマルク国の話』岩波書店（岩波文庫版）  
新渡戸稲造『武士道』岩波書店（岩波文庫版）

選必 専門演習Ⅰ (言語①)		秋	週1回	1単位
担当者：小林 茂之				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉 現代の言語科学では、言語研究は認知科学と呼ばれる総合的学問分野に位置づけられる。認知科学的な観点から言語研究の諸領域について広く学び、言語研究の現代的意味を理解する。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 「日本語概説」では、言語理論、日本語統語論、比較統語論について、基礎的な概念とトピックについて、日本語の具体例を通して取り上げた。本演習では、代表的言語科学である生成文法について解説した本を講読することで、言語科学への興味・関心を深めて、「言語学特殊講義」・「日本語学特殊講義」などの言語科学の専門科目への本格的な導入とする。 〈学びの意義と目標〉 現代の言語科学の目的や意義を理解する。</p>				
<b>評価方法</b>				
平常点 (担当箇所を発表を含む) 50%、出席点20%、レポート30%				
<b>教科書</b>				
渡辺明『生成文法』東京大学出版会				

選必 専門演習Ⅰ (言語②)		秋	週1回	1単位
担当者：川口 さち子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉本演習では、課題を言語にしぼり、教材を分析しながら、日本語の特徴を探っていく。そして言葉の研究に必要な基礎知識を身につけ、自分の身の周りの事象から日本語の問題点を見つけ出す力をつけてほしい。 講義前半では、主語の問題、代名詞の問題を中心に扱う。 後半では、「日本語の乱れ」を中心にテーマに沿った調査・発表の方法を身につけることを目標とする。 〈カリキュラム上の位置づけ〉課題にしたがってデータ検索や調査を行う方法を学ぶ第一歩である。 〈学びの目標〉身の周りの事象に疑問を持ち、問題点をみつけ出す力をつけること。</p>				
<b>評価方法</b>				
調査発表・レポートの内容 (60%)、討論への参加度 (20%)、出席状況 (20%) を総合して判定する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 専門演習Ⅰ (比較文化①)		秋	週1回	1単位
担当者：渡辺 正人				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1、目的 専門演習Ⅰとして、テーマの決定の仕方、文献調査の方法、資料の作成法、発表の方法などの基本的な事項を学ぶ。扱うテーマは比較文化だが、比較をするためには、まず自分の属する文化についての理解が欠かせない。この段階ではあまり「比較」にこだわらず、ひとつの対象をきちんと学ぶ姿勢を身につけたい。 2、カリキュラム上の位置づけ 演習の基礎を学ぶものである。 3、学びの意義と目標 (1)文化への眼差しを育てる。 (2)調査方法に習熟する。 (3)論文を読む力をつける。 (4)方法論の基礎を身につける。 という4項目は、「学ぶ姿勢」の基本である。</p>				
<b>評価方法</b>				
評価は(1)発表(資料・レジュメ作成を含む)40%、(2)最終レポート(オンライン提出)40%、(3)出席20%によって算出する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習Ⅰ (比較文化③)		秋	週1回	1単位
担当者：濱田 寛				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉 平安時代の源為憲撰『世俗諺文』の輪読形式の演習発表を行う。テキストは写本(観智院本)の影印を用いる。本書は中国古典の故事を分類し、その出典からの引用によって構成される。受講生は指定された箇所について訓読・語釈・現代語訳・出典調査を行い、資料を作成して発表を行う。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 中国の古典テキストを扱う上での基本的なノウハウを学習し、卒業研究における各自の独自のテーマを考察するための基礎力の涵養を目指す。与えられた課題の中から「問い」を設定し、自ら解決するための一連の手続きを学ぶことは極めて重要である。 〈学びの意義と目標〉 研究においては、まず先行文献の正確な理解が前提となる。写本に施された鎌倉期の訓点の解釈を通して、現代の解釈との相違点を学び、複眼的な解釈の方法の会得を目指す。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席点：30% 演習発表：50% レポート：20%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

## 選必 専門演習Ⅰ(文学②)

秋 週1回 1単位

担当者：上野 麻美

## 講義の目標及び概要

【内容】本講座では、平安時代の物語作品『伊勢物語』を教材とし、各自が一段ずつを担当し研究発表を行う。発表では、本文の一語一語を丁寧に解説することを中心に行う。あわせて、歴史資料・絵画資料などを使って、本文の内容を深める読みを試みる。

【カリキュラム上の位置づけ】専門研究に入るための導入教育に位置づけられる。文学研究の方法を基礎から学び、専門演習Ⅱに進む備えとする。

【学びの意義と目標】本講座では、古語辞典を使いながら、自分の力で古典作品を読み解く力を養うことを目標とする。また、図書館の利用法・文献調査の方法・レジュメの作成法を学び、専門演習Ⅱや卒業研究に進む備えとする。

## 評価方法

出席（参加態度）50％・研究発表50％（内容・レジュメ）

## 教科書

授業の中で指示する

## 選必 専門演習Ⅰ(文学③)

秋 週1回 1単位

担当者：黒木 章

## 講義の目標及び概要

【内容】島崎藤村の『破戒』と田山花袋の『蒲団』を読む。  
【カリキュラム上の位置づけ】演習の形で研究の方法等を学ぶ文学入門である。ここでは文学研究のアプローチ法として幾つかの代表的な先行文献を読んで自分の主体的な読みとを重ねて問題を把握するとともに今後の自分の研究方法を探る。もちろん、その後には予定されている演習や卒業研究・卒業論文に繋げるように基礎訓練を重ねる。

【学びの意義と目標】『破戒』日本近代文学の可能性を開き、『蒲団』はその可能性を歪めたと言われて久しい。だが、現代の我々からみて本当にそのように言えるのだろうか。作品と周辺の事情を再検討して日本近代文学史特に自然主義文学の問題を把握する。

## 評価方法

発表と質疑を中心とする普段の授業参加態度を40％、学期途中で課す小レポートを20％、学期末のレポートを40％とみる。

## 教科書

島崎藤村『破戒』新潮文庫  
田山花袋『蒲団』新潮文庫

## 選必 専門演習Ⅰ(歴史・思想②)

秋 週1回 1単位

担当者：川崎 司

## 講義の目標及び概要

広くアンテナを巡らせて、日々「問題意識」を養うことが何より大切でしょう。日記の要領で「研究ノート」を作成することを勧めます。また新聞は情報の宝庫です。どんどん切り抜いてスクラップを作ってください。このゼミが、読む力・書く力・調べる力・発表する力を身につけるための場となり、こころ豊かな感性を磨く場ともなれば幸いです。

範囲は[日本近現代史]としますが、自由なテーマで伸び伸びと「研究」を楽しんでください。発表をしたり発表を聞いたりしていくうちに、調査の方法やプレゼンテーションの準備やレジュメの作り方などには慣れていくでしょう。その間にゼミ生同士の「友情」が芽生えていけば、これ以上の喜びはありません。

## 評価方法

発表の内容と出席状況を重視します。

## 教科書

プリントを配布する

## 選必 専門演習Ⅰ(歴史・思想③)

秋 週1回 1単位

担当者：清水 正之

## 講義の目標及び概要

1. 内容  
専門で日本の思想・歴史を学ぶ学生のために、必須の日本思想のテキストを読みます。  
本年度は、内村鑑三の『代表的日本人』をテキストにして、原典を読むことの意味、ノートの作成法、参考資料の調べ方等を、学びます。それとあわせて、各自の卒業研究に向けての取り組みの手がかりをえられるようにしたいと思います。  
発表形式の授業です。

2. カリキュラム上の位置づけ  
専門の卒業演習への準備的演習です。

3. 学びの意義と目標  
歴史・思想文献を読み解く態度をつくることです。

## 評価方法

出席（50％）と発表の成果（50％）によって総合的に評価します。

## 教科書

授業の中で指示する  
内村鑑三『代表的日本人』岩波書店（岩波文庫版）



選必 専門演習Ⅰ(歴史・思想④)		秋	週1回	1単位
担当者：村松 晋				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(内容)</p> <p>「歴史・思想(宗教も含む)」の分野から関心のあるテーマを自由に選び、研究発表・討論していく場所とする。「日本思想入門」「相関文化」に興味を持ってくれた人はもちろん、生きる上で直面する様々な「疑問」や「悩み」を解くためのヒントを手にしたい人の参加も歓迎する。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>第一に、「テーマの決め方・見つけ方」「本の読み方・探し方」といった、研究の基礎的な作法を学んでもらいたい。第二に、自分の意見を人に理解してもらうには何が必要か、身をもって体験してほしい。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>本演習をつうじ、調べること、深めること、そして、自分の視界が開けていくことによるこびを体験してもらえれば幸いである。</p>				
<b>評価方法</b>				
発表内容と期末レポートの提出が全てである。なお全授業数の3分の1を超えて欠席したものには発表資格を与えない。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習Ⅰ(歴史・思想⑤)		秋	週1回	1単位
担当者：柳田 洋夫				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(内容)</p> <p>日本においてプロテスタントをはじめとするキリスト教は、特に近代以降、思想や宗教のみならず政治や社会全般に大きな影響を与えてきた。本演習においては、主として明治以降の日本プロテスタント思想に関連する学びを共にしたい。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>専門のテーマに取り組むための準備。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通してキリスト教の思想や精神をより深く理解することを目指す。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席30%、発表と討議への参加度と内容50%、レポート20%とする。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習Ⅰ(文化③)		秋	週1回	1単位
担当者：清水 均				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1、内容</p> <p>現代文化全般(文学・音楽・マンガ・映画・ドラマ・メディア・風俗・流行・スポーツ・お笑い・ファッション・食等々)を扱う。まずは興味、関心のあるテーマを発見し、発表・討議を通して「文化を研究すること」を実際に体験してもらう。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ</p> <p>いわゆる「ゼミ形式」に授業による専門研究の最初の段階に位置づけられる。</p> <p>3、学びの意義と目標</p> <p>この段階ではまだ自分の研究テーマを確定する必要はない。研究の方法とゼミ形式での授業を体得することが目標となる。次のステップである「専門演習Ⅱ」に向けてのよりよい準備となることが期待される。</p>				
<b>評価方法</b>				
(1)出席点：40% (2)発表とレポート：50% (3)授業、質疑への取組：10%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 専門演習Ⅱ(言語⑩)		春	週1回	1単位
担当者：小林 茂之				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(内容)</p> <p>日本語の統語分析のP&amp;P理論による分析</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>前年度専門演習Ⅰでは生成文法一般の入門書を取り上げたが、専門演習Ⅱでは日本語統語論の入門書を取り上げ、解説する。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>普遍文法を探究する生成文法の立場から、日本語の統語現象を分析し、統語分析の基礎的技能を養う。</p>				
<b>評価方法</b>				
参加者による発表(担当)、質疑応答、期末レポート				
<b>教科書</b>				
長谷川信子『生成日本語学入門』大修館書店				

選必 専門演習Ⅲ(言語②)

春 週1回 1単位

担当者：川口 さち子

講義の目標及び概要

〈内容〉現代語の問題点を扱う。  
 ・インターネットを使ったり、参考文献に当たったりして、資料探索の方法を学ぶ  
 ・受講生の関心あるテーマを取り上げて、参考文献を読み、ディスカッションを行う。  
 ・実際に身の回りの言語事象を取り上げ、用例などを集め分析してもらおう。

〈カリキュラム上の位置づけ〉専門演習Ⅰでは、共通課題を扱い、資料探索の基礎的なところを扱った。専門演習Ⅱでは、実例を集め、分析できる力を養う。

〈学びの意義と目標〉自分の身の回りの事象から用例を集め分析できる力をつけること、自分のテーマをみつけて、研究していくという姿勢を身につけることが目標である。

評価方法

調査発表・レポートの内容(60%)、討論への参加度(20%)、出席状況(20%)を総合して判定する。

教科書

プリントを配布する

選必 専門演習Ⅲ(比較文化アジア①)

春 週1回 1単位

担当者：渡辺 正人

講義の目標及び概要

〈内容〉アジアという地域は、昔から文化の流通・交流が盛んであった。その状況を、古代・現代などに限らず、広く探ってゆくことを目指したい。たとえば漢字はアジアの共有言語であったし、仏教などの宗教もアニミズムもそうである。また、現代ではアニメやマンガなど交流する文化も目立つ。本ゼミでは考古学・民俗学・文化学などさまざまな手法で追ってみたい。

〈カリキュラム上の位置づけ〉専門のテーマを掘り下げる端緒である。  
 〈学びの意義と目標〉

- (1)文化への眼差しを育てる。
  - (2)調査方法に習熟する。
  - (3)論文を読む力をつける。
  - (4)方法論の基礎を身につける。
- の4項目は研究する態度の初歩を学ぶ。

評価方法

評価は(1)発表(資料・レジュメ作成を含む)40%、(2)最終レポート(オンライン提出)40%、(3)出席20%によって算出する。

教科書

授業の中で指示する

選必 専門演習Ⅲ(比較文化アジア②)

春 週1回 1単位

担当者：濱田 寛

講義の目標及び概要

〈内容〉中国の代表的な志怪小説、干宝撰『搜神記』の論説形式の演習発表を行う。テキストは『学津討原』所収の版本『搜神記』の影印を用いる。受講生は指定された箇所について訓読・語釈・現代語訳・考察を行い、資料を作成して発表を行う。

〈カリキュラム上の位置づけ〉中国の古典テキストを扱う上での基本的なノウハウを学習し、卒業研究における各自の独自のテーマを考察するための基礎力の涵養を目指す。与えられた課題の中から「問い」を設定し、自ら解決するための一連の手続きを学ぶことは極めて重要である。

〈学びの意義と目標〉何らかの意見を述べるためには、事前の調査・分析・考察は必要不可欠な作業となる。この一連の手続きには様々な制約がある。この制約を守らなければ説得力を持ち得ない。各自の興味の対象は様々であろうとも、それを「研究」するためには、この基本的な制約をふまえる必要がある。受講生全員が同じ作品に向き合っ、この手続きを学ぶことで、卒業研究に自信を持って進むことができる。

評価方法

出席点：30% 演習発表：50% レポート：20%

教科書

プリントを配布する

選必 専門演習Ⅲ(古典文学②)

春 週1回 1単位

担当者：上野 麻美

講義の目標及び概要

本講座では、鎌倉初期に成立した説話集『宇治拾遺物語』を教材として、受講者各自が作品の分析研究を行う。『宇治拾遺物語』は、貴族から庶民まであらゆる階層の人々の姿を活写した説話集で、「笑い」あり「涙」ありの親しみやすい内容をもつ作品である。演習では、本文を丁寧に読解しながら、説話の背景にある時代の様相にも目を向け、人生の悲喜こもごもを描いた作品のおもしろさをじっくりと味わいたい。

本講座の受講者は、各自1つの説話を取り上げ、研究発表を行う。活字資料のみならず、古文書、絵画資料など、あらゆる資料を用い、受講者自らが調査・考察を行うことを通して、古典文学研究の方法と技術を習得する。また、各受講者の調査結果を、受講生全員で検討・討論することにより、考察内容の妥当性を判断する力を養う。

評価方法

出席(参加態度)50%、発表(内容・レジュメ)50%

教科書

授業の中で指示する

選必 専門演習Ⅱ (新現代文学①)		春	週1回	1単位
担当者：黒木 章				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〔内容〕夏目漱石の初期3部作『三四郎』『それから』『門』を扱う。作品を精読しながら主題や場人物たちが抱える問題を周辺の状況（作家自身・社会問題・文学および批評一般）に重ねながら考える。</p> <p>参加者人数にもよるが、できれば三つのグループに分けて、それぞれの作品について（一）作品論—同時代評・先行文献の紹介と批判を兼ねる。（二）作家論—作品と漱石自身の周辺事情との関連を把握する。（三）我々自身の鑑賞—文学史的な把握を意識しながら我々の主体的な読みを提示する。</p> <p>〔カリキュラム上の位置付け〕文学研究の面白さを発見するとともに研究の基本的な手続きを習得することで、次に配置されている卒業研究と卒業論文につなぐ。</p> <p>〔学びの意義〕日本近代文学を代表する国民作家夏目漱石が提示した問題は現代人にも決して古びてはいない。漱石作品を通して近現代日本人に課せられた基本的な問題を考える。漱石は日本文学学科生の必読書であるだろうし、殊に将来中高の国語教員や日本語教員、文学研究者を志す人には勧めたい。</p>				
<b>評価方法</b>				
<p>普段の授業参加（発表や討議）態度を50%、学期末のレポートを50%とみる。</p>				
<b>教科書</b>				
<p>夏目漱石『三四郎』新潮文庫 夏目漱石『それから』新潮文庫 夏目漱石『門』新潮文庫</p>				

選必 専門演習Ⅱ (歴史①)		春	週1回	1単位
担当者：東島 誠				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>◆内容◆ 古文書などの「史料」には、いまだ誰も論じていない未発見・未解明の事実が、それこそ無数に埋蔵されている。歴史上の事実を構成していくには、根拠、すなわち「史料」が必要であり、そこから説得力ある議論を導き出すにはどのような手続きが必要なのか、それを実践的に学ぶゼミである。</p> <p>◆科目の学内的位置づけと目標◆ 専門演習Ⅱでは、「史料」をもとに自分で歴史像を描き出す、初めての体験をしてみよう。そのために必要な指導を、初めの第一歩から行なっていきたい。</p> <p>◆学びのパブリックな意義◆ 先輩たちが証明してきたように、ゼミとは本来、日々新しい学説が生産される現場である。まずは『緑聖文化』第5・6・7号に公表され、他大学の研究者からも注目されている、当ゼミの先輩たちの卒論を読んでみよう。そして、ぜひそれに続いてほしい。</p>				
<b>評価方法</b>				
<p>出席、発表、議論への参加（以上50）、および学期末レポート（50）による。なお、ゼミわけ時に説明のあったように、当ゼミ履修者は、必ず同時開講の「日本史特殊講義」を並行して履修すること。履修しない場合は専門演習Ⅱの単位を取得できない。</p>				
<b>教科書</b>				
<p>授業の中で指示する</p>				

選必 専門演習Ⅱ (歴史②)		春	週1回	1単位
担当者：川崎 司				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〔専門演習Ⅰ（歴史・思想②）〕で身につけた、読む力・書く力・発表する力をさらに磨いてください。引き続き、皆さんの研究発表を中心に進めていきます。範囲は原則として[日本近代史]とします。より濃密な意見や感想の交換を通して、更に視野の広い「歴史」に対する見方と、何より心豊かな感性を自ら育てていく場になれば幸いです。ここでの鍛錬が[卒業研究Ⅰ]に生かされることを願っています。</p> <p>*参考文献は、発表の度に紹介します。</p>				
<b>評価方法</b>				
<p>発表の内容と出席状況を重視します。</p>				
<b>教科書</b>				
<p>プリントを配布する</p>				

選必 専門演習Ⅱ (思想①)		春	週1回	1単位
担当者：清水 正之				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 卒業演習にすすむ最後のしあげの演習です。各自の問題意識にそった発表形式ですすめます。日本の思想に関わるのがテーマですが、生命倫理や、環境倫理を、思想からとっていくこともこのゼミの内容に合致します。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 専門的に思想を学ぶための準備をととのえます。</p> <p>3. 学びの意義と目標 思想をまなぶ方法と態度をしっかりしたものとするを目標としています。</p>				
<b>評価方法</b>				
<p>出席（50%）と授業内での発表（50%）を重視します。</p>				
<b>教科書</b>				
<p>授業の中で指示する</p>				

選必 専門演習Ⅱ (思想②)		秋	週1回	1単位
担当者：村松 晋				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(内容)</p> <p>近・現代日本の「歴史・思想(宗教を含む)」を対象とする。ただし私の講義「日本思想入門」「関連文化」「日本の思想(キリスト教)」で扱った項目に関しては、「時代」を問わず責任を持って指導する。(将来の自分)とその(生き方)を、特定の人物およびその作品との(対話)をとおし、じっくり考えていきたい人の参加も歓迎する。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>「専門演習Ⅰ」での学びをふまえ、テーマ設定の仕方、文献の探し方、さらにその(読み解き方)を身につけていくことを目標にする。</p> <p>(学びの意義)</p> <p>「すぐに役立つもの」は「すぐに役立たなくなる」。即席の「知識」があふれかえる時代だからこそ、状況の変化にかかわらず、常に私たちを励まし、導き、支えてくれる(定点)を手にする必要がある。このゼミでの学びと語り合いが、皆さんの模索のための、ささやかな場となりうれば幸いである。</p>				
<b>評価方法</b>				
発表と期末レポートが全てである。 全授業数の三分の一以上の欠席者には、発表資格を与えない。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習Ⅱ (思想③)		春	週1回	1単位
担当者：柳田 洋夫				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(内容)</p> <p>日本においてプロテスタントをはじめとするキリスト教は、特に近代以降、思想や宗教のみならず政治や社会全般に大きな影響を与えてきた。本演習においては、主として明治以降の日本プロテスタント思想に関連する学びを共にしたい。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)</p> <p>専門のテーマに取り組むための準備。</p> <p>(学びの意義と目標)</p> <p>テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通してキリスト教の思想や精神をより深く理解することを目指す。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席30%、発表と討議への参加度と内容50%、レポート20%とする。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習Ⅱ (近現代文化①)		春	週1回	1単位
担当者：清水 均				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1、内容</p> <p>文学、アニメ、マンガ、音楽、風俗…。文化の研究領域は広く存在し、また、その領域はお互いに横断しています。「文化を考えると世界における自分自身の位置を見定めることである」と論じた批評家がありますが、文化を研究することは何らかの意味で「自分自身への問いかけ」をすることでもあります。そして、自分自身が常に変化し更新し続けるものであるとすれば、文化もまた我々の新たな体験として捉え直される続けることとなり、またその意味で、皆さんの発想と感性が試され、生かされることにもなります。つまり、文化とは固定的なものではなく、我々にとっての価値を生み出す現場なのです。</p> <p>2、カリキュラム上の位置づけ</p> <p>「専門演習Ⅰ」で体験したゼミ形式の授業をベースに、「卒業研究Ⅱ」に至る自らの専門研究の本格的なスタートとなります。</p> <p>3、学びの意義と目標</p> <p>まずは「具体的なテーマの発見」を目指してください。</p>				
<b>評価方法</b>				
(1)出席点：50% (2)発表とレポート：40% (3)授業、質疑等への取組：10%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 専門演習Ⅱ (近現代文化②)		春	週1回	1単位
担当者：熊谷 芳郎				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>◆内容◆</p> <p>学校教育は誰にでも体験のあるものだ。その中で、沢山の教材を読んできた。あの頃は授業についていだけで精一杯だったけれど、今読み返したらどんな世界が見えるのだろうか。小学校から高校までの国語教科書に載っている教材を皆で読み、それぞれの価値を再検討していくことを目指す。また、それは「子どもの視線」で日本の文化、アジアの文化を眺めるということにもなるだろう。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆</p> <p>演習Ⅰで学んできたことを確認した上で、卒業研究でそれぞれの研究テーマに向けて研究を始めるまでの間に位置づけられる。ここで学びを、研究の基礎として、それぞれの研究テーマを見つけていって欲しい。</p> <p>◆学びの意義と目標◆</p> <p>この演習では、さまざまな教材文の検討を通して大まかな知識を身につけてもらったうえで、それぞれが自分のテーマを見つけ、課題を設定し、研究を深めていくことを目標にする。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席、発表、研究協議への参加が50%、学期末レポートが50%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 卒業研究(言語①)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者: 小林 茂之				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉 生成文法の最近の理論的枠組みである「ミニマリスト理論」の概要を解説する。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 「日本語学概説」・「専門演習Ⅰ・Ⅱ」では、統語論の基礎とトピックを日本語の具体例を通して取り上げた。この演習では、最近の統語論の枠組みである「ミニマリスト理論」の基礎を学び、特殊研究で取り上げられる理論を導入する。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 最近の統語論において、自然言語の普遍性が強調される傾向がある。これは、言語学が科学的研究プログラムとして発展してきたことを反映している。最近の研究やその動向を理解するためには、「ミニマリスト理論」の理解が必要不可欠である。</p>				
<b>評価方法</b>				
担当時の発表、質疑応答、レポートなど				
<b>教科書</b>				
アンドリュース ラドフォード『入門ミニマリスト統語論』研究社				

選必 卒業研究(言語①)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者: 小林 茂之				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉 統語理論、比較統語論の先行研究から、<math>\theta</math>理論、Wh移動、束縛、スクランプリングなどの重要な研究を取り上げ、統語分析の問題点を検討する。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 統語理論における個別的なテーマに基づいて、個別言語の統語現象を分析し、普遍文法的な観点から分析の意義について考察する。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 現代統語論に関する知識を、具体的に分析する能力と結びつける。個別的言語現象に関する研究が理解でき、自己の研究を可能にする学力を身につける。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席・平常点(担当箇所の発表を含む)				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する 三原健一・平岩健『新日本語の統語構造: ミニマリストプログラムとその応用』松柏社 Freidin, R. & Lasnik, H. (eds.) 『SYNTAX: Critical Concepts in Linguistics』Routledge Roberts, I. (ed.) 『Comparative Grammar: Critical Concepts in Linguistics』Routledge				

選必 卒業研究(言語②)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者: 川口 さち子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉敬語・文法・アクセントなどを含む現代語のゆれ、日本語と外国語との比較対照などを扱う。テーマを各自決めて、実例を採取し、発表・質疑応答を行う。分析する資料は、テレビ番組、雑誌、新聞、小説、アンケート調査、インタビューなど自由に選ぶこととする。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉卒業研究Ⅱに結びつくように自分のテーマをみつけ、更に深めていくこと。</p> <p>〈学びの意義と目標〉課題を与えられてレポートを書くという形式ではなく、自分のテーマをみつけて、地道に研究していくという姿勢を身につけること。</p>				
<b>評価方法</b>				
調査発表・レポートの内容(60%)、討論への参加度(20%)、出席状況(20%)を総合して判定する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 卒業研究(言語②)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者: 川口 さち子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 「卒業研究Ⅰ」に引き続き、敬語・文法・アクセントなどを含む現代語のゆれ、日本語と外国語との比較対照などを扱う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 「卒業研究Ⅰ」で扱ったテーマを各自深め、ある程度まとまった論文を書き、卒業論文へのステップとなるようにしたい。</p> <p>3. 学びの目標 ゼミとしては、最後の課程となるので、各自まとまった論文と言えるレベルのものを書くこと。</p>				
<b>評価方法</b>				
調査発表・レポートの内容(60%)、討論への参加度(20%)、出席状況(20%)を総合して判定する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 卒業研究(比較文化 アジア①)Ⅰ

秋 週1回 1単位

担当者：渡辺 正人

## 講義の目標及び概要

(内容)

アジアという地域は、昔から文化の流通・交流が盛んであった。その状況を、古代・現代などに限らず、広く探ってゆくことを目指したい。たとえば漢字はアジアの共有言語であったし、仏教などの宗教もアニミズムもそうである。また、現代ではアニメやマンガなど交流する文化も目立つ。本ゼミでは考古学・民俗学・文化学などさまざまな手法で迫ってみたい

(カリキュラム上の位置づけ)

専門のテーマを掘り下げ、理解を深める。

(学びの意義と目標)

- (1)文化への深い理解をすすめる。
  - (2)論文を読み込む力をつける。
  - (3)方法論にそって、自分の考えを深める。
- の3項目は研究する態度の基本である。

## 評価方法

評価は(1)発表(資料・レジュメ作成を含)40%、(2)最終レポート(オンライン提出)40%、(3)出席20%によって算出する。

## 教科書

授業の中で指示する

選必 卒業研究(比較文化 アジア①)Ⅱ

春 週1回 1単位

担当者：渡辺 正人

## 講義の目標及び概要

(内容)

アジアという地域は、昔から文化の流通・交流が盛んであった。その状況を、古代・現代などに限らず、広く探ってゆくことを目指したい。たとえば漢字はアジアの共有言語であったし、仏教などの宗教もアニミズムもそうである。また、現代ではアニメやマンガなど交流する文化も目立つ。本ゼミでは考古学・民俗学・文化学などさまざまな手法で迫ってみたい。

(カリキュラム上の位置づけ)

専門のテーマを掘り下げ、理解を深め、自分の見解を示したい。

(学びの意義と目標)

- (1)文化への深い理解をすすめる。
  - (2)論文を批判的に読み込む力をつける。
  - (3)方法論にそって、自分の考えを深め、まとめる。
- の3項目は研究する態度である。

## 評価方法

評価は(1)発表(資料・レジュメ作成を含)40%、(2)最終レポート(オンライン提出)40%、(3)出席20%によって算出する。

## 教科書

授業の中で指示する

選必 卒業研究(比較文化 アジア②)Ⅰ

秋 週1回 1単位

担当者：濱田 寛

## 講義の目標及び概要

(内容)

日本と中国に関わる「比較文化」「比較文学」を対象とした演習である。また、広く「東アジア」における文化現象の考察も対象とする。上記の条件において、受講生の自由なテーマによる調査・研究発表を行う。演習発表後には成果としてのレポート報告を行う。

(カリキュラム上の位置づけ)

本演習での学習を通して、テーマ設定・問題提起・問題解決の具体的な方法を習得し、将来の「卒業論文」執筆に向けての準備のための演習科目である。

(学びの意義と目標)

必要な情報をどのようにして習得すべきか。またその情報をいかに活かすか。そしてそれをいかに提示すべきか。研究発表に不可欠な事項を、各自のテーマを考察する過程を通して学ぶ。

## 評価方法

出席点：20% 演習発表：50% レポート：30%

## 教科書

プリントを配布する

選必 卒業研究(比較文化 アジア②)Ⅱ

春 週1回 1単位

担当者：濱田 寛

## 講義の目標及び概要

卒業論文執筆に向けた実践的な指導を行う。授業の形態は「演習発表(個人発表)」が中心となる。問題の所在、調査の方法、結論に到る考察の在り方、等々について詳細な検討を行うため、発表担当者には十全な準備を求めることになる。90分の授業運営については、60分程度の発表、30分程度の質疑応答で構成する。30分に満たない、あるいは準備不足の発表については再度の発表を設定することになる。各自2回の発表担当を目指したい。

## 評価方法

演習発表…20%  
演習参加度…40%  
学期末レポート…40%

## 教科書

プリントを配布する

選必 卒業研究(古典文学②)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：上野 麻美				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>【内容】本講座では、専門演習Ⅰ・Ⅱで学んだ文献調査や古典読解の方法等を活用しながら、各自が取り組む作品を選び、テーマを見つけて研究し、その成果を発表する。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】本講座は専門演習Ⅱで習得した古典読解の力を基礎に、各自のテーマに取り組み、大学での学びの集大成である「卒業論文」に向かう準備をするものとして位置づけられる。</p> <p>【学びの意義と目標】本講座では、取り組む作品を精査し、自ら問題を発見し、自力で探求することを目標とする。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席30% (参加態度)・研究発表30%・レポート40%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(古典文学②)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：渡辺 正人				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(内容) 卒業研究Ⅰに引き続き、各自のテーマに基づき、古典文学作品を読み進める。 できれば卒業論文を意識して、丁寧に問題点に取り組みたい。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ) 専門のテーマを掘り下げ、理解を深め、自分の見解を示したい。</p> <p>(学びの意義と目標) (1)文化への深い理解をすすめる。 (2)論文を批判的に読み込む力をつける。 (3)方法論にそって、自分の考えを深め、まとめる。 の3項目は研究する態度である。</p>				
<b>評価方法</b>				
評価は(1)発表(資料・レジュメ作成を含)40%、(2)最終レポート(オンライン提出)40%、(3)出席20%によって算出する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(近現代文学①)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：黒木 章				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>【内容】鴎外文学を中心に1910(明治43)年問題を考える。 【カリキュラム上の位置づけ】専門演習に続き本格的な文学研究に取り組むために配置される科目である。</p> <p>1910年は大逆事件・日韓併合など日本近代史の上でも重要な出来事があり、近代文学史の上でも自然主義に抗して耽美派(谷崎や荷風)や白樺派(武者小路や志賀)が登場するなど重要な展開がみられる。ここでは鴎外の幾つかの小説を読むことを中心にしながらこの年に発表された重要な文学評論を重ねて文学と社会の問題を考える。</p> <p>【学びの意義と目標】2010年は大逆事件や日韓併合100年の年として記憶されなければならない。日韓両国でもさまざまな記念行事があるであろう。この二つ出来事に深く関わった森鴎外のようなことを細かく検証することによって日本近代とは何だったのか、文学者(知識人)の責任とは何なのか、周辺の状況を確認しながらこのことを問うてみる。</p>				
<b>評価方法</b>				
発表や質疑を大事にするので、小レポートや普段の授業参加態度を60%、学期末のレポートを40%とみる。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(近現代文学①)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：黒木 章				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>■授業の目標 参加者が任意に取り組む作品や作家の問題を一人ひとり提示して発表し、それをもとに参加者が討議して問題を深化させる演習形式になる。このことを通して参加者がそれぞれに研究方法を身につけ卒業論文作成のための実践的訓練をする。</p> <p>■授業の内容 担当者が初めの3回程度を使って森鴎外の研究する場合の例を示す。その後参加者が各自の取組みを報告・発表・討議することを繰り返す。 参加者数によって多少異なることもありうるが、基本的にはこの方法で進める。参加者は学期中に何度か自分の報告をしなければならない。</p>				
<b>評価方法</b>				
普段の授業参加態度を30%、報告内容を30%、学期末のレポートを40%とみる。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(歴史①) II

春 週1回 1単位

担当者：東島 誠

講義の目標及び概要

◆内容◆

各自の関心に基づく自由発表の指導を通じて、卒業論文を完成させるために必要な調査力・分析力の鍛錬を行なう。議論に参加すること、議論を組み立てていくことの、難しさと楽しさを味わってほしい。

◆科目の学内的位置づけと目標◆

4年生はいよいよ卒業論文を書き上げる年次であるが、春学期の段階では、まだテーマを絞り過ぎないほうがよい。幅広い研究文献や史料に触れる豊かな時間としてほしい。

◆学びのパブリックな意義◆

自分の研究を論文にまとめるという作業は、自分の中だけで完結する営みでは決してない。研究論文は、それを読む人があってはじめて研究論文たりうるといってよい。つまり論文とは、パブリックなものなのである。卒業研究IIの演習の場は、自分の主張が、自分とは異なる価値観を持つ他の参加者に届くかどうかを試す、絶好のチャンスである。同じ趣味や関心を持つものにしか通じない、〈隠語〉の世界に閉じこもってはいならない。そのような意味で、この訓練は卒業後、社会に出て役立ててほしい。

評価方法

出席、発表、議論への参加(以上50)、および学期末レポート(50)による。

教科書

授業の中で指示する

選必 卒業研究(歴史②) I

春秋 週1回 1単位

担当者：川崎 司

講義の目標及び概要

[専門演習]で身につけた実力をいよいよ発揮する時がきました。たとえテーマを決めかねていても、迷いの歳月はむだにはなりません。必ず自分の道が見えてきます。

「卒業論文」の作成が当面の目標となるでしょう。

卒論には相当の準備期間を要します。一時も早いスタートを望みます。

評価方法

発表の内容と出席状況を重視します。

教科書

プリントを配布する

選必 卒業研究(歴史②) II

春 週1回 1単位

担当者：川崎 司

講義の目標及び概要

大学における学びの総仕上げとして、できれば全員が「卒業論文」に挑んでもらいたい。就職活動とは決して行き違うことはない。社会もあなたが「大学」という恵まれた天地で何を学んできたのか注目している。それが答えられないようなあなたには誰も振り返らないだろう。卒論の作成とは、自分を徹底して見つめる作業だ。その切実な経験があるかどうか。あなたは人生の分岐点にさしかかっている。今こそ未知の世界へと進み出ようではないか。

評価方法

発表の内容と出席状況を重視する。

教科書

プリントを配布する

選必 卒業研究(思想①) I

秋 週1回 1単位

担当者：清水 正之

講義の目標及び概要

各自が、卒業研究にむけて、テーマを設定できるよう、発表と討論を中心にすすめます。

またテーマに沿った参考資料の探し方、その扱い方を、学んでいきます。

評価方法

出席状況、課題発表、期末レポートを総合的に評価する。課題発表へのとりくみを50%、出席30%、レポート20%とし、特に課題発表を重視する。

教科書

授業の中で指示する



選必 卒業研究(思想①)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：清水 正之				
<b>講義の目標及び概要</b>				
いよいよ卒業研究に向けての、具体的なテーマとその組み立て方を学びます。各自のテーマをより深化させ、発表形式でおこない、参加者の討論によって、より具体的に明確なテーマの設定、そのための論理展開、参考資料の参照の仕方を身につけるようにします。				
<b>評価方法</b>				
出席(50%)と成果発表(50%)とによって総合的に評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(思想②)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：村松 晋				
<b>講義の目標及び概要</b>				
参加者各自が、専門演習Ⅱ(思想②)で取り組んだテーマを発展させることを目的とする。対象領域も専門演習Ⅱのそれに準ずる。				
<b>評価方法</b>				
発表と期末レポートが全てである。全授業数の三分の一以上を欠席した者には発表資格を与えない。多忙な時期であることは理解するが、無断欠席した場合には、極めて大きく減点する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(思想③)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：柳田 洋夫				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉</p> <p>日本においてプロテスタントをはじめとするキリスト教は、特に近代以降、思想や宗教のみならず政治や社会全般に大きな影響を与えてきた。本演習においては、主として明治以降の日本プロテスタント思想に関連する学びを共にしたい。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉</p> <p>専門演習での学びを踏まえつつ、それぞれのテーマのまとめに取りかかるための準備。</p> <p>〈学びの意義と目標〉</p> <p>テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通してキリスト教の思想や精神をより深く理解する。さらに、これまで学んだこと、考えたことをしっかりとしたかたちにまとめることができるようになることを目指す。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席30%、発表と討議への参加度と内容50%、レポート20%とする。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(思想③)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：柳田 洋夫				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉</p> <p>日本においてプロテスタントをはじめとするキリスト教は、特に近代以降、思想や宗教のみならず政治や社会全般に大きな影響を与えてきた。本演習においては、主として明治以降の日本プロテスタント思想に関連する学びを共にしたい。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉</p> <p>卒業研究Ⅰでの学びを踏まえつつ、それぞれのテーマの最終的まとめに向けて準備する。</p> <p>〈学びの意義と目標〉</p> <p>テキストの読解力を養うとともに、発表や討論を通してキリスト教の思想や精神をより深く理解する。さらに、これまで学んだこと、考えたことをしっかりとしたかたちにまとめることができるようになることを目指す。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席30%、発表と討議への参加度と内容50%、レポート20%とする。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

<b>選必 卒業研究(近現代文化①) I</b> <span style="margin-left: 50px;">秋</span> <span style="margin-left: 20px;">週1回</span> <span style="margin-left: 20px;">1単位</span>
担当者：清水 均
<b>講義の目標及び概要</b> 1、内容 春学期に開講された「専門演習Ⅱ」の継続であるが、ここで一度自らの研究テーマについて再検討してもらう。その上でテーマの変更があれば十分に検討した上で研究発表に取り組んでもらうことになる。  2、カリキュラム上の位置づけ 「専門演習Ⅱ」での研究発表、レポートを再検討した上で「卒業研究Ⅱ」への継続性を見定める。  3、研究発表レポート（原稿用紙換算15枚以上）を課す。卒業論文執筆に対して、自分がこれに取り組む可能性があるかどうかを見定めてほしい。
<b>評価方法</b> (1) 出席点：40% (2) 発表とレポート：50% (3) 授業、質疑等への取組：10%
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>選必 卒業研究(近現代文化①) II</b> <span style="margin-left: 50px;">春</span> <span style="margin-left: 20px;">週1回</span> <span style="margin-left: 20px;">1単位</span>
担当者：清水 均
<b>講義の目標及び概要</b> 1、内容 「卒業研究Ⅰ」までの各自の研究の発展。研究の充実度によって「卒業論文」へと向かってもらう。  2、カリキュラム上の位置づけ 「卒業研究Ⅰ」までのステップで展開してきた各自の研究の「仕上げ」となる。  3、学びの意義と目標 大学での専門的な研究の総仕上げとしてレポート30枚（原稿用紙換算）以上を執筆することを目指す。これにより、卒業論文を執筆する者はそのベースを作り上げることになり、それ以外の者にとっては研究の「証」を得ることとなる。いずれにしてもこのゼミで「卒業研究Ⅱ」を履修し終えるということは、卒業後の人生において時代や社会を眼差す力を獲得することになるはずである。
<b>評価方法</b> (1) 出席状況50% (2) 研究発表及び最終レポート50%
<b>教科書</b> プリントを配布する

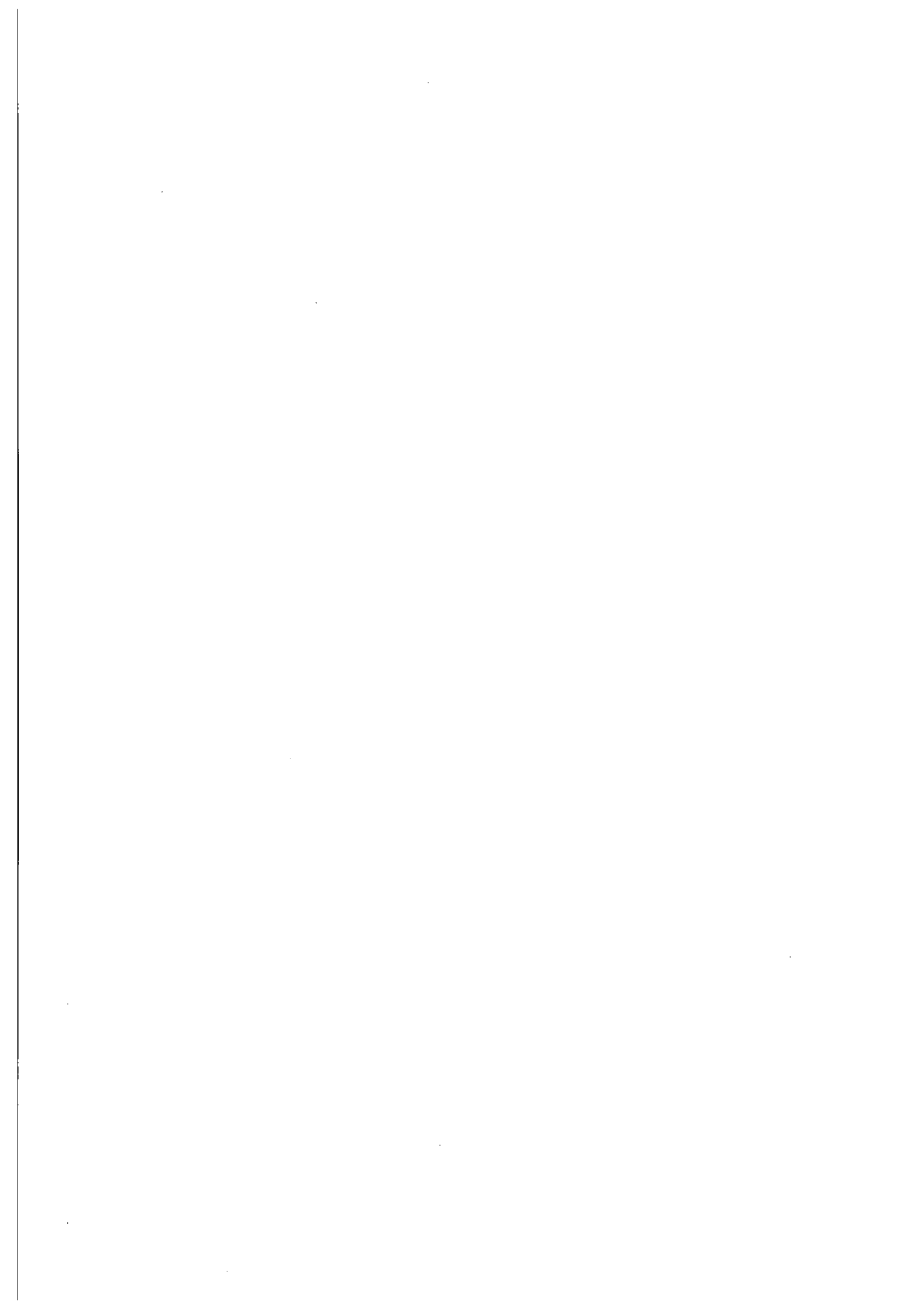
<b>選必 卒業研究(近現代文化②) I</b> <span style="margin-left: 50px;">秋</span> <span style="margin-left: 20px;">週1回</span> <span style="margin-left: 20px;">1単位</span>
担当者：熊谷 芳郎
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容◆ 各自が関心のあるテーマの先行研究論文を実際に読み解き、その内容を参加者に紹介するとともに、自分なりの解釈と見解を述べることによって、参加者全体でディスカッションを行う。中には、まだ自分の問題が明確になっていない場合もあるであろうが、ともに実践記録や論文を読み進めることによって、自分の取り組むべき課題を発見していくことを目指す。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 専門演習Ⅱで概説的な文章の読み取りを通して、その分野の概略を理解することを体験した。3年生秋学期のこの講座では、概観的な理解から具体的な課題を発見していくことになる。 ◆学びの意義と目標◆ 目の前の出来事の背後にどのような思想が横たわっているのか、それを見抜く目を養ってほしい。そのような体験を通じて、文化研究の基本的な研究姿勢を学び取ることにつながるであろう。
<b>評価方法</b> 出席、発表、討議への参加状況（50%）、学期末レポート（50%）による。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業研究(近現代文化②) II</b> <span style="margin-left: 50px;">春</span> <span style="margin-left: 20px;">秋</span> <span style="margin-left: 20px;">週1回</span> <span style="margin-left: 20px;">1単位</span>
担当者：熊谷 芳郎
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容◆ 各自の関心に基づく研究の中間発表を通じて、卒業論文を完成させるために必要な基礎技能を身に着ける。たとえ異なる研究課題であっても、他の研究について知ることは自らの課題に新たな視点を与えてくれるものになる。また、討議への参加により、論理を組み立てていくことの意味を体験的に理解していくであろう。また、最後に3年生や卒業生を対象として全員が研究発表を行う。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 4年生はいよいよ卒業論文を書き上げることに向かう。しかし、春学期の段階では、課題のおおよその見通しをもつために、幅広い文献や論文に触れる機会としてほしい。 ◆学びの意義と目標◆ 文化研究は先行研究を批判的に受容しながら、自らを確立していかなければならない。その体験を通じて、小学校入学以来学んできた学びを集大成して行ってほしい。
<b>評価方法</b> 出席、発表、討議への参加状況（50%）、学期末レポート（50%）
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選必修 卒業研究(日本文学)Ⅱ		秋	週1回	1単位
担当者：川口 さち子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 「卒業研究Ⅰ」までの各自の研究を発展させる。最後のゼミにあたって各自が現在最も取り組んでみたいテーマを研究してほしい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 「卒業研究Ⅰ」で扱ったテーマを各自深め、ある程度まとまった論文を書き、本学科での勉学に対する各自の「仕上げ」とする。</p> <p>3. 学びの目標 ゼミとしては、最後の課程となるので、大学での専門的な研究の総仕上げとしてレポート20枚（原稿用紙換算）以上を執筆することを目指す。各自まとまった論文と言えるレベルのものを書くこと。論文を書くことによって、本学で学んだことの証とし、社会に出ていくワンステップとしてほしい。</p>				
<b>評価方法</b>				
調査発表・レポートの内容（60%）、討論への参加度（20%）、出席状況（20%）を総合して判定する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 教職演習A		春	週1回	1単位
担当者：濱田 寛				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉 現代文の読解問題について演習形式にて検討を加える。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 「教えるための古典」と並行して学ぶ科目である。現代文についてより深い理解とより確かな読解力の涵養を目指す。 〈学びの意義と目標〉 「解答者」としての立場に限定せず、読解問題作成における「出題者」としての視点も含んだ、複眼的な視点からの学習を目指したい。</p>				
<b>評価方法</b>				
演習：100%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 教職演習B		秋	週1回	1単位
担当者：濱田 寛				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>本演習は「教職演習A」を継続するものである。</p> <p>〈内容〉 現代文の読解問題について演習形式にて検討を加える。過去に出題された教員採用試験の問題を俎上にあげ、問題作成の実際についても分析を試みたい。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 「教えるための古典」と並行して学ぶ科目である。現代文についてより深い理解とより確かな読解力の涵養を目指す。 〈学びの意義と目標〉 「解答者」としての立場に限定せず、読解問題作成における「出題者」としての視点も含んだ、複眼的な視点からの学習を目指したい。</p>				
<b>評価方法</b>				
演習：100%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				



# 7 人間福祉学部 児童学科

## 専門科目

### 科目一覧

キリスト教人間学A  
 キリスト教人間学B  
 児童学概論  
 教職基礎  
 教職演習A  
 教職演習B  
 教職演習C  
 教職演習D  
 教職演習E  
 教職演習F  
 教職演習G  
 海外実習(SAINTS)  
 フィールドワーク  
 児童学海外研修  
 児童文化論A  
 児童文化論B  
 絵本文化論  
 英米児童文学  
 ファンタジー論  
 おもちゃ論  
 英語コミュニケーション  
 児童英語教材研究  
 英語圏児童文学講読  
 教育心理学  
 発達心理学  
 児童臨床心理学  
 教育相談(カウンセリングを含む。)  
 セラピー特論  
 教育原理  
 児童教育学  
 キリスト教教育論A  
 教育社会学  
 日本教育史  
 社会教育論A  
 社会教育論B  
 現代社会と社会教育A  
 現代社会と社会教育B  
 社会福祉  
 社会福祉援助技術演習  
 児童福祉  
 保育原理A  
 保育原理B  
 養護原理  
 乳児保育  
 養護内容  
 障害児保育  
 障害児教育  
 小児保健I  
 小児保健II  
 小児保健実習  
 精神保健  
 家族援助論  
 小児栄養  
 地域福祉論  
 子どもカウンセリング論  
 地域子育て支援論  
 児童文学  
 社会  
 算数  
 理科  
 生活  
 家庭  
 音楽創造論

音楽・器楽A  
 音楽・器楽B  
 音楽・声楽  
 音楽・合奏指導A  
 音楽・合奏指導B  
 音楽・合奏指導C  
 音楽・合奏指導D  
 音楽・合奏指導E  
 音楽・合奏指導F  
 音楽・合奏指導G  
 音楽・合奏指導H  
 音楽・ハンドベルG  
 音楽・ハンドベルH  
 図画工作  
 図画工作A  
 図画工作B  
 体育  
 保育技術演習  
 音楽A  
 音楽B  
 教師論  
 総合演習  
 保育内容総論I  
 保育内容総論II  
 保育内容の研究・健康  
 保育内容の研究・人間関係  
 保育内容の研究・環境  
 保育内容の研究・言葉  
 保育内容の研究・表現A  
 保育内容の研究・表現B  
 幼児指導法の研究  
 教育課程論  
 初等国語科教育法  
 初等社会科教育法  
 算数科教育法  
 理科教育法  
 生活科教育法  
 音楽科教育法  
 図画工作科教育法  
 家庭科教育法  
 体育科教育法  
 道徳教育の研究  
 特別活動の理論と方法  
 教育方法論  
 生徒指導論(進路指導を含む。)  
 基礎実習  
 保育実習II-2  
 保育実習  
 保育実習A  
 保育実習B  
 小学校教育実習  
 介護等体験及び事前事後指導  
 学校経営と学校図書館  
 学校図書館メディアの構成  
 学習指導と学校図書館  
 読書と豊かな人間性  
 情報メディアの活用  
 専門演習(児童学I)  
 専門演習(児童学II)  
 専門演習(児童臨床心理学I)  
 専門演習(児童臨床心理学II)  
 専門演習(日本教育史I)  
 専門演習(日本教育史II)

専門演習(キリスト教幼児教育I)  
 専門演習(キリスト教幼児教育II)  
 専門演習(声楽I)  
 専門演習(声楽II)  
 専門演習(児童教育学I)  
 専門演習(児童教育学II)  
 専門演習(造形教育論I)  
 専門演習(造形教育論II)  
 専門演習(音楽創造論I)  
 専門演習(音楽創造論II)  
 専門演習(保育実践論I)  
 専門演習(保育実践論II)  
 専門演習(児童福祉実践論I)  
 専門演習(児童福祉実践論II)  
 専門演習(障害児心理I)  
 専門演習(障害児心理II)  
 専門演習(教育文化論I)  
 専門演習(教育文化論II)  
 専門演習(生涯学習I)  
 専門演習(児童文学I)  
 専門演習(児童文学II)  
 専門演習(社会科I)  
 専門演習(社会科II)  
 専門演習(算数I)  
 専門演習(算数II)  
 専門演習(理科II)  
 卒業研究(児童学I)  
 卒業研究(児童臨床心理学I)  
 卒業研究(児童臨床心理学II)  
 卒業研究(日本教育史I)  
 卒業研究(日本教育史II)  
 卒業研究(声楽I)  
 卒業研究(声楽II)  
 卒業研究(児童教育学II)  
 卒業研究(造形教育論I)  
 卒業研究(造形教育論II)  
 卒業研究(音楽創造論I)  
 卒業研究(音楽創造論II)  
 卒業研究(保育実践論I)  
 卒業研究(保育実践論II)  
 卒業研究(児童福祉実践論I)  
 卒業研究(児童福祉実践論II)  
 卒業研究(障害児心理I)  
 卒業研究(教育文化論I)  
 卒業研究(教育文化論II)  
 卒業研究(児童文学I)  
 卒業研究(児童文学II)  
 卒業研究(社会科I)  
 卒業研究(社会科II)  
 卒業研究(算数I)  
 卒業研究(算数II)  
 卒業研究(理科I)  
 卒業研究(理科II)



必修 キリスト教人間学A		春	週1回	2単位
担当者：左近 豊				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 目的 「人間とは何か？」という問いについて聖書の人間理解を踏まえて考察する。特に聖書に記された神と人とのドラマを題材に、現代社会において「人間とは何か？」を新たに問うことを目的とする。				
2. カリキュラム上の位置づけ この科目は、人間福祉学部3年次に必修として課せられる、本学の特徴であるキリスト教科目の一つである。				
3. 学びの意義と目標 キリスト教的人間学の特質とその意義を、とくに聖書の人間観を通して理解する。それにかかわる用語や概念の意味を理解すること。それを現代に生きる人間とりわけ自分自身にとってどのような意味があるかを考えること。また、自分自身の生き方の模索に役立てること。				
<b>評価方法</b>				
出席・授業参加 30% 礼拝出席レポート 20% 期末レポート 50%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

必修 キリスト教人間学B		秋	週1回	2単位
担当者：左近 豊				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 目的 「人間とは何か？」という問いについて聖書の人間理解を踏まえて考察する。特に聖書に記された神と人とのドラマを題材に、現代社会において「人間とは何か？」を新たに問うことを目的とする。				
2. カリキュラム上の位置づけ この科目は、人間福祉学部3年次に必修として課せられる、本学の特徴であるキリスト教科目の一つである。				
3. 学びの意義と目標 キリスト教的人間学の特質とその意義を、とくに聖書の人間観を通して理解する。それにかかわる用語や概念の意味を理解すること。それを現代に生きる人間とりわけ自分自身にとってどのような意味があるかを考えること。また、自分自身の生き方の模索に役立てること。				
<b>評価方法</b>				
出席・授業参加 30% 期末試験 50% 礼拝出席レポート 20%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

必修 児童学概論		春	週1回	2単位
担当者：田澤 薫				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 子どもに学問的なまなざしを向け、子どもを研究の対象として捉えるとはどういうことか。その具体的な視点と方法について、多様な角度から学ぶ。子どもをめぐる様々な場面での子どもと大人の関わりを考える。				
2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科に入り、子どもという存在や保育・教育のことを学び始める入り口に立って、子どもに学問的な視点を向けるきっかけとなる授業である。				
3. 学びの意義と目標 子どもを対象として見つめる視座を理解する。併せて、子どもについて学ぶにはいろいろな方法論があることを知り、今後の様々な領域での児童学の学びにつながる関心と意欲が得られることをねらいとする。				
<b>評価方法</b>				
出席した上での積極的な授業参加（毎回の小課題への取り組み）50% 期末試験 50%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 教職基礎		春	秋	週1回	2単位
担当者：加藤 実三					
<b>講義の目標及び概要</b>					
言葉は、他とのコミュニケーションの道具であると共に、自己の思考を整理したり深めたりする役割を持っています。この機能は家庭・保育園・幼稚園・学校などを通じていっそう高められ、社会人としての重要な素養の一部となり、あらゆる社会生活の基盤をなしていきます。					
そのため、聞くこと・話すこと・読むこと・を統合して「書く力」の向上を目指します。学習の材料は、毎日の生活のあちこちに存在します。身近にあるさまざまな言葉を拾い上げ、取り出し「正しい日本語の基準は何?」「言葉って案外面白いかも?」ということなどを追究していくつもりです。					
可能なら、受講生が自ら話材を提供したり、グループ討議をしたりすることも検討したいと考えています。できるだけ児童学科の学生に必要な内容を選びます。					
<b>評価方法</b>					
「言葉に対して興味・関心を深めることができたか」「文章を書く力を身につけることができたか」を目標とします。小論文(50%)出席状況(20%)提出物(20%)授業への参加意欲(10%)それらを総合的に評価します。					
<b>教科書</b>					
プリントを配布する					

選択 教職演習A		春	週1回	1単位
担当者：石津 靖大				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 学校の基本的な教育力は、教師の教育力つまるところ教師の授業における指導力であると考えられる。本演習は、上記の考えを踏まえて、公立小学校教員採用試験を受験し、その合格を目指すところの学生を対象とした内容の演習である。とくに採用試験の傾向と現状を正確に把握し、効果的な対策を立て、合格力を養成することに共同で取り組みたい。本年度の主たる内容は、教職における教職教養の分野を取り扱い、受講の対象を児童学科の2年次生に限定する。具体的な授業内容は、授業計画を参照。				
2. カリキュラム上の位置づけ 教職の基本的な知識を研究するところの学科の専門科目である。				
3. 学びの意義と目標 主たる目標は、小学校教諭に成るための教職教養の基本的な知識を研究し、教師としての肝どころをおさえることにある。				
<b>評価方法</b> 出席25%、平常点25%、試験50%の割合で評価する。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選択 教職演習B		秋	週1回	1単位
担当者：石津 靖大				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 学校の基本的な教育力は、教師の教育力つまるところ教師の授業における指導力であると考えられる。本演習は、上記の考えを踏まえて、公立小学校教員採用試験を受験し、その合格を目指すところの学生を対象とした内容の演習である。とくに採用試験の傾向と現状を正確に把握し、効果的な対策を立て、合格力を養成することに共同で取り組みたい。本年度の主たる内容は、教職における専門教養の分野を取り扱い、受講の対象を児童学科の2年次生に限定する。具体的な授業内容は、授業計画を参照。				
2. カリキュラム上の位置づけ 教職の基本的な知識を研究するところの学科の専門科目である。				
3. 学びの意義と目標 主たる目標は、小学校教諭に成るための専門教養の基本的な知識を研究し、教師としての肝どころをおさえることにある。				
<b>評価方法</b> 出席25%、平常点25%、試験50%の割合で評価する。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選択 教職演習C		春	週1回	1単位
担当者：石津 靖大				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 学校の基本的な教育力は、教師の教育力つまるところ教師の授業における指導力であると考えられる。本演習は、上記の考えを踏まえて、公立小学校教員採用試験を受験し、その合格を目指すところの学生を対象とした内容の演習である。とくに採用試験の傾向と現状を正確に把握し、効果的な対策を立て、合格力を養成することに共同で取り組みたい。本年度の主たる内容は、前年度の教職演習Aで取り扱った分野を質量共に発展させるものである。受講の対象は児童学科の3年次生に限定、具体的な授業内容は授業計画を参照。				
2. カリキュラム上の位置づけ 教職の基本的な知識を土台にして、それを発展的に研究するところの学科の専門科目である。				
3. 学びの意義と目標 主たる目標は、小学校教諭に成るための教職教養の基本的な知識を発展的に研究し、教師としての肝どころをより明確におさえることにある。				
<b>評価方法</b> 出席25%、平常点25%、試験50%の割合で評価する。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選択 教職演習D		秋	週1回	1単位
担当者：石津 靖大				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 学校の基本的な教育力は、教師の教育力つまるところ教師の授業における指導力であると考えられる。本演習は、上記の考えを踏まえて、公立小学校教員採用試験を受験し、その合格を目指すところの学生を対象とした内容の演習である。とくに採用試験の傾向と現状を正確に把握し、効果的な対策を立て、合格力を養成することに共同で取り組みたい。本年度の主たる内容は、前年度の教職演習Bで取り扱った分野を質量共に発展させるものである。受講の対象は児童学科の3年次生に限定、具体的な授業内容は授業計画を参照。				
2. カリキュラム上の位置づけ 教職の基本的な知識を土台にして、それを発展的に研究するところの学科の専門科目である。				
3. 学びの意義と目標 主たる目標は、小学校教諭に成るための専門教養の基本的な知識を発展的に研究し、教師としての肝どころをより明確におさえることにある。				
<b>評価方法</b> 出席25%、平常点25%、試験50%の割合で評価する。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				



選択 教職演習Ⅲ	春	週1回	1単位
担当者：内田 武司			
<b>講義の目標及び概要</b>			
(1) 〈内容〉 この演習は、公立学校教員となるための資格要件。教員採用選考試験の概要。教員採用教の動向。受験に向けての学習の進め方を示すとともに、討論と相互評価。指導案作成と模擬授業の展開等から、教員の一般的実務に関心を持ち、実践的指導力の習得を目指し、信頼され、期待に応えられる教師輩出の一助とするものである。			
(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 公立学校教員になるためのガイダンスが中心となる演習で、教員採用選考試験対応の基礎となるべきものである。			
(3) 〈学びの意義と目標〉 埼玉県及びさいたま市を中心に、教員採用選考試験の受験資格要件、試験内容等を理解し、合格を目指しての計画的な準備（学習）を円滑にすることで、教員採用選考試験に積極的に臨むことができるようにする。			
<b>評価方法</b>			
公立学校教員になるための資格要件等を理解するとともに、教員に期待される諸能力（資質など）の習得を目指して、積極的に演習に参加できたか。テスト30%。レポート30%。出席40%によって、算出する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 教職演習Ⅳ	秋	週1回	1単位
担当者：内田 武司			
<b>講義の目標及び概要</b>			
(1) 〈内容〉 この演習は、学校教育の今日的課題を取り上げるとともに、学校に内在する様々な問題に気づき、想定される状況下で場面指導シミュレーション。比較討論を加えたグループ面接シミュレーション。教育課題討論。論作文演習。指導案作成と模擬授業の展開等を通して教員として実践的な指導力を高める。もって、信頼され、期待に応えられる教師輩出の一助とするものである。			
(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 小学校教員の日常活動を想起したシミュレーションが中心となる演習で、教員採用選考試験対策に力点を置くものである。			
(3) 〈学びの意義と目標〉 学校教育の今日的課題に関心を持ち、課題解決に向けての熱意と実践的な指導力を高めるとともに、自己の教育信条を明確にして、教員採用選考試験に積極的に臨むことができるようにする。			
<b>評価方法</b>			
学校教育の今日的な課題や学級担任の実務に関心を持ち、教員に期待される諸能力（資質など）の修得を目指して、積極かつ工夫を凝らして演習に参加したか。テスト30%。レポート30%。出席40%によって、算出する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 教職演習Ⅵ	春	週1回	1単位
担当者：内田 武司			
<b>講義の目標及び概要</b>			
(1) 〈内容〉 この演習は、受講生が公立学校教員採用選考試験に応募し、実際に受験するまでの約3ヶ月余を意識して内容構成している。即ち、教員採用選考試験実施要項の比較検討。採用する側の期待する教師像。過去問挑戦。教育関係時事・ローカル情報の収集と考察。各種面接試験シミュレーション。模擬授業の展開。論作文演習などを通して、受講者が合格を目指して積極的に準備（学習）できるよう工夫されている。			
(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 公立学校教員採用選考試験に関係の深いシミュレーションが中心となる演習で、受験に臨む直前対応に重点を置いている。			
(3) 〈学びの意義と目標〉 埼玉県及びさいたま市を中心に、小学校教員採用選考試験の内容等を理解し、関係する各種シミュレーションに参加することで、合格を目指し着実に最終的な準備（学習）をする。もって、教員採用選考試験に積極的に臨むことができるようにする。			
<b>評価方法</b>			
教員採用選考試験の概要を理解し、教員に期待される諸能力（資質）の習得に努めるとともに、合格を目指して積極的に演習に参加できたか。テスト30%。レポート30%。出席40%によって、算出する。			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選択 海外実習(SAINTS)	秋集中	4単位
担当者：村山 順吉		
<b>講義の目標及び概要</b>		
アメリカ合衆国ジョージア州アトランタにある、聖学院アトランタ国際学校（SAINTS）の幼稚部で、約2週間の研修を行う。 多文化の混在するアメリカ社会の中にある「SAINTS」には、普段家庭では中国語、フランス語、その他2種以上の言語を使用している、文字通り多言語、多文化の中で日常を過ごす子どもたちが多く通っている。このような生活環境にある子どもたちに対して、日本の保育を活かしながら行われている異文化間保育の現場「SAINTS」では、特に英語と日本語という二つの言語、異なった文化を、それぞれ尊重しながら受容していく過程で、子どもたちもお互い同士のかかわり合いの中から、お互いを認め合って育ち合っていく。このような保育実践のなかでの実習を通して、日本国内での実習とはまた違った多くのことに気づき、学ぶことが目的である。		
尚、この科目を履修するためには、4年次春学期の履修登録の時点で「保育実習Ⅱ」が修得見込みであることと、4年次の春学期までで卒業単位が修得見込みであることを条件とする。また、春学期終了時に上記の条件がクリアできなかった場合には、履修取り消しとする。		
<b>評価方法</b>		
研修の態度と帰国後のレポートをもって行う。		
<b>教科書</b>		
授業の中で指示する		

選択 **フィールドワーク**

秋集中 2単位

担当者：相川 徳孝/松本 祐子/村山 順吉

**講義の目標及び概要**

この授業は子どもの生活の場に自主的に参加し、生活を共にすることを通して体験したことをレポートや討議等の方法を通して整理、理論化し、子どもに対する理解や現場環境の理解を深めていくことを目的としている。したがってこの授業を受講しようとする学生は以下の条件を満たしていなければならない。

- ・集中講義出席以前にフィールドにおける実践体験をもつこと。
- ・集中講義に出席し、定められたプログラムを経験すること。

**(教材として)**

各自の実践レポート、その他の記録を使用する。

**(参考図書として)**

山口昌男編 『文化人類学』(日本放送協会)  
津守 真 『保育の体験と省察』(大日本図書)

**評価方法**

実践に関する報告(口頭発表・記録・レポート)と現場責任者の評価を含め、総合的に評価する。

**教科書**

授業の中で指示する

選択 **児童学海外研修**

秋集中 4単位

担当者：村山 順吉

**講義の目標及び概要**

国際化の進展に伴い、子どもの問題も海外諸事情を勘案し、それらとの連環における学習が不可避とされているが、この場合の学習は、海外情報の収集および実地体験に分けて考えることが出来る。前者は、関連する学科目の講義・演習において行われるが、本学科目は受講者に実地体験の機会を提供するものである。

本年度の児童学海外研修は、オーストラリア、アデレードのフリンダース大学で行われ、児童学科の教員が同行する予定である。なお本研修は、国際センターの協力を得て、同センターとの連携のもとに行われる。

なお授業計画については、右記内容を15回で実施する

**評価方法**

研修中に提出されるレポートおよび研修態度。

**教科書**

授業の中で指示する

必修 **児童文化論A**

春 秋 週1回 2単位

担当者：田澤 薫

**講義の目標及び概要**

1 内容

子どもを取り巻く文化的環境を様々な観点から学ぶ。子どもにとっての遊びや遊び空間の意味と役割、子どもとモノの関わり、子どもと物語の出会い、環境の変化による子ども文化の変化等を探ることで、子どもと社会の関わりを考える視点を養う。

2 カリキュラム上の位置づけ

児童学科の1年生を対象とする基礎的な科目である。また卒業必修科目である。

3 学びの意義と目標

子どもと社会とのかかわりを「文化」という視点から学ぶことで、子どもへの関心を具体的かつ意識的に捉える面白さを味わいたい。

**評価方法**

授業期間中の課題・ミニテスト 50%  
期末試験 50%

**教科書**

皆川美恵子ほか編著『児童文化—子どものしあわせを考える学びの森』(ななみ書房)

必修 **児童文化論B**

春 秋 週1回 2単位

担当者：寺崎 恵子

**講義の目標及び概要**

1 内容

子どもが〈子ども〉として生きるとはどういうことなのか。また、子どもが生きることに「文化」はどのようにかかわっているのか。これらのことについて、伝承遊びに着目して考察を深める。

2 カリキュラム上の位置づけ

「児童学科で学びたい」と強く望んでいる人のための入門として位置づける。

3 学びの意義と目標

子ども期を過ごした経験をもつ人間が今を生きる子どもと関わりあうとき、〈子ども〉はどのように現れてくるのだろうか。受講生自身の〈子ども〉を確認しながら、今を生きる〈子ども〉を理解するときの観点を、学習を通じてできるだけ多くもつようにしたい。

なお、この授業は協同学習の形式をとる。学習する過程で自身自身の視野が広がっていくを感じ取る経験を大切にしたい。

**評価方法**

各回提出の「出席票」記述内容(5点×15回=75点)と発表内容(10点+15点)とを合わせて評価する。なお、「出席票」記述については、初回に詳細を説明する。

**教科書**

小川清実『子どもに伝えたい伝承あそび』(萌文書林)

選択 絵本文化論		春	週1回	2単位
担当者：森下 みさ子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 絵本は、子どもが出会う物語世界の入口にあり、その出会いは大人との共同作業によって用意される。と同時に、大人をもう一度、人間の原点である〈子ども〉世界へと誘う働きもしている。子どもの絵本体験とは何かをさぐると同時に、すぐれた絵本から子どもの世界の文法をさぐり、さらに大人にとっての意味もとらえていきたい。				
2. カリキュラム上の位置づけ 子どもの感じ方の文法・大人と子どもの関係の原基をさぐっていく、子どもの世界を知るための入門的な講義である。				
3. 学びの意義と目標 子どもが「描かれた世界」をどう受けとめ、どのように心を養っていくのか、そこに「絵本」という媒体や大人はどうかかわるのか、保育・教育現場で用いることも考慮しつつ絵本が作り出す〈場〉の意味と可能性を学んでほしい。				
<b>評価方法</b> 授業内のミニレポート30% 期末テスト70%				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

選択 英米児童文学		春	週2回	4単位
担当者：松本 祐子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1)〈内容〉この授業では、必ずしも読者を子どもと想定していたわけではない昔話からイギリス児童文学の始まりに至るまでの流れ、以後の児童文学に決定的な影響を与えた古典的作品の意味、ファンタジーとリアリズムの果たす役割、さらには現代の児童文学の抱える諸問題について触れながら、英米児童文学の歴史と概要を学んでいく。				
(2)〈カリキュラム上の位置づけ〉児童学科の学生は1年次から、それ以外の学科の学生は2年次から履修できる科目。英米児童文学についての基本的知識を身につけるための授業で、初心者～中級者向け。				
(3)〈学びの意義と目標〉長い歴史を持つ英米児童文学は数々のベストセラーを産み出し、また、近年も多くの映像作品の原作となるなど、豊かな物語の宝庫である。一般には名前だけしか知られていないような名作の本当の姿を知ること、人間性についてのより深い知識と教養を身につけることが目標である。				
<b>評価方法</b> 授業への出席・平常点20%、レポート40%、期末試験40%で評価する。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選択 ファンタジー論		秋	週2回	4単位
担当者：松本 祐子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1)〈内容〉この授業では、まず、神話・伝説・昔話の中にファンタジーの源流を探り、次に、魔法の生き物、ファンタジーの空間、ファンタジーの時間、異形のものたち（ヴァンパイア、人造人間、不老不死）、魔法使いと魔女など、様々な項目ごとにファンタジー作品の分析を試みる。また、おとぎ話、児童文学を下敷きにしたディズニー映画をその原作と比較しつつ、ディズニー映画の人気の理由とその功罪について考える。				
(2)〈カリキュラム上の位置づけ〉児童学科の学生は1年次から、それ以外の学科の学生は2年次から履修できる授業だが、ファンタジー・物語についての基礎知識のある学生のための授業である。				
(3)〈学びの意義と目標〉「夢とおとぎの国への逃避」といったような一般的なファンタジーのイメージに疑問を投げかけ、むしろ、現実を生きる力を身につけるためのファンタジーの在り方について考えたい。				
<b>評価方法</b> それぞれのテーマごとに3本のレポートを提出してもらおう。授業内の小レポート10%、レポート(1)25%、(2)25%、(3)40%で評価する。ただし、授業を三分の一以上欠席した者、レポート(1)(2)(3)のうち1本でも提出しなかった者には単位は与えない。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選択 おもちゃ論		春	週1回	2単位
担当者：森下 みさ子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 おもちゃは、人間社会の入口にいる子どもにとって不可欠なモノであるだけでなく、大人と子ども、ヒトとヒトを媒介し、同時に時代や社会を映し出す力も持っている。おもちゃを手がかりに、子どもの世界をさぐり、大人と子どもの関係を模索し、合わせて伝統から流行まで時代が指示するものを読み解いていく。				
2. カリキュラム上の位置づけ 子どもに対する基本的な考え方を学んだ上で、その応用・展開として聴いてほしい。				
3. 学びの意義と目標 具体的なおもちゃを扱いながら、子どもの世界について考えるだけでなく、モノを媒介に遊びの場を創造してきた人間社会をも照射することを試みる。子どもにとっての意味、現代社会における意味など、おもちゃを媒介として見えてくるものを把握すると同時に、おもちゃに対する見解を持ちうるように、個々のおもちゃ観を育てることを目標としたい。				
<b>評価方法</b> 授業内ミニレポート20% 期末レポート80%				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

選択 英語コミュニケーション

秋 週1回 2単位

担当者：M. サベット

講義の目標及び概要

英語を理解する外国人の子供を日本の幼稚園・保育園・小学校に迎える際に必要なコミュニケーション・スキルを養うことを目的とする。歓迎の挨拶、園内・校内設備の案内など実践に必要なコミュニケーション・アクティビティを行う。英語を理解する保護者のために、家庭配布プリントから必要な情報を英語で伝えるためのコミュニケーション・スキルを養う。日本の幼稚園・保育園・小学校の特徴と聖学院アトランタ国際学校 (SAINTS) の異なる文化的背景を英語で学ぶ。

評価方法

1. 出席状況 30%
2. 授業態度・参加 30%
3. テスト 40%

教科書

プリントを配布する

選択 児童英語教材研究

秋 週1回 2単位

担当者：東 仁美

講義の目標及び概要

1. 内容  
学習指導要領の改訂に伴い、5・6年生で年間35時間の外国語活動が必修化されることになった。この授業では、学級担任として英語活動を指導するために必要な小学校英語の基礎知識を身に付ける。また、教材研究を通して、1時間の指導案を組み立てる力をつけていく。学期末課題として、単元計画・指導案を作成し、模擬授業を行なう。学外授業として、さいたま市立小学校での英語活動を見学する。
2. カリキュラム上の位置づけ  
児童学科の選択必修科目であるが、小学校教員免許取得希望者は是非履修してほしい。
3. 学びの意義と目標  
公立小学校で行われている英語活動の目標、内容を十分に理解し、学級担任として英語活動の指導ができるようにする。

評価方法

- 授業への出席、参加 20%  
レポート 30%  
学期末課題 30%  
プレゼンテーション 20%

教科書

文部科学省『小学校外国語活動研修ガイドブック』旺文社  
文部科学省『小学校学習指導要領解説 外国語編』東洋館出版社  
文部科学省『英語ノート1』教育出版  
文部科学省『英語ノート2』教育出版

選択 児童英語教材研究

秋集中 2単位

担当者：横田 玲子

講義の目標及び概要

1. 内容  
小学校英語活動やそれ以外の児童英語教育についての概要や背景となる理論を学ぶ。また実施に関わる様々な要素や教育環境についても理解を深める。授業は講義のほか、経験的に学んでいくグループワークを実施する。
2. カリキュラム上の位置づけ  
児童英語教育科目の中の入門的な講座である。
3. 学びの意義と目標  
児童英語の概要と共に、英語運用力、および正しい発音についても学ぶ。幼い子供たちを教えるという観点から、「自分の学び」とともに「教える」という視点と責任感が求められる。時間にルーズだったり、適当にことを済ませようとする人には向かない。

評価方法

出席 50% ExitCard 30%  
プレゼンテーションとポートフォリオ 20%  
テストはしないが、出席と授業参加を重視し、出席点、及び授業参加の記録による自己評価を行う。

教科書

文部科学省『英語ノート1』教育出版  
文部科学省『英語ノート2』教育出版  
文部科学省『小学校指導要領解説 外国語活動編』東洋館出版  
文部科学省『小学校外国語活動研修ガイドブック』旺文社

選択 英語圏児童文学講読

春 週1回 2単位

担当者：松本 祐子

講義の目標及び概要

- (1) (内容) イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリア等、英語圏の優れた児童文学作品を取り上げ、訳読する。今回は、スタジオ・ジブリの次回作の原作として話題のイギリス児童文学の傑作、メアリー・ノートン作『床下の小人たち=The Borrowers』を読む。
- (2) (カリキュラム上の位置づけ) 1年次の必修英語で身につけた英語力を維持し、さらにブラッシュアップしたい学生のための授業。文法、構文などを中心にしたリーディング能力を伸ばす内容である。
- (3) (学びの意義と目標) 日本の英語教育は、現在、コミュニケーション力が重視されているが、文法の知識なしに正しく英語を読み書きすることはできない。また、英文を日本語に置き換えることで、英語と日本語の構造の根本的な違いがわかり、文化や思考方法の違いも見えてくる。作品に描かれる文化的背景についても学びながら、英語で一冊の本を読破する達成感を味わってほしい。

評価方法

授業時の平常点40%、期末試験50%、出席10%によって算出する。

教科書

Mary Norton 『The Borrowers』

必修 教育心理学		通年	週1回	4単位
担当者：金谷 京子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>教育心理学は、教育が行われるときに生じる種々の事象の、心理学的な方法を用いて理解し、子どもの心身の発達を促進したり、その過程で生起する種々の問題の解決をめざしたりするものである。</p> <p>本講義は、種々の事象について、受講生が、心理学的知見を得、子どもをより深く理解するようになることを目標としている。講義は、以下の事項について学んでいく。</p> <p>1. 子どもが何らかの新しい行動を「学習」する過程(学習)、2. 様々な事柄や関係が「わかる」ようになるしくみ(認知)、3. 「覚える」しくみ(記憶)、4. 子どもの「やる気」(達成動機)、5. 学級という社会(学級集団)、6. 教え方(教授法)、7. 子どもの行動や潜在力の測定や評価(測定と評価)、8. 子どもが育つ心理のみちすじ(発達)、9. 個々人の「ちがい」(パーソナリティ)、10. 心身の発達や適応の様相が通常とは異なる子ども。</p> <p>教育心理を学ぶにあたり、心理学概論を学習しておくことが望ましい。</p> <p>カリキュラムの位置づけとしては、卒業必修科目である。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席状況および小レポート、試験、受講意欲・態度を総合して評価する。春学期試験40%、秋学期試験60%で評価する。				
<b>教科書</b>				
中澤潤『よくわかる教育心理学』ミネルヴァ書房				

選択 発達心理学		春	週1回	2単位
担当者：金谷 京子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 講義概要：人間の行動や心的な諸機能の発達は、どのような過程をたどるものか、また、どのようなメカニズムによってもたらされるのか、生涯発達の視点から人間の発達について学習する。保育・教育と発達との関連についても検討していく。</p> <p>2. カリキュラムの位置づけ：保育士資格必修科目である。教職課程においては、選択科目であるが、実習等の基礎知識として履修しておくことが望まれる。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席状況および小レポート、試験によって総合評価する				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 児童臨床心理学		春	週2回	4単位
担当者：山田 麻有美				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(1)内容 一般に子どもは不愉快な経験を乗り越える力、心の回復力(resilience)は大きい。しかし現代社会の中では、子どもが心の元気を失い、悩み苦しむことが少なくない。児童臨床心理学は、子どもが人生の困難に立ち向かう力を身につけ、能力を十分に発揮できる大人となるために必要な手助けを考える学問である。本講義では、子どもの心の問題とそれが生じる要因、その解決(心理療法の考え方)などに触れていく。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 児童学科の専門科目の中では、各論的な位置づけである。心理学や発達心理学、教育心理学を十分理解した上で履修することが望ましい。</p> <p>(3)学びの意義と目標 子どもが心の元気を失う要因や心の元気を失っていく過程、子どもが心の元気を取り戻すための必要な周囲の人々のかかわり方などについて、受講生が理解を深めることを目標としている。この学びを通して、次世代の子どもたちをはぐくんでいく大人としての自覚を持ち、子どもに関わることの大切さを学んでいただきたい。</p>				
<b>評価方法</b>				
参加度による評価(30%)は、授業に出される質問への応答や課題に対する取組により行い、試験による評価70%は、最終回に行われる試験により行い、その合計を全体の評価とする。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 教育相談(カウンセリングを含む)		秋	週1回	2単位
担当者：山田 麻有美				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>教育相談は、学校教育にかかわる諸問題の解決を目指す活動であり、「一人ひとりの子どもの教育上の諸問題について、本人またはその親、教師などに、その望ましい在り方について助言指導すること」であり、「個人の悩みや困難の解決を援助することによって、その生活によく適応させ、人格の成長への援助を図ろうとする」活動とされる。このような活動の際には、相談活動の基本的な態度であるカウンセリング・マインド(生徒の行動や言動を受容し、共感的に理解しようとする態度)が、重要な態度であり、すべての教師がこの態度を身につけることが求められている。</p> <p>本講義は、学校教育における教育相談の意義の理解と現代の教師に求められる資質の一つであるカウンセリング・マインドの習得とが目標であり、受講生がサイコドラマの手法によりカウンセリング・マインドを習得できるよう計画されている。</p>				
<b>評価方法</b>				
授業への参加度40%と試験50%、出席10%の割合で算出する				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

**選択 セラピー特論**

春 週1回 2単位

担当者：山田 麻有美

**講義の目標及び概要**

## (1)内容

本講義名のセラピーは、精神療法または心理療法を意味することが多い。心理療法は悩みや心の問題を、薬や外科的な手法を用いず、心理学的な手法を用いて解決しようとする方法のことである。本講義では、集団心理療法の一つであるサイコドラマを取り上げ、理論や実施法の解説と並行してサイコドラマの実技を行う。その体験を通して、集団心理療法についての理解が深めることを目指している。

## (2)カリキュラムにおける位置づけ

児童学科の専門科目の中では、各論的な位置づけである。発達心理学や教育心理学を十分理解した上で履修することが望ましい。

## (3)学びの意義と目標

人間関係が希薄になっている現代社会において、集団心理療法の技法は、よりよい人間関係の構築や修復に応用することができる。サイコドラマという集団心理療法を実際に体験的に学ぶことは、心理療法の理論や実施法を学ぶというだけでなく、心理的に成長しよりよい社会人となる一助となると考えている。

**評価方法**

授業への参加度45%及び小レポート15%、試験40%により算出する

**教科書**

授業の中で指示する

**必修 教育原理**

春 秋 週1回 2単位

担当者：寺崎 恵子

**講義の目標及び概要**

## 1 内容

教育は、誰もが経験してきていることである。けれども、「教育とはなにか」という問いに一言で簡潔に答えることは難しい。この講義では、人々が教育をどのようにとらえてきたのか、そして、教育を通して人々がどのようなことを望みながら生きてきたのか、という視点から教育を考えたい。また、この講義を通じて、幼・保・小の連携のあり方について、その可能性を考えていきたい。

## 2 カリキュラム上の位置づけ

初等教育の基本的観点をたどるので、入門として位置づけている。

## 3 学びの意義と目標

昨今、教育についての議論は多方面から活発になされているが、その内容は錯綜としている。教育のあり方を考えるには、じっくりと教育といういとなみを見つめることが必要であろう。それは言い換えれば、自分自身を把握することでもある。

**評価方法**

小レポート（45点）と期末課題（55点）とを合わせて評価する。

**教科書**

プリントを配布する

**必修 児童教育学**

秋 週1回 2単位

担当者：永井 理恵子

**講義の目標及び概要**

本講義は児童学科1年生のために開講する、児童教育学の基礎講義である。児童教育学と一言で言っても非常に幅が広いが、将来、福祉、教育、保育と多方面の学修を深めていく第一歩として、児童教育学の全体を大まかに把握することを目的とする。各講義内容ごとには深く入り込むよりも、様々な側面からアプローチする視点の基礎力を培うことを目指す。

カリキュラム上の位置づけは、児童学科の卒業必修科目であると同時に、保育士資格必修科目でもある。

学びの意義と目標：児童教育学に関する基礎的知識を習得し、様々な講義に入っていく導入としての視点の獲得を目指す。

**評価方法**

出席率60%、授業内の小テスト（2回程度を予定）20%、期末のレポート20%。その他、授業態度や、授業中に見せる視聴覚教材の感想文レポートなども評価対象となる。

**教科書**

上野恭裕編著『新現代保育原理』三晃書房

**選択 キリスト教養育論A**

春 週1回 2単位

担当者：森田 美千代

**講義の目標及び概要**

## 内容

今年度は、ホーレス・ブッシュネル著『キリスト教養育』を読み、そのなかに出てくるキリスト教教育に関するいろいろな基本的考え方を学ぶことにする。

## カリキュラム上の位置づけ

児童学科2年生を対象とした専門科目である。もちろん、児童学科3年生や4年生も受講できる。

## 学びの意義と目標

このコースでブッシュネルの『キリスト教養育』をしっかりと学ぶことは、キリスト教教育の一つの重要な理論をマスターすることであり、そして、そのことは、現在実際におこなわれているキリスト教教育を観察したり評価する時の一つの有効な視点を提供してくれることになる。

**評価方法**

出席 30%  
レスポンス・ペーパー 30%  
期末レポート 40%

**教科書**

プリントを配布する

選択 教育社会学	春	週1回	2単位
担当者：小川 洋			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容：教育に関するさまざまな現象を、質問紙調査、聞き取り調査あるいは統計などを用いて、その背景にあるものを解明しようとする研究分野である。近代以降、教育が学校という組織によって担われるようになると、学校教育の果たす社会的な役割がひじょうに大きくなる。時にそれは、関係者に過剰な期待を持たせたり過剰な負担を与えたりする。その結果しばしば教育には、「問題」が見出され、マスメディアや政治家たちによって争点化される。「問題」をどのように社会学的に理解できるのか、研究事例などの紹介をとおして、考えてもらうことを中心とする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：教育に関する幅広い視野をもつための教職課程科目。児童学科の幼稚園教諭・小学校教諭の課程においては必修、中学校・高校の教職課程においては、選択必修である。</p> <p>3. 学びの意義と目標：教員にとっては、目の前の生徒や保護者を自分自身の目で判断し、必要な教育活動について考える能力が求められる。マスメディアなどの言説に安易に依存しては、教師としての専門性を放棄することになる。授業を通じて、教育現象を冷静にみる能力と姿勢を育てることを目標とする。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席は基本条件。学期中にレポート1本の提出を求める（25%）。授業中のミニレポート（25%）。期末テスト（50%）			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 日本教育史	春	秋	週1回	2単位
担当者：石津 靖大				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 日本教育史の概観を、教育思想と教育制度と学校教育の領域をとおして展開することができるように、講義内容を用意している。しかし、教育の歴史は、その国の政治、経済、文化などの社会的状況と大きく関連している。そこで、講義の内容は、教育の思想や制度、学校教育だけでなく、広く日本人の形成にかかわったと考えられるところの、社会的、文化的な領域をも取りあつかうこととする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基本的な日本教育史の概説で、学科の専門科目ならびに教職の教養科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 日本教育史における基本的事項の理解が得られることを目指す。そして、それらの事項の整理をすることによって、日本の教育の流れの特色を知ることを目指す。</p>				
<b>評価方法</b>				
評価の割合は、定期試験70%、出席状況30%である。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 社会教育論A	春	週1回	2単位
担当者：小池 茂子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容 本講義では、まず社会教育とは何かを考える。学校が出現する以前の社会集団における人間の教育、また社会の持っている教育的感化力など人の教育が家庭や学校だけにとどまるものではないことに視野を開き、社会の中に存在してきたそして今日も存在している教育力とは何かを考える。</p> <p>また戦後の社会教育法に見る社会教育の定義、及び生涯教育の理念が提出された後の、社会教育の現代的意義について考えていく。そのために今日公的社會教育行政がその重点的施策として着手している学校と社会教育の連携、子育て支援、青少年の居場所づくりなどを取り上げそれらについての意義と課題を検討する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科の専門科目として位置づけられている。</p> <p>3. 学びの意義と目標 今日、人間を育てる場が家庭、学校教育だけではないことを知り、社会の中で展開されている教育活動の実際とそれらの意義について理解する。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席（20%）と試験（80%）を一応の目安としつつ、総合的に評価する。			
<b>教科書</b>			
稲生助吾『生涯学習・社会教育概論』樹村房			

選択 社会教育論B	秋	週1回	2単位
担当者：小池 茂子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容 人間が学校や幼稚園を作る前から、人間によって人間を育て教育する営みは形作られてきた。それを社会の中にある教育という意味で社会のもつ教育力教育といえるのかもしれない。本講義では、社会の中で営まれてきた子ども或いは青少年を対象として行なわれてきた教育活動を歴史を追って紹介し、その意義について考察することとしたい。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学部児童学科の専門科目として位置づけられている。</p> <p>3. 学びの意義と目標 児童学科の学生が、子どもを育む場が家庭と学校（含・幼稚園）といった教育機関だけではないことを理解し、学校や家庭の外にある教育が子どもたち、青少年にどのような成長や発達をもたらすことが可能なのかを各自の視点で見出すことができるようになる。</p>			
<b>評価方法</b>			
出席（20%）と試験（80%）を一応の目安としつつ、総合的に評価する。			
<b>教科書</b>			
鈴木真理『学ばないこと・学ぶこと』学文社			

選択 現代社会と社会教育A

春 週1回 2単位

担当者：小池 茂子

講義の目標及び概要

1. 内容

本講義では、高齢者を対象とする教育について取り上げる。子どもの学習を支援する教育原理に対して、1970年代から提唱され始めてきた成人教育学なかに高齢者の教育学（gerogogy）理論について論じることとする。尚、本講義で扱う高齢者の範囲は、病的及び加齢によって著しい知的な退行現象を呈している高齢者を除く高齢者とする。

2. カリキュラム上の位置づけ

社会教育主事の資格取得のための必修科目。（資格取得を目指す学生を受講ももちろん歓迎する。）

3. 学びの意義と目標

成人の生涯発達支援から高齢の特性を理解しそれを踏まえた高齢者を対象とする学習支援の方策について理解する。専門職として（或いは一個人として）、高齢者教育の現代的意義と高齢者に接する際の配慮の視点を受講生が理解することを本講義の目標とする。

評価方法

出席（20%）と試験（80%）を一応の目安としつつ、総合的に評価する。

教科書

麻生誠、堀薫夫『生涯発達と生涯学習』（財）放送大学教育振興会

選択 現代社会と社会教育B

秋 週1回 2単位

担当者：小池 茂子

講義の目標及び概要

1. 内容

第1に、今日問題になっている青少年の自立と社会性の育成をどのようにするかを巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育や社会教育政策の中での奨励をめぐる議論について取り上げる。第2に、人間がよりよく生きていくためには、生にまつわる否定的側面の課題（死・病、対象喪失などをめぐる課題）を直視し考えることの必要を説く「生と死の準備教育」がある。「生と死の準備教育」提唱者たちの理念、教育目的、教育内容を紹介し、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について考えていきたい。

2. カリキュラム上の位置づけ

社会教育主事の資格取得のための必修科目。（資格取得を目的としない学生を受講も歓迎する。）

3. 学びの意義と目標

青年期を生きる人間の生をよきものとするため、どのような教育が必要なのかを受講生が自らの課題として考察することを目標とする。

評価方法

出席（20%）と、授業中に課す小レポート（20%）及び学期末の課題レポート（60%）によって評価を行なう（試験は実施しない）。

教科書

プリントを配布する

選択 社会福祉

春 秋 週1回 2単位

担当者：大塚 健司

講義の目標及び概要

講義の概要及び目標

1. 目的

社会福祉は、現代社会において国民一人ひとりが「豊かな生活」を実現していくために欠くことができない生活保障の制度である。障がい者や認知症高齢者、養護児童などを単に「社会的弱者」としてとらえるのではなく、生活の主体者である国民が直面している「生活問題」として認識することが重要である。

2. カリキュラム上の位置づけ

保育士資格に連動する科目である。将来保育所等の児童福祉施設に従事する保育者として必要な基礎的知識と専門的技術の習得の重要性について理解させる。

3. 学びの意義と目標

現代社会における生活問題、これらの問題を出現させている現代社会の状況、多様化した社会福祉ニーズ、それに対応することがせまられている社会福祉の法律・制度・サービスを正しく理解することと今日の社会福祉の果たす役割とその重要性について理解する。

評価方法

『植山節考』深沢七郎読書感想レポート30%、学期末試験（レポート等）70%、原則15回出席すること。

教科書

プリントを配布する  
改定・保育士要講義座編纂委員会『社会福祉』社会福祉法人全国社会福祉協議会

選択 社会福祉援助技術実習

通年 週1回 2単位

担当者：笹淵 悟

講義の目標及び概要

\*内容

本講義は、社会福祉援助技術の原理、原則を、現場を中心とした福祉実践例を採り上げていく中で、演習形式で学んでいけるように配慮している。しかも、保育現場でも活用したり、応用したりできるようにとのねらいがある。

\*カリキュラムの位置づけ

すでに養護原理や養護内容を履修していることが望ましい。児童学科生にとっての社会福祉援助技術の学習は、かつての教養的な段階から、日常業務に不可欠な専門技術の修得へと変わってきている事を強調しておきたい。

\*学びの意義と目標

この講義では、「利用者や現場から学ぶ」という一貫した姿勢をもって進めていくなかで、出来るだけ受講生は、具体的な様々な利用援助の技術を知り、将来現場で応用できる力を身につけていって欲しい。

評価方法

通年の演習なので、春期 第15講義時、及び秋期 第30講義時に、定期試験を実施する（80%）。出席点（10%）。さらには出席票への書き込み、疑問、感想なども大歓迎（授業への参加度10%）。

教科書

プリントを配布する



選択 児童福祉		春	秋	週1回	2単位
担当者：田澤 薫					
<b>講義の目標及び概要</b>					
1. 内容 現代社会の子どもの育ちや子育てをめぐる状況と、それに対する日本の児童福祉の制度や仕組みについて学ぶ。児童福祉を形づくっている法制度を知り、児童福祉の機関や施設の現場での運用を理解する。					
2. カリキュラム上の位置づけ 保育士資格取得のための必修科目であり、児童福祉の関連科目を学ぶうえで必要な知識を取得する基礎科目である。					
3. 学びの意義と目標 児童福祉の骨組みを学んでいく中で、児童を取りまく諸問題について社会の動きに関心を持ち、保育者として求められる児童福祉の考え方を身につけることをねらいとする。					
<b>評価方法</b>					
授業内の課題 30% 期末試験 70%					
<b>教科書</b>					
松本園子ほか著『児童福祉を学ぶ』ななみ書房					

選択 保育原理A		春	週1回	2単位
担当者：寺崎 恵子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 保育といういとなみを、二つのまなざしのかかわりあい注目して理解する。ひとつは、大人が子どもをみるまなざしである。もうひとつは、子どもが大人をみるまなざしである。両者のかかわりあいのありようから保育の基礎をとらえたい。				
2. カリキュラム上の位置づけ 保育士養成課程の必修科目のうち「保育の本質・目的の理解に関する科目」のひとつである。保育についての基本的知識を習得し、基本的視点を学ぶための入門として位置づけている。				
3. 学びの意義と目標 保育の世界は、ひろく、そして深い。その世界に身をもってかかわってゆくには、しなやかな思考力とゆたかな感受性が求められる。学びを通じて、しっかりとした基礎づくりをしたい。				
<b>評価方法</b>				
小レポート(5点×14回=70点)と期末レポート(30点)とを合わせて評価する。なお、小レポートと期末レポートの書式については、初回時に説明する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する 森上史朗、柏女登峰『保育用語辞典』ミネルヴァ書房				

選択 保育原理B		秋	週1回	2単位
担当者：寺崎 恵子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 保育原理Aで学んだことを発展させる。大人のまなざしと子どものまなざしとがかかわりあう場面をさらに把握することによって、保育の可能性と課題を考える。				
2. カリキュラム上の位置づけ 保育原理Aと同様である。				
3. 学びの意義と目標 実際に起こることは理論通りではない、という意見がある。それが言えるのは、よく理解された理論をもち、実際のことをよく見る目をもち、両者を比較して考える力があるときである。よく理解された理論が無い状態で「理論通りではない」と言うことはできない。保育原理を学ぶ意義は、このような点にある。				
<b>評価方法</b>				
小レポート(5点×14回=70点)と期末レポート(30点)とを合わせて評価する。小レポートと期末レポートの書式については、初回時に説明する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 養護原理		春	週1回	2単位
担当者：笹淵 悟				
<b>講義の目標及び概要</b>				
*講義内容 今日の児童養護は、児童本来の家庭、親、家族等の手による家庭養護と、福祉施設や相談機関における児童福祉の専門家や肉親以外の里親等による社会的養護との緊密な連携によって初めて可能となるので、その基礎的な原理と実践上の課題とを併せて追及していく。				
*カリキュラム上の位置づけ 養護原理が、児童学科生にとって重要な専門科目となっているのは、人が命を育み、成長していく過程にあって、発達上の様々なテーマを認識し、絶えず問題意識を持って実践に当たる能力を養成するのに、欠かせない基礎的分野だからである。				
*学びの意義 養護児童の健全な心身の発達過程を援助し、彼らが、将来の社会生活の中で、できる限り有意義な自立した生活を創り出していく市民となるように、社会や大人の側から働きかけるあらゆる援助活動やサービスプログラム、社会資源を学んでおくことは必要である。				
<b>評価方法</b>				
定期試験80%、出席点10%、出席票による意見や疑問提出、発表等授業への参加度10%。全15回出席が原則で、1回休むたびに該当レジュメよりレポート提出を求める。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 乳児保育

春 秋 週1回 2単位

担当者：岸澤 藤子

講義の目標及び概要

1. 内容

乳児保育とは、3歳未満児を対象とした保育を指す。人の一生の土台を作るこの大切な時期に、私達はどのように子どもと関わったらよいのだろうか。本講義では、3歳までの発達並びに、養護と教育が一体となった保育の具体的な内容を学び、これまでに蓄積された知識、理論、技術を習得していく。なお、具体的に乳児の姿を理解するために、視聴覚教材を利用する。

2. カリキュラム上の位置づけ

保育士資格取得のための必修科目。  
これまでに他科目で学んだことも、「乳児保育」という分野において統合していくことが望まれる。

3. 学びの意義と目標

乳児保育の社会的背景と歴史並びに現状を知る。乳児の発育、発達を学び、月齢に応じた養護と教育の理解を深める。さらに、健康と安全への配慮を学ぶ。

評価方法

受講状況20%、提出物20%、実技20%、筆記試験40%

教科書

志村聡子『はじめて学ぶ乳児保育』同文書院

選択 養護内容

秋 週1回 1単位

担当者：笹渕 悟

講義の目標及び概要

1 内容

養護内容は、何らかの理由で家庭で育てられない子どもに対して、家庭に替わる児童福祉施設が行っている養護の実践を理解しようとするものである。主に、居住型の児童福祉施設で生活している子ども達の日常生活を知り、そこで働く職員の援助の在り方を学ぶ科目である。

2 カリキュラム上の位置づけ

今、児童福祉施設にいる子どもや家族に表面化していることが、地域の各家庭の中にも潜んでいることが見てとれる。施設で暮らす子どもに限らず、すべての子どもに対する社会的養護が必要な時代である。養護内容を学び、社会的養護について考えることは、子どもの権利や家庭や社会の在り方について、一層理解を深めることにつながるのである。

3 学びの意義と目標

(1)居住型の児童福祉施設で暮らす児童の立場を理解し、そこで働く専門職の援助法を具体的な演習を通して学ぶ。(2)児童の心身の成長やその援助者に必要な知識や技能を習得する。(3)「児童観」や「施設養護観」を身につける。

評価方法

定期試験80%、出席点10%、授業への参加度10%  
出席票による講義への感想、意見、提案、疑問等歓迎する。

教科書

プリントを配布する

選択 障害児保育

春 秋 週1回 1単位

担当者：石川 由美子

講義の目標及び概要

(内容)

本講義は、はじめに絵本などの媒体に描かれる『障害』を通して障害ということばを構成している複雑な意味世界を履修者自身が主体的に理解するための足場を提供する。また、障害理解のための模擬授業を演習することで、具体的な障害特徴に関する学習、および障害児保育に関する基礎力を身につける。各障害特徴に関する学習については、事前にGW課題（主な障害の定義、病因、発達特徴など）を課し、共同した仲間学習によって学習の促進を促す。知識や体験の共有を通してながら、障害児保育のための基礎的な能力と援助方法を身につける。

(カリキュラム上の位置づけ)

障害児保育のための基礎知識、援助方法を学ぶ。

(学びの意義と目標)

障害とは何かを考えることで、人間が生きることの意味を考察できる。インクルーシブ社会の実現を目指す専門職として、障害児と健常児・者のかかわりの重要性を理解できるようになる。

評価方法

グループ学習への参加の程度やプレゼンテーション、出席を含む参加態度などの平常点（最大40点）、知識確認のためのミニテスト（20点）および課題レポート（最大40点）。グループ学習の進度に応じて授業構成に若干の変更が生じる場合もあります。

教科書

授業の中で指示する  
本郷一夫編『シードブック障害児保育』建帛社

選択 障害児教育

秋 週1回 2単位

担当者：石川 由美子

講義の目標及び概要

(内容)

本講義では、通常クラス（幼稚園、小学校など）において特別な配慮（特別支援教育）が必要となる軽度の発達障害をもつ子どもあるいは、気になる子どもに焦点をあてる。特別な配慮が必要な子どもをクラス集団の中で発見し、評価し、具体的な支援を提供するプロセスを概説していく。また、事例を通して、グループ学習を行い、実際に援助の方法や個別教育プログラムを考え、模擬授業を演習してみることで、具体的な援助方法を学ぶ。

(カリキュラム上の位置づけ)

障害児保育で障害に関する基礎知識を身につけた後の中級的な水準となる。障害児への具体的な援助技法を学ぶ。

(学びの意義と目標)

教育・保育の現場で専門的な援助の方法を実践できるための基礎を養うことができる。

評価方法

講義への出席や参加の程度などの平常点（最大40点）、課題レポートおよびIEPの作成と模擬授業の発表（最大60点）

教科書

授業の中で指示する

選択 小児保健Ⅰ		春	週1回	2単位
担当者：櫻井 美和				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〔1. 内容〕子どもの年齢や発育・発達を念頭におき、子どもの身体・心理・社会的側面の正常な発育・発達の特徴を学習する。また、子ども年齢や発育・発達に応じた、健全な発育・発達を目指した支援のあり方や方法を学習し、保育における保健活動の意義について理解を深める。</p> <p>〔2. カリキュラム上の位置づけ〕子どもの健康で安全な発育・発達を目指した保育を実践するために必要な基本的知識を習得する科目であり、小児保健Ⅱ、および保育活動に必要な基本的技術を習得する小児保健実習、保育実習等に連動する科目である。</p> <p>〔3. 学びの意義と目標〕下記を学習目標とし保育現場において保健活動を適用・応用するために必要な基本的知識を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの健康と小児保健の意義を理解する。</li> <li>2) 子どもの身体・心理・社会的側面の発育・発達の特徴と支援を理解する。</li> <li>3) 子どもの栄養・食生活の意義と支援を理解する。</li> <li>4) 子どもの健康増進の意義と健康増進を目指した支援を理解する。</li> <li>5) 上記1)～4)に基づき、保育における保健活動の意義を理解する。</li> </ol>				
<b>評価方法</b>				
試験 (80%)、および学期末のレポート (20%) により評価する				
<b>教科書</b>				
高野陽『保育・看護・福祉プリマーズ(8) 小児保健』ミネルヴァ書房 『母子健康手帳』母子保健事業団				

選択 小児保健Ⅱ		秋	週1回	2単位
担当者：櫻井 美和				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〔1. 内容〕子どもがかかりやすい病気や子どもに多い症状の特徴とそれらの早期発見・予防・対応のための医学的知識を習得する。さらに、母子保健統計、母子保健対策等の公衆衛生学的知識を習得し、保育における保健活動の意義について理解を深める。</p> <p>〔2. カリキュラム上の位置づけ〕小児保健Ⅰに基づき講義を展開し、子どもの健康で安全な発育・発達を目指すために必要な基本的知識を習得する。保育活動に必要な基本的技術を習得する小児保健実習、保育実習等に連動する科目である。</p> <p>〔3. 学びの意義と目標〕下記を学習目標とし、保育現場において保健活動を適用・応用するために必要な基本的知識を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの病気と異常な症状の特徴、およびそれらの早期発見・予防・対応を理解する。</li> <li>2) 子どもに起こりやすい事故の特徴、および事故防止、事故時の対応を理解する。</li> <li>3) 日本における子どもの健康水準の現況と母子保健対策の概要を理解する。</li> <li>4) 児童福祉施設における保健活動と保健医療福祉の連携の重要性を理解する。</li> <li>5) 上記1～4)に基づき、保育における保健活動の意義を理解する。</li> </ol>				
<b>評価方法</b>				
試験 (80%)、および学期末のレポート (20%) により評価する				
<b>教科書</b>				
高野陽『保育・看護・福祉プリマーズ(8) 小児保健』ミネルヴァ書房 『母子健康手帳 (見本)』母子保健事業団				

選択 小児保健実習		春	秋	週1回	1単位
担当者：福田 里美					
<b>講義の目標及び概要</b>					
<p>〔内容〕 実技・講義を主体として子どもへの援助技術を学ぶ。また、保健指導に必要な教材づくりや実践方法を学ぶ。</p> <p>〔カリキュラム上の位置づけ〕 「小児保健」で学んだ理論をふまえて実践できる応用的能力と技術を習得する保育士資格取得のため必修の実習科目である。</p> <p>〔意義と目標〕 多様な保育サービスが求められている現代社会では、小児の健康な時の援助だけでなく、疾病罹病時などの子どもの姿を理解し、それぞれに対応できる援助内容を実践できることの意義はおおきい。このことを踏まえ、集団あるいは一人ひとりの子どもへの保健行動が実践できるスキルを身につけることを目標とする。</p>					
<b>評価方法</b>					
(1)出席20% (2)実習態度、レポート20% (3)定期試験(筆記、実技)60%					
<b>教科書</b>					
プリントを配布する					

選択 精神保健		秋	週1回	2単位
担当者：上野 直子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 子どものこのころからだの健康な発達は、子どもの保育に基本的で重要なことです。ここでは、特に子どものこのころの健康について理解し、保育の中でどのように子どもとかわかっていくかを考えていきます。子どもの各時期でのこのころの発達と、時期に応じた保育のあり方についても学びます。</p> <p>最近の子どもを取り巻く環境は、虐待やいじめなど、穏やかで安定したものとは言いがたい状況にあります。現状を理解しながら、子どもたちが健やかに育つための様々な要因(家庭や地域など)についても学びます。子育て支援の実際についても学び、保育の果たす役割についても理解を深めていきましょう。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 保育士資格取得のための必修科目です。</p> <p>3. 学びの意義と目標 子どもが元気であるためには、関わる人も元気であることが大事です。自分自身のこのころの健康についても考える機会をもちたいと思います。</p>				
<b>評価方法</b>				
授業への参加・講義内での課題 (50%)、学期末試験あるいは期末レポート (50%) の結果を基に総合的に評価したいと思います。				
<b>教科書</b>				
内山 源 (編著)『精神保健』同文書院				

選択 家族援助論

春 秋 週1回 2単位

担当者：相川 徳孝

講義の目標及び概要

この科目は保育士資格を取得するためには必修となる。  
この授業では1. 保育所のもつ「子育て支援」を重要な社会的役割として理解し、児童とその親を含めた家族が保育の対象となること。2. 「子育て支援」は保育所だけでなく、その他の児童福祉施設の親についても同様に必要とされていること。3. 現在の家族を取り巻く社会環境における家庭生活、とくにその人間関係（夫婦・親子・兄弟）の在り方を理解すること及びそれをふまえて適切な相談・助言を行うことは「子育て支援」のために欠かせないものであること。これらの1～3の内容を踏まえ、それぞれの家族のニーズに応じた多様な支援対策を提供するため、児童福祉の基礎となる家族の福利を図るための種々の援助活動及び関係機関との連携について学ぶことを目的としている。

評価方法

レポート、試験の結果等を総合的に評価する。

教科書

プリントを配布する

選択 小児栄養

春集中 秋集中 2単位

担当者：大月 典子

講義の目標及び概要

基礎的な栄養素や食品に関する知識を身につけるとともに、子どもの発達段階に応じた栄養の特性、重要性を理解した上で、子どもの食生活について考える。

具体的には、

1. 小児期の栄養と食生活が、いずれ生涯にわたる健康と生活の基礎を形成することを理解する。
2. 食生活が与える、精神的な健康の重要性を理解する。
3. 食育についての理解を深め、食生活に関する教育、指導ができるようになる。
4. 調理実習を通して、保育者が小児に適切な食事が提供できるようにすることを理解する。

の四点である。

さらに時代とともに変化する子どもたちの食生活の特徴や問題点を明確に捉え、対処法あるいは新しい概念を理解し、より優れた子どもの食生活について自主的に考察できるようになることを目標とする。

技術的なことは未熟であって当然なので、積極的に授業に参加する態度で臨んでほしい。

評価方法

授業への参加状況 (20%)  
筆記試験 (80%)

教科書

飯塚美和子・他『最新小児栄養』学建書院

選択 地域福祉論

秋 週1回 2単位

担当者：櫻井 邦夫

講義の目標及び概要

誰もが地域において「共に生き、支え合う社会づくり」をめざす地域福祉。21世紀は、「地域福祉」の時代といわれるほど今、最も注目を浴びる分野の一つです。

最近の社会特質や社会福祉諸問題の状況等を踏まえ、なぜ、今、地域福祉が重要なのかを考えるなかで、地域の要支援者や地域課題とは何か、求められる支援のあり方、住民参加の必要性、地域福祉を進めるための条件について理解を深めるとともに、理念、概念、歴史、関連法制度、推進機関・団体等についても学習を進めます。

評価方法

試験レポートで主に評価するが、ミニレポート(3回)や出席状況等を加味します。

教科書

プリントを配布する

選択 子どもカウンセリング論

春 週1回 2単位

担当者：石川 由美子

講義の目標及び概要

(内容)

人格の形成途中にある子どもたちの「こころ」にシンクロし理解を深める。そのような他者の存在が、自己実現に向かって発達していく子どもを、時に支え、時に導くことになる。子どもカウンセリングとは、子どもの「こころ」の病理性に向き合うというだけでなく、子どもの健やかな発達を促すためのケアリングの理論でもある。

(カリキュラム上の位置づけ)

子どもの教育・発達に関する基礎的知識を学んだ保育者、教師を目指す学生の子ども理解や関わりを深めるための応用的基礎知識の学習をめざす。

(学びの意義と目標)

履修者の心理的な理論や技法への知識と理解が、保育者・教師となつて出会う子ども理解のための心理的道具として機能するようになる。

評価方法

出席、講義や演習への参加の程度などの平常点 (30点)、プレゼンテーション (30点) や課題レポートの内容 (40点)。演習の都合上、講義の構成に変更が生じる場合があることをご了承ください。

教科書

プリントを配布する

選択 地域子育て支援論	秋	週1回	2単位
担当者：海津 敦子			
<b>講義の目標及び概要</b> 1 内容：子どもが一人ひとり違うように、親も一人ひとり違う。そして、子育てを支援する援助者も一人ひとり違う。それぞれの違いがあるから誰もが学びあえる。だから出会いが面白い。せっかく出会った縁があるのなら、子どもも大人も幸せになれるような繋がりをもちたいものだ。本講義では、そうした支援のあり方、繋がりの持ち方を様々な事例を基に考えていく。 2 カリキュラム上の位置づけ：援助者として欠かせない力は、共感力、ニーズ把握力はもとより、「～あるべき」「～でなければ」というあるべき論から脱却し、広い人間観で繋がる力が必要である。本講義はそうした基礎を身につけるものである。 3 学びの意義と目標：支援のあり方、人との繋がりの持ちかたは、どのような職業についても求められる。講義を通して受講した学生の人生を支えていく力を養う。			
<b>評価方法</b> 出席 65点(5点×13回) レポート 35点			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選択 児童文学	春	秋	週1回	2単位
担当者：松本 祐子/小室 陽子				
<b>講義の目標及び概要</b> (1) (内容) この授業では、優れた作家によって書かれた児童文学作品に触れながら、大人と子どもの関係性について考え、児童文学に対する理解を深める。また、テーマを意識した読書方法を身につけ、子どもたちに魅力的な紹介ができるように、グループごとにブックトークを行ってもらう。 (2) (カリキュラム上の位置づけ) この授業は小免の必修、保育士・幼免の選択科目である。小免希望の学生は、国語科教育法を履修する前に、必ずこの科目を取っておくこと。 (3) (学びの意義と目標) 面白さ、わかりやすさ、優れたテーマ性を併せ持つ良質の児童文学には、子どものみならず、大人の読者をも惹きつける力がある。児童文学を通して、子どもとは何か大人とは何かについて考え、保育者・教員・社会人として必要な豊かな国語力、柔軟な想像力、積極的なプレゼンテーション能力を身につけることを目標とする。				
<b>評価方法</b> 授業時の発表(ブックトーク) 30%、発表後レポート10%、期末試験50%、出席10%によって算出する。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選択 社会	春	秋	週1回	2単位
担当者：深澤 悠紀雄				
<b>講義の目標及び概要</b> 「社会科」は、戦後の新教育を担う花形として新しく生まれた教科である。半世紀以上を経て教育内容・方法をめぐって様々な論争や実践が展開され、今日に至っている。 本講義では、社会科の歩みを概観するとともに、小学校教員免許を得るために必要な小学校社会科の目標や各学年の指導内容等について取り上げる。				
<b>評価方法</b> 出席を重視し、取り組む姿勢と課題の提出状況 期末テストの結果等に基づき、総合的に評価する				
<b>教科書</b> 文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会科編』東洋館出版社				

選択 算数	春	秋	週1回	2単位
担当者：佐藤 遼子				
<b>講義の目標及び概要</b> (授業目標) 小学校算数は、その後の数学教育への重要な導入部分となる。従って数や量などの概念などに特に留意し、正確かつわかりやすさを指導目標とする。 (授業の概要) 小学校の算数学習指導要領に準拠した内容を項目別に教える。理解を深めるために発展的な内容も必要に応じて加えていく。意欲・関心を深めるために体験学習形式も導入する。				
<b>評価方法</b> 出席状況・期末試験・レポート・授業中の小テストを総合して評価する。				
<b>教科書</b> 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』東洋館				

選択 理科

春 秋 週1回 2単位

担当者：飯塚 征武

講義の目標及び概要

「理科好きな児童」を育てることが、今日の小学校理科における大切な課題である。

本講義においては、受講者が「理科を子ども達にどう教えるか」について、身近な自然を通して学び、理科の楽しさを体験しながら身につけることを目的とする。

そのために、小学校理科の指導内容を実験観察を中心に実践的に研究し、理科の目標・内容・指導方法、そして安全を考慮した理科学習について理解を深め、自信を持って指導できる人材を育成することを目指す。

評価方法

出席点 (20%)  
平常点 (態度・レポート・試験) (80%)

教科書

プリントを配布する

選択 生活

春 秋 週1回 2単位

担当者：船田 信昭

講義の目標及び概要

1. 内容  
生活科創設までの経緯や背景となる教育思想についてみていく。また、学習指導要領に示されている9の内容及び生活科特有の概念である「気付き」についてとらえる。おもちゃづくりは実際に製作する。
2. カリキュラム上の位置付け  
生活科の最も基礎的な部分を中心とした入門期としての位置付けになる。
3. 学びの意義と目標  
平成元年(1989)に小学校低学年に新設された生活科の理念や原理を正しく理解するとこ機に学ぶ意義がある。  
生活科の「解説」を活用し、教科目標、9の内容及び特質の概要について説明することができることを目標にする。

評価方法

出席を重視し、出席カード又は小レポートの提出で40%、授業への積極的な参加態度及びレポート提出等で30%、定期試験で30%とする。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』日本文教出版

選択 家庭

春集中 2単位

担当者：櫻井 純子

講義の目標及び概要

小学校教科「家庭」の基盤となる家庭科教育の概要について理解するための講座である。

小・中・高等学校を通じての家庭科教育における小学校家庭科の意義、及びねらい等を認識し、内容の構造設計について理解を深めさせる。文部科学省発行の「家庭」解説書に準拠して学習する。

評価方法

授業内容の理解度や、それに関連した考察力を問う最終試験を主体に評価する。ただし、出席状況、授業参加態度、授業過程の小レポート、作品のできばえ等も評価として加味し、総合的に評定を行う。

教科書

櫻井純子『わたしたちの家庭科』開隆堂出版株式会社  
文部科学省『小学校学習指導要領解説・家庭編』東洋館出版

選択 音楽創造論

春 週1回 2単位

担当者：村山 順吉

講義の目標及び概要

- 目的は次の2点である。
- (1)「音楽とは何か」というテーマに対する先進の人々の学説を学びながら、ヒトとして生きようとするいのちと音楽の関係を探る。
  - (2)手作り楽器等を用いて、実践的な側面から、ヒトとして生きようとするいのちと音楽の関係を探る。

評価方法

授業態度と出席、毎時間のミニレポート、期末試験をもって行う。

教科書

授業の中で指示する

選択 音楽・器楽A	春	週1回	1単位
担当者：笠井 かほる/渋谷 みどり/塚原 晴美/島崎 美知子/矢持 真希子/池上 真理子/阪 まどか			
<b>講義の目標及び概要</b> 保育の現場や教育の現場における、ピアノの活用の基礎を学ぶ。それぞれの震度についてチェックし、それぞれに相応しない課題に取り組む。課題については、レベルを徐々に上げていくことになる。			
<b>評価方法</b> 普段の授業に臨む姿勢と出席、期末試験により行う。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

選択 音楽・器楽B	秋	週1回	1単位
担当者：笠井 かほる/渋谷 みどり/塚原 晴美/島崎 美知子/矢持 真希子/池上 真理子/阪 まどか			
<b>講義の目標及び概要</b> 保育の現場や教育の現場においてピアノを活用するための基礎的な技術と表現法を学ぶ。それぞれの進捗と力量についてチェックし、それぞれに相応しい課題に取り組むことになるが、課題については幅を広げていくことになる。			
<b>評価方法</b> 普段の授業に臨む姿勢と出席、期末試験により行う。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

選択 音楽・声楽	春	週1回	1単位
担当者：藤田 明			
<b>講義の目標及び概要</b> こどものために整えてあげなければならない環境のひとつに音楽があり、その中でも保育者が歌を歌ってあげることは大変大切なことである。 この授業では、こどもの歌を取り上げて詩の内容を深く理解しながら声を使った表現の基本を学ぶ。また、こどもに歌を歌ってあげる時、突然歌いだすのではなく、自然な形で歌いだせることが大切なので、導入のための文章を創作したりもする。その為には時間が必要となるので、曲は3曲位に絞る。このように導入文の作成とその朗読、それに合わせた歌の歌唱表現を15回の中で行う。			
<b>評価方法</b> 出席数 (30%) 積極性 (40%) 課題に対する到達度 (30%)			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

選択 音楽・合奏指導A	春	週1回	1単位
担当者：田中 美佳子			
<b>講義の目標及び概要</b> 近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。 もうひとつの目的は、性格も好みも様々に違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独特のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶことである。 オーケストラを基本にして行う。			
<b>評価方法</b> 出席と授業態度、期末試験をもって行う。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

選択 音楽・合奏指導B

秋 週1回 1単位

担当者：田中 美佳子

講義の目標及び概要

近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。  
もうひとつの目的は、性格も好みも様々な違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独特のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶことである。

評価方法

出席と授業態度、期末テストをもって行う。

教科書

授業の中で指示する

選択 音楽・合奏指導C

春 週1回 1単位

担当者：東海 千浪

講義の目標及び概要

近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。  
もうひとつの目的は、性格も好みも様々な違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独自のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶ事である。  
オーケストラを基本にし、それぞれの担当する楽器の基本的な演奏技術を、合奏においてどう活かしていくのかを学ぶ。

評価方法

普通の授業態度、出席、期末試験をもって行う。

教科書

授業の中で指示する

選択 音楽・合奏指導D

秋 週1回 1単位

担当者：東海 千浪

講義の目標及び概要

近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。  
もうひとつの目的は、性格も好みも様々な違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独自のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶ事である。  
オーケストラを基本にし、それぞれの担当する楽器の基本的な演奏技術が、合奏においてより良く応用できるよう、実践の中で学ぶ。

評価方法

普通の授業態度、出席、期末試験をもって行う。

教科書

授業の中で指示する

選択 音楽・合奏指導E

春 週1回 1単位

担当者：村山 良介

講義の目標及び概要

近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。  
もうひとつの目的は、性格も好みも様々な違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独自のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶ事である。  
オーケストラを基本に行うが、各パート、セクションのアンサンブルも行う。

評価方法

普通の授業態度、出席、期末試験をもって行う。

教科書

授業の中で指示する



選択 音楽・合奏指導Ⅱ		秋	週1回	1単位
担当者：村山 良介				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。</p> <p>もうひとつの目的は、性格も好みも様々に違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独自のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶ事である。</p> <p>各パート、セクションのアンサンブルを中心にし、その基本的なアレンジを学びながら、よりレベルアップしたオーケストラのあり方を実践を通して学ぶ。</p>				
<b>評価方法</b>				
普通の授業態度、出席、期末試験をもって行う。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 音楽・合奏指導Ⅰ		春	週1回	1単位
担当者：山田 裕治				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。</p> <p>もうひとつの目的は、性格も好みも様々に違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独自のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶ事である。</p> <p>よりレベルアップしたアンサンブルとオーケストラを中心に進めながら、基本的な指揮法もまなぶ。</p>				
<b>評価方法</b>				
普通の授業態度、出席、期末試験をもって行う。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 音楽・合奏指導Ⅲ		秋	週1回	1単位
担当者：山田 裕治				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>近年、小学校教諭を目指す者への教育現場からの期待と要望のひとつとして、ブラスバンド、その他合奏の指導が挙げられている。この授業の目的のひとつは、これに応えることである。</p> <p>もうひとつの目的は、性格も好みも様々に違う人間同士が、それでも共に生きようとした時に、合奏もまた音楽独自のあり方をもって〈共に生きる場〉であることを、実践を通して学ぶ事である。</p> <p>各パート、セクションに気を配りながらオーケストラ全体をまとめられるように、実際に指揮をすることも含めて学ぶ。</p>				
<b>評価方法</b>				
普通の授業態度、出席、期末試験をもって行う。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 音楽・ハンドベル		春	週1回	1単位
担当者：本田 晃				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>近年、キリスト教主義の小学校、また公立小学校においてもハンドベル活動がさかんになってきており、ハンドベルの基礎的な技術指導ができる教師が求められている。この授業の目的の一つである。</p> <p>また、ハンドベルは、固有の演奏形態を持ち、ひとりひとりがそれぞれに与えられた担当責任を果たしながら、お互いの音を聴き合い、そして響き合いながら、みんなで一つの音楽を創り上げていく楽器である。その実践を通して、互いに認め合う事の大切さを学ぶことも目的の一つである。</p> <p>ハンドベルの演奏技法の基礎をふまえ、より一層深く学ぶ。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席35%と授業態度35%、学期末試験30%をもって行う。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 音楽 ロハンドベルH

秋 週1回 1単位

担当者：本田 晃

講義の目標及び概要

近年、キリスト教主義の小学校、また公立小学校においてもハンドベル活動がさかんになってきており、ハンドベルの基礎的な技術指導ができる教師が求められている。この授業の目的の一つである。

また、ハンドベルは、固有の演奏形態を持ち、ひとりひとりがそれぞれに与えられた担当責任を果たしながら、お互いの音を聴き合い、そして響き合いながら、みんなで一つの音楽を創り上げていく楽器である。その実践を通して、互いに認め合う事の大切さを学ぶことも目的の一つである。

演奏技法の基礎基本をふまえ、より一層レベルアップした演奏技術を合奏にかかしていくのかを学ぶ。そして、変奏法はもとより、基本のうつくしい音色を創り出す事を学ぶ。

評価方法

出席35%と授業態度35%, 学期末試験30%をもって行う。

教科書

授業の中で指示する

選択 図画工作

通年 週1回 2単位

担当者：喜田 敬/山領 直人

講義の目標及び概要

1) 内容

授業では、小学校教育としての図画工作科が担うべき役割とその目指すところを示した「小学校学習指導要領」に準拠して、この教科の目標と内容などを学ぶ。また、創造表現活動の研究・製作を設けて、造形技法・表現技法の工夫などを実践的に学習する。

2) カリキュラム上の位置づけ

小学校教諭1種免許、幼稚園教諭1種免許、保育士資格のための必修科目である。1年生を対象としている。

3) 学びの意義と目標

上記資格取得を目指し、児童教育の現場での実践に役立つ知識と技術の修得を目標としている。

評価方法

授業中の活動性、出席状況50%  
提出作品50%

教科書

プリントを配布する

選択 図画工作

通年 週1回 2単位

担当者：山領 直人/四十九院 仁子

講義の目標及び概要

1) 内容

授業では、小学校教育としての図画工作科が担うべき役割とその目指すところを示した「小学校学習指導要領」に準拠して、この教科の目標と内容などを学ぶ。また、創造表現活動の研究・製作を設けて、造形技法・表現技法の工夫などを実践的に学習する。

2) カリキュラム上の位置づけ

小学校教諭1種免許、幼稚園教諭1種免許、保育士資格のための必修科目である。1年生を対象としている。

3) 学びの意義と目標

上記資格取得を目指し、児童教育の現場での実践に役立つ知識と技術の修得を目標としている。

評価方法

授業中の活動性、出席状況50%  
提出作品50%

教科書

プリントを配布する

選択 図画工作A

春 週1回 1単位

担当者：喜田 敬

講義の目標及び概要

日常の暮らしの中での出来事や、何気ない風景や季節の移り変わりなど、身近な素材からの発見を、色彩と造形で自由に遊び、表現する。図画工作Aは、こうした空間を、豊かに創り出す能力と感性を、自分の内に発見し、楽しむためのスタート地点です。

評価方法

授業への参加貢献度を40%、作品及びレポートを60%で評価を行う。

教科書

プリントを配布する

選択 図画工作B	秋	週1回	1単位
担当者：喜田 敬			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>日常の暮らしの中での出来事や、身近なものからの発見や、色彩と造形で自由に遊び、表現する。図画工作Bは、こうした空間を豊かに創り出す能力と感性を土台とし、さらに知識と技術を深めながら、個々の表現を発展させていきます。画材は、透明水彩/アクリル系絵具/鉛筆に加え、粘土や針金を使用して行います。また、制作における対象の観察/工夫/展開といった過程とその結果は、プレゼンテーション及びディスカッション、制作に関するレポート提出を通じて思考経験として深め、積み重ねます。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>授業への参加貢献度を40%、作品及びレポートを60%で評価を行う。</p>			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 体育	通年	週1回	2単位
担当者：鈴木 明			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>幼児、児童期（小学校低学年）の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。幼稚園指導要領、小学校指導要領をベースに教師としてそれらの内容を扱いながら、子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。教師として子どもの心身の発育の知識をふまえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、運動あそび・身体運動への取組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。これらの運動技術に慣れ親しみながら、競争したり勝負の結果に着目することだけでなく、子どもたちがその過程を楽しみ、さらにそこから気づきにより自らの身体活動の技術やゲームのルールを改善できるというようなポジティブな方向性に運べる活動に発見や喜びを見出すにはどうするか。そして一援助者として「生きる力」につなげられようように促すことも含めたい。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>授業参加への積極性、授業内容の理解と展開、個人技能の向上（個人に応じて授業最初のレベルから終了時までの過程）、チームへの協調性などを勘案して評価する。出席点50点（欠席-6点、遅刻（20分まで）・早退-2点/回）、評価点50点</p>			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 体育	通年	週1回	2単位
担当者：高橋 進			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容 教師として子どもの心身の発育の知識をふまえた上で、幼児・児童期の運動あそび・身体運動の重要性を理解し、それらへの取組み方をさぐる。内容としては走・跳の運動、身近なものを利用したゲーム遊び、ボール遊び、力くらべ、表現、リズム遊びなどを取り上げる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 幼児、児童期の健全なる発育発達のために必要不可欠な身体運動の知識を得るための基礎となるべき授業である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 幼児、児童期の運動遊びや身体運動が個人の成長において身体発育のみならず、身体技能、心理、社会面などあらゆる面において有効であることは既知のことである。この時期は個人の人生をより豊かなものにしていく基盤づくりとして非常に重要な時期でもある。幼稚園、小学校指導要領をベースに教師としてそれらの内容を扱いながら、子どもたちの健やかな成長を促していくために適切な働きかけができるようになることを目的とする。</p>			
<b>評価方法</b>			
<p>授業参加への積極性、授業内容の理解と展開、個人技能の向上、チームへの協調性などを勘案して評価する。出席点50点・50%（欠席-6点、遅刻（20分まで）・早退-2点/回）、テスト及び課題・20%、模擬授業・30%</p>			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

選択 保育技術演習	秋	週1回	1単位
担当者：相川 徳孝			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<p>1. 内容 実習や実際の保育現場で必要とされる保育技術について学んでいく。ただ、保育技術を習得するというだけではなく、保育者が乳幼児に提供する教材を通して保育者が何を伝えていくのか、乳幼児に何を学んでほしいのかということを明確にしなが、乳幼児の発達に適した教材や指導方法を考えていく。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 幼稚園免許・保育士資格取得科目の中の自由選択科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 いろいろな保育教材の中から受講者自身が楽しんで見出し、自分のものとしていくことが最終目標である。</p>			
<b>評価方法</b>			
レポートと作品の提出によって評価する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 音楽A

春 秋 週1回 1単位

担当者：村山 順吉

講義の目標及び概要

〈目標〉

小学校音楽科を理解するために必要な基礎的技能を、ピアノ演奏の基礎を中心に学びながら習得する。

〈内容〉

楽譜を読むのに必要となる基本的な知識を学ぶため、少人数に分けて講義とピアノを並行して行なう。教材は小学校で扱う楽曲を含め、受講者の音楽性の陶冶に適したものを取り上げる。尚、クラス分け等の詳細は、授業時に指示する。

評価方法

普通の授業に臨む姿勢と小テスト、期末テストを総合して行う。

教科書

授業の中で指示する

選択 音楽B

春 秋 週1回 1単位

担当者：藤田 明/星野 直子

講義の目標及び概要

〈目標〉

幼稚園や保育所、小学校に於いて音楽を活用するために必要な基礎的技能を歌唱を中心に学びながら習得する。

〈内容〉

幼稚園や保育所、小学校の歌唱教材を正しく歌うためにソルフェージュを中心に行う。

評価方法

出席点と授業態度、課題に対する消化度で評価する。

教科書

フランツ・ヴェルナ『Chord bungen』全音楽譜出版社

選択 教師論

秋 週1回 2単位

担当者：船田 信昭

講義の目標及び概要

【小学校】

1. 内容

教師の職務、児童理解、授業や学級経営にかかわることについて、教師の人間性やあるべき姿を含めてその初歩的な事項について学ぶ。

2. カリキュラム上の位置付け

「教育は人なり」と言われるように教師について深く知り考えることは教職を目指す者にとっては必須のことである。その最も基礎的なことに位置付けられる。

3. 学びの意義と目標

生活指導、学習指導をはじめ職務全般にわたる教師の仕事矢その重要性を理解するところに学ぶ意義がある。

教師への情熱、使命感が湧き、自らを律しつつ喜んで教師の道にまい進しようする気持ちになることを期待している。

評価方法

出席を重視し、出席カード又は小レポートの提出で40%、授業への積極的な参加態度及びレポート提出等で30%、定期試験で30%とする。

教科書

プリントを配布する

選択 教師論

秋 週1回 2単位

担当者：船田 信昭

講義の目標及び概要

【幼稚園・保育所】

1. 内容

幼児教育の指導者は、何といても子どもから好かれ、モデルとして期待されることが肝要である。幼児教育の指導者として必要な職務内容や現代的課題等について学ぶ。

2. カリキュラム上の位置付け

「教育は人なり」と言われるように教師について深く知り考えることは教職を目指す者にとっては必須のことである。その最も基礎的なことに位置付けられる。

3. 学びの意義と目標

明るく信頼される指導者であり、一人一人の子どもをよりよい方向に伸ばしていくことの重要性を知るところに学ぶ意義がある。

幼児教育の担い手として、情熱、使命感をもって、職務内容やその重要性を語ることを期待している。

評価方法

出席を重視し、出席カード又は小レポートの提出で40%、授業への積極的な参加態度及びレポート提出で30%、定期試験で30%とする。

教科書

プリントを配布する

選択 総合演習		通年	週1回	2単位
担当者：小池 茂子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
総合演習は、教員の資質向上を目指すところの教職課程の専門演習科目にて、学科固有の専門演習および卒業研究とは異なる点に留意。 人類に共通する現代的課題である「環境」「国際」「人権」「情報」および日本社会における緊急問題である「少子高齢化」、という5つのテーマに関する領域より、各自ないしグループとして取り組むテーマを設定する。次いで、資料収集・調査・分析・検討した結果をレポートし、問題提起およびその解決策などについて討論する。これらの課題について、教員志願者が理解を深め視野を広げ、適切な指導が出来ることをめざす。 ディスカッションを中心に演習形式の授業を行い、授業は教室内だけではなく、可能な限り実地の見学・参加などフィールドワークもとり入れる。また、他の教員（学外者を含む）等の参加を求め、指導および助言を得る機会を設ける。				
<b>評価方法</b>				
各担当教員より、授業開始時に説明がある。平常点、発表、レポートを基本にしている。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 総合演習		通年	週1回	2単位
担当者：中村 啓男				
<b>講義の目標及び概要</b>				
総合演習は、教員の資質向上を目指すところの教職課程の専門演習科目にて、学科固有の専門演習および卒業研究とは異なる点に留意。 人類に共通する現代的課題である「環境」「国際」「人権」「情報」および日本社会における緊急問題である「少子高齢化」、という5つのテーマに関する領域より、各自ないしグループとして取り組むテーマを設定する。次いで、資料収集・調査・分析・検討した結果をレポートし、問題提起およびその解決策などについて討論する。これらの課題について、教員志願者が理解を深め視野を広げ、適切な指導が出来ることをめざす。 ディスカッションを中心に演習形式の授業を行い、授業は教室内だけではなく、可能な限り実地の見学・参加などフィールドワークもとり入れる。また、他の教員（学外者を含む）等の参加を求め、指導および助言を得る機会を設ける。				
<b>評価方法</b>				
出席（30%）、平常点（50%）、発表・レポート（20%）				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 総合演習		通年	週1回	2単位
担当者：井村 礼恵				
<b>講義の目標及び概要</b>				
総合演習は、教員の資質向上を目指すところの教職課程の専門演習科目にて、学科固有の専門演習および卒業研究とは異なる点に留意。 人類に共通する現代的課題である「環境」「国際」「人権」「情報」および日本社会における緊急問題である「少子高齢化」、という5つのテーマに関する領域より、各自ないしグループとして取り組むテーマを設定する。次いで、資料収集・調査・分析・検討した結果をレポートし、問題提起およびその解決策などについて討論する。これらの課題について、教員志願者が理解を深め視野を広げ、適切な指導が出来ることをめざす。 ディスカッションを中心に演習形式の授業を行い、授業は教室内だけではなく、可能な限り実地の見学・参加などフィールドワークもとり入れる。また、他の教員（学外者を含む）等の参加を求め、指導および助言を得る機会を設ける。				
<b>評価方法</b>				
各担当教員より、授業開始時に説明がある。平常点、発表、レポートを基本にしている。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 『保育内容総論Ⅰ』		秋	週1回	2単位
担当者：野尻 裕子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1)内容 子どもの学びや育ちに対し、保育者は一人ひとりに応じた援助を行う。そのためには子どもの発達を理解したうえで、保育を計画し実践する力が求められる。本授業では保育内容の歴史的変遷を学ぶと共に、発達過程と必要な経験、そして保育者の援助について資料、ビデオを通して学習する。 (2)カリキュラム上の位置づけ 保育内容総論は幼稚園教諭免許状及び保育士資格を取得する際に学習することが求められている科目である。特に発達を捉える「保育内容（領域）」という視点は、他の学校教育段階では用いられないことのない特別な概念であるため、十分な理解が必要となる。 (3)学びの意義と目標 子どもは毎日の生活の中で、遊びを通して様々な経験を積み重ねながら成長していく。その際どのような育ちが見られるかを捉える視点として「保育内容（領域）」という概念を用いる。子どもの育ちを支える保育者となるためには、このキー概念について理解したうえで、幼児理解、保育の計画、保育実践を行う必要がある。				
<b>評価方法</b>				
期末テスト、課題提出、レスポンスペーパーにより評価する。（期末テスト60%、課題30%、レスポンスペーパー10%）				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 保育内容総論Ⅱ

春 週1回 2単位

担当者：野尻 裕子

講義の目標及び概要

(1)内容

本授業では「保育内容総論Ⅰ」で学んだ理論を基礎として、実際に保育者として保育内容を考えていくことを中心に学習を進める。具体的には年齢に応じた保育内容を発達と関連させながら計画する。また子どもに関して特に社会的課題となっていることについても、現状と今後の方向性を諸外国の実例などと合わせて考えていく。

(2)カリキュラム上の位置づけ

保育内容総論は幼稚園教諭免許状及び保育士資格を取得する際に学習することが求められている科目である。特に発達を捉える「保育内容（領域）」という視点は、他の学校教育段階では用いられないことのない特別な概念であるため、十分な理解が必要となる。

(3)学びの意義と目標

子どもは遊びを通して環境に主体的にかかわることにより、様々なことを学ぶ。保育者はその子どもの主体性を大切にしながら環境を構成し、多様な方法で援助を行うことで、学びの深化を図るのである。このことを踏まえ、保育者としての広い知識と豊かな感性をもち、より良い保育内容を考えることができるような力が身につくことを目標とする。

評価方法

期末テスト、課題発表、レスポンスペーパーにより総合的に評価する。(期末テスト60%、課題発表30%、レスポンスペーパー10%)

教科書

プリントを配布する

選択 保育内容の研究・健康

春 秋 週1回 2単位

担当者：鈴木 明

講義の目標及び概要

幼児期における健康な健康習慣の確立は、その後続く児童期、青年期へと発育発達していくための基礎がつくられる重要な時期である。

本講義では、幼稚園教育要領に示されている内容を中心に、健康な幼児を育てるということ、特に幼児教育での健康の領域の指導のため、基礎となる理論と、それを踏まえた実践のあり方について学ぶ。健康な幼児を育てるための指導とは何かについてとらえておきたい。

評価方法

講義中の発表・質疑応答とレポートを参考にする

教科書

授業の中で指示する

選択 保育内容の研究・人間関係

春 週1回 2単位

担当者：井村 礼恵

講義の目標及び概要

1：概要

乳幼児期は子どもの人間形成の基礎を作る重要な時期であり、その多くは、人とかかわりの中で培われていく。いわば「生きる力」の基礎は、子ども自身の「人間関係」や子どもを取り巻く「人間関係」の中で、みずからつかみとったり、教えられたりすることによって身につけていくものと言えよう。

本授業では、保育場面における人間関係（子ども同士、保育士と子ども、保育士と親、保育士同士、保育士と関係機関）、さらに家庭、地域など広い視野で子どもの育ちに関わる人間関係について学習する。

2：カリキュラム上の位置づけ

この科目は幼稚園免許取得、保育士資格取得のためには必修である。

評価方法

授業開始時に説明を行う。平常点、発表、レポートを基本にする。

教科書

監修 無藤隆/編者代表 岩立京子『事例で学ぶ保育内容（領域）人間関係（2008年9月改定のもの）』萌文書林

選択 保育内容の研究・人間関係

春 秋 週1回 2単位

担当者：丹羽 さがの

講義の目標及び概要

〈内容〉人とかかわり合いが希薄な社会になっているといわれる今、子どもたちの中に、人とかかわる豊かな力をどうやって育てていけばよいのか。本講義では、1)各年齢段階における人間関係の発達、2)子どもが人間関係を育む場、3)子どもの人間関係に影響を与える物的環境（物・自然）・人的環境（周囲の大人や子どもなど）といった視点から子どもの人間関係を考察し、保育者・大人としての援助のしかたを考えていく。

〈カリキュラム上の位置づけ〉保育内容「人間関係」は、「保育の内容・方法の理解に関する科目」の系列に位置づけられる。保育所保育指針・幼稚園教育要領で設定された保育内容5領域の一領域であり、幼稚園教諭・保育士資格取得のための必修科目である。

〈学びの意義と目標〉「保育内容 人間関係」の考え方、子どもの人間関係の発達、人間関係の中で育つもの、人間関係が育まれる場、人間関係に影響を与える物的・人的環境について理解すること、保育者・大人の援助の仕方について考えられる力をつけることを目標とする。保育者となって現場に立ったときだけでなく、自らが親となったとき、ひとりの大人として社会全体で子どもを育てるという視点に立ったときに、役立つ知識・思考を身につける。

評価方法

授業3～4回に1回課す小レポート（全4回で40%）、最終レポート（1回20%）、出席状況を含む授業に臨む姿勢（20%）。欠席4回以上は失格とするので注意すること。

教科書

森上史朗・渡辺英則・小林紀子『「保育内容「人間関係」(最新保育講座)』ミネルヴァ書房

選択 保育内容の研究・E2		春	秋	週1回	2単位
担当者：井村 礼恵					
<b>講義の目標及び概要</b>					
1. 目的 「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」に示されているように、乳幼児の保育は環境を通して行うものとされている。この環境とは乳幼児を取り巻く人、生物、場所、時間、雰囲気などすべてを意味しているが、その一つひとつが単独で存在するのではなく、いろいろな形で相互に絡み合っている。ここでは保育内容・環境に示されている事柄を理解するとともに実際の保育の場で保育者が子ども達の生活の実態を踏まえてどのように環境を構成しているのか、ということを実例を取り上げながら考えていく。					
2. カリキュラム上の位置づけ この科目は幼稚園免許取得、保育士資格取得のためには必修である。					
3. 学びの意義と目標 環境というものを多角的にとらえ、実際の保育にどのように取り入れていくかを学んでいく。					
<b>評価方法</b> 授業開始時に説明を行う。平常点、発表、レポートを基本にしている。					
<b>教科書</b> プリントを配布する 監修 無藤隆/編者代表 福元真由美『事例で学ぶ保育内容（領域）環境（2008年9月改定のもの）』萌文書林					

選択 保育内容の研究・言葉		春	秋	週1回	2単位
担当者：石川 由美子					
<b>講義の目標及び概要</b>					
〔目的〕 はじめに、乳幼児期からの言葉の発達過程を紐解くことで、人間にとっての言葉とその機能に関する理解を深める。保育者としての基盤となる幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」についての知識を深める。次に、言葉の発達と関わる保育教材についての知識と技術についての学びを深める（わらべ歌、手遊び歌、絵描き歌、ペープサート、パネルシアター、言葉遊び：回文、しりとりなど、折り紙、製作、絵本など）。最後に、保育者として子どもの言語発達に寄与する保育実践を、言葉の障害をもつ子供への保育指導案作成を通して学ぶ。 〔カリキュラム上の位置づけ〕 本科目は幼稚園免許取得、保育士資格取得のための必須科目となっている。 〔学びの意義と目標〕 乳幼児期の言葉の発達を学ぶことが中心だが、この時期の言葉の獲得は人間にとって大変に意味深いものである。人間にとっての言葉を理解することで、人が思考すること、人と人が思いやり、感じあい、共感し合うことができる発達の重要性を学んでほしい。					
<b>評価方法</b> 発表、小テスト、課題などで70%、出席状況や授業への参加の程度など平常点として30%					
<b>教科書</b> 授業の中で指示する					

選択 保育内容の研究・表現A		春	秋	週1回	2単位
担当者：相川 徳孝					
<b>講義の目標及び概要</b>					
1. 目的 「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」において、表現は「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」と示されている。このことを踏まえ、共に生活する子どもと保育者が「表現者として育つ」ことに視点をあて、理論と実践の両面から授業を展開していく。具体的には子どもの表現方法（ことば・音楽・身体・造形等）について学び、「表現とは何か」「子どもなりの表現を容容することとは」「表現する力を育てるとはどのようなことなのか」を考えていく。また、保育者自身も表現者であることを目指し、ピアノや手遊び等の保育技術も重視していく。					
2. カリキュラム上の位置づけ この科目は幼稚園免許取得、保育士資格取得のためには必修となるのである。					
3. 学びの意義と目標 一人ひとりの子どもの多様な表現の意味を捉え、その意味を考え、考察できるようになること。また、保育者自身も豊かな表現者となることを目標とする。					
<b>評価方法</b> 2回の試験（70%）と保育実技（30%）で評価する。					
<b>教科書</b> プリントを配布する					

選択 保育内容の研究・表現B		春	秋	週1回	2単位
担当者：柴田 和豊					
<b>講義の目標及び概要</b>					
保育内容には、養護に関わるものと、教育に関わるものの、二つの柱があるが、この授業は後者の枠組みの中に位置づけられるものである。その目標は「保育所保育指針」に示されている「いろいろな物の美しさなどに対する豊かな感性を持つ。」「感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。」「生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。」というねらいを実現することであり、いろいろな造形的な素材・表現方法などの学習を通して、そのための基本的な能力を育てていく。 子どもたちの表現活動の基本は「楽しく」ということであることを踏まえて、受講者一人ひとりにとっても楽しい造形表現が体験できるよう、概論的部分と表現活動の実際を有機的に関連づけながら進める。 また、表現活動が表現する人間にとって切実な意味合いを持つものであることを理解するために、子どもの表現について学ぶだけでなく、自分を表現するという課題にも取り組む。					
<b>評価方法</b> 出席状況、発表、製作物、レポートなどを総合して判断する。					
<b>教科書</b> 授業の中で指示する					

選択 幼児指導法の研究

春 週1回 2単位

担当者：青木 聡子

講義の目標及び概要

講義は、適宜、幼児の遊びや生活に関するエピソードを紹介しながら進め、幼児指導のための基礎理論と方法を、具体的な子どもの姿や保育実践に結びつけながら学ぶ。また、複眼的に保育を捉え、幼児理解を深めるために、ディスカッションやグループ活動に取り組むものとする。

幼稚園における指導は、幼児理解に基づく指導計画の作成、環境の構成と活動の展開、幼児の活動に沿った必要な援助、反省や評価に基づいた新たな指導計画の作成といった循環の中で行われる（文部科学省、2008）。そこで、本講義では、「保育における指導計画の重要性を学び、指導計画の作成に必要な基礎力を養うこと」、「幼児理解の方法を学び、子どもの発達に応じた適切なかわりを工夫すること」を目標とする。

評価方法

平常点（ディスカッションやグループ活動への参加状況）（30%）  
授業時の課題（レポート、ワークシート等）（60%）  
小テスト（10%）

教科書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館

選択 教育課程論

秋 週1回 2単位

担当者：松田 信昭

講義の目標及び概要

1. 内容

教育課程の基本と教師の資質、20年版の学習指導要領の主な改訂点、各教科等に共通する指導計画・指導案の実際、学級経営・指導方法等の具体的な課題を学ぶ。

2. カリキュラム上の位置付け

各教科・領域の学習をつなぐ教育課程の立場から大きな目で考察するとともに、各教科の指導案の共通点の検討など授業実践力につながる力を身に付ける。

3. 学びの意義と目標

教職を目指す人はもとより、現在教職に就いている人であっても、「教育課程」についての関心や認識は低い、というのが一般的である。意図的、計画的、組織的に行われる学校教育では一人一人の教師が「教育課程」の編成・実施について理解していくことによって、目指す学校・教育が実現される。

教育課程の重要性、20年版の教育課程の考え方、さらに授業に直結する指導案の考察などについてその重要点が説明できることを目標とする。

評価方法

出席を重視し、出席カード又は小レポートの提出で40%、授業への積極的な参加態度及びレポート提出等で30%、定期試験で30%とする。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編』東洋館出版社

選択 初等国語科教育法

春 秋 週1回 2単位

担当者：根本 正義

講義の目標及び概要

国語科教育の教師として、児童のものの見方や考え方について、受講生が自分自身の問題として考察することのできる姿勢を身につける。

国語教育の今日的課題、教材研究のあり方、マンガも読書、等について講義する。教授項目参照のこと。

なお、教科書として指定している『増補 資料中心 国語科教育法』に収められている平成20年・21年版学習指導要領を用いて講義を行う。教科書は、非売品のためプリントを配布する。

評価方法

評価はレポートによっておこなう。受講者自身の意見・判断等が確かに論じられている内容のレポートを高く評価する。

教科書

プリントを配布する  
谷光忠彦・山本昌一・根本正義共編『増補 資料中心 国語科教育法』高文堂出版社版別冊 赤い鳥文庫

選択 初等社会科教育法

春 秋 週1回 2単位

担当者：深澤 悠紀雄

講義の目標及び概要

「社会」で学んだ社会科の目標や内容を再確認するとともに、社会科の指導について事例研究を行う。

次に、自分で選んだ「単元」について実際に指導計画をたて、それに基づき各自が模擬授業を行う。その際互いに模擬授業を見合って授業記録を作成し、指導のあり方を話しあうことにより授業のあり方を模索する。

評価方法

出席を重視し、取り組む姿勢、指導計画の作成、模擬授業の結果等を加え、総合的に評価する。

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 社会科編』東洋館出版社



選択 算数科教育法		春	秋	週1回	2単位
担当者：小関 照純					
<b>講義の目標及び概要</b>					
すぐれた算数の授業の追究をテーマとする。授業目標は、小学校算数科の目標、指導内容、指導方法についての理解を深め、算数教育の実践力を育成する。					
<b>評価方法</b>					
出席を大変重視する。期末試験、レポートの他、出席、授業中の小テスト、授業中の意見発表も評価の対象になる。					
<b>教科書</b>					
新編『算数科教育研究』学芸図書 文部科学省『小学校学習指導要領解説 算数編』東洋館					

選択 理科教育法		春	秋	週1回	2単位
担当者：高野 庸					
<b>講義の目標及び概要</b>					
小学校理科を指導するに際して、理科の目標を達成するために、教員自身が内容相互の関連や全体像を把握するには、どのような筋道で学習すればよいかを自然界の成り立ちから学ぶ。併せて、そのことを、児童に理科と日常生活との関わりを認識させるために、どのように授業で活用すればよいかを考えていく。なお、事情の許す限り双方向授業を展開し、指導例を扱う箇所では学生による「模擬授業」も予定している。					
<b>評価方法</b>					
毎回の授業の度に、質問・疑問・意見・要望・感想などを自由形式で書く時間を10～15分間割り、次回にそれらにコメントを付して返却する。その内容と期末試験の成績、模擬授業への取り組み状況等を総合的に判断して評価する。					
<b>教科書</b>					
高野庸『自然のしくみと環境—理科を見直す本—』開成出版 文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』大日本図書					

選択 生活科教育法		春集中	秋集中	2単位
担当者：船田 信昭				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 生活科の内容や特質を理解すること、また、指導計画、本時案の作成を通して、子どもの学びと教師のかかわり方を学ぶことである。				
2. カリキュラム上の位置付け 本年度は、生活科の内容理解という基礎的な段階及び授業に向けての指導案の作成という方法理解の両者を扱う。				
3. 学びの意義と目標 生活科の特質や子どもの学び、教師の役割等について自分なりの考察ができるようになることが大切である。 生活科の目標や内容を理解するとともに、それを踏まえて本時案を自力で作成できる。				
<b>評価方法</b>				
出席を重視し、出席カード又は小レポートの提出で40%、授業への積極的な参加態度及びレポート提出等で30%、定期試験で30%とする。				
<b>教科書</b>				
文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編（平成20年8月）』 日本文教出版				

選択 音楽科教育法		春	週1回	2単位
担当者：村山 順吉				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(目標) 小学校音楽家の歴史、目標、内容、指導法および評価について概説する。さらに、授業実践についての基本的な考え方、捉え方などを学び、これからの授業実践について考察する。また、音楽教育の方向性を探求し、実践能力を養う。				
(内容) 講義をもとに、音楽教育の意義を理解し、授業づくりを行う。				
<b>評価方法</b>				
出席状況、平常点、その他総合的に評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する 文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社				

選択 図画工作科教育法

春秋 週1回 2単位

担当者：柴田 和豊

講義の目標及び概要

子どもたちにとってなぜ造形的な表現活動が大切かを考えるとともに、具体的な活動の在り方を考える。

図工・美術教育がどのような歴史を辿ってきたか、そして現代の学校と社会の中で何をなするかを考えていく。伝統的な意味あいでの美術だけでなく、子どもたちの日常世界から生まれる表現活動を大切に考える。

子どもたちの表現活動の基本は「楽しく」ということであることを踏まえて、受講者一人ひとりにとっても楽しい造形表現が体験できるよう、概論的部分と表現活動の実際を有機的に関連づけて進める。

また、表現活動が表現する人間にとって切実な意味合いを持つものであることを理解するために、子どもの表現について学ぶだけでなく、自分を表現するという課題にも取り組む。

評価方法

出席状況、レポート、課題製作への取り組み、試験などをもとに総合的に判断する。

教科書

授業の中で指示する  
文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』日本文教出版

選択 家庭科教育法

春集中 2単位

担当者：櫻井 純子

講義の目標及び概要

小学校家庭科について、教育方法、技術の基礎を学びながら自分の学習体験も含めたこれまでの教育方法を問い直し、新しい授業、学びと学びを支える環境、教師・指導者のあり方について考え、授業に生かす方法について学ぶ。

評価方法

教材の作成、学習指導案の作成、授業参加態度及び期末小テスト等を総合して、評価・評定をする。

教科書

櫻井 純子『わたしたちの家庭科』開隆堂  
文部科学省『小学校学習指導要領解説・家庭編』東洋館出版

選択 体育科教育法

春集中 2単位

担当者：細江 文利

講義の目標及び概要

小学校における体育とは何か基本的な考え方を理解し、発達段階に応じた実践の仕方を学ぶ。

内容：体育の概念、体育授業の構造論、体育の目標・内容・方法・計画・評価論。

評価方法

演習問題と学期末テストによって総合的に評価する。

教科書

細江文利『子どもの心を開くこれからの体育授業』大修館書店  
文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』東洋館出版社

選択 道徳教育の研究

秋 週1回 2単位

担当者：阿久戸 光晴

講義の目標及び概要

小学校における道徳教育のあり方について学び、いまの学校ではどのような道徳教育が求められているかを考える。

授業は、道徳教育の意義・目的・方法などについて本質的なところから理論的に講義したうえで、学校における道徳教育および道徳の授業についての具体的・実践的に考察していく。ビデオ教材などを使用し、道徳教育の今日的課題や学習指導要領の学習も、実践的かつ多角的に検討・理解する。そして、おわりに受講者のレポート発表と討議をおこない、まとめる。

評価方法

試験70%、出席30%

教科書

文部科学省『小学校学習指導要領解説 道徳編』

選択 特別活動の理論と方法	春集中	2単位
担当者：阿久戸 多喜子		
<b>講義の目標及び概要</b> 学校の教育課程の三つの領域の一つである「特別活動」について、まず、受講者の体験を振り返り、この科目の持つ児童への指導の意味を捉える。また、学校の教育課程における特別活動の位置付けを確認し、「学級活動」「児童会活動」「クラブ活動」「学校行事」の理論と実際の授業の進め方を理解するとともに、実際に指導計画を立てながら、学校現場で効果的に実践できる資質や能力、態度を育てる。		
<b>評価方法</b> 出席、授業レポート、試験、指導計画案により総合的に評価を行う。		
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 文部科学省『小学校学習指導要領解説特別活動編』東洋館出版社		

選択 教育方法論	秋	週1回	2単位
担当者：篠原 文陽児			
<b>講義の目標及び概要</b> 平成10年(1998年)12月に第6回目の改訂、同15年12月にその一部改正があった学習指導要領は、「新しい学力観」で知られる平成元年の第5回改定の理念を引き継ぎ、学校教育の目標を、知識・理解、結果重視の教育から、関心・意欲・態度、過程重視の教育へと、進展する国際化、情報化、生涯学習社会への移行等に対応できる児童生徒の育成を求めた。 平成20年には第7回目の改訂が行われ、「生きる力」のいっそうの充実を図っている。 集団での協動的で充実した豊かな生活と体験的及び具体的な学習が求められる就学前及び初等教育段階の幼児と児童を対象とする教授と学習に関し、システムズ・アプローチによりその内容と方法、つまりそもそも教育とは、授業とは何かを導入に、教師の重要な役割であるカリキュラム開発、授業の設計と実施、授業分析、教育メディアの選択と開発、授業運営と評価等について基礎的な知識と理解を深め、これらの改善に意欲を示すとともに、基本的技能と態度を身に付ける。 なお、参考文献は、授業の最初の時間に紹介し、授業中の該当の個所でも、その都度紹介する。また、ホームページURL ( <a href="http://www.u-gakugei.ac.jp/~shinohar">http://www.u-gakugei.ac.jp/~shinohar</a> ) も、適宜参照。			
<b>評価方法</b> 出席を重視し(50%)、授業態度(10%)、授業中に課すレポート課題及び最終試験等(40%)を含めて、総合的に判断して、評価する。			
<b>教科書</b> 多田俊文編『教育の方法及び技術』学芸図書出版(株)			

選択 生徒指導論(進路指導を含む)	春	週1回	2単位
担当者：松田 信昭			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 生徒指導は、子どもが自分自身を見つめ、よりよく成長していくことを援助する指導のことである。また、生徒指導は教科指導と並んで大切な教育活動である。 実際の学級で起きる様々な場面を想定し、学生同士で議論し合う時にディベートなどを取り入れながら進める。 2. カリキュラム上の位置付け 教育課程の中で児童理解を伴う指導として大事な一歩である。人と関わりながら日々を過ごす学校生活を充実していく上で欠かせないものとして位置付けていく。 3. 学びの意義と目標 学校は集団生活の中で人と関わりながら歩んでいる。その中では、人間関係を保ちながら、困ったときも切り抜けていく力が要求される。こうした時に具体的な指針となるところに学びの意義がある。 基本的な考え方を身に付け、また、子ども集団を統率し、一人一人のよさを伸ばしていく上で様々な場面への説得力ある対応ができ、解決していく力が付くことを目標にする。			
<b>評価方法</b> 出席を重視し、出席カード又は小レポートの提出で40%、授業への積極的な参加態度及びレポート提出等で30%、定期試験で30%とする。			
<b>教科書</b> プリントを配布する			

選択 基礎実習	春	秋	週1回	1単位
担当者：相川 徳孝				
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 目的 「基礎実習Ⅰ」は幼稚園教諭免許修得のための必須科目であるが、児童学の対象とする子ども理解を深めるために、保育士や小学校教諭を目指す学生、資格を取らずに児童学の学びを深めていく学生も履修することが望まれる。この授業では実際の保育現場での観察実習が中心となる。幼稚園生活をしている子どもの姿を観察することにより、子どもの発達の様子や保育者が遊びや発達を支えるためにどのような援助をしているのかを自分なりに考えることを中心にすすめ、子どもの行為や行動、また保育者の援助行為の意味を自分なりに捉え、それを文章として第三者に伝えることをねらいとするものである。幼稚園での子どもの姿から「子どもから学ぶ」ということの意味と保育者、教師としてのどのような資質が必要となるのかを自発的に身につけていけるようにしていきたい。 2. カリキュラム上の位置づけ 幼稚園教諭資格取得希望者には必修科目である。 3. 学びの意義と目標 子ども理解を深めることと保育者(教師)となるための自己課題を各自が見出すこと。				
<b>評価方法</b> 観察実習の評価(5日間)と実習日誌、レポートを総合的に評価する。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選択 保育実習Ⅱ-2

春 週1回 3単位

担当者：相川 徳孝

講義の目標及び概要

1. 目標

幼稚園で3週間の実習を行うことを目的とした科目であり、すでに履修している保育実習Ⅰ（観察実習）と保育実習Ⅱ-1の最終段階としての授業である。

幼稚園における子どもの実態、生活の流れ、保育者の子どもに対する具体的な援助方法、教材研究を中心に実習に向けての事前準備を中心に進めていく。

2. カリキュラム上の位置づけ

保育実習Ⅱ-2は幼稚園教諭免許取得のための必修科目である。

3. 学びの意義と目標

3週間の実習を通して保育者としての使命感と子どもに対する理解を深め、各自の資質の向上をはかることや、子どもの発達に適した対応ができる実践的な力を養う。

また、実習後の事後指導において自己課題を見いたすことも学びの目標である。

評価方法

実習幼稚園からの実習評価（80%）とレポート（20%）で評価する。

教科書

プリントを配布する

選択 保育実習

通年 週1回 5単位

担当者：金谷 京子/田澤 薫

講義の目標及び概要

1 内容

保育士資格取得に必要な必修の実習を行う。実習のための事前学習、保育所での実習、居住型施設での実習、事後学習を含む。

2 カリキュラム上の位置づけ

保育士資格取得のための必修科目である。また保育士資格取得に必要な選択必修科目である「保育実習A」または「保育実習B」を履修する前提となる科目である。

3 学びの意義と目標

これまでに行ってきた保育、福祉、養護等に関する講義・演習での学習を基礎とし、保育所・居住型施設の現状や児童の日常、保育士のはたらき等を体験的に学ぶ。保育士を目指すうえでの自己の課題を見つけ、さらに保育専門職の役割を総合的に理解する。

評価方法

授業に出席し、保育所での実習・居住型施設での実習を行い、それぞれの個別面談による事後指導を受けた受講生が評価の対象となる。

出席状況および受講態度、課題・書類等の提出の平常点と実習評価を総合して評価する。

教科書

児童学科実習委員会『保育実習の手引き』

選択 保育実習A

春集中 2単位

担当者：相川 徳孝

講義の目標及び概要

1. 内容

本科目は、「保育実習Ⅲ」の経験を踏まえ、さらなる目的意識と自己課題をもって、保育所において実習を行うものである。授業で学んだ保育理論と保育技術をどのくらい自分のものとしているのか、また、保育所実習において実習園から指導を受けたことが、自分の問題として認識され、解決するためにどのような学びが必要なのか、ということを中心に事前準備をし、各自が「自分らしい実習」が実践できるようにしていく。

2. カリキュラム上の位置づけ

保育士資格取得のための選択必修としての科目であり、「保育実習Ⅲ」と「保育実習Ⅳ」、及び保育士資格に関連する科目を、適切な評価で修得した者が履修できる。

3. 学びの意義と目標

各自の持ち味を生かした教材研究・指導計画を立てて実習に臨み、子どもの行動の意味を正しくとらえることができるようになること。また、保育士としての使命感と責任感を自覚的に深めていくことができるようになることを目標としている。

評価方法

実習園からの実習評価と平常点を総合して評価する。

実習参加にあたっては、平常点や履修状況等、一定の条件を満たした者のみの参加が認められる。

教科書

プリントを配布する

選択 保育実習B

春集中 2単位

担当者：石川 由美子

講義の目標及び概要

〈内容〉

保育士資格取得のための選択必修科目である。本科目の構成は、実習前に行う事前指導、実習、実習後に行う事後指導からなる。実習は児童福祉施設（保育所以外）、社会福祉関係結法に基づき設置されている社会福祉施設において11日間行なう。実習において、施設での養護を実際に体験し、保育士として必要な資質と能力を身につける。また、実習対象となる施設は、主に通所型施設であるので、家庭および地域との密接な連携のあり方を学ぶ。履修者は、施設職員の仕事の一端を職員の指導の下で体験し、職員の施設における役割や利用者にとっての施設の意義を自ら考察し、理解を深める。

〈カリキュラム上の位置づけ〉

保育士資格希望者に対する選択必須科目

〈学びの意義と目標〉

保育士としての基盤となる施設実習体験を通して、施設での保育士の役割りを自覚できるようになる。

評価方法

事前事後指導の出席、受講態度、レポート等の提出、発表などの平常点および、諸手続きの実行状況と現場実習評価を総合して評価する。

実習参加にあたっては、出席や履修状況等一定の条件を満たした者のみが参加が認められる。

教科書

授業の中で指示する

選択 小学校教育実習		秋	週1回	5単位
担当者：深澤 悠紀雄				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>近年学校教育は、社会の変化に直面し様々な問題を抱え、教育改革の論議が活発に行われている。しかし、教育の要は、なんと言っても教育の担い手である教師の肩にかかっているといても過言ではない。</p> <p>教師として、人間として、教育に情熱を傾け、社会の要請に答えることができる教員としての資質を向上させることが期待されているのである。そうした中で、教員養成課程において教育実習の果たす役割は重要な位置を占めている。</p> <p>教育実習では、大学での理論研究を教育現場で総合的に実践するとともに、児童生徒への教育愛を体得し、教師としての教育実践について足がかりをなす体験をするのである。</p> <p>本講座では、教育実習を意義あるものにするために、実習に際しての心構えを新たにするとともに、実習の内容、方法等について取り上げるものである。</p>				
<b>評価方法</b>				
実習校からの報告・評価を中心に、事前児童・事後指導における取り組みを加味して総合的に評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する 教育実習を考える会『新編 教育実習の常識』倉丘書林				

選択 介護等体験及び事前事後指導		秋	集中	2単位
担当者：山口 圭				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>小学校及び中学校の義務教育の教員免許状を申請しようとするときには、「介護等体験特例法」に基づく介護等の体験に関する証明書の添付が義務づけられた。</p> <p>この法律は「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者や高齢者等に対する介護、介助や、これらの人達との交流等の体験を行わせること」を目的としている。</p> <p>「介護等体験」において留意しなければならないことは、福祉施設に出かけて介助を行えば、自ずと「思いやり」や「やさしさ」が身につくものではないということである。様々な人びとのかかわりのなかで、常に「相手の立場に立って物事を考える」姿勢が求められている。</p> <p>事前事後指導では、福祉サービス利用者の立場に立った介護の在り方について考えるとともに、人間の尊厳を守るための具体的な介護実践を学ぶ。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席状況、受講態度、実習記録により評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 学校経営と学校図書館		春	週1回	2単位
担当者：斉藤 規				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>今日の高度なメディア社会において、学校図書館の役割は大きく変化している。今、求められている学校図書館のあり方を明確にし、学校図書館の管理運営の意義と理念、教育行政とのかわり、司書教諭の職務と役割についてなど、司書教諭養成科目の総論的内容を扱う。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席、提出物、考查点などをとに総合的に判断する。				
<b>教科書</b>				
図書館教育研究会『新学校図書館通論 第3版』学芸図書株式会社				

選択 学校図書館メディアの構成		春	週1回	2単位
担当者：若松 昭子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 学校図書館の利用者が必要としている様々な情報メディアの特性とその効果的な収集方法、また、日本十進分類法、件名標目表、日本目録規則、書誌ユーティリティ、オンライン目録などを用いた効率的な資料組織化の理論と方法を学ぶ。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 学校図書館司書教諭の資格科目・児童学科の専門科目</p> <p>3. 学びの意義と目標 学校図書館における適切な資料の選択・収集とその体系化は、学校教育の中心となりうる充実した学校図書館を創造するための基盤である。授業では、学校教育に必要とされる多様な情報メディアの特性を理解し、資料選択の理念と効率的な収集の方法、さらにそれらを有効に活用するための組織化の理論について理解する。また、実際に組織化を体験することによって、資料組織化の具体的な技法を体得できるようにする。</p>				
<b>評価方法</b>				
試験またはレポート40%、毎回の授業時の課題40%、出席状況(単なる出席点ではなく平常の授業態度) 20%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選択 学習指導と学校図書館

秋 週1回 2単位

担当者：米谷 茂則

講義の目標及び概要

- (1)内容  
 学習指導と学校図書館との関わりを考えていくとともに、児童生徒の情報活用能力育成のための指導の基本を理解する。
- (2)カリキュラム上の位置づけ  
 司書教諭資格取得に資する5科目のうちの1科目である。
- (3)学びの意義と目標  
 児童生徒自らが学習テーマを設定し、学校図書館機能を駆使してテーマに適したメディアを収集・選択して調べ、まとめ、自分の考えをも含めて発表できる能力を育成することができるような指導能力を身につけることが目標である。

評価方法

出席状況(20%)、平常点(発表:30%)、レポート(50%)により総合判断する。8割以上の出席をした学生がレポートを提出することができる。

教科書

プリントを配布する

選択 読書と豊かな人間性

秋 週1回 2単位

担当者：斉藤 規

講義の目標及び概要

多様な価値観、高度な情報社会の今日にあって、「読書」のもたらす力は、豊かな知識を得るために、また、人間性の育成においても極めて重要なものである。本講座では、司書教諭の持つべき読書認識を、読書の意義や目的、指導のための知識や諸技能の内容を通して確認する。

評価方法

出席、提出物、考查点などをもとに総合的に判断する。

教科書

図書館教育研究会『新学校図書館通論 改訂版』学芸図書株式会社

選択 情報メディアの活用

春 週1回 2単位

担当者：河島 茂生

講義の目標及び概要

(内容)  
 学校におけるメディアは多様化の一途を辿っており、なかでもインターネット技術の登場によって、情報検索や情報発信の有様に変化してきている。授業では、学校図書館が取り扱うメディアの全体像を見据えながらも、インターネット技術の利活用を集中的に論じることにしたい。

(カリキュラム上の位置づけ)  
 学校図書館司書教諭課程 資格科目、児童学科 専門科目

(学びの意義と目標)  
 本講義では、司書教諭が身につけるべき/伝えるべき情報メディアの利活用を説明する。司書教諭は、メディアの専門職であり、児童や生徒にたいするメディア利用教育だけでなく、ほかの教員にたいしてもメディア利用の支援をしていくことが求められている。本講義では、その基礎的な内容の体得を目指す。

評価方法

出席状況と授業態度およびレポートを総合して評価する。

教科書

プリントを配布する

選必 専門演習(児童学1)

秋 週1回 1単位

担当者：田澤 薫

講義の目標及び概要

1. 内容  
 子どもをめぐる様々な場面に目を向けながら、子どもを研究の対象として捉えることの意味を考える。
2. 学びの意義と目標  
 子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。子ども研究の入り口に立って、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。

評価方法

出席した上での積極的な参加(発言)20% 課題報告 30% レポート50%

教科書

授業の中で指示する

選必 専門演習(児童学Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：田澤 薫				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 専門演習(児童学Ⅰ)の学習内容と踏まえ、さらに受講者各々の問題意識に沿って子どもをめぐる様々な主題に取り組むことで、子どもを研究の対象として捉えることの意味を考える。				
2. 学びの意義と目標 子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。子ども研究に取り組みながら、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。				
<b>評価方法</b>				
出席した上での積極的な参加(発言) 20% 課題報告 30% レポート50%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習(児童臨床心理学Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：山田 麻有美				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1)内容 児童臨床心理学は、心の元気を失い、悩みや心の問題を抱えている子どもの発達に必要な手助けを目指す心理学の一分野である。そのような子どもの悩みや心の問題が生じる要因やメカニズムは多様で複雑であり、その理解は容易ではない。本演習では、心理学の基本的な考え方を文献を通して学び、簡単な心理学的実験や実習を通して心理学に対する理解を深め、個々人の興味関心が問題意識に発展するようにしていきたい。				
(2)カリキュラム上の位置づけ 児童学科専門科目で、卒業必修科目であり、専門演習Ⅱ、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱに続くものである。				
(3)学びの意義と目標 児童臨床心理的な諸問題を考える際の基礎となる心理学の基本的な考え方を学ぶことで、心理学的あるいは科学的なものの考え方を身につけることができる。その科学的態度で受講生が各々の問題意識を明確にしていくことを目標としている。				
<b>評価方法</b>				
文献講読の準備と発表(60%)と、討論への参加度(30%)、及び出席(10%)を合計し評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習(児童臨床心理学Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：山田 麻有美				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1)内容 専門演習Ⅰ(児童臨床心理学)で得た心理学の基本的な知識と心理学的なものの考え方をもち、心理学的な問題に関する理解をさらに深め、各自の興味関心のある分野を発見することを目指す。具体的には、毎回、受講生は、各自の興味関心を持つテーマを取り上げ、そのテーマに沿った文献を収集し、レポートすることが求められる。そのレポートされる内容について討議し、読みこなしていく力を養う。				
(2)カリキュラム上の位置づけ 児童学科専門科目で、専門演習Ⅰを履修した者が受講する卒業必修科目である。卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱに続く。				
(3)学びの意義と目標 専門演習Ⅰ(児童臨床心理学)で得た心理学の基本的な知識と心理学的なものの考え方をもち、心理学的な問題に関する理解をさらに深め、各自の興味関心のある分野を発見し、文献を収集し読みこなす力を養う。その過程で、現代を生きる社会人の資質として必須の情報の収集とその整理法を身につけることが期待されている。				
<b>評価方法</b>				
文献収集とレポートの準備(60%)と、討論への参加度(30%)、出席(10%)の合計により評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習(日本教育史Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：石津 靖大				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 本演習は、日本教育史における教育者群像の研究を継続的課題とするが、本年度は公立小学校教員採用試験を受験してその合格を目指す志をもつ学生を対象にしたものなので、それを前提にした教員採用試験対策的な演習となる。取り組む内容の概要は、1 公立小学校採用試験の実態および傾向等についての分析研究。2 採用試験の中のいわゆる一次試験の対策研究。3 1. 2と平行して日本教育史における小学校教員養成の歴史研究。				
2. カリキュラム上の位置づけ 歴史と現在平行して取り組むところの学科の専門科目としての演習である。				
3. 学びの意義と目標 主たる目標は、小学校教諭に成るための基礎的な知識の傾向と対策を研究して、教師としての肝どころをおさえることにある。				
<b>評価方法</b>				
平常点(出席、発表ならびに討議、態度に基づき総合的に判断)にて評価する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

**選必 専門演習(日本教育史Ⅱ)**

春 週1回 1単位

担当者：石津 靖大

**講義の目標及び概要**

## 1. 内容

本演習は、日本教育史における教育者群像の研究を継続的課題とするが、本年度は公立小学校教員採用試験を受験してその合格を目指す志をもつ学生を対象にしたものなので、それを前提にした教員採用試験対策的な演習となる。また前年度の専門演習(日本教育史Ⅰ)を履修生もろとも継承することになるので、取り組む内容の主たるものは、公立小学校教員採用試験の中の一次試験つまり教職教養と専門教養の傾向と対策の研究となる。

## 2. カリキュラム上の位置づけ

歴史と現在に平行して取り組むところの学科の専門科目としての演習である。

## 3. 学びの意義と目標

主たる目標は、小学校教諭に成るための基礎的な知識の傾向と対策を研究して、教師としての肝どころをおさえることにある。

**評価方法**

平常点(出席、発表ならびに討議、態度に基づき総合的に判断)にて評価する。

**教科書**

プリントを配布する

**選必 専門演習(キリスト教幼児教育Ⅰ)**

春 週1回 1単位

担当者：阿部 洋治

**講義の目標及び概要**

(1)究極的には、キリスト教教育の特徴や役割を探索しつつ、キリスト教を土台としつつ、近代の教育思想を考察する。

(2)選必修科目の一つ。

(3)教育についての思想的な考察を深めながら、教育をめぐる様々な課題について問題意識を深め、元来答えのない人間の教育の可能性と限界についての洞察力を身につけられたら幸いである。そのことは、やがて、保育者として、教育者として子どもや保護者との体面において、そこに起こっている出来事の意味を深く問い洞察する力を養うことになることを期待している。

**評価方法**

(1)出席を重視する。  
(2)研究発表およびレポートによる。

**教科書**

授業の中で指示する

**選必 専門演習(キリスト教幼児教育Ⅱ)**

秋 週1回 1単位

担当者：阿部 洋治

**講義の目標及び概要**

(1)専門演習Ⅰでの議論を踏まえ、教育の背景にある人間の問題に問いを進めたい。

(2)選必修科目

(3)保育・教育において体面する幼子、保護者、そして何よりも教育者をめざす自分たち自身の問題にも考察を進めたい。

**評価方法**

(1)出席を重視する  
(2)発表とレポートによる

**教科書**

授業の中で指示する

**選必 専門演習(声楽Ⅰ)**

秋 週1回 1単位

担当者：藤田 明

**講義の目標及び概要**

こどもの為に考えてあげなければならないものの一つに環境がある。そして、その環境の一部を教師や保育士自身が担っているのだということを認識していなければならない。この演習では、こどもを取り巻いている環境について学ぶこと。学生自身の感性を高めること。CDやDVD を使って音楽鑑賞をし、感動する心を豊かにすること。詩や絵本、こどもの歌、童話の朗読法等、声を使った表現力を学ぶ。また、この演習は、二年生の秋学期から始まるが、受講する学生の人数や状態によって、内容やそれぞれの項目ごとにかかる期間も異なってくるので、こまかく区切るのではなく、専門演習(声楽Ⅱ)卒業研究(声楽Ⅰ)卒業研究(声楽Ⅱ)の2年間に亘り継続して行う。

**評価方法**

出席(30%) 積極性(40%) 成果(30%)

**教科書**

茂木健一郎『感動する脳』PHP研究所



選必 専門演習(声楽Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：藤田 明				
<b>講義の目標及び概要</b>				
専門演習(声楽Ⅰ)で行ったことも取り巻く環境について、研究を更に深めていくことと、鑑賞することで音楽的感性を高めながら詩等の朗読表現のためのテクニックの育成を進めていく。その他、加えて行うことは学期の初めに説明する。				
<b>評価方法</b>				
出席日数と専門演習に対して積極的に取り組んだかどうかや成果で判断する。 出席(30%) 積極性(40%) 課題に対する成果(30%)				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習(児童教育学Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：永井 理恵子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
児童教育をとりまく課題に、歴史的視点をもってアプローチしていくゼミナールの基礎ゼミである。3、4年と上級学年に上がっても、本ゼミナールを履修する学生は一貫して、歴史的接近法を用いることを基本とする。よって、歴史に興味関心のない学生には楽しいゼミとはならないことを承認しておくこと。3、4年になると、各自の問題関心に応じた主題を選択し、それに関する歴史的視点をもって考究していくようにする。対象とする時期と地域は主として近代の日本もしくは西洋であるが、背景として更に古い時代の思想史なども取り扱う。この「専門演習(児童教育学Ⅰ)」では、上記のような歴史研究に接近する基礎力を得るために、教師のほうから課題図書を定め、それを履修者全員で読むという地味な学習を行う。担当箇所を決め、各自で読んでレジュメを作成してきて発表してもらおう活動を通し、児童教育史に関する基礎知識を習得することを目指す。				
<b>評価方法</b>				
討議への参加の姿勢を平素から採点すると共に、レジュメ内容や発表の在り方を見て総合的に判断する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習(児童教育学Ⅱ)		秋	週1回	1単位
担当者：永井 理恵子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
目標：児童教育学Ⅰで習得した乳幼児の育ちに関する基礎的学習に基づき、各自の乳幼児の育ち・育てに対する興味関心に応じて考究を始める。研究主題は、乳幼児に関する内容であれば何でも構わないが、課題意識を明確にして受講することが必要である。概要：学生各自が、それぞれの課題を見つけ、その課題に対して考察を深めていく。担当者は、各自の考察が効果的に深められていくように援助指導する。学習の主体はあくまで学生自身である。				
<b>評価方法</b>				
各自の平素の学習態度および成果。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習(造形教育論Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：喜田 敬				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1) 内容 就学前好きであった造形活動が、小学校入学後嫌いになる例が、多く報告されている。その原因として、作品に対する教師の評価や、生徒の認知発達による、他者との比較などがあげられる。では、保育現場での造形活動には、全く問題はないのか。幼児期の造形体験・造形教育の望ましい在り方とは如何なるものか。本授業では、造形教育の歴史と現状を中心にこの点を考える。 2) カリキュラム上の位置づけ 児童学科2年生の必修科目。 3) 学びの意義と目標 作者である子どもの心を知る知性と感性を身につける。				
<b>評価方法</b>				
出席状況、レポート80% ディスカッション20%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 専門演習(造形教育論Ⅱ)

春 週1回 1単位

担当者：喜田 敬

講義の目標及び概要

1) 内容

保育者は、園児の描画活動を指導すべきではない、と考える幼稚園は日本では少なくない。「これまでの教育論が、知的な領域と情的な領域に人間の心を分化し、知的教育が推進されるために情的な育成が阻害されるという二元論に立つことが多かった」(『造形表現 理論・実践編』)ことも、その理由の一つであろう。だが、「造形的な活動は単に行為とか表出とか、経験、記録のみにとどまってしまって、芸術的な感動とか思いの表現に入らないで」よいのか。

専門演習Ⅱでは、内外の造形教育の研究と実践から、保育造形の望ましい在り方を探る。

2) カリキュラム上の位置づけ

児童学科3年の必修科目。

3) 学びの意義と目標

造形教育とは何か。知識の蓄積とともに、考える習慣をみにつける。

評価方法

レポート60%、発表20%、制作20%。

教科書

プリントを配布する

選必 専門演習(音楽創造論Ⅰ)

秋 週1回 1単位

担当者：村山 順吉

講義の目標及び概要

ヒトとして生きようとする「いのち」に対し、それを支えるものとして、音楽はどのような役割りを持ち得るのか。また、その視点から、今後音楽は、どうあるべきなのだろうか。

本演習は、このようなテーマを中心に、人間と音楽の結びつきにおける基本的な学びを、実践研究等も通しながら深めていくことを、最大のねらいとしている。

評価方法

授業態度と出席状況及びレポート。

教科書

プリントを配布する

選必 専門演習(音楽創造論Ⅱ)

春 週1回 1単位

担当者：村山 順吉

講義の目標及び概要

「専門演習(音楽創造論Ⅰ)」での学びを受けて、さらにそれを深め発展させることが、最大のねらいである。

特に「専門演習(音楽創造論Ⅰ)」で経験してきた様々な実践を踏まえたうえで、各自の卒業研究に繋がるものとしての研究テーマの検討、またそれに則した創造的音楽実践のプログラムの立案が中心となる。

評価方法

授業態度と出席状況及びレポート。

教科書

授業の中で指示する

選必 専門演習(保育実践論Ⅰ)

秋 週1回 1単位

担当者：相川 徳孝

講義の目標及び概要

1. 目的

保育の基本は、小学校などの画一的な教育と違って、それぞれの幼稚園・保育所のおかれている地域や家庭の実態、乳幼児の特性などに応じて、保育を創造していくところにある。したがって、園が異なれば当然保育も異なるし、乳幼児の実態が異なれば保育も異なるといってよい。また各幼稚園、保育所ではいろいろな保育方法、保育形態で保育が実践され、その中で子どもたちは生活をしているのである。この演習ではさまざまな幼稚園・保育所で行われている保育について、多角的に見つめ、保育者として求められる役割や乳幼児に相応しい教材とはどのようなものかについて考えていく。

2. カリキュラム上の位置づけ

児童学科必修科目である。

3. 学びの意義と目標

いろいろな保育形態、保育方法について、また教材を作成していくことを目標とする。

評価方法

レポートと手作り教材の提出

教科書

授業の中で指示する

選必 専門演習(保育実践論Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者: 相川 徳孝				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 目的 本演習は、「専門演習(保育実践論Ⅰ)」の延長線上にあり、前演習を受けて、それをさらに深化、発展させることをねらいとする。				
2. カリキュラム上の位置づけ 卒業するために必修となる科目である。				
3. 学びの意義と目標 ここでは遊びの意味や理解、子どもの行動の意味を考えること、さらには保育者の援助方法について保育事例を多く取り上げながら討論を重ね、各自の保育観を構築していくことを目標としている。				
<b>評価方法</b> 演習への参加状況とレポート				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

選必 専門演習(児童福祉実践論Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者: 金谷 京子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 本演習では、子どもの発達の基礎を学習した上で、保育を必要とする乳幼児、養護に欠ける児童、心身に障害をもつ児童等さまざまな対象への支援を実践していくにはどのようにしていったらよいか文献やボランティア等の実践を通して方法論をさぐっていく。				
2. カリキュラム上の位置づけ 本演習は、卒業必修科目である。				
3. 学びの意義と目標 テーマは各自設定し、教科書を読み進めながら、受講生相互の討論のなかで、学習を深めていく。				
<b>評価方法</b> 出席状況およびレポートによって総合評価する。				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 岩川淳ほか『子どもの発達臨床心理』昭和堂				

選必 専門演習(児童福祉実践論Ⅲ)		春	週1回	1単位
担当者: 金谷 京子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
児童福祉実践論での学習をさらに発展させ、自分でテーマを絞りこんで調査研究を深めていく。 研究は文献だけにとどまらず、実際に視察や継続観察、行事の企画、インタビュー、ボランティア体験など様々な実践研究の手法を使って自分のテーマに沿った情報収集をしていく。 カリキュラムの位置づけ: 卒業必修科目である。				
<b>評価方法</b> レポート、平常点				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

選必 専門演習(応用心理Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者: 石川 由美子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
こころという問題に興味があり、こころを解き明かしたいと思う人のために、「私がいればあなたがいる」と伝えておこう。そして、人が育つあるいは発達するという環境には、「大人がいて子どもがいる」と伝えておこう。こころは、時間と空間によって変化する。変化し続ける特性をもつ。大人が子どもに向けて注ぐまなざしは、人間としての文化を何一つもって生れてはこなかった子どもに、人間として(私)として生きる「私の文化」を教授—学習する場を提供することになる。障害のある子どもという対象を通して、一人の人間が私の文化を生きるとは?ということを学習(研究も含む)するために必要な知識と技術、そして彼らとともに生きるための心構えを学ぶ。				
<b>評価方法</b> ディスカッションと発表、レポートで評価する。				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

**選必 専門演習(障害児心理Ⅱ)**

春 週1回 1単位

担当者：石川 由美子

**講義の目標及び概要**

専門演習Ⅰ(障害児心理Ⅰ)を終えた方々を対象とします。  
障害児心理研究および障害児心理研究に関わる基礎研究(発達心理学、教育心理学、等)、関心のあるテーマの先行研究の文献講読、文献管理の仕方について学ぶ。また文献から研究方法の検討、データの収集、分析方法について主体的に学んでいきます。

**評価方法**

文献講読、研究法および研究手法の学習と発表など、それぞれがまとめ発表する内容で評価します。

**教科書**

授業の中で指示する

**選必 専門演習(教育文化論Ⅰ)**

秋 週1回 1単位

担当者：寺崎 恵子

**講義の目標及び概要**

- 1 内容  
ルソー『エミール』を読み解くことを、この授業の内容とする。読み解くことは、言いかえれば、ルソーと私たちが対話することである。その対話を通じて、人間としての「生」のありようを考えて、自分自身のなかにある子ども観を確認したい。
- 2 カリキュラム上の位置づけ  
児童学科2年生を対象に開講される専門演習である。
- 3 学びの意義と目標  
ルソーは『エミール』のなかで「わたしたちは生とともに学び始める。わたしたちの教育は、わたしたちとともに始まる」と述べている。教育は、日常的なことである。そのため、ふだんあまりよく考えずに済ましてしまうことがある。それは、わたしたちが教育を通じて人間として生きていることを確認することである。この確認を、演習での学びを通じて、仲間と共有したい。

**評価方法**

ポートフォリオ評価とする。この評価方法の内容については、初回に説明する。

**教科書**

ルソー(今野一雄 訳)『エミール(上)』岩波書店(文庫)

**選必 専門演習(教育文化論Ⅱ)**

春 週1回 1単位

担当者：寺崎 恵子

**講義の目標及び概要**

- 1 内容  
遊ぶ子どもの様子が一面に収められている、ピーテル・ブリューゲルの「子どもの遊戯」(1560年)を読み解いて、遊びの多様性を研究する。参考文献を、森洋子『ブリューゲルの「子供の遊戯」』(未来社)とする。この文献から研究方法についても学ぶ。
- 2 カリキュラム上の位置づけ  
専門演習Ⅰに続いて開講される演習である。前演習の発展的研究として考えている。
- 3 学びの意義と目標  
この演習を通じて、各受講生が、基本的な研究方法を身につけたうえで、それを次の卒業研究のときに応用してゆけるようにしたい。

**評価方法**

ポートフォリオ評価を導入する。この評価について、初回時に説明する。

**教科書**

森洋子『ブリューゲルの「子供の遊戯」』未来社

**選必 専門演習(生涯学習Ⅰ)**

秋 週1回 1単位

担当者：小池 茂子

**講義の目標及び概要**

1. 内容  
2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。本演習では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。  
また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を 目指そうとしているのか、資料を収集し、それを読み、検討し合うことを通じて現代社会における人間の教育がこどもだけに留まらない生涯に亘って必要である意味とは何かについて考察する。
2. カリキュラム上の位置づけ  
児童学科の必修科目。
3. 学びの意義と目標  
生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革とそこに於ける課題などを理解する。現代社会とそこにおける問題と教育改革の流れについて、受講者が自ら関心のあるテーマを選んで掘り下げていく為の、基礎知識と研究方法の習得を目指す。

**評価方法**

出席(40%)と、平常点(60%)を踏まえ総合的に評価を行う。

**教科書**

授業の中で指示する  
鈴木眞理『学ぶこと・学ばないこと』学文社

選必 専門演習(児童文学Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：松本 祐子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(1)〈内容〉初回の授業で、各自「小中学生に勧めたい物語ベスト10」のリストを用意してくる。その中から特に1冊を選び、毎回、一人ずつ、自分の選んだ作品について分析、発表する。ディスカッションを可能にするため、受講者全員がその作品を読んできてもらう。発表とディスカッションを中心に、毎回、読書会のスタイルで授業を進める。</p> <p>(2)〈カリキュラム上の位置づけ〉卒業研究、卒業論文へと続く最初のゼミであり、最終的にきちんと研究論文を書くことができるようになるための基礎力を養う授業である。</p> <p>(3)〈学びの意義と目標〉このゼミは、主に小学校教員を目指す学生たちの国語力向上を目的とする。様々な児童文学作品を通して、母国語である日本語についての理解を深めてゆきたい。</p>				
<b>評価方法</b>				
授業時の発表40%、学期末レポート40%、平常点20%によって算出する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習(児童文学Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：松本 祐子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(1)〈内容〉小学校教科書、文学作品、新聞、インターネットなど、様々なメディアから国語的課題を見つけ出し、分析・考察しながら、母国語である日本語の理解を深めてゆく。授業の後半は、教育実習準備のため、実際に模擬授業、ブックトークなど、実践的な発表力を身につける練習をする。</p> <p>(2)〈カリキュラム上の位置づけ〉専門演習Ⅰで身につけた基礎的国語力をさらに向上させ、卒業研究、卒業論文へつなげていく授業である。</p> <p>(3)〈学びの意義と目標〉社会人としての教養と日本語力を身につけること、また、小学校教員を目指す学生たちの国語力を向上させることを目標とする。</p>				
<b>評価方法</b>				
毎回の宿題40%、模擬授業・ブックトークの発表40%、平常点20%で評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習(社会科Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：深澤 悠紀雄				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>小学校社会科指導に必要と思われる内容について、「社会科とは何か」「社会科はどうあるべきか」といった問題意識の観点に立ち、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会科の本質</li> <li>2 社会科の内容</li> <li>3 社会科学習指導論</li> <li>4 社会科の授業実践</li> <li>5 社会科の評価</li> </ol> <p>などの内容の中からメンバーの話し合いを下に適宜課題を取り上げ、研究討議しあう</p> <p>なお、1～2回は、現地学習を行う予定である。</p>				
<b>評価方法</b>				
授業賛否状況、レポート内容等を参照し総合的に評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習(社会科Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：深澤 悠紀雄				
<b>講義の目標及び概要</b>				
専門演習(社会科Ⅰ)の継続で行います。選択課題、現地学習は新たに設定します。				
<b>評価方法</b>				
「演習Ⅰ」に同じ				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

**選必 専門演習(算数Ⅰ)**

秋 週1回 1単位

担当者：佐藤 逸子

**講義の目標及び概要**

(内容)

算数の数・量の指導を中心に、子供のつまずきの原因と解決方法を探る。立体図形については、見える力を補強する。その後には数学の論理性を追求していく。

(カリキュラムの位置づけ)

教職を目指す学生を対象にする

(学びの意義と目標)

算数を教えるためには数学の知識と論理力は欠かせない。論理力の向上を目指していきたい。

**評価方法**

研究発表・レポートの内容・討論の参加度を総合して評価する。毎回の出席が前提となる。

**教科書**

授業の中で指示する

**選必 専門演習(算数Ⅱ)**

春 週1回 1単位

担当者：佐藤 逸子

**講義の目標及び概要**

専門演習(算数Ⅰ)の内容をさらに発展させて、論理的思考を深めていく。

卒業研究に向けて、学生各自の基礎力を固める。

**評価方法**

研究発表・レポート内容・討論の参加度を総合的に評価する。毎回の出席が前提となる。

**教科書**

石橋康徳『算数学』(日本評論社)

**選必 専門演習(理科Ⅱ)**

春 週1回 1単位

担当者：中村 肇男

**講義の目標及び概要**

(1) (内容)

「理科」に興味を持てるような学習を考えたい。普段から自然の姿や変化に気づく態度を身につけたい。課題研究にあたっては、実験、観察、見学および文献調査を行い、研究の結果をレポートにまとめる。また、プレゼンテーションを行い相互に討論する。春の時期、朝顔、オクラ、ホウセンカ、百日草などの栽培・観察、モンシロチョウやアゲハの成長・羽化の観察等も実施したい。

(2) (カリキュラム上の位置づけ)

学科の専門演習であると共に、将来、教職を目指すための準備教育、教科ゼミである。

(3) (学びの意義と目標)

基礎的知識を確認・向上させることは引き続き目標とする。さらに、自ら課題に応えるための内容の組み立てを設定する力、その課題を解決する態度習得を目標としたい。秋学期には教育実習にでかける。準備として指導案作成にもチャレンジしたい。

**評価方法**

出席状況・受講態度50%、レポートおよびプレゼンテーション50%

**教科書**

プリントを配布する

**選必 卒業研究(児童学Ⅰ)**

秋 週1回 1単位

担当者：田澤 薫

**講義の目標及び概要**

1. 内容

専門演習(児童学Ⅱ)の学習内容と踏まえ、さらに受講者各々の問題意識に沿って子どもをめぐる様々な主題に取り組むことで、子どもを研究の対象として捉えることの意味を考える。

2. 学びの意義と目標

子どもを軸として調べたり考えたりする際の基本的な姿勢や手法を、実際の演習を通して身につける。子どもを研究の対象として考えることの面白さ、深さ、広さを感じる。自分の問題関心を深める方法論を選んで子ども研究に取り組みながら、調べて分かったことを伝え合う楽しみを味わう。

**評価方法**

出席した上での積極的な参加(発言)20% 課題報告 30% レポート50%

**教科書**

授業の中で指示する

選必 卒業研究(児童臨床心理学Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：山田 麻有美				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1)内容 専門演習(児童臨床心理学)で習得した心理学的ないし科学的なものの見方をもとに、各自が興味関心のあるの研究分野を深め発展させていくことが目的である。具体的には、各受講生が興味関心のあるテーマを決め、そのテーマに関する文献や情報の収集を行う。この作業によって得られた文献を相互に紹介し合い、討論を重ね、各自の研究計画を作成する。				
(2)カリキュラム上の位置づけ 児童学科専門科目で、専門演習Ⅱ(児童臨床心理学)を履修した者が受講する卒業必修科目である。				
(3)学びの意義と目標 受講生は、専門演習Ⅰ及びⅡで習得した心理学的なものを用いて、自らの研究テーマを決定し、研究計画を立てていくのであるが、その過程で、将来社会人として要請される課題解決の手順や方法の基礎を身につけることができる。				
<b>評価方法</b> 各自で選んだ研究テーマの文献や情報の収集状況(60%)と、討論への参加度(30%)、出席(10%)の合計により評価する。				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

選必 卒業研究(児童臨床心理学Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：山田 麻有美				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1)内容 専門演習(児童臨床心理学)及び卒業研究Ⅰ(児童臨床心理学)において学習してきたことの集大成することを通して卒業論文作成の準備を行う。収集した文献や情報をもとに卒業研究Ⅰで立てた研究計画の検討を行い、研究を進めていく。また、研究の経過を報告と、意見交換により、各自の研究をより深めていく。				
(2)カリキュラム上の位置づけ 児童学科専門科目で、卒業研究Ⅰ(児童臨床心理学)を履修した者が受講する卒業必修科目である。				
(3)学びの意義と目標 大学4年間の学びの集大成としての卒業論文作成をめざし、準備を行うことが目標である。この過程で、受講生相互の知見がより深まり、卒業後、社会人として要請される課題解決の手順や方法を身につけることができる。				
<b>評価方法</b> 具体的な研究計画の内容および研究の進捗状況(60%)と、討論への参加度(30%)、出席(15%)の合計により評価する。				
<b>教科書</b> 授業の中で指示する				

選必 卒業研究(日本教育史Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：石津 靖大				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1・内容 本年度の演習は、履修生全員が小学校での教育実習を実施するので、それと有機的に関連する内容に取り組む。これまでに取り組んできた演習と諸々の専門学習を点検し、共同研究を重ねながら各々の実習課題を把握する。平行して必要な資料や教材を準備し、課題へ向っての対策を実践的に立てる。実習終了後は従来の専門演習の研究を継続してゆく。したがってその主たる内容は、小学校教員採用試験における教職教養と専門教養の傾向対策の研究となる。				
2. カリキュラム上の位置づけ 教育実習ならびに教職研究との関連に留意するところの学科の専門科目としての演習である。				
3. 学びの意義と目標 主たる目標は、小学校教諭に成るための基礎的な知識の傾向と対策を研究して、教師としての肝どころをより明確に把握することにある。				
<b>評価方法</b> 平常点(出席、発表ならびに討議、態度に基づき総合的に判断)にて評価する。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

選必 卒業研究(日本教育史Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：石津 靖大				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1・内容 本年度の演習は、履修生全員が小学校での教育実習を実施するので、それと有機的に関連する内容に取り組む。これまでに取り組んできた演習と諸々の専門学習を点検し、共同研究を重ねながら各々の実習課題を把握する。平行して必要な資料や教材を準備し、課題へ向っての対策を実践的に立てる。実習終了後は従来の専門演習の研究を継続してゆく。したがってその主たる内容は、小学校教員採用試験における教職教養と専門教養の傾向対策の研究となる。				
2. カリキュラム上の位置づけ 教育実習ならびに教職研究との関連に留意するところの学科の専門科目としての演習である。				
3. 学びの意義と目標 主たる目標は、小学校教諭に成るための基礎的な知識の傾向と対策を研究して、教師としての肝どころをより				
<b>評価方法</b> 平常点(出席、発表ならびに討議、態度に基づき総合的に判断)にて評価する。				
<b>教科書</b> プリントを配布する				

**選必 卒業研究(声楽Ⅰ)**

秋 週1回 1単位

担当者：藤田 明

**講義の目標及び概要**

『声』について、少し専門的なことを学びながら、専門演習で養ってきた、声を使った表現のためのテクニックや音楽的感覚を更に伸ばすことを主として行う。

**評価方法**

出席 (30%) 積極性 (40%) 課題に対する成果 (30%)

**教科書**

授業の中で指示する

**選必 卒業研究(声楽Ⅱ)**

春 週1回 1単位

担当者：藤田 明

**講義の目標及び概要**

DVDで、「声の発育」を参考にしながら、声について学ぶことと、専門演習(声楽Ⅰ・Ⅱ)卒業研究(声楽Ⅰ)で行ってきた、こどもの歌の歌唱、絵本や詩の朗読、童話から学生一人一人が好きなものを選び、発表することを目的とする。

**評価方法**

出席 (30%) 積極性 (40%) 課題に対する成果 (30%)

**教科書**

授業の中で指示する

**選必 卒業研究(児童教育学Ⅱ)**

秋 週1回 1単位

担当者：永井 理恵子

**講義の目標及び概要**

卒業研究Ⅰで進めてきた各自の基礎的学修をもとに、先行研究の結果を学ぶだけでなく、各自なりの結論を述べられるようにする。特に卒業研究Ⅱでは、アンケートや調査を通してオリジナルな結果の確証を求め、最終的に1月末にゼミ報告を作成する。

**評価方法**

平常の学習態度と意欲、およびゼミ終了期の報告書の成果などを総合して評価する。

**教科書**

授業の中で指示する

**選必 卒業研究(造形教育論Ⅰ)**

秋 週1回 1単位

担当者：喜田 敬

**講義の目標及び概要**

- 1) 内容  
卒業制作と卒業研究レポート執筆に向けた個人制作、個人研究を進める。「卒業研究Ⅱ」において作品制作を行う場合には、図画工作が児童教育の現場においてどのような意味を持ち得るか、教育的な効果等を踏まえ説明できるようにする。卒業研究レポートの執筆を考えている場合は、児童教育における図画工作の役割や可能性について、諸資料を収集、検討する。いずれの場合においても、本「卒業研究Ⅰ」において個人の制作準備調査、資料収集の経過報告を個人発表のかたちで行う。
- 2) カリキュラム上の位置づけ  
児童学科3年生の必修科目である。
- 3) 学びの意義と目標  
卒業研究レポート執筆ないしは卒業制作に向けた資料収集、調査(試作品制作等を含む)を進め、「卒業研究Ⅱ」の準備を行うことを目標とする。

**評価方法**

出席状況・個人発表40%  
研究経過報告レポート60%

**教科書**

プリントを配布する



選必 卒業研究(造形教育論Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：喜田 敬				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1) 内容 本授業では、卒業制作と卒業研究レポートのうちの一つを選んで完成させる。定期的に研究、制作の経過報告を行う。また、制作を選択した受講者は、作品の教育的効果等に関する説明文書を作品に添付することが期待される。				
2) カリキュラム上の位置づけ 児童学科4年生の必修科目である。				
3) 学びの意義と目標 卒業研究ないしは卒業制作の完成させることで、独自の視点から児童教育に造形教育が果たす役割について考えることを目標としている。				
<b>評価方法</b>				
出席状況 20% 個人発表 20% 卒業制作作品ないしは卒業研究レポート 60%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 卒業研究(音楽創造論Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：村山 順吉				
<b>講義の目標及び概要</b>				
「専門演習(音楽創造論Ⅰ・Ⅱ)」での学びのうえに、さらにそれを深め発展させながら各自の研究課題を設定することが、ねらいである。				
特に「専門演習(音楽創造論Ⅱ)」で立案したプログラムの実践を行いながら、個別或いはテーマに則したいくつかのグループごとに経過の報告と発表、検討を重ねながら進める。				
<b>評価方法</b>				
研究課題設定に向けての取り組みの姿勢。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 卒業研究(音楽創造論Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：村山 順吉				
<b>講義の目標及び概要</b>				
「卒業研究(音楽創造論Ⅰ)」で設定したテーマに則して行ってきた研究をまとめ、それを、小論文・卒業演奏・卒業作品のいずれかで発表する。卒業演奏・卒業作品を選択した場合でも、それに至った過程をレポートにまとめ、提出すること。				
<b>評価方法</b>				
テーマに取り組んだ姿勢と発表による。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 卒業研究(保育実践論Ⅱ)		秋	週1回	1単位
担当者：相川 徳孝				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 目的 「卒業研究」は「専門演習(保育実践論Ⅰ、Ⅱ)」の延長線上にあり、いままで学んできたことを基に各自が研究テーマを決め、集大成することを目指すものである。そのために演習を通して提出されたレポートをそれぞれが個別に検討するとともに、全員での討論材料として提供し、互に討論し合いながら授業進めていく。				
2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科必修科目である。				
3. 学びの意義と目標 各自の子どもや保育に対する興味から自己課題、研究方法について見出すことを目標とする。				
<b>評価方法</b>				
演習への参加とレポート				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

**選必 卒業研究(保育実務論Ⅱ)**

春 週1回 1単位

担当者：相川 徳孝

**講義の目標及び概要**

## 1. 目的

いままで行ってきたことを基に各自が研究テーマを決め、集大成することを目指すものである。そのために演習を通して提出されたレポートをそれぞれが個別的に検討するとともに、全員での討論材料として提供し、互いに討論し合いながら授業を進めていく。

## 2. カリキュラム上の位置づけ

児童学科必修の課目である。

## 3. 学びの意義と目標

多角的な角度から子どもを見つめ、保育者として必要な実践力を養うことを目標とする。

**評価方法**

授業態度、レポート、出席状況により評価する。

**教科書**

授業の中で指示する

**選必 卒業研究(児童福祉実務論Ⅰ)**

秋 週1回 1単位

担当者：金谷 京子

**講義の目標及び概要**

今までの演習で情報集した結果を論文にまとまていきながら、実践研究意義を学ぶ。

研究発表も課題となる。

カリキュラムの位置づけ：卒業必修科目である。

**評価方法**

論文の作成

**教科書**

授業の中で指示する

**選必 卒業研究(児童福祉実務論Ⅱ)**

春 週1回 1単位

担当者：金谷 京子

**講義の目標及び概要**

今までの演習で情報集した結果を論文にまとまていきながら、実践研究の意義を学び、論文を発表しながら、研究の妥当性について検討していく。

研究成果の発表も課題となる。

カリキュラムの位置づけ：卒業必修科目である。

**評価方法**

出席状況と論文の執筆内容を評価

**教科書**

授業の中で指示する

**選必 卒業研究(障害児心理Ⅰ)**

秋 週1回 1単位

担当者：石川 由美子

**講義の目標及び概要**

専門演習Ⅱ(障害児心理Ⅱ)を終了した方の受講となります。

専門演習Ⅱで関心のあるテーマを見つけ出した方たちが、実際に研究デザインについて学び、自らのデザインを作成、発表、修正する過程を学んで行きます。

一緒に学び合ってきた仲間と時には協力し合いながら、それでもここからは自分の力をたよりに進んで行く道なのです。研究という学びを通して子ども(障害を含む)と関わる仕事の奥深さと魅力を体験してほしいと思います。

**評価方法**

デザインの作成、発表、修正を評価の対象とします。

**教科書**

授業の中で指示する

選必 卒業研究(教育文化論Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：寺崎 恵子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1 内容 各受講生が、研究テーマを設定して研究を深める。テーマ設定の方法、研究方法、研究成果のまとめ方を身につけることをねらいとしている。また、研究仲間とのかかわりあい研究を進めるには不可欠であることを確認する。				
2 カリキュラム上の位置づけ 卒業研究の前期プロセスとして考えている。				
3 学びの意義と目標 各自、研究テーマを追究してゆける力を身につける。研究は決して独りよがり成り立つものではないことを互いに皆で確認して大切にしていきたい。				
<b>評価方法</b>				
ポートフォリオ評価とする。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(教育文化論Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：寺崎 恵子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1 内容 各受講生が設定したテーマについて、研究を深める。				
2 カリキュラム上の位置づけ 卒業研究(教育文化論Ⅰ)に引き続いて、児童学科4年生に開講されるものである。				
3 学びの意義と目標 自分の世界を構築するには、他者の意見が不可欠である。仲間と共に学ぶことを大切にしたい。				
<b>評価方法</b>				
各回に提出する研究状況の報告(5点×13回=65点)と発表(15点+20点)とをあわせて評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(児童文学Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：松本 祐子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1)〈内容〉このゼミは、毎回のテーマに合った作品を各自が持ち寄り、ディスカッションを行う形で授業を進める。				
(2)〈カリキュラム上の位置づけ〉専門演習ⅠとⅡで身につけた国語力をさらに向上させ、卒業研究としてまとめる準備をするためのゼミである。				
(3)〈学びの意義と目標〉様々な児童文学を通して、日本語の豊かな語彙・運用力を身につけ、教員を目指す社会人として、自分の考えを自分の言葉で発表できるようになることを目標とする。				
<b>評価方法</b>				
毎回の発表40%、レポート40%、卒業研究レジュメ20%で評価する。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 卒業研究(児童文学Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：松本 祐子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1)〈内容〉これまでの学習の集大成として、それぞれの研究テーマを論文にまとめる。授業は、それぞれの論文作成の経過報告とディスカッションで進められる。				
(2)〈カリキュラム上の位置づけ〉専門演習ⅠとⅡ、卒業研究Ⅰで身につけた国語力を卒業研究レポートとして形にするためのゼミ。また、卒業論文作成の準備となるゼミ。				
(3)〈学びの意義と目標〉教員を目指す社会人として、自分自身の考えを的確な表現力で文章化する力を身につけることを目標とする。				
<b>評価方法</b>				
口頭発表30%、卒業研究レポート50%、平常点20%で評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

**選必 卒業研究(社会科Ⅰ)**

秋 週1回 1単位

担当者：深澤 悠紀雄

**講義の目標及び概要**

地理的分野、歴史的分野、公民的分野など広く社会科教育に関係する事象の中から、自分の研究したい題材項目を1つ選び、調査研究し、卒業研究としてまとめる準備をする。  
現地研修を取り入れて調査研究のあり方を考える。

**評価方法**

参加状況と調査活動、レポートの内容などにより総合的に評価します。

**教科書**

授業の中で指示する

**選必 卒業研究(社会科Ⅱ)**

春 週1回 1単位

担当者：深澤 悠紀雄

**講義の目標及び概要**

卒業演習(社会Ⅰ)の続きとして、調査研究を継続し、卒業研究(卒業論文)として仕上げる。  
現地学習(1)(2)は、土曜か日曜に振り替えて実施予定です。

**評価方法**

参加状況、調査研究の結果に基づいて総合的に評価します。

**教科書**

授業の中で指示する

**選必 卒業研究(算数Ⅰ)**

秋 週1回 1単位

担当者：佐藤 逸子

**講義の目標及び概要**

数学的背景を理解し、数学的に見通しをもって算数を指導し、子供たちの考える力・態度を育成し、子供たちの豊かな発想を引き出すことができることが、教員としての力量となる。培ってきた算数力をさらに深めて、具現化を目指していく。

**評価方法**

研究への態度およびレポートの内容を総合して評価する。毎回の出席が前提となる。

**教科書**

授業の中で指示する

**選必 卒業研究(算数Ⅱ)**

春 週1回 1単位

担当者：佐藤 逸子

**講義の目標及び概要**

卒業研究(算数Ⅰ)をさらに発展させて、学生各自の研究の焦点を絞って、算数科のオリジナル教材を開発することを目標にする。

**評価方法**

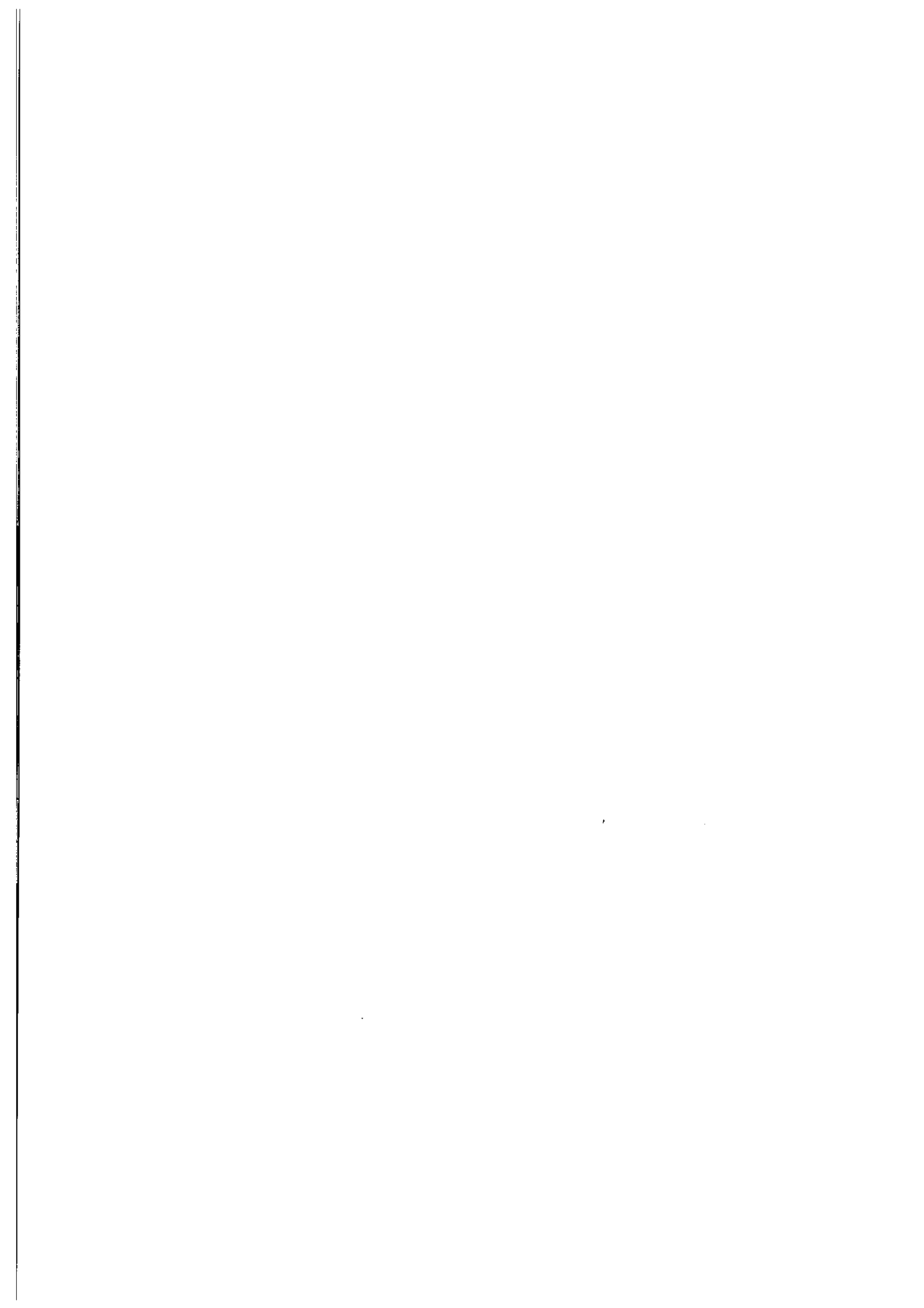
研究への態度・研究発表やレポートの内容を総合して評価する。

**教科書**

授業の中で指示する

選必 卒業研究(理科Ⅰ)		秋	週1回	1単位
担当者：中村 肇男				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(1)内容 各自2～3のテーマを設定して、実験・観察・見学および文献調査を行い、その成果をレポートにまとめるとともに、発表・討論を行い、さらに発展させる。テーマの設定にあたっては小学校学習指導要領や小学校教科書を参考にする。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 小学校教職課程履修者の教科ゼミ「理科」であるとともに、学科の卒業研究でもある。</p> <p>(3)学びの意義と目標 卒業研究Ⅰでは、不得意分野の克服を目標にしたい。不得意分野が得意分野に転換できれば、将来、教職に就いた場合に、その経験は生かせる。卒業研究Ⅱでは、得意分野を、さらに深めることを目標としたい。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席状況・受講態度50%、レポートおよびプレゼンテーション50%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

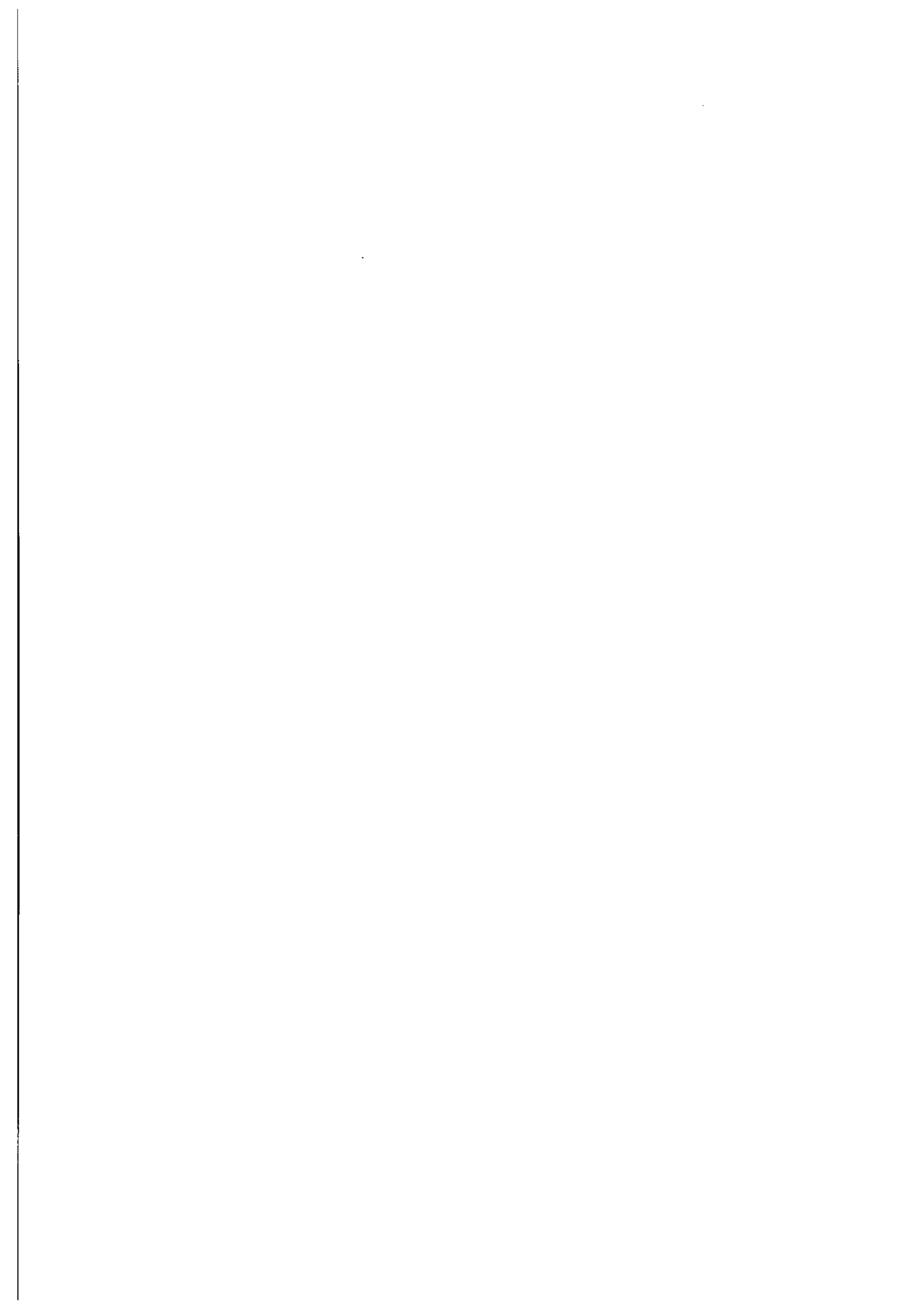
選必 卒業研究(理科Ⅱ)		春	週1回	1単位
担当者：中村 肇男				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1)内容 各自、テーマを設定して、実験・観察・見学および文献調査を行い、その成果をレポートにまとめるとともに、発表・討論を行って、さらに発展させる。テーマの設定にあたっては小学校学習指導要領や小学校教科書を参考にする。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 小学校教職課程履修者の教科ゼミ「理科」であるとともに、学科の卒業研究でもある。</p> <p>(3)学びの意義と目標 卒業研究Ⅱでは、得意分野を、関連分野も含めて、さらに深めることを目標としたい。得意分野を持つことは、将来、教職に就いた場合の自信にもなる。卒業研究レポートにまとめられればよいと思う。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席状況・受講態度50%、レポートおよびプレゼンテーション50%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				



## 専門科目

## 科目一覽

人間福祉総論	社会福祉援助技術演習 D	卒業演習(カウンセリング論)
社会福祉原論	精神保健福祉演習	卒業演習(人間関係論)
キリスト教人間学 A	精神保健福祉援助演習	卒業演習(精神保健福祉論)
キリスト教人間学 B	社会福祉学特講	卒業演習(ソーシャルワーク論)
死生学	社会福祉援助技術現場実習指導 I	社会福祉援助実習
生命倫理学	社会福祉援助技術現場実習指導 II	介護実習
心理学	社会福祉援助技術現場実習	
社会学	精神保健福祉援助実習	
法学	専門演習(児童福祉論) I	
医学概論	専門演習(児童福祉論) II	
統計学	専門演習(子ども家庭論) I	
社会調査法	専門演習(子ども家庭論) II	
地域社会論	専門演習(高齢者福祉論) I	
ボランティア論	専門演習(高齢者福祉論) II	
医療英語 A	専門演習(障害者福祉論) I	
医療英語 B	専門演習(障害者福祉論) II	
衛生学入門	専門演習(福祉環境論) I	
環境衛生学	専門演習(福祉環境論) II	
公衆衛生学	専門演習(地域福祉論) II	
環境政策論	専門演習(レクリエーション論) I	
環境保全論	専門演習(レクリエーション論) II	
福祉環境論	専門演習(カウンセリング論) I	
福祉住環境論	専門演習(カウンセリング論) II	
生命・栄養科学	専門演習(人間関係論) I	
健康教育	専門演習(人間関係論) II	
レクリエーション論	専門演習(精神保健福祉論) I	
社会老年学	専門演習(精神保健福祉論) II	
リハビリテーション論	専門演習(ソーシャルワーク論) I	
精神医学	専門演習(ソーシャルワーク論) II	
精神科リハビリテーション学	専門演習(福祉倫理) I	
スピリチュアルケア論	専門演習(福祉倫理) II	
子どもの遊びと発達	卒業研究(児童福祉論) I	
発達心理学 A	卒業研究(児童福祉論) II	
発達心理学 B	卒業研究(子ども家庭論) I	
教育心理学	卒業研究(子ども家庭論) II	
社会心理学	卒業研究(高齢者福祉論) I	
コミュニティ心理学	卒業研究(高齢者福祉論) II	
異常心理学	卒業研究(障害者福祉論) I	
心理学研究法	卒業研究(障害者福祉論) II	
臨床心理学	卒業研究(衛生学・公衆衛生学) II	
カウンセリング論	卒業研究(福祉環境論) I	
精神保健学	卒業研究(福祉環境論) II	
心理学実験実習 A	卒業研究(地域福祉論) I	
心理学実験実習 B	卒業研究(地域福祉論) II	
相談援助の基盤と専門職	卒業研究(レクリエーション論) I	
社会福祉援助技術論 A	卒業研究(レクリエーション論) II	
社会福祉援助技術論 B	卒業研究(カウンセリング論) I	
児童福祉論	卒業研究(カウンセリング論) II	
高齢者福祉論	卒業研究(人間関係論) I	
障害者福祉論	卒業研究(人間関係論) II	
地域福祉論	卒業研究(精神保健福祉論) I	
精神保健福祉論	卒業研究(精神保健福祉論) II	
ソーシャルワーク論	卒業研究(ソーシャルワーク論) I	
精神保健福祉援助技術各論	卒業研究(ソーシャルワーク論) II	
介護概論	卒業研究(福祉倫理) I	
介護技術	卒業演習(児童福祉論)	
社会福祉運営管理論	卒業演習(子ども家庭論)	
社会調査の基礎	卒業演習(高齢者福祉論)	
福祉行財政と福祉計画	卒業演習(障害者福祉論)	
保健医療サービス	卒業演習(衛生学・公衆衛生学)	
就労支援サービス	卒業演習(福祉環境論)	
社会福祉援助技術演習 A	卒業演習(地域福祉論)	
社会福祉援助技術演習 C	卒業演習(レクリエーション論)	





<b>必修</b> 人間福祉総論	春 週2回 4単位
担当者：助川 征雄	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>〈内容〉最初に人間福祉学を念頭に置きながら福祉学の概要を学ぶ。続いて本学科の専任教員が順次登壇して、それぞれの専門領域の入門的な講義を行う。受講者は、それらの講義の中から、興味と関心のあるテーマもしくは領域を見出すよう期待される。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉入学した学生諸君に、学科の教育概要と方向性を明らかにするとともに、4年間の大学生活を通して学習・研究すべき課題に出会う機会をオムニバス方式の講義編成により提供しようとする。</p> <p>〈学びの意義と目標〉本学の人間福祉学科は、幅広い教養と福祉文化を身につけ、「神を仰ぎ、人に仕う」福祉人を養成し、社会のあらゆる領域で、福祉社会の担い手として活躍してもらうことを目的としている。そのため学習・研究課題は多岐にわたり、各人の明確な問題意識と主体的な取り組みが期待される。従って、本講義においては、人間福祉の全体にわたる概括的な学びと同時に、学生諸君個々が自らの興味に沿って焦点を絞り課題を見出して行くことを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席を重視し、30%は出席点とする。残りの70%は最終レポートによる評価とする。なお、最終レポートの提出には、コンピュータ・システムを使用することになるので、コンピュータ在宅学習の徹底を不可欠とする。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>必修</b> 社会福祉原論	秋 週2回 4単位
担当者：牛津 信忠	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。</li> <li>・福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。</li> <li>・福祉政策におけるニーズと資源について理解する。</li> <li>・福祉政策の課題について理解する。</li> <li>・福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。</li> <li>・福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。</li> <li>・相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。</li> </ul>	
<b>評価方法</b>	
授業中に行う小テスト（3週に一度程度）の成績と学期末の論文形式のテスト成績を主材料として評価を行う。これに加え、授業への参加意欲、質問・提言による貢献度をも参考にする。	
<b>教科書</b>	
牛津信忠他編著『現代福祉論』黎明書房	

<b>必修</b> キリスト教人間学A	秋 週1回 2単位
担当者：左近 豊	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的 「人間とは何か？」という問いについて聖書の人間理解を踏まえて考察する。特に聖書に記された神と人のドラマを題材に、現代社会において「人間とは何か？」を新たに問うことを目的とする。</li> <li>2. カリキュラム上の位置づけ この科目は、人間福祉学部3年次に必修として課せられる、本学の特徴であるキリスト教科目の一つである。</li> <li>3. 学びの意義と目標 キリスト教の人間学の特質とその意義を、とくに聖書の人間観を通して理解する。それにかかわる用語や概念の意味を理解すること。それを現代に生きる人間とりわけ自分自身にとってどのような意味があるかを考えること。また、自分自身の生き方の模索に役立てること。</li> </ol>	
<b>評価方法</b>	
出席・授業参加 30% 礼拝出席レポート20% 期末レポート 50%	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>必修</b> キリスト教人間学B	春 週1回 2単位
担当者：左近 豊	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的 「人間とは何か？」という問いについて聖書の人間理解を踏まえて考察する。特に聖書に記された神と人のドラマを題材に、現代社会において「人間とは何か？」を新たに問うことを目的とする。</li> <li>2. カリキュラム上の位置づけ この科目は、人間福祉学部3年次に必修として課せられる、本学の特徴であるキリスト教科目の一つである。</li> <li>3. 学びの意義と目標 キリスト教の人間学の特質とその意義を、とくに聖書の人間観を通して理解する。それにかかわる用語や概念の意味を理解すること。それを現代に生きる人間とりわけ自分自身にとってどのような意味があるかを考えること。また、自分自身の生き方の模索に役立てること。</li> </ol>	
<b>評価方法</b>	
出席・授業参加 30% 期末試験 50% 礼拝出席レポート20%	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>選択 死生学</b>	<b>秋 週1回 2単位</b>
担当者：横澤 義夫	
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容：死生学はまだ歴史の浅い領域ですが、ターミナル・ケアの問題などから必然的に生まれた現代的課題そのものです。現代日本人は社会機構や日常生活のパターンに至るまでヨーロッパ化された環境の中で生きていますし、医療技術の発展とともに旧来の生命観や死の観念では対処できない状況に立たされています。そこでこの講義では、ヨーロッパの伝統的な生命観から生と死の問題に入ってゆきます。そこから現代日本人の死生観の混迷に少しでも明かりをあててみます。 (2)カリキュラム上の位置づけ：死と生という問いは医療と生命科学にも当然関係してきますから、生命倫理学とも共通する課題です。共通基本科目のひとつとして、信仰を含めた人間福祉の対象である生命の意味の理解を目標にします。 (3)学びの意義と目標：現代では戦国の侘茶はもう成り立たないともいわれます。明日は知れぬ一期一会の中で生死を決しなければならなかった人たちの、その死生学そのものが侘茶でした。しかし現代でもわたしたちは突然に脳死状態の家族をもったり、自身が死への告知を受けたりします。これに対処すべく、わたしたち自身の生と死の意味を打ち建て、生死を自身で自身のために決定できる死生観を探ってみたいのです。	
<b>評価方法</b> 1回のレポート(80%)および出席率(20%)をあわせて総合評価します。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選択 生命倫理学</b>	<b>春集中 2単位</b>
担当者：香川 知晶	
<b>講義の目標及び概要</b> 生命倫理学が登場してきた過程を追いながら、様々な問題を取り上げ、問題の背景、多様な立場や意見について考えていく。それによって、現代の私たちの生命をめぐる状況を広く理解し、各人が自分なりに意見を持てるようにすることを目標とする。講義はスライド(PowerPoint)を使用し、映像資料も随時利用する。	
<b>評価方法</b> 試験60%、出席25%、小テスト15%	
<b>教科書</b> 香川知晶『命は誰のものか』ディスカヴァー・トゥエンティワン	

<b>選必 心理学</b>	<b>春 週2回 4単位</b>
担当者：小山 義徳	
<b>講義の目標及び概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。</li> <li>・人の成長・発達と心理との関係について理解する。</li> <li>・日常生活と心の健康との関係について理解する。</li> <li>・心理的支援の方法と実際について理解する。</li> </ul>	
<b>評価方法</b> 数回の小テストまたはレポートと、期末試験により評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選必 社会学</b>	<b>春 週2回 4単位</b>
担当者：阿部 英之助	
<b>講義の目標及び概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会理論による現代社会の捉え方を理解する。</li> <li>・生活について理解する。</li> <li>・人と社会の関係について理解する。</li> <li>・社会問題について理解する。</li> </ul>	
<b>評価方法</b> 評価は、出席(30点)、授業内レポート(20点)、学期末試験(50点)の合計100点によって、総合的な評価をします。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座 社会学』中央法規出版	

<b>選必 法学</b>	<b>秋</b>	<b>週2回</b>	<b>4単位</b>
担当者：松村 芳明			
<b>講義の目標及び概要</b> ・社会生活における法の作用や役割について理解する。 ・憲法、民法及び行政法の基礎を理解する。 ・基本的人権、権利擁護、成年後見制度等社会福祉士に必要な内容について理解する。			
<b>評価方法</b> 宿題（5割）と試験（5割）によって評価する。			
<b>教科書</b> 笠井正俊ほか編『岩波セレクト六法』岩波書店 末川博（編）『法学入門 第6版』有斐閣			

<b>選択 医学概論</b>	<b>秋</b>	<b>週1回</b>	<b>2単位</b>
担当者：齋 今			
<b>講義の目標及び概要</b> ・心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 ・国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。 ・リハビリテーションの概要について理解する。			
<b>評価方法</b> 1. 教員による講義のみではなく、ディスカッションや学生によるプレゼンテーションを取組んだワークショップも実施する。 2. 通常講義出席、WS出席&レポート60% 3. 期末レポート40%			
<b>教科書</b> プリントを配布する 福祉士養成講座編集委員会『新版 社会福祉士養成講座（13）医学一般 第4版』中央法規出版			

<b>選択 統計学</b>	<b>春</b>	<b>週2回</b>	<b>4単位</b>
担当者：松原 望			
<b>講義の目標及び概要</b> 統計学はむずかしくありません。私たちの日常生活を通して学ぶことでよりおもしろい知的世界が広がります。今の「社会」を生き抜くために必要な統計学の基礎的知識と見方を学んでいきましょう。就職に役立つワード・エクセルの操作も扱います。初心者はだれでも歓迎しますし、数学的知識も不要です。			
<b>評価方法</b> 出席点50%、期末テスト50%			
<b>教科書</b> 松原望『わかりやすい統計学』丸善 松原望『統計学100のキーワード』弘文堂			

<b>選択 社会調査法</b>	<b>秋</b>	<b>週2回</b>	<b>4単位</b>
担当者：古谷野 亘			
<b>講義の目標及び概要</b> 調査は、人間の意識や行動、社会現象に内在する法則性を発見するために用いられる社会科学の研究方法である。この講義の前半では、社会調査を行うにあたって必要な技術の説明と同時に、社会科学研究方法としての調査の意義と限界について論じる。後半では、履修者の関心に応じて調査票作成・データ分析の演習を行う。			
<b>評価方法</b> 筆記試験（50%）とレポート（50%）に授業への参加度を加味して総合的に評価する。レポートはオンライン・レポート提出システムにより送信しなければならない。			
<b>教科書</b> 古谷野亘・長田久雄『実証研究の手引き：調査と実験の進め方・まとめ方』ワールドプランニング			

選択 地域社会論	秋	週2回	4単位
担当者：大高 研道			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 生活の個別化に伴って地縁的な共同関係（むら社会）の解体が進む現代社会では、地域内の人間関係が希薄化し、地域社会の衰退・崩壊が叫ばれている。その一方で、災害時や高齢化社会への対応、さらには子どもへの犯罪にかかわる防犯対策等を考える際のキーワードとして「地域社会/コミュニティ」の重要性が叫ばれるのも現代の特徴のひとつである。本講義では、まずグローバル化する現代社会において噴出している労働問題・生活問題の現実を時事問題等を取り上げながら明らかにし、その上で、「現代的協同（人とつながる形）」という側面から、地域社会の変貌と未来について考えてみたい。			
2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の共通専門科目である。			
3. 学びの意義と目標 本講義では、「不安社会」や「リスク社会」と呼ばれる現代において失われつつある他者との関係性や人間性を回復させる契としてあらためて注目されている「地域（コミュニティ）」の現代的意味を検討することが最大の目的となる。			
<b>評価方法</b>			
・試験100%。 ・出席点について：毎回の出席が大前提となる。それゆえ、出席したからといって成績に出席点が増加されることはない。ただし、欠席は減点の対象となる。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 ボランティア論	秋	週1回	2単位
担当者：大島 隆代			
<b>講義の目標及び概要</b>			
〈内容・学びの意義〉 ボランティアを論じることは、皆さんが「走る」「生活する」「愛する」ことを論じるぐらいに多様であり曖昧であり、そして自由でもあります。そして、実際にボランティア活動をすること（「これはボランティア活動に違いない」と自分が思っていることでも可）の中で出会った「ヒト」「キモチ」「ジッター（見えないものも含む）」など様々なことが、ボランティアを考える上で大きなエッセンスにもなります。そのような前提のうえで、「ボランティア」について柔軟に多角的に考え、また時には逆説的に、そして少し懐疑的にも考えてみる作業をしていきます。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 本講義は人間福祉学科での科目ですから、受講する皆さんが今後「ボランティア」に触れた時に、少なからず「ボランティア論」を学んだことが活きるよう、実践的なものを身につける工夫（ゲストスピーカー、ワーク）もしていきます。			
<b>評価方法</b>			
出席状況（50%）、授業後の振り返りシートおよび課題レポート（50%）で評価する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 医療英語A	春	週1回	2単位
担当者：森 容子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 今日のグローバル社会にあつては、海外で病気になったり、病院で外人患者の手助けが必要になったり、日常生活の中で英語が必要になる場合が増えつつある。本授業では、実生活で役に立つ医療英語に焦点をあて、楽しく授業を進めていくつもりである。			
2. カリキュラム上の位置づけ 入門的な位置づけであり、基礎レベルの医療英語を学ぶ。病院や医療に関心のある人、海外旅行をよくする人、医療機関でアルバイトや就職をしようと考えている人に向いている。			
3. 学びの意義と目標 病名、症状、診療科名、体の名称等、医療に関する英語の語彙力をつけると同時に、病院などで必要とされる英会話を習得。学習した英会話は、医療の現場だけではなく、海外で病気になったとき、街角で外人から道を聞かれたときなど日常生活の中でも大いに役立つ。			
<b>評価方法</b>			
出席を含める授業参加度（25%）、ペアーワーク（25%）、宿題（25%）、小テスト（25%）で総合評価する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 医療英語B	秋	週1回	2単位
担当者：森 容子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 授業の進め方は基本的に医療英語Aに準ずるが、医療英語Bでは医療英語Aで学習した知識や情報をさらに拡大し、応用面や会話面に重点をおきたい。病院で実際に使われている会話を映像を通して確認したり、ロールプレイなどを通して確実なものとしていく			
2. カリキュラム上の位置づけ 「医療英語A」を基礎に、「医療英語B」では、さらに英語力、知識の補強をめざす。「医療英語A」の授業を受けた人に引き続き本授業を受講してもらいたい。日常生活の中で役に立つ医療英語を身につけたい人や医療英語に関心のある人なら誰でも歓迎する。			
3. 学びの意義と目標 医療に関する英語の語彙力をつけると共に、病院などで必要とされる英会話を学ぶ。			
<b>評価方法</b>			
出席を含める授業参加度（25%）、ペアーワーク（25%）、宿題（25%）、小テスト（25%）で総合評価する。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 衛生学入門	春	週2回	4単位
担当者：大江 敏江			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1 内容 衛生学は疾病を予防し、健康の保持、増進を目標としている。平均寿命の大幅な伸長は医療の進歩よりも衛生環境の整備、栄養の改善、貧困からの脱却に負うところが大きい。 本講では、上下水道、感染症、室内環境、食中毒、国民栄養、生活習慣病など身の回りの問題を取り上げ、健康と環境の関係について学ぶ。			
2 カリキュラム上の位置づけ 衛生学は社会福祉士国家試験科目「医学一般」の一部でもある。将来保健医療関係者との連携をはかるうえで、基礎となるものである。			
3 学びの意義と目標 衛生学が「保健」の領域全般に関与し、医療・福祉との関連が深いことを理解する。そして2年次以降の「公衆衛生学」および「環境衛生学」への発展の基礎とする。 (教科書は「衛生学入門」、「公衆衛生学」、「環境衛生学」共通である)。			
<b>評価方法</b>			
(1)出席・受講態度(含座席位置)20%、 (2)授業中の小テスト20%、 (3)中間テスト30%、 (4)期末テスト30%、によって評価する。 受講態度が悪いと単位習得はできない。			
<b>教科書</b>			
鈴木庄亮、久道 茂編集『シンプル衛生公衆衛生学』南江堂			

選択 環境衛生学	秋	週1回	2単位
担当者：中村 啓男			
<b>講義の目標及び概要</b>			
(1)〈内容〉 水・空気・食品・土壌・日光・住居など、われわれの周囲の環境と健康との関連について考える。環境汚染・公害および地球環境問題についても言及したい。			
(2)〈カリキュラム上の位置づけ〉 「衛生学入門」、「公衆衛生学」、「環境衛生学」は一連の講義として、生命・健康・環境分野を学ぼうとする者が基本的知識と考え方を習得することを目標としている。社会福祉士国家試験の医学一般の基礎知識にもなる。講義は「衛生学入門」を履修していることを前提として進めるが、重要な基礎的知識は復習する。衛生学入門未履修者は、教科書で自習しながら受講してほしい。(教科書は「衛生学入門」、「公衆衛生学」と共通)			
(3)〈学びの意義と目標〉 疾病の最大原因は貧困である。この事実は現代でも変わっていない。貧困→不衛生→疾病→貧困の「悪循環」を理解することは、福祉を学ぶ基礎となる。近年問題となっている、食中毒、熱中症、紫外線と健康、環境汚染・公害、地球環境問題等についてもふれる。感染症の流行と環境の意外な関係なども理解することも目的としたい。			
<b>評価方法</b>			
1) 出席20% 2) 授業中態度(座席順を含む)20% 3) 毎回小テスト30%、4) 期末テスト30%			
<b>教科書</b>			
鈴木庄亮・久道茂『シンプル衛生公衆衛生学』南江堂			

選択 公衆衛生学	春	週1回	2単位
担当者：中村 啓男			
<b>講義の目標及び概要</b>			
(1)〈内容〉 公衆衛生学は広い領域を含むが、本科目では、健康の定義、健康指標、予防医学の概念、保健衛生統計、感染症予防、疫学、成人保健(生活習慣病とその予防)、衛生行政等の範囲を対象にする。			
(2)〈カリキュラムの中の位置づけ〉 「衛生学入門」および「環境衛生学」とともに、生命・健康・環境分野を学ぼうとする者にとって、基本的知識と考え方の習得を目標とする。社会福祉士国家試験受験者にとっては、医学一般の範囲で、公衆衛生学の知識と考え方を必要としている。講義は「衛生学入門」を履修していることを前提としているが、重要な基礎的事項については復習する。(教科書は「衛生学入門」、「環境衛生学」と共通)			
(3)〈学びの意義と目標〉 福祉の分野において、保健・医療・福祉の連携が重要視されている。公衆衛生学は「保健」分野の基礎をなし、また、保健分野そのものである。保健分野についての学びを深め、医療や福祉との接点についても理解することを目的とする。			
<b>評価方法</b>			
1) 出席20% 2) 授業中態度(座席順を含む)20% 3) 毎回小テスト30%、4) 期末テスト30%			
<b>教科書</b>			
鈴木庄亮・久道茂『シンプル衛生公衆衛生学』南江堂			

選択 環境政策論	春	週2回	4単位
担当者：平 修久			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 本科目では、20世紀の公害問題、自然環境破壊に対する反省を踏まえ、21世紀の主要課題の1つである環境問題に我々はどうのように取り組むべきなのかを学ぶ。まず、環境政策を考える基礎として、環境問題の特徴や環境に関する倫理的側面などを概観する。次に、廃棄物、水環境、大気質といった比較的身近な生活環境、そして自然環境を取り上げ、それらの環境問題の内容と対応方を学ぶ。最後に、都市の総合的な環境政策を学ぶ。			
2. カリキュラム上の位置づけ 本科目は、コミュニティ政策学科の専門科目であり、将来、公務員を目指す学生にとって重要な科目の一つである。公共政策論、地域社会論、まちづくり学などと合わせて学ぶと理解が深まる。			
3. 学びの意義と目標 環境は地域社会にとって非常に重要な要素であり、環境を保全し、次世代に継承していくことは我々にとっての責務である。社会人として、環境問題と対応策に関する知識を身につけることを学びの目標とする。			
<b>評価方法</b>			
授業の感想・意見(5%)、授業中の小テスト(20%)、課題(30%)、期末テスト(35%)、出席点(10%)で総合的に評価する(予定)。			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

選択 環境保全論	秋 週2回 4単位
担当者：村上 公久	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 私たちの世界の滅亡を人の死に例えて「核戦争による滅亡を心臓発作による死、環境破壊による滅亡をガンの進行による死」とすれば、今日全面核戦争の脅威は軽減されつつありますが、自然・環境破壊は急速に進行中です。心臓発作の急死の危険はやや遠のきましたが、ガンが進行し体のあちこちに転移して拡大していることがはっきりしてきました。 2. カリキュラム上の位置づけ 教養・総合科目「環境学」の内容を基礎として展開する内容を扱う専門科目。 3. 学びの意義と目標 現在、国際機構、各国、自治体、地域の環境問題における最大の政策課題は、「経済成長か、環境か」のディレンマをめぐる合意形成とその妥当性の検討です。この科目では、まず環境史を学び、次に産業革命以後の環境問題を省みたと上で、保続可能な（持続可能な）開発（Sustainable Development）を考えます。	
<b>評価方法</b> 学期中複数回の試験、出席状況、討論によるクラスへの貢献、レポートを総合的に評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 福祉環境論	秋 週1回 2単位
担当者：野口 祐子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義では、障害者、高齢者などが直面する生活上の様々な困難を環境の視点で捉え、障害者、高齢者を含む全ての人々が豊かに暮らすための環境整備のあり方について学びます。理解を深めるため、講義にあわせ、実習等具体的な課題を盛り込みながら授業を進めていきます。 2. カリキュラム上の位置づけ 入門的な内容で、人を取り巻く環境の中でも、まち、道具といった物理的な環境を扱います。 3. 学びの意義と目標 障害者や高齢者、さらにはすべての人が豊かに暮らすための環境整備について、その基礎にある考え方や基本的な解決方法の理解を目標とします。 ※実習1は、ヴェリタス祭の前後期間に学外施設で行なう予定です。詳しい日程については初回の授業で説明します。（受講者の数によって変更があります。）	
<b>評価方法</b> 出席1/3、レポート等の提出物1/3、期末テスト1/3で評価します。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 福祉環境論	春 週1回 2単位
担当者：山田 義文	
<b>講義の目標及び概要</b> 1) 内容 住まいは、私たちの日々の営みの基本です。乳幼児や高齢の人、障がいを持つなど誰もが快適で安心できる生活を送る続けるためには、その基本となる住環境が十分に整っていることが前提となります。それには、住環境を利用する様々な立場の人の視点に改めて立ち返り、多角的な視点から検討を重ねることが必要になります。福祉住環境論を学んだ意義を今後も皆さんが抱き続けられるよう、長期的な視点に立った考察を深めてゆきます。 2) カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学部人間福祉学科の専門科目（選択）になります。福祉環境の中でも、高齢の人や障がいを持つ人にも安全で快適な住環境を整備するためのプロセスに焦点を当てます。 3) 学びの意義と目標 身近な住環境における現状の問題点を的確に把握できる視点を身につけ、それに対する具体的な改善案を示せるようになることを本講義の目標とします。講義では最新のトピックを紹介しながらスライドも活用することで、実際の住環境改善状況や問題点を分かりやすく示し、学生が主体となり、自身の考えを展開してゆけるように配慮します。	
<b>評価方法</b> 出席点10%、平常点（講義での考察の深さ、プレゼンテーション、身近な環境における自主的な検証）30%、実習課題に対する取り組み30%、定期試験30%にて評価します。困ったことや質問などが生じた場合は、気軽に相談してください。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

選択 生命・栄養科学	秋 週2回 4単位
担当者：菊川 忠裕	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 ヒトの生命活動の基本は、バランスのとれた食事を取り、適度な運動、衛生面に気配りをしなければならない。健康を維持するためには、自然への畏敬、生命への畏敬が大切である。科学の発展は素晴らしいものがあるが、自然のなかで生きるヒトとして忘れさったものも少なくない。生きる力とは何なのかを理解するため、わかりやすく人体の構造と機能について学び、代謝・栄養素と予防医学を自らの実生活で役立てることを目標とします。 2. カリキュラム上の位置づけ 基本的な項目について、講義形式でおこないます。社会で起きている事象はタイムリーに授業へ取り入れて行きます。 3. 学びの意義と目標 自らの体でおこなわれていることを理解する。26回の講義修了時には、生きている自分を再発見して、健康な状態を維持して社会貢献ができればと思います。	
<b>評価方法</b> 講義への出席回数 20% 中間試験及び最終試験 80% 総合的に判断する。	
<b>教科書</b> 『最新図説生物（スクエア）』第一学習社 『わかりやすい栄養学』ヌーベルヒロカワ	

<b>選択 健康教育</b>	<b>秋 週1回 2単位</b>
担当者：梅津 迪子	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 青年期・老年期を中心に、現代社会における健康に関連する問題を取り上げる。 個人の健康問題に留まらず、グローバルな視点から環境、人権、行動等の観点から学ぶ。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 自分の健康は、自分で維持管理する能力が求められている。健康問題を地球環境的規模から捉えると視点と、その影響が個々の生き方にも関連していることを自覚し、思考、判断、行動（実践）できる能力を養う。 〈学びの意義と目標〉 「健康に生きるために」心身の健康に対する自己教育力を養う。 「自己教育力」は学習意欲と意思の形成であり、学習の仕方の習得、自他共に健康に生きるという「生き方」の探求である。自己の問題だけでなく、世界に目を転じ「リプロダクティブ・ライツ・ヘルツ」の背景を人権の視点から学び、考える力を養う。	
<b>評価方法</b> 出席率を重視する 60点 授業にのぞむ態度・意欲 10点 課題提出 30点	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 レクリエーション論</b>	<b>秋 週1回 2単位</b>
担当者：梅津 迪子	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 レクリエーションの語源から歴史を辿るとともに、本来のレクのあり方（本質）を学ぶ。 その活動は、個人の生き方の価値観や社会のありようにも反映されていることから、自分の「生き方」を考えていく。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 自分の生き方を模索し、目標や目的を達成するための自由時間の使い方を学ぶ。同じ視点で福祉社会におけるレク支援のあり方を検討する。 〈学びの意義と目標〉 見たくない自分を直視し、「何が問題なのか」の解決法をワークシートで考える。 同世代の若者の生き方（価値観）も参照しながら、自己開発能力を高めて高齢者支援の方法も再考する。	
<b>評価方法</b> 出席率を重視する 60% 授業に臨む態度・意欲 10% 課題の提出、ミニレポート提出30%	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 社会老年学</b>	<b>秋 週1回 2単位</b>
担当者：古谷野 亘	
<b>講義の目標及び概要</b> 子どもが心身の発達と並行して社会生活の変化を経験していくのと同様に、人生の後半においても、人は心身の変化と社会生活の変化を経験する。この講義では、人生の後半で経験される心身および社会生活の変化を取り上げ、人が「高齢者」となっていく過程を検討する。そして、個人の高齢化の理解を前提として、高齢者の割合が高い社会（高齢社会）への移行に際して問題となる事象、また特に高齢社会への移行が急速であった場合に深刻になる事象を明らかにして、近未来の日本の高齢者がどのような人々であり、彼（女）らのためにどのような施策が求められているかを考える。	
<b>評価方法</b> レポート（50%）と筆記試験（50%）。学期中に複数回のレポート提出を求める。レポートはオンライン・レポート提出システムにより送信しなければならない。	
<b>教科書</b> 古谷野亘・安藤孝敏『改訂 新社会老年学：シニアライフのゆくえ』ワールドプランニング	

<b>選択 リハビリテーション論</b>	<b>秋 週1回 2単位</b>
担当者：小林 法一	
<b>講義の目標及び概要</b> 1、内容 “リハビリ”や“訓練”という言葉が一般用語として定着してきたが、これらの言葉から連想されるイメージと本来のリハビリテーションの理念との間には、大きな隔りがある。 本講義では、リハビリテーションの思想と実際について概説する。具体的には、我が国におけるリハビリテーションの理念の変遷や保健医療分野を中心とした実践を紹介する。 2、カリキュラム上の位置づけ 生命環境学系科目群に属する。1年次の教養科目で身に付けた広い視野を活用する点においては応用的科目にあたり、今後修得する専門科目に活かせる点においては基礎的科目に相当する。 3、学びの意義と目標 ・我が国におけるリハビリテーションの理念を理解する ・リハビリテーションと機能訓練の違いが説明できる ・医学のリハビリテーションで用いられる基本的用語を理解する	
<b>評価方法</b> 試験50% レポート30% 出席20%	
<b>教科書</b> 上田敏『リハビリテーションの理論と実際』ミネルヴァ書房	

<b>選択 精神医学</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：高野 覚
<b>講義の目標及び概要</b> 1 精神医学、精神医療の歴史を理解する。 2 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解する。 3 精神医学の概念について理解する。 4 精神医学診断の基本的な方法について理解する。 5 代表的な精神障害について理解する。 6 治療の概要について理解する。 7 病院精神医学および地域精神医学について理解する。
<b>評価方法</b> 規定の出席日数に達した人を対象とした期末テスト（持込不可）によって評価します。 テストにあたっては必要最小限の知識の取得が要求されます。
<b>教科書</b> 『改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第1巻 精神医学 増補版』へるす出版

<b>選択 精神科リハビリテーション学</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：田村 綾子
<b>講義の目標及び概要</b> 1 精神科リハビリテーションの概念について理解させる。 2 精神科リハビリテーションの構成について理解させる。 3 精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解させる。 4 精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解させる。 5 精神科リハビリテーションにおける連携について理解させる。
<b>評価方法</b> 授業態度・出席などの平常点と、レポート・試験結果を総合して評価する。授業態度は毎回の授業で提出を義務づけるフィードバックペーパーの内容で評価する。レポート提出は2回程度の予定。試験は期末に1回行う（記述式・持ち込み禁止）。
<b>教科書</b> 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『増補版改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第3巻 精神科リハビリテーション学』へるす出版

<b>選択 スピリチュアルケア論</b> <span style="float: right;">春 週1回 2単位</span>
担当者：平山 正実/窪寺 俊之
<b>講義の目標及び概要</b> スピリチュアルケアの必要性、定義、内容を具体的例を用いて説明する。 特に、ヒューマンサービスの領域でのスピリチュアルケアの必要性について触れ、スピリチュアルケアの基礎概念を理解し、自分の言葉で表現できるようになることを目標にする。
<b>評価方法</b> 各回でのレポート提出（授業の途中で実施）。期末にまとめとして、総合レポートを提出する。
<b>教科書</b> 窪寺俊之『スピリチュアルケア入門』三輪書店 平山 正実『はじまりの死生学』春秋社

<b>選択 子どもの遊びと発達</b> <span style="float: right;">春 週1回 2単位</span>
担当者：梅津 述子
<b>講義の目標及び概要</b> （内容） 現代の子どもの遊びの現状を踏まえ、望ましい心身の発達について学ぶ。遊びが成立する条件は空間・仲間・時間であるが、社会の変容にともない子どもの世界は大きく変化している。その変化のありようと問題点、背景を発達と関連して考える。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 子どもの遊びの実態から心身の発達の方法を検討する。食事、睡眠、生活リズムが心身に及ぼす影響や遊び体験の減少が発達にどのように関連しているのかを考察する。 〈学びの意義と目標〉 子ども時代に「どのような体験をどのくらいしたか」という原体験は、その人の生き方や価値観に影響する。したがって、遊びと発達の関係をさまざまな角度から学ぶ。
<b>評価方法</b> 出席率を重視 60点 課題・レポート提出 30点 授業に臨む態度・意欲 10点
<b>教科書</b> プリントを配布する



<b>選択 発達心理学A</b>	<b>秋 週1回 2単位</b>
担当者：池 弘子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 発達心理学は、ひとの出生から死亡までの時間経過に伴う心身の構造や機能の変化のしくみを研究する学問であり、ひとがより豊かな発達・人間的成長をしたり、より充実した生活を送ったりするために役立つことが期待されている。発達心理学Aでは、乳幼児期を取り上げる。まず、発達についての基本的な考え方について学習した後、乳児期と幼児期の発達について学習する。乳児期の発達に関しては、新生児の知覚能力について学習し、その後の発達を、運動、「もの」とのかかわり、「ひと」とのかかわりの観点から概観する。幼児期の発達に関しては、運動、言語、思考、社会性の発達について学習する。 2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科の学生にとっては、福祉の場において、子どもを理解し、子どもとかかわったり子どもの発達を支援したりするための基礎的知識が得られる講義となるであろう。 3. 学びの意義と目標 乳幼児期の子どもの発達に関する基礎的知識を得る。	
<b>評価方法</b> 3分の2以上の出席を必要条件とし、試験の成績のみで評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 発達心理学B</b>	<b>秋 週1回 2単位</b>
担当者：池 弘子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 発達心理学は、ひとの出生から死亡までの時間経過に伴う心身の構造や機能の変化のしくみを研究する学問であり、ひとがより豊かな発達・人間的成長をしたり、より充実した生活を送ったりするために役立つことが期待されている。発達心理学Bでは、中年期・老年期のひとたちがどのような身体的・社会的変化を体験し、どのような心理的危機に陥ることが多いかについて知り、より豊かで充実した中年期・老年期を送っているひとたちは、そのような危機にどのように対応しているか、について、学習する。 2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科の学生にとっては、福祉の場において、子どもや高齢者の家族も含めた支援の対象となる中年期や老年期にあるひとたちを理解し、よりよい支援をするための基礎的知識が得られる講義となるであろう。 3. 学びの意義と目標 中年期・老年期の様々な変化とそれに伴う危機を理解し、よりよく生きるためにはそのような危機にどう対応すればいいかを学ぶ。	
<b>評価方法</b> 3分の2以上の出席を必要条件とし、試験の成績のみで評価する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 教育心理学</b>	<b>春 週2回 4単位</b>
担当者：小山 義徳	
<b>講義の目標及び概要</b>	
教育心理学は「人間がどのように物事を学んでいるのか」ということと、「物事を教えるにはどうすればよいのか」ということを心理学的手法により明らかにしていく学問です。 教育心理学は教師になる人だけに必要な学問であると誤解されがちですが、どのような仕事に就いても多くの知識を学ばなければなりません。また、教年経てば自らが後輩に仕事を教える立場になりますので、すべての学び、教える人にとって有用な学問です。 授業では教育心理学の基礎的な知識を紹介していきます。しかし、学問としての教育心理学と福祉や教育の現場で求められている実践の間にギャップが生じてしまっている場合があります。そこで、授業では講義に加えて、学んだ知識をもとにしたレポートの提出や、他者の意見と自分の意見を対比するディスカッションを取り入れて、理論を教育場面での実践事例に関連付けていきます。	
<b>評価方法</b> 出席状況および小レポート、期末レポート、受講意欲・態度を総合して評価する。出席が3分の2に満たない場合は単位認定は行わない。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 社会心理学</b>	<b>春 週2回 4単位</b>
担当者：水鳥 友昭	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容 社会の中にリスクや不安は様々な形で存在する。例えば、事故・災害のリスク、環境リスク、将来のリスク等がある。本講義では実際に社会で起きている事象を取り上げ、リスクや不安が社会、および人間にどのように位置付けられ、対応されているかに対して議論を行う。また評価するためには、多変量解析法的手法を取り上げ、評価方法の基本、利用方法、利用の際の問題点とその限界を事例を用いて講義を行う。 2. カリキュラム上の位置づけ 社会心理学の基礎的な領域を取扱う。また、本講義では数学を使うが、数学は本質ではない。数学の知識は特に必要としない。 3. 学びの意義と目標 本講義では社会に存在する事象に対する考え方、その対応方法を心理学的に理解すること目標にしている。また、講義で用いた手法は他の領域でも利用が可能である。他の領域でも利用できるように様々な方向から見た場合の利用方法について理解することを目標にする。	
<b>評価方法</b> 出席（75点）、レポート（25点）で評価を行う。レポートはオンライン上で提出。特に試験はしない。出席は2/3以上、かつレポート提出は必須。出欠に関しては講義ごとに行う。また、レポートは2000字以上を基本とする。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択 コミュニティ心理学</b> <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：長谷川 恵美子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容： 具体的なコミュニティを取り上げ、コンサルテーション、クライシス・インターベンションをはじめ、関連する理論、技法を紹介しながら、それぞれのコミュニティの構成、現状、問題点などについてディスカッションしながら体験的に学ぶ授業である。 2. カリキュラム上の位置づけ： 人間福祉学科、心理系、基礎～応用科目である。 3. 学びの目標： コミュニティとは、人々が毎日を生きてゆく場所のことである。人の行動は社会的環境と切り離された状況で発生しているのではなく、人とその置かれた社会的環境との相互作用で成り立っている。本授業は、社会システムや環境面が人間の行動に及ぼす影響についての基礎知識を学び、人間にとって生活しやすい環境を整備するために、どのような環境改善、介入方法があるのかを自ら考えることを目標としている。
<b>評価方法</b> 平常点（授業への参加、作業への取り組み方、授業中に出された課題の提出など）70%と学期末レポート30%により評価する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 異常心理学</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：古澤 聖子
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 一定程度の「自己理解」ができることにより、初めて「他者理解」に踏み出せる。ゆえに、あらためて「自己理解」から開始する。加えて、臨床という営為の提示とともに現代社会における問題の論考に付き学びを深める。他方、限られた時間ながら、実践やケース検討をとおして、本講テーマを見極める姿勢を培えるよう配慮する。学問に留まらず、日常生活の上で「役に立つこと」「実りとなること」が得られるよう工夫を凝らす。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 対象としての領域は、「臨床心理学」の軸足を置くが、「精神医学」および「臨床心理学と精神医学の学際領域」にもおよぶ。 〈学びの意義と目標〉 本学科目は、「異常心理学」との科目名であるが、正常と異常のパラダイムに対しシンプルに境界を決定づけることは困難を伴う。よって、正常・異常と呼ばれる双方向からの視座のもとに講義を進め、何をもって「正常ではない」とするか否かを顕現させていく過程を学ぶこと、「常とは異なる」事態、状態の確認を自らが行うことが本講の意義である。
<b>評価方法</b> 出席を重視する。 「出席」25% 「reaction paper」15% 「book report」30% 「学期末report」30%により、評価する。 詳細は、ガイダンス時に説明する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 心理学研究法</b> <span style="float: right;">春 週2回 4単位</span>
担当者：小山 義徳
<b>講義の目標及び概要</b> この講義は大きく分けて2つのパートに分かれています。前半部（1～12回）の記述統計学の部分では、データの特徴の記述の仕方を学びます。後半部（13～26回）の推測統計学の部分では、統計的仮説の検定の仕方や実験計画法について学びます。心理統計は講義を聴いているだけでは理解が進まず、自分で手を動かして計算してみればじめて分かるという部分がありますので、講義と実習（コンピュータ室でのEXCELの操作と電卓）を織り交ぜた授業内容を予定しています。心理学実験演習A, Bを受講することを考えている学生は、事前にこの授業を履修しておくことと実験演習の内容をより深く理解できます。
<b>評価方法</b> 小テストと期末テスト、複数回の実習課題の提出及び出席点で評価します。
<b>教科書</b> 山田剛・村井潤一郎『よくわかる心理統計』ミネルバ書房

<b>選択 臨床心理学</b> <span style="float: right;">秋 週2回 4単位</span>
担当者：牟田 隆郎
<b>講義の目標及び概要</b> 1 内容 本講義では、まず「さまざまな人間の生き方」に触れ、次いでその生き方の理解を目指す。そして「世間」からはみ出たり、「常識」にかからない生き方を参考として、逆に「まともな生き方」とは何かを探る。その際「人生相談」や「臨床事例」などを資料として用いる。この過程をたどりつつ、並行して学生自らの「自分形成」の特徴や、その背景となる時代・社会的なものへの把握にも取り組む。 2 カリキュラム上の位置づけ 基礎的・初歩的から応用的な人間理解となる。 3 学びの意義と目標 人間の見方を広げ深める。合わせて、自分に気づく機会を提供する。
<b>評価方法</b> 出席状況と毎回課するレポートにもとづく。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択</b> <b>カウンセリング論</b>	<b>春</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：長谷川 恵美子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 心理カウンセリングに関する知識を学習する。実際のロールプレイングによる体験学習を取り入れながら、カウンセリングの基本的態度や専門性に関わる問題を学ぶ。 2. カリキュラム上の位置づけ この授業は人間福祉学科、心理系、基礎～応用科目である。 3. 学びの目標 今日カウンセリングは、医療、教育、司法、産業領域など、様々な分野で応用されている。本講義は、初めてカウンセリングを学ぶ人を対象とした、実習を含む授業であり、カウンセリング、および心理学に関する基本的な知識と技術を習得すること、また自己理解を深めることを目指している。	
<b>評価方法</b> 平常点（授業への参加、作業への取り組み、授業時に出された課題の提出）70%、および課題に基づくレポート30%によって評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選択</b> <b>精神保健学</b>	<b>秋</b> <b>週2回</b> <b>4単位</b>
担当者：小林 政子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1 精神保健についての基本知識について理解させる。 2 ライフサイクルにおける精神保健について理解させる。 3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解させる。 4 地域精神保健と地域保健について理解させる。 5 諸外国における精神保健の概要について理解させる。 6 関連法規および施設について理解させる。	
<b>評価方法</b> 授業出席率 6割以上 各回授業中のレポート提出 学期末レポート提出	
<b>教科書</b> 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『増補版改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第2巻 精神保健学』へるす出版	

<b>選択</b> <b>心理学実験実習A</b>	<b>秋</b> <b>週2回</b> <b>2単位</b>
担当者：長谷川 恵美子/小山 義徳	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 少人数のグループに分かれ心理学各領域（知覚、学習、記憶、欲求、態度など）の研究実践の基礎を、実習をおとして学ぶことを目的としている。実験実施とともに各実験が終わるごとにレポートの提出が求められる。他のグループメンバーに負担がかからないよう欠席・遅刻・レポート期限などは厳しくチェックされる授業である。 2. カリキュラム上の位置づけ この科目は、人間福祉学科、心理系、基礎～応用科目である。卒業後、「社団法人日本心理学会認定心理士」の資格申請を予定している学生は、春学期の「心理学実験実習B」とあわせて本授業を履修すること。可能なら実験実習A、Bの順に履修することが望ましい。尚、レポートを書く際に、心理統計の知識が必要となるため、心理学研究法を並行履修することが望ましい。 3. 学びの意義と目標 基礎的な心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、統計的处理などを学び、心理学の実験的な研究方法を習得する。	
<b>評価方法</b> 成績は出席状況・実験態度・レポートの内容等によって総合的に評価される。欠席・遅刻・レポート期限後提出・レポート未提出などは厳しくチェックされ、減点の対象になるので注意すること。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>選択</b> <b>心理学実験実習B</b>	<b>春</b> <b>週2回</b> <b>2単位</b>
担当者：牟田 隆郎/長谷川 恵美子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 研究を遂行していくうえで留意しなければならない倫理の問題をはじめ、仮説設定、実験デザインの決定などの作業を取り上げながら、心理学各領域（認知心理、社会心理、臨床心理、生理心理など）の研究実践の基礎を実習をおとして学ぶことを目的としている。 2. カリキュラム上の位置づけ この科目は、人間福祉学科、心理系、「応用科目」であり、できる限り、心理学実験実習Aを履修後に受講することが望ましい。特に心理系で卒業研究を行う学生は受講することが望ましい。卒業後、「社団法人日本心理学会認定心理士」の資格申請を予定している学生は、秋学期の「心理学実験実習A」とあわせて本授業を履修すること。 3. 学びの意義と目標 少人数のグループに分かれ、心理実験・調査を自ら実験者・被験者として体験し、心理学の実験的な研究方法を習得する。	
<b>評価方法</b> 成績は出席状況・実験態度・レポートの内容等によって総合的に評価される。欠席・遅刻・レポート期限後提出・レポート未提出などは厳しくチェックされ減点の対象になるので注意すること。実験によっては動きやすい服装を持参すること。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選択 相談援助の基盤と専門職

秋 週2回 4単位

担当者：大野 和男

講義の目標及び概要

- ・社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解する。
- ・精神保健福祉士の役割と意義について理解する。
- ・相談援助の概念と範囲について理解する。
- ・相談援助の理念について理解する。
- ・相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。
- ・相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。
- ・総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。

評価方法

期末試験および授業への出席状況により評価する  
（期末試験による評価を60%、出席状況による評価を40%として、全体評価の基準とする）

教科書

責任編集 柳澤孝主・坂野窓司『相談援助の基盤と専門職』弘文堂

選択 社会福祉援助技術論A

春 週2回 4単位

担当者：山口 圭

講義の目標及び概要

- ・相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。
- ・相談援助の対象について理解する。
- ・相談援助の過程とそれに係るジェネリック・ソーシャルワークの知識と技術について理解する

評価方法

定期試験（75%）・講義中のコメント（5%）・小テスト（10%）・課題レポート（10%）を総合的に評価する。出欠席および遅刻早退については、『社会福祉士養成施設等指導要領』に則り、単位認定を行う。

教科書

『社会福祉学習双書』編集委員会 編『新版・社会福祉学習双書10 社会福祉援助技術論Ⅱ 相談援助の理論と方法』全国社会福祉協議会出版部

選択 社会福祉援助技術論B

秋 週2回 4単位

担当者：廣野 吉章

講義の目標及び概要

- ・相談援助に係る臨床的・ソーシャルワークの知識と技術について理解する
- ・相談援助にかかわる様々な実践モデルについて理解する。
- ・相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。
- ・相談援助の実際（権利擁護活動を含む）について理解する。

評価方法

出席点20%、中間および期末の2度の筆記試験80%によって算出する。

教科書

プリントを配布する  
新社会福祉士養成講座編集委員会編『第8巻 相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規出版

選択 児童福祉論	春	週2回	4単位
担当者：池 弘子			
<b>講義の目標及び概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力(D.V)の実態を含む。)について理解する。</li> <li>・児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。</li> <li>・児童の権利について理解する。</li> <li>・相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。</li> </ul>			
<b>評価方法</b> 3分の2以上の出席を必要条件とし、試験の成績のみで評価する。			
<b>教科書</b> 網野武博他編『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』中央法規出版			

選択 高齢者福祉論	秋	週2回	4単位
担当者：山口 圭			
<b>講義の目標及び概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）について理解する。</li> <li>・高齢者福祉制度の発展過程について理解する。</li> <li>・相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。</li> </ul>			
<b>評価方法</b> 定期試験（75%）・講義中のコメント（5%）・小テスト（10%）・課題レポート（10%）を総合的に評価する。出欠席および遅刻早退については、『社会福祉士養成施設等指導要領』に則り、単位認定を行う。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 『新版・社会福祉学習双書』編集委員会 編『新版・社会福祉学習双書3 老人福祉論 高齢者に対する支援と介護保険制度』全国社会福祉協議会出版部 ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法2010 [平成22年版]』ミネルヴァ書房			

選択 障害者福祉論	春	週2回	4単位
担当者：増田 公香			
<b>講義の目標及び概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について理解する。</li> <li>・障害者福祉制度の発展過程について理解する。</li> <li>・相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。</li> </ul>			
<b>評価方法</b> 中間報告 40% 定期試験 50% 平常点 10%			
<b>教科書</b> 『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規			

<b>選択 地域福祉論</b>	春 週2回 4単位
担当者：牛津 信忠	
<b>講義の目標及び概要</b> ・地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。 ・地域福祉の主体と対象について理解する。 ・地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。 ・地域福祉の推進方法（福祉ニーズの把握方法、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む）について理解する。	
<b>評価方法</b> 3回の授業に一度の割合で、講義内容に関するコメントの提出を求め、評価の対象とする。それとともに授業終了後に論文形式の試験を行い、これに出席状況を点数化して加え、最終的な総合評価を行う。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 牛津信忠他編著『地域福祉論』黎明書房	

<b>選択 精神保健福祉論</b>	春 週3回 6単位
担当者：相川 章子/大野 和男/行實 志都子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解させる。 2 精神障害者の人権について理解させる。 3 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解させる。 4 精神障害者に対する相談援助活動等を理解させる。 5 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律の意義と内容を理解させる。 6 精神保健福祉施策の概要について理解させる。 7 精神保健福祉の関連施策について理解させる。	
<b>評価方法</b> (1)出席および授業態度 (25%) (2)レポート課題等の提出 (25%) (3)期末試験 (50%)	
<b>教科書</b> 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集『改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー 第4巻 [増補新版]精神保健福祉論』へるす出版	

<b>選択 ソーシャルワーク論</b>	春 週2回 4単位
担当者：助川 征雄	
<b>講義の目標及び概要</b> この授業は、将来、精神保健福祉士として、精神障がい者やその家族を援助することを目指す学生向けのもので、国家資格取得のための指定科目です。 内容的には、精神保健福祉援助技術の総論です。具体的には、援助の基礎知識、実践理論と実際、精神保健福祉士の機能と役割、および各先進国の社会福祉と精神障がい者援助の実際などを紹介し、総合的に学びます。 なお、「ソーシャルワーク論」という授業名のねらいは、精神保健福祉援助がソーシャルワーク（社会福祉）の一応用分野であることを常に忘れてはならないと考えがこめられています。	
<b>評価方法</b> 出席率、小レポート、試験などで総合的に評価します。	
<b>教科書</b> 精神保健福祉士養成講座編集委員会『精神保健福祉援助技術総論』中央法規出版	

<b>選択 精神保健福祉援助技術各論</b>	秋 週2回 4単位
担当者：相川 章子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）について具体的事例に基づき理解させる。 2 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）について具体的事例に基づき理解させる。 3 精神障害者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解させる。 4 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）について具体的事例に基づき理解させる。 5 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解させる。	
<b>評価方法</b> 出欠席および授業態度 30% レポート 30% 試験 40%	
<b>教科書</b> 日本精神保健福祉士養成校協会編集『新・精神保健福祉士養成講座第6巻 精神保健福祉援助技術各論』中央法規出版	

選択 介護概論		春	週1回	2単位
担当者：高山 法子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の概念や対象及びその理念等について理解する。</li> <li>・介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。</li> <li>・終末期ケアの在り方(人間観や倫理を含む。)について理解する。</li> </ul>				
<b>評価方法</b>				
出欠・授業態度・レポート・期末試験による総合評価とする。				
<b>教科書</b>				
社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座第13巻 高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規出版				

選択 介護技術		秋	週1回	2単位
担当者：高山 法子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>寝たきり高齢者や疾病・障がいをもつ人々の生命を維持させ、その方々が快適な生活を営むことができるよう支援するための直接的・間接的な介護の技術の理論と方法の基礎を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生活を整えるために必要な介護の技術と技法を理解する。</li> <li>2) 利用者の立場にたつて、安全・安楽を配慮した基礎的な介護の技法を習得する。</li> <li>3) 利用者が自立(自律)するための援助方法、及び個別への対応の重要性について考えを深める。</li> </ol>				
<b>評価方法</b>				
出欠・授業態度・レポート・期末試験による総合評価とする。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選択 社会福祉運営管理論		春集中	2単位
担当者：早坂 聡久			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など)について理解する。</li> <li>・福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。</li> <li>・福祉サービスの経営と管理運営について理解する。</li> </ul>			
<b>評価方法</b>			
<p>論述を中心とした筆記試験及び講義中のミニレポート(60%)、出席状況(40%)を総合して評価する。出席を重視する(欠席減点法)。また、受講態度等が悪い学生には退出を求め減点の対象とする。</p>			
<b>教科書</b>			
<p>授業の中で指示する 久門道利・西岡 修 編『福祉サービスの組織と経営』弘文堂</p>			

選択 社会調査の基礎		秋	週1回	2単位
担当者：廣野 吉章				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。</li> <li>・統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。</li> <li>・量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。</li> </ul>				
<b>評価方法</b>				
出席点20%、定期試験80%によって算出する。				
<b>教科書</b>				
<p>プリントを配布する 新社会福祉士養成講座編集委員会編『第5巻 社会調査の基礎』中央法規出版社</p>				

選択 福祉行財政と福祉計画	秋 週1回 2単位
担当者：大塚 健司	
<b>講義の目標及び概要</b> ・福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について理解する。 ・福祉行財政の実際について理解する。 ・福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。	
<b>評価方法</b> 中間レポート（楢山節考、深沢七郎、読書感想）及び学期末試験（レポート等）80%、出席率20%で評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座10福祉行財政と福祉計画』中央法規出版株式会社	

選択 保健医療サービス	秋 週1回 2単位
担当者：中村 肇男	
<b>講義の目標及び概要</b> ・相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む）や保健医療サービスについて理解する。 ・保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。	
<b>評価方法</b> 出席（20%）、授業態度（20%）、授業中の小テスト（30%）、期末テスト（30%）	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選択 就労支援サービス	春集中 1単位
担当者：野口 勝則	
<b>講義の目標及び概要</b> ・相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。 ・就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。 ・就労支援分野との連携について理解する。	
<b>評価方法</b> 出席状況（50%）、及びテスト（最終日に実施）の結果（50%）により評価する。	
<b>教科書</b> 社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座18 就労支援サービス』中央法規出版	

必修 社会福祉援助技術演習A	春 週1回 1単位
担当者：野口 祐子	
<b>講義の目標及び概要</b> 社会福祉援助技術演習は、具体的な事例や援助場面を想定したロールプレイングを中心とする演習形式により、社会福祉援助技術論や各福祉論の講義、現場実習と関連させながら社会福祉援助技術を習得する科目である。社会福祉援助技術の特性として、講義を聞いただけでの習得は不可能であり、学生自身が主体的に取り組まなければならない。 社会福祉援助技術演習Aでは、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できる援助者になることを目的とする演習を行なう。	
<b>評価方法</b> 演習での学習状況、発言、レポート課題の総合評価。これ以外でも福祉人として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	



<b>選択</b> 社会福祉援助技術演習A	秋 週1回 1単位
担当者：池 弘子/野口 祐子/山口 圭	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>社会福祉援助技術演習Aは、相談援助の知識と技術に関わる他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に関わる知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として、概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を涵養することを目的とする科目のひとつである。</p> <p>本演習では、自己覚知・他者理解、基本的なコミュニケーション技術の習得、基本的な面接技術の習得に関する実技指導を行う。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] (1) 自己や他者を客観的に理解し、社会福祉援助技術現場実習で活用することができる。 (2) 基本的コミュニケーション技術を習得し、人間関係を円滑に形成することができる。 (3) 基本的な面接技術を習得し、社会福祉援助技術現場実習で援助関係を円滑に形成することができる。</p>	
<b>評価方法</b>	
演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<b>選択</b> 社会福祉援助技術演習C	春 週1回 1単位
担当者：野口 祐子/増田 公香/山口 圭	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>社会福祉援助技術演習は、具体的な事例や援助場面を想定したロールプレイングを中心とする演習形式により、社会福祉援助技術論や各福祉論の講義、現場実習と関連させながら社会福祉援助技術を習得する科目である。社会福祉援助技術の特性として、講義を聞いただけでの習得は不可能であり、学生自身が主体的に取り組まなければならない。</p> <p>社会福祉援助技術演習Cでは、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できる援助者になることを目的とし、事例検討およびケアマネジメントの展開過程に関する演習を行なっていく。</p>	
<b>評価方法</b>	
演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>選必</b> 社会福祉援助技術演習D	秋 週1回 1単位
担当者：山口 圭	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>社会福祉援助技術演習は、具体的な事例や援助場面を想定したロールプレイングを中心とする演習形式により、社会福祉援助技術論や各福祉論の講義、現場実習と関連させながら社会福祉援助技術を習得する科目である。社会福祉援助技術の特性として、講義を聞いただけでの習得は不可能であり、学生自身が主体的に取り組まなければならない。</p> <p>現場実習後の社会福祉援助技術演習Dでは、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できる援助者になることを目標とし、施設や在宅での生活支援の演習を実施し、現場実習での個別援助や実習施設での体験とつなげて理解を深めさせていく。</p>	
<b>評価方法</b>	
演習での学習状況、発言、提出課題、期末試験の総合評価。課題・試験以外でも社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>選必</b> 精神保健福祉演習	秋 週1回 1単位
担当者：相川 章子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>精神保健福祉士を目指す学生を主な対象に、より実践的なソーシャルワークについて学び、深める。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席、受講態度、グループへの参加等を総合して評価	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>選択 精神保健福祉援助演習</b> <span style="float: right;">春 秋 週1回 4単位</span>
担当者：相川 章子/牟田 隆郎
<b>講義の目標及び概要</b> 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。
<b>評価方法</b> (1) 出席および授業態度（発言等含む） (2) レポート課題等の提出 (3) 期末試験 (1)～(3)の総合評価とする。
<b>教科書</b> 精神保健福祉士養成セミナー編集委員会『増補 改訂第3版 精神保健福祉士養成セミナー第7巻 精神保健福祉援助演習』へるす出版 監修 精神保健福祉研究会『我が国の精神保健福祉 21年版』株式会社太陽美術

<b>選択 社会福祉学特講</b> <span style="float: right;">春 週1回 2単位</span>
担当者：山口 圭
<b>講義の目標及び概要</b> 社会福祉士・精神保健福祉士国家試験に向けた総括的な講義である。 社会福祉士・精神保健福祉士は、地域を基盤とするソーシャルワーカーとして、一人ひとりの利用者の多様なニーズを解決・緩和するための総合的な支援を行うことが求められている。「人間：環境の交互作用」を基盤として、ソーシャルワークの「価値」、「知識」、「技術」を体系的におさえておかなければ、ソーシャルワーカーとしての総合的な支援を行うことは難しい。 そこで、本講義では、「国家試験出題基準」を拠り所とし、社会福祉士・精神保健福祉士に求められる「価値」、「知識」、「技術」について体系的に理解することを目標とする。 講義の性質上、受講可能者は、「社会福祉援助技術現場実習」、もしくは、「精神保健福祉援助実習」の単位を習得した者に限定する。
<b>評価方法</b> 定期試験（90%）・小テスト（10%）によって評価を行う。 なお、欠席・遅刻や受講態度において、福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。
<b>教科書</b> 日本社会福祉士養成校協会編『社会福祉士国家試験 過去問一問一答+α 2010（共通科目編）』中央法規 ユーキャン社会福祉士研究会『2010年版U-CANの社会福祉士 速習レッスン（共通科目）』自由国民社 ミネルヴァ書房編集部編『社会福祉小六法2010【平成22年版】』ミネルヴァ書房 中村裕男・池 弘子・牛津信忠・山口 圭監修 社会福祉国家試験研究フォーラム『社会福祉士国家試験対策標準テキスト 2009』秀和システム

<b>選択 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ</b> <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：山口 圭
<b>講義の目標及び概要</b> 社会福祉援助技術現場実習において、社会福祉実践現場の実習生としての態度を身につけ、社会福祉士としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得できるよう実習をすることを目的とする。 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰにおける目標は次の通りである。 1. 社会福祉援助技術現場実習の目的、意義を理解することによって実習に対する動機づけを高める。 2. 社会福祉援助技術現場実習を通じて、大学で学んだ専門知識、専門援助技術及び関連知識の内容をより深めて身につける。 3. 社会福祉専門職として実際に活用できる技術、資質、能力を体得する。 4. 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰでは、現場実習の目的、意義を理解することによって実習に対する動機づけを高め、配属実習先の施設・機関、および、利用者の理解を深め、実習課題や実習計画を作成する。
<b>評価方法</b> レポート、受講態度、および授業への出席状況から総合的に評価する。社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ</b> <span style="float: right;">通年 週1回 2単位</span>
担当者：野口 祐子/増田 公香/山口 圭
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 社会福祉現場の実習生としての態度を身につけ、福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得させることを目標とする。 2. 社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰをふまえ、春学期は、主に実習先で必要とされる専門援助技術の基礎を習得させることを目的とした事前学習を行う。 3. 秋学期は、各自の実習体験を振り返り、実習報告書の作成や実習報告会を開催する。このような実習総括をふまえて、社会福祉援助技術をより深めて身につけさせるとともに、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。
<b>評価方法</b> レポート、受講態度、および授業への出席状況から総合的に評価する。社会福祉士として適格性に著しく問題があった場合、単位が認定されない。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選択</b> 社会福祉援助技術現場実習	秋集中	6単位
担当者：野口 祐子/増田 公香/山口 圭		
<b>講義の目標及び概要</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をすすめるうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。</li> <li>2. 「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」を実際に活用し、相談援助業務に必要な資質・能力・技術を習得する。</li> <li>3. 職業倫理を身につけ、福祉専門職としての自覚にもとづいた行動ができるようにする。</li> <li>4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。</li> <li>5. 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。</li> </ol>		
<b>評価方法</b>		
実習指導者と担当教員による総合評価。原則として、実日数24日、180時間以上なければ履修単位として認められない。規定時間数の実習を終了しても評価水準に達しなかったり、社会福祉士としての資質に欠けたりする場合、単位は認定されない。		
<b>教科書</b>		
授業の中で指示する		

<b>選択</b> 精神保健福祉援助実習	通年	9単位
担当者：相川 章子/松原 玲子		
<b>講義の目標及び概要</b>		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得させる。</li> <li>2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。</li> </ol>		
開講期：通年（春週1回、秋週2回）		
<b>評価方法</b>		
事前学習における課題の明確化への取り組み、実習時の状況、実習先による実習評価、事後指導での実習報告書作成等を総合的に判断し評価		
<b>教科書</b>		
精神保健福祉士養成校協会編集『新・精神保健福祉士養成講座 第8巻 精神保健福祉援助実習』中央法規出版		

<b>選必</b> 専門演習(児童福祉論)Ⅰ	秋	週1回	1単位
担当者：池 弘子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内容 子どもを取り巻く環境や子どもの生活等について学び、関心をもったテーマについて、討論したり、わからない点について調べたり、レポートを書いたりすることによって、子どもや子どもにかかわる問題に関する理解を深める。具体的には、まず、子どもにかかわる問題について概観し、その後、関心をもったテーマについてグループで調べたり、討論したりしてまとめ、レポートを作成し、発表するという形で進めていく。</li> <li>2. カリキュラム上の位置づけ 児童福祉論、家族社会学、発達心理学Aなどで学んだことに基づいて、さらに子どもや子どもにかかわる問題に関する理解を深める。</li> <li>3. 学びの意義と目標 子どもや子どもにかかわる問題の理解を深めるとともに、必要な情報の探し方、報告用資料の作り方、報告方法、レポートの書き方についても学習する。</li> </ol>			
<b>評価方法</b>			
(1)出席状況 40%			
(2)演習への参加度 30%			
(3)レポート 30%			
<b>教科書</b>			
プリントを配布する			

<b>選必</b> 専門演習(児童福祉論)Ⅱ	春	週1回	1単位
担当者：池 弘子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内容 専門演習Ⅰで学んだ子どもや子どもにかかわる問題で関心をもったテーマについて、各自が資料や論文を探し、それらの概要について発表し、内容について討論したり、わからない点について調べて再度発表するという形で進めていく。これによって、自分が関心をもったことに関する知識を深めるとともに、専門演習Ⅰで学んだ必要な情報の探し方、報告用資料の作り方、報告方法について習熟する。</li> <li>2. カリキュラム上の位置づけ 家族社会学、児童福祉論、発達心理学Aなどに加えて、専門演習Ⅰで学んだことをさらに深めて、卒業研究Ⅰ、Ⅱにつなげていく。</li> <li>3. 学びの意義と目標 卒業研究レポートを書くための基礎をつくる。</li> </ol>			
<b>評価方法</b>			
(1)出席状況 40%			
(2)演習への参加度 30%			
(3)レポート 30%			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

<b>選必 専門演習(子ども家庭論)Ⅰ</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：中谷 茂一
<b>講義の目標及び概要</b> 目標：演習クラスにおける個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかることを目標とする。  概要：履修者の興味関心に基づき、児童福祉に関連するテーマをいくつか自分で設定し、学生による発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員による補足をする。テーマ設定は自由だが、家族社会学関連領域、子ども虐待・ネグレクトに関連する内容が望ましい。 個人発表のプロセスは、選択テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された考察をレジュメにまとめた上で発表を行う。「感想」レベルにとどまることなく、根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。一人2回以上の発表を予定している。  ※講義科目の「家族社会学(中谷担当)」を履修済みまたは同時履修すること。
<b>評価方法</b> (1) 発表内容 (2) ディスカッション参加状況 上記の総合評価による。
<b>教科書</b> 岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む 家族(改訂版)』有斐閣 山縣文治・柏女露峰 編『社会福祉用語辞典』ミネルヴァ書房

<b>選必 専門演習(子ども家庭論)Ⅱ</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：中谷 茂一
<b>講義の目標及び概要</b> 目標：専門演習Ⅰにおける発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、演習クラスにおける個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に発表レジュメの質を高めることも目標とする。  概要：自己の興味関心に基づいて設定したテーマについて学生個人による発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。 個人発表のプロセスは、選択テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティアなどから導き出された考察をレジュメにまとめた上で発表を行う。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。一人2回以上の発表を予定している。  ※講義科目の「家族社会学(中谷担当)」を履修済みまたは同時履修すること。
<b>評価方法</b> (1) ディスカッション参加状況 (2) 発表内容 (2) 演習レポート内容 上記の総合評価による。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 専門演習(高齢者福祉論)Ⅰ</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：古谷野 亘
<b>講義の目標及び概要</b> 高齢化と高齢社会、高齢者保健福祉の問題を取り上げ、文献・資料の講読と解釈、討議などを通して認識を深めることを目的とする。ゼミの運営は互選幹事を中心として、参加者が自主的に行うことを原則とする。
<b>評価方法</b> ゼミへの貢献度
<b>教科書</b> 古谷野亘・安藤孝敏『改訂 新社会老年学：シニアライフのゆくえ』ワールドプランニング

<b>選必 専門演習(高齢者福祉論)Ⅱ</b> <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：古谷野 亘
<b>講義の目標及び概要</b> 高齢化と高齢社会、高齢者保健福祉の問題を取り上げ、文献・資料の講読と解釈、討議などを通して認識を深めることを目的とする。ゼミの運営は互選幹事を中心として、参加者が自主的に行うことを原則とする。
<b>評価方法</b> ゼミへの貢献度
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選必 専門演習Ⅰ(障害者福祉論)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：増田 公香				
<b>講義の目標及び概要</b>				
【内容】 本演習は、障害を持つ人々の「生活課題」について考えていく。 【カリキュラム上の位置づけ】 いわゆるゼミとして位置づける 【学びの意義と目標】 殊に専門演習Ⅰでは、実践現場の見学等をおしその基本的枠組みについて学習する。 具体的展開については、受講生と話し合った上で決めたい。				
<b>評価方法</b>				
1) 毎回の授業の参加状況及びディスカッションの参加度 (70%) 2) レポート (30%)				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習Ⅱ(障害者福祉論)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：増田 公香				
<b>講義の目標及び概要</b>				
【内容】 本演習は、障害を持つ人々の「生活課題」について考えていく。 【カリキュラム上の位置づけ】 いわゆるゼミとして位置づける 【学びの意義と目標】 殊に専門演習Ⅱでは、専門演習Ⅰで学んだことを基礎に文献研究へと展開する。				
<b>評価方法</b>				
1) 毎回の授業の参加状況及びディスカッションの参加度 (70%) 2) レポート (30%)				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習Ⅰ(福祉実践論)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：野口 祐子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 障害者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。 専門演習Ⅰでは小グループでの研究を中心に行います。まずは問題意識を持って、研究テーマを定め、文献研究や調査などを行いながら理解を深め、レポート作成と発表を行います。 同時にそれらの研究に必要な情報収集、レポート作成、プレゼンテーション等の基礎的技術の学習も行います。 2. カリキュラム上の位置づけ 卒業研究は個人で研究を行いますが、その前段階としてグループで研究を行います。ここでは研究の基礎的な方法を学びます。 3. 学びの意義と目標 グループで研究を行うことにより、ゼミの仲間との共同作業やディスカッションに慣れ、研究の進め方全般を理解し、研究の面白さを体験することを目標にします。				
<b>評価方法</b>				
出席状況・参加姿勢50%、レポート・発表50%で評価します。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 専門演習Ⅱ(福祉実践論)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：野口 祐子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 障害者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。小グループで研究テーマを定め、文献研究や資料収集、調査等を実践しながら課題を整理し、考察を行っていきます。また、相互に研究経過を報告し、ディスカッションをすることにより、理解を深めます。そして、研究の成果として、グループによる発表、個人によるレポート作成を行います。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習Ⅰに引き続き、グループで研究を行いません。専門演習Ⅰで残された課題を振り返りつつ、卒業研究に向けた準備として、研究の枠組みを理解し、より深く考察を行います。 3. 学びの意義と目標 個人が自立して研究テーマやその方法を考え、研究を進めていきます。そして、学生同士で主体的にディスカッションを行い、自分の言葉で成果をまとめていくことを目標にします。				
<b>評価方法</b>				
出席状況・参加姿勢50%、レポート・発表50%で評価します。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

<b>選必 専門演習(地域福祉論)Ⅱ</b>	<b>春 週1回 1単位</b>
担当者：牛津 信忠	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉演習受講者各自が演習(地域福祉論)Ⅰにおける研究テーマをいっそう深め、その研究の地域福祉論上の位置と役割を明確にしていくことを目指し演習が進められる。 〈カリキュラム上の位置づけ〉専門研究の糸口を開く演習Ⅰに基礎付けられ、さらに学びを深め専門研究Ⅱとして、選び取った専門課題についての知識と思考力の高度化を図る演習である。 〈学びの意義と目標〉自らの研究が、地域福祉ネットワークの形成及びその質的向上のためにどのようなインパクトを与えることができるかを、それぞれ課題解明を通して具体的に問うてもらおう。さらに、自らの研究テーマに関連する知識を書物、官公庁及び各種民間組織・団体の資料の収集と読破により広げ、自らの学びの独善性から離脱していく努力を着実に進めることを目指す。そうした努力と共に、自らの研究の価値論上の位置づけにも注意を向け、前提されている価値について学ぶことをも目標とする。	
<b>評価方法</b> 各自のテーマに即した発表とその発表時における質疑応答、さらに学期末に提出を義務付けるレポートにより評価を行う。発表と質疑応答30%、最終レポートを70%として評価する。	
<b>教科書</b> 牛津信忠他編著『地域福祉支援論』久美出版	

<b>選必 専門演習(レクリエーション論)Ⅰ</b>	<b>秋 週1回 1単位</b>
担当者：梅津 迪子	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉「生き方」や「価値観」によってレクリエーション活動は自由時間の過ごし方が異なる。福祉施設現場のレク活動は一方的な指導者による集団指導が多い。レクの本質や概念を再検討し、なぜ集団指導による活動が多いのかをさまざまな視点から学ぶ。 〈カリキュラム上の位置づけ〉福祉施設で実践しているレク活動の実践を踏まえ、「個人」を主体とした自由時間の過ごし方をQOLの視点から研究する。また、支援者自身のQOLや生活文化を享受する方法も模索する。 〈学びの意義と目標〉福祉現場(ユニークなレク実践をしている施設)を見学する。同時に、生活に密着した出来事から課題を見つけ、発表し意見交換を行う。それを重ねることで問題点やその背景に迫ったり、考え方を培う。	
<b>評価方法</b> 出席率重視 50% 課題の発表、意見交換 40% 授業にのぞむ態度・意欲 10%	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選必 専門演習(レクリエーション論)Ⅱ</b>	<b>春 週1回 1単位</b>
担当者：梅津 迪子	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉「専門演習Ⅰ」を踏まえ、自己実現や自己開発をするための能力を養っていく。また、レク支援ができるようにコミュニケーション力も高め、文化・教養の幅を拡大する。合宿を通して、福祉現場の訪問や芸術鑑賞を行う。 〈カリキュラム上の位置づけ〉自分のQOLの向上をはかり、自己開発能力を高めるための実践をする。また、すぐ役立つ支援方法も学習する。 〈学びの意義と目標〉よりよく生きるための自己開発能力と自己教育力を高める学び方を学ぶ。同時に、デンマークのきり絵細工、フランスのカルトナージュ製作、カード作成、園芸、キャンドル作成等も実践する。	
<b>評価方法</b> 出席率の重視 50% 研究課題の発表、意見交換、課題提出 40% 授業にのぞむ態度・意欲 10%	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選必 専門演習(カウンセリング論)Ⅰ</b>	<b>秋 週1回 1単位</b>
担当者：長谷川 恵美子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 心理学など、「ひと」に関する研究テーマの中で、自ら問題意識を持って、この分野に関連するトピックを調べ、まとめて、発表するという研究方法の基礎を身につけることを目的としている。 2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科、心理学系、ゼミ科目である。(専門演習Ⅰ⇒専門演習Ⅱ⇒卒業研究)の順に履修する必修科目である。 3. 学びの目標 心理学系の研究方法の基礎を身につけることを目的としている。なお、受講者と相談しながら、また受講者の人数に応じ、文献講読、基本的な心理療法の実習などを適宜行う予定である。	
<b>評価方法</b> 発表内容、授業への貢献度、課題レポート	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選必</b> 専門演習(カウンセリング論)Ⅱ <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：長谷川 恵美子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 心理学など、「ひと」に関する研究テーマの卒業研究をひかえ、自ら問題意識を持って、この分野に関連するトピックを調べ、まとめて、発表するという研究方法を身につけることを目的としている。 2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科、心理学系、ゼミ科目である。(専門演習Ⅰを履修後、専門演習Ⅱ⇒卒業研究の順に履修する必修科目である。) 3. 学びの目標 心理学系の研究方法の基礎を身につけることを目的としている。なお、受講者と相談しながら、また受講者の人数に応じ、文献読誦、基本的な心理療法の実習などを適宜行う予定である。
<b>評価方法</b> 報告発表、学期末課題レポート
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必</b> 専門演習(人間関係論)Ⅰ <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：牟田 隆郎
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本演習では、さまざまな素材を媒介にして、自分自身とみんなとの同じところ・違うところ、自分自身とある他者との同じところ・違うところを体験的に習得し、「自分」がどのような人間であるのかに気付く。そして、他者を受け止め、自分を他者にどのように伝えたら、滑らかな人間関係を築けるのか、その基礎について探求する。 2. カリキュラム上の位置づけ 人間理解をする上での基礎的なものとなる。 3. 学びの意義と目標 「自分」というもののでき方に気付き、合わせて、他者との円滑な交流ができるようになることを目指す。
<b>評価方法</b> 平常点
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必</b> 専門演習(人間関係論)Ⅱ <span style="float: right;">春 週1回 1単位</span>
担当者：牟田 隆郎
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本演習では、さまざまな素材を媒介にして、自己理解に基づく有効な自己表現とはどのようなものかについて探索する。 合わせて、集団場面で他者が発する種類の表現を、どのように受け止め、どのように理解したらよいのかも追求する。場合によっては集団討議の形をとり、他者の中の自分のあり方についての洞察を深める。 2. カリキュラム上の位置づけ 人間理解をする上での基礎から応用にまでわたるものとなる。 3. 学びの意義と目標 他者の中での「自分」のいろいろなあり方に気付くとともに、有効な自己表現の方法を探る。
<b>評価方法</b> 平常点
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必</b> 専門演習(精神保健福祉論)Ⅰ <span style="float: right;">春 秋 週1回 1単位</span>
担当者：相川 章子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 精神保健福祉およびソーシャルワークに関する基礎的なことを学ぶためにおこなう、わかりやすい基礎的な文献を指定し講読する。文献の読み方、文献から何を学び、疑問を持ち、自らの関心ごとや疑問をどのように広げ、またつなげていくかを学ぶ。また、ゼミ内での発表およびディスカッションを経験することによって自らの意見を表現していくことを学ぶ。 2. カリキュラム上の位置づけ 精神保健福祉およびソーシャルワークに関する基礎的なことを学び、それをもとに自らの関心や疑問を表現し、自ら疑問について調べてみる段階。「研究」とはなにかをつかむ。 3. 学びの意義と目標 それぞれがもつ漠然とした関心や疑問を表現していくことが重要な作業となる。そのために広くさまざまな文献を読み、豊かな発想力を養い、それらを表現していくことに慣れていく。
<b>評価方法</b> (1)出席状況 (30%) (2)ディスカッション等への参加や発表 (30%) (3)レポート (40%)
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 専門演習(精神保健福祉論)Ⅱ</b>	<b>春</b>	<b>週1回</b>	<b>1単位</b>
担当者：相川 章子			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1. 内容 専門演習Ⅰで深めた学びをもとに、各受講者の関心あるテーマについて文献を収集し先行研究を吟味する。文献講読を通し研究のすすめかた、仮説のたてかた、研究方法などについて学ぶ。また、研究レポートおよび研究活動のいずれかを選択し、各自関心のあるテーマについて取り組む。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習Ⅰにおいて精神保健福祉およびソーシャルワークに関する基礎的なことを学び、それをもとに自らの関心や疑問を具体化させる段階であり、基礎から応用へと展開させる位置づけである。 3. 学びの意義と目標 自分自身の関心のあるテーマをみつけていくことが重要な作業となる。そのためにさまざまな文献を調べ、読み、知識を広げ、豊かな発想力を養う。			
<b>評価方法</b>			
(1)出席状況 (30%) (2)ディスカッション等への参加や発表 (30%) (3)レポート (40%)			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

<b>選必 専門演習(ソーシャルワーク論)Ⅰ</b>	<b>秋</b>	<b>週1回</b>	<b>1単位</b>
担当者：助川 征雄			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1 内容 基本的な課題解決能力を高めるために、「フィンランドメソッド」などを活用し、考える力、表現する力、傾聴する力、集中する力などに関する演習を行う。あわせて、特定の書籍をテキストとして、社会福祉援助(精神障がい者援助)の現状理解や理想の実践などについて考え、今後の研究課題や進路選択(精神保健福祉士など)に役立てる。また、学会や研究会参加、社会見学、ゼミ合宿等も積極的に行う。 2 カリキュラム上の位置づけ 個別・小集団演習などを通じて、自分の強み(素質、能力、希望、身近な社会資源)を自覚し、社会福祉専門職に不可欠の常識や素養を身につけるための授業。 3 学びの意義と目標 各自の強み(ストレンクス)発見し、深化させる授業。			
<b>評価方法</b>			
出席率、平常点、ゼミレポートなどにより総合的に評価する。			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

<b>選必 専門演習(ソーシャルワーク論)Ⅱ</b>	<b>春</b>	<b>週1回</b>	<b>1単位</b>
担当者：助川 征雄			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1 受講学生の個別研究テーマ別の個別指導による研究内容の深化 2 卒業論文またはゼミ論文(8,000字以上)の作成指導 3 研究成果の評価と共有			
<b>評価方法</b>			
卒業論文またはゼミ論文の成果による。			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			

<b>選必 専門演習(福祉倫理)Ⅰ</b>	<b>秋</b>	<b>週1回</b>	<b>1単位</b>
担当者：左近 豊			
<b>講義の目標及び概要</b>			
1、内容 ソーシャルワークに携わる中で、どのように判断し、決断し、行動し、生きるかが問われる局面に遭遇する。その時に生じる倫理的葛藤、そしてそこでなされる倫理的判断基準等について、文献、発表、討論、レポート作成を通して考察する。 2、カリキュラム上の位置づけ 専門演習 3、学びの意義と目標 先人の思想に学び、ゼミの仲間との議論を踏まえ、自己の視座を確認し再検討する。			
<b>評価方法</b>			
毎回の演習への参加 25% 発表 35% レポート 40%			
<b>教科書</b>			
授業の中で指示する			



選必 専門演習(福祉倫理)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：左近 豊				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 ソーシャルワークに携わる中で、どのように判断し、決断し、行動し、生きるかが問われる局面に遭遇する。その時に生じる倫理的葛藤、そしてそこでなされる倫理的判断基準等について、文献、発表、討論、レポート作成を通して考察する。				
2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習				
3. 学びの意義と目標 先人の思想に学び、ゼミの仲間との議論を踏まえ、自己の視座を確認し再検討する。				
<b>評価方法</b>				
毎回の演習への参加 25% 発表 35% レポート 40%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(児童福祉論)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：池 弘子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 各自が選択したテーマについて、専門演習Ⅱで調べてきたことを検討し、テーマをしばって卒業研究レポートにまとめる方向づけをする。				
2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習Ⅰ、Ⅱが基礎となる。				
3. 学びの意義と目標 卒業研究レポートを書く準備をする。				
<b>評価方法</b>				
(1)出席状況 40% (2)演習への参加度 30% (3)レポート 30%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(児童福祉論)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：池 弘子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容 各自が選択したテーマについて、専門演習Ⅰ、Ⅱで学び、卒業研究Ⅰで準備してきたことに基づいて、卒業研究にまとめる。				
2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究Ⅰが基礎となる。				
3. 学びの意義と目標 卒業研究レポートを執筆する。				
<b>評価方法</b>				
(1)出席状況 20% (2)演習への参加度 20% (3)レポート 60%				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 卒業研究(子ども家庭論)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：中谷 茂一				
<b>講義の目標及び概要</b>				
目標：「専門演習Ⅰ・Ⅱ」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポート・卒業論文作成を目標とする。				
概要：自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足を要する。 卒業研究は、テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポートを提出してもらう。				
<b>評価方法</b>				
(1) 卒業研究レポート内容 (2) ディスカッション参加状況 上記の総合評価による。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(子ども家庭論)Ⅱ

秋 週1回 1単位

担当者：中谷 茂一

講義の目標及び概要

目標：「卒業研究Ⅰ」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポートを目標とする。

概要：自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をとする。

テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポートを提出してもらう。

評価方法

- (1) 卒業研究レポート内容
- (2) ディスカッション参加状況  
上記の総合評価による。

教科書

授業の中で指示する

選必 卒業研究(高齢者福祉論)Ⅰ

秋 週1回 1単位

担当者：古谷野 亘

講義の目標及び概要

高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について、個人もしくはグループで卒業研究を行う者に、個別に指導する。また、卒業研究の成果を論文にまとめようとする者については、選考のうえ、必要に応じて個別に指導する。

評価方法

研究成果をレポートにまとめて提出させる。

教科書

授業の中で指示する

選必 卒業研究(高齢者福祉論)Ⅱ

春 週1回 1単位

担当者：古谷野 亘

講義の目標及び概要

高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について、個人もしくはグループで卒業研究を行う者に、個別に指導する。また、卒業研究の成果を論文にまとめようとする者については、選考のうえ、必要に応じて個別に指導する。

評価方法

研究成果をレポートにまとめて提出させる。

教科書

授業の中で指示する

選必 卒業研究(障害者福祉論)Ⅰ

秋 週1回 1単位

担当者：増田 公香

講義の目標及び概要

【内容】

本演習は、障害を持つ人々の「生活課題」について考えていく。

【カリキュラム上の位置づけ】

いわゆるゼミとして位置づける

【学びの意義と目標】

殊に専門演習Ⅰでは、実践現場の見学等とおしその基本的枠組みについて学習する。

具体的展開については、受講生と話し合った上で決めたい。

評価方法

- 1) 毎回の授業の参加状況及びディスカッションの参加度 (70%)
- 2) レポート (30%)

教科書

授業の中で指示する

選必 卒業研究(障害者福祉論)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：増田 公香				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>【内容】            本演習は、障害を持つ人々の「生活課題」について考えていく。            【カリキュラム上の位置づけ】            いわゆるゼミとして位置づける            【学びの意義と目標】            卒業研究Ⅱでは、本学におけるゼミの最終総括として卒業レポートの作成に取り組むことをその目標とする。方法論については、学生と相談して決める。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席状況 60% 卒業レポート 40%				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(衛生学・公衆衛生学)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：中村 啓男				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1) 内容            各自、テーマを設定して、実験・観察・見学および文献調査を行い、その成果をレポートにまとめる。発表・討論を行って、さらに発展させる。レポートの書き方およびプレゼンテーションの方法についても、訓練を継続する。            (2)カリキュラム上の位置づけ            学科の必修科目「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の締めくくりとなる。卒業論文の前提となる。            (3)学びの意義と目標            卒業研究Ⅱは、人間福祉学科での学びの総大成となる。「人間福祉学」を念頭に、「衛生学・公衆衛生学」の関連分野からテーマを設定し、自ら調査、研究、発表(プレゼンテーション)およびレポートにまとめる。卒業論文にも是非、挑戦してほしい。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席状況、発表・討論、レポート				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

選必 卒業研究(福祉環境論)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：野口 祐子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容            障害者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。レポート作成、発表、ディスカッションを繰り返し、研究の進め方についての理解をいっそう深めながら、各自の研究を充実させ、卒業研究レポートや卒業論文に向けた基礎固めを行います。            2. カリキュラム上の位置づけ            これまで演習で学んできたことを基礎として、いっそう研究を充実させて行きます。この研究は4年生の卒業研究Ⅱや卒業論文まで継続します。            3. 学びの意義と目標            研究の中身を充実させ、着実に研究を進めていきます。そして、学生同士で主体的にディスカッションを行い、自分の言葉で成果をまとめていくことを目標にします。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席状況・参加姿勢50%、レポート・発表50%で評価します。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(福祉環境論)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：野口 祐子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容            障害者・高齢者等が直面する諸問題を、まち・住まい・道具等の物理的な環境の視点で捉え、研究を行います。卒業研究Ⅰに引き続き、レポート作成、発表、ディスカッションを繰り返し、研究の進め方についての理解をいっそう深めながら、各自の研究を充実させ、卒業研究レポートの完成または卒業論文の基礎固めを行います。            また、各自の研究とは別に、数回グループ研究を行い、学生主体でディスカッションや見学会などの企画を行います。            2. カリキュラム上の位置づけ            卒業研究Ⅰで取り組んだ研究をより充実させ、卒業研究、卒業論文としてまとめます。            3. 学びの意義と目標            これまで学んできたことを基礎として、スパイラルアップしながら、いっそう研究を充実させて行きます。そして、研究の意義や面白さ、充実感を体験していただきたいと思います。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席状況・参加姿勢50%、レポート・発表50%で評価します。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(地域福祉論)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：牛津 信忠				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉 専門演習Ⅱでテーマ設定して書き上げたレポートをもとに、それをさらに掘り下げて、専門的な研究領域を持つことを示す卒業レポートを作成して行くための準備を行う。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 専門演習で研究した内容をさらに質量ともに高度化させて、自分の見解をまとめて行く。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 専門演習で研究した地域福祉の課題を体系的に学び進め、章立て、節立てを明確にし、それぞれについて個別指導を受けながら全体のレポート構成を固めていく。そのプロセスで他の受講者からの批判検討を自ら咀嚼して行く努力をし、それによる自己研鑽を図る。</p>				
<b>評価方法</b>				
<p>テーマに即した発表とその発表時における質疑応答、さらに学期末最終レポートによって評価する。授業の折の発表及び質疑応答を30%、最終レポートを70%として総合評価を行う。</p>				
<b>教科書</b>				
<p>牛津信忠他編著『地域福祉支援論』久美出版 牛津信忠著『社会福祉における相互的人格主義Ⅱ』久美出版</p>				

選必 卒業研究(地域福祉論)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：牛津 信忠				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉 卒業研究Ⅰで各自が設定したテーマの内容をさらに深く掘り下げて、地域福祉の独自の専門的な研究領域を持つことを目指し、それについての卒業レポートを作成して行く。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 卒研Ⅰで研究した内容をさらに質量ともに高度化させて、卒業にあたり、独自の(地域福祉)研究を卒業レポートにまとめる。この成果をもって卒業研究とする。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 地域福祉の課題を体系的に学び進め、個別指導を受けながらテーマに応じたレポート構成を固め、当該課題の解明と論理的な纏めを行う。また研究が一応纏まった段階で、各自にそのつど発表を求める。このなかで他のメンバーとの討論を経て、内容のさらなる充実をはかる。それにより相互の意見交換の中で創造的な行為が出来る人材を養うことをも目的とする。成果は、研究室に保存し、後輩の閲覧に供する。</p>				
<b>評価方法</b>				
<p>テーマに即した発表とその発表時における質疑応答、さらに学期末最終レポートによって評価する。授業の折の発表及び質疑応答を30%、最終レポートを70%として総合評価を行う。</p>				
<b>教科書</b>				
<p>牛津信忠他編著『地域福祉支援論』久美出版 牛津信忠著『社会福祉における相互的人格主義』久美出版</p>				

選必 卒業研究(レクリエーション論)Ⅰ		秋	週1回	1単位
担当者：梅津 迪子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉 「専門演習Ⅰ・Ⅱ」で学んだ内容を踏まえ、卒業研究の課題を設定し、先行研究・文献・資料の収集を行う。同時に、現場でのレク支援の方法(立案、実践、評価)も学ぶ。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 具体的なレク活動の見学や実践体験を重ねながら、人とのコミュニケーション力や接遇方法(マナー)を身につける。同時に各個人の生活文化を豊かにすること、研究課題も身近なテーマからレクの本質を学ぶ。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 さまざまな体験・実践を通して、個々の「生き方」や「価値観」を発見し、自己開発能力を高め、自己教育力を養う方法を身につける。そして、各自の価値観を反映した自由時間の過ごし方を行動力で示して欲しい。</p>				
<b>評価方法</b>				
<p>出席率重視 50% 授業にのぞむ態度・意欲 10% 発表・意見交換 レポート提出 40%</p>				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

選必 卒業研究(レクリエーション論)Ⅱ		春	週1回	1単位
担当者：梅津 迪子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>〈内容〉 「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ」で蓄積した研究を論文として完成できるようにする。</p> <p>同時に、豊かな生活文化を享受できるように実技製作(キャンドル、カルトナージュ、陶器、園芸)を体験し、芸術(美術・音楽・映画・スポーツ)鑑賞も行う。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉 自己のQOLを追求すること、豊かな感性と他者への配慮、幅広い教養とはさまざまな体験の中から「何か」を気付くことから生まれる。各自の生活文化のレベルを向上させ、自己教育力を養う。</p> <p>〈学びの意義と目標〉 さまざまな体験を通して、自分の「生き方」の方向を定め、「何に価値」をもつのか、また、豊かな人間性と生活文化を享受できる能力を養う。</p>				
<b>評価方法</b>				
<p>出席重視 50% 授業にのぞむ態度・意欲 10% 発表・意見交換・レポート提出 40%</p>				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

<b>選必 卒業研究(カウンセリング)Ⅰ</b> 秋 週1回 1単位
担当者：長谷川 恵美子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 目的 どのように人間の心や行動を理解し、どのように検証し、どのように記述するのか。まずは、研究目的、参考文献の検索、先行研究の吟味、そして独自の研究デザインについて具体的に学ぶ。心理学など、「ひと」に関する卒業研究テーマのもと、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。 2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科、心理学系、ゼミ科目である。(専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ 履修後に履修する必修科目である。) 3. 学びの意義と目標 心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法をみにつけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。
<b>評価方法</b> 授業への参加状況 報告発表
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業研究(カウンセリング)Ⅱ</b> 春 週1回 1単位
担当者：長谷川 恵美子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 目的 心理学など、「ひと」に関する卒業研究テーマのもと、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。 特に、自らの研究テーマを、どのようにまとめ、ひとに伝えるのかなど、よりよい報告の仕方や発表方法に関してディスカッションすることにより、発表技術の向上をめざす。 2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科、心理学系、ゼミ科目である。(専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 履修後に履修する必修科目である。) 3. 学びの意義と目標 心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法をみにつけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。
<b>評価方法</b> 授業への参加状況 報告発表
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業研究(人間関係論)Ⅰ</b> 秋 週1回 1単位
担当者：牟田 隆郎
<b>講義の目標及び概要</b> 1 内容 本演習では「卒業研究」作成提出に取り組む。 各自興味あるテーマを選択し、集団討議のかたちで、方法をお互いに練り上げ、結果をお互いに検討し、考察を導く。 テーマは「人間関係」に関するものであれば、原則なんでも構わない。 大学生としてこの際究明したいこと、証明したいこと、まとめたいことなどに取り組むことになる。 2 カリキュラム上の位置付け これまでの演習の総仕上げの意味を持ち、研究者としての基本的態度を獲得する。 3 学びの意義と目標 自らが興味を抱いたテーマの解明に努めるとともに、他者との共同作業的側面も合わせて経験し、社会人となるうえでの基本的人間関係能力をも獲得する。
<b>評価方法</b> 平常点
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業研究(人間関係論)Ⅱ</b> 春 週1回 1単位
担当者：牟田 隆郎
<b>講義の目標及び概要</b> 1 内容 本演習では「卒業研究」作成提出に取り組む。 各自興味あるテーマを選択し、集団討議のかたちで、方法をお互いに練り上げ、結果をお互いに検討し、考察を導く。 テーマは「人間関係」に関するものであれば、原則なんでも構わない。 大学生としてこの際究明したいこと、証明したいこと、まとめたいことなどに取り組むことになる。 2 カリキュラム上の位置付け これまでの演習の総仕上げの意味を持ち、研究者としての基本的態度を獲得する。 3 学びの意義と目標 自らが興味を抱いたテーマの解明に努めるとともに、他者との共同作業的側面も合わせて経験し、社会人となるうえでの基本的人間関係能力をも獲得する。
<b>評価方法</b> 平常点
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選必 卒業研究(精神保健福祉論)Ⅰ			
春	秋	週1回	1単位
担当者：相川 章子			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 専門演習Ⅱで深めた学びをもとに、各受講者の関心あるテーマにおいて、研究レポート および研究活動それぞれ選択したことについてまとめる。 2. カリキュラム上の位置づけ 自らの感心ごとを具体化させ、まとめる応用的な位置づけである。 3. 学びの意義と目標 自分自身の関心のあるテーマに真剣に取り組み、研究レポートおよび研究活動を仕上げるプロセスの中で、豊かな発想力、想像力、調査力、実行力、実践力を身につけ、知識 を獲得し、自らの視点を身につける。  *卒業研究レポートを選択した学生は、研究レポートの提出をする。 *卒業研究活動の実践を選択した学生は、卒業研究活動の実践とその振り返りレポートを 提出する。 *暫時、個別指導を行う。			
<b>評価方法</b> (1)出席状況 (30%) (2)ディスカッション等への参加や発表 (30%) (3)レポート (40%)			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

選必 卒業研究(精神保健福祉論)Ⅱ			
春	週1回	1単位	
担当者：相川 章子			
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 卒業研究Ⅰでしばらくこんだ各受講者の研究テーマについて、研究レポートおよび研究活動のそれぞれ選択した内容について主体的に調べ、作業をすすめる、まとめ、発表をする。 2. カリキュラム上の位置づけ 卒業研究の総仕上げ。 3. 学びの意義と目標 自分自身の関心のあるテーマに真剣に取り組み、研究レポートおよび研究活動を仕上げるプロセスの中で、論理的な考え方や思考の組み立てについて学ぶ。これまでに培った想像力や調査力、実行力に磨きをかけ、それらを整理し、表現することを学ぶ。  *卒業研究レポートを選択した学生は、研究レポートの提出をする。 *卒業研究活動の実践を選択した学生は、卒業研究活動の実践とその振り返りレポートを 提出する。 *暫時、個別指導を行う。			
<b>評価方法</b> (1)出席状況 (30%) (2)ディスカッション等への参加や発表 (30%) (3)レポート (40%)			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

選必 卒業研究(ソーシャルワーク論)Ⅰ			
秋	週1回	1単位	
担当者：助川 征雄			
<b>講義の目標及び概要</b> 1 卒業研究テーマの設定指導 (個別、集団) 2 卒業研究の個別指導 3 卒業研究の評価と助言			
<b>評価方法</b> 論文 (レポート) の成果、平常点などで評価する。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

選必 卒業研究(ソーシャルワーク論)Ⅱ			
春	週1回	1単位	
担当者：助川 征雄			
<b>講義の目標及び概要</b> 広く社会福祉領域の課題について、個人もしくはグループで卒業研究する者に対し、個別指導を行う。論文にまとめるものについては選別の上、必要に応じて指導する。			
<b>評価方法</b> 研究成果をレポートにまとめて提出させる。			
<b>教科書</b> 授業の中で指示する			

<b>選必 卒業研究(福祉倫理) I</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：左近 豊 <b>講義の目標及び概要</b> 福祉倫理に関するテーマを各自が探求し、卒業論文、卒業研究の作成のために研究発表、討論をおこなう。
<b>評価方法</b> 研究レポート
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業演習(児童福祉論)</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：池 弘子 <b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 卒業研究Ⅱで提出・報告した卒業研究レポートの資料不足の部分や十分検討できていない部分等について取り上げ、よりよい卒業研究レポートとし、余裕があればさらに発展させる。 2. カリキュラム上の位置づけ 専門演習Ⅰ、Ⅱ、卒業研究Ⅰ、Ⅱに続く最後のゼミであり、ゼミの総仕上げとなる。 3. 学びの意義と目標 卒業研究レポートを、形式、内容ともによりよいものとし、さらに発展させることで、卒業研究レポートのテーマに関する知識をより確かなものとするとともに、達成感をもってほしい。
<b>評価方法</b> (1) 出席状況60% (2) レポート40%
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業演習(子ども家庭論)</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：中谷 茂一 <b>講義の目標及び概要</b> 目標：「卒業研究Ⅰ」における発表・ディスカッションを経て気づいた課題を再検討し、発展させながら、研究経過の個人発表および他学生との意見交換をとおして、児童福祉領域の理念・制度・諸事象について考察を深める。また、自己の認識の再検討と問題意識の明確化をはかると同時に卒業研究レポート・卒業論文作成を目標とする。 概要：自己のテーマについて学生個人による研究経過発表をしたあと全員でディスカッションを行う。適宜、教員の講義による補足をする。 卒業研究は、テーマの問題意識を明確化した上で、研究目的を設定し、適切な研究方法を計画する。テーマについて複数の図書、論文、資料の収集・検討やボランティア、見学などから導き出された研究結果を踏まえ、科学的な考察をすすめていく。「感想」レベルにとどまることなく、科学的根拠を提示しながら論証をすすめてもらう。卒業論文提出の選択にかかわらず卒業研究レポートを提出してもらう。
<b>評価方法</b> (1) 卒業研究レポート内容 (2) ディスカッション参加状況 上記の総合評価による。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>選必 卒業演習(高齢者福祉論)</b> <span style="float: right;">秋 週1回 1単位</span>
担当者：古谷野 亘 <b>講義の目標及び概要</b> 高齢化と高齢社会、高齢者問題、高齢者保健福祉の領域の課題について、個人もしくはグループで卒業研究を行った者から、研究の成果と反省点について報告してもらい、個別に指導する。また、卒業研究の成果を論文にまとめようとしている者に対し個別に指導する。
<b>評価方法</b> 研究成果をレポートもしくは卒業論文として提出させる。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選必 卒業演習(障害者福祉論) 秋 週1回 1単位
担当者：増田 公香
<b>講義の目標及び概要</b> 卒業研究が終了した方々に、卒業までにさらに自分の関心領域の学習の促進、あるいは関心領域の拡大を行い大学における専門演習の総まとめとすることをその目的とする。 具体的には、参加者と相談し、ゼミの進め方を決めていく。
<b>評価方法</b> 授業への出席状況 90% レポート 10%
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選必 卒業演習(衛生学・公衆衛生学) 秋 週1回 1単位
担当者：中村 啓男
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容 新聞、雑誌等の中から、関連する主題、興味ある主題を選び、各自が学ぶとともに、発表・討論を行う。 (2)カリキュラム上の位置づけ 卒業前の期間、卒業後を展望して「人間福祉学」の学びを続ける必修科目である。 (3)学びの意義と目標 雑誌小論文等を持ち寄り、その主題について討論する。基本的な知識を確認するとともに、報告・発表・討論についても訓練をつづける。
<b>評価方法</b> 出席、発表・討論の内容
<b>教科書</b> プリントを配布する

選必 卒業演習(福祉環境論) 秋 週1回 1単位
担当者：野口 祐子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 専門演習Ⅰから卒業研究Ⅱで取り組んできた研究でやり残したことや、あるいは、これまでとは異なる角度からとらえ直すなど、各自の関心に沿って研究を行います。 2. カリキュラム上の位置づけ これまで取り組んできた研究活動を振り返り、整理を行うとともに、それにとどまらない広い視野で探求します。 3. 学びの意義と目標 社会に出て行く直前の段階であるため、この卒業演習を通して、社会人として必要とされる、コミュニケーション能力、課題発見力、創造力、実行力、積極性、責任感などをあわせて身につけることができるように授業を進めます。
<b>評価方法</b> 出席状況・参加姿勢50%、レポート50%で評価します。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

選必 卒業演習(地域福祉論) 秋 週1回 1単位
担当者：牛津 信忠
<b>講義の目標及び概要</b> 地域福祉の実際について、ここの研究報告書をベースに自由な討論を行う。その討論の中から、今後の就職した社会福祉領域、それに留まらず地域生活や一般企業の業務においても、地域福祉的発想が、役立ち、かつ重要であることを学んでいく。 さらに、各自のテーマを越えて、他の学友のテーマに接し視野を広げて行くとともに、関連領域に関する広い視野を養うことも重視する。
<b>評価方法</b> 自己のテーマについて明確な問題意識のもとに人に伝えるとともに、人の語る内容を確実に理解する。その能力を地域福祉という具体の中で養っていく。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する



選必 卒業演習(レクリエーション論) 秋 週1回 1単位	
担当者: 梅津 迪子	
<b>講義の目標及び概要</b> (内容) 「専門演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ」で学習したことを踏まえて、宮本常一『民俗学への旅』、松岡正剛『花鳥風月の科学』を読み合い、各自のQOL(生活の質=生活文化)を高める。一方、制作活動や芸術鑑賞も行う。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 「レクリエーションの本質」は生活文化を享受し豊かな充実した人生を送ることである。そのためには自由時間をどう使うかでその人の人生が決まってくる。物の見方(価値観)を養い、行動し、自己教育力を養う。 〈学びの意義と目標〉 学生にとって4年間の「自由時間をどのように使ったか」は今後の人生を大きく変えることになるであろう。宮本常一が旅立ちの時、父から贈られた十か条は「物の見方」の参考になる。再度、各自でこれからの「生き方」を考えてみよう。	
<b>評価方法</b> 出席率重視 50% 授業にのぞむ態度・意欲10% 発表・意見交換 40%	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選必 卒業演習(カウンセリング論) 秋 週1回 1単位	
担当者: 長谷川 恵美子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 目的 「ひと」に関する卒業研究テーマを多面的にとらえ、調査、実験、ディスカッションを通して理解を深めることを目的とする。さらに近年の研究成果などを踏まえながら、自らの研究をさらに完成度の高いものへと目指す。受講者は、自らの研究テーマ、方法論にそった研究を自主的に行い、その経過と結果を発表し全体で検討する。 2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科、心理学系、ゼミ科目である。(専門演習Ⅰ、専門演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ 履修後に履修する選択必修科目である。) 3. 学びの意義と目標 心理学系テーマでの卒業研究を完成させること、そして論理的な思考の展開方法をみにつけることが目標である。興味のあることを探し、見つけ、調べ、まとめ、発表するという、それぞれの各過程を楽しみながら学習をすすめる。	
<b>評価方法</b> 授業への参加状況 報告発表	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選必 卒業演習(人間関係論) 秋 週1回 1単位	
担当者: 牟田 陸郎	
<b>講義の目標及び概要</b> 1 内容 本演習では「卒業研究」作成提出に取り組む。各自興味あるテーマを選択し、集団討議のかたちで、方法をお互いに練り上げ、結果をお互いに検討し、考察を導く。テーマは「人間関係」に関することであれば、原則なんでも構わない。 大学生としてこの際究明したいこと、証明したいこと、まとめたいことなどに取り組むことになる。 2 カリキュラム上の位置づけ これまでの演習の総仕上げの意味を持ち、研究者としての基本的態度を獲得する。 3 学びの意義と目標 自らが興味を抱いたテーマの解明に努めるとともに、他者との共同作業的側面も合わせて経験し、社会人となるうえでの基本的人間関係能力をも獲得する。	
<b>評価方法</b> 平常点	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

選必 卒業演習(精神保健福祉論) 秋 週1回 1単位	
担当者: 相川 草子	
<b>講義の目標及び概要</b> 自らの研究テーマについてさらに探求する	
<b>評価方法</b> 出席、受講態度、グループへの参加等を総合的に評価	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

<b>選必</b> 卒業実習(ソーシャルワーク論) <b>秋</b> 週1回 1単位
担当者：助川 征雄
<b>講義の目標及び概要</b> 主に、卒業研究テーマの深化や進路選択の役に立つの授業を行う。必要なテキストを用い、あわせて、社会見学等も取り入れる。
<b>評価方法</b> 出席率、小レポート、平常点などで総合的に評価する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>資格科目</b> 社会福祉援助実習 <b>秋</b> 週1回 1単位
担当者：森島 健
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容 この授業では、主に地域リハビリテーションにおける援助の方法を学ぶ。まず地域リハビリテーションの理念を理解しその活動の枠組みを学習する。加えて2000年よりスタートした介護保険の役割についても概説する。後半は実習やグループワークを通して高齢者や障害者の身体面や心理面について学習し、そこからコミュニケーションスキルについても考えていく。教授方法は講義形式だけでなく、実習やワークショップを用いる。 (2)カリキュラム上の位置づけ 高等学校教諭1種免許状(福祉)における選択必修科目である。実習を通して高齢者や障害を持った方々の実態や福祉専門職としての職務の意義、内容を理解する。 (3)学びの意義と目標 地域リハビリテーションの理念を理解し、その活動の枠組みを学習することにより、地域リハビリテーションにおける介護保険の役割を概説できるようになって頂きたい。また高齢者や障害者において身体面の重要性のみならず心理面の重要性を理解することにより、コミュニケーションスキルを高めて欲しいと考えている。
<b>評価方法</b> 評価は定期テストの成績を基に判断する。論述試験5割、客観試験5割の配分にて、持ち込み禁止で実施予定である。
<b>教科書</b> プリントを配布する

<b>資格科目</b> 介護実習 <b>春</b> 週1回 1単位
担当者：高山 法子
<b>講義の目標及び概要</b> 習得した専門的な知識や技術に基づいて、施設や地域で生活している利用者との人間的なかかわりを深める。また、利用者のニーズへの理解・判断力そして、人権擁護の立場から、人が生きていくことの意味について学ぶ。さらに、施設運営、在宅ケアとの連携の方法について学び、総合的に福祉のあり方について理解する。
<b>評価方法</b> 出欠・授業態度・レポートによる総合評価とする。
<b>教科書</b> プリントを配布する

# 9 | 教 職 関 連 科 目

## 科目一覽

教育原理  
教育心理学  
教育経営  
教育社会学  
日本教育史  
発達心理学A  
発達心理学B  
教育方法論  
道德教育の研究  
特別活動の理論と方法  
社会科地理・歴史的分野教育法  
社会科公民的分野教育法  
社会科授業研究Ⅰ  
社会科授業研究Ⅱ  
公民科教育法  
地理歴史科教育法  
英語科教育法Ⅰ  
英語科教育法Ⅱ  
英語科教育法Ⅲ  
英語科教育法Ⅳ  
国語科教育法Ⅰ  
国語科教育法Ⅱ  
国語科教育法Ⅲ  
国語科教育法Ⅳ  
福祉科教育法Ⅰ  
福祉科教育法Ⅱ  
情報科教育法Ⅰ  
情報科教育法Ⅱ  
生徒指導論(進路指導を含む。)  
教育相談(カウンセリングを含む。)  
総合演習  
中学校教育実習  
高等学校教育実習  
介護等体験及び事前事後指導



教職 教育原理	春 週1回 2単位
担当者：小川 洋	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容：教職の入門科目であり、教育についての基礎的知識をひと通り取り扱う。指定の教科書と各回配布のプリント資料などを利用して、教育心理、文化人類学、教育制度、教育法規、教育社会学、比較教育、教育史など、広範にわたるテーマを取上げていく。自分が興味をもったテーマについて関連図書などを参考にしてレポートも作成してもらう。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：中学校、高等学校の教職課程履修者が最初に履修すべき科目である。基本的には1年次の秋学期に「教師論」とともに履修することが望ましい。教育実習の前年度までに履修を済ませないと実習が不可能になるので気をつけること。</p> <p>3. 学びの意義と目標：教育を「受ける」立場であった諸君が、教育を「ほどこす」立場に立つためには、教育に対する考え方を根本から洗いなおすことが必要となる。これらの学習を通じて、社会にとって不可欠な営みのひとつとしての教育を捉え、教育に対して、より豊かな視野を獲得するように努めてもらう。</p>	
<b>評価方法</b>	
(1) 授業出席状況 (20%)、(2) 小テスト：教科書の指定した範囲の予習・復習を前提とする (20%)、(3) レポート2本：授業で取り上げたテーマから関心をもったことを取り上げて作成 (20%)、(4) 期末テスト (40%)	
<b>教科書</b>	
田嶋一ほか編『やさしい教育原理 (新版)』有斐閣	

教職 教育心理学	秋 週2回 4単位
担当者：小山 義徳	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>教育心理学は「人間がどのように物事を学んでいるのか」ということと、「物事を教えるにはどうすればよいのか」ということを心理学的手法により明らかにしていく学問です。</p> <p>教育心理学は教師になる人だけに必要な学問であると誤解されがちですが、どのような仕事に就いても多くの知識を学ばなければなりません。また、数年経てば自らが後輩に仕事を教える立場になりますので、すべての学び、教える人にとって有用な学問です。</p> <p>授業では教育心理学の基礎的な知識を紹介していきます。しかし、学問としての教育心理学と教育現場で求められている実践の間にギャップが生じてしまっていないけません。そこで、授業では講義に加えて、学んだ知識をもとにしたレポートの提出や、他者の意見と自分の意見を対比するディスカッションを取り入れて、理論を実践の事例にできるだけ関連付けていく予定です。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席状況および小レポート、期末レポート、受講意欲・態度を総合して評価する。出席が3分の2に満たない場合は単位認定は行わない。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

教職 教育経営	春 週1回 2単位
担当者：小入羽 秀敬	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>【内容】本授業では教育を経営する2つの主体に着目する。1つめは行政である。文科省、教育委員会にスポットを当てて、行政がどのように教育を決定していくのか、学校に与えている影響について理解を深める。2つめは学校である。学校経営という視点から管理職や教員について実際のデータを用いながら理解を深め、考察を行う。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】教育に関する行政および学校の行動に着目しながら、教育経営の在り方について理論・実践の両面からアプローチする。</p> <p>【学びの意義と目標】国・地方自治体・学校それぞれが教育にどのような役割を果たしているのかについて理解できるようになること。また、学校が経営を行っていく上で国や地方自治体からどのような制度的な影響を受けているのか理解を深められるようになること。</p>	
<b>評価方法</b>	
(1) 授業出席状況 (25%)、(2) 授業への参加状況：授業中の発言やコメント作成など (10%)、(3) 中間レポート (15%)、(4) 期末テスト (50%)	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

教職 教育社会学	春 週1回 2単位
担当者：小川 洋	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容：教育に関するさまざまな現象を、質問紙調査、聞き取り調査あるいは統計などを用いて、その背景にあるものを解明しようとする研究分野である。近代以降、教育が学校という組織によって担われるようになると、学校教育の果たす社会的な役割がひじょうに大きくなる。時にそれは、関係者に過剰な期待を持たせたり過剰な負担を与えたりする。その結果しばしば教育には、「問題」が見出され、マスメディアや政治家たちによって争点化される。「問題」をどのように社会学的に理解できるのか、研究事例などの紹介をおとして、考えてもらうことを中心とする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：教育に関する幅広い視野をもつための教職課程科目。児童学科の幼稚園教諭・小学校教諭の課程においては必修、中学校・高校の教職課程においては、選択必修である。</p> <p>3. 学びの意義と目標：教員にとっては、目の前の生徒や保護者を自分自身の目で判断し、必要な教育活動について考える能力が求められる。マスメディアなどの言説に安易に依存しては、教師としての専門性を放棄することになる。授業を通じて、教育現象を冷静にみる能力と姿勢を育てることを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席は基本条件。学期中にレポート1本の提出を求める (25%)。授業中のミニレポート (25%)。期末テスト (50%)	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

<p>教職 日本教育史 春 秋 週1回 2単位</p>
<p>担当者：石津 靖大</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 日本教育史の概観を、教育思想と教育制度と学校教育の領域と おして展開することができるように、講義内容を用意している。 しかし、教育の歴史は、その国の政治、経済、文化などの社会的 状況と大きく関連している。そこで、講義の内容は、教育の思想 や制度、学校教育だけでなく、広く日本人の形成にかかわったと 考えられるところの、社会的、文化的な領域をも取りあつかうこ ととする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 基本的な日本教育史の概説で、学科の専門科目ならびに教職の 教養科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 日本教育史における基本的事項の理解が得られることを目指 す。そして、それらの事項の整理をすることによって、日本の教 育の流れの特色を知ることを目指す。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>評価の割合は、定期試験70%、出席状況30%である。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

<p>教職 発達心理学A 秋 週1回 2単位</p>
<p>担当者：池 弘子</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 発達心理学は、ひとの出生から死亡までの時間経過に伴う心身 の構造や機能の変化のしくみを研究する学問であり、ひとがより 豊かな発達・人間的成長をしたり、より充実した生活を送ったり するために役立つことが期待されている。発達心理学Aでは、乳 幼児期を取り上げる。まず、発達についての基本的な考え方につ いて学習した後、乳児期と幼児期の発達について学習する。乳児 期の発達に関しては、新生児の知覚能力について学習し、その後 の発達を、運動、「もの」とのかかわり、「ひと」とのかかわりの 観点から概観する。幼児期の発達に関しては、運動、言語、思考、 社会性の発達について学習する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科の学生にとっては、福祉の場において、子どもを 理解し、子どもとかかわったり子どもの発達を支援したりするた めの基礎的知識が得られる講義となるであろう。</p> <p>3. 学びの意義と目標 乳幼児期の子どもの発達に関する基礎的知識を得る。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>3分の2以上の出席を必要条件とし、試験の成績のみで評価する。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

<p>教職 発達心理学B 秋 週1回 2単位</p>
<p>担当者：池 弘子</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容 発達心理学は、ひとの出生から死亡までの時間経過に伴う心身 の構造や機能の変化のしくみを研究する学問であり、ひとがより 豊かな発達・人間的成長をしたり、より充実した生活を送ったり するために役立つことが期待されている。発達心理学Bでは、中 年期・老年期のひとたちがどのような身体的・社会的変化を体験 し、どのような心理的危機に陥ることが多いかについて知り、よ り豊かで充実した中年期・老年期を送っているひとたちは、そ のような危機にどのように対応しているか、について、学習する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学科の学生にとっては、福祉の場において、子どもや 高齢者の家族も含めた支援の対象となる中年期や老年期にあるひ とたちを理解し、よりよい支援をするための基礎的知識が得られ る講義となるであろう。</p> <p>3. 学びの意義と目標 中年期・老年期の様々な変化とそれに伴う危機を理解し、より よく生きるためにはそのような危機にどう対応すればいいかを学 ぶ。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>3分の2以上の出席を必要条件とし、試験の成績のみで評価する。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>プリントを配布する</p>

<p>教職 教育方法論 秋 週1回 2単位</p>
<p>担当者：新井 尚子</p>
<p><b>講義の目標及び概要</b></p> <p>1. 内容：従来の教室のあり方への疑問から始める。どのような 学習活動にはどのような環境がふさわしいかという、子どもたち の学習環境について考える。さらに教材開発のための資料収集、 伝えるための資料整理、理解を求めめるためのプレゼンテーショ ンの方法、話法などを体験しながら実践的に学習する。また、情報 機器やプレゼンテーション機器の利用法などについても積極的に 取り組んでもらう。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：「教育原理」や「教師論」を学び、 教職の基本を理解したうえで、技術的なものを含めた教育方法の あり方について学ぶ。多くの者には教科教育法の準備科目とな る。教育実習の条件科目であり、実習の前年度までに履修しなけ ればならない。</p> <p>3. 学びの意義と目標：資料を「集める」、伝えるために「整理す る」、「伝える」、「理解させる」ことの各プロセスに取り組むこ とによって、自ら技術を身につけ、向上させてほしい。</p>
<p><b>評価方法</b></p> <p>(1)授業出席状況(25%)、(2)課題作成(60%)、(3)授業内容のな かから関心を持ったテーマに関するレポート1本(15%)。期末テ ストは実施しない。</p>
<p><b>教科書</b></p> <p>文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房</p>

教職 道徳教育の研究	春 週1回 2単位
担当者：石井 昇	
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 〈内容〉 本講義は中学校教育の中で、道徳教育がどのように位置づけられているか、その歴史的変遷について理解するとともに道徳教育の意義・目的・方法等について実践事例をもとに考察する。指導資料を開発しそれをもとに学習指導案を作成する。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 教員免許を習得しようとする学生のために開設した。 (3) 〈学びの目標〉 1. 道徳教育の変遷について理解する。 2. 指導資料をもとに学習指導案を作成することができる。	
<b>評価方法</b> ・評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 ・出席状況を重視する（配点の35%）。	
<b>教科書</b> 文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 道徳編』日本文教出版	

教職 特別活動の理論と方法	秋 週1回 2単位
担当者：石井 昇	
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 〈内容〉 中学校では、生徒の人間関係や連帯感、集団の一員としての自覚や責任感の希薄化等が問題になるなかで、「特別活動」は最も大事な教育活動である。本講義はそのことをふまえて「特別活動」の学校教育に占める役割、「特別活動」の沿革、「特別活動」の3つの集団活動の理論について理解するとともに、学級活動について学習指導案を作成する。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 教員免許を習得しようとする学生のために開設した。 (3) 〈学びの目標〉 1. 「特別活動」の沿革、3つの集団活動について理解する。 2. 学級活動の学習指導案を作成することができる。	
<b>評価方法</b> ・評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 ・出席状況を重視する（配点の35%）。	
<b>教科書</b> 文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 特別活動編』ぎょうせい	

教職 社会科地理・歴史的分野教育法	春 週1回 2単位
担当者：石井 昇	
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 〈内容〉 戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を得て今日に至っている。中学校社会科においては、地理・歴史・公民の三分野に分化し、高等学校は地歴科、公民科に分離・独立した。本講義は中学校社会科教育における地理的分野と歴史的分野を中心に高等学校地歴科も視野に入れ、地理的分野・歴史的分野の内容について実践的な研究を行う。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 中・高の社会科の教育免許習得しようとする学生のために開設した。 (3) 〈学びの目標〉 1. 社会科の狙いである「公民的資質」の意味を理解する。 2. 中学校の歴史的分野の内容と学習方法、地理的分野の内容と学習方法を理解する。 3. 1,2をふまえて、地理的分野・歴史的分野の学習指導案を作成することができる。	
<b>評価方法</b> ・評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 ・出席状況を重視する。（配点の35%）	
<b>教科書</b> 文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 社会編』日本文教出版 平成22年度版『新編「新しい社会科」地理・歴史』東京書籍 平成22年度版『中学校社会科地図』帝国書院	

教職 社会科公民的分野教育法	秋 週1回 2単位
担当者：石井 昇	
<b>講義の目標及び概要</b> (1) 〈内容〉 戦後、新教育の花形として登場した社会科は幾多の変遷を得て今日に至っている。中学校社会科においては、地理・歴史・公民の三分野に分化し、高等学校は地歴科、公民科に分離・独立した。本講義は中学校社会科教育における公民的分野を中心に、高等学校の公民科も視野に入れ、中学校における『公民』教育の内容について実践的な研究を行う。 (2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 中・高の社会科の教育免許習得しようとする学生のために開設した。 (3) 〈学びの目標〉 1. 社会科の狙いである「公民的資質」の意味を理解する。 2. 中学校の公民的分野内容と学習方法を理解する。 3. 1,2をふまえて、公民的分野の学習指導案を作成することができる。	
<b>評価方法</b> ・評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 ・出席状況を重視する（配点の35%）。	
<b>教科書</b> 文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 社会編』日本文教出版 平成22年度版新編『新しい社会：公民』東京書籍	

教職 社会科授業研究Ⅰ		春	週1回	2単位
担当者：石井 昇				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1) 〈内容〉 昨年度履修した中学校三分野教育法の発展として、本講義を位置づける。本講義は総合的な学習、小学校社会科、高等学校地歴科・公民科との関連を考察する。さらに地理的分野・歴史的分野・公民的分野で「地域」に着目し、その事例について理解するとともに学習指導案を作成し、模擬授業を行う。				
(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 中・高の社会科教育免許習得しようとする学生のために開設した。				
(3) 〈学びの目標〉 1. 小・中・高の社会科の関連の意味を理解する。 2. 地理的分野・歴史的分野・公民的分野の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。				
<b>評価方法</b>				
・評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 ・出席状況を重視する（配点の35％）。				
<b>教科書</b>				
文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 社会編』日本文芸出版平成22年度版新編『「新しい社会科」地理・歴史・公民』東京書籍郷土埼玉編集委員会編『われらの郷土埼玉県』中央社				

教職 社会科授業研究Ⅱ		秋	週1回	2単位
担当者：石井 昇				
<b>講義の目標及び概要</b>				
(1) 〈内容〉 昨年度履修した中学校三分野教育法の発展として、更に社会科授業研究Ⅰをふまえて本講義を位置づける。本講義は資料の収集・活用や作業的・体験的な学習について理解するとともに、これらをふまえて地理的分野・歴史的分野で学習指導案を作成し、模擬授業を行う。				
(2) 〈カリキュラム上の位置づけ〉 中・高の社会科教育免許習得しようとする学生のために開設した。				
(3) 〈学びの目標〉 1. 教材研究の方法について理解する。 2. 地理的分野・歴史的分野・公民的分野の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことができる。				
<b>評価方法</b>				
・評価ポイントは課題発表・学習指導案の作成、期末テストとする。 ・出席状況を重視する（配点の35％）。				
<b>教科書</b>				
文部科学省『「中学校学習指導要領」解説 社会編』日本文芸出版平成22年度版新編『「新しい社会科」地理・歴史・公民』東京書籍平成22年度版『中学校社会科地図』帝国書院				

教職 公民科教法		春	週1回	2単位
担当者：小川 洋				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容：まず「公民」教科の構成について、学習指導要領の変遷および現在の指導要領の内容について学習する。基本的知識として求められる。基本を抑えたうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業の初期の段階で、模擬授業で扱いたいテーマを報告し、早い時期から十分な教材研究に努めてもらう。年間計画の作成、学期単位の授業計画、単元単位の授業計画などの計画作成をすすめる。後半の授業では、模擬授業を行うとともに審査問題の試作などもする。				
2. カリキュラム上の位置づけ：高等学校の「公民」の教育職員免許状取得に必要な必修科目であり、基本的に3年次に履修し、教育実習の準備の性格も持つ。				
3. 学びの意義と目標：より実践的な学習に取り組むことを通じて、教科指導に必要な知識と技術などを習得することを目指す。				
<b>評価方法</b>				
授業の参加状況、授業計画書の作成、模擬授業などによって総合的に評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				

教職 地理歴史科教法		春	週1回	2単位
担当者：小川 洋				
<b>講義の目標及び概要</b>				
1. 内容：まず「地理」「日本史」「世界史」の3科目からなる「地理歴史」教科の構成について、「学習指導要領」の変遷および現在の指導要領の構成・内容について学習する。これは基本的な知識として求められる。これらの基本を抑えたうえで、実際の授業を前提とした学習を進める。そのため、授業の初期の段階で、模擬授業で扱いたいテーマを決めて、早い時期から十分な教材研究に努めてもらう。年間計画の作成、学期単位の授業計画、単元単位の授業計画などの計画作成も行う。後半の授業では模擬授業を行う。				
2. カリキュラム上の位置づけ：高等学校の「地理歴史」の教育職員免許状取得に必要な必修科目であり、教育実習準備の性格も持つ。したがって、より実践的な学習に取り組むことを通じて、教科指導に必要な知識と技術などを習得することを目指す。				
3. 学びの意義と目標：自信を持って教育実習にいけるだけの能力や技術をしっかり見つけてもらう。				
<b>評価方法</b>				
授業への参加状況、模擬授業や授業計画書の提出などによって総合的に評価する。				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する				



教職 英語科教育法Ⅰ		春	週1回	2単位
担当者：長崎 睦子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容 本講義の内容及び目標は以下の5点である。(1)英語教育の意義と目的を考え確認する。(2)英語教育に対する目的意識を持つことで、これまでの「学生」という立場から「教師」という立場に立って考え行動することを目指す。(3)第二言語習得理論、外国語教授法、指導技術、学習指導要領への理解を深める。(4)指導に必要な英語力を身につける。(5)指導案を作成し、模擬授業を行うことを試みる。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ 教職課程における2年生の必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標 英語教育の目的・意義について一面的な見方ではなく、より広く深く考えることで、英語教育に対する誇りと熱意を持てるようになってもらいたい。また英語教育の理論を学び、指導に必要な英語力を身につけ、模擬授業を体験することで、中学・高等学校の教師になるとはどういうことなのかを認識し、教師になるための一歩を踏み出して欲しい。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席点 (20%)、平常点 (授業への貢献度など) (20%)、レポート数回 (30%)、模擬授業 (30%) *評価の内容は変更する場合がある。その場合は授業で説明するので確認すること。				
<b>教科書</b>				
JACET教育問題研究会編『新 英語科教育の基礎と実践—授業力のさらなる向上を目指して』三修社 『New Crown English Series 1』三省堂 『New Crown English Series 2』三省堂 『New Crown English Series 3』三省堂 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂				

教職 英語科教育法Ⅱ		秋	週1回	2単位
担当者：長崎 睦子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容：「英語科教育法Ⅰ」に引き続き、(1)英語教育の意義と目的を考え確認する、(2)英語教育に対する目的意識を持つことで、これまでの「学生」という立場から「教師」という立場に立って考え行動することを目指す、(3)第二言語習得理論、外国語教授法、学習指導要領への理解を深める、(4)指導に必要な英語力を身につける、(5)指導案を作成し、模擬授業を行うことを試みる、を目標とする。さらに、中学・高等学校では「コミュニケーション能力の育成」を謳う学習指導要領に基づく授業の展開が求められている現状を踏まえ、様々な「言語の使用場面と働き」に対応できる実践的コミュニケーション能力の育成のために、4技能(読む/書く/話す/聞く)を有機的に関連付けながら指導することを目指す。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：教職課程における2年生の必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標：英語教育の目的・意義について広く深く考えることで、英語教育に対する誇りと熱意を持てるようになってもらいたい。また、英語教育の理論を学び、指導に必要な英語力を身につけ、模擬授業を体験することで、中学・高等学校の教師になるとはどういうことなのかを認識し、教師になるための一歩を踏み出して欲しい。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席点 (20%)、平常点 (授業への貢献度など) (20%)、レポート数回 (30%)、模擬授業 (30%) *評価の内容は変更する場合がある。その場合は授業で説明するので確認すること。				
<b>教科書</b>				
JACET教育問題研究会編『新 英語科教育の基礎と実践—授業力のさらなる向上を目指して』三修社 『New Crown English Series 1』三省堂 『New Crown English Series 2』三省堂 『New Crown English Series 3』三省堂 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂				

教職 英語科教育法Ⅲ		春	週1回	2単位
担当者：西野 孝子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>中学校・高等学校の英語教師を志す人のために、実践的な英語指導技術の習得を目指す。目標は次の3つの柱からなる。</p> <p>(1)「なぜ英語を学ぶのか(教えるのか)」について考える</p> <p>(2)基礎的な英語教育理論を学び、中学校の授業での応用のしかたを考える。</p> <p>(3)優れた英語教育実践を学び、自分自身の理想の英語授業指導案を考える。</p> <p>中学生の指導に焦点をあてるため、Classroom Managementについても折に触れて言及する</p> <p>春学期は英語教育理論の一部を紹介し、教育現場での応用を考える。模擬授業では15分の言語活動を英語で行う。基本的には講義形式の授業だが、随時教え方を実演し、ディスカッションも重視する。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席、積極的な討論参加、模擬授業、提出物(指導案・レポート)、期末レポート				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂				

教職 英語科教育法Ⅳ		秋	週1回	2単位
担当者：西野 孝子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>中学校・高等学校の英語教師を志す人のために、実践的な英語指導技術の習得を目指す。目標は次の3つの柱からなる。</p> <p>(1)「なぜ英語を学ぶのか(教えるのか)」について考える</p> <p>(2)基礎的な英語教育理論を学び、中学校の授業での応用のしかたを考える。</p> <p>(3)優れた英語教育実践を学び、自分自身の理想の英語授業指導案を考える。</p> <p>Classroom Managementについても折に触れて言及する</p> <p>秋学期は公立中学での授業のビデオの視聴を通して、授業の進め方を分析・ディスカッションする。また、講師自身の、中学・高校・大学・幼稚園で英語を教えてきた経験を生かして、授業で使える楽しい教材・アイデアの数々を具体的に紹介する。模擬授業では50分の授業を計画し行う。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席、積極的な討論参加、模擬授業、提出物(指導案・レポート)、期末レポート				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』開隆堂				

教職 国語科教育法Ⅰ	春 週1回 2単位
担当者：熊谷 芳郎	
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容◆ 「読むこと」の方法論・内容について、ここでは高等学校における国語科学習指導法を中心に学ぶ。二人で1教材を担当して、短時間の模擬授業を行ってもらい。教材研究に求められる指導者としての「読み」の深さ、資料調査の綿密さなどを模擬授業の体験を通して学びとってほしい。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 教職課程における2年生の必修科目である。国語科教育法の最初の講義であり、学ぶ立場から学ばせる立場に変わることの意味を体験として理解してほしい。それは、この後の教育に関する学習・研究に対して基本的な姿勢を作っていくことになるであろう。 ◆学びの意義と目標◆ 国語の教師として、高等学校あるいは中学校の教壇に立つとはどういうことであるのか、国語科の学習指導方法、学習材の扱い方、発問のしかた、指導技術、評価規準と評価方法などについて、ともに考えるきっかけとしていきたい。	
<b>評価方法</b> 設問づくりや学習指導プランづくりなどの授業中の活動50%、提出されたレポート50%を基本にして、総合して評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

教職 国語科教育法Ⅱ	秋 週1回 2単位
担当者：熊谷 芳郎	
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容◆ 最初に、教材研究とは何か、どのようなことをしたらよいのかを実際の教材を例にして学ぶ。その後、現在の国語科教育が抱えている課題について『学習指導要領』の内容を通して学ぶ。国語科教育指導法の「現在」を踏まえて、「未来」を展望する。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 教職課程における2年生の必修科目である。国語科教育法Ⅰで「教える」ということを体験を通して学んだことを受け、教材研究の進め方や学習指導論について具体的に理解していくことによって、教科指導の基礎を確実なものにしていくことができるであろう。 ◆学びの意義と目標◆ 教材研修の進め方について理解することは、学習指導に対する自信を生みだし、その自信が教育という職業に対する新たな情熱を生むであろう。ただし、教えるということは、大きな責任も伴うものである。この授業を通して、そのことも自覚して行ってほしい。	
<b>評価方法</b> 発表などの授業中の活動に取り組むようす50%、発表前や発表後のレポートなどの提出物50%により、総合的に評価する。出席は重視する。	
<b>教科書</b> 文部科学省『中学校学習指導要領 国語編』日本文教出版	

教職 国語科教育法Ⅲ	春 週1回 2単位
担当者：熊谷 芳郎	
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容◆ 最初に教材分析の方法を「読み」の技術として学ぶ。その上で、中等学校国語科の歴史をたどり、国語科の位置づけについて確認する。さらに、「評価規準」の考え方を学んだ上で、各自「学習指導案」を作成する。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 教職課程における3年生の必修科目である。これまで学んだことを受け、教材の着実な分析解釈を基にしつつも、あくまでも学習者を主体とした学習をどのように組織していくかを具体的に理解し、翌年の教育実習、さらに教員採用試験に備えていく。 ◆学びの意義と目標◆ 教材研究の実際と、学習指導における計画性について、この授業を通して体験し、身につけていってほしい。さらに、『学習指導要領』および「評価規準」の考え方を単に知識として頭に入れるのではなく、具体的に体験的に身につけていくことができるようになることをめざす。	
<b>評価方法</b> 提出物40%、レポート40%、発表と研究討議への参加状況20%を基礎として、総合して評価する。出席も重視する。	
<b>教科書</b> 文部科学省『中学校学習指導要領解説—国語編』日本文教出版	

教職 国語科教育法Ⅳ	秋 週1回 2単位
担当者：熊谷 芳郎	
<b>講義の目標及び概要</b> ◆内容◆ 各自が交代で模擬授業を行い、それを撮影したビデオをもとに、授業の展開の仕方や指導方法などについて相互評価を行い、その後討論を行う。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 教職課程における3年生の必修科目である。これまで学んだことを受け、教材の着実な分析解釈を基にしつつも、あくまでも学習者を主体とした学習をどのように組織していくかを具体的に理解し、翌年の教育実習、さらに教員採用試験に備えていく。 ◆学びの意義と目標◆ 『学習指導要領』および「評価規準」の考え方、あるいは様々な指導方法を学んできたが、それらを知識として頭に入れるのではなく、具体的に体験的に身につけていくことができるようになることをめざす。	
<b>評価方法</b> レポート40%、発表と研究討議への参加状況60%を基礎として、総合して評価する。出席も重視する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

<b>教職 福祉科教育法Ⅰ</b> <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：中谷 茂一
<b>講義の目標及び概要</b> 高等学校における「福祉」教科創設の趣旨と内容を理解し、実際の学習指導ができるよう模擬授業を通して教育法の研鑽を行う。 学習指導要領の内容を理解・検討しながら、福祉科授業の構造、教材の作成と提示、課題と評価について講義し、受講者とのディスカッションをとおして深めていく。 また、模擬授業案を作成し実際に受講生の前で教えてもらうので人前で話すことが苦手であると受講は難しい。積極的な発言・参加が必須。主体的に参加しない者は単位修得できない。自分の教育方法を謙虚に自己点検する作業を通して福祉科教育の技術と自分なりの哲学を模索する時間としたい。
<b>評価方法</b> (1) 出席 (2) レポート・模擬授業内容 (3) ディスカッション参加状況 上記の総合評価による。
<b>教科書</b> 文部科学省『高等学校学習指導要領解説(福祉編)』実教出版 矢幅清司・細江容子 編著『改訂 高等学校指導要領の展開「福祉」編』明治図書出版 教育実習を考える会 編『教育実習用学習指導案作成教本(社会 地・歴 公民科)』蒼丘書林 桐原宏行 編著『福祉科教育法』三和書籍

<b>教職 福祉科教育法Ⅱ</b> <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：中谷 茂一
<b>講義の目標及び概要</b> 福祉科教育法Ⅰで学習したことを展開させ、さらにレベルアップした指導案と模擬授業を行ってもらい、教育実習へとつなげていくことを目標とする。 高等学校における「福祉」教科創設の趣旨と内容を理解し、実際の学習指導ができるよう模擬授業を通して教育法の研鑽を行う。 学習指導要領の内容を理解・検討しながら、福祉科授業の構造、教材の作成と提示、課題と評価について講義し、受講者とのディスカッションをとおして深めていく。 また、模擬授業案を作成し実際に受講生の前で教えてもらうので人前で話すことが苦手であると受講は難しい。積極的な発言・参加が必須。主体的に参加しない者は単位修得できない。自分の教育方法を謙虚に自己点検する作業を通して福祉科教育の技術と自分なりの哲学を模索する時間としたい。
<b>評価方法</b> (1) 出席 (2) レポート・模擬授業内容 (3) ディスカッション参加状況 上記の総合評価による。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

<b>教職 情報科教育法Ⅰ</b> <span style="float: right;">春 週1回 2単位</span>
担当者：石部 公男
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 目的 本授業は高等学校の「情報」の教員免許を取得し、将来情報科の科目を担当しようと志す学生のための授業である。したがって教員免許取得を目指す学生に対する授業として、授業で担当する各科目の指導目標や、教科の特徴、および関連する教育活動についての法的根拠などについてもあわせて学習することを目的とする。 2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の学生が履修する科目であるが、学科の専門科目とは別枠の位置づけである。 3. 学びの意義と目標 普通教科「情報」のみならず、専門教科「情報」の担当者としてふさわしい生徒指導ができるための基本的な事柄の理解と態度を養うことを学びの目的とする。
<b>評価方法</b> 平常点60% (小テスト等の結果を含む) と出席点40%
<b>教科書</b> 文部科学省(17)『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆堂出版株式会社

<b>教職 情報科教育法Ⅱ</b> <span style="float: right;">秋 週1回 2単位</span>
担当者：石部 公男
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 目的 情報科教育法Ⅰに引き続き、同様の下記授業目的で本授業を行う。 授業は高等学校の「情報」の教員免許を取得し、将来情報科の科目を担当しようと志す学生のための授業である。したがって教員免許取得を目指す学生に対する授業として、授業で担当する各科目の指導目標や、教科の特徴、および関連する教育活動についての法的根拠などについてもあわせて学習することを目的とする。 2. カリキュラム上の位置づけ コミュニティ政策学科の学生が履修する科目であるが、学科の専門科目とは別枠の位置づけである。 3. 学びの意義と目標 普通教科「情報」のみならず、専門教科「情報」の担当者としてふさわしい生徒指導ができるための基本的な事柄の理解と態度を養うことを学びの目的とする。
<b>評価方法</b> 概ね以下の配分で評価をする。平常点30%、出席点30%、試験40%
<b>教科書</b> 文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編(17)』開隆堂出版株式会社

教職 生徒指導論(進路指導を含む)		春	週1回	2単位
担当者：小川 洋				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>1. 内容：「生徒指導」は「教科指導」と並んで学校における重要な教育活動の柱であり、近年、学校を取り巻く環境の変化などから、その重要性を増している。「生活指導」とも呼ばれる「生徒指導」をめぐって、幅広いテーマを取り上げながら、教師として必要な知識や考え方を取り上げる。さらに多くの場合「進学指導」や「就職指導」となっている「進路指導」の問題を扱う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：「教育原理」「教師論」の履修を終えて教育についての基礎的基本的な知識や考え方を理解したうえで、教科指導以外の面での生徒の指導のあり方について幅広く扱う。</p> <p>3. 学びの意義と目標：生徒の指導のあり方について表面的な知識を理解するのではなく、指導の理念などについての理解を深め、これからの学校教育の中での生徒指導のあり方について、諸君が自分なりの考えを持てるようになることを目指したい。</p>				
<b>評価方法</b>				
授業出席状況 (30%)、レポート2本；授業のテーマから2つ（一つは進路指導）を選び作成 (20%)、期末テスト (50%)				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

教職 教育相談(カウンセリングを含む)		春	週1回	2単位
担当者：山田 麻有美				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(1)内容 教育相談は、「一人ひとりの子どもの教育上の諸問題について、本人またはその親、教師などに、その望ましい在り方について助言指導すること」であり、「個人の悩みや困難の解決を援助することによって、その生活によく適応させ、人格の成長への援助を図ろうとする」活動である。その際の基本的な態度であるカウンセリング・マインドをサイコドラマの手法により習得できるよう計画されている。</p> <p>(2)カリキュラム上の位置づけ 教職科目であり、教職課程の受講登録をした学生にのみ開かれている科目で、教師として児童生徒に向き合う基本的な姿勢を学ぶものである。</p> <p>(3)学びの意義と目標 教師が助言や援助を行う時、一方的に指導するという態度ではなく、児童生徒の様々な心の動きを察知し、適切に対応しようとする態度がカウンセリングマインドである。この講義を通してそれを習得し、児童生徒にとってよりよい指導のできる教師となることが期待される。</p>				
<b>評価方法</b>				
授業への参加度40%と試験50%、出席10%により算出する				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

教職 総合演習		通年	週1回	2単位
担当者：石部 公男				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>(1)人類に共通する現代的課題である「環境」「国際」「人権」「情報」および日本社会における緊急問題である「少子高齢化」、という5つのテーマに関する領域より、各自ないしグループとして取り組むテーマを設定する。次いで、資料収集・調査・分析・検討した結果をレポートし、問題提起およびその解決策などについて討論する。これらの課題について、教員志願者が理解を深め視野を広げ、適切な指導が出来ることをめざす。</p> <p>(2)教員の資質向上を目指すところの教職課程の専門演習科目にて学科固有の専門演習および卒業研究とは異なり、教員として地球的(グローバルな)視点に立って行動するための資質能力を育てるための科目である。</p> <p>(3)1997年の教育職員養成審議会の第1次答申には「21世紀を生きる子どもたちには日本国民であるとともに『地球市民』であることが求められ、したがって、子どもたちの教育に直接当たる教員にもふさわしい資質能力が不可欠」とある。教員として、教科の専門的な知識のみでなく、現実の状況に即応できる幅広い視点に立った能力を身につけることが目標である。</p>				
<b>評価方法</b>				
4分の3以上の出席を評価の前提とする。 文献のレビュー (25%)、発表 (25%)、ディベート (50%) で評価する。				
<b>教科書</b>				
松本茂、河野哲也『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』玉川大学出版				

教職 総合演習		通年	週1回	2単位
担当者：稲田 敦子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>総合演習は、教員の資質向上を目指すところの教職課程の専門演習科目にて、学科固有の専門演習および卒業研究とは異なる点に留意。</p> <p>人類に共通する現代的課題である「環境」「国際」「人権」「情報」および日本社会における緊急問題である「少子高齢化」、という5つのテーマに関する領域より、各自ないしグループとして取り組むテーマを設定する。次いで、資料収集・調査・分析・検討した結果をレポートし、問題提起およびその解決策などについて討論する。これらの課題について、教員志願者が理解を深め視野を広げ、適切な指導が出来ることをめざす。</p> <p>ディスカッションを中心に演習形式の授業を行い、授業は教室内だけではなく、可能な限り実地の見学・参加などフィールドワークもとり入れる。また、他の教員(学外者を含む)等の参加を求め、指導および助言を得る機会を設ける。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席 (30%)、平常点 (50%)、発表・レポート (20%)				
<b>教科書</b>				
授業の中で指示する 平和の文化をさきずく会『平和の文化8つのキーワード』平和文化				

<b>教職 総合演習</b>	通年 週1回 2単位
担当者：中村 馨男	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>総合演習は、教員の資質向上を目指すところの教職課程の専門演習科目にて、学科固有の専門演習および卒業研究とは異なる点に留意。</p> <p>人類に共通する現代的課題である「環境」「国際」「人権」「情報」および日本社会における緊急問題である「少子高齢化」、という5つのテーマに関する領域より、各自ないしグループとして取り組むテーマを設定する。次いで、資料収集・調査・分析・検討した結果をレポートし、問題提起およびその解決策などについて討論する。これらの課題について、教員志願者が理解を深め視野を広げ、適切な指導が出来ることをめざす。</p> <p>ディスカッションを中心に演習形式の授業を行い、授業は教室内だけでなく、可能な限り実地の見学・参加などフィールドワークもとり入れる。また、他の教員（学外者を含む）等の参加を求め、指導および助言を得る機会を設ける。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席 (30%)、平常点 (50%)、発表・レポート (20%)	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>教職 中学校教育実習</b>	春 週1回 5単位
担当者：小川 洋	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容：実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と3週間前の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。</p> <p>3. 学びの意義と目標：学校運営の実際などについての講義をつうじて、実習生の勤務のあり方・心得などについての理解を深める。また、実習校の情報を収集しながら、より充実した教科指導のあり方について研究し、教材の準備などを進めてもらう。</p>	
<b>評価方法</b>	
実習校からの評価と報告および事前・事後の授業での取り組み状況などから総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>教職 中学校教育実習</b>	春 週1回 5単位
担当者：長崎 睦子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容：本講義は(1)教育実習において適切な指導ができるように準備を行う(2)実習を体験する(3)実習を振り返りレポートを書き、英語教職課程の学生全体に対して体験報告をすることから構成される。そのために、まず教育実習の流れを把握し、次に教育実習で使用する教科書を使って教材研究、指導案の作成、模擬授業を行い、実習前にできるだけの準備をしていく。実習後は、今後の自分の教育活動・就職活動に活かせるよう、実習体験を振り返りまとめること、また、これから実習に臨む後輩のために報告を行うことを求める。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ：教職課程における4年生の必修科目である。</p> <p>3. 学びの意義と目標：英語科教育法や教職課程のこれまでの講義で学んできた知識・知見と模擬授業で培ってきた経験を基に、実際の教育現場で「教師」として適切な指導を行うことが目的である。実習を通して様々な教育活動に携わり、現場を観察をし、生徒と接することにより、中学校・高等学校教育現場の日々の実態を知る。またその経験の中で、教師としての自分の適性を見極め不足していると思う部分は努力して改善していく。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席20%、指導案・模擬授業30%、実習レポートと報告20%、教育実習日誌30%によって算出する。*評価内容は変更する場合があります。その場合は、授業内で説明をするので確認をすること。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する 『英語科教育実習生のためのミニマム・エッセンシャルズ』現代教育社	

<b>教職 中学校教育実習</b>	春 週1回 5単位
担当者：熊谷 芳郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>◆内容◆ 本講義は、本番の「教育実習」に備えて、実習の具体的内容、実習生としての心得、学校、また、学習の場をどう作るか、どう支援しよう指導するのかといった実践方法についての演習も行う。同時に、卒業後の教育職に就くための具体的な準備や手続きについても具体的に扱う。</p> <p>◆カリキュラム上の位置づけ◆ 教職課程における4年生の必修科目である。中学校での教育実習を控え、これまでに学んだことを実践の場に生かし、それを検証するために、実践的な準備と結果の分析とを行なう。それによって、教育職として世に出るための総まとめとしてほしい。</p> <p>◆学びの意義と目標◆ 「教育実習」において、学校教育の現場に入り、「教師」として子どもたちの前に立つ。「実習」とはいえ、学校は、子どもたち一人ひとりにとってはかけがえのない学びの場であり、成長の場である。そのようなときに「教師」としてどのように出会い、その学習活動に携わったらよいかを確かめたい。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席重視。授業に関する提出物50%、教育実習報告書の内容50%を基本として評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>教職 高等学校教育実習</b>	<b>春 週1回 3単位</b>
担当者：小川 洋	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容：実際に実習校において教壇に立つ直前の準備と2週間の学校での実習そして反省、とからなる。実習が実り豊かな経験となるように十分な準備を行う。そのため、今まで学習した「教科教育法」などの知識を生かしてより実践的な教科指導、生徒指導のあり方について具体的な用意や気持ちの準備をする。 2. カリキュラム上の位置づけ：「教育原理」から始まった教職課程の仕上げの科目である。この科目では学校での実習指導者からの評価を参考に評価がつくことになる。あらゆる意味で、それまでに学校現場で十分に通用する能力・知識・技術が身につけていることが前提になる。 3. 学びの意義と目標：学校運営の実際などについての講義を行うじて、実習生の勤務のあり方・心得などについての理解を深める。また、実習校の情報を収集しながら、より充実した教科指導のあり方について研究し、教材の準備などを進めてもらう。	
<b>評価方法</b>	
実習校からの評価と報告および事前・事後の授業での取り組み状況などから総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>教職 高等学校教育実習</b>	<b>春 週1回 3単位</b>
担当者：長崎 睦子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
1. 内容：本講義は(1)教育実習において適切な指導ができるように準備を行う(2)実習を体験する(3)実習を振り返りレポートを書き、英語教職課程の学生全体に対して体験報告をすることから構成される。そのために、まず教育実習の流れを把握し、次に教育実習で使用する教科書を使って教材研究、指導案の作成、模擬授業を行い、実習前にできるだけだけの準備をしていく。実習後は、今後の自分の教育活動・就職活動に活かせるよう、実習体験を振り返りまとめること、また、これから実習に臨む後輩のために報告を行うことを求める。 2. カリキュラム上の位置づけ：教職課程における4年生の必修科目である。 3. 学びの意義と目標：英語科教育法や教職課程のこれまでの講義で学んできた知識・知見と模擬授業で培ってきた経験を基に、実際の教育現場で「教師」として適切な指導を行うことが目的である。実習を通して様々な教育活動に携わり、現場を観察をし、生徒と接することにより、中学校・高等学校教育現場の日々の実態を知る。またその経験の中で、教師としての自分の適性を見極め不足していると思う部分は努力して改善していく。	
<b>評価方法</b>	
出席20%、指導案・模擬授業30%、実習レポートと報告20%、教育実習日誌30%によって算出する。*評価内容は変更する場合があります。その場合は、授業内で説明をするので確認すること。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する 『英語科教育実習生のためのミニマム・エッセンシャルズ』現代教育社	

<b>教職 高等学校教育実習</b>	<b>春 週1回 3単位</b>
担当者：熊谷 芳郎	
<b>講義の目標及び概要</b>	
◆内容◆ 本講義は、本番の「教育実習」に備えて、実習の具体的な内容、実習生としての心得、学校、また、学習の場をどう作るか、どう支援しよう指導するのかといった実践方法についての演習も行う。同時に、卒業後の教育職に就くための具体的な準備や手続きについても具体的に扱う。 ◆カリキュラム上の位置づけ◆ 教職課程における4年生の必修科目である。高等学校での教育実習を控え、これまでに学んだことを実践の場に生かし、それを検証するために、実践的な準備と結果の分析とを行なう。それによって、教育職として世に出るための総まとめとしてほしい。 ◆学びの意義と目標◆ 「教育実習」において、学校教育の現場に入り、「教師」として子どもたちの前に立つ。「実習」とはいえ、学校は、子どもたち一人ひとりにとってはかけがえのない学びの場であり、成長の場である。そのようなときに「教師」としてどのように出会い、その学習活動に携わったらよいのかをつかみとってほしい。	
<b>評価方法</b>	
出席重視。授業に関する提出物50%、教育実習報告書の内容50%を基本として総合評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

<b>教職 介護等体験及び事前事後指導</b>	<b>秋集中 2単位</b>
担当者：山口 圭	
<b>講義の目標及び概要</b>	
小学校及び中学校の義務教育の教員免許状を申請しようとするときには、「介護等体験特例法」に基づく介護等の体験に関する証明書の添付が義務づけられた。 この法律は「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連携の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者や高齢者等に対する介護、介助や、これらの人達との交流等の体験を行わせること」を目的としている。 「介護等体験」において留意しなければならないことは、福祉施設に出かけて介助を行なえば、自ずと「思いやり」や「やさしさ」が身につくものではないということである。様々な人びとのかかわりのなかで、常に「相手の立場に立って物事を考える」姿勢が求められている。 事前事後指導では、福祉サービス利用者の立場に立った介護の在り方について考えるとともに、人間の尊厳を守るための具体的な介護実践を学ぶ。	
<b>評価方法</b>	
出席状況、受講態度、実習記録により評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

# 10 | 図書館情報学関連科目

## 科目一覧

生涯学習概論  
図書館概論  
図書館経営論  
図書館資料論  
資料組織概説(目録)  
資料組織演習(目録)  
資料組織概説(分類)  
資料組織演習(分類)  
情報サービス概説  
レファレンスサービス演習  
情報検索演習  
図書館サービス論  
児童資料論  
児童サービス論  
専門資料論  
インターネット時代の情報資源活用  
コミュニケーション論  
情報機器論  
図書館実習  
図書館学演習  
学校経営と学校図書館  
学校図書館メディアの構成  
学習指導と学校図書館  
読書と豊かな人間性  
情報メディアの活用





資格 生涯学習概論	春 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。</p> <p>また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を目指そうとしているのか、講義を通じて共に考えていきたいと考えている。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>社会教育主事・図書館司書の資格取得必修科目と位置づけられている。(資格取得を考えていない学生の受講も歓迎する。)</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革とそこに於ける課題など、広くテーマを設定し、社会教育主事の専門性につながる事項の理解を目指す。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席(20%)と試験(80%)を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

資格 図書館概論	春 秋 週1回 2単位
担当者：若松 昭子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館運営について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>司書課程の最も基礎的な科目である。図書館情報学への入門的な位置づけであるので、司書資格を取得しようとする学生は、最初に履修してほしい。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>情報社会における図書館の意義と機能について理解し、情報の提供者としてよりよい助言ができるようになることをめざすと同時に、情報の賢い利用者として、情報を選択し活用できるようにすることを目標とする。</p>	
<b>評価方法</b>	
試験またはレポート40%、各授業時の課題35%、出席状況(単なる出席点ではなく平常の授業態度)25%	
<b>教科書</b>	
今まど子『図書館学基礎資料(最新版)』樹村房 塩見昇『図書館概論 新訂版』日本図書館協会	

資格 図書館経営論	春 秋 週1回 2単位
担当者：河島 茂生	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>〈内容〉</p> <p>本授業の狙いは、具体例を織り交ぜながら、図書館運営にかかわる組織構造や評価、計画について学ぶことである。図書館の運営は、大別すると[1]管理、[2]個別業務の2段階に分けることができるが、[2]個別業務は「図書館サービス論」などの授業で詳細に触れられるので、本授業では、[1]管理を重点的に学習することにする。</p> <p>〈カリキュラム上の位置づけ〉</p> <p>図書館情報学課程 資格科目</p> <p>〈学びの意義と目標〉</p> <p>図書館は、情報資源を収集・管理する組織であって、現代社会における情報基盤として重要な役割を果たしている。本授業では、よりよい図書館運営のために、その経営のあり方について考えていく。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席状況と授業態度およびレポートを総合して評価する	
<b>教科書</b>	
高山正也編著『『図書館経営論』改訂版』樹村房	

資格 図書館資料論	春 週1回 2単位
担当者：岡谷 大	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>図書館資料に関してその意義や類型(印刷資料、非印刷資料、特殊資料など)を概説し、とくに図書館の自由との関係や、蔵書構成、資料選択など図書館・情報学の中核となる理論について紹介、考察する。さらに出版と販売、資料の受け入れ、書庫管理などの具体面も説明する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>専門資料論の基礎分野となる。図書館の内と外(出版、販売など)の関係にふれている。</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>図書館資料に関してその類型や構造が理解でき、さらに出版と販売、資料の受入など具体的な側面も理解できること、蔵書構成と資料選択といった理論面の理解がなされること。</p>	
<b>評価方法</b>	
期末試験50%、出席50%	
<b>教科書</b>	
馬場俊明『図書館資料論』日本図書館協会	

資格 資料組織概説(目録)	春 秋 週1回 2単位
担当者：榎本 裕希子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容                      利用者が必要とする情報資料を迅速かつ的確に提供することが、図書館の基本使命である。この使命を果たすために必要な図書館業務の1つに資料組織法がある。本講義は、資料組織法における記述目録法を中心に解説する。国際標準規則である『パリ原則』や『国際標準書誌記述 (ISBD)』や我が国の標準的ツールである『日本目録規則 (NCR)』において定められている規則を解説し、図書館における目録法の意義や機能について学習する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ                      「資料組織演習 (目録)」と共に、司書資格取得のための必須科目である。</p> <p>3. 学びの意義                      目録法の意義や機能について学ぶことは、図書館に収集されている膨大な資料群を効率よく運用する仕組みへの理解を促し、正確な目録作成へとつなげるためにも重要である。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業に出席することは基本条件のため、成績評価は筆記試験を中心とし (70%)、それに加えて出席状況 (20%)、授業態度等 (10%) を合わせて評価を行う。	
<b>教科書</b>	
田窪直規 (ほか) 著『資料組織概説』樹村房	

資格 資料組織演習(目録)	春 秋 週1回 1単位
担当者：榎本 裕希子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容                      「資料組織概説 (目録)」で得た知識を基に、『日本目録規則 (NCR) 1987年版改訂3版』を用いた図書館資料の目録作成を行う。対象資料は図書資料を中心に解説を行う。記述目録法として、書誌記述の作成、標目の選定と標目指示の記載法等の作成演習を行い、適切な目録記入作成への理解を深める。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ                      「資料組織概説 (目録)」と共に、司書資格取得のための必須科目である。</p> <p>3. 学びの意義                      目録は図書館の蔵書管理や資料検索を行うために必要不可欠なツールである。この目録の機能を正常に保つために、どのような情報が記載されるのか等を学ぶことは、正確な目録作成のためだけでなく、資料管理や運用においても重要である。</p>	
<b>評価方法</b>	
授業に出席することは基本条件のため、成績評価は筆記試験を中心とし (80%)、それに加えて出席状況 (10%)、授業態度等 (10%) を合わせて評価を行う。演習科目であるため、無欠席であっても試験の結果によっては不可と評価する場合もある。	
<b>教科書</b>	
吉田憲一編著『資料組織演習』日本図書館協会	

資格 資料組織概説(分類)	春 秋 週1回 2単位
担当者：河島 茂生	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(内容)                      図書館における分類作業とは、資料の内容にもとづいてその資料を区分し分けることである。本授業では、分類作業の意義、方法、歴史、そして業務の実際について講義する。また、『日本十進分類法 (NDC)』新訂9版や『基本件名標目表 (BSH)』第4版、著者記号表を使って、分類作業のごく基礎的な訓練も行いたい。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)                      図書館情報学課程 資格科目                      (学びの意義と目標)                      資料の組織化とは、図書館資料を利用者が有効に利用できるように、ある一定の秩序に基づいて資料を編成することである。この作業は、大別すると目録作業と分類作業の2つに分けられるが、この授業では後者の分類作業を集中的に学ぶこととする。分類作業は図書館の運営にとって必要不可欠な業務であり、分類作業を行うことによってはじめて利用者が資料の主題を手がかりとしながら資料を探ることができるようになる。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席状況と授業態度およびレポートを総合して評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

資格 資料組織演習(分類)	春 秋 週1回 1単位
担当者：河島 茂生	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>(内容)                      本演習では、資料組織概説 (分類) で学んだ知見をもとにして、具体的な分類作業の演習を行うこととする。日本の代表的図書分類ツールである『日本十進分類法 (NDC)』新訂9版および『基本件名標目表 (BSH)』第4版を使用し、数多くの演習例題や演習問題をとおりて分類作業を学ぶ。</p> <p>(カリキュラム上の位置づけ)                      図書館情報学課程 資格科目                      (学びの意義と目標)                      資料の組織化とは、ある一定の秩序に基づいて資料を編成することによって、図書館資料を利用者が有効活用できるようにすることである。本演習では、多くの演習を通じて、利用者の要求に資する資料組織法の体得を目指す。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席状況と授業態度およびテスト結果を総合して評価するが、演習科目であるので特に出席状況を重視する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する	

資格 情報サービス概説	春 秋 週1回 2単位
担当者：気谷 陽子	
<b>講義の目標及び概要</b> 資料サービス全般にわたって取り扱い、資料サービスに関する知識の基礎を形成することを目標とする。 情報サービスのあり方を考えることは、図書館と利用者の結びつきのあり方を考えることにほかならない。 講義では、レファレンスサービスのツールとして、印刷資料のみならず、電子資料にもふれ、今日的なレファレンスサービスに関して広く解説する。	
<b>評価方法</b> (1) 定期試験の成績 (70%) (2) 授業時のレポート (30%)	
<b>教科書</b> 渋谷嘉彦『情報サービス概説』樹村房	

資格 レファレンスサービス演習	春 秋 週1回 1単位
担当者：気谷 陽子	
<b>講義の目標及び概要</b> 「情報サービス概説」で学んだ理論的な内容をふまえ、レファレンスサービスに必要な知識と技術を習得することを目標とする。 講義では、レファレンスツールについて学んだ後、模擬質問による調査を体験し、最後に、レファレンスツールの作成について演習する。	
<b>評価方法</b> (1) 定期試験の成績 (70%) (2) 授業時のレポート (30%)	
<b>教科書</b> 木本幸子『レファレンスサービス演習』樹村房	

資格 情報検索演習	春 秋 週1回 1単位
担当者：坂内 悟	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 一次資料と二次資料をはじめとする情報検索の基礎知識を身に付け、データベースの情報検索における役割を理解する。また、データベースの基礎、歴史、作成プロセスなどを概観し、検索システムの操作方法、活用方法を演習により習得する。 2. カリキュラム上の位置づけ 本科目は、図書館情報学課程の必修科目である。 3. 学びの意義と目標 情報検索サービスを理解する。 インターネット上のサービスについて自由に操作できるスキルを習得する。 図書館司書として仕事をするための各種の情報サービスについて理解する。	
<b>評価方法</b> 試験85点 出席点と平常点を合わせて15点	
<b>教科書</b> 緑川信之『新訂 情報検索演習』東京書籍	

資格 図書館サービス論	秋 週1回 2単位
担当者：岡谷 大	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 図書館サービスとマネジメントの関係、利用空間の整備といったインフラから説明し、貸出サービスなど具体的なサービスの構造と展開について講義する。とくに最近のインターネットによるサービスなど情報サービスについても説明する。さらに図書館には様々な利用者があるのでそれぞれに応じたサービスや、さらには利用者との交流など一歩踏み込んだサービスについて考える。 2. カリキュラム上の位置づけ 図書館経営・運営を背景にふまえた具体的な内容となっている。また近年のインターネットなどの普及により情報検索サービスとも関連が深い。 3. 学びの意義と目標 具体的な図書館サービス・情報サービスの構造が理解できるようになること、多様な利用者への人的サービスが理解できるようになること。	
<b>評価方法</b> 期末試験50%、出席50%	
<b>教科書</b> 小田光宏『図書館サービス論』日本図書館協会	

## 資格 児童資料論

秋 週1回 2単位

担当者：黒沢 克朗

## 講義の目標及び概要

1. 内容  
児童資料論は、児童資料について学ぶ科目である。児童書の種類やその特色に触れ、選書や資料収集の意義や方法について学んでいく。
2. カリキュラム上の位置づけ  
児童資料についての基礎的な科目である。
3. 学びの意義と目標  
児童資料の種類と特色について把握すること、また、児童資料の選書について実際に絵本を手にとり絵本を選定し、具体的に理解できるようになること。

## 評価方法

出席点40% 授業中の発表20% 試験40%

## 教科書

堀川照代『児童サービス論 新訂版』日本図書館協会

## 資格 児童サービス論

春 週1回 2単位

担当者：黒沢 克朗

## 講義の目標及び概要

1. 内容  
児童サービス論は、子どものための図書館サービスについて学ぶ科目である。図書館における児童サービスの意義や課題、図書館における児童サービスの具体的な方法などについて学んでいく。
2. カリキュラム上の位置づけ  
児童サービスについての基礎的な科目である。
3. 学びの意義と目標  
児童サービスの意義と課題について理解することができるようになること。また、児童サービスの方法にはどのようなものがあるかについての認識をもち、図書館員の専門性について理解を深める。

## 評価方法

出席点40% 授業中の発表20% 試験40%

## 教科書

堀川照代『児童サービス論 新訂版』日本図書館協会

## 資格 専門資料論

秋 週1回 2単位

担当者：岡谷 大

## 講義の目標及び概要

1. 内容  
専門資料の意義や学術コミュニケーションの構造、電子情報などのインフラを説明し、具体的に人文、社会、自然科学の情報や資料について説明する。
2. カリキュラム上の位置づけ  
図書館資料論の具体版である。情報検索との関連や学術論、科学社会学との関連もある。
3. 学びの意義と目標  
人文、社会、自然科学の学問的・科学社会的な構造の理解のもとに、具体的に各分野の主要な情報・資料が理解できること、電子情報・資料が理解できること

## 評価方法

期末試験50%、出席50%

## 教科書

三浦逸雄、野末俊比古『専門資料論』日本図書館協会

## 資格 インターネット時代の情報資源活用

秋 週1回 2単位

担当者：若松 昭子

## 講義の目標及び概要

1. 内容  
本講義では、各分野で活躍する第一線の研究者を招き、情報メディアを多方面から考察する。まず、本講義の礎として、現代社会において必要な情報観を考える。次に、情報メディアの歴史を概観し、現代社会における情報メディアを歴史過程のなかに位置づける。その後、現代の情報メディアの課題を様々な観点から取り上げる。情報検索や電子図書館、インターネット上のコミュニケーション特性、情報倫理など、広範なトピックを扱う。【本講義は、電気通信普及財団による助成を得て開設される特別講義である】
2. カリキュラム上の位置づけ  
図書館情報学課程の資格科目・コミュニティ政策学科専門科目
3. 学びの意義と目標  
情報の役割が増し、データ量が飛躍的に増大している現在、情報を見極め、選択し、的確に扱う能力を身につけることは、現代社会でよりよく生きることにつながる。本講義では、情報社会の理解を深め、高度な情報活用能力を身につけることを目標とする。

## 評価方法

それぞれの講師から出された評価を合わせ総合的に評価する。各回の評価方法や評価配分はそれぞれの講師に一任するが、いずれの授業でも、出席状況と授業態度およびレポートが評価の基本となる。

## 教科書

プリントを配布する

資格 コミュニケーション論	秋 週1回 2単位
担当者：田村 貴紀	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 この授業では、コミュニケーションとは何かを学問的に探求し、同時に、実践的なコミュニケーション能力の向上を目指します。授業では、実社会で皆さんが求められる「接遇」というコミュニケーションについて考察し、接遇力をつけると共に、その規範を社会的に考察します。 その後、「感情労働」という概念について学びます。これは、新しい概念です。新しい概念ができたのは、接遇が重視されるように、心を込めて、感情を込めて働くことが要求される時代だからです。そのような状況の中で、皆さんが実社会において心の健康を保ちながら働くには、適切な自己主張の方法を学ぶことが必要です。そこで「アサーション」について学習します。また、同様に社会で仕事をする上で不可欠な論理的な思考と議論を身につけるために、「クリティカルシンキング」について学びます。 2. カリキュラム上の位置づけ 司書業務、会社、地域社会で活躍するために必要なコミュニケーションの学問的理解と、体験的理解を深める。 3. 学びの意義と目標 現代社会におけるコミュニケーション問題の理解と、コミュニケーション能力の向上。	
<b>評価方法</b> 出席+提出物 70% 期末レポート 30%	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

資格 情報機器論	春 週1回 2単位
担当者：田村 貴紀	
<b>講義の目標及び概要</b> 【1. 内容】情報機器は図書館の利便性を向上させた。館内、館外からのOPACによる情報サービス面だけではなく、図書館の資料・情報の保存という観点からも「電子化」が進み、増え続ける電子情報の保存・閲覧という点からも、種々の「情報機器」からなるシステムが必要になってくる。さらに、単なる利便性の向上にとどまらず、情報機器は図書館の概念をも拡張するものになっている。「図書館」学が「図書館・情報」学へとシフトした経緯にも、情報機器が大きく関与しているといえるだろう。本講では、この情報機器に関する理解を深め、活用できる技術を習得する。授業においては、できるだけNetCommons等のe-learning systemを活用して、相互的であると同時にコンピューター・リテラシーも向上する講義を目指す。 【2. カリキュラム上の位置づけ】司書として必要な情報機器の知識・技術の習得 【3. 学びの意義と目標】新しい図書館における多彩な情報メディアについて、その社会的意義を確認し、それをふまえて意義と目的を理解する。また、情報検索の指導に必要な各種概念・知識を身につける。	
<b>評価方法</b> 出席40% 期末試験またはレポート60% しかし、履修人数によっては、授業内の発表および演習で採点し期末試験などを課さない。	
<b>教科書</b> 原田 智子 岸田 和明 小山 窓司『情報検索の基礎知識 新版』情報科学技術協会	

資格 図書館実習	通年 週1回 2単位
担当者：若松 昭子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 図書館情報学の理論を図書館業務にいかす為図書館において夏期休暇中の2週間実習を行う。授業で学んだことを生かすよい機会なのでぜひ参加してほしい。実習館には、主として身近な公共図書館を選び、各自で図書館に実習依頼をし許可を得てくることを原則とする。実習に入る前に、現代の図書館における課題から、各自テーマを選び掘り下げる。実習終了後にはそれぞれの研究課題を整理分析して、その成果をまとめ発表する。 2. カリキュラム上の位置づけ 司書課程のなかでは、発展的な科目に位置づけられる。基礎的、応用的科目を履修した上に、実習体験を積むことで、図書館への理解を深めてほしい。 3. 学びの意義と目標 図書館実習は、利用者の立場と司書の立場の両方の経験を得て司書としての使命を確認することにある。実際の図書館現場を体験することで、知識が生きたものとなり、図書館がより身近に感じられるはずである。生涯学習社会における賢い情報利用者としての、また情報のよきアドバイザーとしての実践力を身につけることを目指す。	
<b>評価方法</b> 実習指導者による評価と実習記録によって評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

資格 図書館学演習	通年 週1回 2単位
担当者：若松 昭子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 多種多様なメディアが存在する今日では、従来の資料枠組みを越えた広範な知識や、多角度からの情報特性の把握が必要である。授業では、毎年、受講生自らがアイデアを持ち寄って一年間のテーマを決め、情報社会や図書館に関する調査研究を行う。取り上げるテーマやその成果の発表形態も年度によって、またメンバーによって多様である。これまでも、レポート・論文だけでなく、絵本や、ゲーム、小説、アニメなどの各自の得意な形式での発表がなされた。これまでに取り上げられた課題の例は、「アンパンマンから情報リテラシーを考える」「テレビ番組の暴力シーンが子どもに及ぼす影響」「オリジナルの絵本を作る」「ブックトークをやってみる」「メディアとジェンダーを考える」等。 2. カリキュラム上の位置づけ 司書課程のなかの発展的な科目である。 3. 学びの意義と目標 司書課程で学んだ知識・技能を基に、自由なアプローチで図書館や情報について考察を行うことで、創造性と独創性を養いながら図書館情報学への総合的な理解を深める。	
<b>評価方法</b> ゼミ形式なので、授業時の発表内容、討論への参加状況、出席状況（単なる出席点ではなく平常の授業態度）を総合して50%、成果物50%	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

資格 <b>学校経営と学校図書館</b> 春 週1回 2単位
担当者：齊藤 規
<b>講義の目標及び概要</b> 今日の高度なメディア社会において、学校図書館の役割は大きく変化している。今、求められている学校図書館のあり方を明確にし、学校図書館の管理運営の意義と理念、教育行政とのかかわり、司書教諭の職務と役割についてなど、司書教諭養成科目の総論の内容を扱う。
<b>評価方法</b> 出席、提出物、考查点などをもとに総合的に判断する。
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 図書館教育研究会『新学校図書館通論 第3版』学芸図書株式会社

資格 <b>学校図書館メディアの構成</b> 春 週1回 2単位
担当者：若松 昭子
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 学校図書館の利用者が必要としている様々な情報メディアの特性とその効果的な収集方法、また、日本十進分類法、件名標目表、日本目録規則、書誌ユーティリティ、オンライン目録などを用いた効果的な資料組織化の理論と方法を学ぶ。  2. カリキュラム上の位置づけ 学校図書館司書教諭の資格科目・児童学科の専門科目  3. 学びの意義と目標 学校図書館における適切な資料の選択・収集とその体系化は、学校教育の中心となりうる充実した学校図書館を創造するための基盤である。授業では、学校教育に必要とされる多様な情報メディアの特性を理解し、資料選択の理念と効果的な収集の方法、さらにそれらを有効に活用するための組織化の理論について理解する。また、実際に組織化を体験することによって、資料組織化の具体的な技法を体得できるようにする。
<b>評価方法</b> 試験またはレポート40%、毎回の授業時の課題40%、出席状況(単なる出席点ではなく平常の授業態度) 20%
<b>教科書</b> 授業の中で指示する

資格 <b>学習指導と学校図書館</b> 秋 週1回 2単位
担当者：米谷 茂則
<b>講義の目標及び概要</b> (1)内容 学習指導と学校図書館との関わりを考えていくとともに、児童生徒の情報活用能力育成のための指導の基本を理解する。 (2)カリキュラム上の位置づけ 司書教諭資格取得に資する5科目のうちの1科目である。 (3)学びの意義と目標 児童生徒自らが学習テーマを設定し、学校図書館機能を駆使してテーマに適したメディアを収集・選択して調べ、まとめ、自分の考えをも含めて発表できる能力を育成することができるような指導能力を身につけることが目標である。
<b>評価方法</b> 出席状況(20%)、平常点(発表:30%)、レポート(50%)により総合判断する。8割以上の出席をした学生がレポートを提出することができる。
<b>教科書</b> プリントを配布する

資格 <b>読書と豊かな人間性</b> 秋 週1回 2単位
担当者：齊藤 規
<b>講義の目標及び概要</b> 多様な価値観、高度な情報社会の今日にあって、「読書」のもたらす力は、豊かな知識を得るために、また、人間性の育成においても極めて重要なものである。本講座では、司書教諭の持つべき読書認識を、読書の意義や目的、指導のための知識や諸技能の内容を通して確認する。
<b>評価方法</b> 出席、提出物、考查点などをもとに総合的に判断する。
<b>教科書</b> 図書館教育研究会『新学校図書館通論 第3版』学芸図書株式会社

担当者：河島 茂生

**講義の目標及び概要**

〈内容〉

学校におけるメディアは多様化の一途を辿っており、なかでもインターネット技術の登場によって、情報検索や情報発信の有り様が変化してきている。授業では、学校図書館が取り扱うメディアの全体像を見据えながらも、インターネット技術の利活用を集中的に論じることにしたい。

〈カリキュラム上の位置づけ〉

学校図書館司書教諭課程 資格科目、児童学科 専門科目

〈学びの意義と目標〉

本講義では、司書教諭が身につけるべき/伝えるべき情報メディアの利活用を説明する。司書教諭は、メディアの専門職であり、児童や生徒にたいするメディア利用教育だけでなく、ほかの教員にたいしてもメディア利用の支援をしていくことが求められている。本講義では、その基礎的な内容の体得を目指す。

**評価方法**

出席状況と授業態度およびレポートを総合して評価する。

**教科書**

プリントを配布する



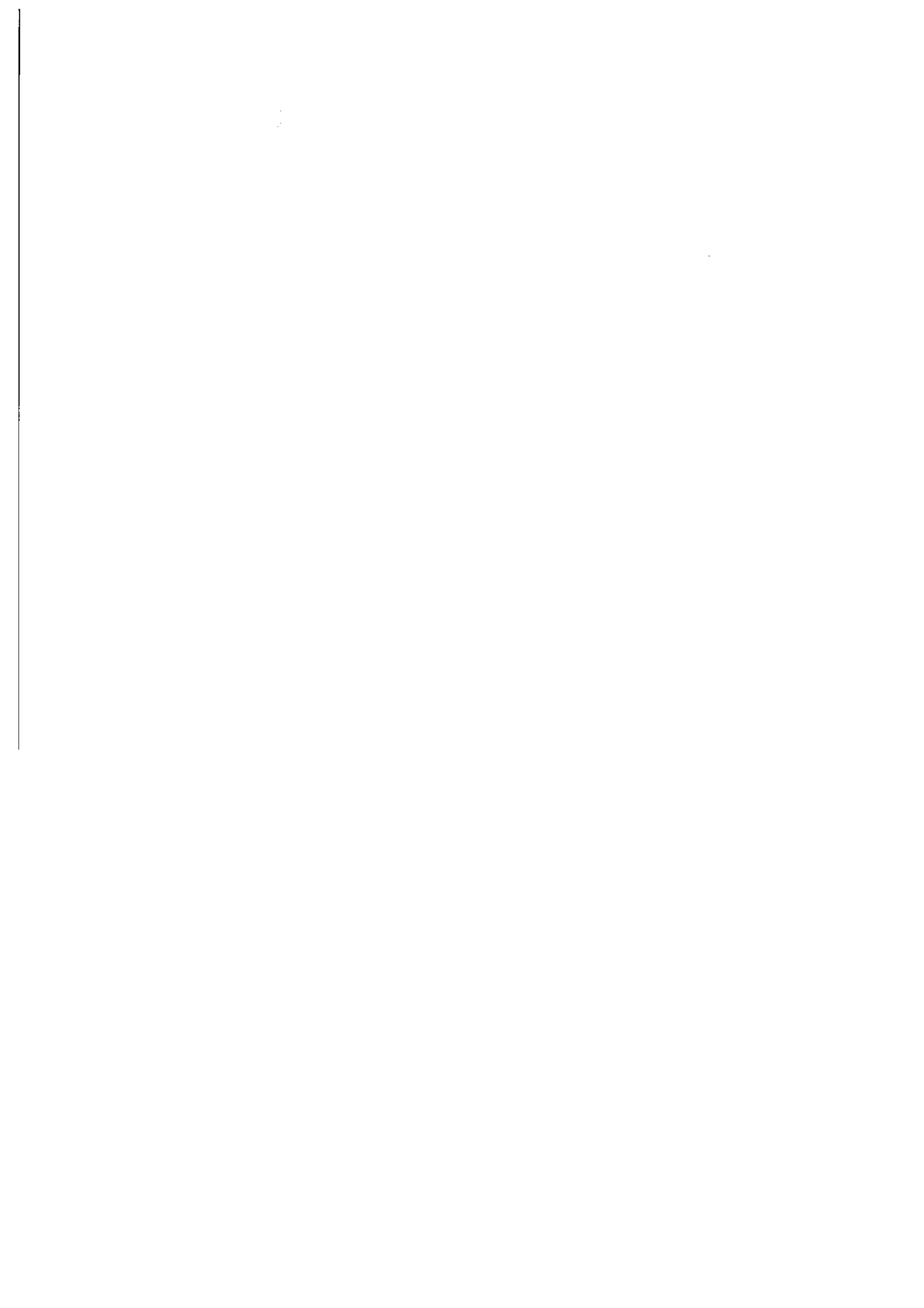


# 11 社会教育主事関連科目

## 科目一覧

生涯学習概論 A  
生涯学習概論 B  
社会教育計画 A  
社会教育計画 B  
社会教育課題研究 A  
社会教育課題研究 B  
現代社会と社会教育 A  
現代社会と社会教育 B  
ジェンダー論(女性学)  
情報と職業  
社会教育論 A  
社会教育論 B  
社会教育施設論 A  
社会教育施設論 B  
図書館概論  
図書館経営論  
教育経営  
教育心理学

関連  
社会教育主事  
科目



資格 生涯学習概論A	春 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>2006年に改正された教育基本法には生涯学習に関する条項が新設された。生涯学習という言葉がようやく市民権を得られてきたようにも思える一方で、それがどのような理念で、どのような背景から提唱されてきたかについては十分に認知されているとはいえない。そこで、本講義では生涯教育の理念について、どのような背景から理念が提唱され、教育政策に反映されるに至ったか、その社会背景を詳細に取り上げる。</p> <p>また、今日の教育改革の方向性、さらには生涯学習社会とは、どのような社会の実現を 目指そうとしているのか、講義を通じて共に考えていきたいと考えている。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>社会教育主事・図書館司書の資格取得必修科目と位置づけられている。(資格取得を考えていない学生の受講も歓迎する。)</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>生涯学習の理念、理念提唱の社会的背景、今日の教育改革とそこに於ける課題など、広くテーマを設定し、社会教育主事の専門性につながる事項の理解を目指す。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席 (20%) と試験 (80%) を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

資格 生涯学習概論B	秋 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>本講義では第1に、我が国の戦前・戦後の社会教育の理念について学ぶ。第2に、生涯学習の理念が教育政策に反映されていく過程を1960年以降の教育答申等の内容を通して捉える。第3に、戦後間もなく社会教育施設として全国に設置された代表的社会教育施設である公民館の成り立ちと機能について取り上げ、さらに生涯学習時代、多様化・高度化する人々の学習ニーズ、及び現代的な地域課題に対応すべく21世紀に求められる公民館の機能と課題について展望する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>社会教育主事資格取得の選択必修科目として位置づけられている。(勿論、資格取得を目指さない学生の受講も歓迎する。)</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>戦前・戦後の教育政策の流れの中で、社会教育政策がどのような教育政策を展開してきたのかを理解する。また、生涯学習の時代の中で公民館に求められる現代的な教育機能課題について理解を深める。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席 (20%) と試験 (80%) を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
授業の中で指示する	

資格 社会教育計画A	春 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>本講義では、社会教育、生涯学習の振興・支援のあり方を行政計画の中で誰が・どのように展開するのか教育基本法・社会教育法に当たりながらその基礎を論じる。</p> <p>また、社会教育、生涯学習の支援のあり方も、行政中心の旧来のものから指定管理者制度の導入など、民間の活力を導入したものにシフトしつつある。このような時代の変化の中で、社会教育を支援に携わるものとして必要とされる知識を提供する。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>社会教育主事の資格取得のための必修科目。(勿論、資格取得を目指さない学生の受講も歓迎する。)</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>社会教育主事として、社会教育や生涯学習支援に関する知識の習得と、時代の変化の中で生じてきている問題の解決に向け、自ら問題解決への糸口を受講生一人ひとりが自分なりに考えられるようになることを目指す。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席 (20%) と試験 (80%) を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
プリントを配布する 鈴木眞理・清国祐二『社会教育計画の基礎』学文社	

資格 社会教育計画B	秋 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b>	
<p>1. 内容</p> <p>社会教育計画Bでは、社会教育計画Aを基礎に社会教育計画策定の具体的事項について取り上げる。主たる内容は、1. 社会教育調査、2. 社会教育における学習プログラムの立案、3. 社会教育における評価の問題について取り上げる。2. については各受講生の住むまちの地域特性の調査と調査を踏まえた学習プログラムの作成と発表を行う。</p> <p>2. カリキュラム上の位置づけ</p> <p>社会教育主事の資格取得のための必修科目。(資格取得を目指さない学生の受講も勿論歓迎する。)</p> <p>3. 学びの意義と目標</p> <p>社会教育行政の現場で、社会教育計画を立案・実施する専門職にもとめられる、行政計画としての社会教育計画の手法と、及びその下にある教育行政の現場で求められる具体的な知識・技能の修得を目指す。</p>	
<b>評価方法</b>	
出席 (20%) と試験 (80%) を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
<b>教科書</b>	
鈴木眞理・清国祐二『社会教育計画の基礎』学文社	

資格 社会教育課題研究A	春 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義では、1970年代以降の生涯発達理論に基づき、人間の生涯にわたる発達について取り上げる。また、これに基づいて、これまで教育学とされてきた子どもの学習を支援する教育原理に対して1970年代から提唱され始めてきた成人教育学（andragogy）理論について論じることとする。  2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための選択必修科目。（資格取得を目指さない学生の受講も勿論歓迎する。） 3. 学びの意義と目標 講義の中で成人期の発達、そこに於ける危機と教育課題、成人の学習の特性を学んだ上で、成人の発達課題解決を目指す学習プログラムを受講生諸君が実際に作成し、発表し合い、それに検討を加え合う、これらのことを通じて、生涯学習の現場で働く専門職として必要とされる教育的配慮の視点を獲得することを目指す。	
<b>評価方法</b> ・実際に学習プログラムを作成し、発表・検討を行う過程で、ユニークな発想や積極的な発言等、授業に参加する姿勢を評価の指標として重視する。 ・出席（20%）、発表（40%）、試験（40%）を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 麻生誠・堀薫夫『生涯発達と生涯学習』（財）放送大学教育振興会	

資格 社会教育課題研究B	秋 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 今日の日本を取り巻いている「少子社会」「社会の高齢化」「学校・家庭・地域の連携」といった所謂、現代社会の変化を背景として出現してきた教育の課題について取り上げ、これらの変化に対応すべくどのような教育の必要性が唱えられているのか、また実際どのような教育実践が展開されているのかトピックスごとに見ていく。 2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための選択必修科目。（資格取得を目指していない学生の受講も勿論歓迎する。） 3. 学びの意義と目標 シラバスに掲げたトピックスについて各自が広く学び、現代社会に存在する課題について社会教育は何ができるのかを自分の問題として考え、問題解決へ向けた考察を行うことを目指す。	
<b>評価方法</b> 出席（20%）と試験（80%）を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する 山本恒夫 他『生涯学習論』文憲堂	

資格 現代社会と社会教育A	春 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義では、高齢者を対象とする教育について取り上げる。子どもの学習を支援する教育原理に対して、1970年代から提唱され始めてきた成人教育学なかんずく高齢者の教育学（gerogogy）理論について論じることとする。尚、本講義で扱う高齢者の範囲は、病的及び加齢によって著しい知的な退行現象を呈している高齢者を除く高齢者とする。 2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための必修科目。（資格取得を目指さない学生の受講ももちろん歓迎する。） 3. 学びの意義と目標 成人の生涯発達の支援から高齢の特性を理解しそれを踏まえた高齢者を対象とする学習支援の方策について理解する。専門職として（或いは一個人として）、高齢者教育の現代的意義と高齢者に接する際の配慮の視点を受講生が理解することを本講義の目標とする。	
<b>評価方法</b> 出席（20%）と試験（80%）を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 麻生誠・堀薫夫『生涯発達と生涯学習』（財）放送大学教育振興会	

資格 現代社会と社会教育B	秋 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 第1に、今日問題になっている青少年の自立と社会性の育成をどのようにするかを巡って展開されている「奉仕活動」の学校教育や社会教育政策の中での奨励をめぐる議論について取り上げる。第2に、人間がよりよく生きていくためには、生にまつわる否定的側面の課題（死・病、対象喪失などをめぐる課題）を直視し考えることの必要を説く「生と死の準備教育」がある。「生と死の準備教育」提唱者たちの理念、教育目的、教育内容を紹介し、生涯教育としての「いのち」を考える教育の可能性について考えていきたい。 2. カリキュラム上の位置づけ 社会教育主事の資格取得のための必修科目。（資格取得を目的としない学生の受講も歓迎する。） 3. 学びの意義と目標 青年期を生きる人間の生をよきものとするため、どのような教育が必要なのかを受講生が自らの課題として考察することを目標とする。	
<b>評価方法</b> 出席（20%）と、授業中に課す小レポート（20%）及び学期末の課題レポート（60%）によって評価を行なう（試験は実施しない）。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

資格 ジェンダー論(女性学)	春 週1回 2単位
担当者：田中 俊之	
<b>講義の目標及び概要</b> ジェンダー研究は女らしさ/男らしさが生物学的な宿命ではなく、社会・文化的に形成されたものであることを明らかにした。女性学とは女性が被っている社会的な矛盾である「女性問題」を、ジェンダーの視点から問う学問である。 講義では現代の日本社会を中心に、女性と女らしさをめぐって発生している諸問題について考察する。各種の調査データや映像資料などを参照しながら、いかにして女らしさがつくられていくのかを検討していく。単に学術的な議論に終始するのではなく、仕事や恋愛といった身近なテーマを取り上げることで、受講者ひとりひとりが自分に引きつけて「女であること」、そして合わせて「男であること」の問題性を考えられるようにしたい。	
<b>評価方法</b> 出席点20%、授業時の小レポート40%、学期末テスト40%	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

資格 情報と職業	秋 週2回 4単位
担当者：渡辺 英人	
<b>講義の目標及び概要</b> 「情報と職業」高等学校普通教科「情報」教員免許取得を目的とする学生の必修科目である。現代社会におけるさまざまな「活動」にとり「情報」はもっとも重要な要素であると考えられている。この授業では公的機関と情報、民間企業、個人事業における情報など、さまざまな職業と情報について解説し、理解してもらう。授業は毎回マルチメディア教室で行う。受講者全員が一斉に授業を開始し、一斉に終了する。けっして遅刻、欠席しないこと。	
<b>評価方法</b> 1. 授業への参加と理解度 (50%) 2. 発表およびレポート提出 (50%)	
<b>教科書</b> 授業の中で指示する	

資格 社会教育論A	春 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 本講義では、まず社会教育とは何かを考える。学校が出現する以前の社会集団における人間の教育、また社会の持っている教育的感化力など人の教育が家庭や学校だけにとどまるものではないことに視野を開き、社会の中に存在してきたそして今日も存在している教育力とは何かを考える。 また戦後の社会教育法に見る社会教育の定義、及び生涯教育の理念が提出された後の、社会教育の現代的意義について考えていく。そのために今日公的社会教育行政がその重点的施策として着手している学校と社会教育の連携、子育て支援、青少年の居場所づくりなどを取り上げそれらについての意義と課題を検討する。 2. カリキュラム上の位置づけ 児童学科の専門科目として位置づけられている。 3. 学びの意義と目標 今日、人間を育てる場が家庭、学校教育だけではないことを知り、社会の中で展開されている教育活動の実際とそれらの意義について理解する。	
<b>評価方法</b> 出席 (20%) と試験 (80%) を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 稲生助吾『生涯学習・社会教育概論』樹村房	

資格 社会教育論B	秋 週1回 2単位
担当者：小池 茂子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 人間が学校や幼稚園を作る前から、人間よって人間を育て教育する営みは形作られてきた。それを社会の中にある教育という意味で社会のもつ教育力教育といえるのかもしれない。本講義では、社会の中で営まれてきたこども或いは青少年を対象として行われてきた教育活動を歴史を追って紹介し、その意義について考察することとしたい。 2. カリキュラム上の位置づけ 人間福祉学部児童学科の専門科目として位置づけられている。 3. 学びの意義と目標 児童学科の学生が、子どもを育む場が家庭と学校(含・幼稚園)といった教育機関だけではないことを理解し、学校や家庭の外にある教育が子どもたち、青少年にどのような成長や発達をもたらすことが可能なのかを各自の視点で見出すことができるようになる。	
<b>評価方法</b> 出席 (20%) と試験 (80%) を一応の目安としつつ、総合的に評価する。	
<b>教科書</b> 鈴木真理『学ばないこと・学ぶこと』学文社	

資格 社会教育施設論A	春集中 2単位
担当者：石川 昇	
<b>講義の目標及び概要</b> 1 内容 生涯教育、社会教育、社会教育施設についての基本的概念を把握した上で、社会教育施設ごとに、設置目的、歴史、現状、課題等について、事例をもとに理解を図る。その際、施設は幅広くとらえ、多くの施設について具体的に検討する。 2 カリキュラム上の位置づけ 講義は豊富な事例を検討しながら、生涯学習、社会教育とは何かを意識し、フィードバックする。本科目は生涯学習概論、社会教育論などの基礎的科目を補強し、社会教育課題研究、社会教育演習などの応用的、発展的内容の科目に多くのヒントを与える。 3 学びの意義と目標 社会教育施設についての基本的な知識の獲得とともに、社会教育施設を活用する実践的な知識の獲得をめざす。	
<b>評価方法</b> 講義は文献で代替できない部分が多く、講義の出席を重視し、試験は講義のなかから出題する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

資格 社会教育施設論B	秋集中 2単位
担当者：石川 昇	
<b>講義の目標及び概要</b> 1 内容 生涯教育、社会教育、社会教育施設についての基本的概念を把握した上で、社会教育施設をめぐるさまざまな問題について具体的な事例を用いながら、幅広く検討し、その課題を認識する。 2 カリキュラム上の位置づけ 講義は事例を検討しながら、常に生涯教育、社会教育とは何かを意識し、フィードバックしながら進める。本科目は生涯学習概論、社会教育論などの基礎的科目を補強し、社会教育課題研究、社会教育演習などの応用的、発展的内容の科目に多くのヒントを与える。 3 学びの目標 社会教育施設をめぐるさまざまな問題を認識し、生涯教育、社会教育について幅広い視野、多様な視線を獲得する。	
<b>評価方法</b> 講義は文献等で代替できない部分が多く、講義の出席を重視する。試験は講義の中から出題する。	
<b>教科書</b> プリントを配布する	

資格 図書館概論	春 秋 週1回 2単位
担当者：若松 昭子	
<b>講義の目標及び概要</b> 1. 内容 図書館の発生から現代への発展の経過を辿ると共に、図書館の理念、制度、現状、課題、図書館を取り巻く様々な社会状況について学ぶ。また、資料・情報の提供機関である図書館の機能や類型について解説し、これからの図書館運営について日本における関連施策の動向などを概観しながら考える。 2. カリキュラム上の位置づけ 司書課程の最も基礎的な科目である。図書館情報学への入門的な位置づけであるので、司書資格を取得しようとする学生は、最初に履修してほしい。 3. 学びの意義と目標 情報社会における図書館の意義と機能について理解し、情報の提供者としてよりよい助言ができるようになることをめざすと同時に、情報の賢い利用者として、情報を選択し活用できるようにすることを目標にする。	
<b>評価方法</b> 試験またはレポート40%、各授業時の課題35%、出席状況（単なる出席点ではなく平常の授業態度）25%	
<b>教科書</b> 今まど子『図書館学基礎資料（最新版）』樹村房 塩見昇『図書館概論 新訂版』日本図書館協会	

資格 図書館経営論	春 秋 週1回 2単位
担当者：河島 茂生	
<b>講義の目標及び概要</b> 〈内容〉 本授業の狙いは、具体例を織り交ぜながら、図書館運営にかかわる組織構造や評価、計画について学ぶことである。図書館の運営は、大別すると[1]管理、[2]個別業務の2段階に分けることができるが、[2]個別業務は「図書館サービス論」などの授業で詳細に触れられるので、本授業では、[1]管理を重点的に学習することにする。 〈カリキュラム上の位置づけ〉 図書館情報学課程 資格科目 〈学びの意義と目標〉 図書館は、情報資源を収集・管理する組織であって、現代社会における情報基盤として重要な役割を果たしている。本授業では、よりよい図書館運営のために、その経営のあり方について考えていく。	
<b>評価方法</b> 出席状況と授業態度およびレポートを総合して評価する	
<b>教科書</b> 高山正也編著『『図書館経営論』改訂版』樹村房	

資格 教育経営		春	週1回	2単位
担当者：小入羽 秀敬				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>【内容】本授業では教育を経営する2つの主体に着目する。1つめは行政である。文科省、教育委員会にスポットを当てて、行政がどのように教育を決定していくのか、学校に与えている影響について理解を深める。2つめは学校である。学校経営という視点から管理職や教員について実際のデータを用いながら理解を深め、考察を行う。</p> <p>【カリキュラム上の位置づけ】教育に関する行政および学校の行動に着目しながら、教育経営の在り方について理論・実践の両面からアプローチする。</p> <p>【学びの意義と目標】国・地方自治体・学校それぞれが教育にどのような役割を果たしているのかについて理解できるようになること。また、学校が経営を行っていく上で国や地方自治体からどのような制度的な影響を受けているのか理解を深められるようになること。</p>				
<b>評価方法</b>				
(1)授業出席状況(25%)、(2)授業への参加状況：授業中の発言やコメント作成など(10%)、(3)中間レポート(15%)、(4)期末テスト(50%)				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

資格 教育心理学		通年	週1回	4単位
担当者：金谷 京子				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>教育心理学は、教育が行われるときに生じる種々の事象を、心理学的な方法を用いて理解し、子どもの心身の発達を促進したり、その過程で生起する種々の問題の解決をめざしたりするものである。</p> <p>本講義は、種々の事象について、受講生が、心理学的知見を得、子どもをより深く理解できるようになることを目標としている。講義は、以下の事項について学んでいく。</p> <p>1.子どもが何らかの新しい行動を「学習」する過程(学習)、2.様々な事柄や関係が「わかる」ようになるしくみ(認知)、3.「覚える」しくみ(記憶)、4.子どもの「やる気」(達成動機)、5.学級という社会(学級集団)、6.教え方(教授法)、7.子どもの行動や潜在力の測定や評価(測定と評価)、8.子どもが育つ心理のみちすじ(発達)、9.個々人の「ちがひ」(パーソナリティ)、10.心身の発達や適応の様相が通常とは異なる子ども。</p> <p>教育心理学を学ぶにあたり、心理学概論を学習しておくことが望ましい。</p> <p>カリキュラムの位置づけとしては、卒業必修科目である。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席状況および小レポート、試験、受講意欲・態度を総合して評価する。春学期試験40%、秋学期試験60%で評価する。				
<b>教科書</b>				
中澤潤『よくわかる教育心理学』ミネルヴァ書房				

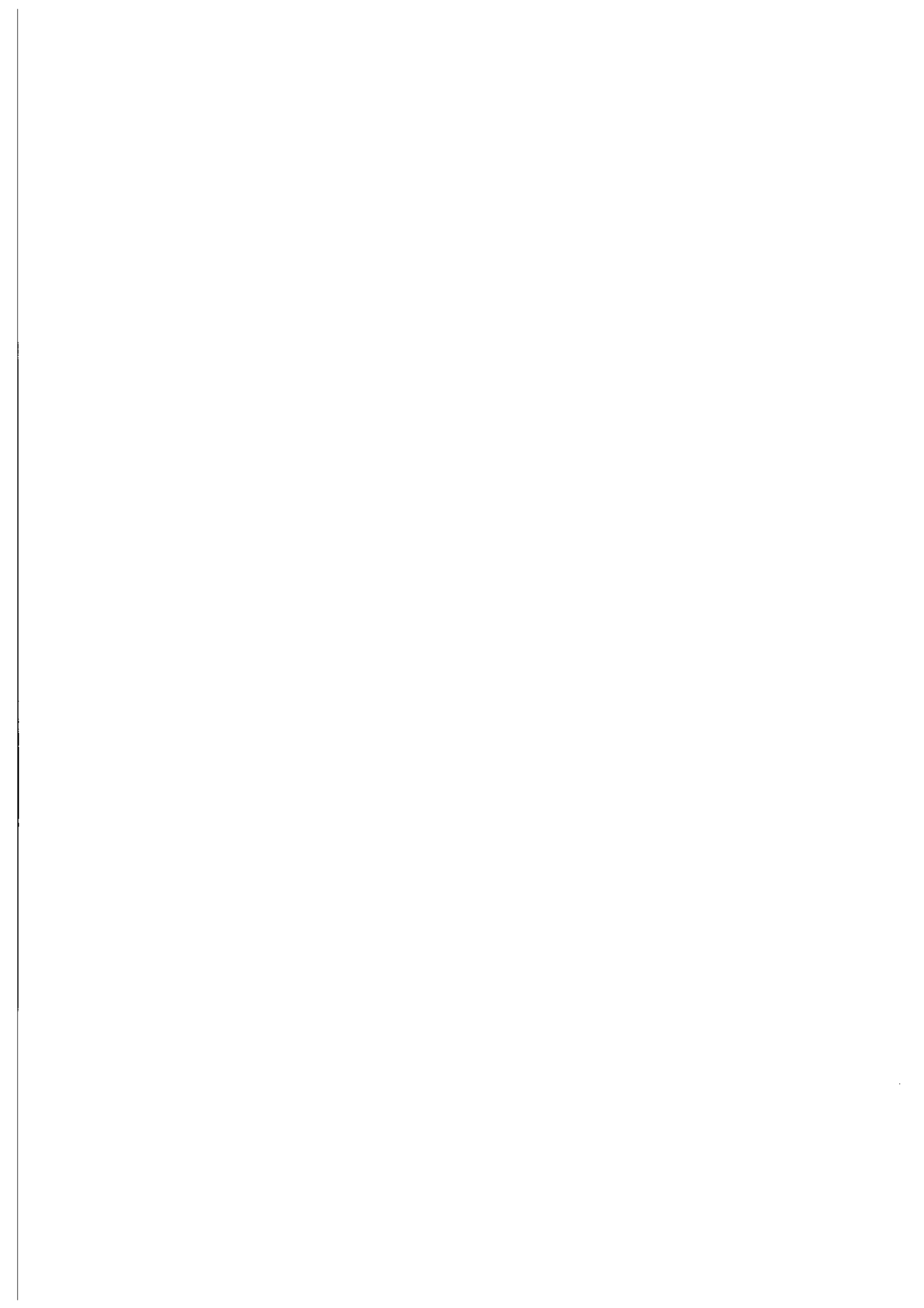
資格 教育心理学		春	週2回	4単位
担当者：小山 義徳				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>教育心理学は「人間がどのように物事を学んでいるのか」ということと、「物事を教えるにはどうすればよいのか」ということを心理学的手法により明らかにしていく学問です。</p> <p>教育心理学は教師になる人だけに必要な学問であると誤解されがちですが、どのような仕事に就いても多くの知識を学ばなければなりません。また、教年経てば自らが後輩に仕事を教える立場になりますので、すべての学び、教える人にとって有用な学問です。</p> <p>授業では教育心理学の基礎的な知識を紹介していきます。しかし、学問としての教育心理学と福祉や教育の現場で求められている実践の間にギャップが生じてしまったりは避けられません。そこで、授業では講義に加えて、学んだ知識をもとにしたレポートの提出や、他者の意見と自分の意見を対比するディスカッションを取り入れて、理論を教育場面での実践事例に関連付けていきます。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席状況および小レポート、期末レポート、受講意欲・態度を総合して評価する。出席が3分の2に満たない場合は単位認定は行わない。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				

資格 教育心理学		秋	週2回	4単位
担当者：小山 義徳				
<b>講義の目標及び概要</b>				
<p>教育心理学は「人間がどのように物事を学んでいるのか」ということと、「物事を教えるにはどうすればよいのか」ということを心理学的手法により明らかにしていく学問です。</p> <p>教育心理学は教師になる人だけに必要な学問であると誤解されがちですが、どのような仕事に就いても多くの知識を学ばなければなりません。また、教年経てば自らが後輩に仕事を教える立場になりますので、すべての学び、教える人にとって有用な学問です。</p> <p>授業では教育心理学の基礎的な知識を紹介していきます。しかし、学問としての教育心理学と教育現場で求められている実践の間にギャップが生じてしまったりは避けられません。そこで、授業では講義に加えて、学んだ知識をもとにしたレポートの提出や、他者の意見と自分の意見を対比するディスカッションを取り入れて、理論を実践の事例にできるだけ関連付けていく予定です。</p>				
<b>評価方法</b>				
出席状況および小レポート、期末レポート、受講意欲・態度を総合して評価する。出席が3分の2に満たない場合は単位認定は行わない。				
<b>教科書</b>				
プリントを配布する				





# 科 目 名 索 引



# 科目名索引

## A-Z

Academic Listening & Speaking (E. D. オズバーン)  
..... 208

Civilization & Environment (村上 公久) ..... 99,147

College Reading Skills (メイス みよ子) ..... 209

College Writing Skills (K. O. アンダスン) ..... 209

ECA(Business) I (チェンバレン 暁子) ..... 35

ECA(Business) II (チェンバレン 暁子) ..... 35

ECA(Cinema) I (チェンバレン 暁子/島田 洋子/  
能町 和子/鈴木 仁/K. ヒル/L. フラムソン/  
メイス みよ子) ..... 26

ECA(Cinema) II (長崎 睦子/チェンバレン 暁子/  
島田 洋子/能町 和子/鈴木 仁) ..... 26

ECA(Cinema) III (メイス みよ子) ..... 32

ECA(Cinema) III (長崎 睦子) ..... 32

ECA(Cinema) III (島田 洋子) ..... 32

ECA(Communication) I (J. パーン) ..... 30

ECA(Communication) I [LevelA] (C. ギブソン)  
..... 29

ECA(Communication) I [LevelB] (D. ガン) ..... 30

ECA(Communication) I [LevelC] (K. ヒル) ..... 30

ECA(Communication) I [SuperA] (K. O. アンダスン)  
..... 31

ECA(Communication) II (J. パーン) ..... 31

ECA(Communication) II [LevelA] (C. ギブソン)  
..... 30

ECA(Communication) II [LevelB] (K. ヒル) ..... 31

ECA(Communication) II [LevelC] (J. パーン) ..... 31

ECA(Communication) II [SuperA] (K. O. アンダスン)  
..... 32

ECA(English Through Songs) A (D. ガン) ..... 29

ECA(English Through Songs) B (D. ガン) ..... 29

ECA(English Through Songs) B (K. ヒル) ..... 29

ECA(Pleasure Reading) A (印田 佐知子) ..... 34

ECA(Pleasure Reading) B (印田 佐知子) ..... 35

ECA(Presentation English) (D. バーガー) ..... 34

ECA(Reading) I (チェンバレン 暁子/島田 洋子/  
森 容子/鈴木 仁/D. ガン/メイス みよ子/  
印田 佐知子) ..... 26

ECA(Reading) II (チェンバレン 暁子/島田 洋子/  
森 容子/鈴木 仁/能町 和子/メイス みよ子)  
..... 27

ECA(Reading Current Topics) I A  
(チェンバレン 暁子) ..... 33

ECA(Reading Current Topics) I B (能町 和子) ..... 33

ECA(Reading Current Topics) I S (メイス みよ子)  
..... 33

ECA(Reading Current Topics) II A  
(チェンバレン 暁子) ..... 33

ECA(Reading Current Topics) II B (島田 洋子) ..... 34

ECA(Reading Current Topics) II S (メイス みよ子)  
..... 34

ECA(Speaking) I (L. フラムソン/K. ヒル/  
C. ギブソン/D. ガン/J. パーン/L. アーノルド/  
C. カール) ..... 25

ECA(Speaking) II (M. サベット/C. ギブソン/  
L. アーノルド/L. フラムソン/D. ガン/K. ヒル/  
J. パーン/C. カール) ..... 26

ECA(Survival English) (K. ヒル) ..... 27

ECA(Survival English) Level A  
(C. カール/C. ギブソン) ..... 27

ECA(Survival English) Level B  
(L. フラムソン/D. ガン) ..... 27

ECA(Test English) A [LevelA] (島田 洋子/  
チェンバレン 暁子/メイス みよ子) ..... 28

ECA(Test English) A [LevelB] (島田 洋子/  
鈴木 仁/能町 和子) ..... 28

ECA(Test English) B [LevelA] (チェンバレン 暁子)  
..... 28

ECA(Test English) B [LevelB] (鈴木 仁/能町 和子)  
..... 28

EU法 (倉西 雅子) ..... 104

Intercultural Communication between Japan &  
the U.S.A. A (E. D. オズバーン) ..... 192,244

Intercultural Communication between Japan &  
the U.S.A. B (E. D. オズバーン) ..... 193,244

Internet English(Basic) (J. パーン) ..... 158,208

ITパスポート講座 (国分 道雄) ..... 24

Japanese Economy Today (大森 達也) ..... 107,148

Living & Studying Abroad (M. サベット) ..... 208

Pop Culture (K. O. アンダスン) ..... 201

Project-Based Internet (J. パーン) ..... 159,208

Screen English A (中村 香代子) ..... 206

Screen English B (中村 香代子) ..... 207

Special Lecture Series A (E. D. オズバーン) ..... 244

Speech & Debate A (M. サベット) ..... 203

Speech & Debate B (M. サベット) ..... 204

TOEFL A (中村 香代子) ..... 209

TOEFL B (中村 香代子) ..... 209

TOEIC A (中村 香代子) ..... 210

TOEIC B (中村 香代子) ..... 210

## あ

アイデンティティの社会学 (横山 寿世理) ..... 115

アメリカ史 (柴田 史子) ..... 195

アメリカ思想 (柴田 史子) ..... 193

アメリカ文化 (増田 直子) .....	200
アメリカ文化演習A (E. D. オズバーン) .....	71
アメリカ文化概論 (柴田 史子) .....	190

い

医学概論 (兪 今) .....	323
異常心理学 (古澤 聖子) .....	330
イスラム文化A (赤坂 恒明) .....	201
イスラム文化B (赤坂 恒明) .....	201
異文化間コミュニケーション (小松崎 利明) .....	115, 199, 240
異文化理解 (稲田 敦子) .....	199
医療英語A (森 容子) .....	324
医療英語B (森 容子) .....	324
イングリッシュ・バイブルA (E. D. オズバーン) .....	58
イングリッシュ・バイブルB (E. D. オズバーン) .....	58
インターネット時代の情報資源活用 (若松 昭子) .....	158, 372
インターンシップI (事前学習) (学科就職委員) .....	161
インターンシップI (事前学習) (柴田 武男) .....	117
インターンシップII (実習) (学科就職委員) .....	161
インターンシップII (実習) (柴田 武男) .....	118
インターンシップ(自主活動) (学科就職委員) .....	161

え

英語音声学 (加曾利 実) .....	203
英語科教育法I (長崎 睦子) .....	361
英語科教育法II (長崎 睦子) .....	361
英語科教育法III (西野 孝子) .....	361
英語科教育法IV (西野 孝子) .....	361
英語学概論 (加曾利 実) .....	203
英語圏児童文学講読 (松本 祐子) .....	276
英語講読A (高橋 義文) .....	212
英語講読B (有賀 貞) .....	212
英語コミュニケーション (M. サベット) .....	276
英語スピーチ発音法 (加曾利 実) .....	207
英語入門(留学生用)I (尤 ブンキ) .....	35
英語入門(留学生用)II (尤 ブンキ) .....	36
衛生学入門 (大江 敏江) .....	325
映像と文化A (山中 剛史) .....	251
映像と文化B (山中 剛史) .....	252
映像文化 (氏家 理恵) .....	201
英米児童文学 (松本 祐子) .....	198, 275
英米文学 (氏家 理恵) .....	197
英米文学概論 (富田 光明) .....	197
FP入門講座 (江波戸 順史) .....	155
絵本文化論 (森下 みさ子) .....	275
演奏形式とその音楽 (藤田 明) .....	86

お

欧米家族文化 (森 涼子) .....	202
欧米児童文化 (上原 里佳) .....	202
欧米文化学特論 (有賀 貞) .....	211
欧米文学 (桑田 光平) .....	82, 196
欧米文学 (三宅 美千代) .....	82, 196
欧米文化学特論 (有賀 貞) .....	89
欧米文化入門A (加曾利 実) .....	190
欧米文化入門B (E. D. オズバーン) .....	190
応用日本語(待遇表現) (木原 郁子) .....	50
オーストラリア文化演習B (E. D. オズバーン) .....	71
教えるための英文法A (西野 孝子) .....	207
教えるための英文法B (西野 孝子) .....	207
教えるための現代文A (前田 潤) .....	233
教えるための現代文B (前田 潤) .....	233
教えるための古典I (上野 麻美/濱田 寛) .....	234
教えるための古典II (上野 麻美/濱田 寛) .....	234
教えるための古典III (上野 麻美/濱田 寛) .....	234
教えるための古典IV (上野 麻美/濱田 寛) .....	234
オペレーションズ・マネジメント (柴田 武男) .....	111
おもちゃ論 (森下 みさ子) .....	275
音楽・合奏指導A (田中 美佳子) .....	287
音楽・合奏指導B (田中 美佳子) .....	288
音楽・合奏指導C (東海 千浪) .....	288
音楽・合奏指導D (東海 千浪) .....	288
音楽・合奏指導E (村山 良介) .....	288
音楽・合奏指導F (村山 良介) .....	289
音楽・合奏指導G (山田 裕治) .....	289
音楽・合奏指導H (山田 裕治) .....	289
音楽・器楽A (笠井 かほる/渋谷 みどり/ 塚原 晴美/島崎 美知子/矢持 真希子/ 池上 真理子/阪 まどか) .....	287
音楽・器楽B (笠井 かほる/渋谷 みどり/ 塚原 晴美/島崎 美知子/矢持 真希子/ 池上 真理子/阪 まどか) .....	287
音楽・声楽 (藤田 明) .....	287
音楽・ハンドベルG (本田 晃) .....	289
音楽・ハンドベルH (本田 晃) .....	290
音楽A (村山 順吉) .....	292
音楽B (藤田 明/星野 直子) .....	292
音楽科教育法 (村山 順吉) .....	297
音楽創造論 (村山 順吉) .....	286

か

海外実習 (SAINTS) (村山 順吉) .....	273
海外文化交流研修(アジア)B (渡辺 正人) .....	242
会計学 (成川 正晃) .....	112, 150
介護概論 (高山 法子) .....	335
介護技術 (高山 法子) .....	335
介護実習 (高山 法子) .....	354
介護等体験及び事前事後指導 (山口 圭) .....	301, 366

カウンセリング論 (長谷川 恵美子) .....	331
書き方表現応用講座 (高桑 佳與子) .....	25
書き方表現応用講座 (松村 良) .....	25
学習指導と学校図書館 (米谷 茂則) .....	302, 374
家族援助論 (相川 徳孝) .....	284
学校経営と学校図書館 (齊藤 規) .....	301, 374
学校図書館メディアの構成 (若松 昭子) .....	301, 374
家庭 (櫻井 純子) .....	286
家庭科教育法 (櫻井 純子) .....	298
カナダ文化演習 (E. D. オズバーン) .....	71
神と人間A (相澤 一) .....	58
神と人間B (相澤 一) .....	58
環境衛生学 (中村 磐男) .....	325
環境学 (村上 公久) .....	80, 99, 141
環境政策論 (平 修久) .....	145, 325
環境法 (仲田 孝仁) .....	104
環境保全論 (村上 公久) .....	100, 326
観光地理 (秋山 秀一) .....	202
韓国語 I (初級A) (金 智賢) .....	42
韓国語 I (初級A) (溝口 カプスン) .....	42
韓国語 I (初級A) (北原 スマ子) .....	42
韓国語 II (初級B) (金 智賢) .....	43
韓国語 II (初級B) (溝口 カプスン) .....	43
韓国語 II (初級B) (北原 スマ子) .....	42
韓国語コミュニケーションA (溝口 カプスン) .....	243
韓国語コミュニケーションB (北原 スマ子) .....	243
韓国文化演習 (黒木 章) .....	242
管理学 (清澤 達夫) .....	149

き

基礎教育入門(書き方) (吉田 憲一) .....	22
基礎教育入門(書き方) (小林 茂之/副田 恵/ 中島 佐和子/松村 良) .....	21
基礎教育入門(書き方) (上嶋 康道) .....	21
基礎教育入門(書き方) (新井 尚子) .....	22
基礎教育入門(コンピュータ基礎) A (国分 道雄) .....	23
基礎教育入門(コンピュータ基礎) B (国分 道雄) .....	24
基礎教育入門(話し方) (秋山 隆/村田 昭/ 寺田 道雄/岡部 晃彦) .....	23
基礎教育入門(留学生用書き方) (中島 佐和子) .....	22
基礎教育入門(留学生用書き方) (北村 淳子) .....	22
基礎教育入門(留学生用書き方) (鈴木 孝恵) .....	23
基礎実習 (相川 徳孝) .....	299
基礎ゼミ A (稲田 敦子/鹿瀬 颯枝/柴田 史子/ 和田 光司/氏家 理恵/長崎 陸子/佐藤 啓介) .....	189
基礎ゼミ B (稲田 敦子/鹿瀬 颯枝/菊地 順/ 柴田 史子/原 一子/東 仁美/佐藤 啓介) .....	189
キャリアデザインA (上田 信一郎) .....	137
キャリアデザインA (萬年山 啓) .....	99
キャリアデザインB (上田 信一郎) .....	138
キャリアデザインB (萬年山 啓) .....	99

教育課程論 (船田 信昭) .....	296
教育経営 (小入羽 秀敬) .....	357, 383
教育原理 (寺崎 恵子) .....	278
教育原理 (小川 洋) .....	357
教育社会学 (小川 洋) .....	279, 357
教育心理学 (金谷 京子) .....	277, 383
教育心理学 (小山 義徳) .....	329, 357, 383
教育相談(カウンセリングを含む。) (山田 麻有美) .....	277, 364
教育方法論 (篠原 文陽児) .....	299
教育方法論 (新井 尚子) .....	358
教職演習A (石津 靖大) .....	272
教職演習A (濱田 寛) .....	267
教職演習B (石津 靖大) .....	272
教職演習B (濱田 寛) .....	267
教職演習C (石津 靖大) .....	272
教職演習D (石津 靖大) .....	272
教職演習E (内田 武司) .....	273
教職演習F (内田 武司) .....	273
教職演習G (内田 武司) .....	273
教職基礎 (加藤 実三) .....	271
教師論 (船田 信昭) .....	292
行政学 (佐々木 一如) .....	100, 138
行政法 (仲田 孝仁) .....	104, 142
キリスト教音楽史A (渡辺 善忠) .....	66
キリスト教音楽史B (渡辺 善忠) .....	67
キリスト教概論A (菊地 順) .....	17
キリスト教概論A (久保島 理恵) .....	17
キリスト教概論A (佐野 正子) .....	18
キリスト教概論A (左近 豊) .....	17
キリスト教概論A (山ノ下 恭二) .....	19
キリスト教概論A (石田 学) .....	18
キリスト教概論A (相澤 一) .....	17
キリスト教概論A (藤原 淳賀) .....	18
キリスト教概論A (柳田 洋夫) .....	18
キリスト教概論B (菊地 順) .....	19
キリスト教概論B (久保島 理恵) .....	20
キリスト教概論B (佐野 正子) .....	20
キリスト教概論B (左近 豊) .....	20
キリスト教概論B (山ノ下 恭二) .....	21
キリスト教概論B (石田 学) .....	19
キリスト教概論B (相澤 一) .....	19
キリスト教概論B (藤原 淳賀) .....	20
キリスト教概論B (柳田 洋夫) .....	21
キリスト教カウンセリング論 (藤掛 明) .....	69
キリスト教教育論A (森田 美千代) .....	278
キリスト教史 (片柳 榮一) .....	196
キリスト教社会倫理A (佐野 正子) .....	135
キリスト教社会倫理A (相澤 一) .....	98
キリスト教社会倫理B (佐野 正子) .....	135
キリスト教社会倫理B (相澤 一) .....	98
キリスト教信仰と文化 (藤原 淳賀) .....	63
キリスト教とアジア文化A (高 萬松) .....	64
キリスト教とアジア文化B (高 萬松) .....	65

キリスト教とアメリカ思想A (高橋 義文) .....63  
 キリスト教とアメリカ思想B (高橋 義文) .....64  
 キリスト教とアメリカ文化A (森田 美千代) .....64  
 キリスト教とアメリカ文化B (森田 美千代) .....64  
 キリスト教と音楽A (渡辺 善忠) .....66  
 キリスト教と音楽B (渡辺 善忠) .....66  
 キリスト教と建築A (香山 壽夫) .....67  
 キリスト教と建築B (香山 壽夫) .....68  
 キリスト教と高齢者福祉の実際A (児島 康夫) .....68  
 キリスト教と高齢者福祉の実際B (児島 康夫) .....69  
 キリスト教と国際社会A (早藤 昌浩) .....62  
 キリスト教と心のケア (村上 純子) .....69  
 キリスト教と古典 (小倉 義明) .....65  
 キリスト教と児童福祉の実際A (菅原 哲男) .....68  
 キリスト教と児童福祉の実際B (菅原 哲男) .....68  
 キリスト教と社会科学 (松原 望) .....61  
 キリスト教と人権 (阿久戸 光晴) .....59  
 キリスト教と政治思想A (川添 美央子) .....61  
 キリスト教と政治思想B (川添 美央子) .....61  
 キリスト教と日本思想 (濱田 辰雄) .....62  
 キリスト教と日本社会A (柳田 洋夫) .....62  
 キリスト教と日本宗教 (濱田 辰雄) .....62  
 キリスト教と美術A (喜田 敬) .....67  
 キリスト教と美術B (喜田 敬) .....67  
 キリスト教と文学A (黒木 章) .....65  
 キリスト教と文学B (黒木 章) .....65  
 キリスト教と法 (加藤 恵司) .....61  
 キリスト教と物語 (藤原 淳賀) .....59  
 キリスト教と倫理的諸問題A (小倉 義明) .....63  
 キリスト教と倫理的諸問題B (深井 智朗) .....63  
 キリスト教と歴史形成A (石田 学) .....60  
 キリスト教と歴史形成B (石田 学) .....60  
 キリスト教人間学A (左近 豊) .....271,321  
 キリスト教人間学B (左近 豊) .....271,321  
 キリスト教文化交流 (鈴木 順子) .....196  
 キリスト教文化論A (菊地 順) .....189  
 キリスト教文化論A (柳田 洋夫) .....229  
 キリスト教文化論B (菊地 順) .....189  
 キリスト教文化論B (柳田 洋夫) .....229  
 近代社会とピューリタニズムA (松谷 好明) .....60  
 近代社会とピューリタニズムB (松谷 好明) .....60  
 近代政治思想 (川添 美央子) .....146  
 金融市場論A (柴田 武男) .....107,152  
 金融市場論B (柴田 武男) .....107,153  
 金融論 (鈴木 真実哉) .....108,152

け

経営学 (酒井 祐太郎) .....112,138  
 経営学 (清澤 達夫) .....112,139  
 経営史 (金子 毅) .....115  
 経営システム (後藤 兼一) .....112  
 経営情報 (後藤 兼一) .....113  
 経営倫理 (後藤 兼一) .....113

経済学 (佐藤 滋) .....77,94  
 経済学 (水上 啓吾) .....78,95  
 経済学 (正上 常雄) .....78,95  
 経済学 (石部 公男) .....77,136  
 経済学 (大森 達也) .....77,137  
 経済学 (天羽 正継) .....76,95  
 経済学 (由川 稔) .....78,94,137  
 経済学 (鈴木 真実哉) .....77,137  
 経済学研究 (柴田 武男) .....88  
 経済学史 (鈴木 真実哉) .....108,152  
 経済政策 (中野 宏) .....108  
 健康・体力づくり実習A (安部 久貴) .....50  
 健康・体力づくり実習A (関 一誠) .....52  
 健康・体力づくり実習A (樹森 大介) .....51  
 健康・体力づくり実習A (神田 良太郎) .....51  
 健康・体力づくり実習A (太田 涼) .....51  
 健康・体力づくり実習A (梅津 迪子) .....50  
 健康・体力づくり実習A (鈴木 由美) .....51  
 健康・体力づくり実習B (安部 久貴) .....52  
 健康・体力づくり実習B (関 一誠) .....53  
 健康・体力づくり実習B (樹森 大介) .....53  
 健康・体力づくり実習B (神田 良太郎) .....53  
 健康・体力づくり実習B (太田 涼) .....52  
 健康・体力づくり実習B (梅津 迪子) .....52  
 健康・体力づくり実習B (鈴木 由美) .....53  
 健康教育 (梅津 迪子) .....327  
 言語学 (田川 拓海) .....85  
 言語学概論 (D. バーガー) .....203,235  
 言語学特殊講義 (小林 茂之) .....239  
 言語習得理論 (長崎 睦子) .....204  
 言語生活 (内藤 みち) .....238  
 言語と社会 (D. バーガー) .....204,241  
 言語文化論 (小林 茂之) .....235  
 現代イタリアの社会と文化A (小田原 琳) .....195  
 現代イタリアの社会と文化B (小田原 琳) .....195  
 現代英文法 (東 仁美) .....202  
 現代社会と社会教育A (小池 茂子) .....165,280,380  
 現代社会と社会教育B (小池 茂子) .....166,280,380  
 現代社会論 (新倉 貴仁) .....116  
 現代政治理論 (森 達也) .....101,144  
 現代ヨーロッパ事情 (佐藤 啓介) .....195  
 現代ヨーロッパ思想 (佐藤 啓介) .....192  
 憲法(人権) (石川 裕一郎) .....105,142  
 憲法(統治) (松村 芳明) .....105,142

こ

公共政策論 (大藪 俊志) .....100,144  
 公共哲学 (谷口 隆一郎) .....144  
 公衆衛生学 (中村 馨男) .....325  
 公的扶助論 (榊 伴夫) .....108,147  
 高等学校教育実習 (熊谷 芳郎) .....366  
 高等学校教育実習 (小川 洋) .....366  
 高等学校教育実習 (長崎 睦子) .....366

公民科教育法 (小川 洋) .....	360
公務員講座演習A (人文・社会) (大藪 俊志) .....	163
公務員講座演習A (数的・判断推理) (平 修久) .....	162
公務員講座 (人文・社会) (平 修久) .....	162
公務員講座 (数的・判断推理) (平 修久) .....	162
公務員講座 (専門A) (平 修久) .....	163
公務員講座 (専門B) (平 修久) .....	164
公務員講座 (文章理解) (大槻 岳) .....	162
公務員特講 (自治体研究A) (猪狩 廣美) .....	163
公務員特講 (自治体研究B) (北川 嘉昭) .....	163
高齢者福祉論 (山口 圭) .....	333
高齢者保健福祉特論 (古谷野 亘) .....	90
国語科教育法 I (熊谷 芳郎) .....	362
国語科教育法 II (熊谷 芳郎) .....	362
国語科教育法 III (熊谷 芳郎) .....	362
国語科教育法 IV (熊谷 芳郎) .....	362
国際金融論 (柴田 武男) .....	109
国際人権・人道法 (小松崎 利明) .....	105, 143
国際政治史 (中村 文子) .....	100
国際政治論 (秋吉 祐子) .....	101, 143
国際地域開発論 (飯島 康夫) .....	101
国際ビジネスの現場A (柴田 武男) .....	113, 153
国際ビジネスの現場B (柴田 武男) .....	113, 154
国際法 (山村 恒雄) .....	105, 143
古典読解A (上野 麻美) .....	231
古典読解B (上野 麻美) .....	232
古典日本語 I (上宇都 ゆりほ) .....	236
古典日本語 II (高桑 佳典子) .....	236
子どもカウンセリング論 (石川 由美子) .....	284
こどもと文化 (寺崎 恵子) .....	251
子どもの遊びと発達 (梅津 迪子) .....	328
コミュニケーション学 (小笠原 尚宏) .....	140
コミュニケーション論 (田村 貴紀) .....	373
コミュニティ・ビジネスの現場 (瀬名 浩一) .....	153
コミュニティ・ビジネス論 (瀬名 浩一) .....	153
コミュニティ心理学 (長谷川 恵美子) .....	330
コミュニティ政策特論A (商学) (工藤 幸一) .....	161
コミュニティとフィールドワーク (庄嶋 孝広) .....	160
コンピュータ応用講座A (二神 常爾) .....	24
コンピュータ応用講座B (鈴木 省吾) .....	24
コンピュータ応用実習A (鈴木 省吾) .....	157

さ

財政学 (佐藤 滋) .....	109, 145
埼玉地域政策研究 (大塚 健司) .....	147
産業経営論A (西川 太一郎) .....	149
産業経営論B (西川 太一郎) .....	149
算数 (佐藤 逸子) .....	285
算数科教育法 (小関 照純) .....	297

し

ジェンダー論 (女性学) (田中 俊之) .....	116, 381
----------------------------	----------

死生学 (横澤 義夫) .....	322
自然地理学概説 (秋山 秀一) .....	121, 168
児童英語教育 (インターンシップ I) (東 仁美) .....	206
児童英語教育 (インターンシップ II) (東 仁美) .....	206
児童英語教育 (カリキュラム・デザイン) (東 仁美) .....	205
児童英語教育 (教材研究) (A. クラウス) .....	205
児童英語教育 (理論) (横田 玲子) .....	205
児童英語教育 (ワークショップA) (A. クラウス) .....	205
児童英語教育 (ワークショップB) (阿部フォード恵子) .....	206
児童英語教材研究 (横田 玲子) .....	276
児童英語教材研究 (東 仁美) .....	276
児童学海外研修 (村山 順吉) .....	274
児童学概論 (田澤 薫) .....	271
児童学研究 (田澤 薫) .....	89
児童教育学 (永井 理恵子) .....	86, 278
児童サービス論 (黒沢 克朗) .....	372
児童資料論 (黒沢 克朗) .....	372
児童福祉 (田澤 薫) .....	281
児童福祉論 (池 弘子) .....	333
児童文学 (松本 祐子/小室 陽子) .....	285
児童文学 (藤田 のぼる) .....	247
児童文化論A (田澤 薫) .....	274
児童文化論B (寺崎 恵子) .....	274
児童臨床心理学 (山田 麻有美) .....	277
社会 (深澤 悠紀雄) .....	285
社会学 (阿部 英之助) .....	78, 97, 141, 322
社会学 (春) (横山 寿世理) .....	79, 97, 140
社会学 (秋) (横山 寿世理) .....	79, 97, 140
社会学 (鄭 鎬碩) .....	79, 97, 141
社会学 (田中 俊之) .....	79, 98, 140
社会学 (渡會 知子) .....	80, 98, 141
社会科公民的分野教育法 (石井 昇) .....	359
社会科授業研究 I (石井 昇) .....	360
社会科授業研究 II (石井 昇) .....	360
社会科地理・歴史的分野教育法 (石井 昇) .....	359
社会教育課題研究A (小池 茂子) .....	165, 380
社会教育課題研究B (小池 茂子) .....	165, 380
社会教育計画A (小池 茂子) .....	164, 379
社会教育計画B (小池 茂子) .....	165, 379
社会教育施設論A (石川 昇) .....	166, 382
社会教育施設論B (石川 昇) .....	166, 382
社会教育論A (小池 茂子) .....	279, 381
社会教育論B (小池 茂子) .....	279, 381
社会経済論 (正上 常雄) .....	109, 149
社会思想 (佐藤 貴史) .....	116, 159
社会心理学 (水島 友昭) .....	159, 329
社会調査の基礎 (鷹野 吉章) .....	335
社会調査法 (古谷野 亘) .....	116, 160, 323
社会福祉 (大塚 健司) .....	280
社会福祉運営管理論 (早坂 聡久) .....	335
社会福祉援助技術演習 (笹渕 悟) .....	280

科  
目  
名  
索  
引

社会福祉援助技術演習 A  
 (池 弘子/野口 祐子/山口 圭) ..... 337  
 社会福祉援助技術演習 A (野口 祐子) ..... 336  
 社会福祉援助技術演習 C  
 (野口 祐子/増田 公香/山口 圭) ..... 337  
 社会福祉援助技術演習 D (山口 圭) ..... 337  
 社会福祉援助技術現場実習  
 (増田 公香/野口 祐子/山口 圭) ..... 339  
 社会福祉援助技術現場実習指導 I (山口 圭) ..... 338  
 社会福祉援助技術現場実習指導 II  
 (増田 公香/野口 祐子/山口 圭) ..... 338  
 社会福祉援助技術論 A (山口 圭) ..... 332  
 社会福祉援助技術論 B (鷹野 吉章) ..... 332  
 社会福祉援助実習 (森島 健) ..... 354  
 社会福祉学特講 (山口 圭) ..... 338  
 社会福祉原論 (牛津 信忠) ..... 321  
 社会福祉施設経営論 (櫻井 邦夫) ..... 155  
 社会保障論 (田中 聡一郎) ..... 109, 145  
 社会老年学 (古谷野 亘) ..... 327  
 就労支援サービス (野口 勝則) ..... 336  
 出版と編集 (山本 俊明) ..... 253  
 生涯学習概論 (小池 茂子) ..... 369  
 生涯学習概論 A (小池 茂子) ..... 164, 379  
 生涯学習概論 B (小池 茂子) ..... 164, 379  
 障害児教育 (石川 由美子) ..... 282  
 障害児保育 (石川 由美子) ..... 282  
 障害者福祉特論 (増田 公香) ..... 90  
 障害者福祉論 (増田 公香) ..... 333  
 生涯スポーツ実習 A (安部 久貴) ..... 54  
 生涯スポーツ実習 A (関 一誠) ..... 55  
 生涯スポーツ実習 A (樹森 大介) ..... 54  
 生涯スポーツ実習 A (太田 涼) ..... 54  
 生涯スポーツ実習 A (梅津 迪子) ..... 54  
 生涯スポーツ実習 A (鈴木 由美) ..... 55  
 生涯スポーツ実習 B (安部 久貴) ..... 55  
 生涯スポーツ実習 B (関 一誠) ..... 57  
 生涯スポーツ実習 B (樹森 大介) ..... 56  
 生涯スポーツ実習 B (太田 涼) ..... 56  
 生涯スポーツ実習 B (梅津 迪子) ..... 56  
 生涯スポーツ実習 B (鈴木 由美) ..... 56, 57  
 小学校教育実習 (深澤 悠紀雄) ..... 301  
 商業経営論 (市原 実) ..... 155  
 小児栄養 (大月 典子) ..... 284  
 小児保健 I (櫻井 美和) ..... 283  
 小児保健 II (櫻井 美和) ..... 283  
 小児保健実習 (福田 里美) ..... 283  
 商法 A (総則・手形・商行為法) (佐藤 文彦) ..... 151  
 情報科教育法 I (石部 公男) ..... 363  
 情報科教育法 II (石部 公男) ..... 363  
 情報機器論 (田村 貴紀) ..... 373  
 情報検索演習 (坂内 悟) ..... 157, 371  
 情報サービス概説 (気谷 陽子) ..... 371  
 情報システム論 (国分 道雄) ..... 156  
 情報処理 (国分 道雄) ..... 156

情報通信ネットワーク (竹井 潔) ..... 157  
 情報と職業 (渡辺 英人) ..... 158, 381  
 情報メディアの活用 (河島 茂生) ..... 302, 375  
 情報リスク論 (鈴木 省吾) ..... 157  
 情報リテラシー (国分 道雄) ..... 23  
 情報倫理 (竹井 潔) ..... 156  
 女性学 (藤田 和美) ..... 249  
 初等国語科教育法 (根本 正義) ..... 296  
 初等社会科教育法 (深澤 悠紀雄) ..... 296  
 書道(初級) (小室 陽子) ..... 252  
 書道(中級) (小室 陽子) ..... 252  
 資料組織演習(分類) (河島 茂生) ..... 370  
 資料組織演習(目録) (榎本 裕希子) ..... 370  
 資料組織概説(分類) (河島 茂生) ..... 370  
 資料組織概説(目録) (榎本 裕希子) ..... 370  
 身体表現 (森 さゆ里) ..... 254  
 人文地理学概説 (飯島 康夫) ..... 122, 168  
 心理学 (小山 義徳) ..... 322  
 心理学概論 (林 潤一郎) ..... 87  
 心理学研究法 (小山 義徳) ..... 330  
 心理学実験実習 A (長谷川 恵美子/小山 義徳)  
 ..... 331  
 心理学実験実習 B (牟田 隆郎/長谷川 恵美子)  
 ..... 331  
 心理言語学 (川手 恩) ..... 204, 235

す

図画工作 (喜田 敬/山領 直人) ..... 290  
 図画工作 (山領 直人/四十九院 仁子) ..... 290  
 図画工作 A (喜田 敬) ..... 290  
 図画工作 B (喜田 敬) ..... 291  
 図画工作科教育法 (柴田 和豊) ..... 298  
 スピリチュアルケア論 (平山 正実/窪寺 俊之)  
 ..... 328  
 スペイン語 I (初級 A) (越智 直子) ..... 40  
 スペイン語 II (初級 B) (越智 直子) ..... 40

せ

生活 (船田 信昭) ..... 286  
 生活科教育法 (船田 信昭) ..... 297  
 政策評価論 (大藪 俊志) ..... 146  
 政治学 (吉田 博司) ..... 94  
 政治学 (小畑 俊太郎) ..... 75, 93  
 政治学 (松尾 秀哉) ..... 75, 93  
 政治学 (森 達也) ..... 76, 94  
 政治学 (森田 浩之) ..... 76, 136  
 政治学 (森分 大輔) ..... 76, 93  
 政治学 (川添 美央子) ..... 75, 136  
 政治学 (谷口 隆一郎) ..... 75, 136  
 政治過程論 (高橋 愛子) ..... 101, 144  
 政治経済学特論 A (20世紀の法文化) (石川 裕一郎)  
 ..... 119



政治経済学特論A(財政学の探求)(水上 啓吾) ……	120
政治経済学特論A(自然を体験するA)(秋吉 祐子)	
……………	119
政治経済学特論A(自然を体験するB)(秋吉 祐子)	
……………	119
政治経済学特論A(生と性の憲法学)(石川 裕一郎)	
……………	120
政治経済学特論A(生命と政治)(森分 大輔) ……	121
政治経済学特論A(生命の比較政治学)(松尾 秀哉)	
……………	120
政治経済学特論A(日本の裁判を考える)(石川 裕一郎)	
……………	120
政治経済学特論A(コミュニケーションメディア制作)	
(上田 信一郎) ……	119
政治経済学特論B(企業経営を考える)(金子 毅)	
……………	121
政治経済学特論B(経営学の可能性)(金子 毅) ……	121
政治経済学特論(国際政治論原典講読)(秋吉 祐子)	
……………	118
政治経済学特論(西洋政治思想講読A)(高橋 愛子)	
……………	118
聖書の世界A(左近 豊) ……	57
聖書の世界B(左近 豊) ……	57
聖書の中の環境問題(村上 公久) ……	66
精神医学(高野 覚) ……	328
精神科リハビリテーション学(田村 綾子) ……	328
精神保健(上野 直子) ……	283
精神保健学(小林 政子) ……	331
精神保健福祉演習(相川 章子) ……	337
精神保健福祉援助演習(相川 章子/牟田 隆郎)	
……………	338
精神保健福祉援助技術各論(相川 章子) ……	334
精神保健福祉援助実習(相川 章子/松原 玲子)	
……………	339
精神保健福祉論(相川 章子/大野 和男/行實 志都子)	
……………	334
生徒指導論(進路指導を含む。)(小川 洋) ……	364
生徒指導論(進路指導を含む。)(船田 信昭) ……	299
税法A(所得税)(稲田 圭祐) ……	151
税法B(法人税)(山田 直夫) ……	152
生命・栄養科学(菊川 忠裕) ……	326
生命の科学(近藤 雅雄) ……	87
生命倫理学(香川 知晶) ……	322
西洋音楽A(稲垣 俊也) ……	199
西洋音楽B(稲垣 俊也) ……	199
西洋芸術の源流(喜田 敬) ……	86
西洋芸術の源流(四十九院 仁子) ……	87
西洋史(山本 信太郎) ……	84,194
西洋史(森 齊丈) ……	84,194
西洋史(田中 史高) ……	83,193
西洋史(和田 光司) ……	84,193
西洋史概説A(山本 信太郎) ……	122,167
西洋史概説B(山本 信太郎) ……	122,167
西洋思想史(原 一子) ……	192

西洋哲学史特論(谷口 隆一郎) ……	170
西洋美術史(瀧井 直子) ……	198
生理心理学—心と身体の科学—(小川 時洋) ……	87
世界の諸宗教の歴史と思想(相澤 一) ……	117
セラピー特論(山田 麻有美) ……	278
専門演習(比較政治学)(松尾 秀哉) ……	127
専門演習I(管理学)(清澤 達夫) ……	175
専門演習I(キリスト教社会倫理)(佐野 正子) ……	174
専門演習I(金融論)(鈴木 真実哉) ……	176
専門演習I(経済学)(石部 公男) ……	176
専門演習I(言語①)(小林 茂之) ……	255
専門演習I(言語②)(川口 さち子) ……	255
専門演習I(公共哲学)(谷口 隆一郎) ……	174
専門演習I(コミュニティ・ビジネス論)(瀬名 浩一)	
……………	173
専門演習I(情報倫理)(竹井 潔) ……	177
専門演習I(政治学)(川添 美央子) ……	175
専門演習I(地域福祉)(大塚 健司) ……	177
専門演習I(日本経済論)(大森 達也) ……	178
専門演習I(比較文化①)(渡辺 正人) ……	255
専門演習I(比較文化③)(濱田 寛) ……	255
専門演習I(文化③)(清水 均) ……	257
専門演習I(文学②)(上野 麻美) ……	256
専門演習I(文学③)(黒木 章) ……	256
専門演習I(法学)(渡辺 英人) ……	172
専門演習I(まちづくり学)(平 修久) ……	173
専門演習I(リスク対策論)(標 宣男) ……	172
専門演習I(歴史・思想②)(川崎 司) ……	256
専門演習I(歴史・思想③)(清水 正之) ……	256
専門演習I(歴史・思想④)(村松 晋) ……	257
専門演習I(歴史・思想⑤)(柳田 洋夫) ……	257
専門演習II(管理学)(清澤 達夫) ……	175
専門演習II(キリスト教社会倫理)(佐野 正子) ……	174
専門演習II(近現代文化①)(清水 均) ……	260
専門演習II(近現代文化②)(熊谷 芳郎) ……	260
専門演習II(近現代文学①)(黒木 章) ……	259
専門演習II(金融論)(鈴木 真実哉) ……	176
専門演習II(経済学)(石部 公男) ……	176
専門演習II(言語①)(小林 茂之) ……	257
専門演習II(言語②)(川口 さち子) ……	258
専門演習II(公共哲学)(谷口 隆一郎) ……	174
専門演習II(古典文学②)(上野 麻美) ……	258
専門演習II(コミュニティ・ビジネス論)(瀬名 浩一)	
……………	173
専門演習II(思想①)(清水 正之) ……	259
専門演習II(思想②)(村松 晋) ……	260
専門演習II(思想③)(柳田 洋夫) ……	260
専門演習II(情報倫理)(竹井 潔) ……	177
専門演習II(政治学)(川添 美央子) ……	175
専門演習II(地域福祉)(大塚 健司) ……	177
専門演習II(日本経済論)(大森 達也) ……	178
専門演習II(比較文化 アジア①)(渡辺 正人) ……	258
専門演習II(比較文化 アジア②)(濱田 寛) ……	258
専門演習II(法学)(渡辺 英人) ……	172

専門演習Ⅱ(まちづくり学)(平 修久) ..... 173  
 専門演習Ⅱ(リスク対策論)(標 宣男) ..... 172  
 専門演習Ⅱ(歴史①)(東島 誠) ..... 259  
 専門演習Ⅱ(歴史②)(川崎 司) ..... 259  
 専門演習(Pop Culture)Ⅰ(K. O. アンダスン) ..... 217  
 専門演習(Pop Culture)Ⅱ(K. O. アンダスン) ..... 217  
 専門演習(アイデンティティの社会学)(横山 寿世理)  
 ..... 125  
 専門演習(アメリカ文化)Ⅱ(柴田 史子) ..... 217  
 専門演習(アメリカ文化)Ⅰ(柴田 史子) ..... 217  
 専門演習(英語学)Ⅰ(加曾利 実) ..... 219  
 専門演習(英語学)Ⅱ(加曾利 実) ..... 219  
 専門演習(英米文学)Ⅰ(氏家 理恵) ..... 216  
 専門演習(英米文学)Ⅱ(氏家 理恵) ..... 216  
 専門演習(音楽創造論Ⅰ)(村山 順吉) ..... 306  
 専門演習(音楽創造論Ⅱ)(村山 順吉) ..... 306  
 専門演習(外国語教授法)Ⅰ(長崎 陸子) ..... 219  
 専門演習(外国語教授法)Ⅱ(長崎 陸子) ..... 219  
 専門演習(カウンセリング論)Ⅰ(長谷川 恵美子)  
 ..... 342  
 専門演習(カウンセリング論)Ⅱ(長谷川 恵美子)  
 ..... 343  
 専門演習(環境保全論)(村上 公久) ..... 125  
 専門演習(教育文化論Ⅰ)(寺崎 恵子) ..... 308  
 専門演習(教育文化論Ⅱ)(寺崎 恵子) ..... 308  
 専門演習(キリスト教社会倫理)(相澤 一) ..... 125  
 専門演習(キリスト教文化)Ⅰ(菊地 順) ..... 214  
 専門演習(キリスト教文化)Ⅱ(菊地 順) ..... 214  
 専門演習(キリスト教幼児教育Ⅰ)(阿部 洋治) ..... 304  
 専門演習(キリスト教幼児教育Ⅱ)(阿部 洋治) ..... 304  
 専門演習(金融市場論)(柴田 武男) ..... 126  
 専門演習(経営管理)(後藤 兼一) ..... 126  
 専門演習(言語と社会)Ⅰ(D. パーガー) ..... 218  
 専門演習(言語と社会)Ⅱ(D. パーガー) ..... 218  
 専門演習(現代ヨーロッパ事情)Ⅰ(佐藤 啓介) ..... 214  
 専門演習(現代ヨーロッパ事情)Ⅱ(佐藤 啓介) ..... 214  
 専門演習(高齢者福祉論Ⅰ)(古谷野 亘) ..... 340  
 専門演習(高齢者福祉論Ⅱ)(古谷野 亘) ..... 340  
 専門演習(国際政治論)(秋吉 祐子) ..... 126  
 専門演習(子ども家庭論Ⅰ)(中谷 茂一) ..... 340  
 専門演習(子ども家庭論Ⅱ)(中谷 茂一) ..... 340  
 専門演習(コミュニティ政策)(竹井 潔) ..... 178  
 専門演習(算数Ⅰ)(佐藤 逸子) ..... 310  
 専門演習(算数Ⅱ)(佐藤 逸子) ..... 310  
 専門演習(児童英語教育)Ⅰ(東 仁美) ..... 220  
 専門演習(児童英語教育)Ⅱ(東 仁美) ..... 220  
 専門演習(児童学Ⅰ)(田澤 薫) ..... 302  
 専門演習(児童学Ⅱ)(田澤 薫) ..... 303  
 専門演習(児童教育学Ⅰ)(永井 理恵子) ..... 305  
 専門演習(児童教育学Ⅱ)(永井 理恵子) ..... 305  
 専門演習(児童福祉実践論Ⅰ)(金谷 京子) ..... 307  
 専門演習(児童福祉実践論Ⅱ)(金谷 京子) ..... 307  
 専門演習(児童福祉論Ⅰ)(池 弘子) ..... 339  
 専門演習(児童福祉論Ⅱ)(池 弘子) ..... 339

専門演習(児童文学Ⅰ)(松本 祐子) ..... 309  
 専門演習(児童文学Ⅱ)(松本 祐子) ..... 309  
 専門演習(児童臨床心理学Ⅰ)(山田 麻有美) ..... 303  
 専門演習(児童臨床心理学Ⅱ)(山田 麻有美) ..... 303  
 専門演習(社会科Ⅰ)(深澤 悠紀雄) ..... 309  
 専門演習(社会科Ⅱ)(深澤 悠紀雄) ..... 309  
 専門演習(生涯学習Ⅰ)(小池 茂子) ..... 308  
 専門演習(障害児心理Ⅰ)(石川 由美子) ..... 307  
 専門演習(障害児心理Ⅱ)(石川 由美子) ..... 308  
 専門演習(障害者福祉論Ⅰ)(増田 公香) ..... 341  
 専門演習(障害者福祉論Ⅱ)(増田 公香) ..... 341  
 専門演習(音楽Ⅰ)(藤田 明) ..... 304  
 専門演習(音楽Ⅱ)(藤田 明) ..... 305  
 専門演習(政治過程論)(高橋 愛子) ..... 126  
 専門演習(精神保健福祉論Ⅰ)(相川 章子) ..... 343  
 専門演習(精神保健福祉論Ⅱ)(相川 章子) ..... 344  
 専門演習(造形教育論Ⅰ)(喜田 敬) ..... 305  
 専門演習(造形教育論Ⅱ)(喜田 敬) ..... 306  
 専門演習(ソーシャルワーク論Ⅰ)(助川 征雄) ..... 344  
 専門演習(ソーシャルワーク論Ⅱ)(助川 征雄) ..... 344  
 専門演習(地域圏研究ロシア)(飯島 康夫) ..... 127  
 専門演習(地域福祉論Ⅱ)(牛津 信忠) ..... 342  
 専門演習(日本教育史Ⅰ)(石津 靖大) ..... 303  
 専門演習(日本教育史Ⅱ)(石津 靖大) ..... 304  
 専門演習(日本政治思想史)(吉田 博司) ..... 127  
 専門演習(人間関係論Ⅰ)(牟田 隆郎) ..... 343  
 専門演習(人間関係論Ⅱ)(牟田 隆郎) ..... 343  
 専門演習(比較憲法)(石川 裕一郎) ..... 127  
 専門演習(比較文化Ⅰ)(稲田 敦子) ..... 218  
 専門演習(比較文化Ⅱ)(稲田 敦子) ..... 218  
 専門演習(福祉環境論Ⅰ)(野口 祐子) ..... 341  
 専門演習(福祉環境論Ⅱ)(野口 祐子) ..... 341  
 専門演習(福祉倫理Ⅰ)(左近 豊) ..... 344  
 専門演習(福祉倫理Ⅱ)(左近 豊) ..... 345  
 専門演習(フランス文学Ⅰ)(鹿瀬 颯枝) ..... 216  
 専門演習(フランス文学Ⅱ)(鹿瀬 颯枝) ..... 216  
 専門演習(保育実践論Ⅰ)(相川 徳孝) ..... 306  
 専門演習(保育実践論Ⅱ)(相川 徳孝) ..... 307  
 専門演習(法思想史)(加藤 恵司) ..... 128  
 専門演習(ヨーロッパ史Ⅰ)(和田 光司) ..... 215  
 専門演習(ヨーロッパ史Ⅱ)(和田 光司) ..... 215  
 専門演習(ヨーロッパ思想Ⅰ)(原 一子) ..... 215  
 専門演習(ヨーロッパ思想Ⅱ)(原 一子) ..... 215  
 専門演習(理科Ⅱ)(中村 磐男) ..... 310  
 専門演習(理論社会学)(土方 透) ..... 128  
 専門演習(レクリエーション論Ⅰ)(梅津 迪子) ..... 342  
 専門演習(レクリエーション論Ⅱ)(梅津 迪子) ..... 342  
 専門資料論(岡谷 大) ..... 372

そ

相関文化(村松 晋) ..... 233  
 総合演習(井村 礼恵) ..... 293  
 総合演習(稲田 敦子) ..... 364

総合演習(小池 茂子) .....	293
総合演習(石部 公男) .....	364
総合演習(中村 磐男) .....	293, 365
相談援助の基盤と専門職(大野 和男) .....	332
ソーシャルワーク論(助川 征雄) .....	334
組織行動論(小林 一之) .....	114
卒業演習(衛生学・公衆衛生学)(中村 磐男) .....	352
卒業演習(カウンセリング論)(長谷川 恵美子) .....	353
卒業演習(高齢者福祉論)(古谷野 亘) .....	351
卒業演習(子ども家庭論)(中谷 茂一) .....	351
卒業演習(児童福祉論)(池 弘子) .....	351
卒業演習(障害者福祉論)(増田 公香) .....	352
卒業演習(精神保健福祉論)(相川 章子) .....	353
卒業演習(ソーシャルワーク論)(助川 征雄) .....	354
卒業演習(地域福祉論)(牛津 信忠) .....	352
卒業演習(人間関係論)(牟田 隆郎) .....	353
卒業演習(福祉環境論)(野口 祐子) .....	352
卒業演習(レクリエーション論)(梅津 迪子) .....	353
卒業研究(比較政治学)(松尾 秀哉) .....	131
卒業研究Ⅰ(管理学)(清澤 達夫) .....	181
卒業研究Ⅰ(キリスト教社会倫理)(佐野 正子) .....	181
卒業研究Ⅰ(金融論)(鈴木 真実哉) .....	182
卒業研究Ⅰ(経済学)(石部 公男) .....	182
卒業研究Ⅰ(コミュニティ・ビジネス論)(瀬名 浩一)	180
卒業研究Ⅰ(地域社会論)(大高 研道) .....	183
卒業研究Ⅰ(地域福祉)(大塚 健司) .....	183
卒業研究Ⅰ(日本経済論)(大森 達也) .....	184
卒業研究Ⅰ(法学)(渡辺 英人) .....	178
卒業研究Ⅰ(まちづくり学)(平 修久) .....	179
卒業研究Ⅰ(リスク対策論)(標 宣男) .....	179
卒業研究Ⅰ(倫理学)(谷口 隆一郎) .....	180
卒業研究Ⅱ(管理学)(清澤 達夫) .....	182
卒業研究Ⅱ(キリスト教社会倫理)(佐野 正子) .....	181
卒業研究Ⅱ(金融論)(鈴木 真実哉) .....	182
卒業研究Ⅱ(経済学)(石部 公男) .....	183
卒業研究Ⅱ(コミュニティ・ビジネス論)(瀬名 浩一)	180
卒業研究Ⅱ(地域社会論)(大高 研道) .....	183
卒業研究Ⅱ(地域福祉)(大塚 健司) .....	184
卒業研究Ⅱ(日本経済論)(大森 達也) .....	184
卒業研究Ⅱ(法学)(渡辺 英人) .....	179
卒業研究Ⅱ(まちづくり学)(平 修久) .....	180
卒業研究Ⅱ(リスク対策論)(標 宣男) .....	179
卒業研究Ⅱ(倫理学)(谷口 隆一郎) .....	181
卒業研究(Pop Culture)Ⅰ(K. O. アンダスン) .....	223
卒業研究(Pop Culture)Ⅱ(K. O. アンダスン) .....	223
卒業研究(アイデンティティの社会学)(横山 寿世理)	128
卒業研究(アメリカ文化)(柴田 史子) .....	223
卒業研究(英語学)Ⅰ(加曾利 実) .....	225
卒業研究(英語学)Ⅱ(加曾利 実) .....	225
卒業研究(衛生学・公衆衛生学)Ⅱ(中村 磐男) .....	347
卒業研究(英米文学)Ⅰ(氏家 理恵) .....	222

卒業研究(英米文学)Ⅱ(氏家 理恵) .....	223
卒業研究(音楽創造論Ⅰ)(村山 順吉) .....	313
卒業研究(音楽創造論Ⅱ)(村山 順吉) .....	313
卒業研究(外国語教授法)Ⅰ(長崎 睦子) .....	225
卒業研究(カウンセリング論)Ⅰ(長谷川 恵美子)	349
卒業研究(カウンセリング論)Ⅱ(長谷川 恵美子)	349
卒業研究(環境保全論)(村上 公久) .....	129
卒業研究(教育文化論Ⅰ)(寺崎 恵子) .....	315
卒業研究(教育文化論Ⅱ)(寺崎 恵子) .....	315
卒業研究(キリスト教社会倫理)(相澤 一) .....	129
卒業研究(キリスト教文化)Ⅰ(菊地 順) .....	220
卒業研究(キリスト教文化)Ⅱ(菊地 順) .....	220
卒業研究(近現代文化①)Ⅰ(清水 均) .....	266
卒業研究(近現代文化①)Ⅱ(清水 均) .....	266
卒業研究(近現代文化②)Ⅰ(熊谷 芳郎) .....	266
卒業研究(近現代文化②)Ⅱ(熊谷 芳郎) .....	266
卒業研究(近現代文学①)Ⅰ(黒木 章) .....	263
卒業研究(近現代文学①)Ⅱ(黒木 章) .....	263
卒業研究(金融市場論)(柴田 武男) .....	129
卒業研究(経営管理)(後藤 兼一) .....	129
卒業研究(言語①)Ⅰ(小林 茂之) .....	261
卒業研究(言語①)Ⅱ(小林 茂之) .....	261
卒業研究(言語②)Ⅰ(川口 さち子) .....	261
卒業研究(言語②)Ⅱ(川口 さち子) .....	261
卒業研究(言語と社会)Ⅰ(D. バーガー) .....	224
卒業研究(言語と社会)Ⅱ(D. バーガー) .....	224
卒業研究(現代ヨーロッパ事情)Ⅱ(佐藤 啓介) .....	221
卒業研究(現代ヨーロッパ事情)Ⅰ(佐藤 啓介) .....	221
卒業研究(高齢者福祉論)Ⅰ(古谷野 亘) .....	346
卒業研究(高齢者福祉論)Ⅱ(古谷野 亘) .....	346
卒業研究(国際政治論)(秋吉 祐子) .....	130
卒業研究(古典文学②)Ⅰ(上野 麻美) .....	263
卒業研究(古典文学②)Ⅱ(渡辺 正人) .....	263
卒業研究(子ども家庭論)Ⅰ(中谷 茂一) .....	345
卒業研究(子ども家庭論)Ⅱ(中谷 茂一) .....	346
卒業研究(コミュニティ政策)(川添 美央子) .....	185
卒業研究(コミュニティ政策)(竹井 潔) .....	184
卒業研究(算数Ⅰ)(佐藤 逸子) .....	316
卒業研究(算数Ⅱ)(佐藤 逸子) .....	316
卒業研究(思想①)Ⅰ(清水 正之) .....	264
卒業研究(思想①)Ⅱ(清水 正之) .....	265
卒業研究(思想②)Ⅰ(村松 晋) .....	265
卒業研究(思想③)Ⅰ(柳田 洋夫) .....	265
卒業研究(思想③)Ⅱ(柳田 洋夫) .....	265
卒業研究(児童英語教育)Ⅰ(東 仁美) .....	225
卒業研究(児童英語教育)Ⅱ(東 仁美) .....	226
卒業研究(児童学Ⅰ)(田澤 薫) .....	310
卒業研究(児童教育学Ⅱ)(永井 理恵子) .....	312
卒業研究(児童福祉実践論Ⅰ)(金谷 京子) .....	314
卒業研究(児童福祉実践論Ⅱ)(金谷 京子) .....	314
卒業研究(児童福祉論)Ⅰ(池 弘子) .....	345
卒業研究(児童福祉論)Ⅱ(池 弘子) .....	345

卒業研究(児童文学Ⅰ)(松本 祐子) ..... 315  
 卒業研究(児童文学Ⅱ)(松本 祐子) ..... 315  
 卒業研究(児童臨床心理学Ⅰ)(山田 麻有美) ..... 311  
 卒業研究(児童臨床心理学Ⅱ)(山田 麻有美) ..... 311  
 卒業研究(社会科Ⅰ)(深澤 悠紀雄) ..... 316  
 卒業研究(社会科Ⅱ)(深澤 悠紀雄) ..... 316  
 卒業研究(障害児心理Ⅰ)(石川 由美子) ..... 314  
 卒業研究(障害者福祉論Ⅰ)(増田 公香) ..... 346  
 卒業研究(障害者福祉論Ⅱ)(増田 公香) ..... 347  
 卒業研究(声楽Ⅰ)(藤田 明) ..... 312  
 卒業研究(声楽Ⅱ)(藤田 明) ..... 312  
 卒業研究(政治過程論)(森分 大輔) ..... 130  
 卒業研究(精神保健福祉論Ⅰ)(相川 章子) ..... 350  
 卒業研究(精神保健福祉論Ⅱ)(相川 章子) ..... 350  
 卒業研究(造形教育論Ⅰ)(喜田 敬) ..... 312  
 卒業研究(造形教育論Ⅱ)(喜田 敬) ..... 313  
 卒業研究(ソーシャルワーク論Ⅰ)(助川 征雄) ..... 350  
 卒業研究(ソーシャルワーク論Ⅱ)(助川 征雄) ..... 350  
 卒業研究(地域圏研究ロシア)(飯島 康夫) ..... 130  
 卒業研究(地域福祉論Ⅰ)(牛津 信忠) ..... 348  
 卒業研究(地域福祉論Ⅱ)(牛津 信忠) ..... 348  
 卒業研究(日本教育史Ⅰ)(石津 靖大) ..... 311  
 卒業研究(日本教育史Ⅱ)(石津 靖大) ..... 311  
 卒業研究(日本政治思想史)(吉田 博司) ..... 130  
 卒業研究(日本文化Ⅱ)(川口 さち子) ..... 267  
 卒業研究(人間関係論Ⅰ)(牟田 隆郎) ..... 349  
 卒業研究(人間関係論Ⅱ)(牟田 隆郎) ..... 349  
 卒業研究(比較憲法)(石川 裕一郎) ..... 131  
 卒業研究(比較文化Ⅰ)(稲田 敦子) ..... 224  
 卒業研究(比較文化Ⅱ)(稲田 敦子) ..... 224  
 卒業研究(比較文化 アジア①Ⅰ)(渡辺 正人) ..... 262  
 卒業研究(比較文化 アジア①Ⅱ)(渡辺 正人) ..... 262  
 卒業研究(比較文化 アジア②Ⅱ)(濱田 寛) ..... 262  
 卒業研究(福祉環境論Ⅰ)(野口 祐子) ..... 347  
 卒業研究(福祉環境論Ⅱ)(野口 祐子) ..... 347  
 卒業研究(福祉倫理Ⅰ)(左近 豊) ..... 351  
 卒業研究(フランス文学Ⅰ)(鹿瀬 颯枝) ..... 222  
 卒業研究(フランス文学Ⅱ)(鹿瀬 颯枝) ..... 222  
 卒業研究(保育実践論Ⅰ)(相川 徳孝) ..... 313  
 卒業研究(保育実践論Ⅱ)(相川 徳孝) ..... 314  
 卒業研究(法思想史)(加藤 恵司) ..... 131  
 卒業研究(ヨーロッパ史Ⅰ)(和田 光司) ..... 221  
 卒業研究(ヨーロッパ史Ⅱ)(和田 光司) ..... 221  
 卒業研究(ヨーロッパ思想Ⅰ)(原 一子) ..... 222  
 卒業研究(理科Ⅰ)(中村 磐男) ..... 317  
 卒業研究(理科Ⅱ)(中村 磐男) ..... 317  
 卒業研究(理論社会学)(土方 透) ..... 131  
 卒業研究(歴史①Ⅱ)(東島 誠) ..... 264  
 卒業研究(歴史②Ⅰ)(川崎 司) ..... 264  
 卒業研究(歴史②Ⅱ)(川崎 司) ..... 264  
 卒業研究(レクリエーション論Ⅰ)(梅津 迪子) ..... 348  
 卒業研究(レクリエーション論Ⅱ)(梅津 迪子) ..... 348  
 卒業研究(比較文化 アジア②Ⅰ)(濱田 寛) ..... 262

た

体育(高橋 進) ..... 291  
 体育(鈴木 明) ..... 291  
 体育科教育法(細江 文利) ..... 298  
 対照言語学(黒崎 佐仁子) ..... 235

ち

地域経済論(瀬名 浩一) ..... 110,139  
 地域圏研究(アジアA)(秋吉 祐子) ..... 102,170  
 地域圏研究(アジアB)(小田川 興) ..... 102,170  
 地域圏研究(ロシア・東欧)(飯島 康夫) ..... 102,171  
 地域子育て支援論(海津 敦子) ..... 285  
 地域社会論(大高 研道) ..... 142,324  
 地域福祉(大塚 健司) ..... 147  
 地域福祉論(牛津 信忠) ..... 334  
 地域福祉論(櫻井 邦夫) ..... 284  
 地球環境論研究(村上 公久) ..... 88  
 地誌学概説A(秋山 秀一) ..... 122,169  
 地誌学概説B(秋山 秀一) ..... 123,169  
 地誌学特講A(平 修久) ..... 169  
 地誌学特講B(大高 研道) ..... 169  
 地方自治法(鹿谷 雄一) ..... 143  
 地方自治論(鹿谷 雄一) ..... 145  
 中学校教育実習(熊谷 芳郎) ..... 365  
 中学校教育実習(小川 洋) ..... 365  
 中学校教育実習(長崎 睦子) ..... 365  
 中国語Ⅰ(初級A)(新田 小雨子) ..... 41  
 中国語Ⅰ(初級A)(福田 素子) ..... 40  
 中国語Ⅰ(初級A)(閻 子謙) ..... 40  
 中国語Ⅱ(初級B)(新田 小雨子) ..... 41  
 中国語Ⅱ(初級B)(福田 素子) ..... 41  
 中国語Ⅱ(初級B)(閻 子謙) ..... 41  
 中国語コミュニケーションA(閻 子謙) ..... 243  
 中国語コミュニケーションB(福田 素子) ..... 244  
 中国思想(大坊 真伸) ..... 241  
 中国文学(濱田 寛) ..... 241  
 中小企業論A(砂川 和彦) ..... 110,150  
 中小企業論B(砂川 和彦) ..... 110,150  
 地理歴史科教育法(小川 洋) ..... 360

て

哲学(高橋 章仁) ..... 82,83,191  
 哲学(佐藤 啓介) ..... 83,191  
 哲学(小林 剛) ..... 83,191  
 哲学概論(大賀 祐樹) ..... 123,170  
 伝統芸能B(茂山 千三郎) ..... 253  
 伝統工芸B(渡辺 正人) ..... 253

と

ドイツ語Ⅰ(初級A)(宮崎 泰行) .....37  
 ドイツ語Ⅰ(初級A)(原 一子) .....36  
 ドイツ語Ⅰ(初級A)(小谷 哲夫) .....36  
 ドイツ語Ⅰ(初級A)(清水 威能子) .....36  
 ドイツ語Ⅱ(初級B)(宮崎 泰行) .....37  
 ドイツ語Ⅱ(初級B)(小谷 哲夫) .....37  
 ドイツ語Ⅱ(初級B)(清水 威能子) .....37  
 ドイツ語Ⅲ(中級A)(宮崎 泰行) .....38  
 ドイツ語Ⅲ(中級A)(小谷 哲夫) .....38  
 ドイツ語Ⅲ(中級A)(清水 威能子) .....38  
 ドイツ語講読A(原 一子) .....212  
 ドイツ語講読B(深井 智朗) .....212  
 ドイツ語コミュニケーション(B, ミュラー) .....211  
 ドイツ文化(満留 伸一郎) .....200  
 統計学(松原 望) .....160,323  
 道德教育の研究(阿久戸 光晴) .....298  
 道德教育の研究(石井 昇) .....359  
 東洋史概説A(赤坂 恒明) .....123,168  
 東洋史概説B(赤坂 恒明) .....123,168  
 読書と豊かな人間性(斎藤 規) .....302,374  
 特別活動の理論と方法(阿久戸 多喜子) .....299  
 特別活動の理論と方法(石井 昇) .....359  
 都市化の地理学(飯島 康夫) .....103  
 図書館概論(若松 昭子) .....369,382  
 図書館学演習(若松 昭子) .....373  
 図書館経営論(河島 茂生) .....369,382  
 図書館サービス論(岡谷 大) .....371  
 図書館実習(若松 昭子) .....373  
 図書館資料論(岡谷 大) .....369

に

日本教育史(石津 靖大) .....279,358  
 日本キリスト教史A(柳田 洋夫) .....59  
 日本キリスト教史B(柳田 洋夫) .....59  
 日本経済論(大森 達也) .....110,148  
 日本語1(総合)A(内藤 みち) .....44  
 日本語1(総合)B(内藤 みち) .....44  
 日本語1(調査・発表)A(中川 千恵子/太田 ミユキ)  
 .....44  
 日本語1(調査・発表)B(中川 千恵子/太田 ミユキ)  
 .....44  
 日本語1(文章表現)A(和泉 司/太田 ミユキ) .....45  
 日本語1(文章表現)B(太田 ミユキ/黒崎 佐仁子)  
 .....45  
 日本語1(文法)A(黒崎 佐仁子/清水 まさ子) .....43  
 日本語1(文法)B(川口 さち子/清水 まさ子) .....43  
 日本語2(音声表現理解)A(船山 久美/清水 まさ子)  
 .....47  
 日本語2(音声表現理解)B(船山 久美/清水 まさ子)  
 .....47

日本語2(総合)A(船山 久美/黒崎 佐仁子) .....46  
 日本語2(総合)B(船山 久美/黒崎 佐仁子) .....46  
 日本語2(調査・発表)A(富田 美知子/鈴木 孝恵)  
 .....46  
 日本語2(調査・発表)B(富田 美知子/鈴木 孝恵)  
 .....46  
 日本語2(文章表現)A(内藤 みち/木原 郁子) .....47  
 日本語2(文章表現)B(内藤 みち/木原 郁子) .....47  
 日本語2(文法)A(和泉 司/太田 ミユキ) .....45  
 日本語2(文法)B(太田 ミユキ/黒崎 佐仁子) .....45  
 日本語3(総合)A(木原 郁子) .....48  
 日本語3(総合)B(木原 郁子) .....48  
 日本語3(調査・発表)A(和泉 司) .....48  
 日本語3(調査・発表)B(和泉 司) .....48  
 日本語学(音声・音韻)A(中川 千恵子) .....237  
 日本語学(音声・音韻)B(中川 千恵子) .....237  
 日本語学概説(小林 茂之) .....230  
 日本語学特殊講義(田川 拓海) .....239  
 日本語学(文法)A(黒崎 佐仁子) .....237  
 日本語学(文法)B(黒崎 佐仁子) .....237  
 日本語教育概論(北村 淳子) .....231  
 日本語教育実習(川口 さち子) .....239  
 日本語教授法演習(木原 郁子) .....239  
 日本語教授法講義(川口 さち子) .....238  
 日本国憲法(松村 芳明) .....70  
 日本国憲法(徳永 貴志) .....69  
 日本国憲法(武藤 健一) .....70  
 日本国憲法(木曜3限)(武藤 健一) .....70  
 日本国憲法(木曜4限)(武藤 健一) .....70  
 日本語で学ぶ(日本の経済・産業)(清水 まさ子) .....49  
 日本語で学ぶ(日本の社会)(鈴木 孝恵) .....49  
 日本語で学ぶ(日本の政治制度)(和泉 司) .....49  
 日本語で学ぶ(日本の文化)(鈴木 孝恵) .....49  
 日本語で学ぶ(日本の歴史)(清水 まさ子) .....50  
 日本語表現法①(上野 麻美/北村 淳子/  
 坂巻 理恵子/副田 恵/松村 良) .....230  
 日本語表現法②(坂巻 理恵子/副田 恵/  
 中島 佐和子/松村 良) .....230  
 日本語表現法(ディベート)Ⅰ(太田 昌宏) .....236  
 日本語表現法(ディベート)Ⅱ(太田 昌宏) .....236  
 日本史(阿部 浩一) .....84  
 日本史(山田 康弘) .....85  
 日本史概説A(上安 祥子) .....124,167,231  
 日本史概説B(川崎 司) .....124,167,231  
 日本事情(社会)(木原 郁子) .....238  
 日本事情(文化)(内藤 みち) .....238  
 日本思想(清水 正之) .....86  
 日本思想概説(清水 正之) .....233  
 日本思想入門(村松 晋) .....232  
 日本思想文化研究(清水 正之) .....89  
 日本史特殊講義(東島 誠) .....249  
 日本政治史(吉田 博司) .....102  
 日本政治思想史(吉田 博司) .....103  
 日本的経営論(清澤 達夫) .....154

日本の演劇(中世・近世)(寺田 詩麻) .....	250
日本の音楽A(鈴木 英一) .....	250
日本の音楽B(鈴木 英一) .....	250
日本の思想(キリスト教)(村松 晋) .....	248
日本の思想(儒教)(上安 祥子) .....	248
日本の思想(仏教)(高山 秀嗣) .....	248
日本の美術(佐伯 英里子) .....	250
日本のポップ・カルチャー(清水 均) .....	251
日本の民俗(柏木 亨介) .....	251
日本の歴史(近現代)(川崎 司) .....	248
日本文学概説(黒木 章) .....	230
日本文学研究と批評(近現代①)(武田 秀美) .....	246
日本文学研究と批評(近現代②)(前田 潤) .....	246
日本文学研究と批評(古典①)(高桑 佳典子) .....	245
日本文学研究と批評(古典②)(上野 麻美) .....	246
日本文学研究と批評(古典③)(上宇都 ゆりほ) .....	246
日本文学史(近現代)(前田 潤) .....	245
日本文学史(上代・中古)(神野志 幸恵) .....	245
日本文学史(中世・近世)(家永 香織) .....	245
日本文学特殊講義①(家永 香織) .....	247
日本文学特殊講義②(前田 潤) .....	247
日本文学の中のキリスト教B(武田 秀美) .....	247
日本文化史(渡辺 正人) .....	124, 166, 232
日本文化総論A(清水 正之) .....	254
日本文化総論B(清水 正之) .....	254
日本文化特殊講義(清水 均) .....	252
日本文化入門(寺田 詩麻) .....	232
乳児保育(岸澤 藤子) .....	282
人間福祉学研究(古谷野 亘) .....	90
人間福祉総論(助川 征雄) .....	321

は

発達心理学(金谷 京子) .....	277
発達心理学A(池 弘子) .....	329, 358
発達心理学B(池 弘子) .....	329, 358
発達心理学研究(池 弘子) .....	90
話し方表現応用講座(川野 一字) .....	25

ひ

比較宗教学(芦名 裕子) .....	240
比較政治学(松尾 秀哉) .....	103
比較文化(稲田 敦子) .....	192
比較文学(氏家 理恵) .....	198, 240
ビジネス実務B(森 久子) .....	154
秘書学概論(森 久子) .....	118, 154

ふ

ファンタジー論(松本 祐子) .....	198, 275
フィールドワーク(相川 徳孝/松本 祐子/村山 順吉) .....	274
福祉科教育法I(中谷 茂一) .....	363

福祉科教育法II(中谷 茂一) .....	363
福祉環境学(山田 義文) .....	88
福祉環境論(野口 祐子) .....	326
福祉行財政と福祉計画(大塚 健司) .....	336
福祉住環境論(山田 義文) .....	326
フランス語I(初級A)(石田 明夫/小室 廉太/本田 貴久) .....	38
フランス語I(初級A)(欧米優先)(石田 明夫/小室 廉太/本田 貴久) .....	39
フランス語II(初級B)(小室 廉太/本田 貴久) .....	39
フランス語II(初級B)(欧米優先)(石田 明夫/小室 廉太/本田 貴久) .....	39
フランス語III(中級A)(石田 明夫/本田 貴久) .....	39
フランス語講読A(和田 光司) .....	213
フランス語講読B(鹿瀬 颯枝) .....	213
フランス語コミュニケーションA(総合)(H.ドリエップ) .....	210
フランス語コミュニケーションB(総合)(H.ドリエップ) .....	210
フランス文化(鹿瀬 颯枝) .....	200
フランス文学(鹿瀬 颯枝) .....	197
文学(上宇都ゆりほ) .....	85
文学(中島 佐和子) .....	85
文化交流史(アジアと日本)A(濱田 寛) .....	241
文化交流史(アジアと日本)B(小田川 興) .....	242
文化交流史(欧米と日本)(黒木 章) .....	242
文化社会学(田中 佳) .....	117
文化人類学(高橋 絵里香) .....	240
文化とグローバリゼーション(渡辺 正人) .....	243
文芸(創作)(藤田 のぼる) .....	253

へ

平和学(小松崎 利明) .....	103
-------------------	-----

ほ

保育技術演習(相川 徳孝) .....	291
保育原理A(寺崎 恵子) .....	281
保育原理B(寺崎 恵子) .....	281
保育実習(金谷 京子/田澤 薫) .....	300
保育実習II-2(相川 徳孝) .....	300
保育実習A(相川 徳孝) .....	300
保育実習B(石川 由美子) .....	300
保育内容総論I(野尻 裕子) .....	293
保育内容総論II(野尻 裕子) .....	294
保育内容の研究・環境(井村 礼恵) .....	295
保育内容の研究・健康(鈴木 明) .....	294
保育内容の研究・言葉(石川 由美子) .....	295
保育内容の研究・人間関係(井村 礼恵) .....	294
保育内容の研究・人間関係(丹羽 さがの) .....	294
保育内容の研究・表現A(相川 徳孝) .....	295
保育内容の研究・表現B(柴田 和豊) .....	295
法学(奥貫 妃文) .....	80, 96

法学 (加藤 恵司) .....	81,95
法学 (皆川 誠) .....	81,96
法学 (宮澤 弘) .....	81,96
法学 (松村 芳明) .....	323
法学 (石川 裕一郎) .....	80,96
法学 (渡辺 英人) .....	82,135
法学 (徳永 貴志) .....	81,135
法学特論(ジェンダー法) (武藤 健一) .....	106
法思想史 (加藤 恵司) .....	106
法政情報論 (渡辺 英人) .....	156
放送文化 (川野 一字) .....	254
法哲学 (伊藤 泰) .....	104
簿記 (山田 ひとみ) .....	114,139
簿記 (澤村 孝夫) .....	114,139
保健医療サービス (中村 磐男) .....	336
ボランティア論 (大島 隆代) .....	324

ま

マーケティング論 (T. アサモア) .....	114
マクロ経済学 (石部 公男) .....	111,148
まちづくり学 (平 修久) .....	138
まちづくり論研究 (平 修久) .....	88
マネジメント (後藤 兼一) .....	115,155
マルチメディア論 (石部 公男/二神 常爾) .....	158

み

ミクロ経済学 (中野 宏) .....	111,148
民法A (総則・物権) (松谷 秀祐) .....	106,150
民法B (債権) (松谷 秀祐) .....	106,151
民法C (親族・相続) (加藤 恵司) .....	107,151

ゆ

ユダヤ文化 (佐藤 貴史) .....	200
---------------------	-----

よ

養護原理 (笹渕 悟) .....	281
養護内容 (笹渕 悟) .....	282
幼児指導法の研究 (青木 聡子) .....	296
ヨーロッパ史(近・現代) (和田 光司) .....	194
ヨーロッパ文化概論 (原 一子) .....	190
ヨーロッパ文学史 (富田 光明) .....	197
予備演習 (新井 尚子) .....	125
予備演習A (各クラスアドバイザー) .....	171
予備演習B (各クラスアドバイザー) .....	171
予備演習C (上嶋 康道) .....	171

ら

ライフデザイン・良く生きるA (清水 均/渡辺 正人) .....	229
--------------------------------------	-----

ライフデザイン・良く生きるB (柳田 洋夫/渡辺 正人) .....	229
ラテン語A (片柳 榮一) .....	213
ラテン語B (片柳 榮一) .....	213

り

理科 (飯塚 征武) .....	286
理科教育法 (高野 庸) .....	297
リスク科学論研究 (標 宣男) .....	89
リスク対策論 (標 宣男) .....	146
リハビリテーション論 (小林 法一) .....	327
流通・販売・経営論 (山本 俊明) .....	211
理論社会学 (土方 透) .....	117,159
臨床心理学 (牟田 隆郎) .....	330
倫理学概論 (谷口 隆一郎) .....	124,160

れ

歴史学概論 (和田 光司) .....	194
歴史と社会 (川崎 司) .....	249
歴史と文化 (東島 誠) .....	249
レクリエーション論 (梅津 迪子) .....	327
レファレンスサービス演習 (気谷 陽子) .....	371
レポート作成法A (D. バーガー) .....	211

ろ

労働経済論 (金子 良事) .....	111
---------------------	-----

2010年度 聖学院大学シラバス(授業計画)

2010年4月1日発行

発行 聖学院大学

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号

電話 048-780-1801 (教務課)

印刷 株式会社 クイックス

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-13

ニュー原鉄ビル5F

電話 03-3221-9150



# 2010



# SYLLABUS

聖学院大学

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号

TEL 048-780-1801 (教務課)